

福岡市

柏原遺跡群 V

—先土器・縄文時代遺跡A-2・C・H・J~N遺跡の調査—

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第190集

1988

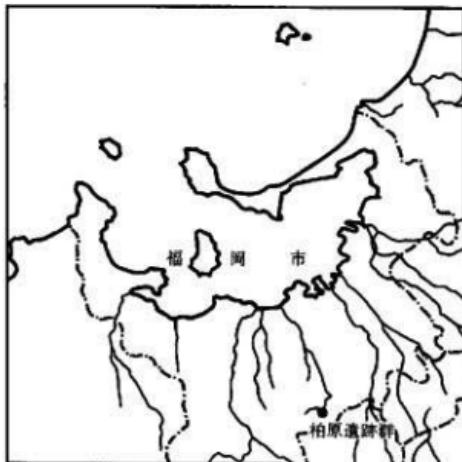
福岡市教育委員会

福岡市

柏原遺跡群 V

—先土器・撫文時代遺跡A-2C・H・J~N遺跡の調査—

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第190集



遺跡略号 KWA-2・KWC・KWH・KWJ・KWK
・KWL・KWM・KWN

遺跡調査番号 7951・8045・8152・8154・8345・6・7

1988

福岡市教育委員会

序 文

住宅・都市整備公団は、福岡市南区柏原地区に68haにおよぶ開発事業を計画し、福岡市教育委員会に予定地内の埋蔵文化財の発掘調査を依頼する運びとなりました。

委託を受けた福岡市教育委員会では、数度の現地踏査の上、昭和54年5月から発掘調査を開始し、昭和59年3月に現地での発掘調査を完了しました。

本書は昭和54年5月～58年3月に発掘調査を実施したA-2, C, H, J, K, L, M, N遺跡の先土器、縄文時代の遺構と出土遺物を収録したものです。

調査によって、先土器、縄文時代草創～中・晩期にかけて、今まで福岡において出土例の少なかった貴重な資料が検出されています。

本書が、埋蔵文化財への理解と認識を深める一助になるとともに、研究資料としても活用していただければ幸いです。

発掘調査から出土資料の整理・報告書作成に至るまで、住宅・都市整備公団、調査指導委員の先生方をはじめ、多くの人々に御協力・御助言を賜わり深甚の謝意を表するものです。

昭和63年3月31日

福岡市教育委員会

教育長 佐藤善郎

例　　言

1. 本書は住宅・都市整備公団が計画した福岡市南区柏原地区の団地建設に伴う事前調査として、福岡市教育委員会文化部文化課（現・埋蔵文化財課）が1979～1983年にかけて発掘調査を実施した柏原遺跡群の調査報告書の第V集である。既報告書は以下のとおりである。
『柏原遺跡群I－縄文時代遺跡F遺跡の調査－』福岡市埋蔵文化財調査報告書第90集 1983年
『柏原遺跡群II－柏原古墳群の調査－』福岡市埋蔵文化財調査報告書第125集 1986年
『柏原遺跡群III－柏原K・L遺跡、中世居館址と中世水田の調査－』福岡市埋蔵文化財調査報告書第157集 1987年
『柏原遺跡群IV－縄文時代遺跡A－1・E遺跡の調査－』福岡市埋蔵文化財調査報告書第158集 1987年
2. 本書の内容は柏原遺跡群の中のA－2遺跡・C遺跡・H遺跡・J遺跡・K遺跡・L遺跡・M遺跡・N遺跡とした先土器、縄文時代遺跡の報告である。
3. 本書の執筆には山崎純男、杉山富雄、小畠弘己があたった。
4. 本書に使用した図の作成は山崎、小畠弘己、米倉秀紀、吉武学、平川裕介、宮田昌之、横大路俊明、福岡大学歴史研究部考古学班があたった。
5. 本書の図の製図は山崎、杉山、小畠、前田達男、永田留美によるものである。
6. 本書に使用した写真は山崎によるものである。
7. 本書に使用した方位はすべて磁北である。
8. 本書の編集は山崎がこれにあたった。
9. 本書に収録した遺物は福岡市立埋蔵文化財センターに保管している。

本文目次

第1章 序説	1
1.はじめに	1
2.調査の体制	1
第2章 遺跡群の位置と歴史的環境	3
1.遺跡の位置	3
2.柏原遺跡群とその周辺	3
(1)開発地域内の先土器・縄文時代遺跡	5
(2)周辺の遺跡	7
第3章 調査の概要	9
1.A-2遺跡調査概要	9
2.C遺跡調査概要	10
3.H遺跡調査概要	10
4.J遺跡調査概要	10
5.K遺跡調査概要	11
6.L遺跡調査概要	11
7.M遺跡調査概要	12
8.N遺跡調査概要	12
第4章 A-2遺跡の記録	13
1.遺跡の立地	13
2.発掘区の設定	13
3.層序	16
4.遺構分布の概要	16
5.土壤状遺構	18
6.炉址状遺構	48
7.出土遺物	48
8.小結	61
第5章 C遺跡の記録	63
1.遺跡の立地	63
2.発掘区の設定	63
3.層序	65

4. 出土遺物	65
5. 小結	67
第6章 H遺跡の記録	68
1. 遺跡の立地と層序	68
2. 出土遺物	69
第7章 J遺跡の記録	70
1. 遺跡の立地と層序	70
2. 出土遺物	70
第8章 K遺跡の記録	71
1. 遺跡の立地	71
2. 発掘区の設定	74
3. 層序	74
4. 遺構分布の概要	77
5. 土壌状遺構	78
6. 集石遺構	372
7. 出土遺物	374
8. 小結	443
第9章 L遺跡の記録	445
1. 遺跡の立地	445
2. 発掘区の設定	445
3. 層序	449
4. 遺構分布の概要	449
5. 土壌状遺構	449
6. 炉址	455
7. 出土遺物	456
第10章 M遺跡の記録	463
1. 遺跡の立地	463
2. 層序	463
3. 出土遺物	465
第11章 N遺跡の記録	469
1. N遺跡の立地と層序	469
2. 層序	469
3. 出土遺物	469

第12章 調査のまとめ	472
1. 先土器時代の遺跡	472
2. 繩文時代草創期の遺跡	473
3. 繩文時代早期の遺跡	477
4. 繩文時代前期の遺跡	482
5. 繩文時代中～晚期の土器	482

挿 図 目 次

Fig. 1 柏原遺跡群の位置と周辺の縄文時代遺跡	4
Fig. 2 柏原遺跡群の立地と遺跡の分布	6
Fig. 3 A - 2 遺跡の地形	14
Fig. 4 発掘の設定	15
Fig. 5 A - 2 遺跡遺構全体図	17
Fig. 6 第 1 ~ 7 号土壤 (SK - 1 ~ 7) 実測図	19
Fig. 7 第 8 ~ 12, 15, 16 号土壤 (SK - 8 ~ 16) 実測図 I	20
Fig. 8 第 8 ~ 12, 15, 16 号土壤 (SK - 8 ~ 12, 15, 16) 実測図 II	21
Fig. 9 第 13, 14, 17 ~ 25 号土壤 (SK - 13, 14, 17 ~ 25) 実測図	22
Fig. 10 第 26 ~ 34 号土壤 (SK - 26 ~ 34) 実測図 I	23
Fig. 11 第 26 ~ 34 号土壤 (SK - 26 ~ 34) 実測図 II	24
Fig. 12 第 35 ~ 43 号土壤 (SK - 35 ~ 43) 実測図	25
Fig. 13 第 44 ~ 52 号土壤 (SK - 44 ~ 52) 実測図	26
Fig. 14 第 53 ~ 61 号土壤 (SK - 53 ~ 61) 実測図	27
Fig. 15 第 62 ~ 65 号土壤 (SK - 62 ~ 65) 実測図	28
Fig. 16 第 65 ~ 68 号土壤 (SK - 65 ~ 68) 実測図	29
Fig. 17 第 69 ~ 79 号土壤 (SK - 69 ~ 79) 実測図 I	30
Fig. 18 第 69 ~ 79 号土壤 (SK - 69 ~ 79) 実測図 II	31
Fig. 19 第 80 ~ 86 号土壤 (SK - 80 ~ 86) 実測図	32
Fig. 20 第 87 ~ 95 号土壤 (SK - 87 ~ 95) 実測図	33
Fig. 21 第 96 ~ 100 号土壤 (SK - 96 ~ 100) 実測図	34
Fig. 22 第 101 ~ 116 号土壤 (SK - 101 ~ 116) 実測図 I	35

Fig.23	第101~116号土壤 (SK-101~116) 実測図 II	36
Fig.24	第117~128号土壤 (SK-117~128) 実測図	37
Fig.25	第129~140号土壤 (SK-129~140) 実測図 I	38
Fig.26	第129~140号土壤 (SK-129~129) 実測図 II	39
Fig.27	第141~146号土壤 (SK-141~146) 実測図	40
Fig.28	第147~155号土壤 (SK-147~155) 実測図	41
Fig.29	第156~158号土壤 (SK-156~158), 第1, 2号炉址実測図	42
Fig.30	A-2遺跡出土縄文式土器実測図 I	50
Fig.31	A-2遺跡出土縄文式土器実測図 II	51
Fig.32	A-2遺跡出土縄文式土器実測図 III	52
Fig.33	A-2遺跡出土縄文式土器実測図 IV	54
Fig.34	A-2遺跡出土石器実測図 I	57
Fig.35	A-2遺跡出土石器実測図 II	58
Fig.36	A-2遺跡出土石器実測図 III	59
Fig.37	C遺跡の地形と発掘区	64
Fig.38	C遺跡出土遺物実測図	66
Fig.39	H遺跡出土遺物実測図	68
Fig.40	J遺跡出土遺物実測図	69
Fig.41	K遺跡の地形と発掘区	72
Fig.42	K遺跡発掘区の設定	73
Fig.43	K遺跡土層断面図	75
Fig.44	K遺跡遺構全体図	76
Fig.45	第1~5号土壤 (SK-1~5) 実測図	79
Fig.46	第6~11号土壤 (SK-6~11) 実測図	80
Fig.47	第13~17号土壤 (SK-13~17) 実測図	81
Fig.48	第18~23号土壤 (SK-18~23) 実測図	82
Fig.49	第24~30号土壤 (SK-24~30) 実測図	83
Fig.50	第31~38号土壤 (SK-31~38) 実測図 I	84
Fig.51	第31~38号土壤 (SK-31~38) 実測図 II	85
Fig.52	第39~45号土壤 (SK-39~45) 実測図	86
Fig.53	第46~51号土壤 (SK-46~51) 実測図	87
Fig.54	第52~60号土壤 (SK-52~60) 実測図 I	88
Fig.55	第52~60号土壤 (SK-52~60) 実測図 II	89

Fig.56	第61~66号土壤 (SK-61~66) 実測図 I	90
Fig.57	第61~66号土壤 (SK-61~66) 実測図 II	91
Fig.58	第67~77号土壤 (SK-67~77) 実測図 I	92
Fig.59	第67~77号土壤 (SK-67~77) 実測図 II	93
Fig.60	第67~77号土壤 (SK-67~77) 実測図 III	94
Fig.61	第78~87号土壤 (SK-78~87) 実測図 I	95
Fig.62	第78~87号土壤 (SK-78~87) 実測図 II	96
Fig.63	第88~94号土壤 (SK-88~94) 実測図	97
Fig.64	第95~100号土壤 (SK-95~100) 実測図	98
Fig.65	第101~105号土壤 (SK-101~105) 実測図	99
Fig.66	第106~110号土壤 (SK-106~110) 実測図	100
Fig.67	第111~115号土壤 (SK-111~115) 実測図	101
Fig.68	第116~118号土壤 (SK-116~118) 実測図	102
Fig.69	第119~124号土壤 (SK-119~124) 実測図	103
Fig.70	第125~130号土壤 (SK-125~130) 実測図	104
Fig.71	第131~135号土壤 (SK-131~135) 実測図	105
Fig.72	第136~140号土壤 (SK-136~140) 実測図 I	106
Fig.73	第136~140号土壤 (SK-136~140) 実測図 II	107
Fig.74	第141~146号土壤 (SK-141~146) 実測図 I	108
Fig.75	第141~146号土壤 (SK-141~146) 実測図 II	109
Fig.76	第147~151号土壤 (SK-147~151) 実測図 I	110
Fig.77	第147~151号土壤 (SK-147~151) 実測図 II	111
Fig.78	第152~156号土壤 (SK-152~156) 実測図	112
Fig.79	第157~160号土壤 (SK-157~160) 実測図	113
Fig.80	第159·161·162号土壤 (SK-159·161·162) 実測図	114
Fig.81	第163~165号土壤 (SK-163~165) 実測図	115
Fig.82	第166~170号土壤 (SK-166~170) 実測図	116
Fig.83	第171~173号土壤 (SK-171~173) 実測図	117
Fig.84	第174~178号土壤 (SK-174~178) 実測図	118
Fig.85	第179~183号土壤 (SK-179~183) 実測図	119
Fig.86	第184~186号土壤 (SK-184~186) 実測図	120
Fig.87	第187~192号土壤 (SK-187~192) 実測図	121
Fig.88	第193~199号土壤 (SK-193~199) 実測図	122

Fig.89	第200~204号土壤 (SK-200~204) 実測図	123
Fig.90	第205~212号土壤 (SK-205~212) 実測図 I	124
Fig.91	第205~212号土壤 (SK-205~212) 実測図 II	125
Fig.92	第213~218号土壤 (SK-213~218) 実測図	126
Fig.93	第219~223号土壤 (SK-219~223) 実測図	127
Fig.94	第224~229号土壤 (SK-224~229) 実測図 I	128
Fig.95	第224~229号土壤 (SK-224~229) 実測図 II	129
Fig.96	第230~234号土壤 (SK-230~234) 実測図	130
Fig.97	第235~241号土壤 (SK-235~241) 実測図 I	131
Fig.98	第235~241号土壤 (SK-235~241) 実測図 II	132
Fig.99	第242~245号土壤 (SK-242~245) 実測図	133
Fig.100	第246~251号土壤 (SK-246~251) 実測図	134
Fig.101	第252~257号土壤 (SK-252~257) 実測図	135
Fig.102	第258~264号土壤 (SK-258~264) 実測図 I	136
Fig.103	第258~264号土壤 (SK-258~264) 実測図 II	137
Fig.104	第265~270号土壤 (SK-265~270) 実測図	138
Fig.105	第271~274号土壤 (SK-271~274) 実測図	139
Fig.106	第275~282号土壤 (SK-275~282) 実測図	140
Fig.107	第283~291号土壤 (SK-283~291) 実測図 I	141
Fig.108	第283~291号土壤 (SK-283~291) 実測図 II	142
Fig.109	第292~295号土壤 (SK-292~295) 実測図	143
Fig.110	第296~299号土壤 (SK-296~299) 実測図	144
Fig.111	第300~305号土壤 (SK-300~305) 実測図	145
Fig.112	第306~311号土壤 (SK-306~311) 実測図 I	146
Fig.113	第306~311号土壤 (SK-306~311) 実測図 II	147
Fig.114	第312~319号土壤 (SK-312~319) 実測図 I	148
Fig.115	第312~319号土壤 (SK-312~319) 実測図 II	149
Fig.116	第320~327号土壤 (SK-320~327) 実測図 I	150
Fig.117	第320~327号土壤 (SK-320~327) 実測図 II	151
Fig.118	第328~333号土壤 (SK-328~333) 実測図 I	152
Fig.119	第328~333号土壤 (SK-328~333) 実測図 II	153
Fig.120	第334~338号土壤 (SK-335~339) 実測図	154
Fig.121	第339~343号土壤 (SK-339~343) 実測図	155

Fig.122	第344・345号土壤 (SK-345・345) 実測図	156
Fig.123	第346～348号土壤 (SK-346～348) 実測図 I	157
Fig.124	第346～348号土壤 (SK-346～348) 実測図 II	158
Fig.125	第349～352号土壤 (SK-349～352) 実測図	159
Fig.126	第353～358号土壤 (SK-353～358) 実測図	160
Fig.127	第359～365号土壤 (SK-359～365) 実測図 I	161
Fig.128	第359～365号土壤 (SK-359～365) 実測図 II	162
Fig.129	第366～368号土壤 (SK-366～368) 実測図	163
Fig.130	第369～374号土壤 (SK-369～374) 実測図	164
Fig.131	第375～379号土壤 (SK-375～379) 実測図	165
Fig.132	第380～384号土壤 (SK-380～384) 実測図	166
Fig.133	第385～390号土壤 (SK-385～390) 実測図	167
Fig.134	第391～396号土壤 (SK-391～396) 実測図	168
Fig.135	第397～402号土壤 (SK-397～402) 実測図 I	169
Fig.136	第397～402号土壤 (SK-397～402) 実測図 II	170
Fig.137	第403～406号土壤 (SK-403～406) 実測図	171
Fig.138	第407～412号土壤 (SK-407～412) 実測図	172
Fig.139	第413～419号土壤 (SK-413～419) 実測図	173
Fig.140	第420～424号土壤 (SK-420～424) 実測図	174
Fig.141	第425～426号土壤 (SK-425～426) 実測図	175
Fig.142	第427～428号土壤 (SK-425～428) 実測図	176
Fig.143	第429～433号土壤 (SK-429～433) 実測図 I	177
Fig.144	第429～433号土壤 (SK-429～433) 実測図 II	178
Fig.145	第434～437号土壤 (SK-434～437) 実測図	179
Fig.146	第438～442号土壤 (SK-438～442) 実測図	180
Fig.147	第443～450号土壤 (SK-443～450) 実測図 I	181
Fig.148	第443～450号土壤 (SK-443～450) 実測図 II	182
Fig.149	第451～456号土壤 (SK-456～456) 実測図 I	183
Fig.150	第451～456号土壤 (SK-451～456) 実測図 II	184
Fig.151	第457～462号土壤 (SK-457～462) 実測図 I	185
Fig.152	第457～462号土壤 (SK-457～462) 実測図 II	186
Fig.153	第463～470号土壤 (SK-463～470) 実測図 I	187
Fig.154	第463～470号土壤 (SK-463～470) 実測図 II	188

Fig.155	第471~477号土壤 (SK-471~477) 実測図	189
Fig.156	第478~482号土壤 (SK-478~482) 実測図	190
Fig.157	第483~489号土壤 (SK-483~489) 実測図	191
Fig.158	第490~495号土壤 (SK-490~495) 実測図 I	192
Fig.159	第490~495号土壤 (SK-490~495) 実測図 II	193
Fig.160	第496~501号土壤 (SK-496~501) 実測図	194
Fig.161	第502~507号土壤 (SK-502~507) 実測図	195
Fig.162	第508~513号土壤 (SK-508~513) 実測図 I	196
Fig.163	第508~513号土壤 (SK-508~513) 実測図 II	197
Fig.164	第514~518号土壤 (SK-514~518) 実測図	198
Fig.165	第519~524号土壤 (SK-519~524) 実測図	199
Fig.166	第525~530号土壤 (SK-525~530) 実測図	200
Fig.167	第531~537号土壤 (SK-531~537) 実測図	201
Fig.168	第538~542号土壤 (SK-538~542) 実測図	202
Fig.169	第543~546号土壤 (SK-543~546) 実測図	203
Fig.170	第547~550号土壤 (SK-547~550) 実測図	204
Fig.171	第551~553号土壤 (SK-551~553) 実測図	205
Fig.172	第554~561号土壤 (SK-554~561) 実測図 I	206
Fig.173	第554~561号土壤 (SK-554~561) 実測図 II	207
Fig.174	第562~564号土壤 (SK-562~564) 実測図	208
Fig.175	第565~573号土壤 (SK-565~573) 実測図	209
Fig.176	第574~580号土壤 (SK-574~580) 実測図 I	210
Fig.177	第574~580号土壤 (SK-574~580) 実測図 II	211
Fig.178	第581~587号土壤 (SK-581~587) 実測図	212
Fig.179	第588~592号土壤 (SK-588~592) 実測図	213
Fig.180	第593~595号土壤 (SK-593~595) 実測図	214
Fig.181	第596~598号土壤 (SK-596~598) 実測図	215
Fig.182	第599~602号土壤 (SK-599~602) 実測図	216
Fig.183	第603~606号土壤 (SK-603~606) 実測図	217
Fig.184	第607~612号土壤 (SK-607~612) 実測図	218
Fig.185	第613~615号土壤 (SK-613~615) 実測図	219
Fig.186	第616~623号土壤 (SK-616~623) 実測図 I	220
Fig.187	第616~623号土壤 (SK-616~623) 実測図 II	221

Fig.188 第624～628号土壤 (SK-624～628) 実測図	222
Fig.189 第629～633号土壤 (SK-629～633) 実測図	223
Fig.190 第634～636号土壤 (SK-634～636) 実測図	224
Fig.191 第637～641号土壤 (SK-637～641) 実測図	225
Fig.192 第642～646号土壤 (SK-642～646) 実測図	226
Fig.193 第647～652号土壤 (SK-647～652) 実測図 I	227
Fig.194 第647～652号土壤 (SK-647～652) 実測図 II	228
Fig.195 第653～658号土壤 (SK-653～658) 実測図 I	229
Fig.196 第653～658号土壤 (SK-653～658) 実測図 II	230
Fig.197 第659～662号土壤 (SK-659～662) 実測図	231
Fig.198 第663～668号土壤 (SK-663～668) 実測図 I	232
Fig.199 第663～668号土壤 (SK-663～668) 実測図 II	233
Fig.200 第669～677号土壤 (SK-669～677) 実測図 I	234
Fig.201 第669～677号土壤 (SK-667～677) 実測図 II	235
Fig.202 第678～680号土壤 (SK-678～680) 実測図	236
Fig.203 第681～685号土壤 (SK-681～685) 実測図	237
Fig.204 第686～689号土壤 (SK-686～689) 実測図	238
Fig.205 第690～698号土壤 (SK-690～698) 実測図	239
Fig.206 第699～708号土壤 (SK-699～708) 実測図 I	240
Fig.207 第699～708号土壤 (SK-699～708) 実測図 II	241
Fig.208 第709～719号土壤 (SK-709～719) 実測図 I	242
Fig.209 第709～719号土壤 (SK-709～719) 実測図 II	243
Fig.210 第720～726号土壤 (SK-720～726) 実測図	244
Fig.211 第727～729号土壤 (SK-727～729) 実測図	245
Fig.212 第730～733号土壤 (SK-730～733) 実測図	246
Fig.213 第734～740号土壤 (SK-734～740) 実測図 I	247
Fig.214 第734～740号土壤 (SK-734～740) 実測図 II	248
Fig.215 第741～745号土壤 (SK-741～745) 実測図	249
Fig.216 第746～750号土壤 (SK-746～750) 実測図	250
Fig.217 第751～759号土壤 (SK-751～759) 実測図 I	251
Fig.218 第751～759号土壤 (SK-751～759) 実測図 II	252
Fig.219 第760～768号土壤 (SK-760～768) 実測図 I	253
Fig.220 第760～768号土壤 (SK-760～768) 実測図 II	254

Fig.221	第769~775号土壤 (SK-769~775) 実測図 I	255
Fig.222	第769~775号土壤 (SK-769~775) 実測図 II	256
Fig.223	第776~781号土壤 (SK-776~781) 実測図	257
Fig.224	第782~788号土壤 (SK-782~788) 実測図	258
Fig.225	第789~792号土壤 (SK-789~792) 実測図	259
Fig.226	第793~801号土壤 (SK-793~801) 実測図 I	260
Fig.227	第793~801号土壤 (SK-793~801) 実測図 II	261
Fig.228	第802~809号土壤 (SK-802~809) 実測図	262
Fig.229	第810~816号土壤 (SK-810~816) 実測図	263
Fig.230	第817~821号土壤 (SK-817~821) 実測図	264
Fig.231	第822~826号土壤 (SK-822~826) 実測図	265
Fig.232	第827~834号土壤 (SK-827~834) 実測図	266
Fig.233	第835~838号土壤 (SK-835~838) 実測図 I	267
Fig.234	第835~838号土壤 (SK-835~838) 実測図 II	268
Fig.235	第839~846号土壤 (SK-839~846) 実測図 I	269
Fig.236	第839~846号土壤 (SK-839~846) 実測図 II	270
Fig.237	第847~851号土壤 (SK-847~851) 実測図	271
Fig.238	第852~859号土壤 (SK-852~859) 実測図	272
Fig.239	第860~868号土壤 (SK-860~868) 実測図	273
Fig.240	第869~882号土壤 (SK-869~882) 実測図 I	274
Fig.241	第869~882号土壤 (SK-869~882) 実測図 II	275
Fig.242	第883~889号土壤 (SK-883~889) 実測図	276
Fig.243	第890~896号土壤 (SK-890~896) 実測図	277
Fig.244	第897~901号土壤 (SK-897~901) 実測図	278
Fig.245	第902~908号土壤 (SK-902~908) 実測図 I	279
Fig.246	第902~908号土壤 (SK-902~908) 実測図 II	280
Fig.247	第909~915号土壤 (SK-909~915) 実測図	281
Fig.248	第916~923号土壤 (SK-916~923) 実測図	282
Fig.249	第924~929号土壤 (SK-924~929) 実測図	283
Fig.250	第930~936号土壤 (SK-930~936) 実測図	284
Fig.251	第937~947号土壤 (SK-937~947) 実測図 I	285
Fig.252	第937~947号土壤 (SK-937~947) 実測図 II	286
Fig.253	第948~952号土壤 (SK-948~952) 実測図	287

Fig.254	第953~960号土壤 (SK-953~960) 実測図 I	288
Fig.255	第953~960号土壤 (SK-953~960) 実測図 II	289
Fig.256	第961~965号土壤 (SK-961~965) 実測図 I	290
Fig.257	第961~965号土壤 (SK-961~965) 実測図 II	291
Fig.258	第966~972号土壤 (SK-966~972) 実測図	292
Fig.259	第973~979号土壤 (SK-973~979) 実測図	293
Fig.260	第980~986号土壤 (SK-980~986) 実測図	294
Fig.261	第987~991号土壤 (SK-987~991) 実測図	295
Fig.262	第992~997号土壤 (SK-992~997) 実測図	296
Fig.263	第998~1004号土壤 (SK-998~1004) 実測図 I	297
Fig.264	第998~1004号土壤 (SK-998~1004) 実測図 II	298
Fig.265	第1005~1011号土壤 (SK-1005~1011) 実測図	299
Fig.266	第1012~1018号土壤 (SK-1012~1018) 実測図 I	300
Fig.267	第1012~1018号土壤 (SK-1012~1018) 実測図 II	301
Fig.268	第1019~1027号土壤 (SK-1019~1027) 実測図	302
Fig.269	第1028~1032号土壤 (SK-1028~1032) 実測図	303
Fig.270	第1033~1043号土壤 (SK-1033~1043) 実測図 I	304
Fig.271	第1033~1043号土壤 (SK-1033~1043) 実測図 II	305
Fig.272	第1044~1053号土壤 (SK-1044~1053) 実測図	306
Fig.273	第1054~1057号土壤 (SK-1054~1057) 実測図	307
Fig.274	第1058~1063号土壤 (SK-1058~1063) 実測図	308
Fig.275	第1064~1068号土壤 (SK-1064~1068) 実測図	309
Fig.276	第1069~1073号土壤 (SK-1069~1073) 実測図	310
Fig.277	第1074~1079号土壤 (SK-1074~1079) 実測図 I	311
Fig.278	第1074~1079号土壤 (SK-1074~1079) 実測図 II	312
Fig.279	第1080~1084号土壤 (SK-1080~1084) 実測図	313
Fig.280	第1085~1088号土壤 (SK-1085~1088) 実測図	314
Fig.281	第1089~1093号土壤 (SK-1089~1093) 実測図	315
Fig.282	第1094~1102号土壤 (SK-1094~1102) 実測図	316
Fig.283	第1103~1111号土壤 (SK-1103~1111) 実測図 I	317
Fig.284	第1103~1111号土壤 (SK-1103~1111) 実測図 II	318
Fig.285	第1112~1118号土壤 (SK-1112~1118) 実測図 I	319
Fig.286	第1112~1118号土壤 (SK-1112~1118) 実測図 II	320

Fig.287 第1119～1124号土壤 (SK-1119～1124) 実測図	321
Fig.288 第1125～1128号土壤 (SK-1125～1128) 実測図	322
Fig.289 第1129～1132号土壤 (SK-1129～1132) 実測図	323
Fig.290 第1133～1135号土壤 (SK-1133～1135) 実測図	324
Fig.291 第1136～1139号土壤 (SK-1136～1139) 実測図 I	325
Fig.292 第1136～1139号土壤 (SK-1136～1139) 実測図 II	326
Fig.293 第1140～1143号土壤 (SK-1140～1143) 実測図	327
Fig.294 第1144～1153号土壤 (SK-1144～1153) 実測図	328
Fig.295 第1154～1162号土壤 (SK-1154～1162) 実測図	329
Fig.296 第1163～1166号土壤 (SK-1163～1166) 実測図	330
Fig.297 第1167～1172号土壤 (SK-1167～1172) 実測図	331
Fig.298 第1173～1177号土壤 (SK-1173～1177) 実測図	332
Fig.299 第1178～1183号土壤 (SK-1178～1183) 実測図	333
Fig.300 第1184～1187号土壤 (SK-1184～1187) 実測図	334
Fig.301 集石遺構実測図	373
Fig.302 出土土器実測図 I	376
Fig.303 出土土器実測図 II	377
Fig.304 出土土器実測図 III	378
Fig.305 出土土器実測図 IV	379
Fig.306 出土土器実測図 V	380
Fig.307 出土土器実測図 VI	381
Fig.308 出土土器実測図 VII	382
Fig.309 出土土器実測図 VIII	383
Fig.310 出土土器実測図 IX	384
Fig.311 出土土器実測図 X	385
Fig.312 出土土器実測図 XI	386
Fig.313 出土土器実測図 XII	387
Fig.314 出土土器実測図 XIII	388
Fig.315 出土土器実測図 XIV	389
Fig.316 出土土器実測図 XV	390
Fig.317 出土土器実測図 XVI	391
Fig.318 出土土器実測図 XVII	392
Fig.319 出土土器実測図 XVIII	393

Fig.320 出土土器実測図 X IX	394
Fig.321 出土土器実測図 X X	395
Fig.322 出土土器実測図 X XI	396
Fig.323 出土土器実測図 X XII	397
Fig.324 出土土器実測図 X XIII	398
Fig.325 柏原K遺跡石器類分布図 (1/800)	400・401
Fig.326 柏原K遺跡出土石器 I	402
Fig.327 柏原K遺跡出土石器 II	403
Fig.328 柏原K遺跡出土石器 III	407
Fig.329 柏原K遺跡出土石器 IV	408
Fig.330 柏原K遺跡出土石器 V	409
Fig.331 柏原K遺跡出土石器 VI	410
Fig.332 柏原K遺跡出土石器 VII	411
Fig.333 柏原K遺跡出土石器 VIII	412
Fig.334 柏原K遺跡出土石器 IX	413
Fig.335 柏原K遺跡出土石器 X	414
Fig.336 柏原K遺跡出土石器 XI	415
Fig.337 柏原K遺跡出土石器 XII	416
Fig.338 柏原K遺跡出土石器 XIII	417
Fig.339 柏原K遺跡出土石器 XIV	418
Fig.340 柏原K遺跡出土石器 XV	419
Fig.341 柏原K遺跡出土石器 XVI	420
Fig.342 柏原K遺跡出土石器 XVII	421
Fig.343 柏原K遺跡出土石器 XVIII	422
Fig.344 柏原K遺跡出土石器 XIX	425
Fig.345 柏原K遺跡出土石器 XX	426
Fig.346 柏原K遺跡出土石器 XXI	427
Fig.347 柏原K遺跡出土石器 XXII	428
Fig.348 柏原K遺跡出土石器 XXIII	429
Fig.349 柏原K遺跡出土石器 XXIV	430
Fig.350 柏原K遺跡出土石器 XXV	431
Fig.351 柏原K遺跡出土石器 XXVI	432
Fig.352 柏原K遺跡出土石器 XXVII	433

Fig.353	柏原K遺跡出土石器XⅧ	434
Fig.354	遺跡の立地と発掘区の設定	446
Fig.355	土層断面図	447
Fig.356	遺構全体図	448
Fig.357	第1・3~6号土壤(SK-1・3~6)実測図	450
Fig.358	第2・7~9号土壤(SK-2・7~9)実測図	451
Fig.359	第10・11号土壤(SK-10・11)実測図I	453
Fig.360	第10・11号土壤(SK-10・11)実測図II	454
Fig.361	L遺跡出土土器実測図I	457
Fig.362	L遺跡出土土器実測図II	458
Fig.363	L遺跡出土石器I(実大)	460
Fig.364	L遺跡出土石器II(5/7)	461
Fig.365	L遺跡出土石器III(5/7)	462
Fig.366	M遺跡出土土器実測図	464
Fig.367	M遺跡出土石器I(実大)	466
Fig.368	M遺跡出土石器II(5/7)	467
Fig.369	M遺跡出土石器III	468
Fig.370	N遺跡出土石器	470
Fig.371	柏原遺跡群出土土器I	474
Fig.372	柏原遺跡群出土土器II	478
Fig.373	柏原遺跡群出土土器III	479
Fig.374	柏原遺跡群出土土器IV	480
Fig.375	柏原遺跡群出土土器V	481

図版目次

- PL. 1 (1) 土壌検出状況 I (K遺跡)
(2) 土壌検出状況 II (K遺跡)
- PL. 2 (1) 土壌検出状況 III (K遺跡)
(2) 土壌検出状況 IV (K遺跡)
- PL. 3 (1) 第140、157、159号土壌 (K遺跡)
(2) 第159号土壌 (K遺跡)
- PL. 4 (1) 第159号土壤遺物出土状況 (K遺跡)
(2) 第159号土壌 (K遺跡)
- PL. 5 (1) 第135号土壤遺物出土状況 (K遺跡)
(2) 第13号土壤遺物出土状況 (K遺跡)
- PL. 6 (1) 第140号土壤遺物出土状況 (K遺跡)
(2) 第140号土壤遺物出土状況 (K遺跡)
- PL. 7 (1) 第159号土壤遺物出土状況 (K遺跡)
(2) 第138号土壌 (北より) (K遺跡)
- PL. 8 (1) 土層断面 I (K遺跡)
(2) 土層断面 II (K遺跡)
- PL. 9 (1) 土壌検出状況 (K遺跡)
(2) 第655号土壌 (K遺跡)
- PL.10 (1) 第197号土壌 (K遺跡)
(2) 第121号土壌 (K遺跡)
- PL.11 (1) 第471号土壌 (K遺跡)
(2) 第644号土壌 (K遺跡)
- PL.12 (1) 第1号炉址検出状況 (K遺跡)
(2) 第1号炉址敷石 (K遺跡)
- PL.13 (1) 第1号集石 (北から) (K遺跡)
(2) 第1号集石 (南から) (K遺跡)
- PL.14 (1) 第2号集石 (K遺跡)
(2) 第3号集石 (K遺跡)
- PL.15 (1) 第4号集石 (K遺跡)
(2) 第5号集石 (K遺跡)

- PL.16 (1) 遺物出土状況 (K遺跡)
(2) 前期磨製石斧出土状況 (K遺跡)
- PL.17 (1) 晩期土器 (深鉢) 出土状況 (K遺跡)
(2) 晩期土器 (浅鉢) 出土状況 (K遺跡)
- PL.18 (1) L遺跡全景 (北より)
(2) L遺跡遺構検出状況
- PL.19 (1) L遺跡土壤検出状況
(2) L遺跡第1号土壤
- PL.20 (1) N遺跡グリット全景
(2) N遺跡土壤断面
- PL.21 (1) C遺跡出土石器
(2) N遺跡出土石器
- PL.22 (1) A-2遺跡出土磨製石鎌
(2) ①ナイフ形石器 (E遺跡) ②台形様石器 (H遺跡)

第1章 序 説

1. はじめに

1974年、住宅・都市整備公団による福岡市南区柏原地区の広大な地域の開発計画が市に提出された。これを受けた福岡市教育委員会文化部文化課（現・埋蔵文化財課）埋蔵文化財係では、計画地内における埋蔵文化財の分布調査を数回にわたって実施した。計画地内は雑木、雑草が多い繁り、また、開発予定地の面積が約68万m²と広大であったため現地踏査には困難をきわめた。数回の現地踏査で計画地内に古墳20数基を確認した。さらに周辺の遺跡分布状況からみて、雑草、雑木の伐採後、古墳等の遺跡が増加する可能性が強いことが感知された。以上の結果から文化課では住宅・都市整備公団に開発計画の中止を進言した。しかし、諸般の事情から住宅・都市整備公団では計画が着々と進められ、1979年より開発計画が具体化し、文化課では造成工事に先立って発掘調査を実施することを余儀なくされた。おりからの緊急調査の急増から、文化課では充分な調査体制をととのえる間もなく発掘調査を開始した。

開発地内の遺跡は分布調査時の予想をはるかに上まわり、本報告書に収録した先土器、縄文時代遺跡の他、E、F遺跡のような大規模な縄文時代早期遺跡数カ所、M遺跡の古代集落（居館址）、K遺跡の鎌倉時代の居館址と水田址、完全な一群となる古墳群など、福岡の歴史を説明するにはかかせない貴重な発見があった。

1983年、現地の発掘調査を終了し、現在、鋭意整理中で、その一部は報告書を刊行して公にしている。発掘調査および整理にあたっては、住宅・都市整備公団をはじめ地元各位のご協力をたまわった。記して感謝の意を表したい。

2. 調査体制

発掘調査、遺物整理、報告書作成にあたって以下の体制を組織した。相次ぐ緊急調査で充分な体制をととのえることは困難であった。しかし、関係各位の協力と調査補助員、整理補助員諸氏の多大な協力で、その進行が進められてきたことを明示しておきたい。

調査地区 福岡市南区柏原

調査面積	A - 2 遺跡（荒谷）	1,600m ²	C 遺跡（荒谷）	300m ²
	H 遺跡（荒谷）	200m ²	J 遺跡（水ヶ谷）	200m ²
	K 遺跡（ゴソ）	15,000m ²	L 遺跡（林崎）	625m ²

第1章 序 説

N遺跡（上原田）	100m ²
調査期間	1979年5月～1983年3月
調査委託者	住宅・都市整備公団九州支社
調査主体	福岡市教育委員会文化部文化課埋蔵文化財第1係（現・埋蔵文化財課第1係） （教育長）西津茂美（前）佐藤善郎（現）（教育次長）佐藤孝安（前）志鶴幸弘（前） 草場隆（前）野田義一（前）尾花剛（現）（文化部長）志鶴幸弘（前）中田 宏（前） 河野清一（前）川崎賢治（現）（文化課長）井上剛紀（前）甲能貞行（前）生田征生（前） （埋蔵文化財課長）柳田純孝（現）（埋蔵文化財第1係長）三宅安吉（前）柳田純孝 (前)折尾 学(現)
調査指導、協力	森貞次郎（前）九州産業大学教授 岡崎 敏（前）九州大学文学部教授 横山 浩一（九州大学文学部長）永井昌文（前）九州大学医学部教授 坪井清足（大阪埋蔵 文化財理事長）乙益重隆（国学院大学文学部教授）賀川光夫（別府大学学長）三島 格（肥後考古学会会長）白木原和美（熊本大学文学部教授）佐原 真（奈良国立文化 財研究所）石野博信（櫻原考古学研究所副所長）渡辺 誠（名古屋大文学部助教授） 下條信行（愛媛大学文学部教授）元甲真之（熊本大学文学部助教授）西谷 正（九州 大学文学部教授）渡辺正気（前）九州歴史資料館参考事務官 後藤 直（福岡市立埋蔵 文化財センター所長）藤井 功、宮小路賀宏（福岡県文化課）菅谷文則 中井一夫 泉 拓 良 家根祥多
調査担当者	山崎純男（福岡市教育委員会埋蔵文化財課）
事務担当者	岡島洋一（前）古藤国生（前）岸田 隆、松延好文
調査補助員	原 俊一（現・宗像市教育委員会） 市橋重喜（現・兵庫県教育委員会） 木下 尚子（現・梅光女学院大学講師） 横大路俊明 寺師雄二 石本晶義 矢野佳代 子（九州大学） 小畑弘己 米倉秀紀 吉武 学（現・福岡市教育委員会） 谷 口武範（現・宮崎県教育委員会） 入江久成 西谷 大 辻 满久 馬原和弘 茂 山宏美（熊本大学） 妹尾周三 船井向洋 日置公二 植田 広 宮坂孝宏 满 原 真 前島秀張 土井伸一（別府大学） 白土義実 其畠真二 離波新吾 来 鳴久雄 堀川亮二 宮田昌之 片山重明 千々和謙策 倉田浩一 平川祐介 熊 崎農夫博 沢 一郎 小井田佳代 武森安代 田端幸代 丸山 隆 牧口 明 池田一郎 日隈英敏 斎田浩治 時枝良藏 谷口麻理子 横野亮司 仲田善則 高木裕之 足立博子 井上隆興 荒川 理 松浦潤一郎 高瀬廣之 中野治寿 丸山明宏 宮元香子 門出悦子 塚本邦愛 小口幸雄 堀 孝二 片岡葉子 前 田 修 鎌田次男 小路永智明 他歴史研究部員（福岡大学）

第2章 遺跡の位置と歴史的環境

1. 遺跡の位置

福岡の平野部は地形的に東の福岡平野と西の早良平野に分断される。この境界をなすのが背振山系の支脈である油山（標高569.4m）より派生した平尾丘陵（最高位は鴻ノ巣山の標高100.5m）や長尾、飯倉の低丘陵である。この低丘陵は油山、片繩山（標高292.6m）に源を発する樋井川、一本松川、駄ヶ原川、片江川に開析され、狭小な沖積地を形成する。この小冲積地とそれを囲む低丘陵は、歴史的に一定のまとまりのある地域として把握され、古代には和名類聚抄に記される早良郡毘伊郷に比定されることは諸氏の認めるところである。

遺跡はこの低丘陵の開析する小河川の一つである樋井川の上流域に分布する。樋井川の上流域は油山東斜面と油山の支脈である片繩山の北斜面が接する地域にあたり、樋井川の支流が枝状に分岐し、舌状にのびるやせ尾根の丘陵を数多くくり出し、複雑な微地形を形成している。先土器、縄文時代遺跡は、これら丘陵斜面から、樋井川本流および支流の流域に発達した小規模な河岸段丘上に存在している。

A-2 遺跡は樋井川の第1支流によって解析された谷、第1支流右岸の河岸段丘上から丘陵部（旧河川流路によって谷部をなす。）にかけて位置している。A-1 遺跡の対岸にあたり、内容等からみてA-1 遺跡と元来同一の遺跡であった可能性が強い。包含層は古墳の築造、水田造成によって削平され、残存状態は良好でない。同一水系に位置するC 遺跡はやや上流域の左岸の丘陵斜面に位置している。H 遺跡は第3支流の奥部、丘陵斜面に位置するが、遺物量はきわめて少ない。J 遺跡は第4支流の左岸、小規模な河岸段丘上に位置する。K、L、M、N 遺跡は樋井川本流に面した河岸段丘上に位置する。K 遺跡が最も上流で右岸段丘上、L、M 遺跡がそれよりやや下った左岸段丘上、N 遺跡は一段高い段丘上に位置している。

遺跡を含めた調査対象区の中心は国土地理院発行の五万分の一の地形図「福岡」の南から5cm、東から19.6cmで、福岡市の中心に所在する市役所から南へ約7kmの位置にある。

2. 柏原遺跡群とその周辺

柏原遺跡群を含めた周辺の先土器・縄文時代の様相は、次第に明らかになりつつある。本開発地内でも調査の進展によって数多くの先土器・縄文時代遺跡が発見された。そこで先ず、本開発地内の当該期の遺跡の概略を述べ、次に周辺の遺跡を含めて、先土器・縄文時代の柏原地



Fig. 1 柏原遺跡群の位置と周辺の縄文時代遺跡

2. 柏原遺跡群とその周辺

区周辺の歴史的環境をみていいきたいと思う。

(1) 開発地域内の先土器・縄文時代遺跡

A-1 遺跡 楠井川第1支流の河岸段丘上に位置し、包含層から縄文時代早期の押型文土器、撚糸文土器、平格式土器、石器が多数出土している。A-2 遺跡と同一遺跡になる可能性が大きい。詳細は報告書第IV集に収録している。

A-2 遺跡 楠井川第1支流右岸の山麓部から河岸段丘上にかけて位置し、縄文時代早期の住居址、土壙等の遺構が数多く検出されている。包含層、遺構からは草創期の条痕文土器、早期の押型文土器、前期の条痕文土器、晚期の黒曜石研土器、突帯文土器が出土している。石器には石匙、石鎌、磨製石鎌等がある。詳細は本報告書に収録している。

B 遺跡 楠井川第1支流の左岸の丘陵上に位置する。明確な遺物包含層は存在しなかったが古墳の周囲より石匙、石鎌、黒曜石チップ等が検出されている。土器の出土がないため時期の比定は困難であるが、縄文時代前期頃が考えられる。

C 遺跡 楠井川第1支流左岸の丘陵上、B 遺跡と同一丘陵でさらに高い所に位置する。かなりの広さのゆるやかな斜面で、発掘の結果、上部に縄文時代の薄い遺物包含層が存在し、局部磨製石鎌、剥片鎌、石鎌、黒曜石剥片、チップが検出された。土器が無いため時期は明確にできないが、早～後期と考えられる。下部に先土器時代の包含層が存在し、台形石器、剥片が出土したが、数はきわめて少い。詳細は本報告書に収録している。

E 遺跡 楠井川第2支流の左岸、丘陵先端部からそれに続く河岸段丘上に位置する。包含層の下位において縄文時代草創期～前期の住居址、土壙墓多数が検出された。遺物には草創期の刺突文、粘土粒貼付文を施文した条痕文土器、縄文土器、椭円文土器、早期の押型文土器、撚糸文土器、吉田式土器、平格式土器、前期の轍B式土器の他、石器として局部磨製石斧、石匙、石槍、局部磨製石鎌、石鎌、Uフイレク等が出土している。詳細は報告書第IV集に収録している。

F 遺跡 楠井川第2支流の左岸、E 遺跡の約300m上流の侵蝕崖とそこに形成された小規模な河岸段丘上に位置する。厚い包含層が存在し、遺物包含層の最下層から先土器時代の炉址とナイフ形石器が検出されている。縄文時代の包含層は大きく三層に分離でき、第III層には土壙が検出されている。草創期の刺突文を施文した条痕文土器、撚糸文土器、条痕文土器と、石器には局部磨製石鎌、スクレイバー類が出土している。第II層には石圓炉、集石遺構が検出されている。押型文土器、無文土器、石鎌、磨製石斧、石匙、石鎌、スクレイバー等が出土している。第I層は押型文土器、撚糸文土器、平格式土器、沈縫文土器、石鎌、スクレイバー、磨製石斧、石皿、磨石等が出土している。詳細は報告書第I集に収録している。

H 遺跡 楠井川第3支流の右岸の丘陵斜面に位置する。古墳の調査において周辺より台形様石器、石鎌、黒曜石の剥片、チップが若干出土している。わずかに包含層が存在する。時期は先



Fig.2 柏原遺跡群の立地と遺跡の分布

2. 柏原遺跡群とその周辺

土器時代と縄文時代早~前期と考えられる。詳細は本報告書に収録している。

J遺跡 楠井川第4支流の左岸の小規模な河岸段丘上に位置する。遺物包含層が若干存在するが良好でない。スクレイバー、剝片、チップ、土器の小片が出土している。時期は明確に判定できないが早~前期と考えられる。詳細は本報告書に収録している。

K遺跡 楠井川の右岸、河岸段丘上に位置する。約15,000m²の地域に縄文時代早期の住居址、土壙、土壙墓多数を検出した。本開発地内最大の規模を有する。遺物には草創期の刺突文、粘土粒貼付文の条痕文土器、早期の無文土器、押型文土器、前期の轟B式土器、中期の阿高式土器、晚期の黒川式土器、突帶文土器、石器として石鏃、磨製石斧、磨石、石皿、石匙、石鎌、スクレイバー類等が出土している。詳細は本報告書に収録している。

L遺跡 楠井川の左岸に位置する。K遺跡の下流約250mのところにあたる。遺物包含層が存在し、縄文時代前期、轟B式土器が単純に出土している。石器には石鏃、石匙、スクレイバー類がある。遺構として集石遺構、土壙が検出された。詳細は本報告書に収録している。

M遺跡 楠井川の左岸、Lの北側丘陵部に位置する。古墳~平安時代の造成によって遺物包含層、遺構は残存しないが、多く遺物が存在する。先土器時代に属するものとしてナイフ形石器数点がある。縄文時代に属するものとて押型文土器、石鏃、石槍、石匙、スクレイバー等が存在する。遺物の散布はかなりの広範囲におよんでいる。詳細は本報告書に収録している。

N遺跡 楠井川左岸、M遺跡の東約20mの丘陵上に位置している。表面採集資料として先土器時代のナイフ形石器、細石刃、細石核がある。発掘の結果、細石刃文化の再堆積の包含層を確認したが、大きな広がりはみられなかった。詳細は本報告書に収録している。

以上、開発地内には12ヶ所の先土器、縄文時代遺跡が存在する。先土器時代遺跡は遺物量も少なく良好でないが、縄文時代遺跡には規模、遺構、出土遺物等に注目すべきものが多い。時期的には草創期、早期、前期、中期、晚期遺跡が存在するが、草創期、早期、前期は遺跡、遺物共に良好である。中期、晚期は遺物の量も少なく内容は明らかにできない。

(2) 周辺の遺跡

次に柏原の開発地域外の先土器、縄文時代遺跡についてみてみよう。先ず、西の地区では、開発地に隣接して楠井川左岸の丘陵顶部に位置する羽黒神社遺跡があげられる。K遺跡と楠井川を挟んで対峙している。切り通しの断面に包含層の存在が確認できる。押型文土器、石鏃、黒曜石の剝片、チップが採集されているが、土器の量はきわめて少ない。柏原と丘陵を1つへだてた西の井手遺跡では横型の石匙1点が採集されている。時期は不明。また柏原遺跡群の北西1.5kmに位置する筆秉遺跡からは晚期土器および石器が出土している。さらに西にいくと油山山麓に位置する鳥越2号墳の調査に際し、古墳の周辺に遺物包含層が確認され、早期の押型文土器と石器が出土している。別地点の草苗田10号墳の調査でも、周辺から縄文時代早期の条痕文土器、晚期上器底部、土製紡錘車、磨製石斧、磨石、石鏃が出土している。七隈、千隈地区

では五ヶ村池遺跡から縄文時代前期の曾畠式土器、石器が採集され、熊添池から石匙、また、池の東側丘陵の干隈熊添古墳の調査に際して磨製石斧、局部磨製石斧、石鎌、Uフレイクが出士している。

柏原遺跡群の東側では、丘陵を1つへだてた大牟田古墳群の調査で、縄文時代の遺物包含層が確認され、条痕文土器、石器が出土している。また、別地点の古墳の墳丘中から块状耳飾り1点が出土している。さらに東に存在する箱ノ池遺跡からは押型文土器、石鎌、刀器、黒曜石の剝片、チップが採集されている。油山山麓をはなれた平野部にのびる丘陵部では老司池遺跡で押型文土器が採集され、野多目池遺跡でも押型文土器、阿高系土器、石器が採集されている。また、那珂川左岸の段丘面には数多くの縄文時代の遺物が採集されていて、野多目拈渡遺跡では後期前半のドングリ・ピットが数10基調査されている。

このように、柏原を中心とした油山山麓部には縄文時代遺跡、特に縄文時代早期～前期の遺跡が散在している。柏原地区は発掘調査以前は押型文土器1点が採集されていたのみで、縄文時代遺跡は皆無に等しかった。しかし、調査の結果では上記した遺跡の発見があり、その密集度はかなりの高さにのぼることが判明した。このような事実を考えれば、油山山麓に点在する縄文時代遺跡は今後の調査によってさらにその数が増加することは疑いなく、油山山麓に分布する縄文時代遺跡の有機的関連性をもとにした縄文時代の様相を語るものもそう遠い時ではないと思われる。現在の縄文時代遺跡の分布から若干の推測を混じえて、その傾向を述べれば次のようになろう。

先土器時代の遺跡は軒々と散布する石器を除いて油山山麓には有望な遺跡は認められず、むしろ平野部に派生した丘陵部に良好な遺跡が発見されつつある。油山山麓に分布する先土器時代遺跡は狩猟時における一時的キャンプ遺跡と考えることができよう。

草創期、早期遺跡は柏原遺跡群の状況からすれば、ある一定のテリトリーにおける回帰的行動の結果とみることができ、その主な生産活動（狩猟）における行動範囲と集落の主な舞台が油山山麓を中心としたものであったことがわかる。前期についてはその傾向を把握する遺跡数の発見はない。中・後期については前述の野多目拈渡遺跡にみるようなドングリ・ピットの存在や遺跡立地からみて生産基盤の変化が読み取れる。ドングリ・ピットは最近の調査で福岡市内でも湯納遺跡（前期）、坂盛遺跡（中～後期）、有田遺跡（中～後期）等の平野部に派生した段丘面に発見されている。また、四箇遺跡（後期）は平野部の河岸段丘（自然堤防）に位置し、多量の堅果類の皮を主体とする特殊泥炭層が形成されている。狩猟を主体とする経済基盤から植物質食料（ドングリ等の堅果類を含む）への経済基盤の変化として読みとることができる。遺跡立地も山間から、より行動しやすい平野部へのびた丘陵部、丘陵面に変化したものと考えられる。これと呼応したように海岸部にも貝塚遺跡の存在が目立ってくる。

今後の調査により縄文時代社会の様相が明白なることを期待したい。

第3章 調査の概要

発掘調査は1979年5月～1983年3月にかけて実施した。その間、調査員の不足、あるいは度重なる雨や工事の都合による調査区の移動、中断等で困難をきわめたが多くの人々の指導と激励によって多大な成果を得て調査を無事終了することができた。

1. A-2遺跡調査概要

A-2遺跡は現状では水田となっていて、調査開始時の表面採集でも遺物を得ることはできなかった。しかしA-1遺跡の対岸に位置し、地形復原、土層等の検討から、A-1遺跡の縄文時代包含層がA-2遺跡の段丘部まで延びていることが想像できた。また、小規模な試掘調査では須恵器小片等が若干出土して遺跡の存在が充分に予想することができた。調査は現場事務所の設置場所であったため、柏原遺跡群の中で最終的に取りかかった。先ず表土層を機械で除去した結果、表土層の下部に存在する黄褐色砂質土層から押型文土器が点々と出土し、本地區が縄文時代遺跡であることが判明した。よって遺跡の全面調査を目的として、段丘上の全域の表土層を除去した。調査区は事務所を界にして北地区と南地区に二分して実施した。南地区では表土層の除去に伴い、はからずも古墳の周溝および石室（A-2号墳）が発見され、縄文時代遺跡の調査は古墳の調査終了後に行うこととなった。表土層を除去した結果、遺跡は南調査区に濃厚で、北地区は遺物の出土量も少く良好ではなかった。また、遺物包含層の一部は造成地外へのびており、遺跡全面調査にはいたらなかつた。表土層除去後、磁北にあわせて、4m×4mのグリッドを設定し、調査を進めた。遺物包含層は南側および東側で厚く、北西部では削平により薄くなり、一部地山が露出している部分もある。包含層は黄褐色砂質土層一枚で、遺構の埋土も同一層である。調査にあたっては、すべての遺物を記録し遺跡の構造的把握につとめた。遺物の出土状況からは、層位的関係を把握することは困難であったが遺物には一つのまとまりがある。時期的には草創期・早期・前・晚期土器とがある。遺構は南調査区全面と北調査区の一部に認められる。北調査区に遺構が少ないので出土遺物の量からも推測されるところで、遺跡が第1支流に面した南側が主体的に使用されたことを示している。遺構には明らかに基と思われるもの、住居址と思われるもの、その他使用目的が明らかにできない土壙があるが、本報告ではすべてを土壙として扱い、基、住居址と考えられ遺構については注記した。遺構の分布は重複して密集する部分と遺構のない部分とが明白である。先に報告したE遺跡との遺構分布と共に通しており、集落構造の分析にある程度の見とうしを得ることができる。

第3章 調査の概要

本報告で確認した土壌は、159基で、その内訳は墓と考えられる土壌、19基、住居址と考えられる土壌、4基、その他の土壌、137基である。また、炉址2基を確認している。

2. C遺跡調査概要

C遺跡は第1支流左岸に位置する丘陵東斜面に位置する。表面的観察では遺物の出土もなく、遺跡の存在を認めることはできなかった。しかし、先行して実施したC古墳群の調査において黒曜石製の石器および剝片が出土し、周辺に先土器、縄文時代遺跡の存在が予想できた。古墳調査終了後、古墳の地山整形によって破壊されていない北側に幅広いトレンチを設定し発掘を開始した。発掘の結果は表土下に薄い遺物包含層（黄灰色粘質土層）が存在した。出土遺物には先土器時代に属するナイフ形石器、縄文時代の石錐および剝片、チップが存在する。量的には少ない。出土遺物は層位的には分離できず、明確な包含層とはいがたい。遺構も存在せず、キャンプ遺跡的性格を有するものであろう。

3. H遺跡調査概要

H遺跡は第3支流の右岸、丘陵西斜面に位置する。表面的観察において遺物の出土もなく、遺跡の存在を認めることはできなかった。しかし、先行して実施したH古墳群の調査において、黒曜石製の石器が若干が出土し、遺跡の存在が予想できた。よって、遺跡の存在する可能性の高い古墳の位置する上のやや平坦な部分の表土層を機械により除去して、その探索につとめたが、明確な遺物包含層等は認められなかった。本遺跡は小規模なキャンプ的遺跡であったと考えられ、古墳築造に伴い地山整形で破壊された可能性が高い。

4. J遺跡調査概要

J遺跡は第4支流左岸の丘陵斜面から河岸段丘に位置する遺跡である。立地的には先に報告したF遺跡ときわめてよく類似している。表面的観察においては遺物は採集できず、遺跡の存在は認めることはできなかった。しかし、先行して実施したJ古墳の調査において縄文時代遺物が若干出土したため、周辺で最も良好な地形を有する河岸段丘に試掘トレンチを設定し、発掘を開始した。その結果、段丘上に薄い包含層が存在することを確認したが、出土遺物はきわめて少なく、後世の削平によって保存状態はきわめて悪かった。遺構の存在はみられず、前記C遺跡、H遺跡同様にキャンプ的性格を有する遺跡とみられる。

6. L遺跡調査概要

5. K遺跡調査概要

K遺跡は樋井川本流の右岸に発達した河岸段丘に位置する。調査前は棚田状の水田となっており、事前の表面観察では遺物の散布もなく、遺跡とは認めがたかった。ただし、地形的には平坦面の広い舌状台地をなしており、遺跡の存在を充分に予想できる地形であった。1980年4月に試掘調査を実施し、段丘全面に遺跡が存在することが判明した。よって、1980年5月より他地区の調査の合い間に表土層の除去作業にかかり、1982年3月より本格的調査を開始した。

本遺跡は中世の居館址と縄文時代の複合遺跡である。縄文時代遺跡の遺物包含層は中世遺跡の地表面をなしており、発掘の順序として、中世遺構の調査終了後に縄文時代遺跡の調査を開始した。調査には中世遺跡同様に4m×4mのグリッドを設定し、発掘を開始した。調査は工事の都合上、西側より発掘をはじめ、順次、東側に移動していった。遺物包含層は場所により異なっているが、全体的には10~40cmの厚さを有している。ただし、段丘中央部は中世遺跡によって削平され、遺物包含層は消滅していた。遺跡は場所によって時期を異にし、西側は縄文時代前期・晩期遺物が層位的に検出され、東側は早期押型文土器期を主体とし、一部、中期・晩期の遺物が認められた。

検出した遺構は自然流路および土壤状の遺構である。自然流路は段丘中央部よりやや西側にかたよって検出した。幅25mで段丘を横断している。流路の埋土中には縄文時代前期轟B式土器が単純に包含されていた。流路西側の前期層より明らかに古く、轟B式の中でも層位関係が把握でき、轟B式土器の細別が可能となったことは大きな成果であろう。段丘東側部分で検出した土壤状の遺構は明らかに墓壙と考えられるものと住居址と考えられるもの、その他の土壤に分類が可能である。総数1187基を確認した。重複関係が著しいが、遺構の分布しない空間もあり、そのあり方はE遺跡、A-2遺跡と同様である。縄文時代早期の西日本の集落のあり方を示唆しているものと思われる。押型文土器には各型式が含まれている。層位的には混在している状況であるが、遺構および層位を縦密に分析すれば、その分離は可能である。

本遺跡から検出した遺構は墓壙状遺構92基、住居址状遺構53基、その他の土壤1042基、集石遺構5基である。出土遺物には土器、石器がある。土器は草創期の刺突文土器、早期押型文土器、前期轟B式土器、中期阿高式土器、晩期十器がある。石器は石鏃、石匙、石錐、スクレイバー、石皿、磨石等がある。

6. L遺跡調査概要

L遺跡は樋井川本流左岸の河岸段丘上に位置する。調査時は棚田状の水田となっていて、表面的な観察においても遺物は散布しておらず、遺跡として確認することはできなかった。K遺

第3章 調査の概要

跡の確認に伴い、試掘調査を継続し、本地区に中世水田が確認されたため水田調査を実施した。水田調査に伴い、L地区の表土層を除去し、清掃した結果、段丘部分に若干の縄文式土器が包含されていることを知り、水田調査後に4m×4mのグリットを設定し調査を開始した。調査の進展に伴い、同地区に厚さ20~40cmの遺物包含層が存在することを確認した。遺跡は比較的小規模で東西約25m、南北約25m、約625m²の範囲におさまるものであった。遺物包含層は縄文時代前期・轟B式土器を単純に出土し、包含層下位において土壤状遺構11基、炉址1基、集石遺構等を確認した。遺物には土器の他、石匙、石鎌、スクレイバー、Uフレイク等がある。

7. M遺跡調査概要

M遺跡はL遺跡の北東部に位置する遺跡で同様に樋井川本流の左岸に発達した河岸段丘上に立地している。試掘調査の結果、遺跡の存在を確認したが、主体となる時期は古墳~古代遺跡であった。しかし、表土層を除去し、遺物包含層を発掘した結果、多数の石器が混入していることが判明した。古墳~古代遺跡の調査後、下層を詳細に検討した結果、一部に縄文時代包含層を確認したが、大部分は古代における造成工事によって削平されていた。遺物の散布は全域に広がり、元来は大規模な縄文時代遺跡であったと考えられる。出土土器は縄文時代早期押型文土器、後期土器がある。石器は磨製石斧、石匙、石鎌、石槍等があり、一部に太形蛤刃石斧、扁平片刃石斧などの弥生時代石器も存在する。弥生時代の石器は遺跡の存在を示すのではなく、弥生人が木の伐採にきて遺棄したものと考えられる。その他の遺跡でも散発的に発見されている。

8. N遺跡調査概要

N遺跡はM遺跡の東側の一段高い段丘上の台地際に位置している。水田耕作土が除去され、直下の地山面が露出した後、表面採集、観察を実施した結果、黒曜石製の細石核1個、ナイフ形石器1個を採集した。遺物の分布状態等を加味し、試掘トレンチを設定し、遺跡の範囲確認を行い、遺物の包含される部分を全面的に調査した。調査にあたっては、1m×1mのグリットを設定、各グリットにセクションベルトを残しながら慎重に調査を進めた。その結果、表土層下の黄色粘質土層にマイクロ・ブレイドを主体とする遺物包含層を確認した。ただし、この包含層には同時に多くの土師器を含んでおり、二次的堆積と考えることができる。しかし、マイクロ・ブレイド等には磨滅等は認められず、どのような状況で混在したかは明確にできなかった。なお表面採集のナイフ形石器の包含層は確認できずじまいである。

第4章 A-2遺跡の記録

1. 遺跡の立地

A-2遺跡は開発地内の東端部、桶井川の第1支流に開析された谷に面した右岸の小規模な河岸段丘上に位置している。現在、この段丘と対岸に存在するA-1号墳をのせる段丘の間に桶井川第1支流が北流している。しかし、調査の結果、第1支流は当時はA-1号墳をのせる段丘とB支群の古墳をのせる丘陵との間を北流していて、A-1、A-2遺跡をのせる段丘は右岸にのびる丘陵麓部に接して発達した同一の段丘と考えられる。よって、元来、A-1遺跡とA-2遺跡は同一段丘にのる同一遺跡であった可能性が強い。そうした場合、遺跡の大部分は第1支流の流路の変更によって中心部が破壊され、消失したと考えられ、本遺跡もまたE、K遺跡のように大規模な遺跡であった可能性が強い。A-2遺跡は南面する部分が河岸段丘となっているが、北側は丘陵にはさまれた谷部を形成しており、さらに古くは河道であった可能性もある。段丘は基盤層として砂層と礫層からなる段丘堆積層があり、その上部に堆積する黄褐色砂質土層が縄文時代の遺物包含層となっている。A-2遺跡の遺物包含層は後に築造されたA-2号墳の地山整形や開田によってかなり削平され、遺存状態は良好でない。A-2遺跡は標高46m前後で、桶井川第1支流との比高差は約4mである。

2. 発掘区の設定

本遺跡も他の遺跡群同様の調査方針を決定し、発掘区の設定を行なった。先ず調査方針として、①遺跡の全面調査を基本方針とする。②出土遺物については正確な位置およびエレベーションを記録し、各遺物の層位的把握につとめる。③正確な遺構図および遺構配置図を作成し、出土遺物との関連性を把握する。④以上の結果を集成し、集落構造の分析（生活空間・居住のあり方）を通して遺跡の性格を把握することを目的とした。これらの目的を達成するために遺跡全面を4m×4mのグリッドの方眼でくくり、発掘区の設定を行なった。しかし、A-2遺跡は、本遺跡群の調査時には遺物の存在は明らかでなく、造成地内の地理的関係もあり、調査事務所の設営地として利用していた。そのため調査区の設定にあたっては、おのずと限度が生じ、遺跡全面の調査にはいたらず、事務所の設営場所を除いた最大限に調査区を設定した。しかし、調査の結果は、造成地の範囲外にのびる部分は別として、事務所の下になって発掘できなかった部分は極少面積にすぎず、本遺跡の全貌を解明することができた。

第4章 A-2遺跡の記録



Fig. 3 A-2遺跡の地形

2. 発掘区の設定

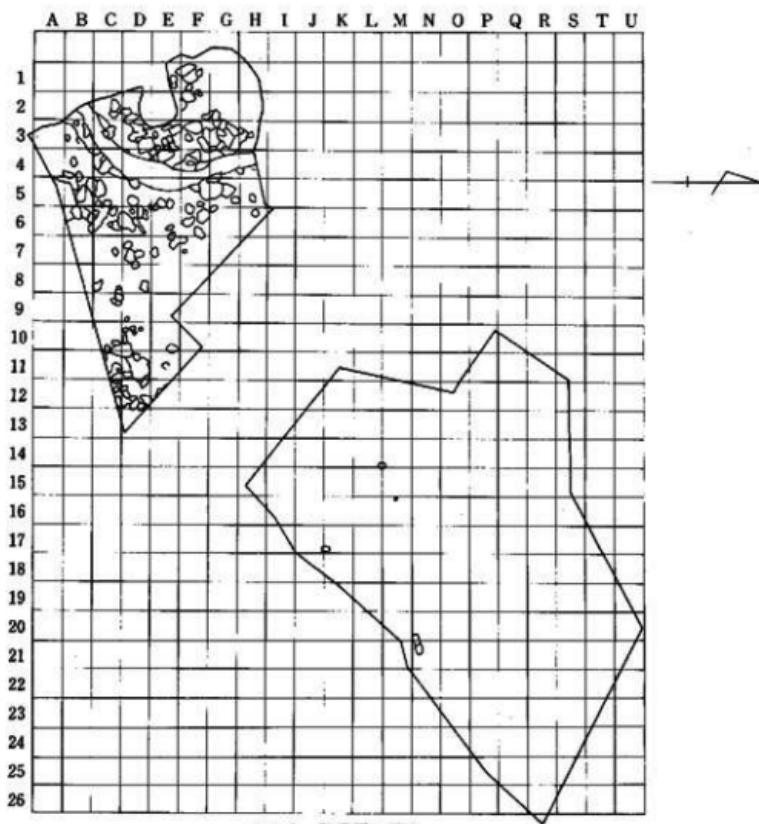


Fig. 4 発掘区の設定

調査区は前述のとおり、事務所をはさんで南調査区と北調査区に分けられるが、グリッド(4 m × 4 m)は連続した方眼を利用している。すなわち、南調査区は、東西方向に、東からA～Hまでの8グリッド、南北方向に南から1～13までの13グリッドを設定し、北調査区では、東西方向に東からH～Uまでの13グリッド、南北方向に南から10～26までの27グリッドを設定した。

3. 層序

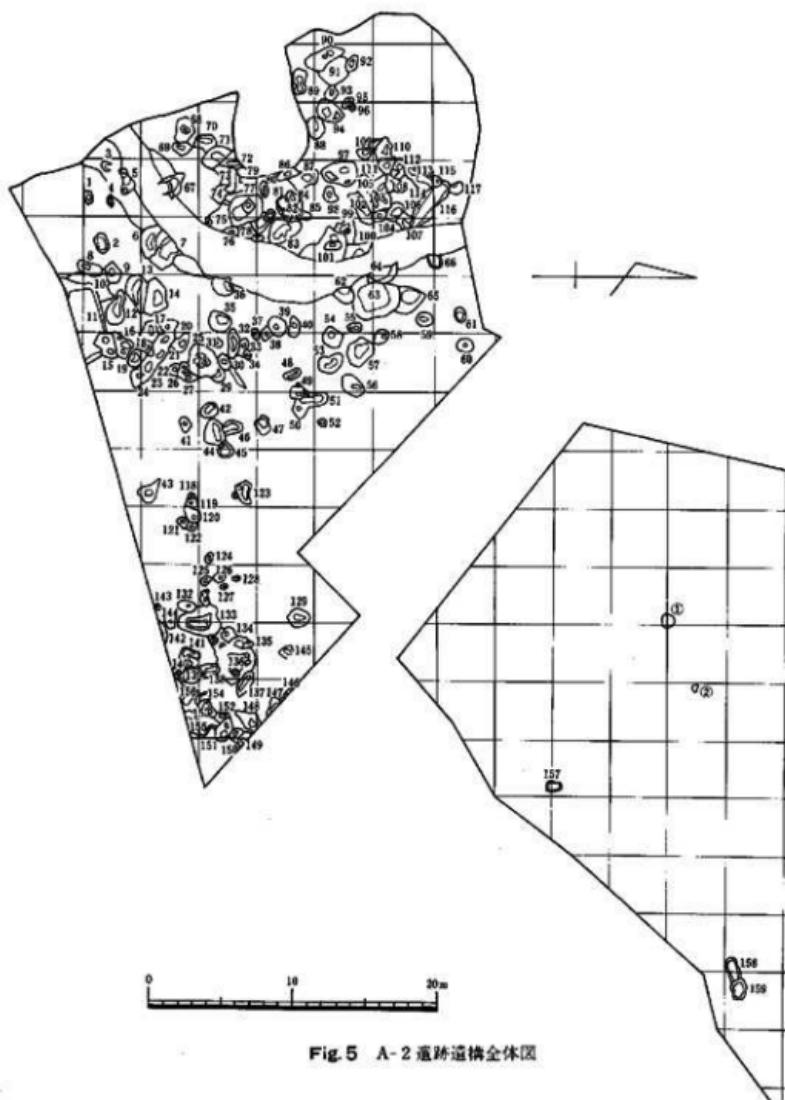
本調査区の層序は、この地が開田されているための削平と、古くは古墳が築造されていたために、その保存状態は良くない。基本的な層序を示すと以下の如くなる。第1層、表土層、現水田耕作土で灰褐色砂質土層、厚さ約20cm。第2層、水田床土で厚さ約5cm前後、鉄分、マンガンの沈着が著しく認められる。第3層、灰褐色砂質土層で厚さ約20cm、土師器皿の小片が出土している。鉄分、マンガンの沈着がみられ、中世の水田耕作土と考えられる。第4層、厚さ5~10cm、灰褐色~茶褐色土層で鉄分が著しく沈着している。中世水田床土と思われる。鉄分の沈着は次の第5層上面にもみられる。第5層は黄褐色砂質土層で厚さは場所によって異なる。縄文時代の遺物包含層である。開田のため削平され薄くなっている部分が多い。特に南調査区の西北部は削平が著しく、第4層は存在せず、丘陵部の基盤層が露出している。造成地の境界付近を最大とした浅い谷状になっていることが考えられる。この谷部を埋めるのが、第6層以下砂層と砾層の互層からなる段丘堆積物である。

4. 遺構分布の概要

遺構は南調査区では、古墳の地山整形によって破壊されているものもあるが、周溝および石室掘り方以外に存在する遺構は比較的の残存状態が良好であった。しかし、開田によって削平の著しい北西部には遺構の存在はみられない。北調査区では遺構の保存状態は良好であるが、元来遺構が存在しなかった可能性が強く散発的にみられる程度である。各遺構はいずれも土壌状のものである。重複関係が著しく、かつ遺構の数も多い。上層は形状、埋まり方等からいくつかの使用目的の違いが考えられる。各遺構の壁はたちあがりがゆるやかで、断面形が浅い皿状をなすものが大部分であるが、中には長方形~隅丸長方形の平面プランをもち、壁が垂直に近いたちあがりをみせるものもある。前者は、その遺構が廃棄された以後、風化によって壁がくずれ皿状になったことを示していると考えられる。また後者は平面プラン、大きさあるいは壁のたちあがりが垂直に保たれていることから掘削され、比較的早い段階に埋められたと考えれば、E遺跡の報告で指摘したように墓壙としての用途が考えられる。また、前者についても、比較的大型で、土壌内あるいは周辺に柱穴状のピット、あるいは土壌を有するものは住居址の可能性がある。それ以外の土壌については使用目的等は明確にできない。一種の作業場的性格を有している可能性もある。このような土壌状遺構は本遺跡以外でも柏原E遺跡、柏原F遺跡、柏原K遺跡等で多数検出しているので、今後検討を加えたいと思っている。

遺構の分布は主に南斜面に集中してみられ、北側には比較的希薄である。分布の状態は集中的で各遺構の重複関係が著しい。しかし、無差別な重複関係があるわけではなく、数基を1単

4. 遺構分布の概要



位として、それ以外に空白部があり、全体として粗密の状態が把握できる。古墳の墳丘下にある、D-G-2~4グリット、周溝東北部のA-C-5・6グリット、そしてC-D-10~12グリットの三ヶ所に遺構の集中部分がみられ、逆にA-B-3、4グリット、B-C-7、8、9グリットの二ヶ所に遺構の少ない径10~15m前後の空間部分が存在する。本遺跡でもE遺跡で指摘したように遺構の集中部分と空白部分の存在が指摘でき、共通した状況を示している。時間的関係で綿密な分析を行なえないので残念であるが、早期の集落構造の把握ができそうである。なお、土壌状遺跡で区別した住居址状の土壌、墓壙状の土壌、その他の土壌は一ヶ所に集中するあり方は示さず、全域にわたって分布する。この点もE遺跡やK遺跡と同様の傾向である。E遺跡では出土遺跡の分布から遺構の時間的変遷が把握されたが、本遺跡では遺物量も少なく、遺物による変化は認めることができなかった。

5. 土壌状遺構

検出した遺構は、2基の炉址を除いた159基すべてが土壌状の遺構である。大きさ、形状はバラエティーに富んでいるが、大別して二種類の類型に分類できる。第1類型は壁のたちあがりがゆるやかで、断面形が皿状をなす土壌である。第2類型は壁のたちあがりが垂直に近いもので、断面形が箱形をなす小型の土壌である。両者の違いは壁のたちあがりに大きな差がある。第1類型の壁のたちあがりがゆるやかで皿状をなす原因を復原的に考えると以下のようになる。元来、皿状の土壌の壁のたちあがりも垂直に近い状態で掘り込まれていたと考えられる。しかし、これらの遺構が廃棄された以後、遺構の掘り込まれた地山は河岸段丘の堆積物の砂層となっているため固くしまってはいないことも原因し、長年放置されることによって掘り方の上部が崩壊し、皿状になった可能性が強く、内部に堆積する土層も自然に流れ込んだものと考えられる。これに対し、第2類型は壁が垂直にたちあがった状態のままで遺存していることは、掘り込まれて、さほど時間を経過しない段階で埋められたことが推測できる。埋土も明るい黄褐色砂質土で、他の遺構の埋土とは異なっている。このように埋められていることは使用目的を示唆していると考えられ、この類型の土壌は平面プランが隅丸長方形～長方形をなしていることから考えても墓壙としての可能性が強い。

第1類型はさらに2種に小分類できる。規模が2~3m以上で内部に柱穴状のピットや土壌をもつもので、住居址としての可能性が強いものと、前者より小規模で柱穴状のピットや土壌をもたないもので、住居址以外の他の使用目的が考えられるものである。しかし、両者の区別は困難である。

なお、土壌からは縄文式土器、石器、剣片、チップ等が出土している。各土壌からの出土遺物で上器型式の明らかなものや、石器については後の一覧表の備考欄において示す。

5. 上壤状遺構

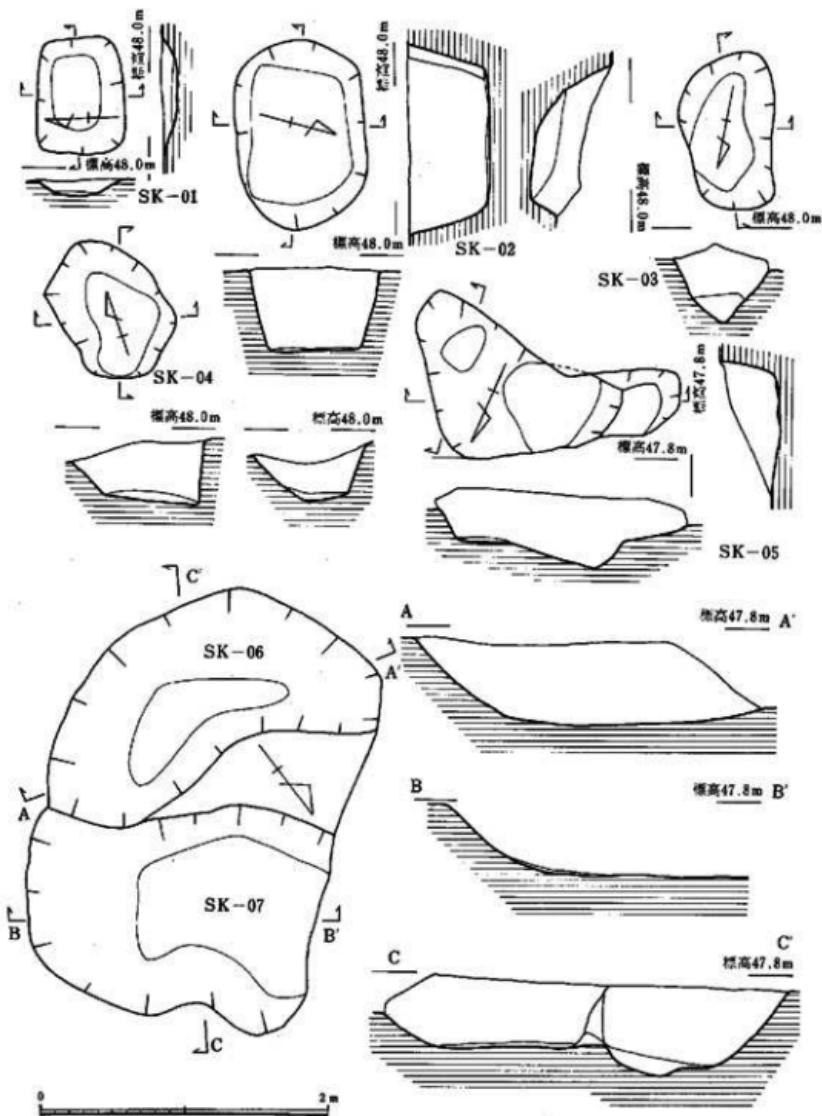


Fig. 6 第1~7号土壤 (SK-1~7) 実測図

第4章 A-2 通路の記録

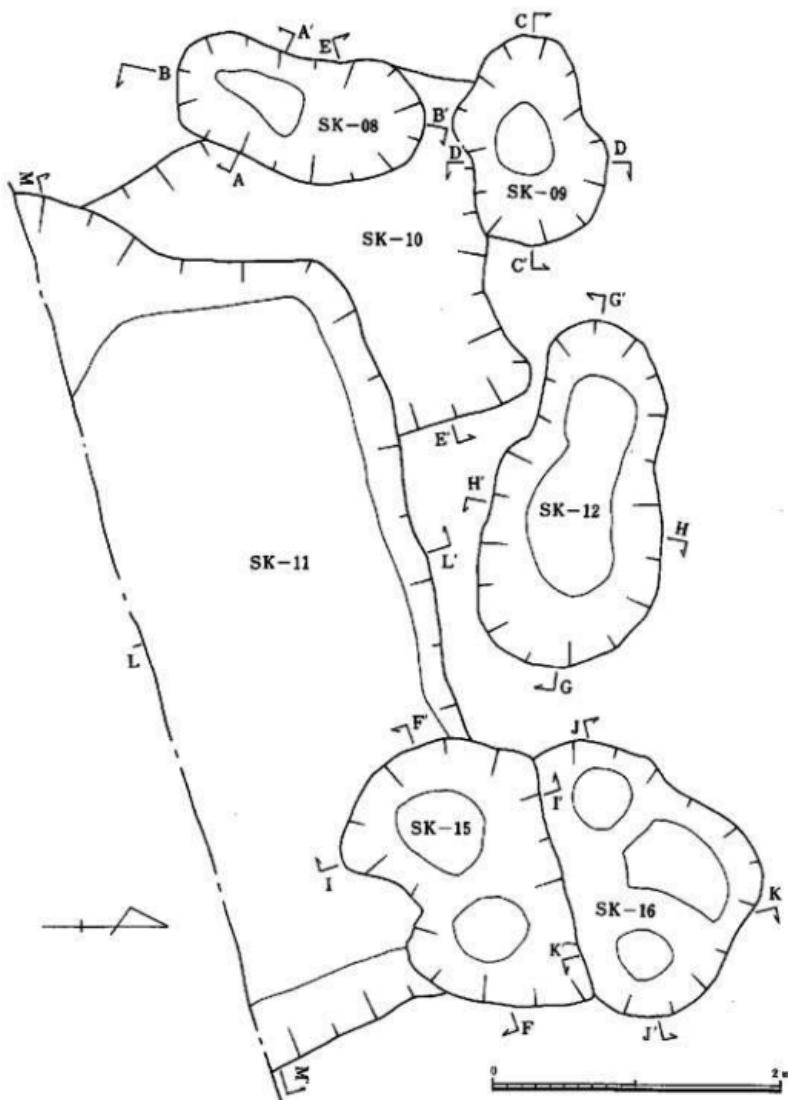


Fig. 7 第8~12・15・16号土壤 (SK-8~12・15・16) 実測図 I

5. 土壤状造構

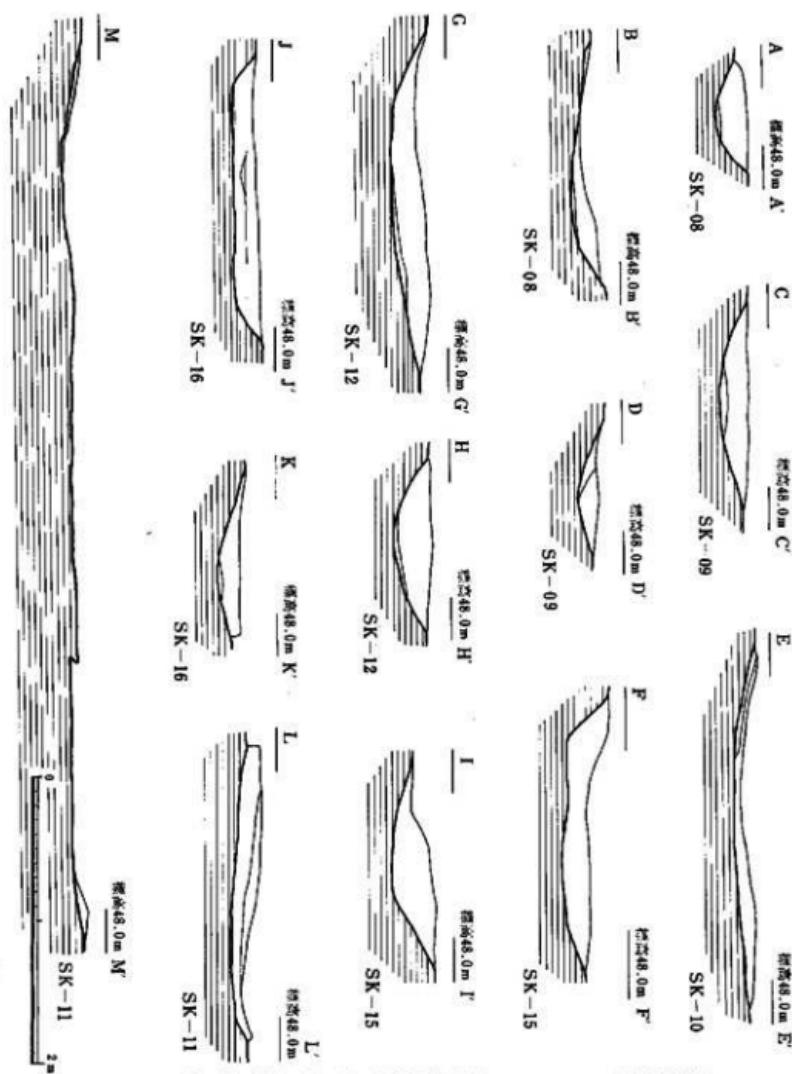


Fig. 8 第8~12・15・16号土壤 (SK-8~12・15・16) 実測図II

第4章 A-2 通路の記録

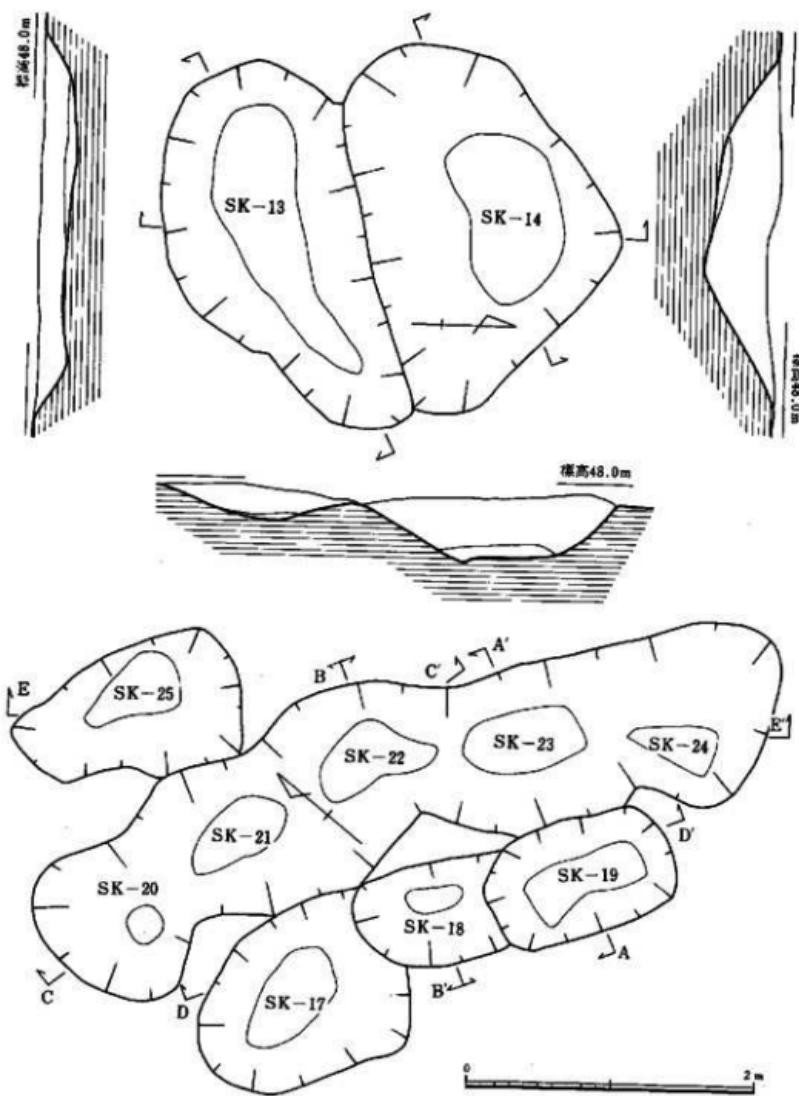


Fig. 9 第13・14・17~25号土壤 (SK-13・14・17~25) 実測図

5. 土壌状況

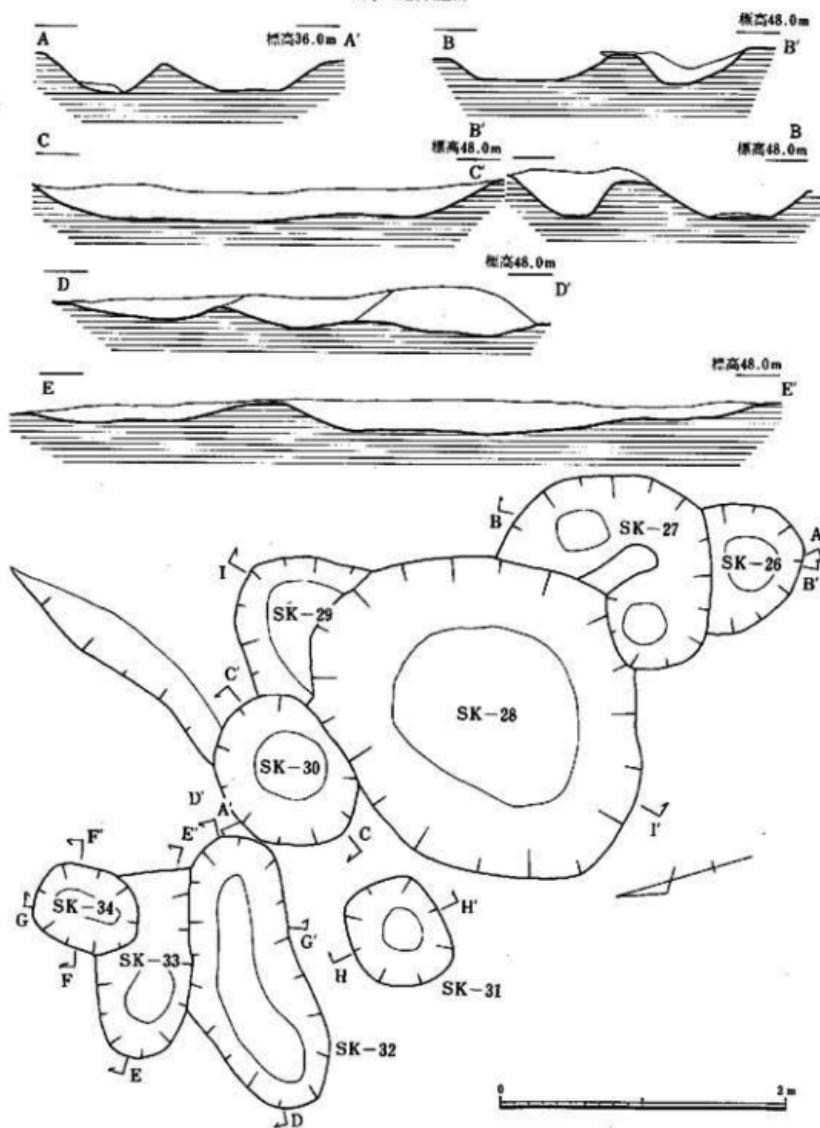


Fig. 10 第26-34号土壤 (SK-26-34) 調査図 I

第4章 A-2 遺跡の記録

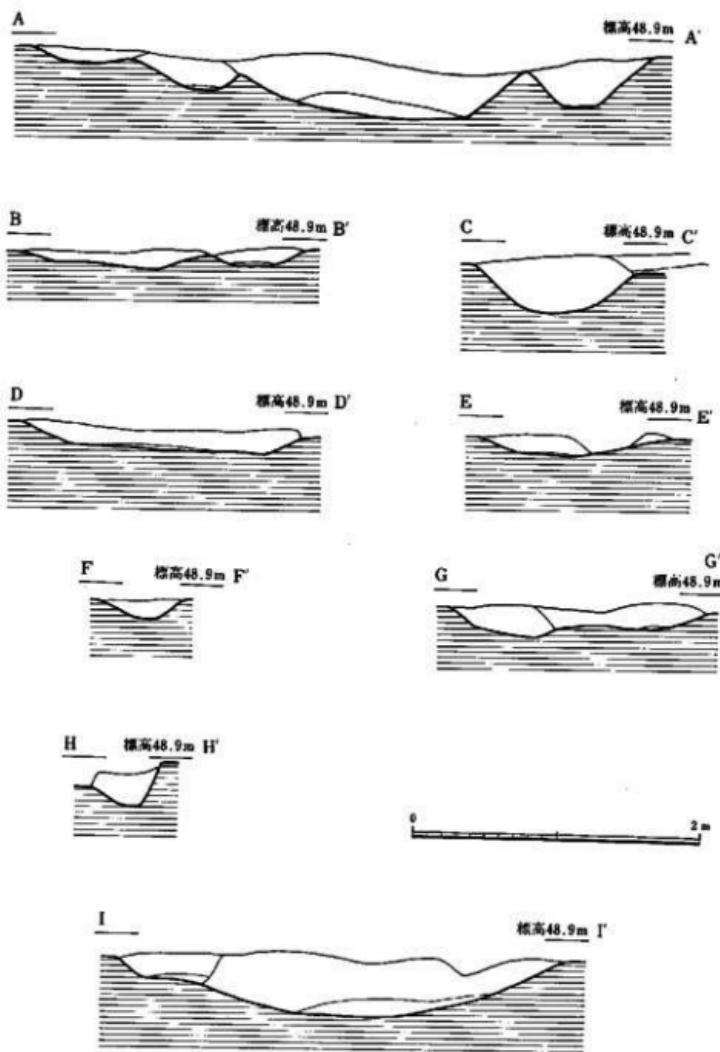


Fig. 11 第26~34号土壙 (SK-26~34) 実測図II

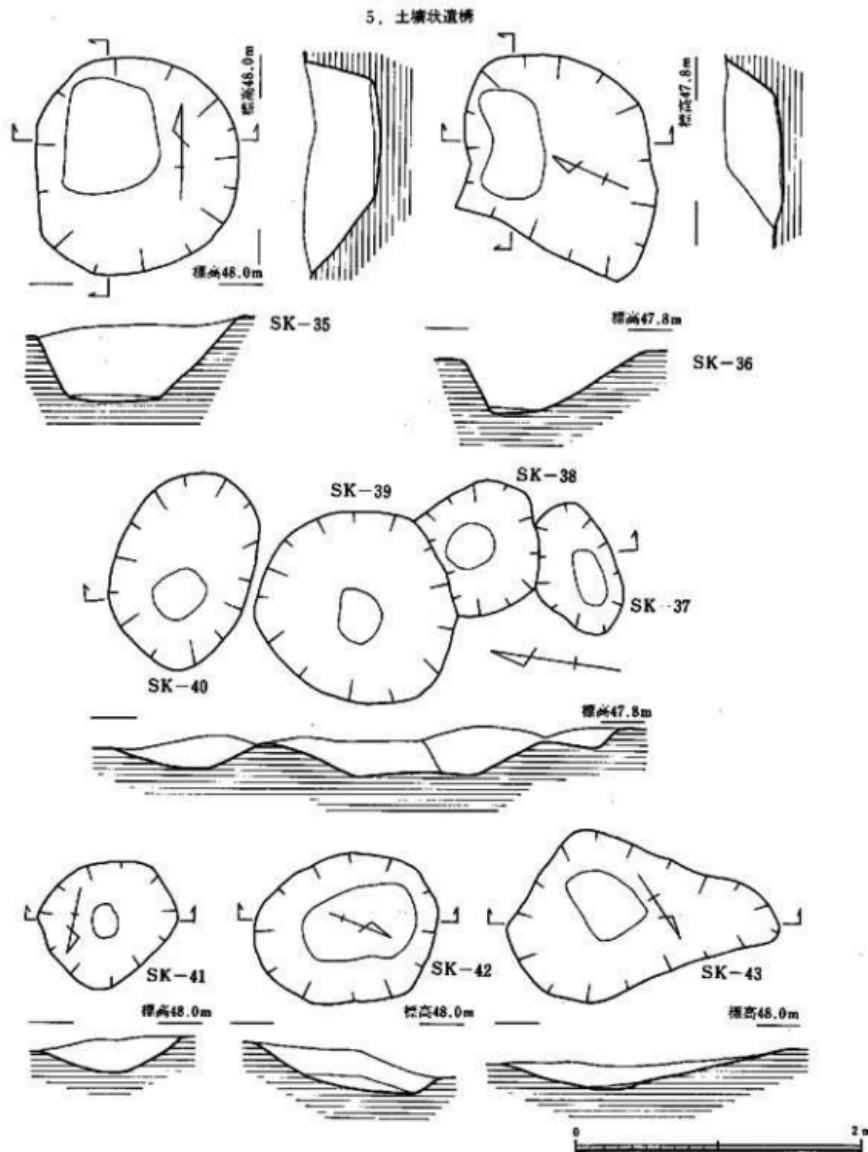


Fig. 12 第35~43号土壤 (SK-35~43) 実測図

第4章 A-2 產跡の記録

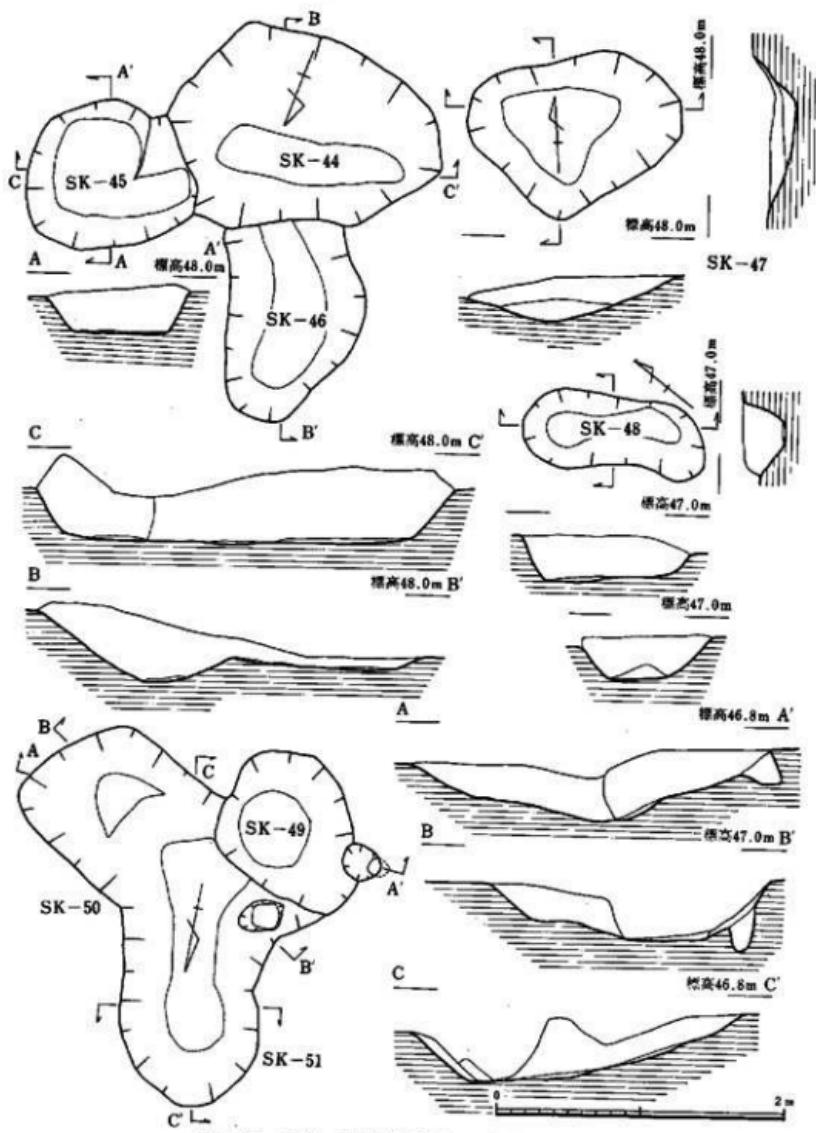


Fig. 13 第44~51号土壤 (SK-44~51) 調査図

5. 土壌状遺構

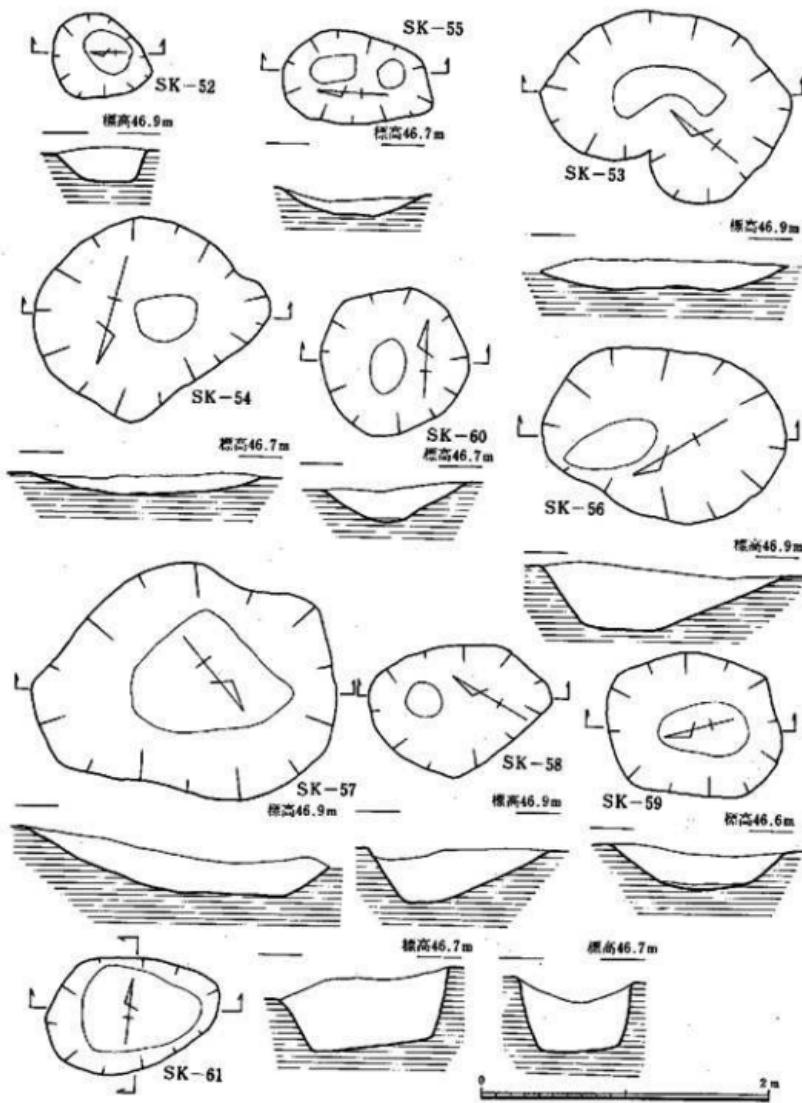


Fig. 14 第52~61号土壌 (SK-52~61) 実測図

第4章 A-2 連跡の記録

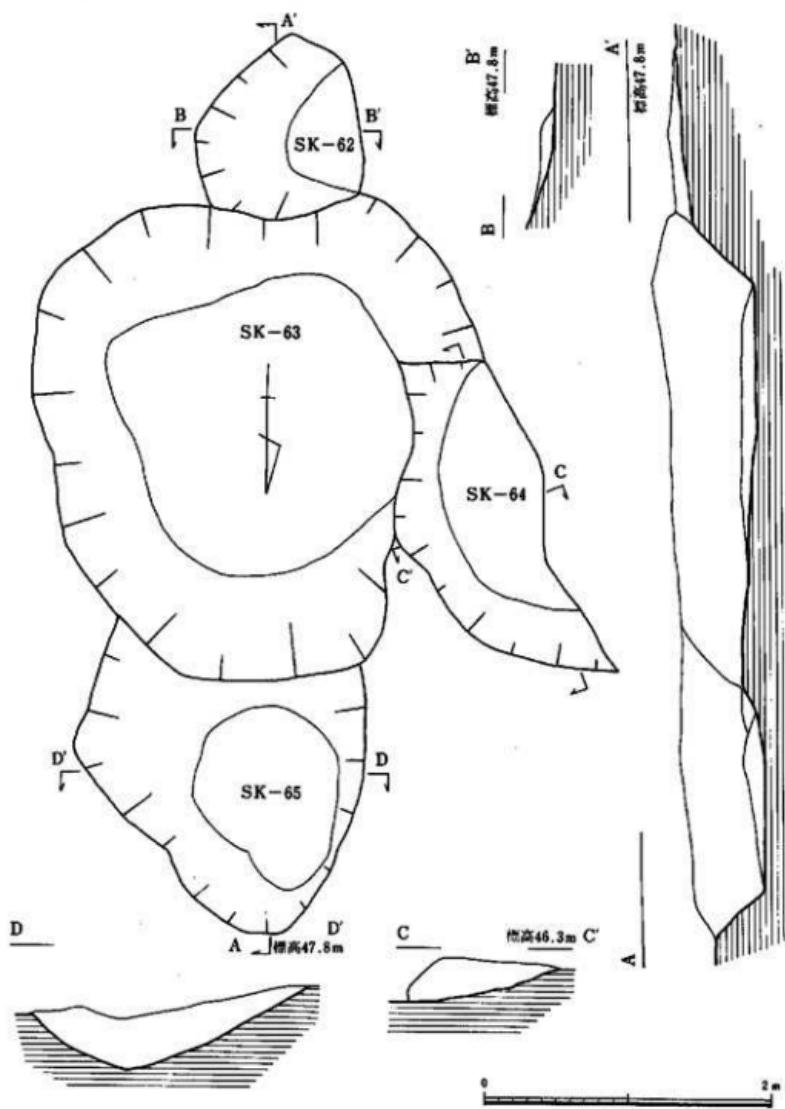


Fig. 15 第62-65号土壤 (SK-62-65) 実測図

5. 土壤状遺構

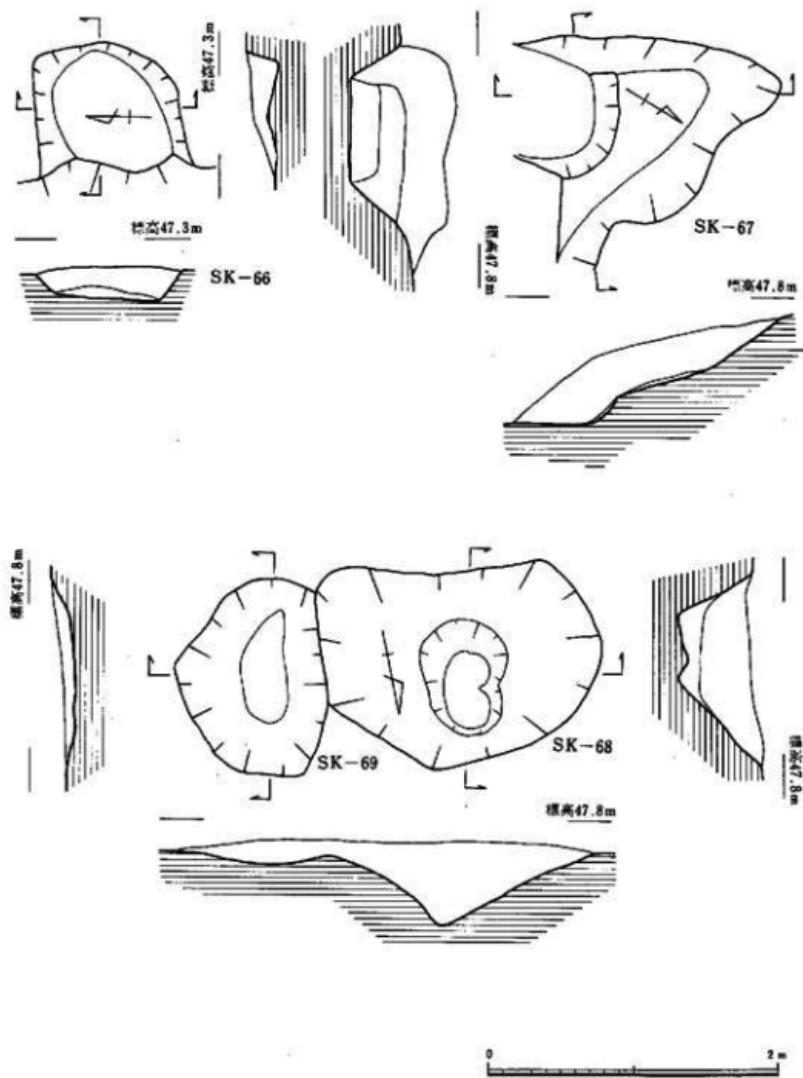


Fig. 16 第66~69号土壙 (SK-66~69) 実測図

第4章 A-2 遺跡の記録

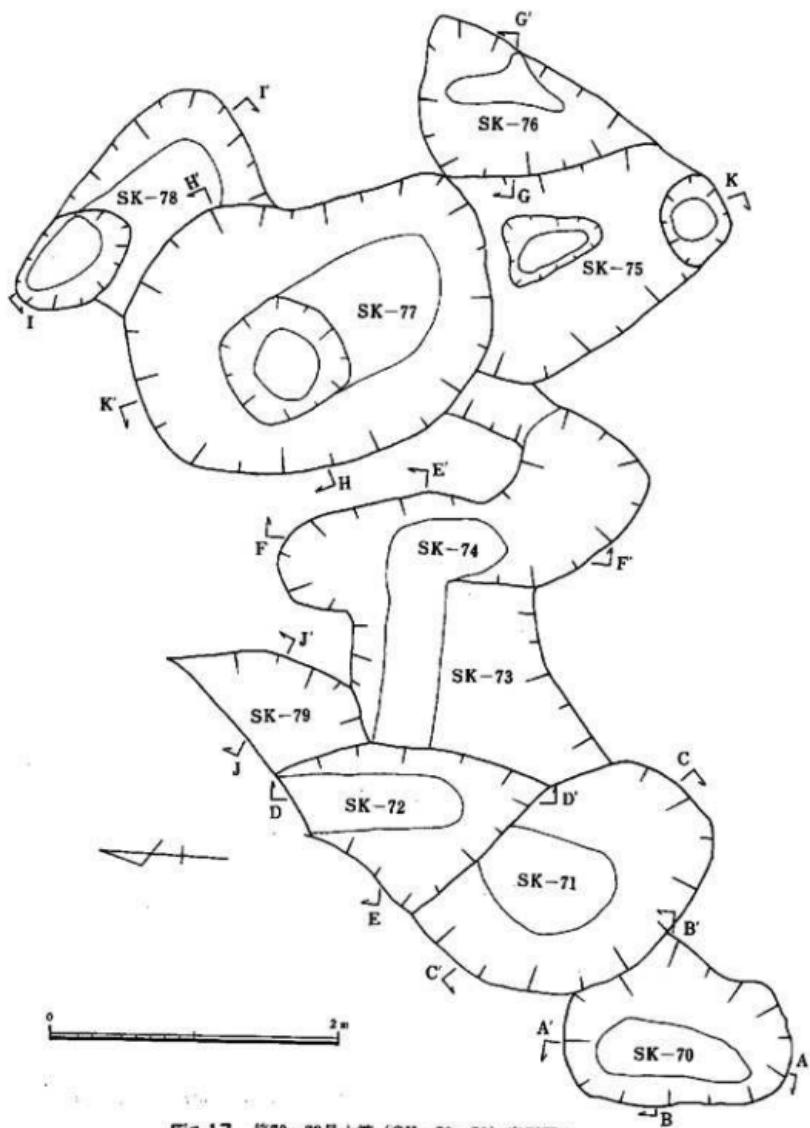


Fig. 17 第70~79号土壤 (SK-70~79) 实测图 1

5. 土壌状遺構

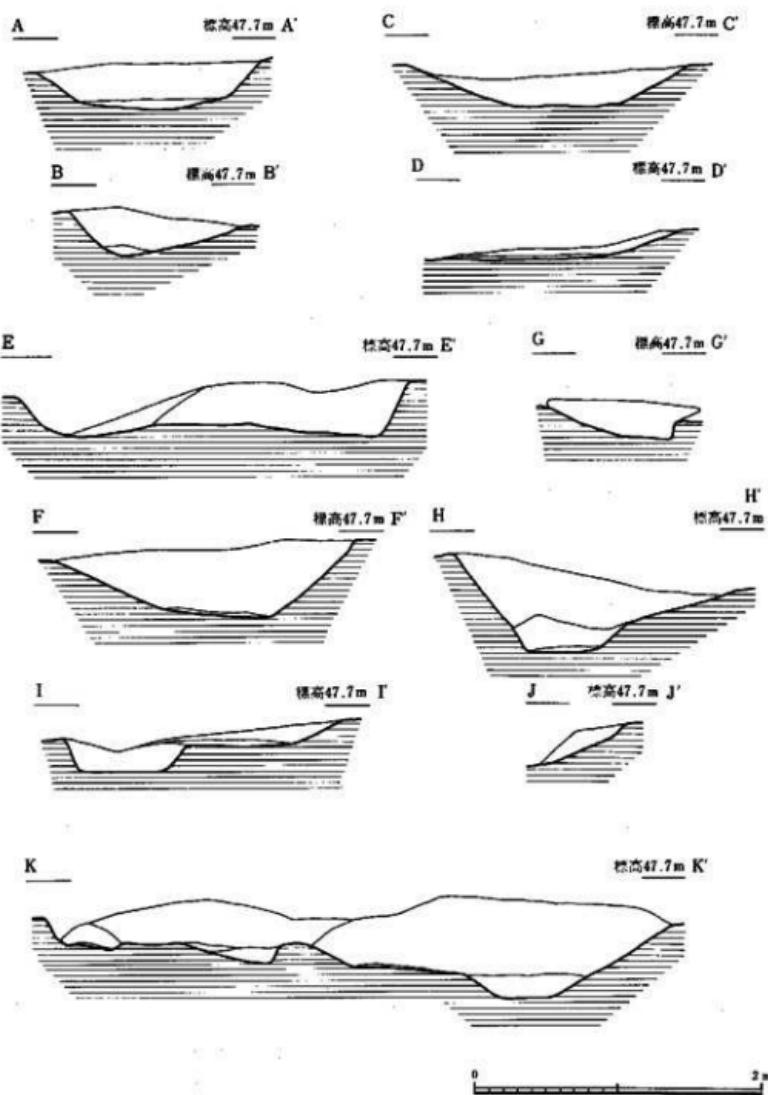


Fig. 18 第70~79号土壤 (SK-70~79) 実測図II

第4章 A-2 連跡の記録

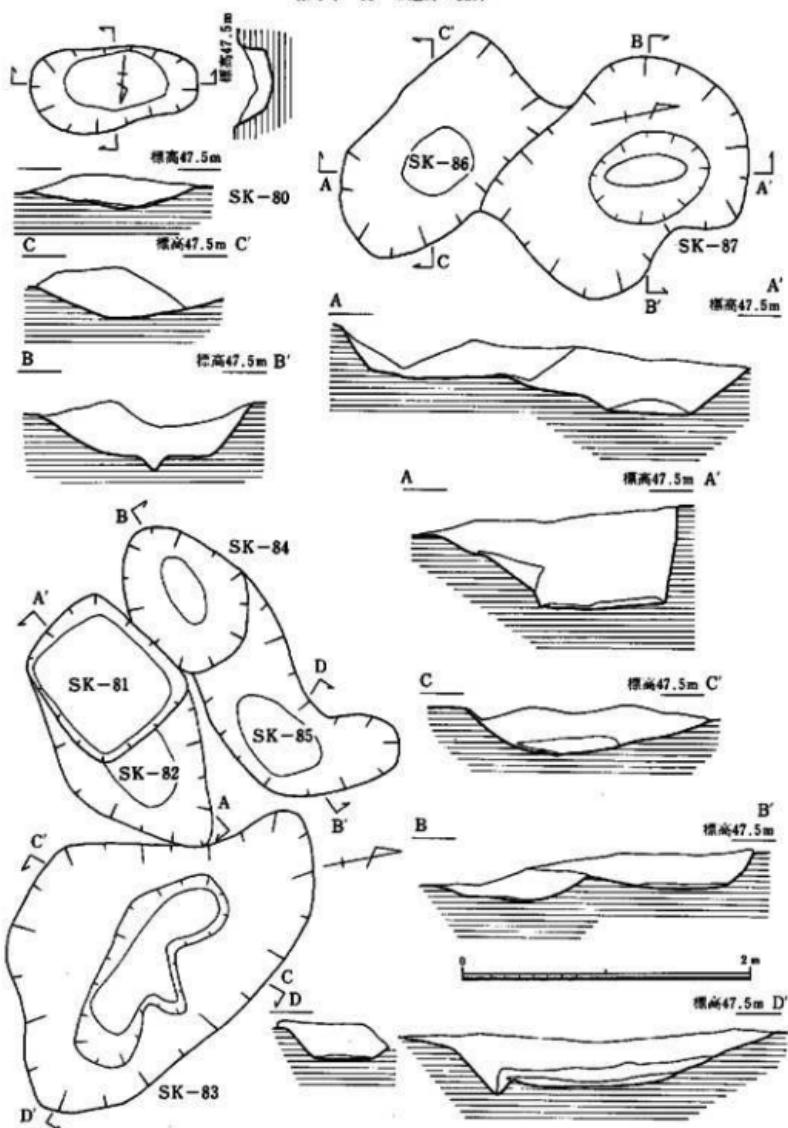


Fig. 19 第80~87号土壤 (SK-80~87) 実測図

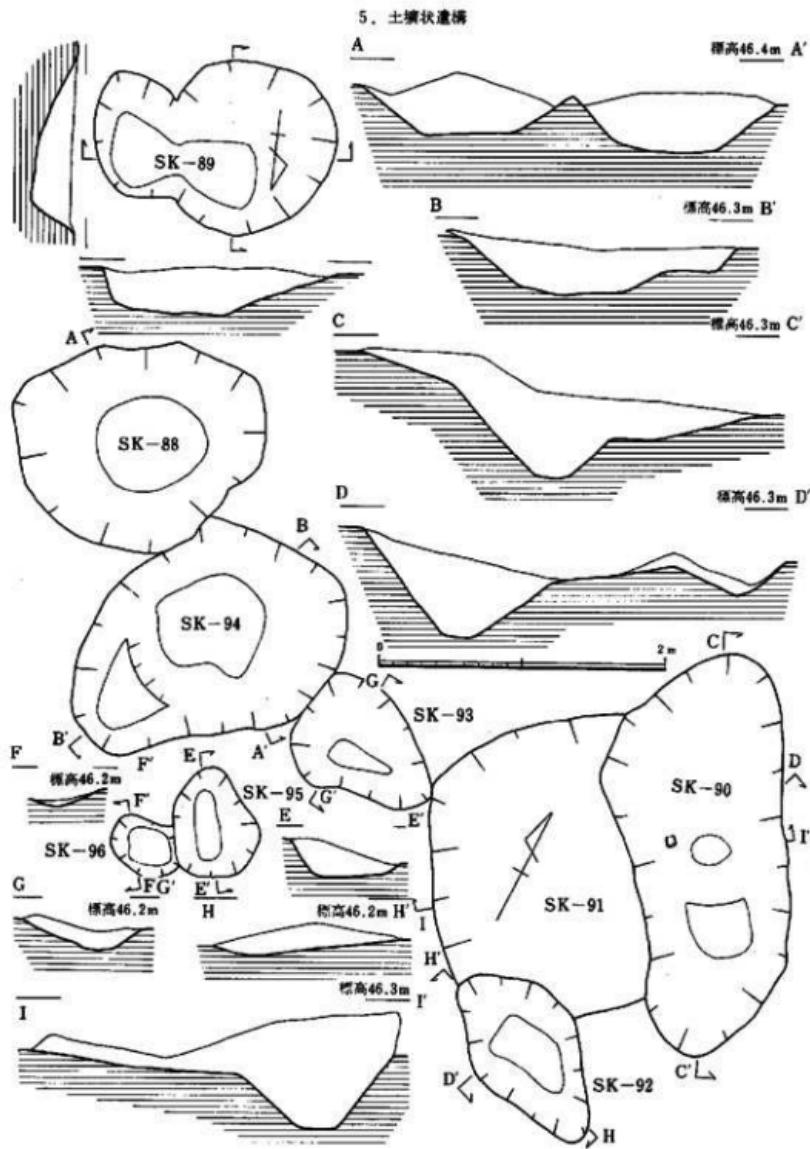


Fig. 20 第88~96号土壤 (SK-88-96) 実測図

第4章 A-2 遺跡の記録

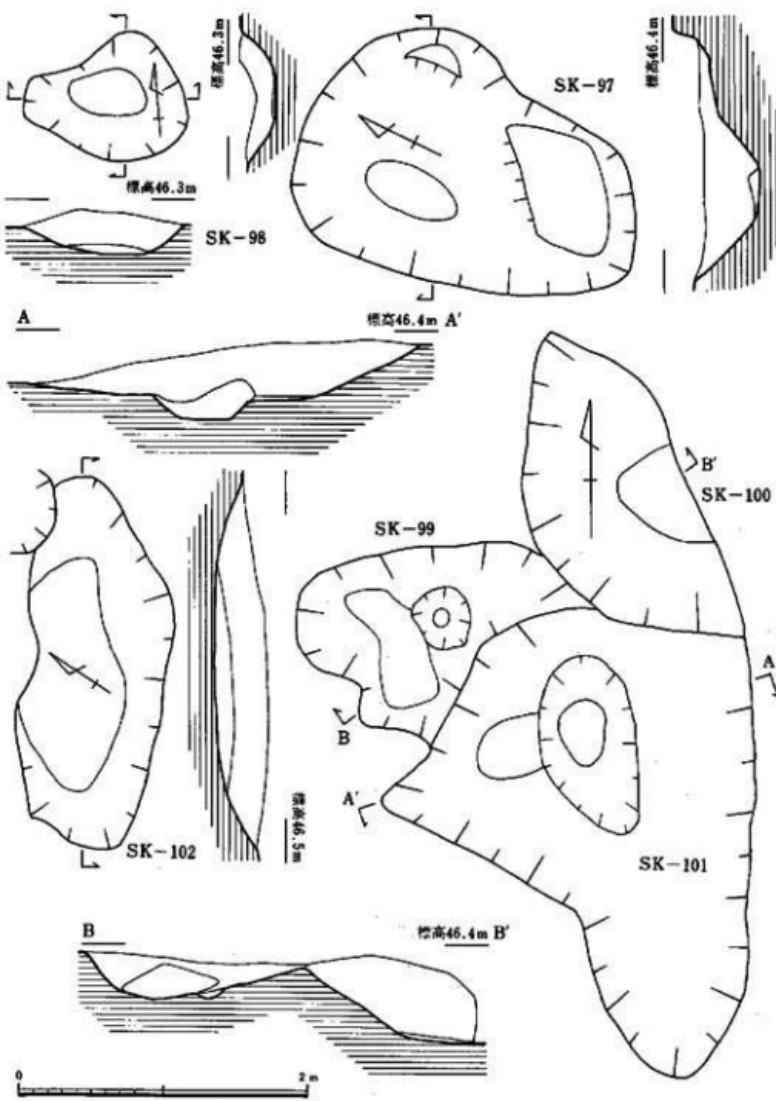


Fig. 21 第97~102号土壤 (SK-97~102) 实测图

5. 土壠状遺構

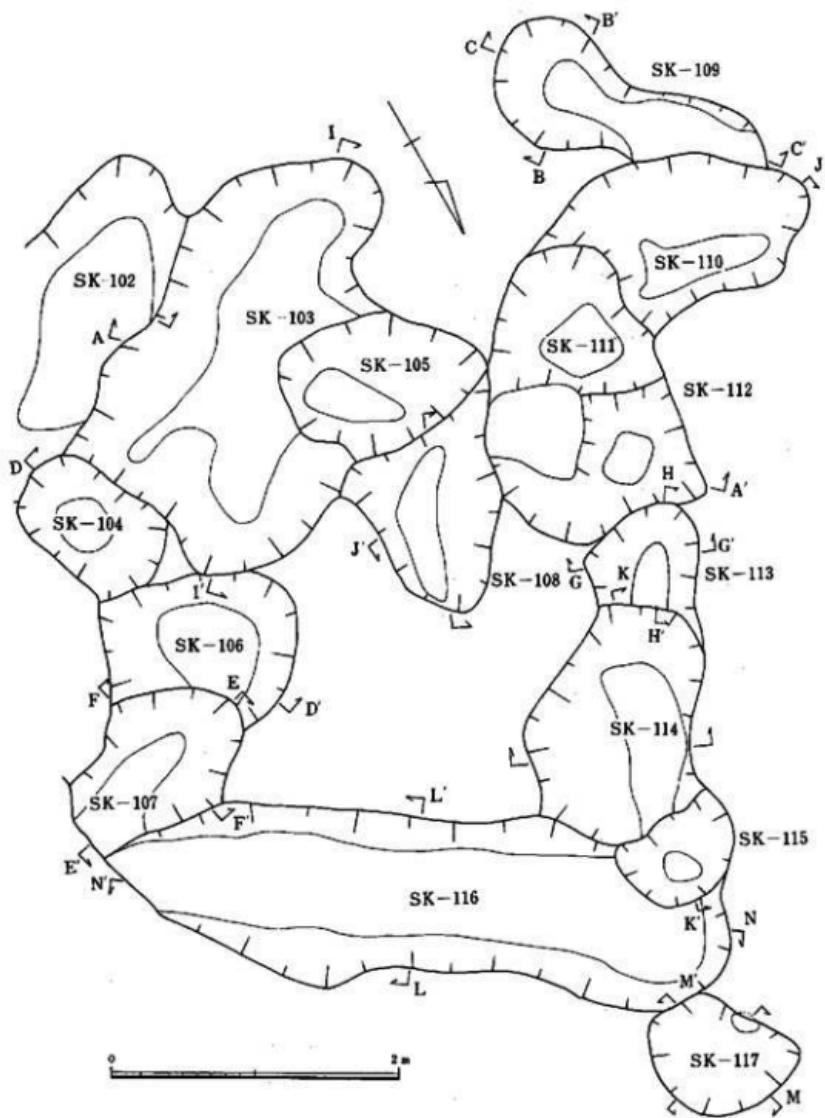


Fig. 22 第103~117号土壤 (SK-103~117) 実測図 I

第4章 A-2 遺跡の記録

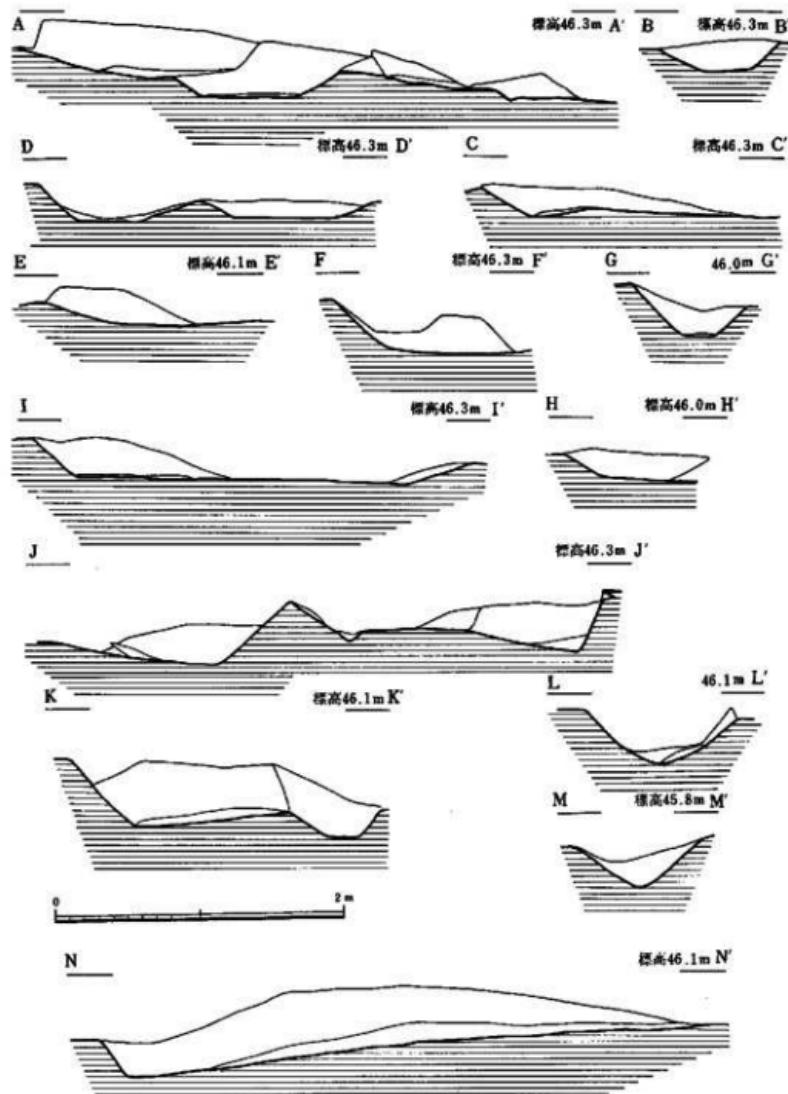


Fig. 23 第103~117号土壤 (SK-103~117) 実測図II

5. 土壤状遺様

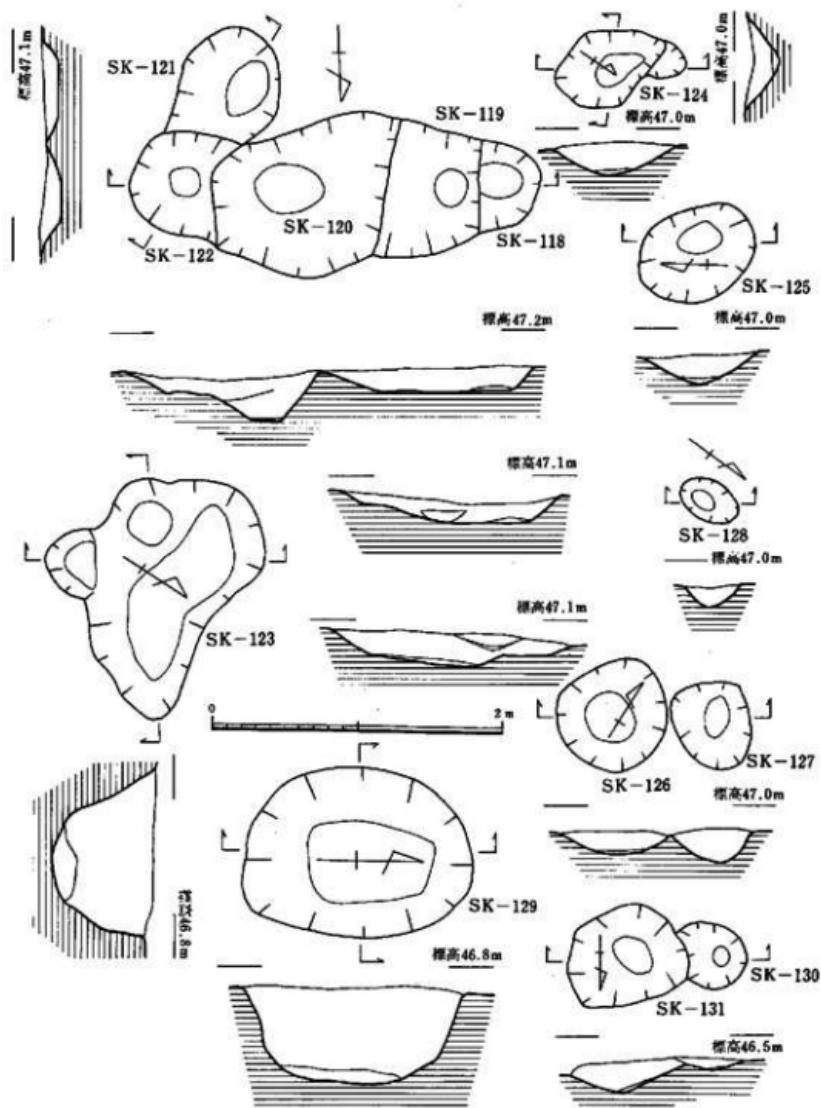


Fig. 24 第118~131号土壤 (SK-118~131) 実測図

第4章 A-2 遺跡の記録

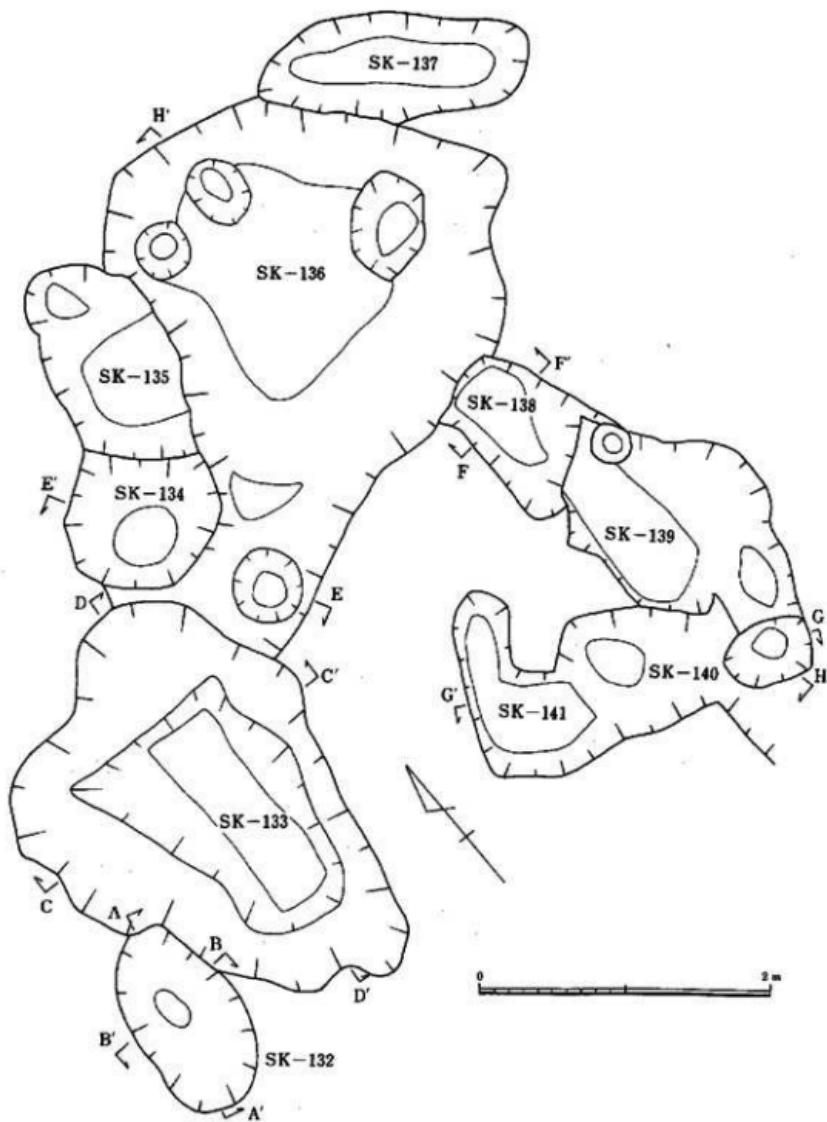


Fig. 25 第132~141号土壤 (SK-132~141) 実測図 I

5. 土壤状遺構

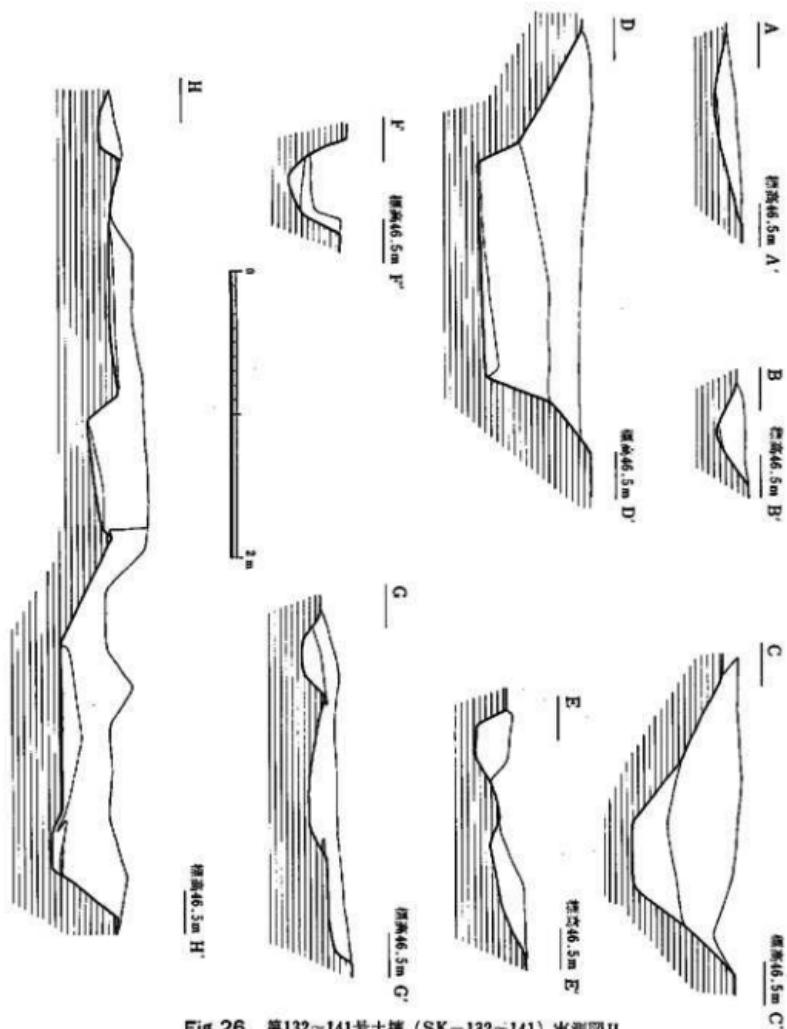


Fig. 26 第132~141号土壤 (SK-132~141) 火測図II

第4章 A-2 產跡の記録

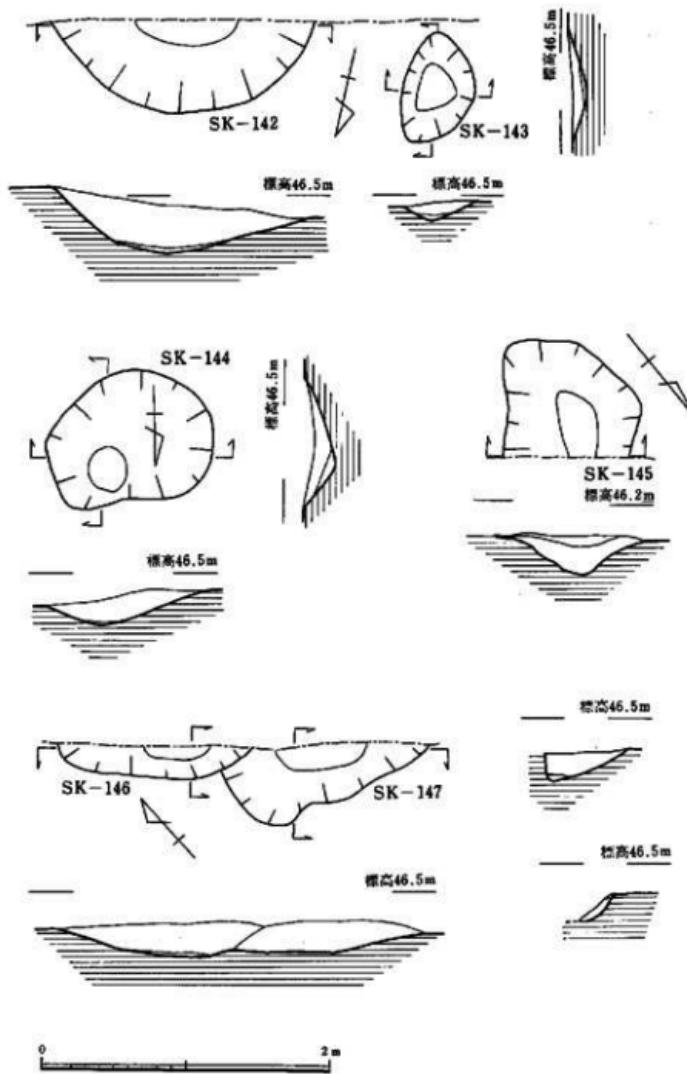


Fig. 27 第142~147号土壤 (SK-142~147) 實測図

5. 土壌状造構

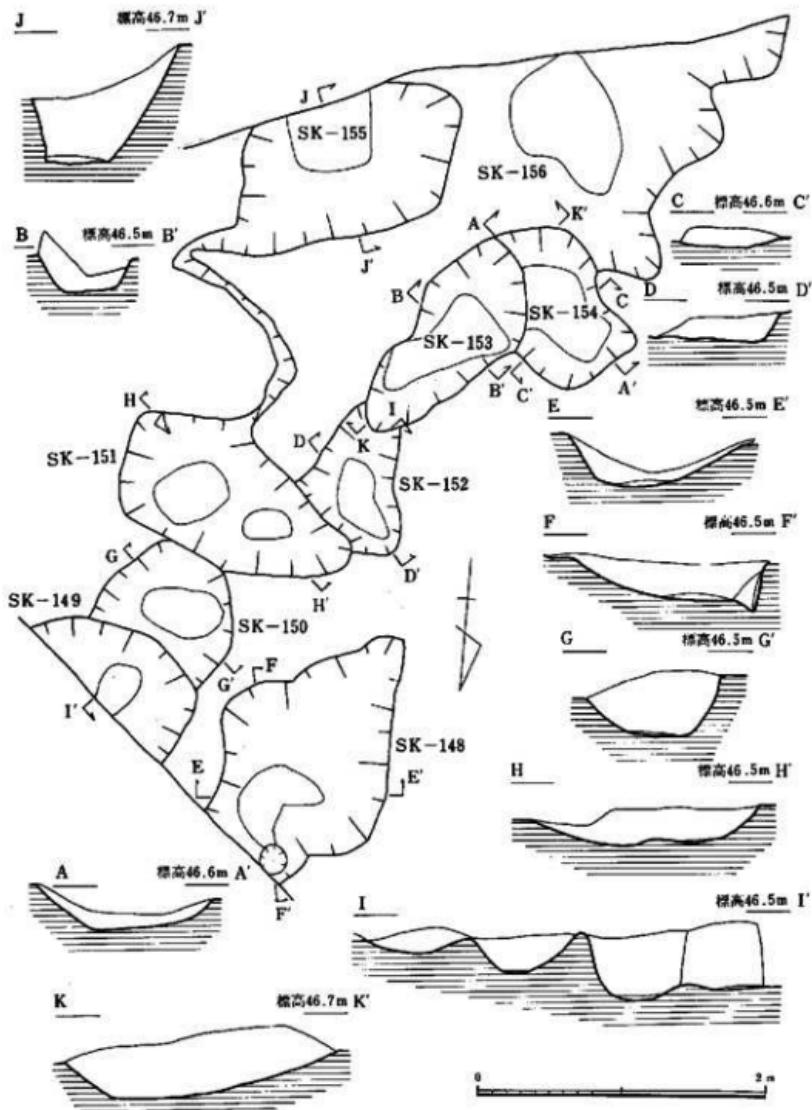


Fig. 28 第148~156号土壤 (SK-148~156) 火測図

第4章 A-2 造跡の記録

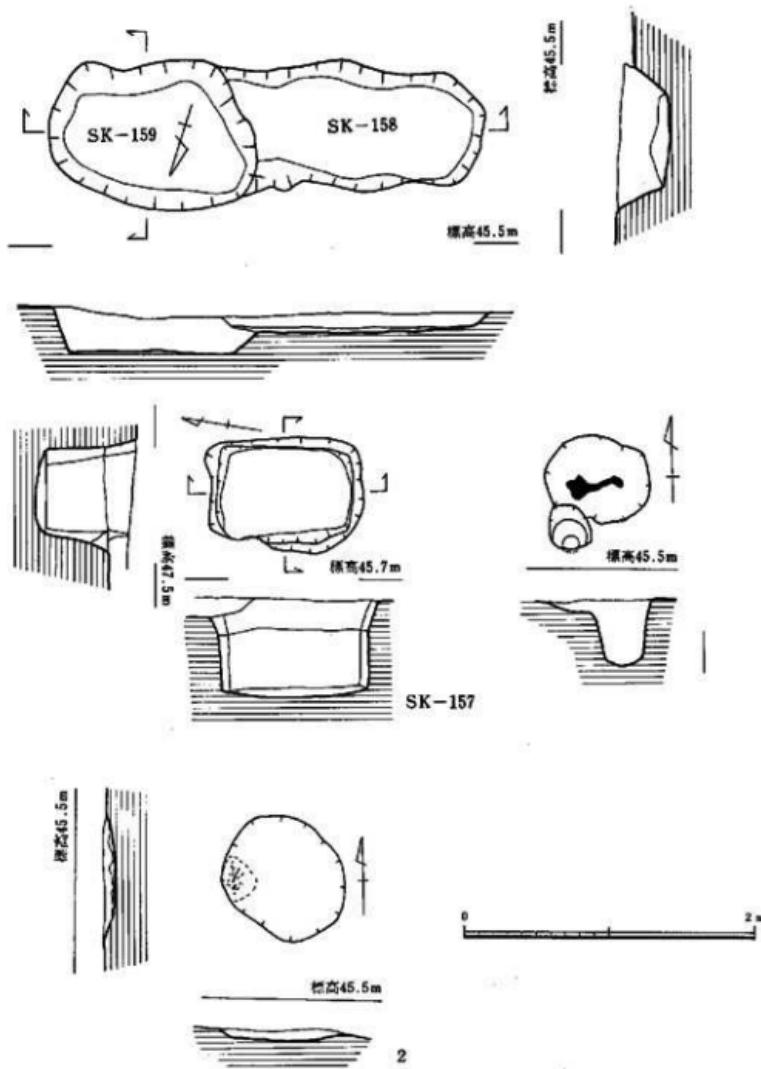


Fig. 29 第156~158号土壤 (SK-156~158) 第1・2号炉址実測図

5. 土壌状遺構

遺構No.	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
1	B-3	隅丸長方形	皿状	80	59	10	墓壙(?)	
2	B-4	隅丸長方形	箱形	132	88	56	墓壙	
3	B-3	横円形	皿状	110	65	55		
4	B-3	不整横円形	箱形	105	70	44	墓壙(?)	
5	B-3	不整横円形	皿状	190	87	50		
6	B-4-C-4	横円形	皿状	295	110	56	SK-07と重複	
7	C-4	横円形	皿状	290	157	50	SK-06と重複	
8	A-4-B-4.5	横円形	皿状	173	85	20	SK-10と重複	
9	B-4.5	不整横円形	皿状	146	93	21	SK-10と重複	
10	A-4.5-B-4.5	長方形(?)	皿状	285+α	250	17	住居址(?)	SK-8、9、11と重複
11	A-5.6-B-5.6	長方形(?)	皿状	635	206+α	20	住居址(?)	SK-10、15と重複
12	B-5	横円形	皿状	240	120	19		
13	B-5-C-5	横円形	皿状	233	92	22	SK-14と重複	
14	C-5	横円形	皿状	255	170	50	SK-13と重複	
15	B-6	不整横円形	皿状	215	147	30	SK-11、16と重複	
16	B-6	不整横円形	皿状	203	132	18	SK-15と重複	
17	B-6-C-5.6	横円形	皿状	150	120	13	SK-18、21、22と重複	
18	B-6-C-6	横円形	皿状	105+α	70	22	墓壙(?)	SK-17、19、22、23と重複
19	B-6-C-6	長方形	皿状	130	83	30	墓壙(?)	SK-18、23と重複
20	C-5	円形	皿状	115	100	24	SK-21と重複	
21	C-6	横円形	皿状	115	100	19	SK-17、20、22、25と重複	
22	C-6	横円形	皿状	120	115	20	SK-18、21、23と重複	
23	B-6-C-6	横円形	皿状	120	110	28	SK-19、22、24と重複	
24	B-6-C-6	横円形	皿状	130	125	10	SK-23と重複	
25	C-6	不整横円形	皿状	160	93	10	SK-21と重複	
26	C-6	円形(?)	皿状	65+α	85	10	SK-27と重複	
27	C-6	円形(?)	皿状	150	140+α	25	SK-26、28と重複	
28	C-6-D-6	円形	皿状	252	217	45	SK-27、29、30と重複	
29	D-6	横円形(?)	皿状	60+α	115	20	SK-28、30と重複	
30	D-6	円形	皿状	112	85	33	SK-29、30と重複	
31	D-6	隅丸方形	箱形	77	65	30	墓壙(?)	
32	D-6	横円形	皿状	195	85	26	SK-33と重複	

第4章 A-2 遺跡の記録

遺跡No	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
33	D-6	楕円形	皿状	130	67	14		SK-32,34と重複
34	D-6	楕円形	皿状	72	57	12		SK-33と重複
35	D-5	円形	皿状	150	140	57		
36	D-5	不整楕円形	皿状	135+α	130	37		
37	D-5.6-E-5.6	楕円形	皿状	95	58	15		SK-38と重複
38	E-5,6	円形	皿状	97	92	33		SK-37,39と重複
39	E-5,6	円形	皿状	135	133	25		SK-38と重複
40	E-5,6	楕円形	皿状	138	98	22		
41	C-7	楕円形	皿状	90	80	25		
42	D-7	楕円形	皿状	127	105	35		
43	B-8-C-8	不整楕円形	皿状	187	120	20		
44	D-7	不整楕円形	皿状	192	140	53		SK-45,46と重複
45	D-7,8	楕円形	楕形	117	102	33	墓壙	SK-44と重複
46	D-7	楕円形	皿状	138+α	93	10		SK-44と重複
47	D-7,E-7	不整楕円形	皿状	148	102	30		
48	E-6	長楕円形	楕形	126	50	30	墓壙	
49	E-6,7	楕円形	皿状	120	93	45		SK-50,51と重複
50	E-7	隅丸長方形	皿状	110+α	102	40		SK-49,51と重複
51	E-7-F-7	楕円形	皿状	219	106	50		SK-49,50と重複
52	F-7	不整楕円形	皿状	70	60	23		
53	F-6	不整楕円形	皿状	125	125	20		
54	F-5,6	不整楕円形	皿状	160	140	13		
55	F-5	楕円形	皿状	100	63	15		
56	F-6,7	楕円形	皿状	170	115	42		
57	F-6,G-5	不整楕円形	皿状	210	157	45		
58	G-5,6	楕円形	皿状	125	90	38		
59	G-5	楕円形	皿状	120	100	30		
60	H-6	円形	皿状	103	100	25		
61	H-5	楕円形	楕形	115	80	50	墓壙	
62	F-5	楕円形	皿状	113+α	125	18		SK-63と重複
63	F-5-G-5	隅丸方形	皿状	330	305	70	住居址(?)	SK-62,64,65と重複
64	F-4,5-G-4,5	円形(?)	皿状	260+α	105+α	30		SK-63と重複

5. 土壌状構造

選択No	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種類	備考
65	G-5	不整橢円形	皿状	215+α	200	58		SK-63と重複
66	G-4, H-4	隅丸長方形	楕形	100+α	100	22	墓壙(?)	
67	C-3	不整橢円形	皿状	185+α	148	72		
68	C-2	橢円形	皿状	193	135	57		SK-69と重複
69	C-2	橢円形	皿状	138	102	17	墓壙(?)	SK-68と重複
70	C-2, D-2	橢円形	皿状	157	122	32		SK-71と重複
71	D-2, 3	不整橢円形	皿状	198	130	24		SK-70, 72, 73と重複
72	D-2, 3	長橢円形(?)	皿状	135+α	115	20		SK-71, 73, 79と重複
73	D-3	不整橢円形	皿状	115+α	133	28		SK-71, 72, 74, 79と重複
74	D-3	長橢円形	皿状	260	140	27		SK-73と重複
75	D-3, 4	不整形	皿状	200+α	145	66		SK-76, 77と重複
76	D-3	橢円形	皿状	160+α	110+α	25		SK-75, 77と重複
77	D-3, 4-E-3, 4	橢円形	皿状	260	190	65		SK-75, 76, 78と重複
78	D-4-E-3, 4	不整形	皿状	190	110+α	23		SK-77と重複
79	D-3	長橢円形	皿状	78+α	150+α	20		SK-72, 73と重複
80	E-3	橢円形	皿状	115	58	23	墓壙(?)	
81	E-3	長方形	楕形	100	85	70	墓壙	SK-82, 84と重複
82	E-3, 4	橢円形	皿状	165+α	104	50		SK-81, 83と重複
83	E-4	不整橢円形	皿状	266	162	40		SK-82と重複
84	E-3	橢円形	皿状	106	83	23		SK-81, 85と重複
85	E-3, 4	不整橢円形	皿状	165-α	66	24		SK-84と重複
86	E-3	橢円形	皿状	160	90	37		SK-87と重複
87	E-3-F-3	不整橢円形	皿状	174	112	26		SK-86と重複
88	E-2, 3	橢円形	皿状	175	150	40		SK-94と重複
89	E-1	不整橢円形	皿状	168	120	32		
90	E-1-F-1	長橢円形	皿状	226	125	85		SK-91と重複
91	F-1	隅丸方形(?)	皿状	202	190+α	25		SK-90, 92と重複
92	F-1	不整橢円形	皿状	85	77	17		SK-91と重複
93	F-1	不整橢円形	皿状	108	83	24		SK-91, 94と重複
94	F-1	橢円形	皿状	204	152	43		SK-93, 98と重複
95	F-1, 2	橢円形	皿状	75	60	26		SK-96と重複
96	F-2	橢円形	皿状	43+α	40	12		SK-95と重複

第4章 A-2 遺跡の記録

遺跡No	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
97	F-3	不整橢円形	皿状	195	170	38		
98	F-3	不整橢円形	皿状	113	90	30		
99	F-3,4	不整形	皿状	170	135	35		SK-100,101と重複
100	F-4	円形(?)	皿状	250	110+α	60		SK-99,101と重複
101	E-4·F-4	不整形	皿状	333	255	54		SK-99,100と重複
102	F-3,4	長橢円形	皿状	257	100+α	36		SK-103,104と重複
103	F-3·G-3	不整橢円形	皿状	256	95+α	35		SK-102,104,105,106と重複
104	F-3,4·G-3,4	橢円形	皿状	110	70	26		SK-102,103,106と重複
105	G-3	橢円形	皿状	144	95	38		SK-103,108と重複
106	G-3,4	円形(?)	皿状	135	120+α	14		SK-104,103,107と重複
107	G-3,4	不整橢円形	皿状	140+α	100	26		SK-106,116と重複
108	G-3	不整橢円形	皿状	123+α	105	35		SK-103,105と重複
109	F-2·G-2	不整橢円形	皿状	200+α	80	22		SK-110と重複
110	G-2	不整橢円形	皿状	200+α	110	45		SK-109,111と重複
111	G-2,3	不整形	皿状	115	163	25		SK-110,112と重複
112	G-2,3	不整形	皿状	135	100	22		SK-111,108,113と重複
113	G-3	橢円形	皿状	70+α	80	35		SK-112,114と重複
114	G-3	橢円形	皿状	165+α	115	45		SK-113,115,116と重複
115	H-3	円形(?)	皿状	85	60+α	50		SK-114,116と重複
116	G-3,4·H-3	長橢円形	皿状	438+α	105	35		SK-114,115,107と重複
117	H-3	橢円形	皿状	105	77	35		SK-116と重複
118	C-8	橢円形	皿状	45+α	65	10		SK-119と重複
119	C-8,9	橢円形(?)	皿状	63+α	80	28		SK-118,120と重複
120	C-9·D-9	橢円形	皿状	120	105	16		SK-119,122と重複
121	C-9	橢円形	皿状	75+α	70	10		SK-122と重複
122	C-9	橢円形	皿状	65+α	70	16		SK-120,121と重複
123	D-8	不整橢円形	皿状	170	120	21		
124	D-9	不整橢円形	皿状	90	54	22		
125	D-10	橢円形	皿状	84	64	20		
126	D-10	円形	皿状	80	75	16		
127	D-10	円形	皿状	60	50	23		
128	D-10	橢円形	皿状	42	28	13		

5. 土壌状遺構

遺構No	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
129	E-10, 11	楕円形	箱形	153	116	66	墓壙	
130	D-10	円形	皿状	50- α	45	8		SK-131と重複
131	D-10	楕円形	皿状	85	66	20		SK-130と重複
132	C-10	楕円形	皿状	135	75	14		SK-133と重複
133	C-10, II-D-10, 11	不整形	箱形	315	212	73	墓壙	SK-132, 136と重複
134	D-11	円形	皿状	105	90	33		SK-135, 136と重複
135	D-11	楕円形(?)	皿状	155	85+ α	15		SK-134, 136と重複
136	D-11, 12	楕円形	皿状	370+ α	220	60	住居址(?)	SK-132, 134, 135, 137, 138と重複
137	D-11, 12	長楕円形	舟底状	185	80	37	墓壙	SK-136と重複
138	D-11	不整形方形	皿状	115	90	40		SK-136, 139と重複
139	C-11, 12-D-11	不整形	皿状	195- α	120	16		SK-138, 140と重複
140	C-11	楕円形	皿状	190	90	20		SK-139, 141と重複
141	C-11-D-11	不整形	皿状	90	70	25		SK-140と重複
142	C-10, 11	円形(?)	皿状	182	64+ α	45		SK-143と重複
143	C-10	楕円形	皿状	78	48	14		SK-142と重複
144	C-10, 11	楕円形	皿状	115	87	22		
145	E-11	小整形長方形	皿状	80+ α	90	25		
146	E-12	楕円形	皿状	135	22+ α	23		SK-147と重複
147	E-12	不整形楕円形	皿状	140- α	50+ α	20		SK-146と重複
148	D-12, E-12	不整形	皿状	180- α	130	36		
149	D-12, 13	楕円形(?)	皿状	130	60+ α	45		SK-150と重複
150	D-12, 13	楕円形	皿状	95	76+ α	45		SK-149, 151と重複
151	D-12, 13	楕円形	皿状	172	90	25		SK-150, 152と重複
152	D-12	不整形楕円形	皿状	100- α	75	24		SK-151, 153と重複
153	C-12-D-12	不整形円形	皿状	152	70	48		SK-152, 154と重複
154	C-12-D-12	不整形楕円形	皿状	118	80	14		SK-153-156と重複
155	C-12	不整形	皿状	145	100	40		SK-156と重複
156	C-12	不整形	皿状	95	70	5		SK-151-155と重複
157	J-17-K-17	長方形	箱形	105	80	68	墓壙	
158	N-20, 21	長方形	皿状	180- α	90	13	墓壙	磨製石器1点晩期
159	N-21	不整形方形	箱形	145	102	30	墓壙	晩期
160								

6. 炉址状遺構

北調査区から2基の炉址状の遺構が検出されている。いずれも地床炉と考えられ、石材などの使用はない。遺物包含層よりの検出であるが、所属年代は縄文時代のいずれかである以外、詳細は不明である。

(1) 第1号炉址 (Fig.31-1)

北調査区M-16グリットに検出した。72cm×60cmの橢円形の地床炉かと考えられるものである。約8cmの深さで浅い皿状の凹みとなり、一部柱穴状の穴と重なり合っている。柱穴状の穴は径35cm、深さ45cmを測る。凹みの面は焼けて変色した状況はみられない。埋土は木炭焼土塊を混入した黒灰色の灰層で埋っている。柱穴状の穴の埋土も同様である。焼土塊は粘質土が焼けたもので赤変し、その下部は黄褐色土であるが、焼けて固くなっている。地床炉の破壊過程のものかと考えられるが、焼土塊が掘り込みより浮いている点からして、他の場所にあった地床炉を破壊し、本地点に廃棄した可能性もある。

(2) 第2号炉址 (Fig.31-2)

北調査区L-14、15、M-14、15グリットに検出した。90cm×80cmの橢円形をした地床炉と考えられる。約7cmの深さで皿状に掘り凹められている。凹みの下面は赤変した焼土で良く焼けている。埋土は焼土上面が木炭の混入した黄茶褐色土層、その上部は黒褐色の灰層で木炭が混入している。特に南側2ヶ所は木炭が集中している。この炉址は1号炉址とちがい本来の位置を示しているが、屋内炉であったか屋外炉であったかは判断できなかった。南調査区の遺構の存在からみれば屋外炉であった可能性が強い。

7. 出土遺物

(1) 遺物出土状況

出土遺物はすべて位置、エレベーションを記録し、ドット図を作成した。ドット図については時間の関係上、綿密な分析をしていないので、今後、充分な時間をとり、分析を観察進めた後、改めて稿を草したいと考えている。本遺跡から出土した遺物は土器、石器類が主体を占め、木炭を除いて、自然遺物等はみられない。遺物の出土状況は、南調査区ではほぼ全面にわたっ

7. 出土遺物

て、土器、石器が混在した状態で出土し、特に集中する部分は存在しない。調査区の南西部端と西北部端は削平されているために包含層も存在せず、遺物の出土はない。時期的には各時期の遺物が混在するが、全体的にみて、古い時期のものが下層に、新しい時期のものが上層に出土する。北調査区は全体的に包含層はやや厚く全面に広がっているが、遺構数が少なく、それに伴うように出土遺物は極端に少ない。北調査区で注目されるのは、晩期の刻目突帯文土器とそれに伴う石器の存在である。着作農耕の開始期でもあり、その立地等、興味のある問題を含んでいるが、遺物量が少ないのがおしまる。出土遺物は土器総数759点、石器、石片総数約700点の計1459点がある。以下、各遺物について説明を加える。

(2) 出土土器 (Fig.30~33)

出土土器には早期押型文土器、無文土器、草創期～前期の条痕文土器、晩期黒色磨研土器、刻目突帯文土器がある。以下、各土器について説明するが、土器のナンバーは各Fig.毎に1、2のように付し、()内に土器の取りあげ番号を付している。ナンバーが多くあるものは接合を意味する。

① 押型文土器 (Fig.30, 31-1, 2, 5, 6, 8)

押型文土器には山形文と梢円文がある。数量としては多くない。主な物は図示した。山形文の押型文土器は大きく二類に分けることができる。1類は比較的器壁が薄く、山形文を横走施文する一群である。1類土器はさらに、二種に小別できる。aは口縁部内側にも山形文のみを横走施文するもの。bはaの土器の口縁部内側に指頭押圧を加え、突きコブ状にしたものである。

I類a (Fig.30-1~10, 12~14)

1～6は同一個体と考えられる口縁部破片で、2と4は接合する。かなりの大型品と考えられる。外面には口縁部より、やや下った部分から山形の鋭いやや大きい山形文を横走施文し、口縁部にわずかな無文帯ができる。外面の押型は各所で重複がみられる。よって、原体長を割り出すのには困難をきわめるが、文様の反復は二単位である。口縁部内面にも口縁部から5cmの範囲を、同様の原体で帯状に横走施文している。そして、口唇部はさらに内側から外側に向かった傾斜面で横走施文し、口唇部内側に不明瞭な稜線をつくり出す。模様施文の接点では部分的に原体のズレが生じ、菱形文様をつくり出している。内面の文様は重複が少なく、原体の観察は容易で、原体は少なくとも9条以上の2単位である。内外面、特に内面に黒色有機質の付着が著しい。器壁は厚さ0.6cm。胎土には石英、長石の砂粒を含む。焼成は良好で黄褐色～黒褐色をなす。8も口縁部破片である。内外面共細かな山形文を横走施文している。外面は山形文を施文した後、板状のものでナド調整を加えていて一部文様が消える。原体は9条以上の二

第4章 A-2 遺跡の記録

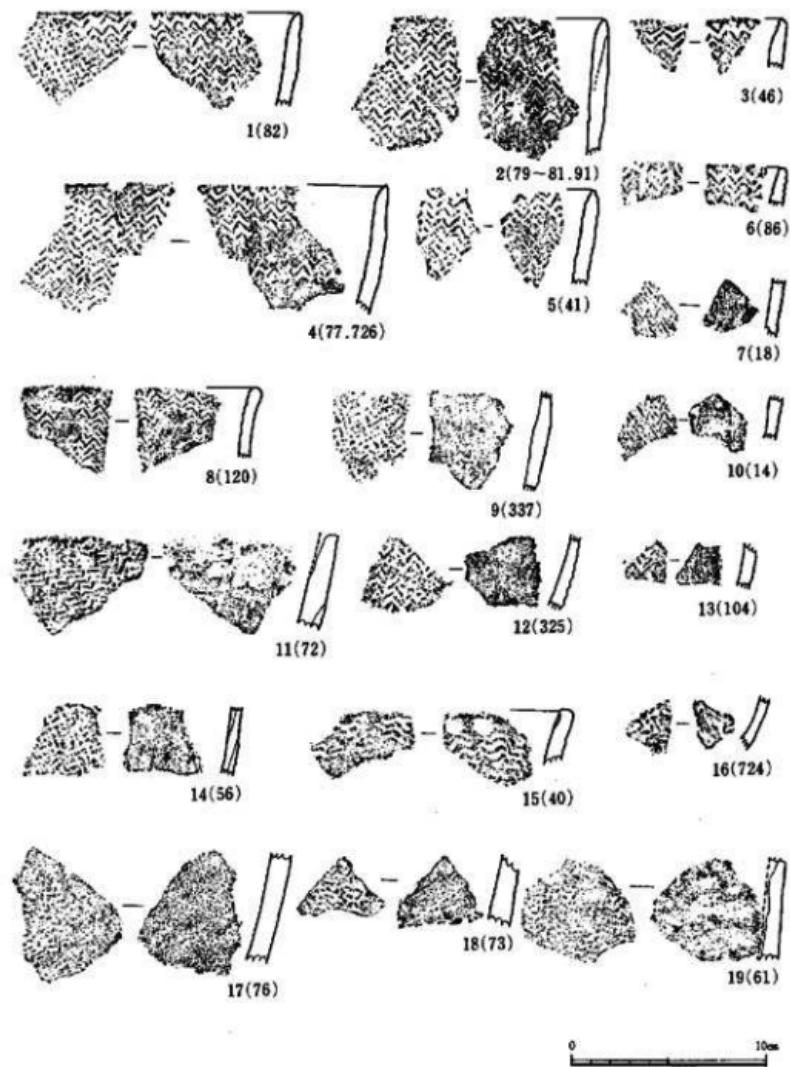


Fig. 30 A-2 遺跡出土縄文式土器実測図 I

7. 出土遺物

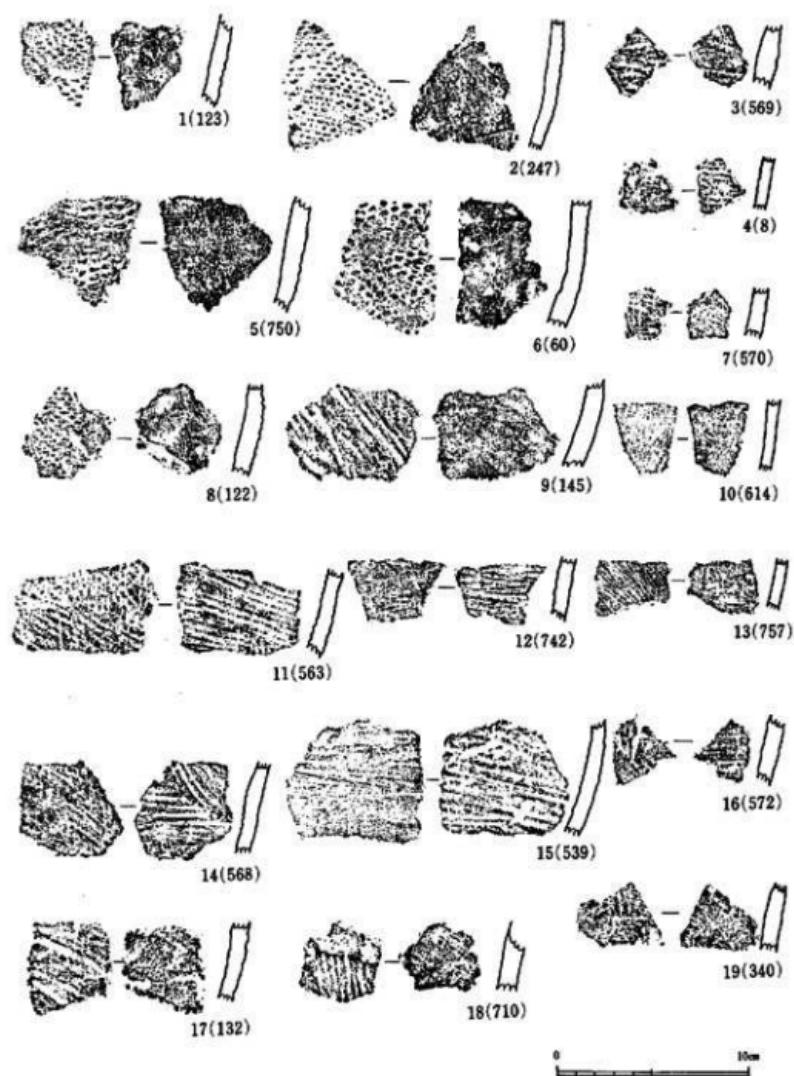


Fig. 31 A-2 遺跡出土縹文式土器実測図II

第4章 A-2 遺跡の記録

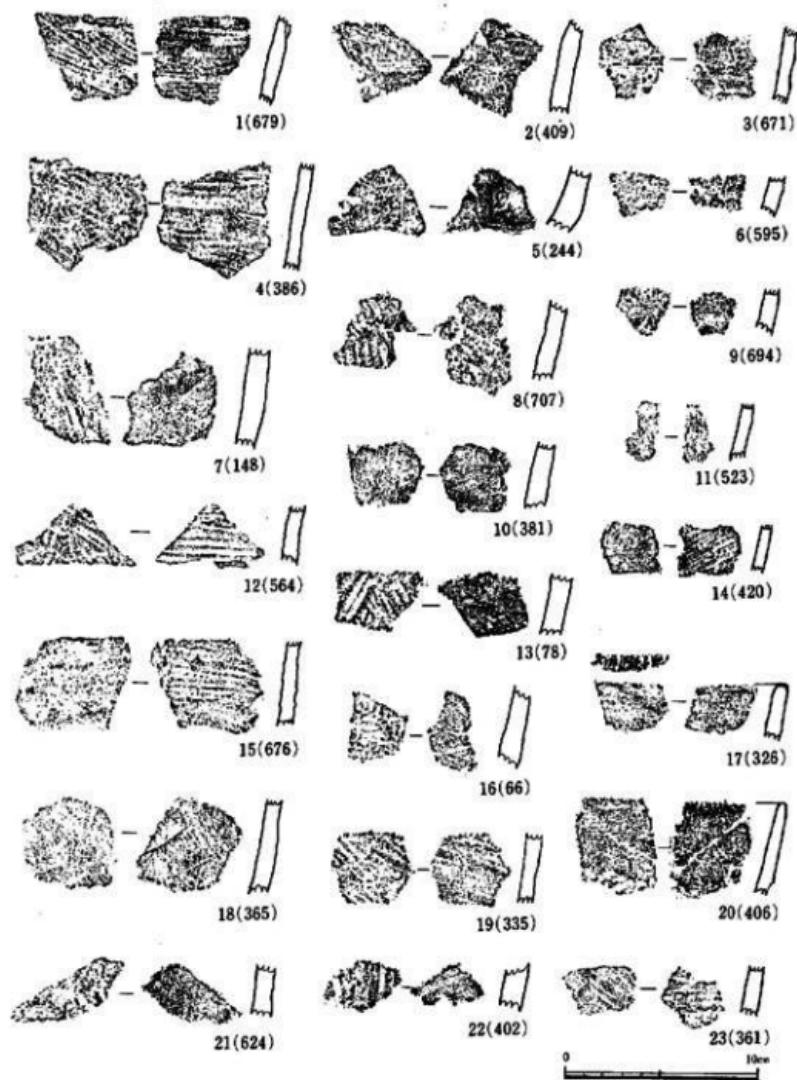


Fig. 32 A-2 遺跡出土縄文式土器実測図

7. 出土遺物

単位である。口縁端部は丸くおさめ、器壁は0.5cmと薄い。胎土は石英、長石の砂粒を多く混入する。焼成は良く、外面赤褐色、内面黄褐色をなす。外面にススが付着する。9、11、12は同一個体と考えられ、9、12は接合する。いずれも胴部破片で、外面に2単位山形文を横走施文する。重複が著しい。内外面にススが付着する。器壁は0.5cmと薄い。7、10も同一個体と考えられる。胴部破片で外面細く鋭い山形文が横走施文される。器壁は0.6cmと薄い。16は底部近くの破片で、外面に山形文が縱走に施文されている。器壁は薄く0.4cmの厚さである。7、9~12は胎土に石英、長石の砂粒を含む。焼成は良好。色調は黄褐色をなす。

I類 b (15)

15の一点がある。口縁部破片である。内外面にやや大きい山形文を横走施文する。山形文は2単位であるが、条数は不明。口縁部に指頭押圧が1.5cmの等間隔で加えられ、突きコブ文状をなす。原体条痕の先駆的なものとみられる。器壁は0.7cmの厚さでやや厚くなる。胎土には石英、長石の砂粒を多量に含む。焼成は良好で、外面が黄褐色、内面が灰褐色をなす。

II類 (11~17~19)

11、18は同一個体で接合できる。胴部破片で、外面に山形文を斜走施文する。山形文は2単位で6条以上である。内面は板状工具でケズリ状に仕上げる。粘土帶の接合は内傾で擬口縁状をなす。器壁の厚さは約1.0cmと厚い。外面にススが付着する。17は底部に近い胴部破片である。外面に山形文を斜走施文する山形文は施文が浅く明瞭でない。器壁の厚さ0.9cm、19は胴部破片、外面は山形文を横走、斜走施文する。器壁が剥離し、厚さは不明。いずれも胎土には石英、長石の砂粒を多く含む。焼成は良好で、11、17、18は黄褐色、19は黒褐色をなす。

楕円押型文は10点以上が出土している。文様の大きさ、器壁の厚さから2類に分類できる。

I類 (Fig.31 1, 2, 8)

1, 2, 8はいずれも胴部破片である。外面に細かい楕円文を横走施文する。内面は丁寧なナデによって仕上げる。1, 2は外面にススが付着する。器壁の厚さは1が0.7cm、2が0.6cm、8が0.7cmである。胎土は1, 8が石英、長石の砂粒を含み、2が石英、長石、黒雲母、金雲母の砂粒を含む。焼成は良好で、色調は1, 8が赤褐色、2が黄褐色をなす。

II類 (Fig.31-5, 6)

5, 6共に胴部破片である。外面にやや大きな楕円文を横走施文する。原体は重複が著しく明らかにできない。内面は凹凸があるが、ナデによって調整している。器壁は0.8cmで厚い。胎土には石英、長石、雲母の砂粒を含む。焼成は良好で、色調は5が赤褐色、6が黄褐色をなす。

無文土器 (Fig.32-2, 3, 5, 6, 18, 20, Fig.33-8, 10, 13, 15, 16, 18, 20)

押型文土器に伴う無文土器と考えられる。破片数が多い。Fig.32-20, Fig.33-16は口縁部破片、他は胴部破片である。Fig.32-2, 3は外面にナデ状の条線がはいる。2の外面にススが付着する。器壁の厚さは2が0.9cm、3が0.6cm、5は底部に近い胴部破片である。内外面にはへ

第4章 A-2 遺跡の記録

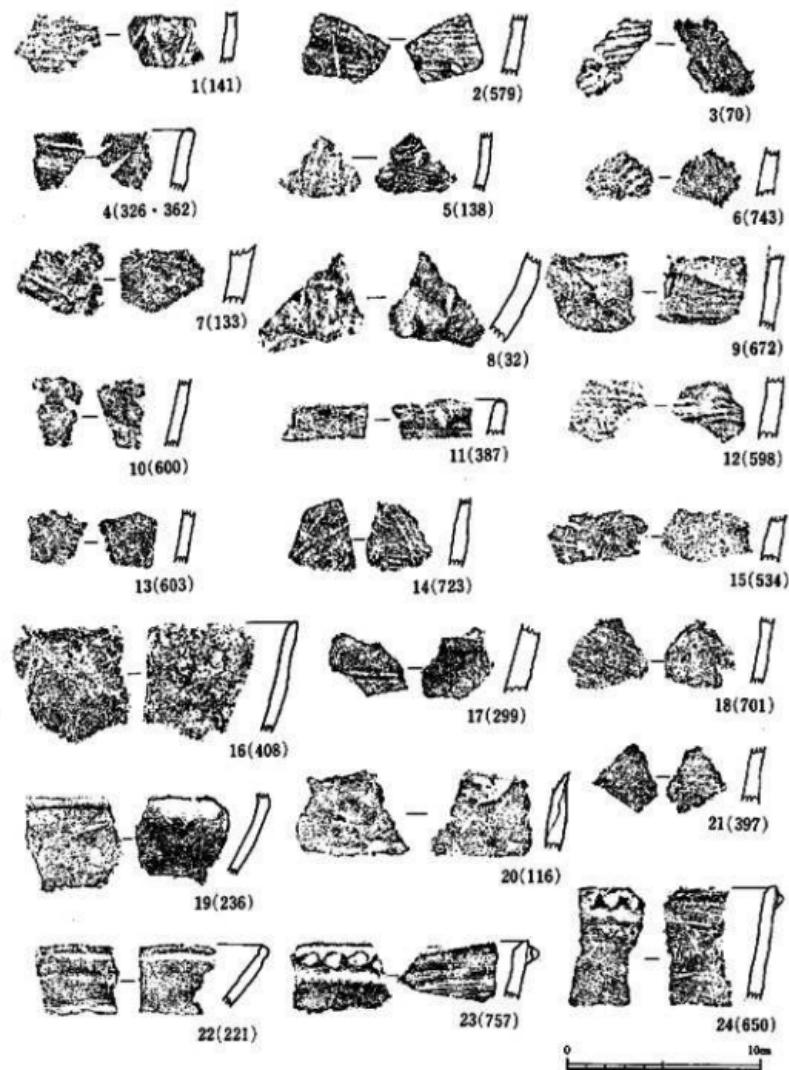


Fig. 33 A-2 遺跡出土縄文式土器実測図IV

7. 出土遺物

ラによる調整がみられるが、内側がより丁寧である。外面にススが付着する。器壁の厚さは0.7~1.1cmである。6の内外面の調整は不明。器壁の厚さは0.8cmである。20は口縁端部を丸くおさめる。小型の上器である。器壁の厚さは0.5cmである。Fig.33-8は底部に近い胴部破片、内外面共、凹凸が著しい。器壁の厚さは0.7cmである。10は内面にススの付着が著しい。器壁の厚さは0.5cm。13、15は内外面の調整は不明、器壁の厚さは13が0.5cm、15が0.7cmである。18は口唇部を丸くおさめ、口縁部がやや外反する。器壁の厚さは0.5cmである。20は内外面共にヘラによるナデ調整である。粘土帶の接合は内傾である。器壁の厚さは0.7cmである。いずれも胎土には石英、長石の砂粒を多量に含む。さらに、Fig.32-2、3、20、Fig.33-13には金雲母の砂粒を含む。焼成は良好で色調は黄褐色~赤褐色である。

条痕文土器 (Fig.31-3, 4, 7, 9~19, Fig.32-1, 4, 7~17, 19~23, Fig.33-1~7, 9, 11, 12, 14, 15, 17, 18, 21)

本遺跡の中で最も量的に多い。内・外面に条痕をもつ上器である。柏原F遺跡あるいはE遺跡の条痕土器に類似した一群があり、草創期までさかのばるものであろうか。押型文と混在した状態であるが、細かな検討をしていないので結論は後にゆずる。前期の条痕文土器も若干存在するようである。Fig.31-3, 11, 14, Fig.32-12は同一個体で、11, 12は接合できる。いずれも胴部破片である。内外面に斜位ないしは横位の貝殻条痕を施す。内面の条痕は丁寧である。外面にはススが付着する。器壁の厚さは0.7cmである。Fig.32-4は胴部小破片。内面に横位の条痕を施す。器壁の厚さは0.6cmである。Fig.31-7, 16, Fig.32-4, 17, 19, 23, Fig.33-2, 4, 11, 21は同一個体と考えられる。Fig.32-17, Fig.33-4, 11は口縁部破片で他は胴部破片である。口縁は直口で端部を丸くおさめる。口唇部上面には貝(?)による刻文を施す。内外面共、貝殻条痕を多方向から施した後、上をナデ条痕を消そうとしている。外面にはススの付着が著しい。器壁の厚さは0.7~0.8cmである。Fig.31-9, 17, Fig.32-7, 22, Fig.33-7は同一個体と考えられる。いずれも胴部破片で、外面に荒い条痕を施す。内面は丁寧なナデ調整、器壁の厚さは1.1cmである。Fig.31-10は内外面に細かな条痕を施す。器壁の厚さは0.5cmである。12も胴部破片で内外面に横位の条痕を施す。外面にススが付着する。器壁の厚さ0.7cmである。13も胴部破片で、外面に斜位の細い条痕を施す。器壁の厚さは0.5cmである。15は胴部破片で、内外面に浅い横位の条痕を施し、外面はさらにヘラ削りを加えている。厚さ0.5cm。Fig.31-18, Fig.32-8, 13は同一個体と考えられ、いずれも胴部破片である。器壁は厚さ1.0cmである。Fig.31-19は胴部破片で内外面に細い条痕を施す。器壁の厚さは0.7cmである。Fig.32-4は内外面共細い丁寧な条痕が加えられる。器壁の厚さは0.5cmである。9~11は胴部小破片で外面に条痕を施す。10の外面にはススが付着する。器壁の厚さは9が0.7cm, 10が0.9cm, 11が0.6cmである。14~16も胴部小破片である。14は内面に浅い条痕がある。15は外面はヘラによる調整で内面は丁寧な横位の条痕調整。16は外面に荒い条痕調整、器壁の厚さは14が0.5cm, 15が

0.8cm, 16が1.0cmである。21は胴部破片、外面に条痕を施す。器壁の厚さは1.0cmである。Fig. 33の1は胴部破片で内外面に荒い削り状の条痕を施す。器壁の厚さ0.4cm, 3, 5は外面に荒い条痕を施す。内面はナデ調整。5は外面にススが付着する。器壁の厚さは3が0.9cm, 5が0.5cmである。6は楕円押型文を横走施する。I類にあたる。器壁の厚さ0.6cm, 9は内外面に浅い条痕を施す。器壁の厚さは0.6cm, 12は外面に縦、横位、内面に横位の貝殻条痕を施す。器壁の厚さ0.8cm, 14, 17, 18は胴部破片で外面に条痕を施している。17には外面にススが付着する。器壁の厚さは14, 17が0.6cm, 18が0.5cmである。以上の条痕文土器は胎土に石英、長石、雲母の砂粒を多量に含んでいる。焼成は良好で、色調は黄褐色～黒褐色をなす。

晩期土器 (Fig.33-19, 22~24)

19, 22は晩期後半の浅鉢形土器の破片である。19は胴部屈曲部の破片で、屈曲部は鋭くない。内外面共横方向の丁寧なヘラ研磨を施す。22は口縁部破片である。口縁部の内外に沈線一条をめぐらす。外面はケズリ条の調整で、内面は丁寧なヘラ研磨、19, 22共に胎土には石英、長石、金雲母の砂粒を含む。焼成は良好で黄褐色～黒褐色をなす。23, 24は刻目突帯文土器である。共に口縁部破片である。同一個体の可能性もある。口縁部に一条の突帯をめぐらすII類土器である。内外面にケズリ状の条痕が施され、外面はナデによって消している。刻目突帯はAで、刻目は指による刻みである。胎土には石英、長石、赤色鉱物、雲母の砂粒を含む。焼成は良好で、色調は黒褐色をなす。

(3) 石 器

本調査区より出土した石器は磨製石鎌1点 (Fig.36-2) を除いて他はすべて剥片石器である。分布は散漫で、際立った密集区は認められないが、A-E-1~6区の南東部がわずかにその度合が大きいようである。A-2号墳同溝及び墳丘土からは石鎌1点、石核2点と数点の石片類が採取されている。包含層からは石片を含め総数700点の石器が出土している。石器の内訳は、打製石鎌及びその破片18点、磨製石鎌1点、スクレイパー及びその破片9点、石匙2点、楔形石器1点である。打製製品の石材は、黒曜石とサヌカイトで、黒曜石には青灰色を呈するものが一部ある。

打製石鎌は形態別では無基抉りのものがほとんどで、平基のものは2点 (18, 19) のみである。抉り入りのタイプは、逆U字形の深いえぐりをもつ鐵形鎌と呼ばれるものが5点 (1~5), 逆V字形の浅い抉りをもつもの12点 (6~17) である。調整剝離は両面のほとんどに施されるが、19は素材の剝離面を大きく残したものである。また、12は石鎌中央で両面を研磨している局部磨製石鎌である。石材別では、漆黒色の黒曜石を使用したもの (1, 3, 5, 6, 8, 10, 11, 14, 16, 18), 同素材でやや灰色気味に変色したもの (12, 1, 3), 青灰色の黒

7. 出土遺物

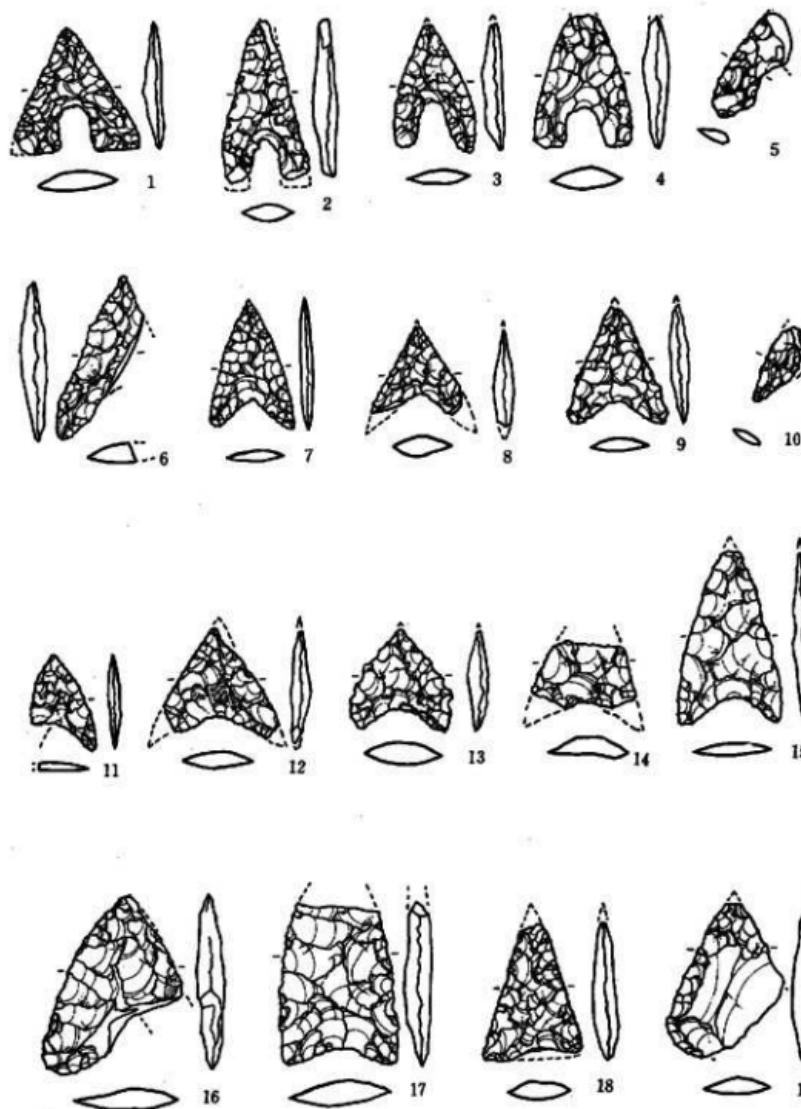


Fig. 34 A-2遺跡出土石器実測図 I (実大)

第4章 A-2遺跡の記録

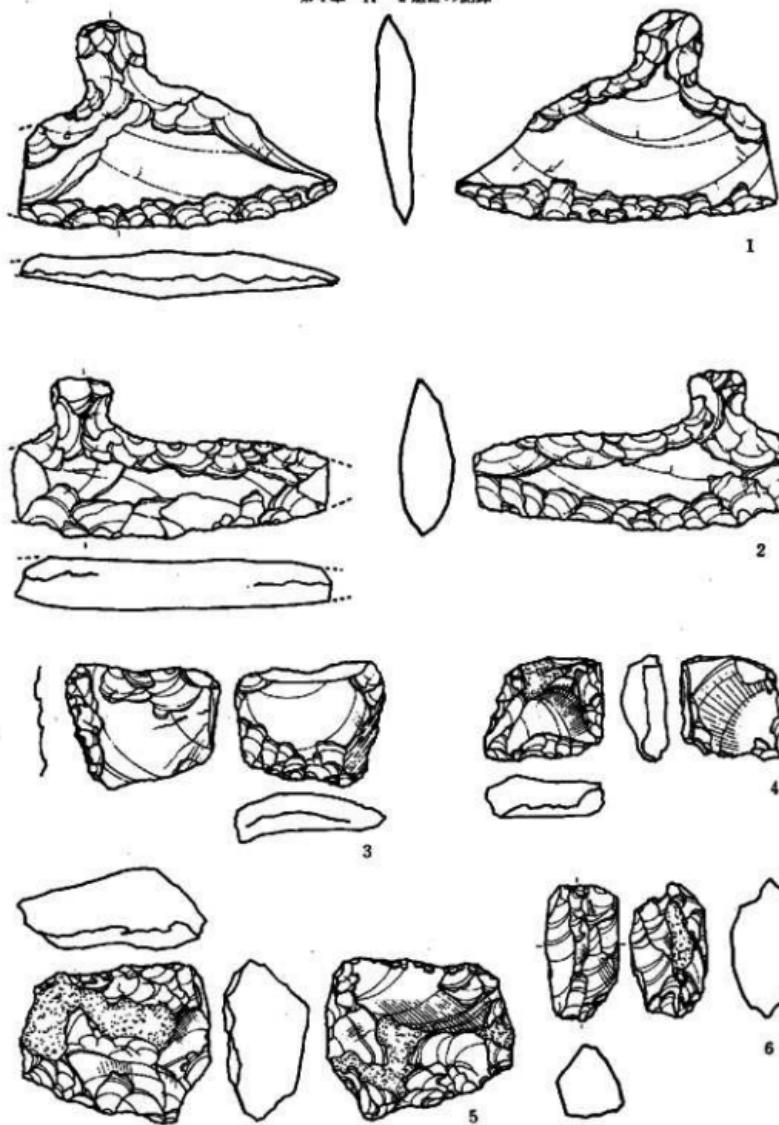
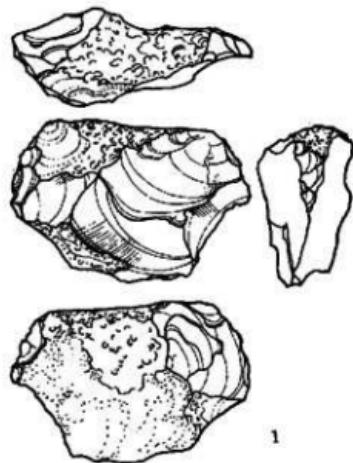
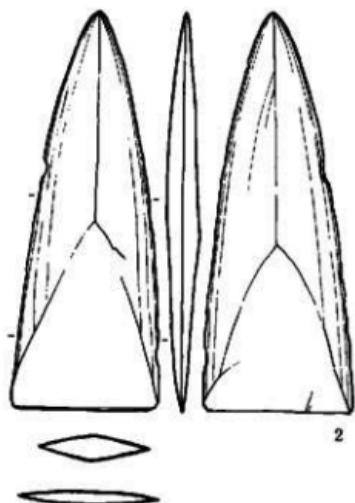


Fig. 35 A-2遺跡出土石器実測図II(実大)

7. 出土遗物



1



2



3

Fig. 36 A-2 遗跡出土石器尖端图(放大)

曜石を使用したもの(2), サヌカイト(4, 7, 9, 15, 17)のである。6は包含層でなく, A-2号墳周溝よりの出土である。それぞれの計測値は以下のとおりである。1-長さ21.6mm, 幅21.15mm+ α , 厚さ3.35mm, 重量0.9g+ α , 2-長さ27.20mm+ α , 幅15.20mm+ α , 厚さ4.25mm, 重量1.2g+ α , 3-長さ21.85mm+ α , 幅14.25mm, 厚さ3.75mm, 重量0.7g+ α , 4-長さ22.45mm+ α , 幅16.80mm+ α , 厚さ16.80mm, 重量1.2g+ α , 5-長さ20.10mm, 幅8.80mm, 厚さ3.75mm, 重量0.6g+ α , 6-長さ29.60mm, 幅8.50mm+ α , 厚さ4.15mm, 重量0.9g+ α , 7-長さ22.00mm, 幅14.60mm, 厚さ2.35mm, 重量0.6g, 8-長さ15.80mm+ α , 幅15.45mm+ α , 厚さ3.50mm, 重量0.5g+ α , 9-長さ19.80mm+ α , 幅16.90mm+ α , 厚さ3.30mm, 重量0.7g+ α , 10-長さ14.35mm+ α , 幅6.00mm+ α , 厚さ2.10mm, 重量0.2g+ α , 11-長さ17.20mm, 幅10.55mm+ α , 厚さ2.40mm, 重量0.3g+ α , 12-長さ19.50mm+ α , 幅21.10mm+ α , 厚さ3.50mm, 重量0.8g+ α , 13-長さ17.20mm, 幅17.35mm, 厚さ3.75mm, 重量0.8g, 14-長さ11.90mm+ α , 幅18.45mm+ α , 厚さ5.15mm, 重量0.8g+ α , 15-長さ30.60mm, 幅17.95mm, 厚さ4.10mm, 重量2.5g, 16-長さ32.15mm, 幅19.35mm+ α , 厚さ4.70mm, 重量2.2g+ α , 17-長さ28.00mm+ α , 幅20.35mm, 厚さ6.15mm, 重量3.2g+ α , 18-長さ22.90mm+ α , 幅17.45mm, 厚さ4.30mm, 重量1.5g+ α , 19-長さ27.45mm+ α , 幅16.25, 長さ4.45mm, 重量2.0g+ α 。

石匙は2点出土しているが、いずれもサヌカイト製の横型の石匙である。Fig.35-1は、幅広の二等辺三角形の体部をもつ。素材は横長剝片である。現存部で長さ36.90mm, 幅54.55mm, 厚さ7.80mmを測る。2は断面レンズ形の尖頭器状の体部をもつが、両端を破損している。現存部で長さ27.40mm, 幅54.20mm, 厚さ9.00mmを測る。

スクレイバーは破片を含めて9点の出土であるが、3点のみ図示している。破片で図示しなかった資料はいずれもサヌカイト製の横長剝片を利用し、両面から刀部を作り出したものである。Fig.35, 3, 4は漆黒曜石製の小型スクレイバーである。3は幅広の剥片の下端と左側刃に刀部を作り出したものである。左側刃の刀部は素材剥片の裏面から、下端の刀部は背向側からの剥離で形成されている。長さ21.55mm, 幅20.90mm, 厚さ5.60mmを測る。4も3と同じく、素材剥片の左側刃と下端部にあたる位置に刀部がある。下端部は折断面を利用している。一ヶ所の刀部はいずれも素材の裏面側からの剥離による。頭部には調整剝離が施されている。長さ17.40mm, 幅20.05mm, 厚さ7.20mmを測る。Fig.36-3は大ぶりなサヌカイト製の縦長剝片を利用したスクレイバーである。素材剥片の左側刃に両面から剥離を加え、刀部を作り出している。長さ88.60mm, 幅47.95mm, 厚さ16.6mmを測る。

Fig.35-5とFig.36-1は黒曜石製の石核である。5は扁平な漆黒曜石の原石の両面から剥離を行ったものである。上下両辺には細かい剥離痕が認められ、剥離面も小さいことからスクレイバーとして利用された可能性もある。長さ28.20mm, 幅33.10mm, 厚さ13.60mmを測る。6は鉄分の赤い脈の入る黒曜石の小礫を利用した石核である。側面の自然面から両面に剥片剝離を

8. 小 結

行っている。長さ27.25mm、幅41.10mm、厚さ16.40mmを測る。この他A-2号墳からは黒曜石製の剥片を利用した石核が1点出土している。

Fig.35. 6は楔形石器である。上下両方面からの細かい剥離痕が認められる。漆黒色の黒曜石製。長さ23.20mm、幅11.90mm、厚さ12.90mmを測る。

Fig.36. 2はスレート製の二等辺三角形を呈する磨製石鉋である。両面中央部に長さ3.5cmと4cmの鋸が入る。基部は三角形に面取りされ、薄く仕上げられている。長さ68.90mm、幅26.20mm、厚さ5.60mm、重さ8.5gを測る。

8. 小 結

A-2遺跡で検出した遺構は土壙状遺構159基と炉址2基である。土壙状遺構はその形態、埋まり方等から土壙墓、住居址、その他の三種類の機能に分類が可能である。土壙墓と考えられる土壙は19基がある。いずれも平面プランが長方形、隅丸長方形、長横円形をなし、断面形が箱形をなしている。これらは意識的に埋めもどされた可能性が強く、埋土は包含層と同質の土であるが、遺物包含層の土よりきれいである。また、埋めもどしたことを示す証左として、風化に伴い、他の遺構の壁が崩れ、皿状を呈しているのと比較し、土壙墓とみられる土壙は壁が立ちあがり、風化に伴う崩壊がみられないことがある。規模的には成人が屈葬位で樂にはいる大きさである。住居址と考えられる土壙は大型で、内部に柱穴状のピット、土壙をもつものである。本遺跡ではあまり明瞭ではないが、4基以上が存在する。内部には炉はみられず、床面も平坦ではなく、住居址とするには今後の検討を必要とする。しかし、類似するタイプが存在することから何らかの共通した機能を考えられる。その他の土壙はいずれにも属さない土壙で、規模的には大きくなく、土壙墓とした大きさから、それよりやや大きいものである。土壙墓と大きく異なるのは、断面形と平面プランである。断面形は住居址と同様に皿状をなし、使用目的を果した以後は廃棄されていたことがわかる。平面プランは円形ないしは横円形をしたものが多く、土壙墓のように一定した平面プランを有していない。むしろ住居址とした土壙に近い。137基が存在するも作業場的な使用に供されたものか。

これらの土壙の分布は主に南調査区において顕著であり、北調査区には少ない。南調査区では削平を受けている所以外は全面に遺構が存在している。複雑に重複していく規則性がみられないような分布状況をみせているが、詳細な分析をすれば、ある程度の規則性を見出だすことができる。正確な分析は出土遺物との関連等加味する必要があり、時間的制約のため今回の報告には割愛したが、見通しについてその概略を記しておきたい。遺構の分布は先述したように複雑に切り合い、全面に存在するが、細かにみると、遺構の存在の仕方に濃淡があることがわかる。すなわち、A-3, 4, B-3, 4とB-7~9, C-7~10, D-8, 9グリッドに

は遺構がないか極めて少なく、遺構の存在しない広場的空间をつくり出している。この空间部は両者共、発掘区外にのびているために全体形が判明しない。しかし、これを現状の遺構分布から想像たくましく復原すると、共に径10~15mの円形の広場的な空间が確認できる。この空间部の外側は土壌状遺構が複雑に絡みあっている。この遺構のない広場的空间部は集落構造の復原において有効な材料になるとを考えている。換言すれば、この時期の集落構造としては、大きくなのが中央に広場をもち、それを囲むように住居址、墓壙、使用目的不明の土壙が存在することが推測できる。なお、ここで考慮しておかねばならないのが、検出した遺構が非常に多いことである。この点は集落構造同様にA-2 遺跡だけの特異性ではなく、E 遺跡、F 遺跡、K 遺跡と共に通した問題であり、後章の総括において再論したいと思う。

出土遺物には土器、石器がある。土器には草創期、早期、前期(?)、晚期土器がある。数量的には多くないが、その内容は多様である。草創期と考えられるのは条痕文土器で、E 遺跡やF 遺跡の成果からは押型文土器より古式である。押型文土器は山形文、横円文の二種がある。編年的には山形文 I 類a、横円文 I 類→山形文 I 類b→山形文 II 類、横円文 II 類が考えられる。前期土器は条痕文土器の一部があたる可能性もあるが判別は困難である。晚期土器は刻目突帯文土器があり、注目される。層位的には明らかに上層より出土する。量的には少ない。A-2 遺跡出土土器の内容は以上であるが、これに同一遺跡と考えられるA-1 遺跡の出土土器を加えるとさらに多様になる。場所によって出土土器が異なることが把握できる。このことは集落構造を復原するための一つの大いな要素である。石器は石鎚、スクレイバー類が主である。磨石、石匙も若干存在する。注目されるのは刻目突帯文土器に伴出した磨製石鎚である。從来北部九州で出土する朝鮮式磨製石鎚と異なり、無基である。類品は朝鮮半島にもある。刻目突帯文土器の石器組成に新たに加わることが証明できたのは大きな成果であろう。

第5章 C遺跡の記録

1. 遺跡の立地

C遺跡は樋井川第1支流の開析によって形成された谷部に面した左岸の丘陵斜面に立地している。C遺跡をのせる丘陵は片縄山の山麓部に形成された舌状のやせ尾根で、C遺跡の上方で急斜面で下り、C遺跡付近でやや広い平坦地を形成し、それよりゆるやかに下り柏原古墳群B支群をのせる丘陵先端部へと続いている。樋井川第1支流によって開析された谷部は幅約50mで大きな谷ではないが、柏原地区では樋井川本流の谷について大きく、他の谷に比較して縄文時代遺跡が比較的分布している。本遺跡に統く、丘陵先端部のB地区では明確な遺構や包含層は形成されていないが、黒曜石の剥片、チップ類が散布していて人間の足跡をみることができ。B地区的東側各にはA-1号墳があり、その基盤層には縄文時代早期の遺物包含層があり、A-1遺跡とした。A-1遺跡と樋井川の第1支流をはさんで、右岸の河岸丘上にはA-2遺跡が存在し、A-1遺跡、A-2遺跡共に元来は同一遺跡で大規模なものであったことが想定される。

C遺跡をのせる丘陵面は古い河岸段丘で標高70m~62m、比較的ゆるやかな傾斜をもつ斜面である。そのためか、古墳の築造が密集しておこなわれ、造墓活動における地山整形が著しく、遺物包含層の状態は良好でない。しかし、一部であるが先土器時代、縄文時代の遺物包含層を確認したのは大きな成果であった。

2. 発掘区の設定

本遺跡は調査前は地表面には遺物の散布は古墳時代遺物を除いて皆無で、古墳の調査を主目的として開始した。古墳の調査の進展に伴い、黒曜石剥片数点が出土した。周辺に遺跡の存在する可能性を考えたが、調査はすでに黄灰色~赤黄色の粘質土が露出していて、その可能性は比較的薄いものと考えられた。しかし、出土した剥片の検討から、先土器時代の物である可能性が強かったので、古墳の地山整形で荒らされていない調査区の東側で、丘陵斜面がゆるやかな部分にトレントを設定した。当初、トレントは幅5m、長31mで、古墳調査のために表土層を除去した後の土層を移植ゴテで発掘を開始した。その結果、すぐに黒曜石剥片、チップ等がトレント中央よりやや西側に比較的まとまって検出されたので、さらにトレントを南側、古墳付近まで拡張した。拡張区は石片集中区に接した5m×13mのトレントである。拡張区のさ

第5章 C進路の記録

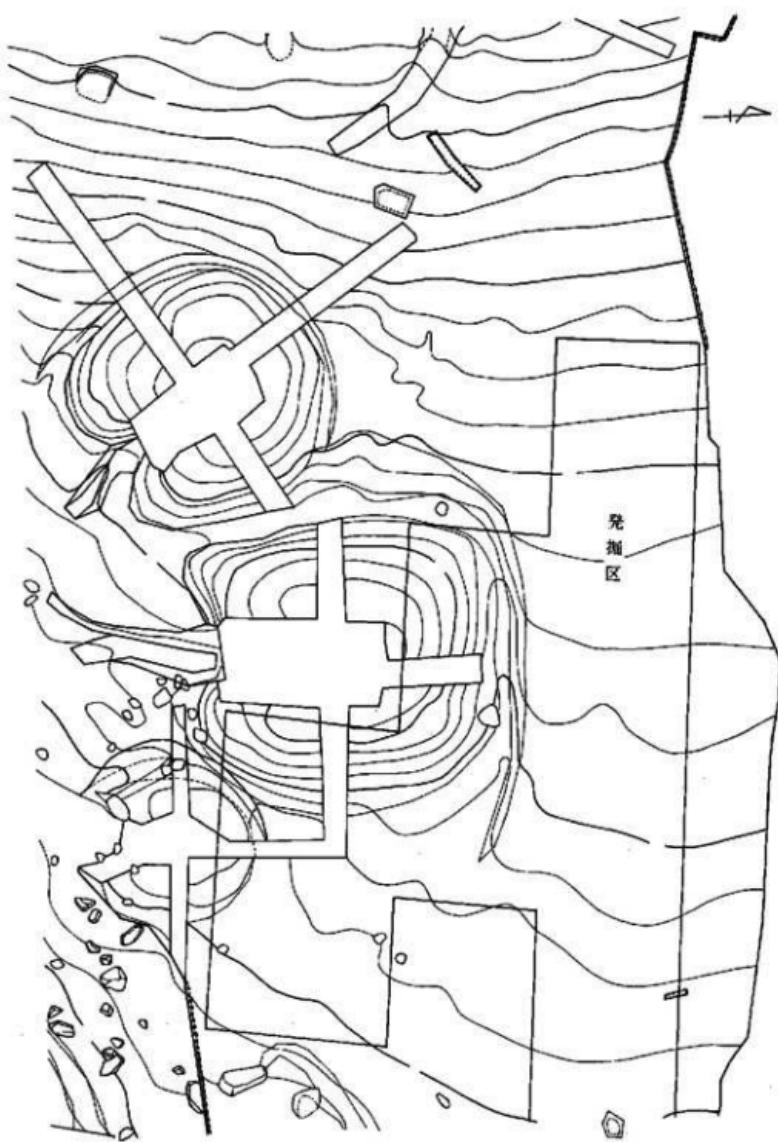


Fig. 37 C進路の地形と発掘区(1/200)

4. 出土遺物

らに西側の古墳周溝等の地山整形を受けていない古墳墳丘下に6m×11mのトレンチを設定した。いずれからも石器、石片を検出することができたが、その数は少ない。遺物の出土状況からすれば、北側に包含層がのびているようであるが、実際は北側は包含層ではなく、下層が露出していたのでトレンチの拡張を断念した。状況からは発掘区を設定した以上に遺跡は拡大しないと考えられ、本遺跡は、ほぼ全掘したとみてよい。

3. 層序

本遺跡の層序は良好でなく、包含層もきわめて薄いものであった。以下、層序関係の概略を説明する。土層の観察は発掘所見と調査終了後の土取り作業による断面観察によっている。まず、本遺跡の基盤は花崗岩で、その上に風化花崗岩がのっている。さらにその上に赤褐色粘質土が約1mの厚さで堆積している。この段階で、段丘基盤が形成されている。段丘の上に約1mの厚さで段丘礫層が堆積し、さらにその上に約50cmの厚さで赤褐色粘質土が堆積する。赤褐色粘質土層の上には黄灰色粘質土層が堆積している。この黄灰色粘質土層が遺物包含層になっているが約10cm前後と浅く、大部分は古墳の地山整形によって消失している。上部に縄文時代遺物、下部に先土器時代の遺物を検出した。この包含層の上部には黒色有機質土層が部分的に認められる。特に古墳周溝に顕著である。古墳時代以降の堆積である。その上部は表土層となっている。

4. 出土遺物

本遺跡から出土した石器は、剥片も含めて17点である。石器には旧石器時代の台形石器4点、縄文時代早期の石鏃4点、縄文時代後期の剥片鏃2点、その他3点と各時期にわたっている。

台形石器はいずれも幅広の横長剥片を素材としたものであるが、その形状は様々である。1は背面に原礫の自然面を大きく残し、素材の打面側に大きな剝離と細かい調整を加えて整形している。左側辺は細かいプランティングを施す。長さ29.40mm、幅21.70mm、重さ4.5gを測る。2は最も台形に近い形状を示しており、所謂「日之岳型」に類する。長さ26.20mm、幅22.05mm、厚さ5.50mm、重さ2.7gを測る。3は逆三角形に近い楔形を呈する。背面に素材の自然面を残している。長さ27.10mm、幅24.50mm厚さ6.05mm、重さ3.0gを測る。4は他と加工法が少し異なり、両面に平坦剝離が施されている。基部側にもプランティング状の加工が認められる。長さ30.05mm、幅25.05mm、厚さ7.90mm、重さ5.5gを測る。1~3はいずれも打面側の加工が顕著で、末端部は細かいわずかな整形加工が施されている点で類似している。石材はいずれも黒曜石であるが、4のみ灰青色に変色している。

第5章 C遺跡の記録

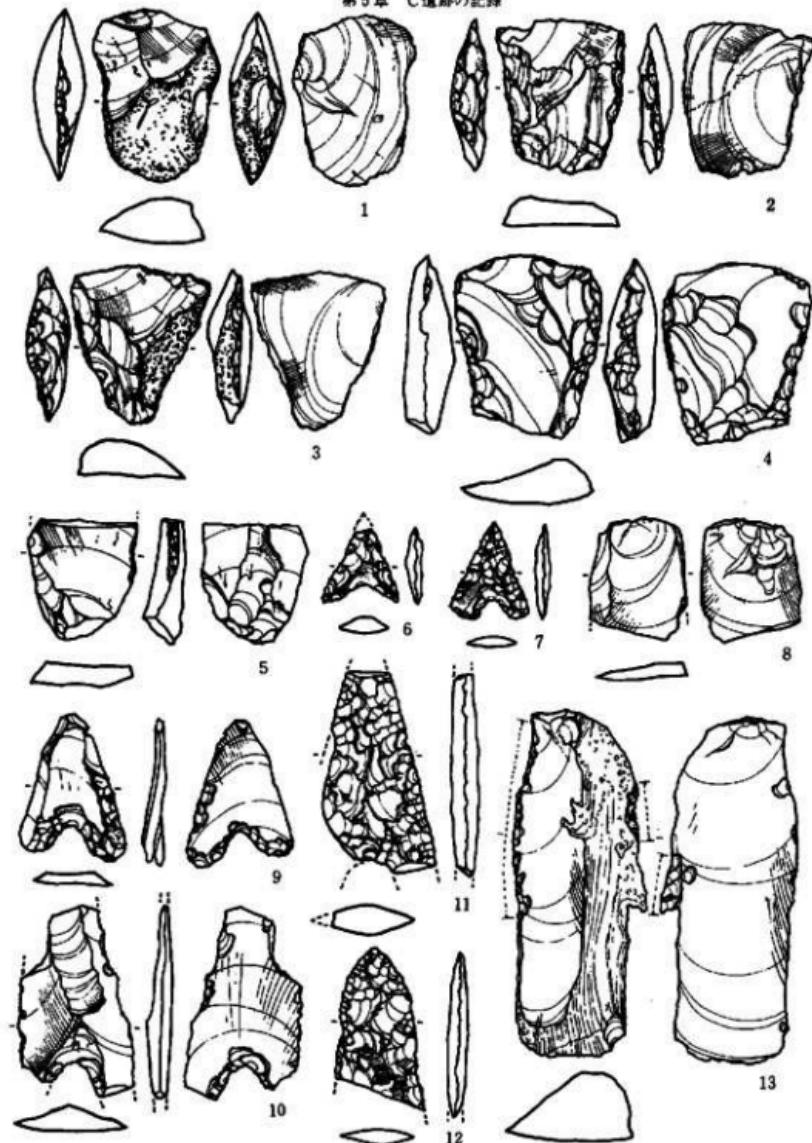


Fig. 38 C遺跡出土石器実測図(実大)

5. 小 結

6, 7は黒曜石製の小型の石鎌である。7は裏面に素材の主要剥離面を部分的に残している。6は頭部を欠損し、長さ $12.35 + \alpha$ mm、幅13.10mm厚さ3.00mm、重さ0.3g + α を測る。青灰色ob製。7は長さ16.50mm、幅13.20mm、厚さ2.60mm、重さ0.4g。11は漆黒黒曜石製の長身の石鎌であるが、脇部両面に研磨の痕がある。基部を欠損するが、現存長28.45mm、幅15.60mm、厚さ3.20mm、重さ0.4kgを測る。これら4点はその特徴から縄文時代早期に属すると考えられる。

9, 10は漆黒黒曜石製の石刃状の剝片を素材にした剝片鎌である。背面の剥離面は上下両面からの剥離を示しており、鉛錠技法による剝片素材の可能性が高い。9は長さ25.95mm、幅18.45mm、厚さ3.00mm、重さ0.9g。10は現存で、長さ33.00mm、幅19.30mm、厚さ4.40mm、重さ2.0gを測る。

5は一側辺の一部にプランティング状の急角度の加工痕が認められる加工痕のある剝片である。長さ20.70、幅18.50mm、厚さ5.90mm。漆黒黒曜石製。13は厚みのある漆黒黒曜石製の縦長剝片で、一側辺に細かい使用の痕がある。長さ59.8mm、幅22.85mm、厚さ13.10mmを測る。8は漆黒色黒曜石の剝片で、自然打面である。現存部で、長さ20.20mm、幅17.15mm、厚さ3.20mmを測る。

5. 小 結

C遺跡で出土した遺物は量的にきわめて少ないが、時期的に数時期のものが含まれている。最も先行するものは先土器時代の遺物で、台形石器4点、使用痕ある剝片1点がある。数は少ないが先土器時代の遺物包含層を確認したことは重要であろう。ついで縄文時代遺物として石鎌、剝片若干がある。石鎌の形体からすれば早期および後期に属するものであるが、土器の出土は皆無である。

柏原遺跡内で先土器時代遺物が出土しているのはC遺跡以外にE, F, H, M, N遺跡がある。N遺跡の細石器を除いて、いずれも数点のナイフ形石器が検出されているのみで、明確な包含層を確認していない。このことが何を意味するのか明らかでないが、C遺跡の存在はこれを解くのに大きな示唆を与えてくれる。C遺跡では小範囲に石器のみが出上り、遺構の存在もなく、一時的な遺跡としての感が強い。換言すれば狩猟時期におけるキャンプ遺跡としての位置づけが可能で、他の遺跡の石器類もこのような状況を反映しているものとおもわれる。平野部段丘面に立地する先土器時代遺跡には石器の他、多くの剝片、破片が出土することは、山間部に位置する柏原の場合とは対称的である。

第6章 H遺跡の記録

1. 遺跡の立地と層序

H遺跡は橋井川第3支流によって開析された小さな谷の右岸の丘陵西斜面に立地している。この谷は第1、2支流の谷と比較し、きわめて小さく、未発達である。第3支流が第1、2支流に比較し、より小さいことに起因していると考えられる。谷の谷口は幅50mと狭く、谷は約300mはいり込むと沖積地はなくなり、開析の進んでいない谷部となり、遺跡はさらに150mはいり込んだ標高78~81の丘陵西斜面に位置している。丘陵の生成はC遺跡と同様で古い段丘になると考えられる。土層の観察は発掘によって設定したトレンチによるものであり、土取りに工事による観察はできなかった。

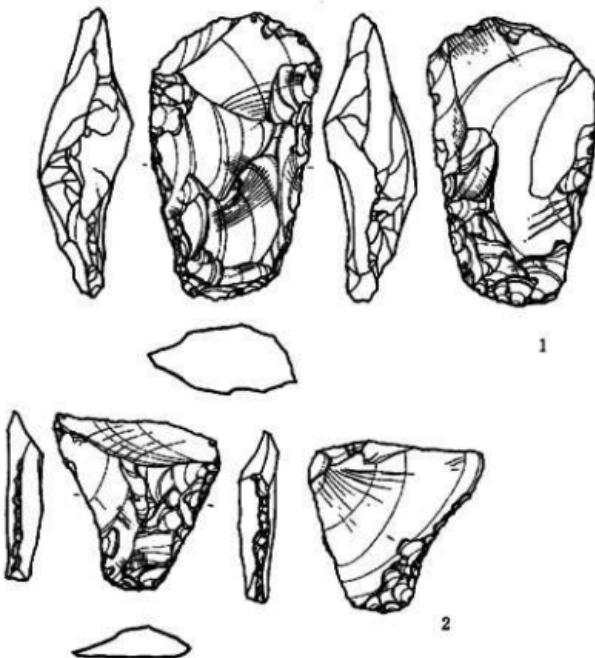


Fig. 39 H遺跡出土遺物実測図

2. 出土遺物

調査区の土層は段丘疊層が厚く堆積し、基盤層を形成している。土層の概略を土層から説明する。第1層、現表土層で植物の堆積した腐葉土で厚さ約20cm、第2層は花崗岩バイラン土で厚さは場所によって異なり、20~100cmの堆積がみられる。第3層は黒色有機質土層で厚さは10~40cm、古墳時代以降の遺物を包含している。第4層は黄灰色粘質土で厚さ10~20cm、縄文時代、先土器時代の遺物を包含する。H-2号墳周辺で石鏸、剝片、チップ若干が出土している。第5層は赤褐色粘質土層で50~100cmの堆積がみられる。第6層は上記の段丘疊層となっている。

2. 出土遺物

Fig.39-1は漆黒黒曜石製の台形様石器である。幅広い横長剝片を素材とし、その上下端と一側面に両面から平坦剝離を加えて整形している。刃部は直線的ではなく、外側に湾曲している。長さ48.80mm、幅29.00mm、厚さ11.70mm、重さ15.7gをはかる。2も漆黒黒曜石製の横長剝片を素材にした台形様石器である。刃部の裏面左端に打面調整の痕と打点が残っている。両側面は細かいプランティングによって整えられるが、左側面裏面には平坦剝離も施されている。長さ29.30mm、幅28.70mm、厚さ5.80mm、重さ3.8gをはかる。

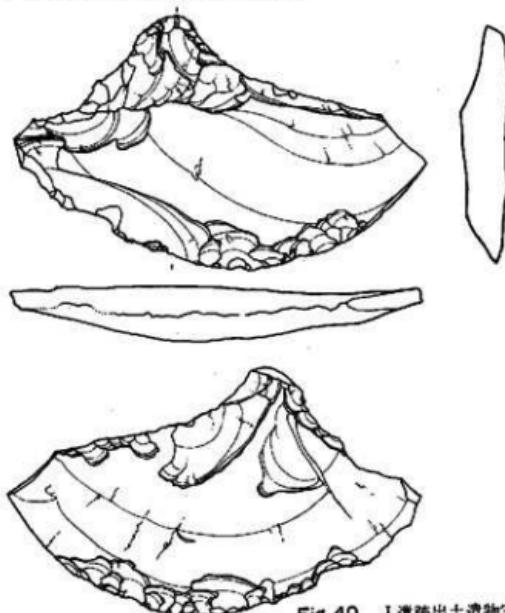


Fig.40 J遺跡出土遺物実測図

第7章 J遺跡の記録

1. 遺跡の立地と層序

J遺跡は、樋井川の第4支流によって開析された小さな谷の奥部、左岸に発達した河岸段丘上に位置している。この第4支流で開析された谷は、開発地域内における他の谷と異なり、極端に狭く、丘陵斜面は急斜面をなした深い谷である。また谷部は直線的な開析されたもので、他の谷のように流路の蛇行はみられない。谷は幅約20mで左岸に狭い沖積地が形成される。遺跡は直線的な谷が大きく南に蛇行する地点の段丘上に位置している。沖積地との比高差は3~4mで、川底とは約5mをはかる。河岸段丘は南北約70m、東西約30mの平坦面が存在し、現状は畑地となっている。遺跡の立地としてはF遺跡と非常に類似していて期待したが、トレンチを入れた結果は良好ではなかった。

遺跡の層序は表土から、第1層、現耕作土で、厚さ約20cmの黒灰色砂質土層、第2層、黄褐色粘質土層、厚さ30~40cm、第3層、黄灰色砂質土層、厚さ10~20cm、第4層、黒色砂質土層、厚さ20cm、第5層、砂層となっている。第3層が遺物包含層であるが、開墾に伴う造成で段々畑の極部にわずかに存在するにすぎない。第4層以下は段丘の基盤層で第5層の下は礫層となっている。

2. 出土遺物

Fig.40-1はサタカイト製の横長剝片を素材にした横型の石匙である。舌部のえぐりは浅い。二次加工はこの舌部と刃部に施されるのみで、素材面を大きく残したままである。長さ61.10mm、幅100.70mm、厚さ12.20mmをはかる。

第8章 K遺跡の記録

1. K遺跡の立地

K遺跡は開発地域内の北西端に近い、樋井川右岸に位置している。遺跡前面は樋井川の水源である第1支流、第2支流、第3支流、第4支流あるいは四十塚にはいり込む支流が樋井川と合流し、ある程度の広さの沖積地が形成されている。この沖積地は油山山麓に形成された丘陵に囲まれて小さな盆地状になり、樋井川流域のまとまりの中でもさらにひとつのまとまりをみせている。

K遺跡はこの沖積地の最奥部にあたる河岸段丘上に位置している。樋井川左岸（西側）は油山よりのびる丘陵（標高65m）によって限られる。この左岸の丘陵と遺跡の間は樋井川の開拓によって深くえぐられ、丘陵は約10mの急崖となっている。樋井川と遺跡の比高差は約6mである。また東側も油山から派生する丘陵のがびてきて、遺跡との間が限定されている。この丘陵は古く宅地造成されているが標高73m～49mで舌状にのびている。この丘陵と遺跡の間にも旧流路による開拓谷がはいりこんでいる。この谷と東側丘陵の比高差は約8mで丘陵部から谷部へ急崖となっている。谷の幅は25～30mである。谷部と遺跡の比高差は現状で約3m前後である。遺跡前面の沖積地と遺跡の比高差は約5mを測る。

遺跡をのせる河岸段丘は基盤層が疊層と砂層の互層堆積からなっている。この砂疊層の上には黄褐色土の花崗岩バイラン土が厚さ約50cm前後で堆積するが、この堆積上層の出土遺物には先土器時代のナイフ形石器、縄文時代草創期の刺突文土器、早期・押型文土器、前期・轟式土器、中期・阿高式土器、晩期黒色磨研土器、刻目突蒂文土器がみられ、この段丘の形成時期が先土器時代をさかのぼることを証明している。また、中世以前におけるこの段丘面における人間生活の足跡を認めることができる。

樋井川の流路は度々この段丘面を横断し、東側の谷部に流れていることが発掘所見で把握することができた。この流路は黄褐色土の花崗岩バイラン土を切っているが、流路の堆積土からは縄文時代前期の轟B式土器が単純で検出され、この流路が堆積土によって埋没した上に堆積する土層からは縄文時代前期の轟B式土器（流路出土土器より新しい）さらに、その上層から縄文時代晩期土器が単純に出土していて、この流路の時期が限定できる。

遺物のある河岸段丘面は幅50～70m、長さ220m、舌状をなしており、面積は約15,000m²の広さを有している。標高51.5m～46.5mで、ほぼ平坦な面が続いている。上流部、段丘部分の付け根は急斜面となり油山から派生する丘陵部へと続いている。よって、この段丘面は三方を丘

第8章 K遺跡の記録



Fig. 41 K遺跡の地形と発掘区(3000分の1)

1. K遺跡の立地

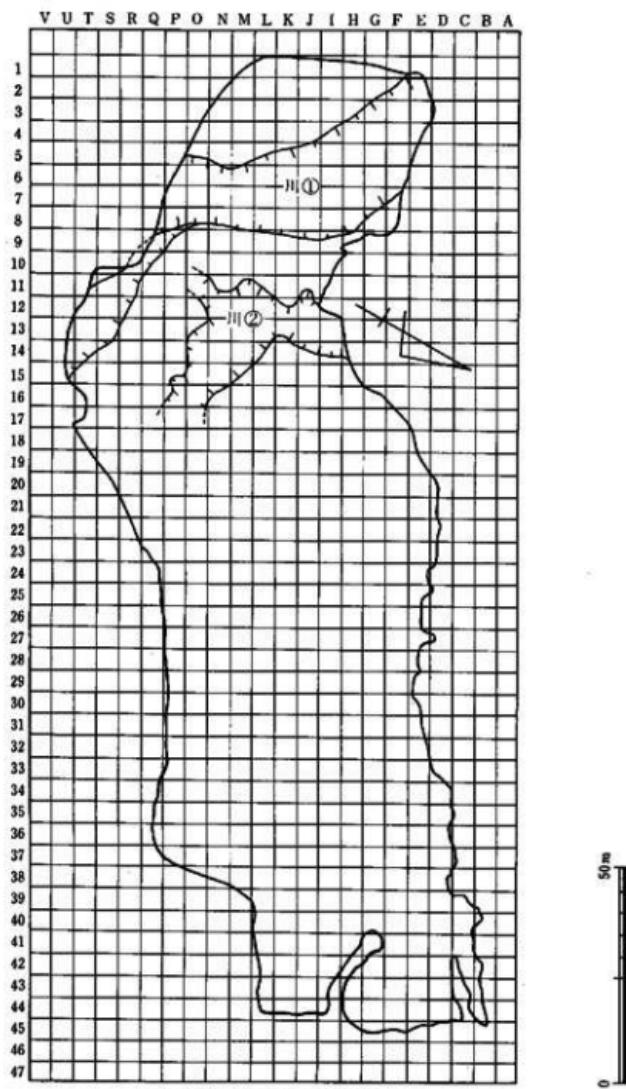


Fig. 42 K遺跡発掘区の設定

陵に囲まれ、丘陵と遺跡の間は深い谷によって限られている。前面は前述したように沖積地とは約5mの比高差があり、自然地形的にみてもこの段丘面がある程度の防衛の機能を備えていたことがわかる。

この河岸段丘面は調査時の現状では、開墾されて斜面部は段々に石垣が築かれ、いわゆる棚田状をなしていた。

2. 調査区の設定

発掘区の設定は試掘調査において河岸段丘全面に中世および縄文時代の遺跡が存在することが判明していたので、調査に先立って調査方針として、① 中世遺跡の正確な遺構配置図の作成と全面調査、② 中世遺跡における遺物散布と遺構との関連性の把握 ③ 縄文時代遺跡の全面調査と出土遺物の位置とエレベーションを正確に記録する。(柏原遺跡群の他の遺跡、A～2遺跡、E遺跡、F遺跡との比較検討に充分たえる必要性がある。上記遺跡でも遺物の出土位置、エレベーションは正確に記録している。)④ ②③によって遺物の層位的把握、生活空間および居住のあり方、⑤ 以上を総合した遺跡の性格の把握、の五項目を目的に設定した。この目的を達成するために、地形にあわせて、遺跡全面に5mの方眼を組み、遺跡の北西のコーナを基準として東に1から45まで、南にAからTまでのグリッドを設定した。なお、上記のグリッドは、中世遺跡の範囲において設定したものと継続して使用したが中世の下層の縄文時代遺跡の拡大が予想されたので、新たに試掘トレントを設定し、縄文時代遺跡の範囲確認を行ったが、縄文時代遺跡は先に設定したグリッドを越えるものではなく、調査区は中世と同様に行つた。

縄文時代遺跡の調査は中世遺跡の終了後、遺跡の西半部A～T-1～15グリッドから開始し、遺構検出と共に遺構の発掘を実施した。次に順次東に調査区を拡大して遺構の全体像を把握することができた。

3. 層序

調査区の層序は、この地区が開田されているために削平され、部分的に消失しているところもあり、かならずしも良好ではないが、一部では層位関係によって土器編年に寄与することができる。層位関係は場所によって若干異なるが、基本的層位は以下のようになっている。第1層は現水田耕作土で厚さ約20cm、灰褐色の砂質土層である。第2層は水田床土で、鉄分、マンガンの沈着層で厚さ約10cm。第3層、黒褐色粘質土層で厚さ10cm前後。中世の遺物包含層であるが、開田のための削平によって部分的に遺存するのみである。中世遺構は包含層の下面から

3. 层序

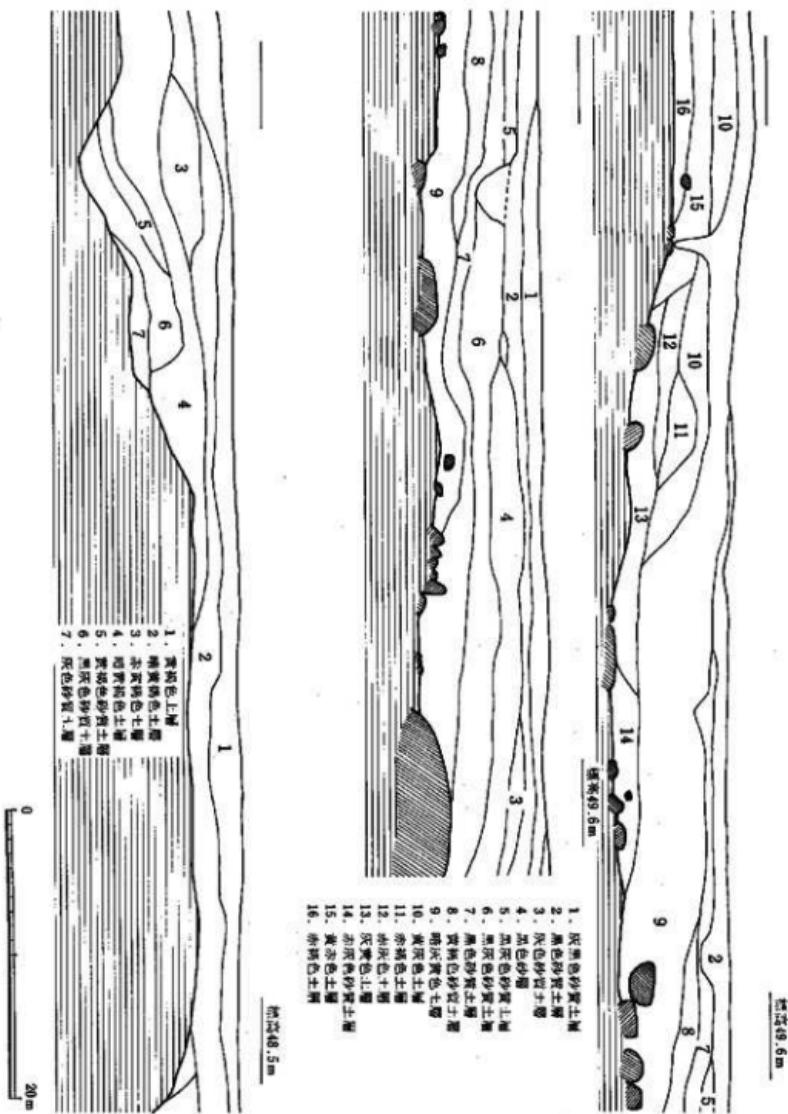


Fig. 43 K道路土層斷面圖

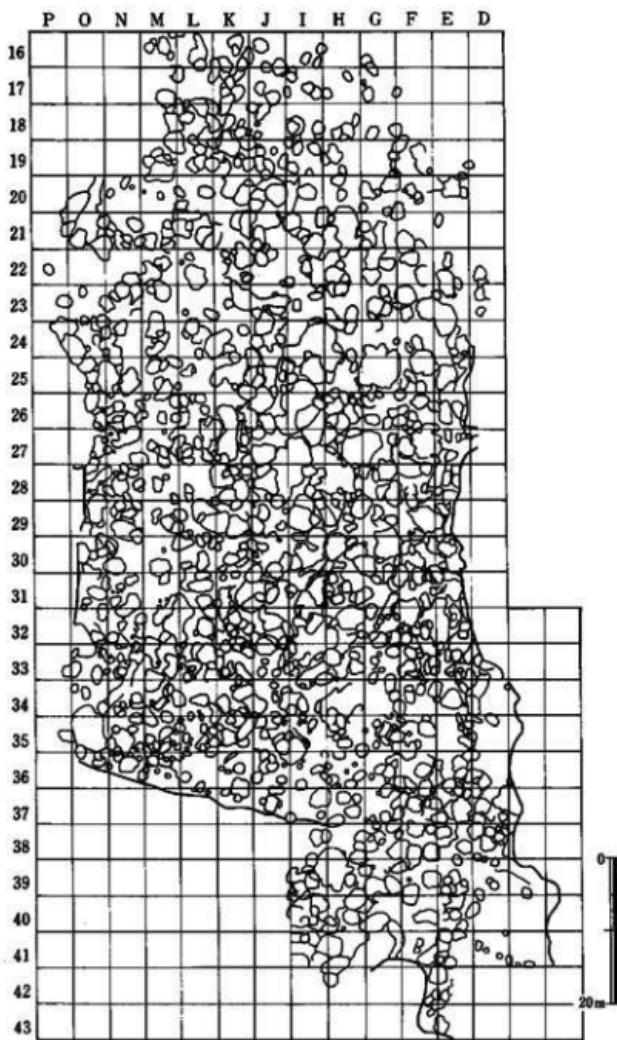


Fig. 44 K遺跡遺構全体図

4. 遺構分布の概要

掘り込まれている。第4層は黄褐色土層、厚さ10~40cm、縄文時代の遺物包含層である。調査区の中央部は中世居館址の造営によって削平され、遺物包含層は消滅している。中世遺構はこの第4層に掘り込まれている。第5層、粗砂層の地山層となっている。

調査区西半部では第3層と第4層の間に中世以前の川の流路堆積層、縄文時代晚期遺物包含層、縄文時代前期包含層、縄文時代前期以前の川の流路堆積が存在する。

中世以前の川の流路堆積は、黒灰色砂質土層、黒色砂層、黄褐色砂層の互層となっていて深さ約1.0mである。晚期包含層は川の流路の西側に堆積する。土の粒子の細い灰黄色土層で厚さ約10cmで、その下位に明るい黄赤褐色が約20cmの厚さで堆積している。この層は前期の遺物包含層である。さらにその下位に赤褐色土層が10cm前後で堆積、その下層は赤褐色土層をえた礫層となっている。中世以前の川の東側には縄文時代前期の川の流路堆積があり、西側調査区で検出した前期遺物包含層の下位に存在する赤褐色土層を混じえた礫層から前期土器が出土している。また一部ではあるが、第4層の下位の砂層に接して草創期の土器が少量出土している。

以上の層位関係を遺物包含層で整理すると表層より、中世→縄文時代晚期→縄文時代前期①→縄文時代前期②→縄文時代早期→縄文時代草創期の関係が把握できる。特に前期の層位関係は轟式土器の編年について大きな成果を得た。

4. 遺構分布の概要

本遺跡で確認した遺構は自然流路二条、炉址2基、集石遺構2基、土壤状遺構1189基である。遺構は調査区中央部から西側は自然流路以外は存在しない。中央部から東側にかけて土壤状の遺構が全面に分布している。

自然流路は二条ある。西側に存在するものを川①、東側を川②とする。川①はE-1~7グリットからはじまり、段丘を斜に横断するように流れている。川幅は15m~21mで調査区内での長さは約110mを確認した。時期的には縄文時代晚期以降、中世（鎌倉）以前が考えられるが、流路内の堆積土からは遺物の出土はない。本遺跡の出土遺物もこの時期は空白期にあたり、流路内に遺物が出土しないことと符号とする。川②は川①の東側に位置する。I-12~14グリットからはじまり、川①と同様に段丘を横断するよう流れている。川幅は11m~15mで、途中で二つの流れに分岐している。調査区内で長さ45mを確認した。時期的には縄文時代前期が考えられる。川底に接して縄文時代前期の轟B式土器が一括出土している。

炉址は2基あり、いずれも浅い穴を掘り、石を花弁状に敷いたものである。調査区の東端部に近いところに分布している。また炉址ではないが、炉に使用した石を竪穴内に投棄した状態のものが数ヶ所に認められるが、分布は炉址に近く、比較的まとまっている。

調査区中央部は中世の居館址が造営された時点できなり削平を受けていて、包含層はもちろ

ん、遺構まで消失している。中央部より東側斜面は遺構の残存状態は良好である。特に土壌状遺構が顕著で、調査区の東側全面に分布し、重複関係が著しい。土壌状遺構はA-2遺跡、E遺跡、F遺跡で検出したものと同様で、形状、断面等から、土壌墓、住居址、その他の土壌に分類可能である。土壌墓は長方形、隅丸長方形、橢円形プランをなし、断面が楕形をなす比較的深いものである。中には土壌の縁に配石した例もみられる。土壌墓のみが集中する所はなく、全体的に均等分布している。この状況もA-2遺跡、E遺跡、F遺跡と同様である。住居址は良好な状態ものが多い。特に押型文土器以前の無文土器単純期の住居址を検出できたのは重要である。135号、140号、159号土壌の三ヶ所で平面形は円形ないしは橢円形をなす。壁に柱穴がみられる。相互に4~5m離れて位置し、同時併存した可能性が強く、集落構造の分析に手がかりを与える。138号土壌は押型文土器期の住居址で、床面に柱穴をもつ。時期によって住居址の変遷をつかむことができる。遺構の多さからみて、かなりの時間幅の存在が考えられ、多次にわたる回帰がくりかえされたことが推測できる。

5. 土壌状遺構

土壌状遺構は、重複が著しく、大きさ、形態は多種多様である。A-2遺跡、E遺跡、F遺跡で検出した土壌と同様に、大別して二種類の類型に分類できる。第1類型は壁のたちあがりがゆるやかで、断面形が皿状をなす土壌、第2類型は壁のたちあがりが垂直に近いものである。両者のちがいは壁のたちあがりと大きさにある。第1類型は規模が2~3m以上で内部に柱穴状のピットや土壌をもち、住居址の可能性があるものと、小規模で柱穴状のピットがないもので住居址とは考えられないものの二種に細別できる。第2類型は壁の状態や埋土からみて埋めもどされていることが明らかで土壌墓と考えられるものである。

土壌状遺構からは多量の縄文時代土器、石器、剥片、チップ等が出土している。出土土器で土器型式の明らかなものや石器については、後の一覧表の備考欄に示している。

5. 上壤状遺構

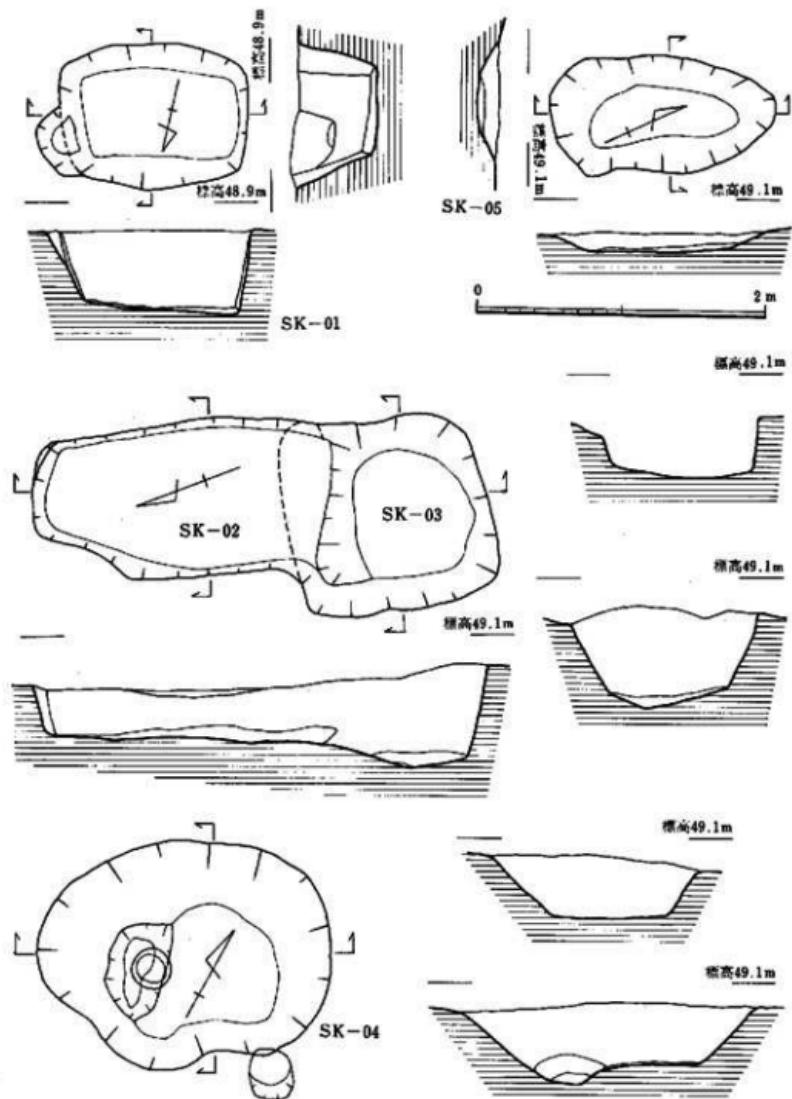


Fig. 45 第1~5号土壤(SK-1~5)実測図

第8章 K遺跡の記録

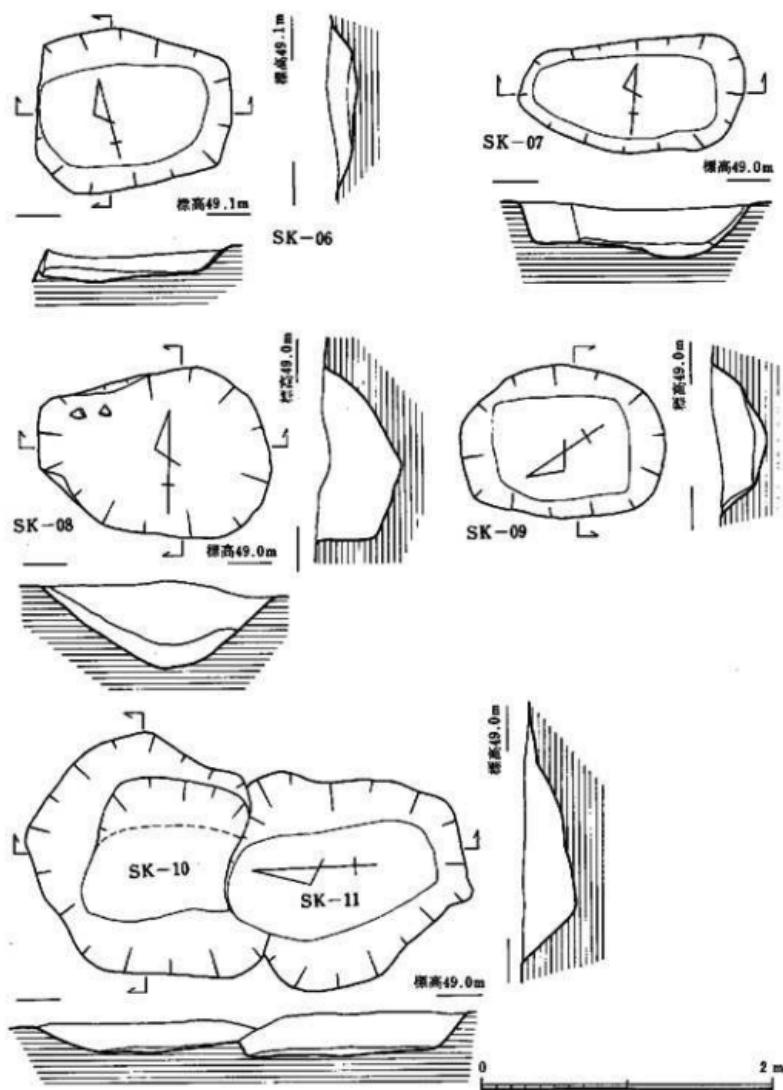


Fig. 46 第6～11号土壤(SK-6～11)実測図

5. 土壌状況図

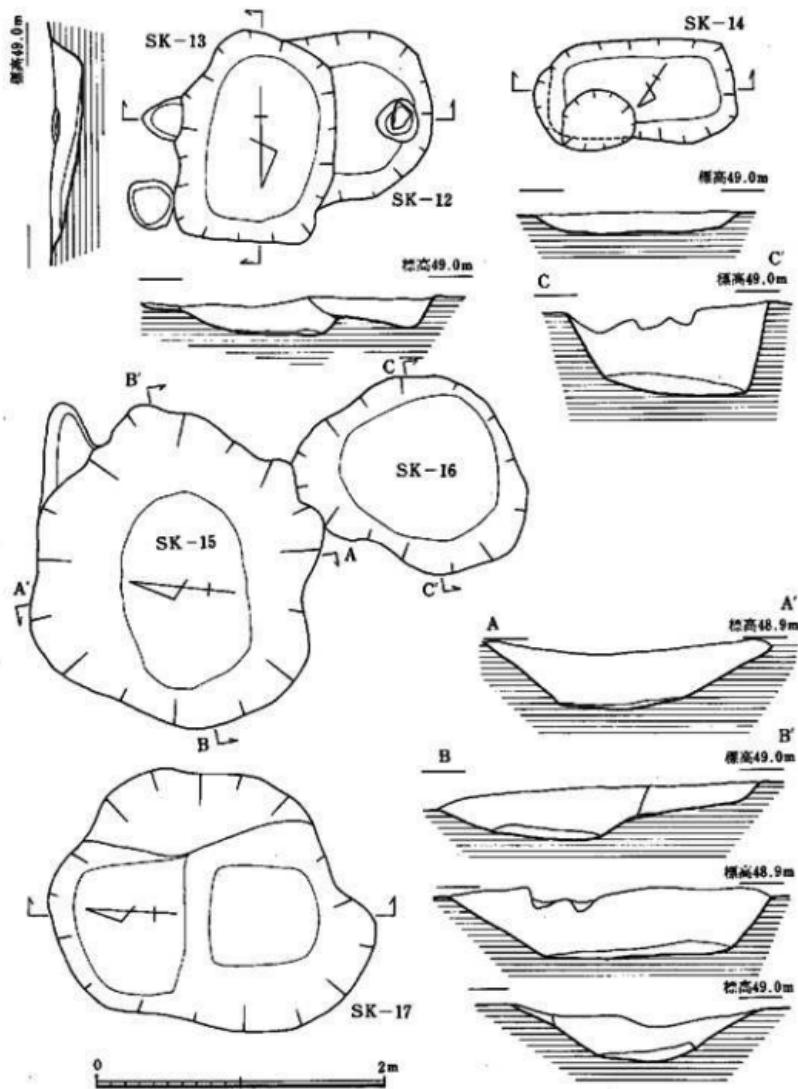


Fig. 47 第13~17号土壤(SK-13~17)実測図

第8章 K道跡の記録

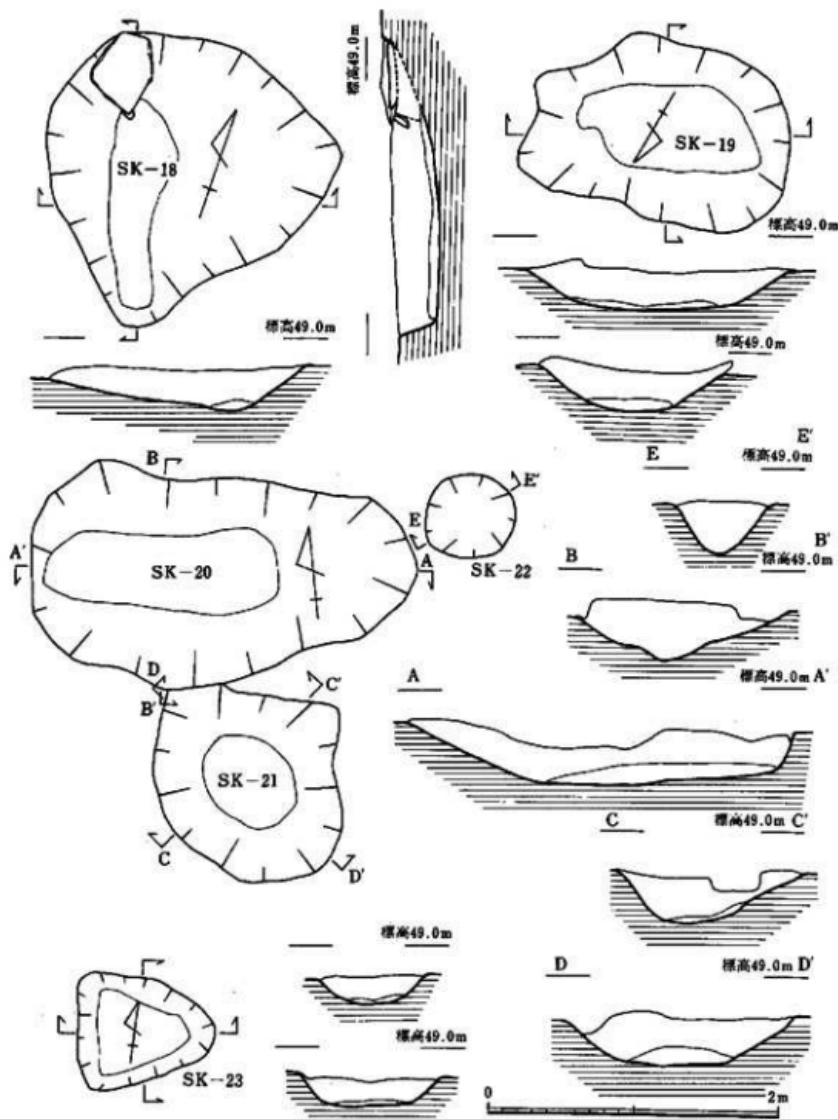


Fig. 48 第18~23号土壤(SK-18~23)実測図

5. 土壌状況図

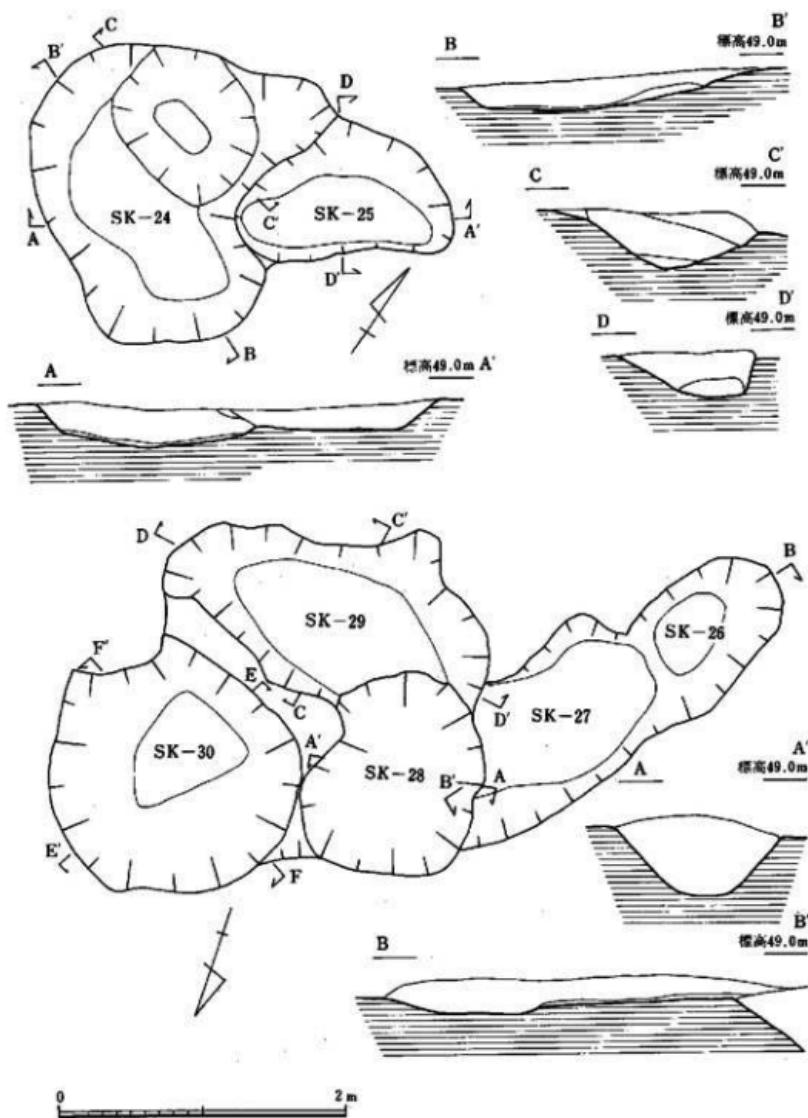


Fig. 49 第24~30号土壤(SK-24~30)実測図

第8章 K遺跡の記録

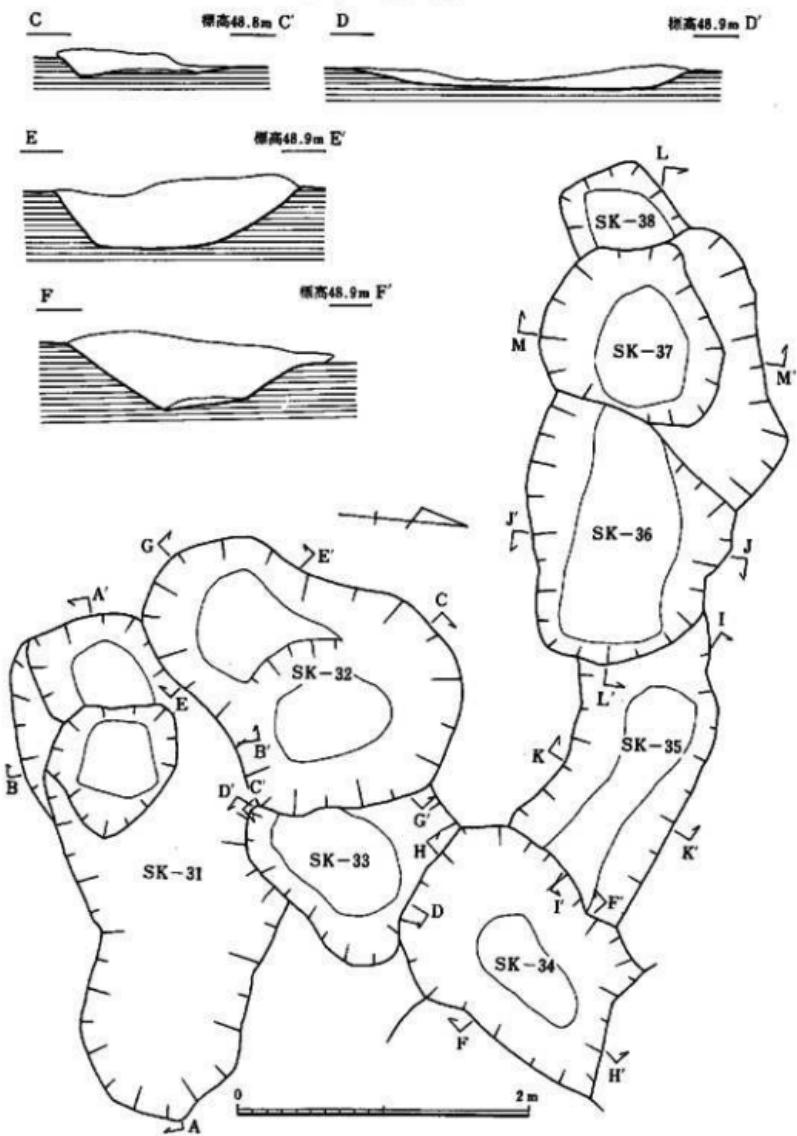


Fig. 50 第31~38号土壤(SK-31~38)実測図 I

5. 土壤状遺構

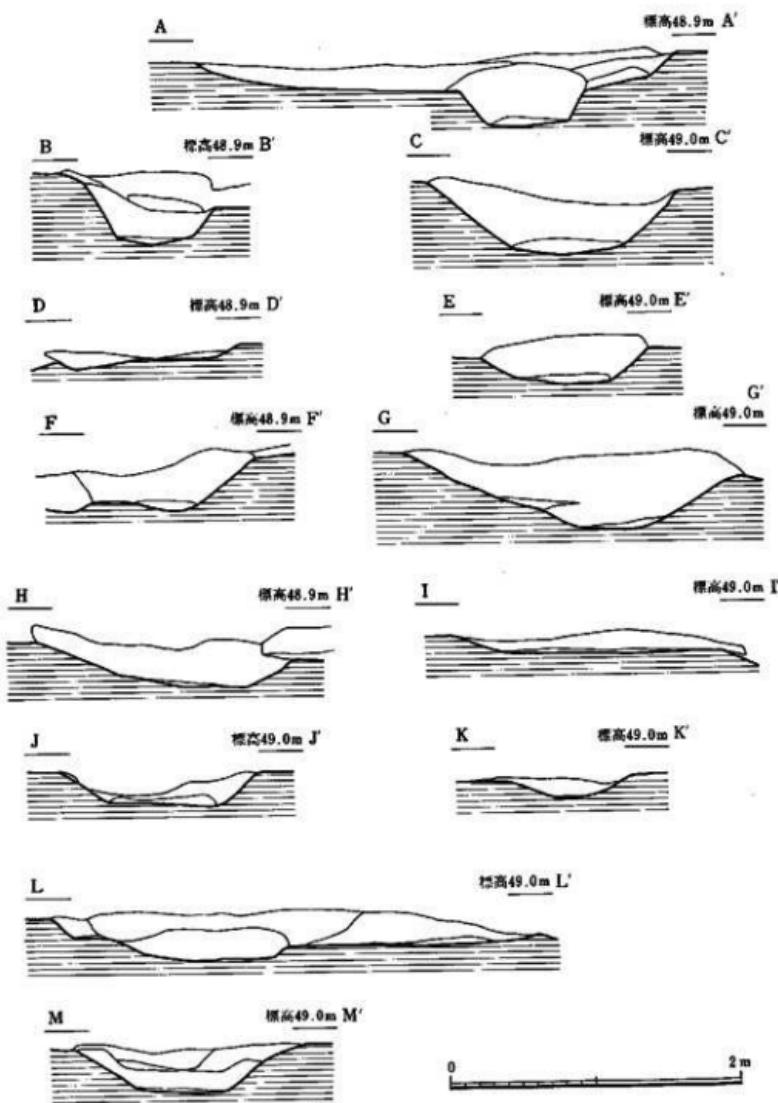


Fig. 51 第31~38号土壤(SK-31~38)実測図II

第8章 K遺跡の記録

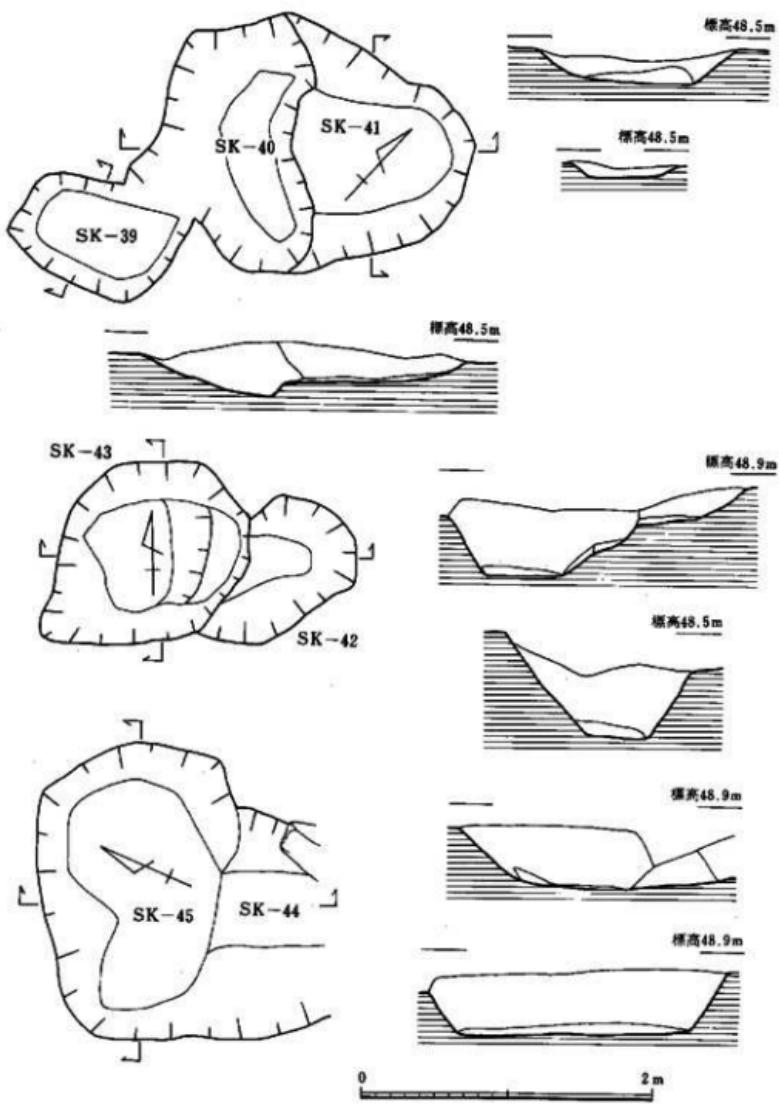


Fig. 52 第39~45号土壌(SK-39~45)実測図

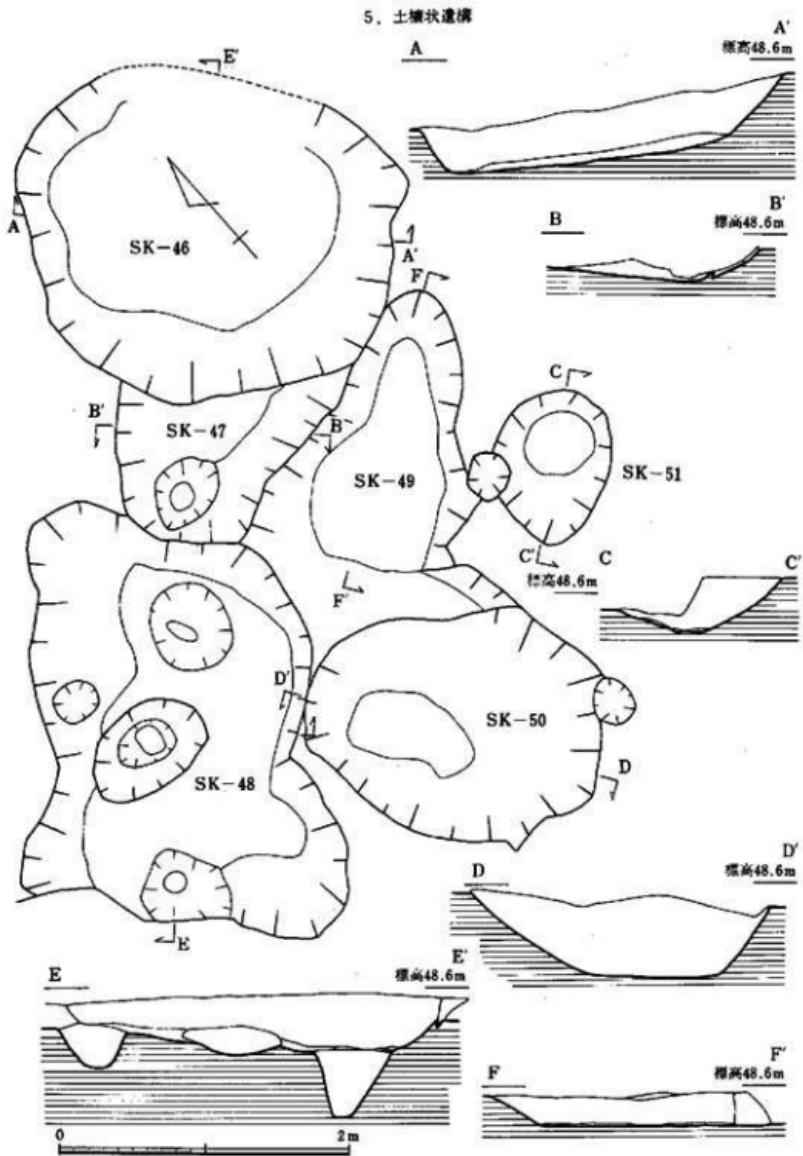


Fig. 53 第46~51号土壤(SK-46~51)実測図

第8章 K遺跡の記録

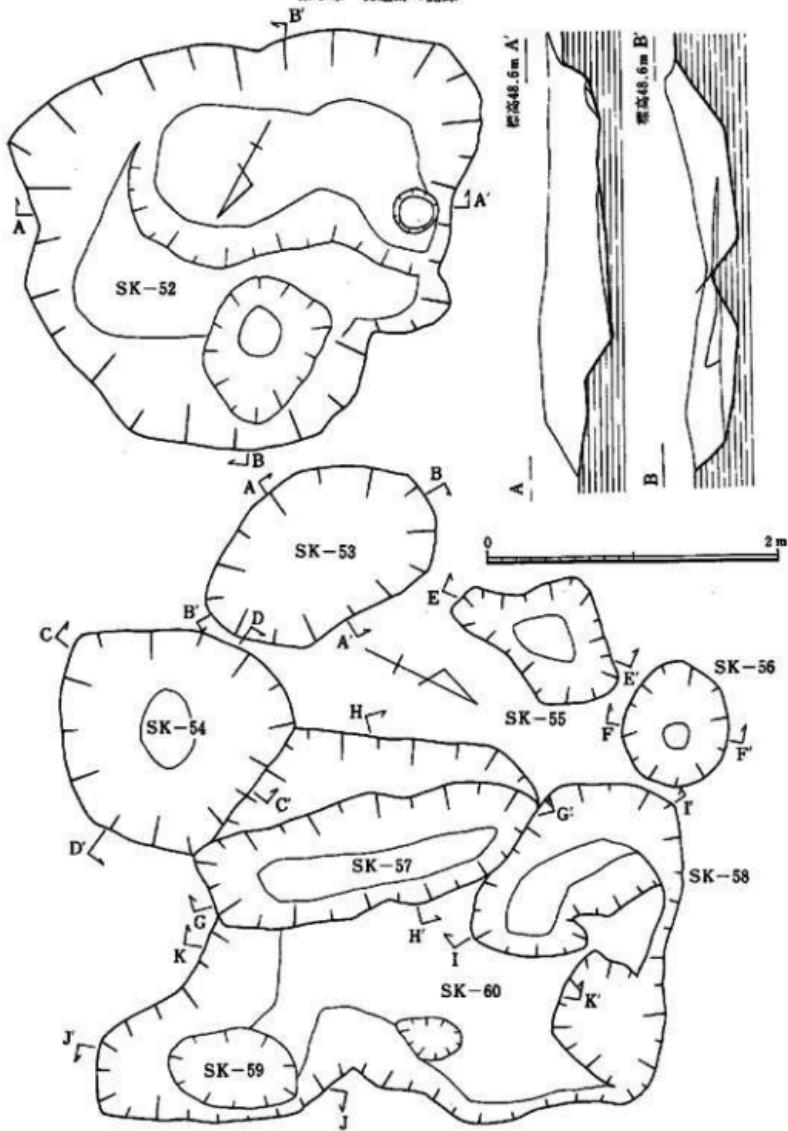


Fig. 54 第52~60号土壤(SK-52~60)実測図 I

5. 土壠状遺構

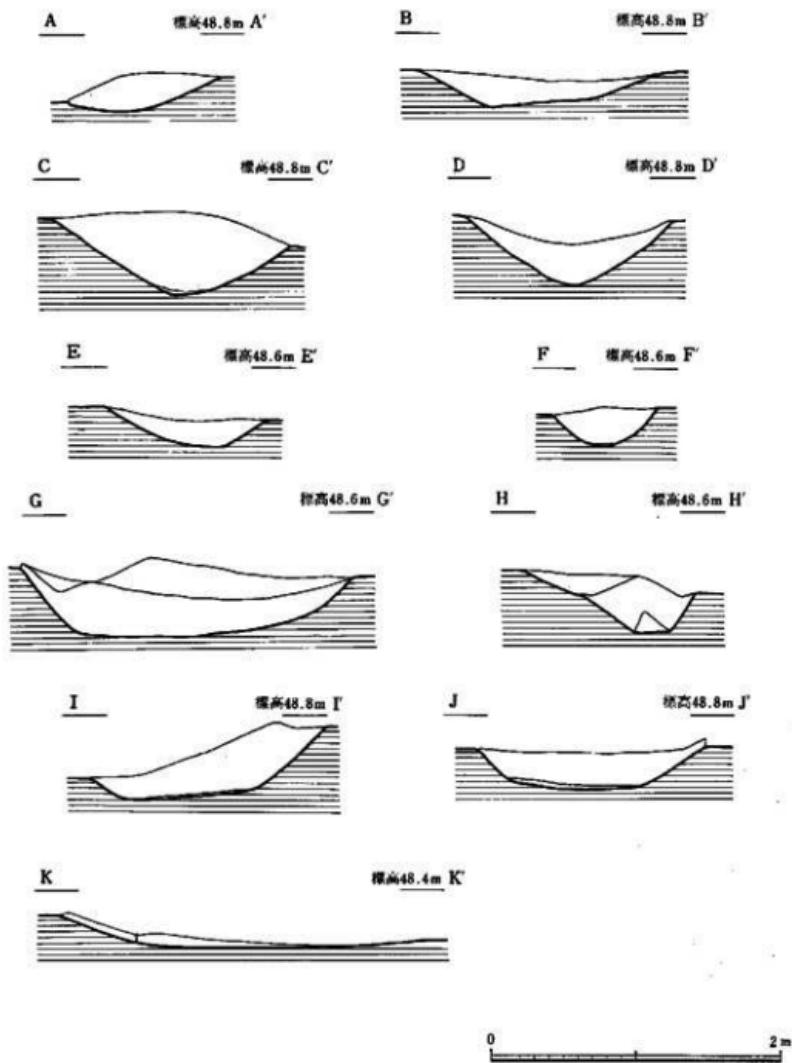


Fig. 55 第52~60号土壤(SK-52~60)実測図 II

第8章 K遺跡の記録

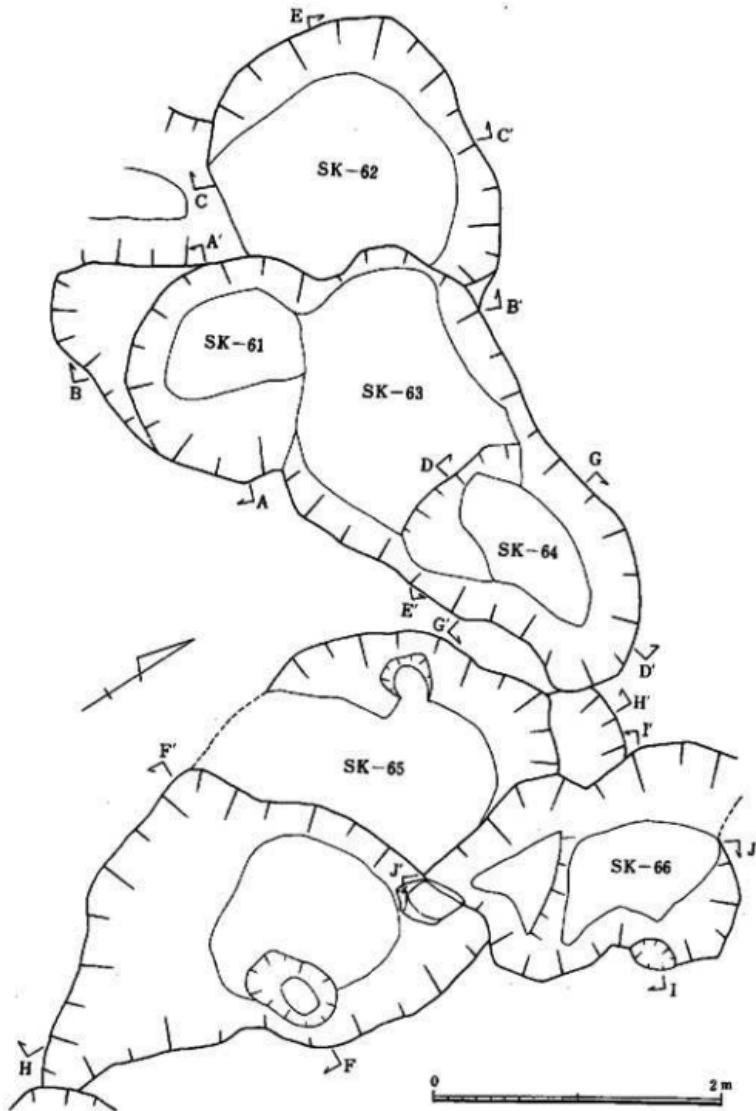


Fig. 56 第61~66号土壠(SK-61~66)実測図 I

5. 土壌状造構

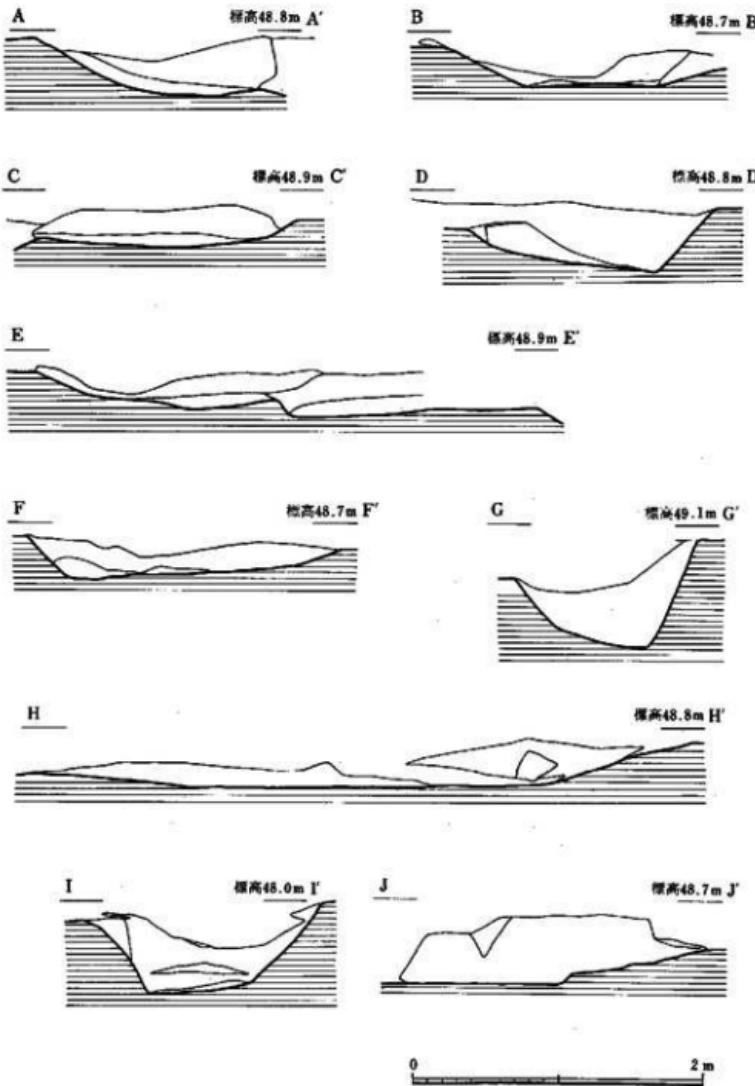


Fig. 57 第61~66号土壤(SK-61~66)実測図II

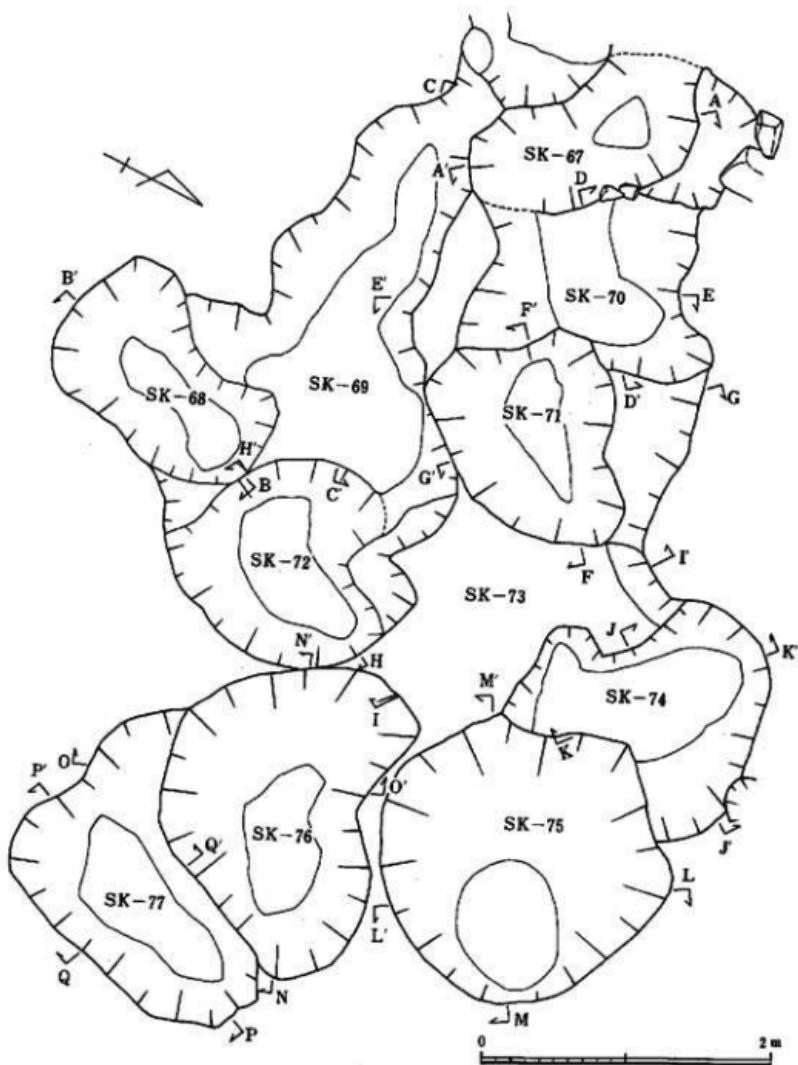


Fig. 58 第67~77号土壌(SK-67~77)実測図 I

5. 土壤状遺情

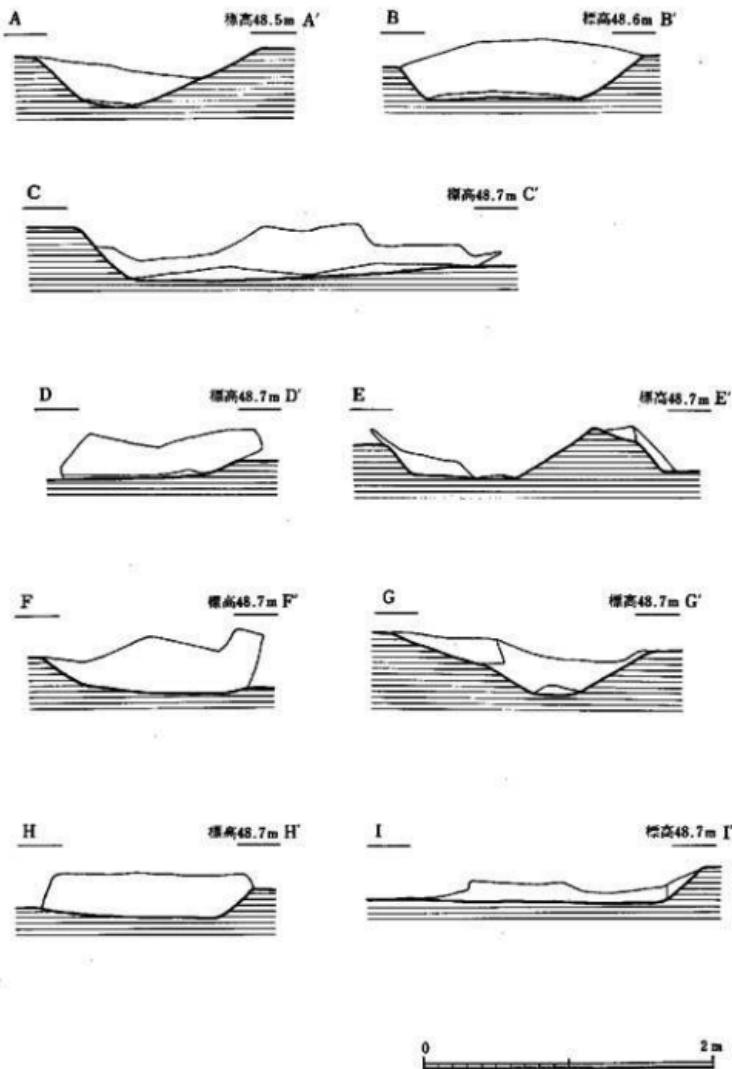


Fig. 59 第67~77号土壤(SK-67~77)実測図 II

第8章 K遺跡の記録

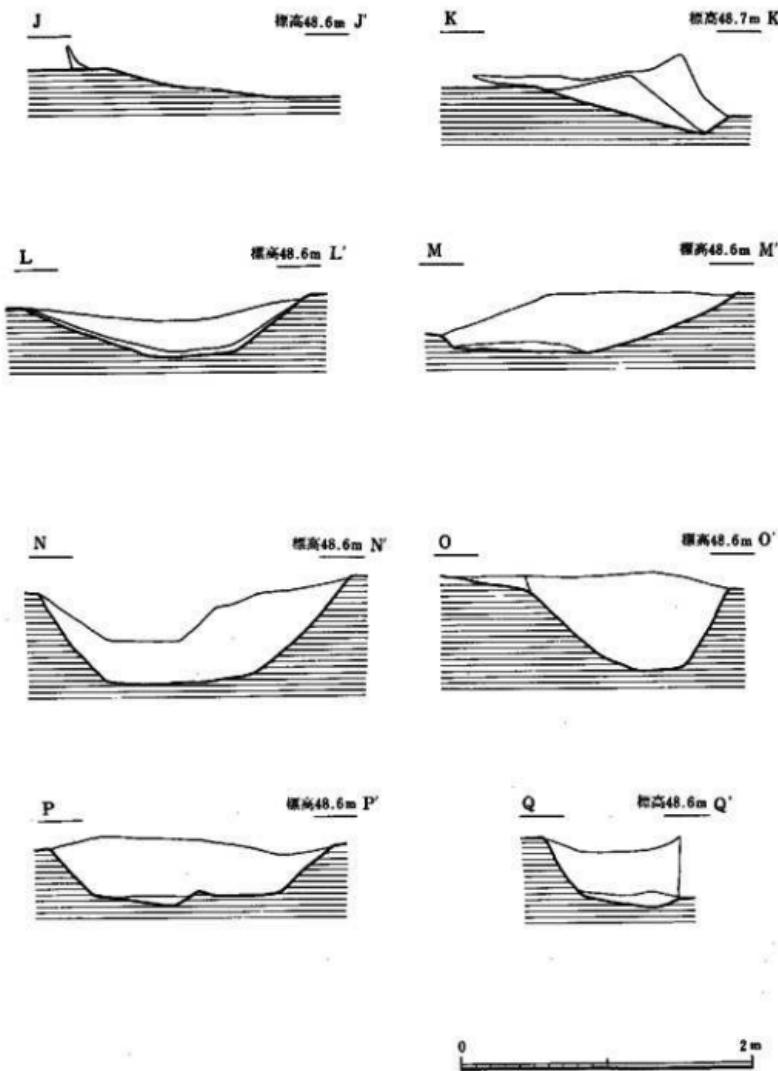


Fig. 60 第67~77号土壙(SK-67~77)実測図 III

5. 土壌状遺構

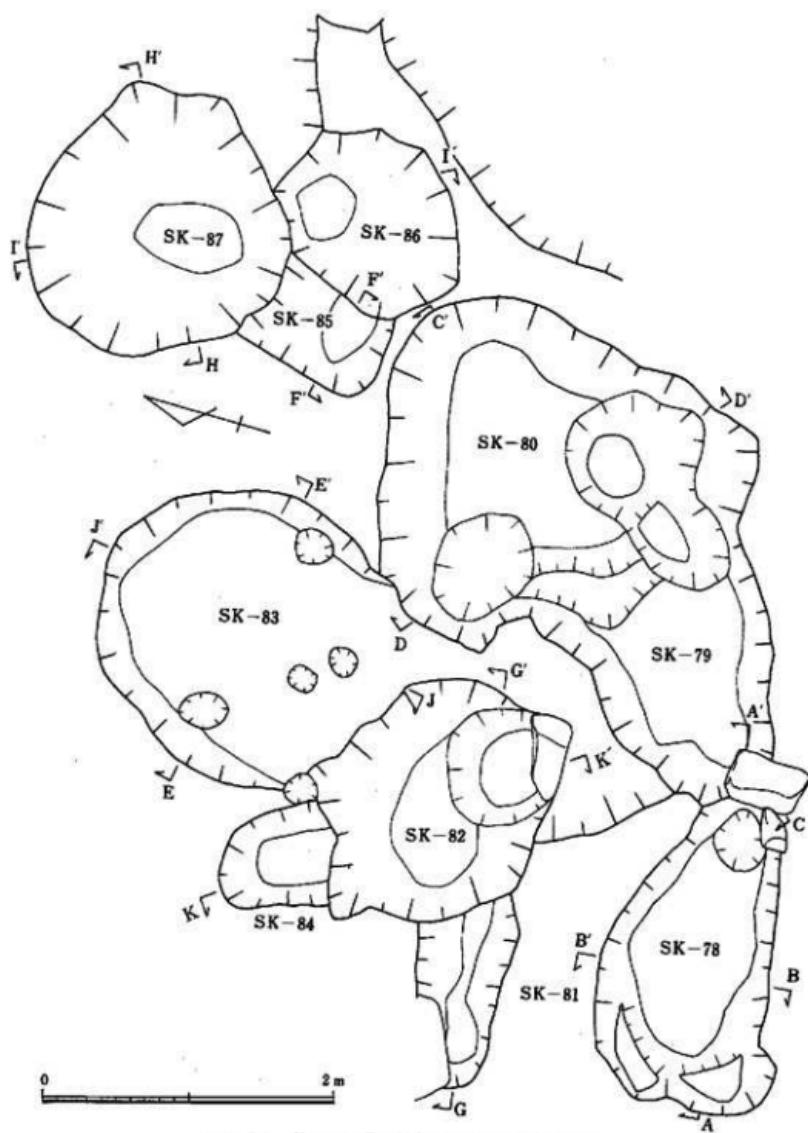


Fig. 61 第78~87号土壤(SK-78~87)実測図 I

第8章 K遺跡の記録

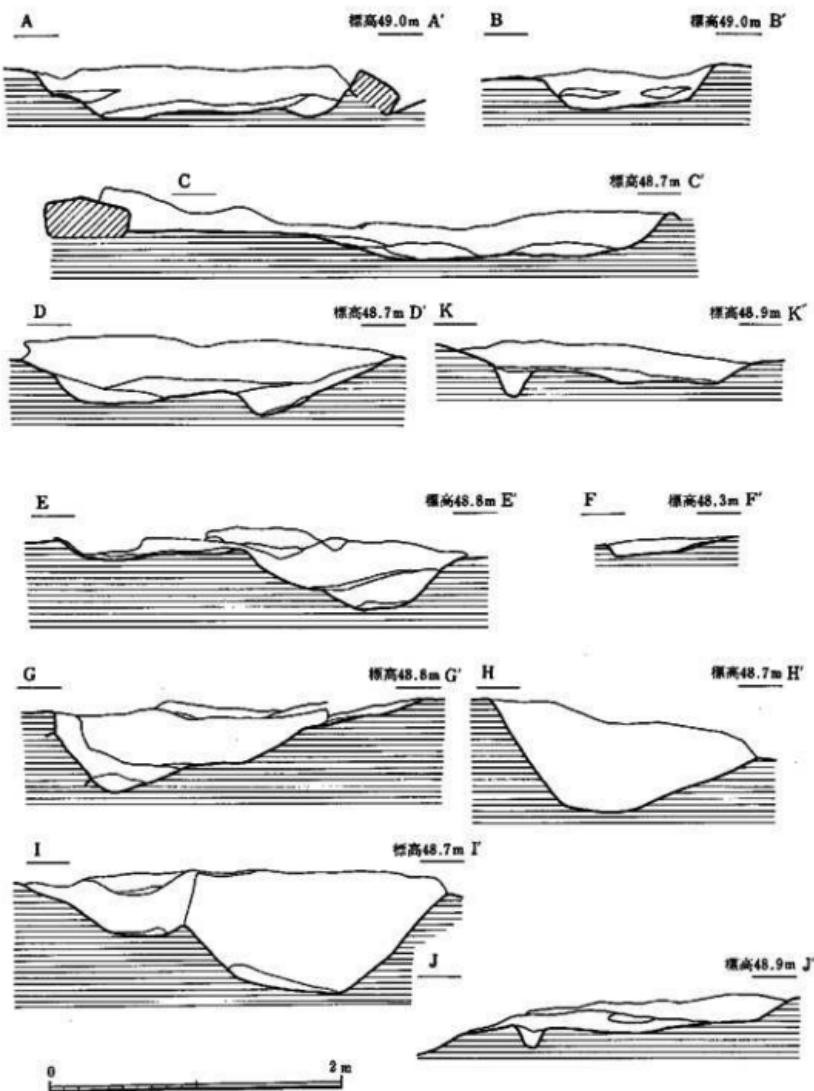


Fig. 62 第78-87号土壤(SK-78-87)実測図II

5. 土壤状達構

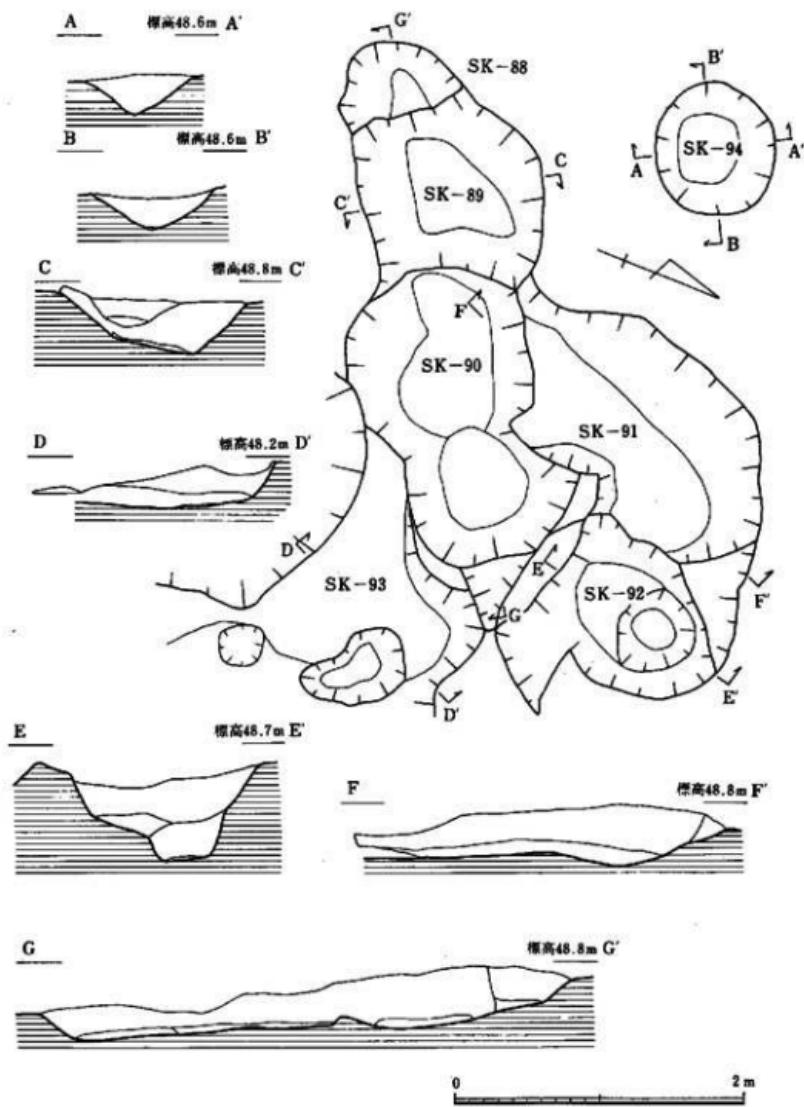


Fig. 63 第88~94号土壤(SK-88~94)実測図

第8章 K遺跡の記録

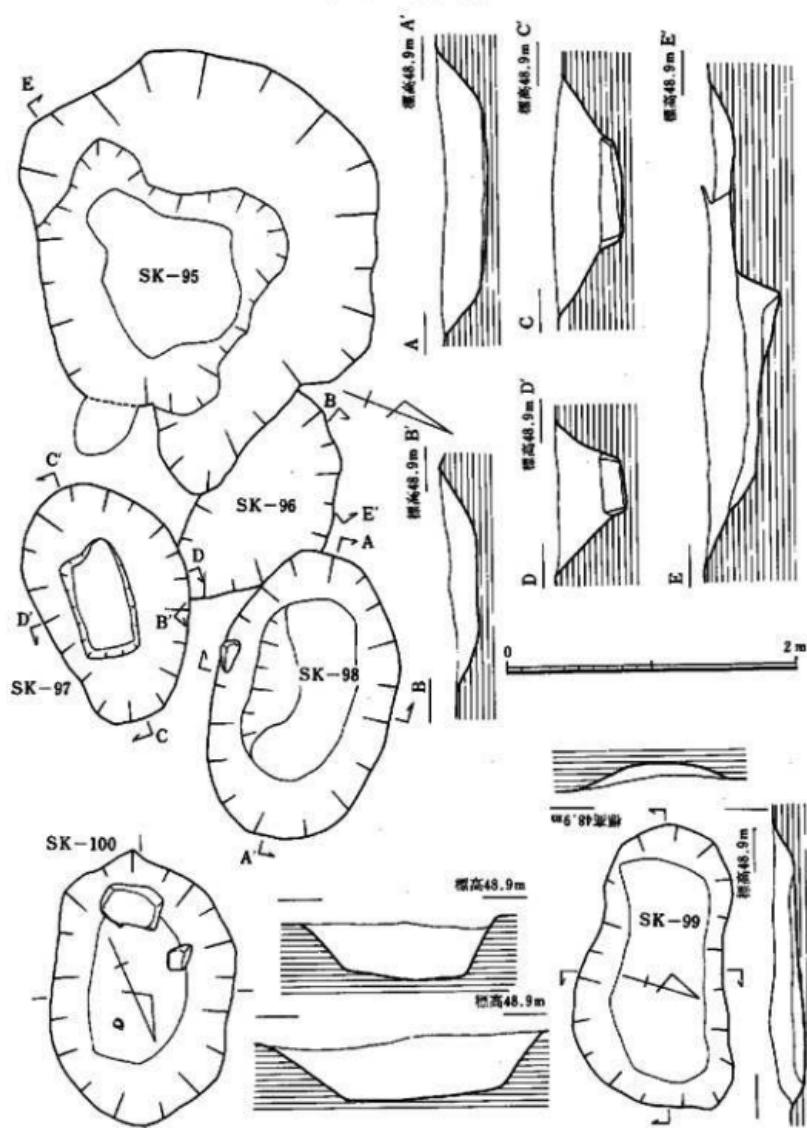


Fig. 64 第95~100号土壤(SK-95~100)実測図

5. 土坡状堆积

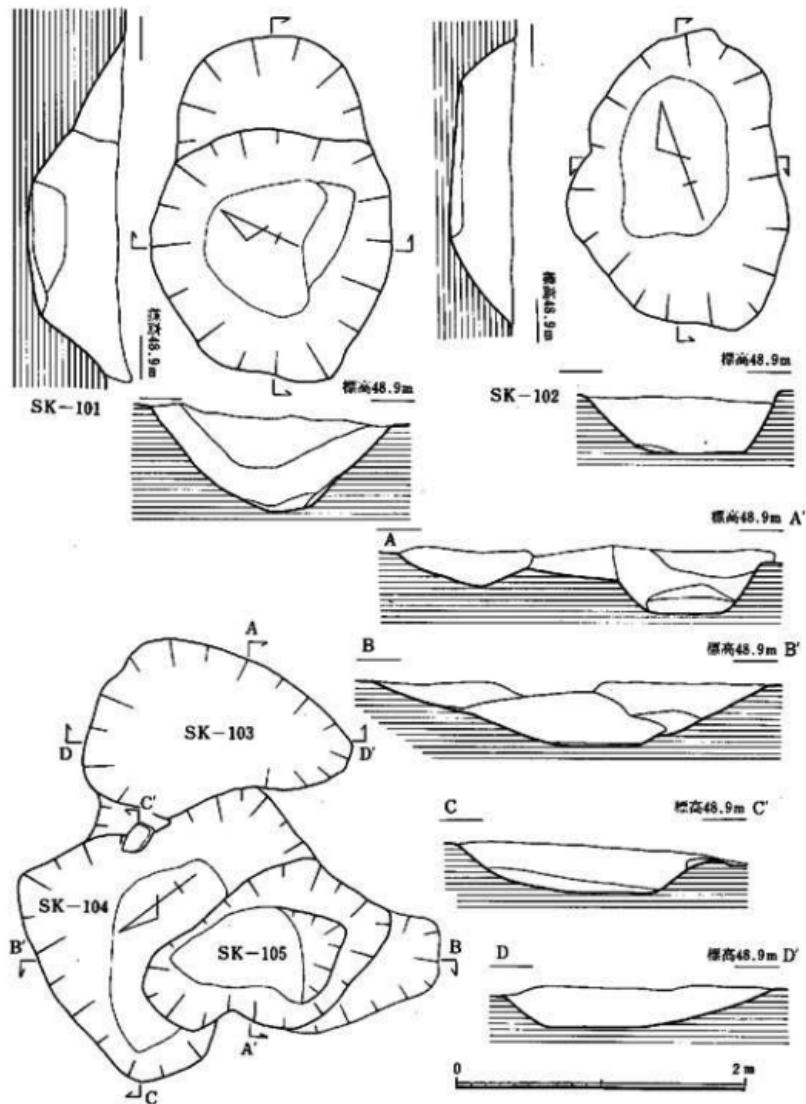


Fig. 65 第101~105号土壤(SK-101~105)実測図

第8章 K達跡の記録

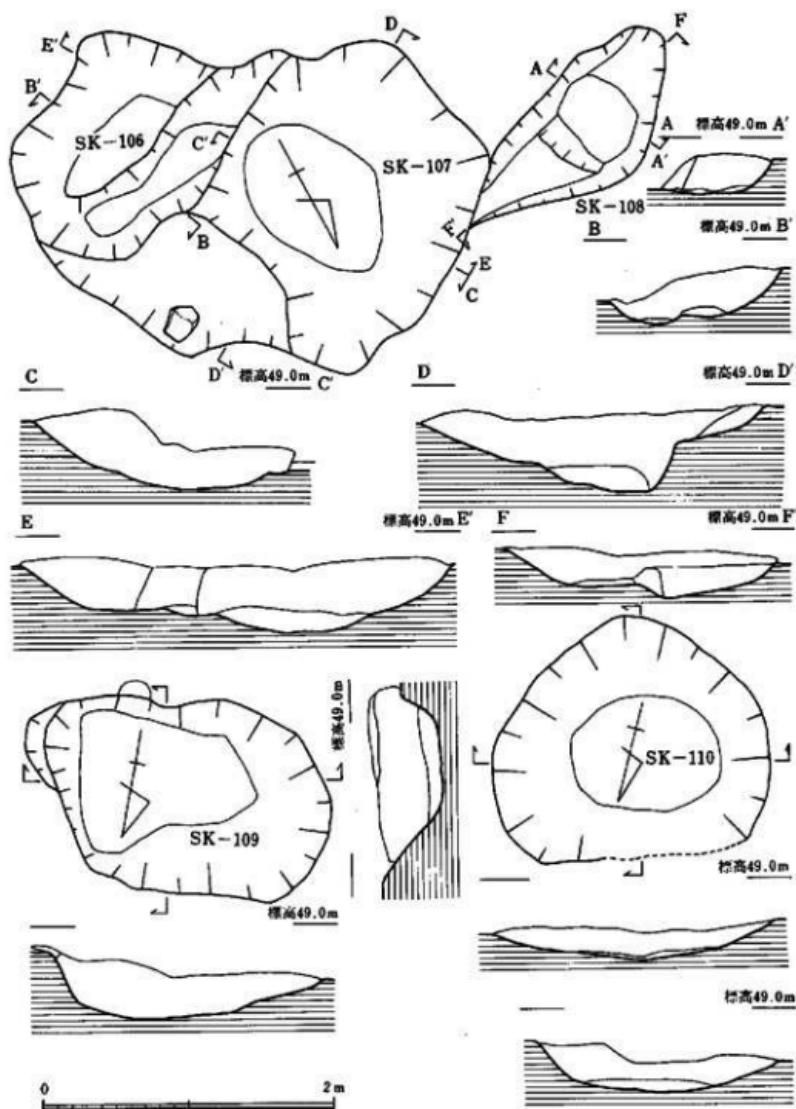


Fig. 66 第106~110号土壤(SK-106~110)実測図

5. 土壤状達構

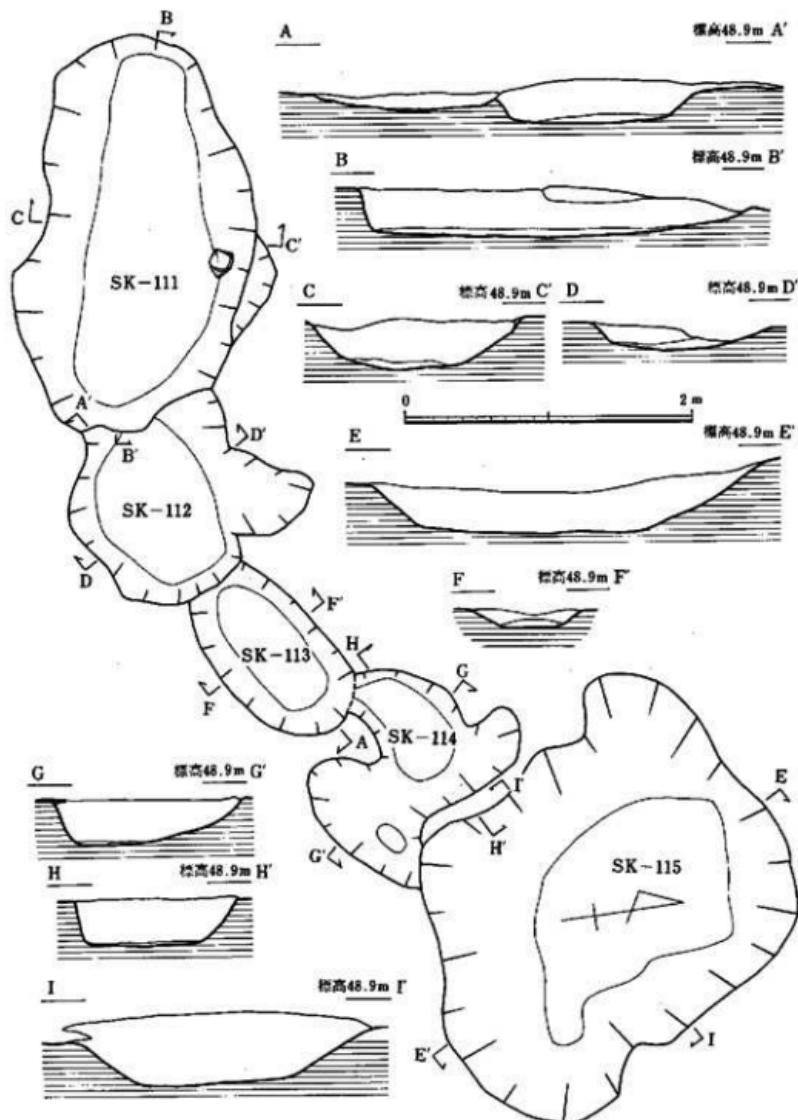


Fig. 67 第111~115号土壤(SK-111~115)実測図

第8章 K遺跡の記録

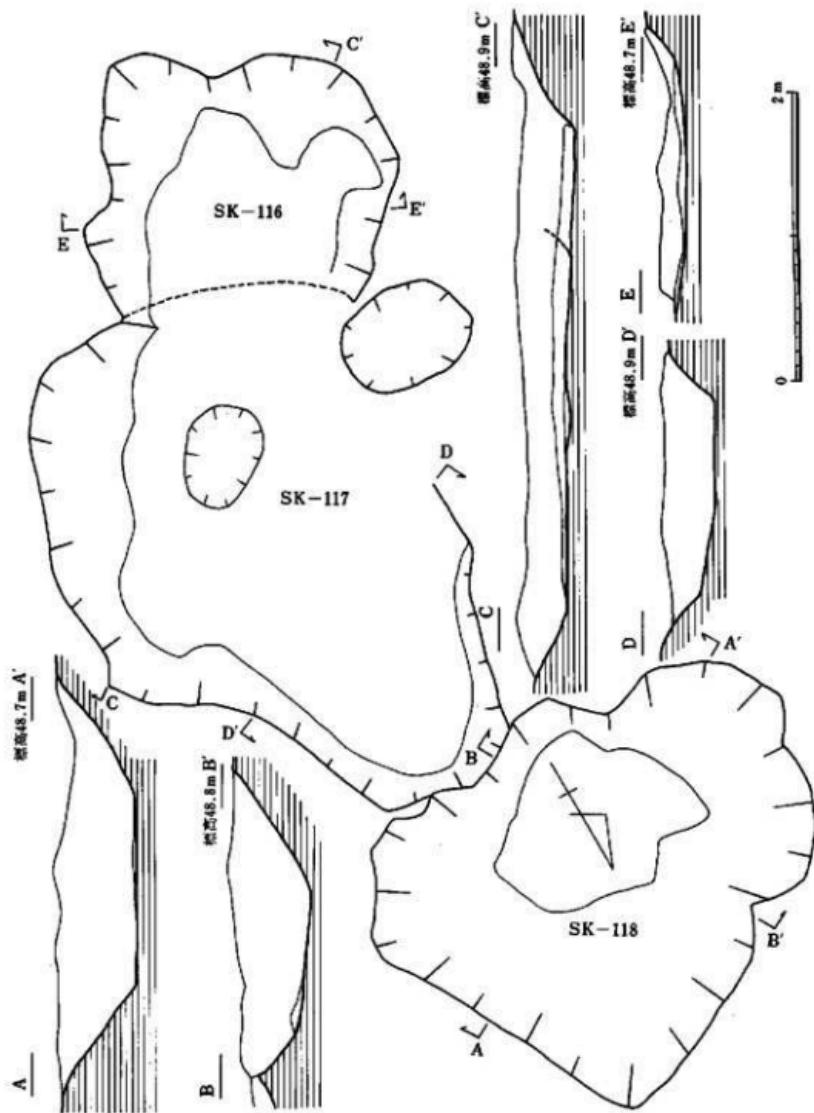


Fig. 68 第116~118号土壤(SK-116~118)実測図

5. 土壌状況図

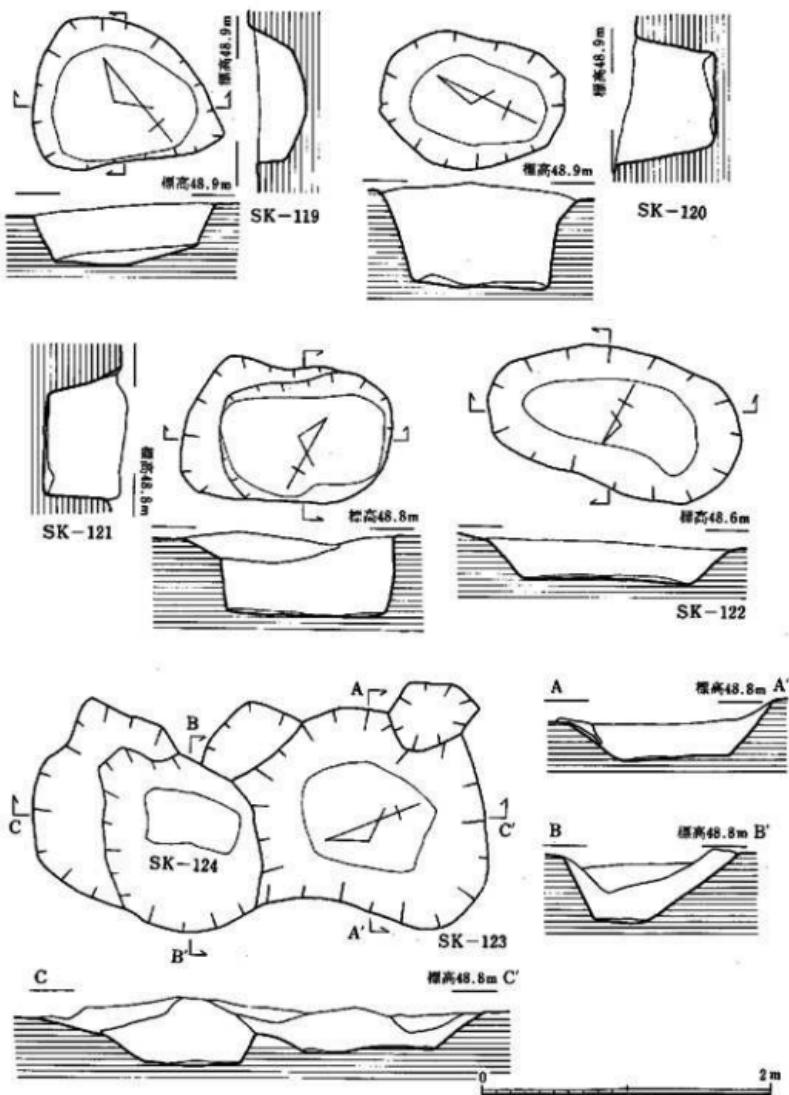


Fig. 69 第119~124号土壤(SK-119~124)実測図

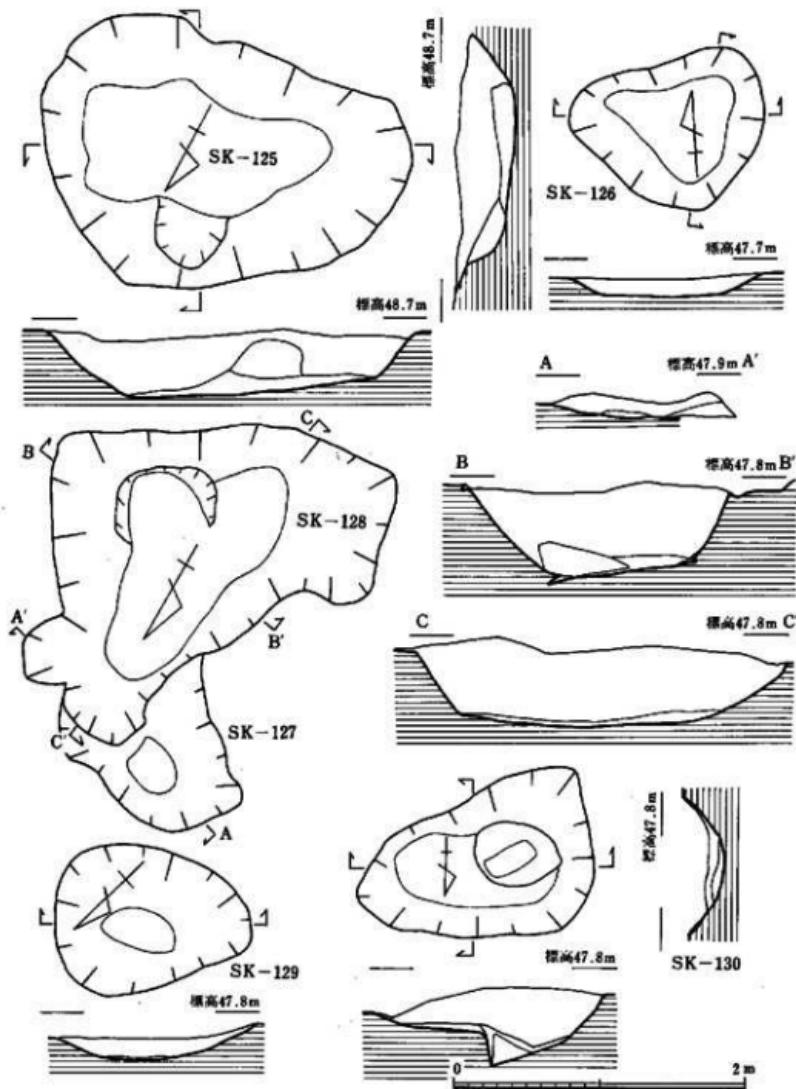


Fig. 70 第125～130号土壤(SK-125～130)実測図

5. 上壤状達標

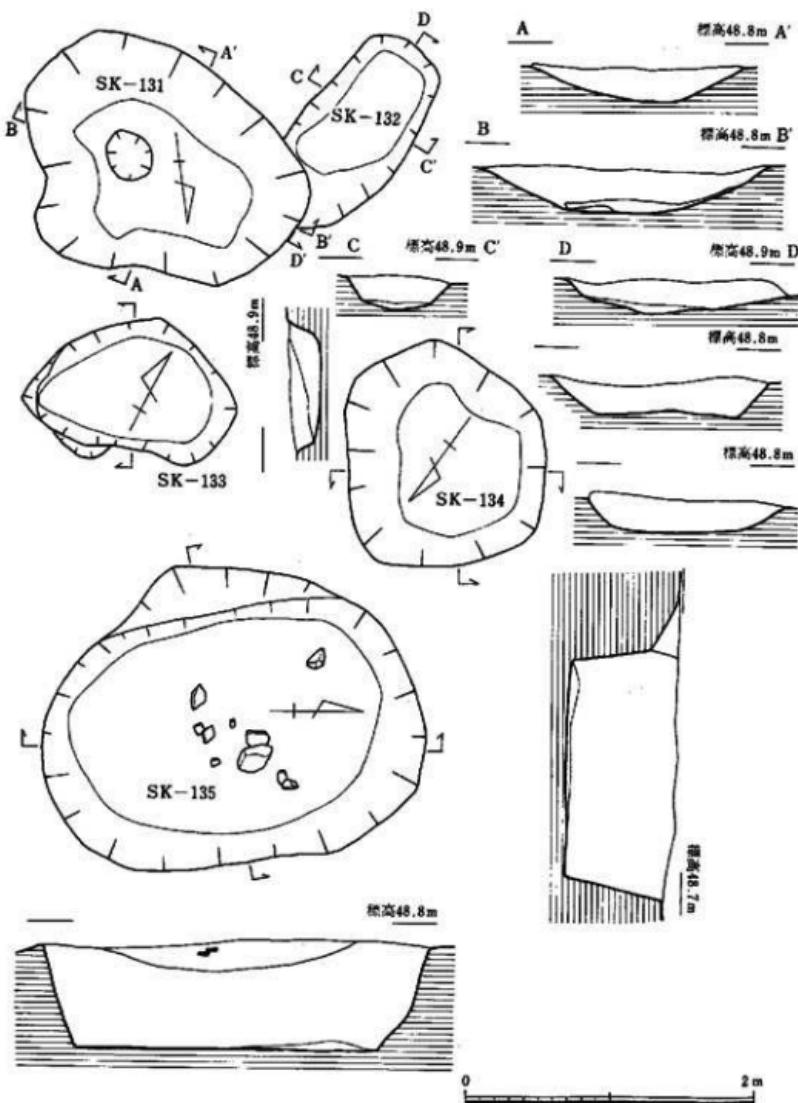


Fig. 71 第131~135号土壤(SK-131~135)実測図

第8章 K遺跡の記録

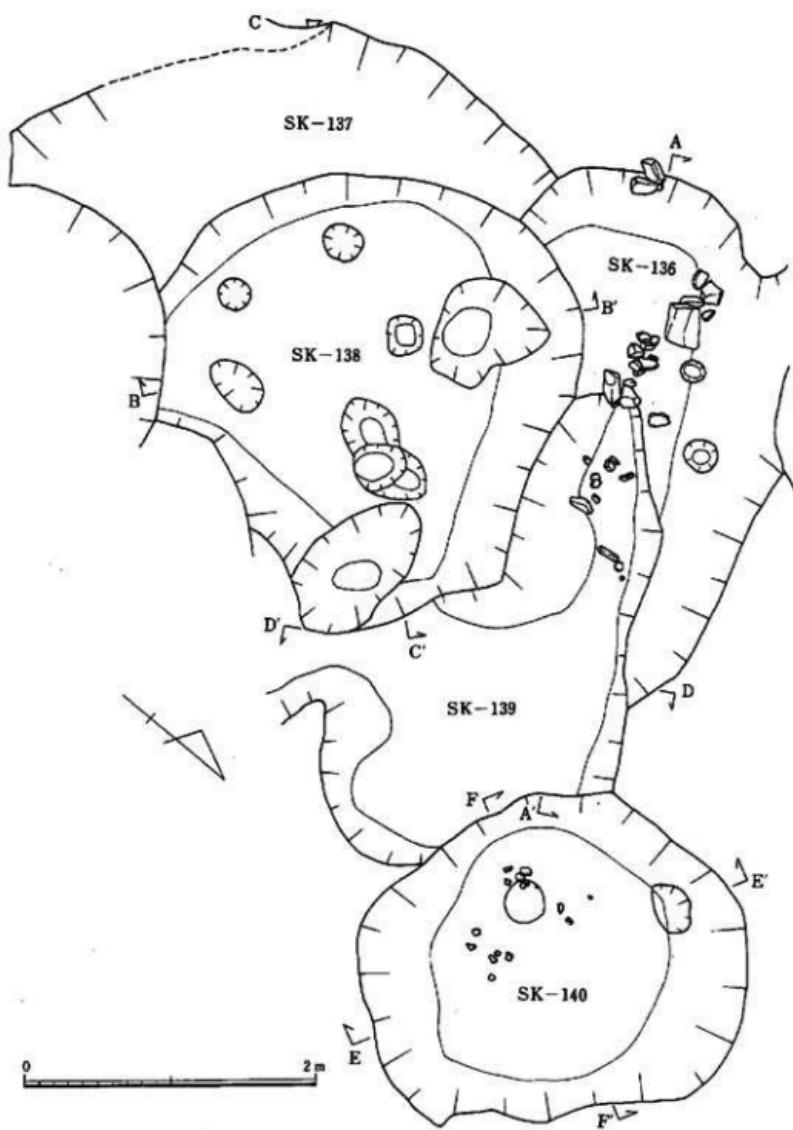


Fig. 72 第136~140号土壤(SK-136~140)実測図 I

5. 土壤剖面图

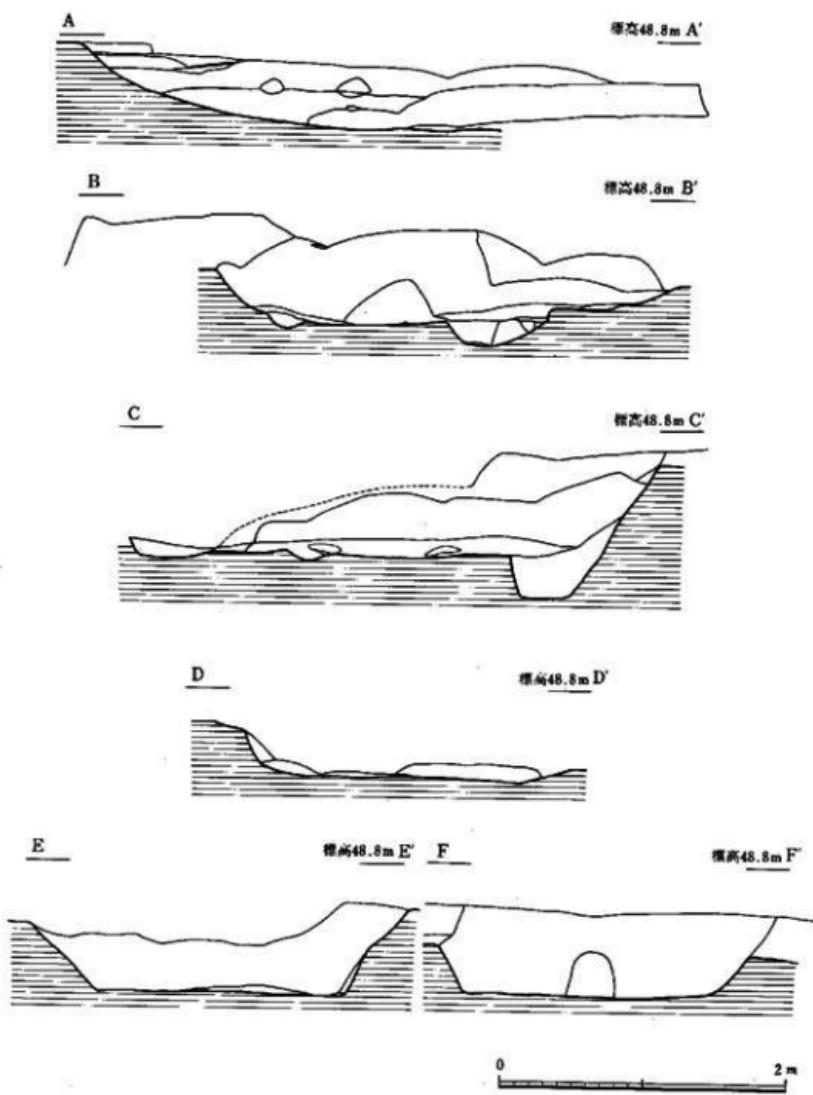


Fig. 73 第136~140号土壤(SK-136~140)实测图 II

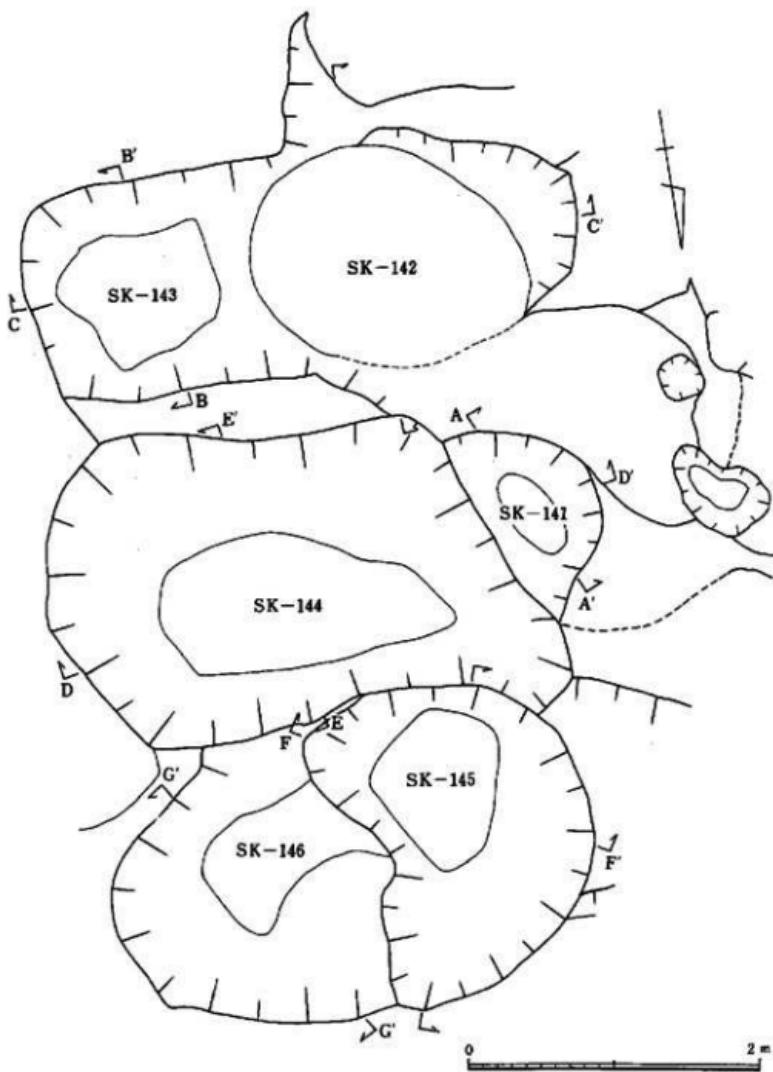


Fig. 74 第141~146号土壤(SK-141~146)実測図 I

5. 土壤状遺構

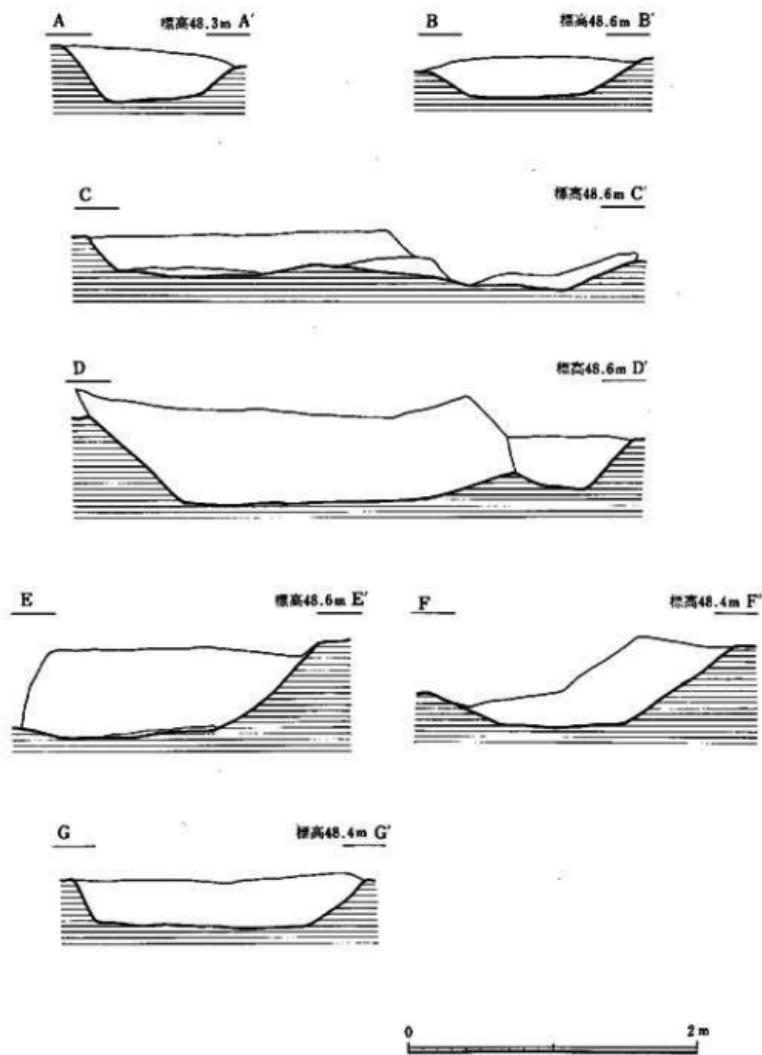


Fig. 75 第141~146号土壤(SK-141~146)実測図II

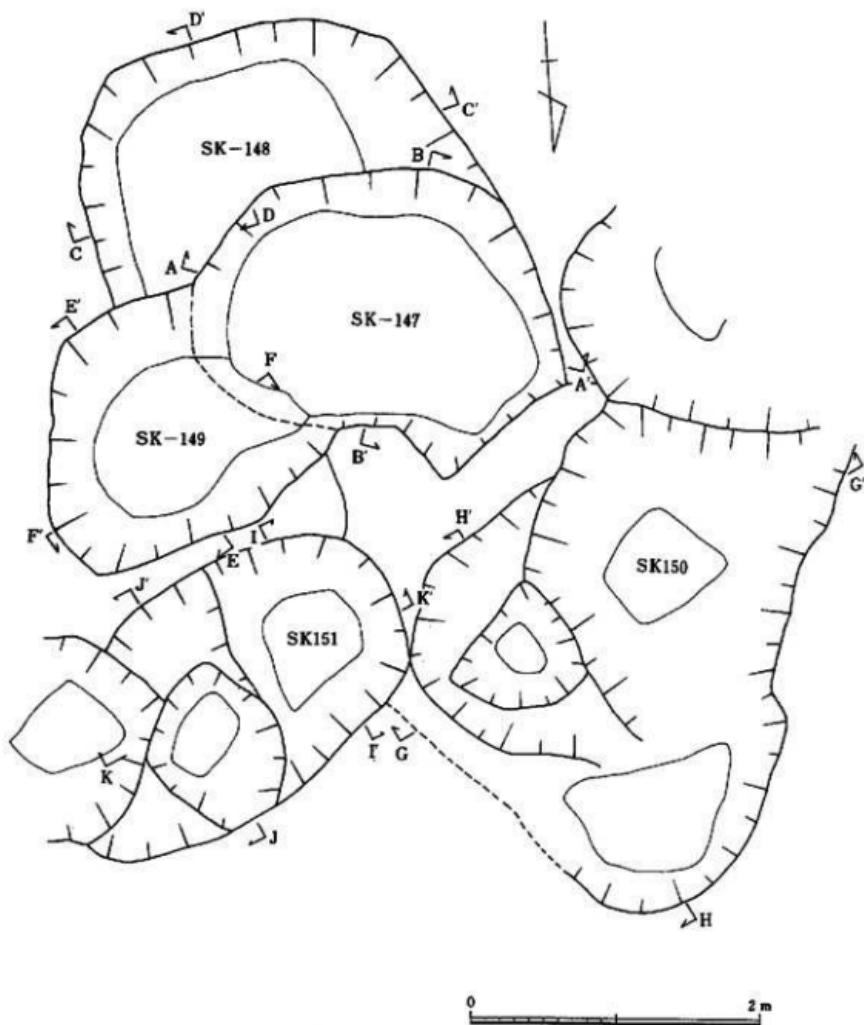


Fig. 76 第147～151号土壙(SK-147～151)実測図 I

5. 土坡状遗構

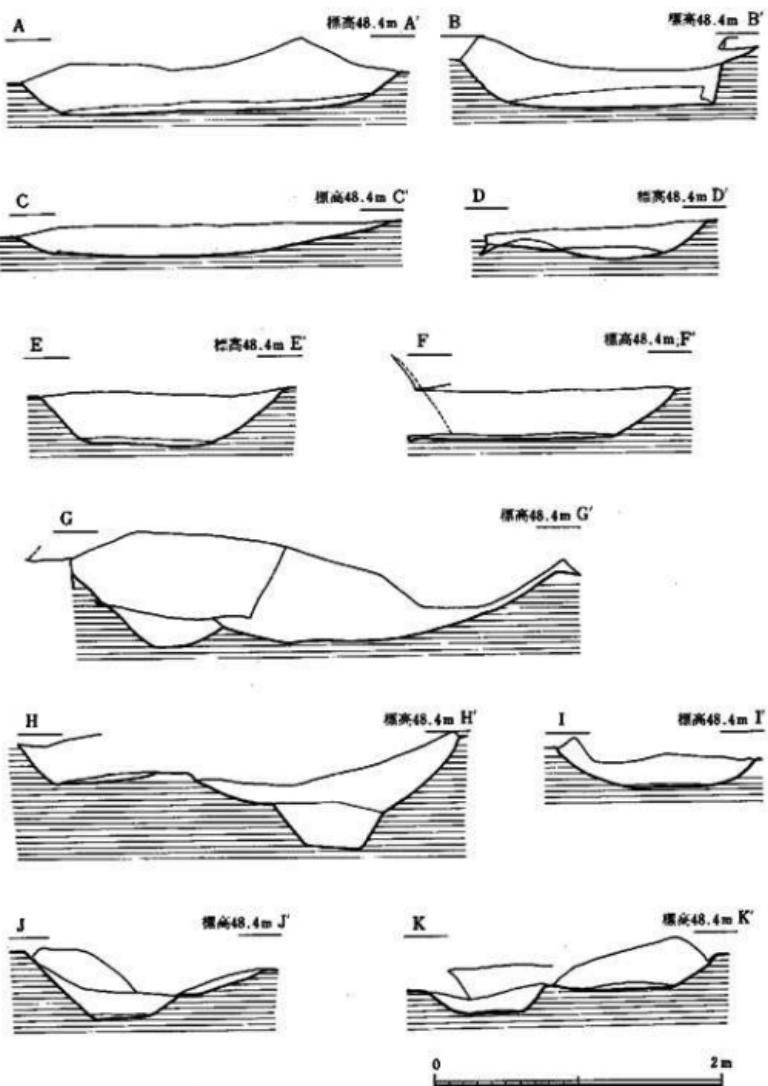


Fig. 77 第147~151号土壤(SK-147~151)実測図II

第8章 K遺跡の記録

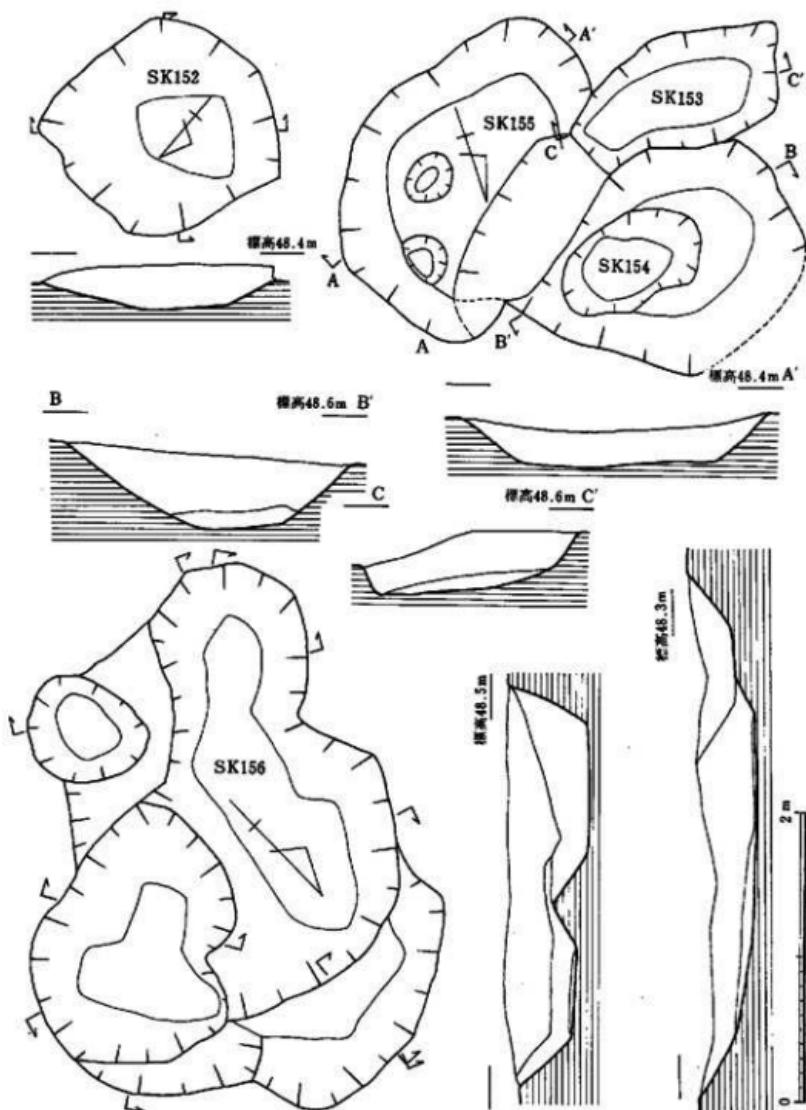


Fig. 78 第152~156号土壤(SK-152~156)実測図

5. 土壠状遺構

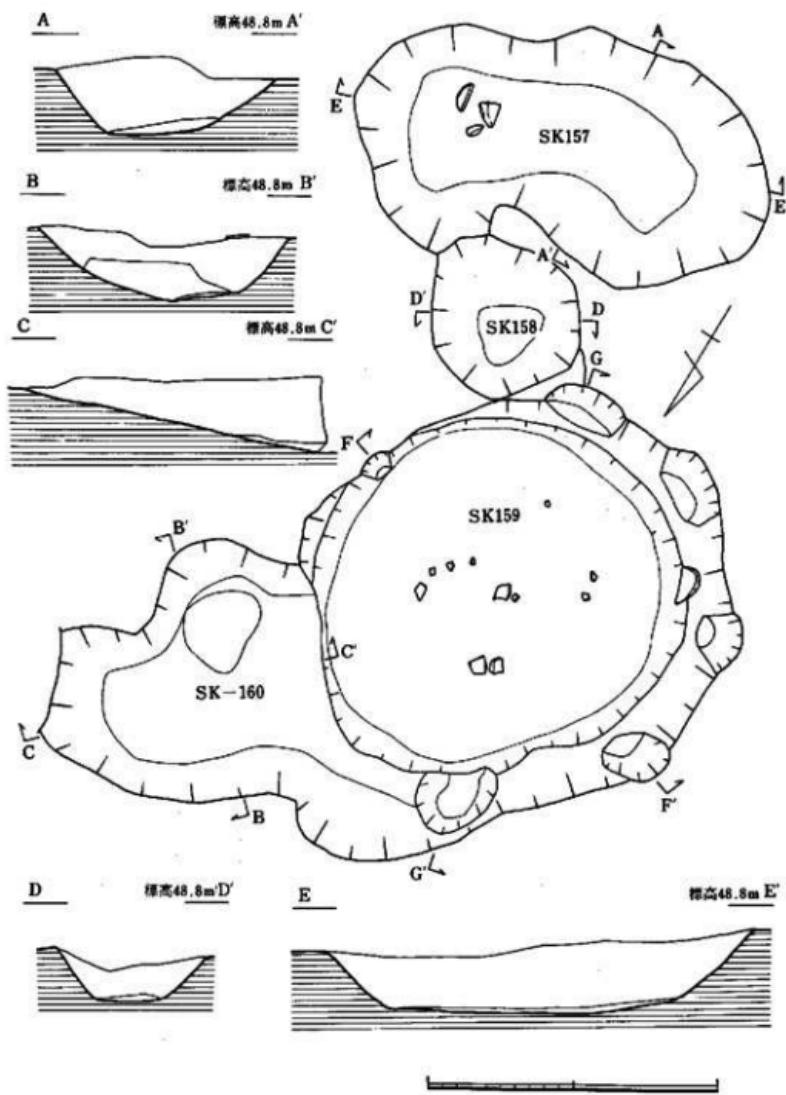


Fig. 79 第157~160号土壤(SK-157~160)実測図

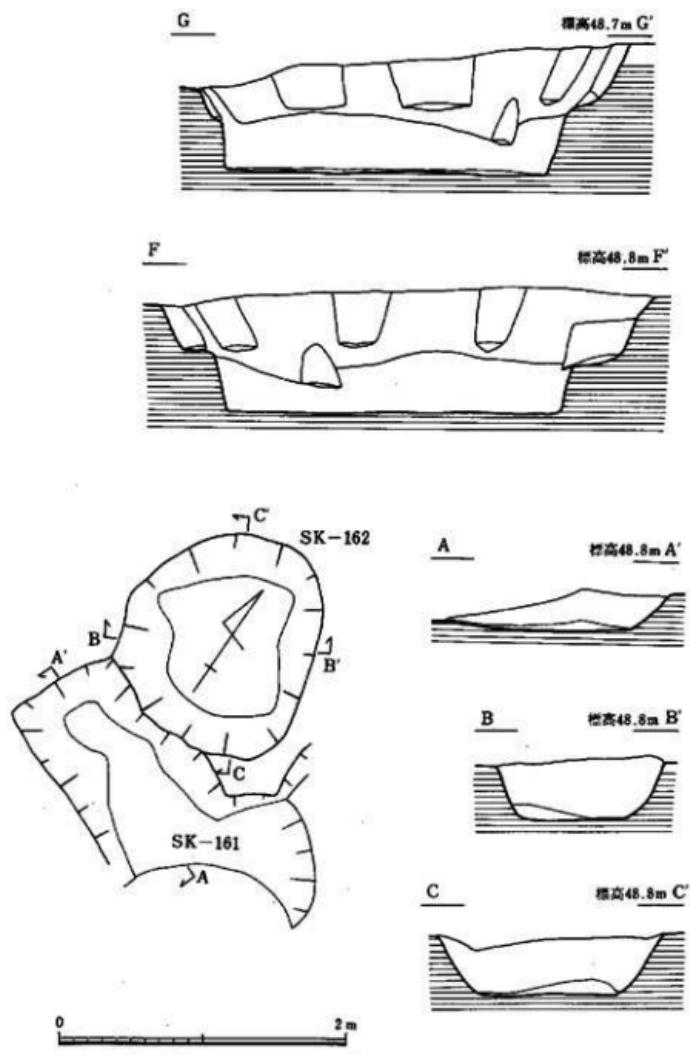


Fig. 80 第159・161・162号土壇(SK-159・161・162)実測図

5. 土壌状構

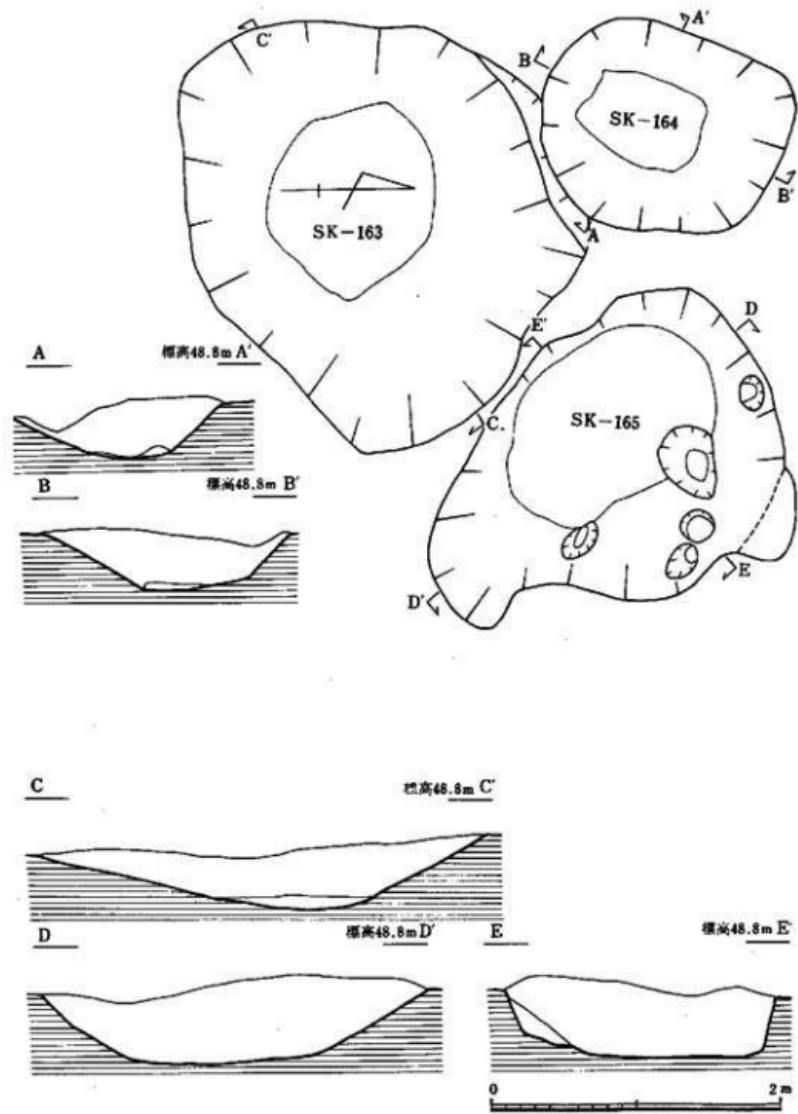


Fig. 81 第163~165号土壤(SK-163~165)実測図

第8章 K遺跡の記録

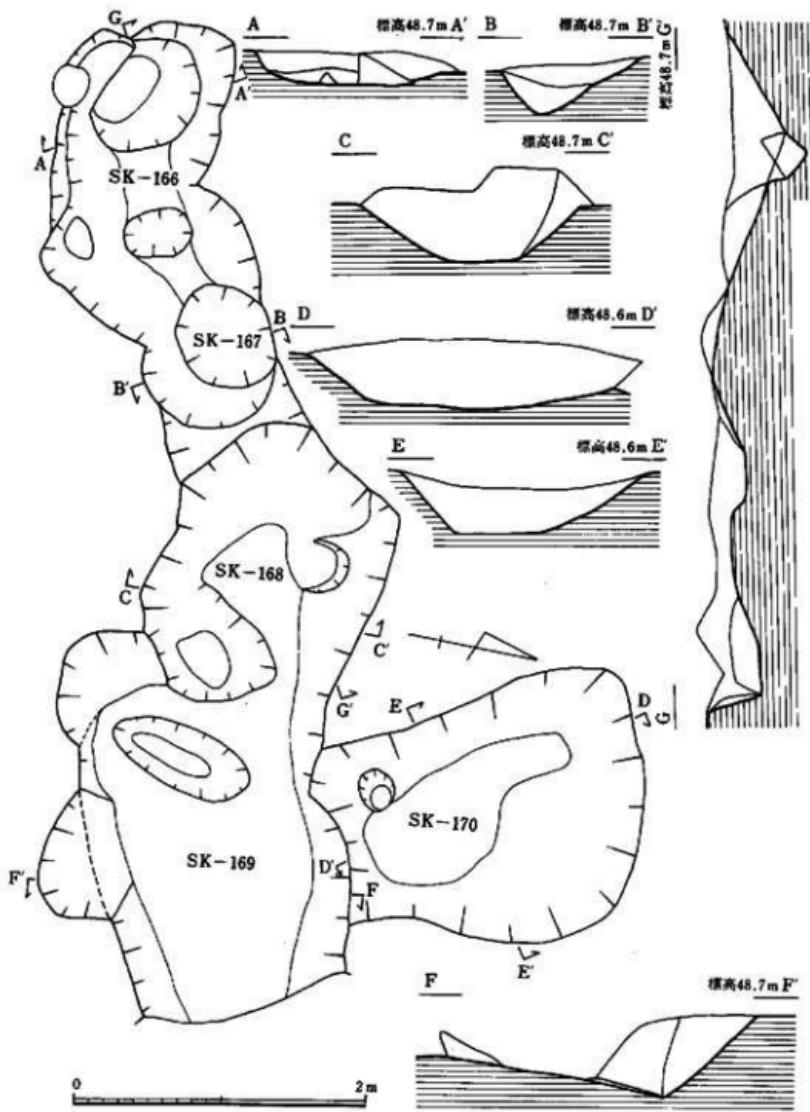


Fig. 82 第166～170号土壤(SK-166～170)実測図

5. 土壌状造構

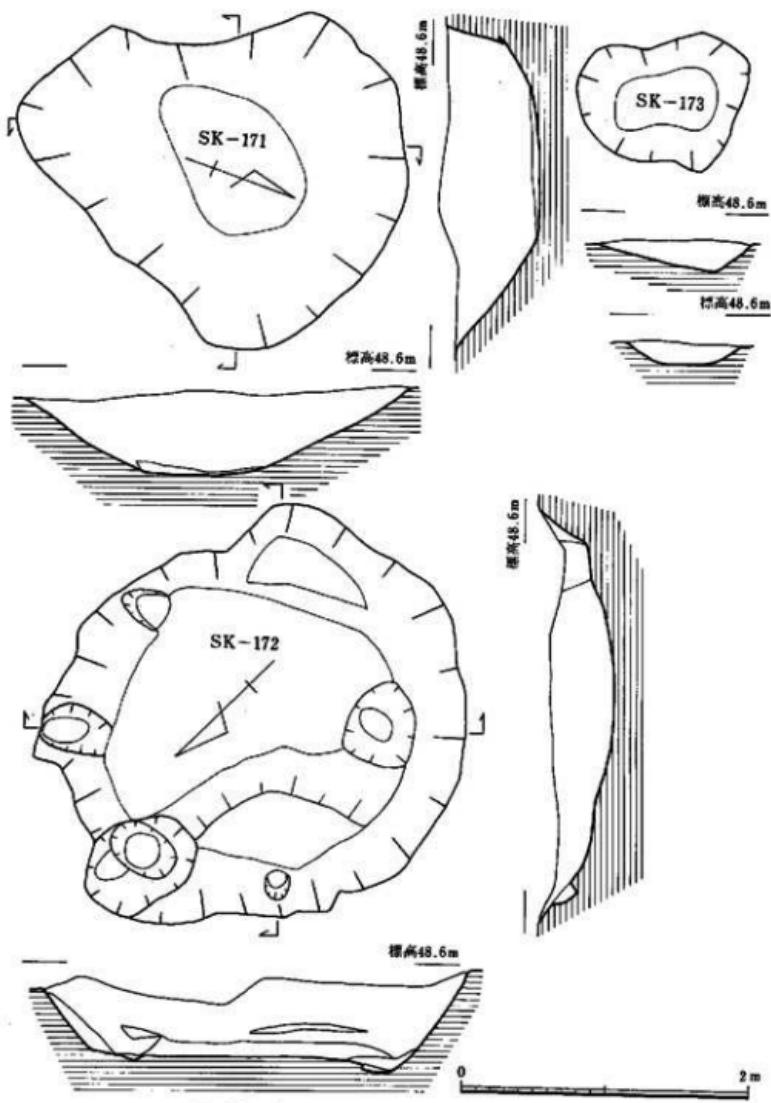


Fig. 83 第171~173号土壤(SK-171~173)実測図

第8章 K遺跡の記録

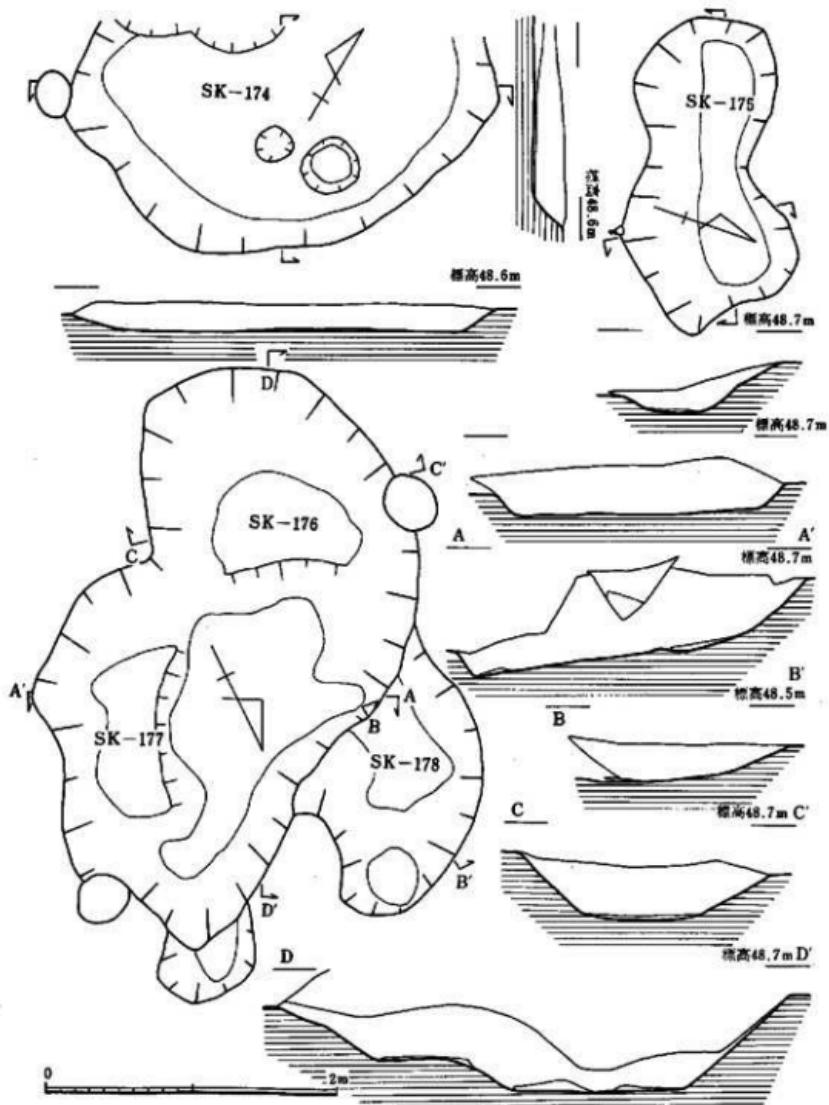


Fig. 84 第174～178号土壤(SK-174～178)実測図

5. 土壌状遺構

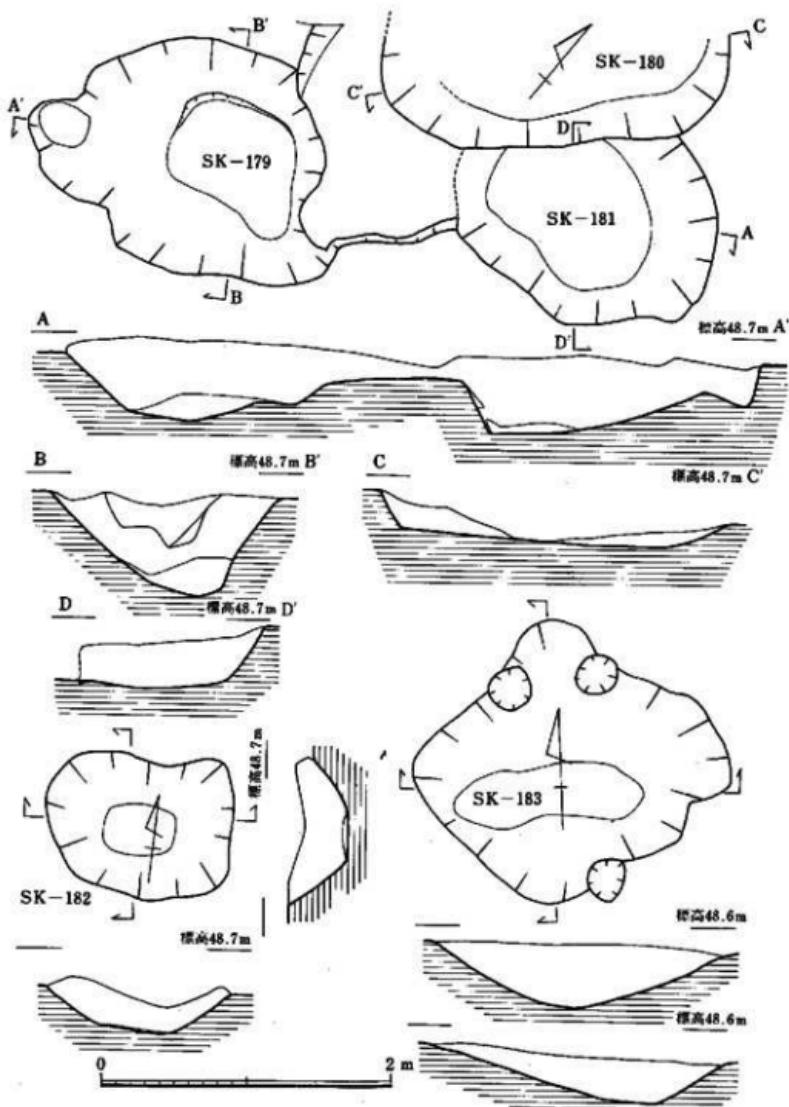


Fig. 85 第179~183号土壤(SK-179~183)実測図

第8章 K遺跡の記録

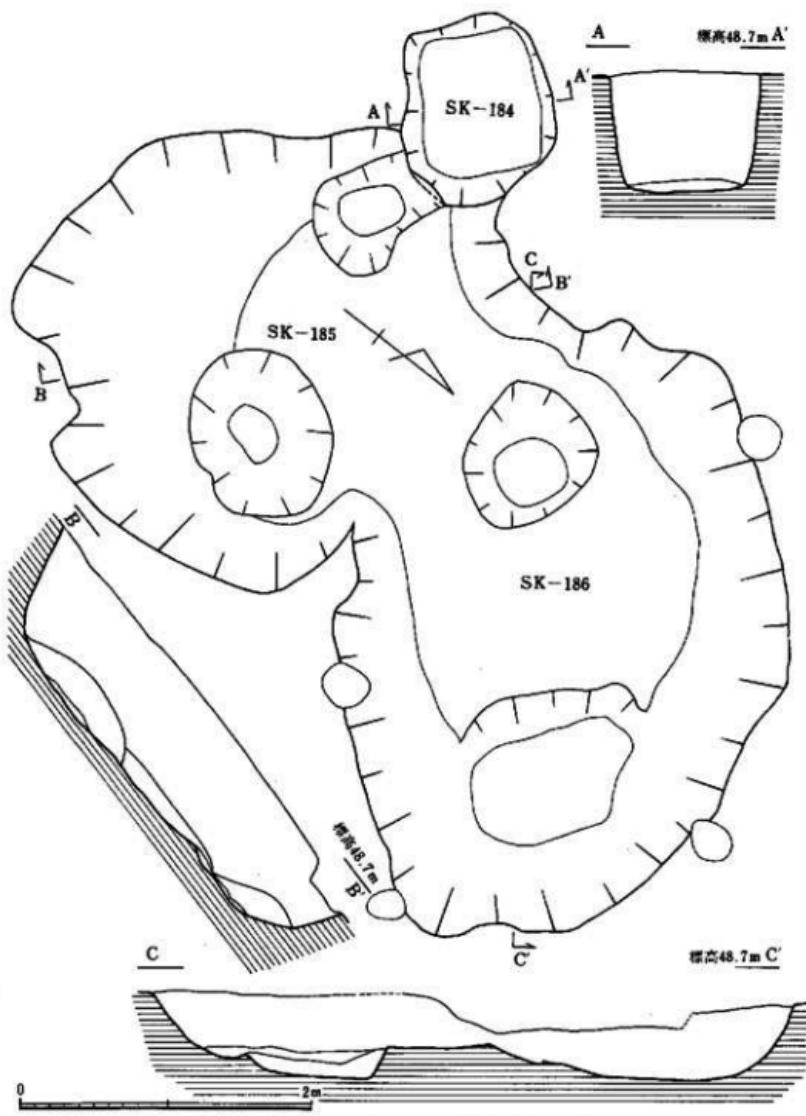


Fig. 86 第184～186号土壙(SK-184～186)実測図

5. 土壌状造構

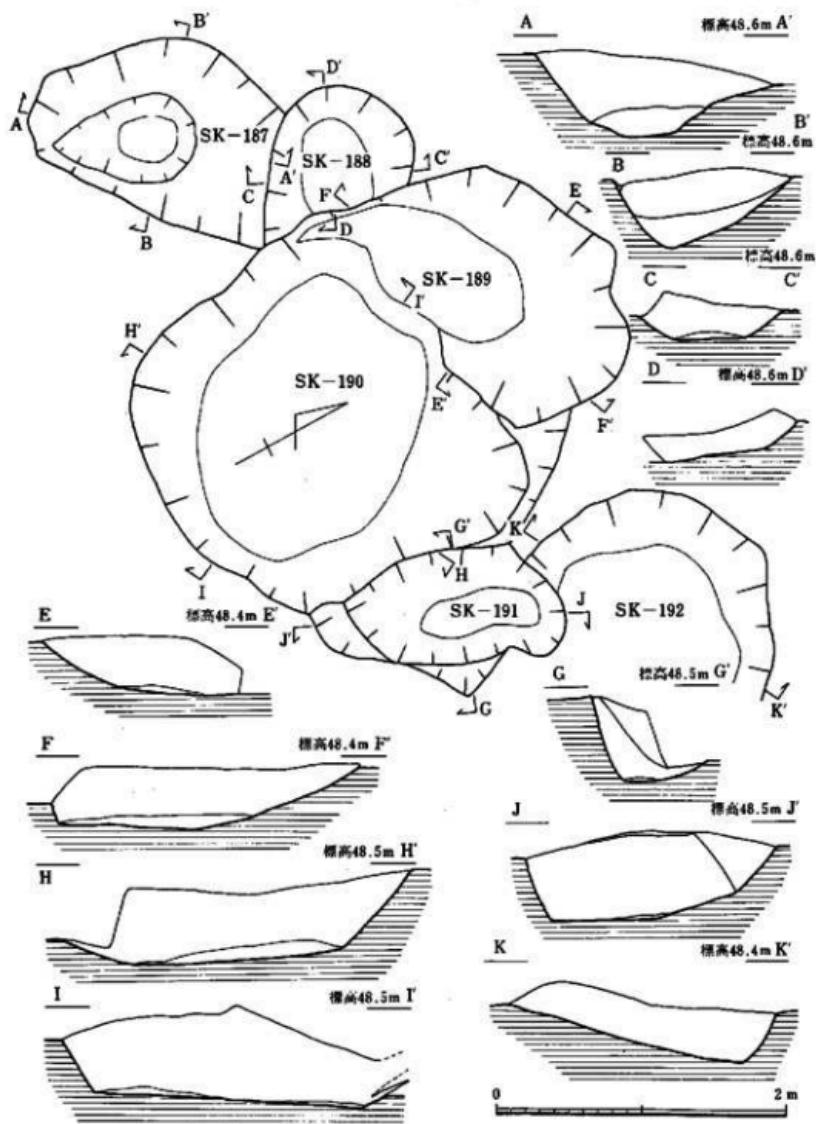


Fig. 87 第187~192号土壤(SK-187~192)実測図

第8章 K遺跡の記録

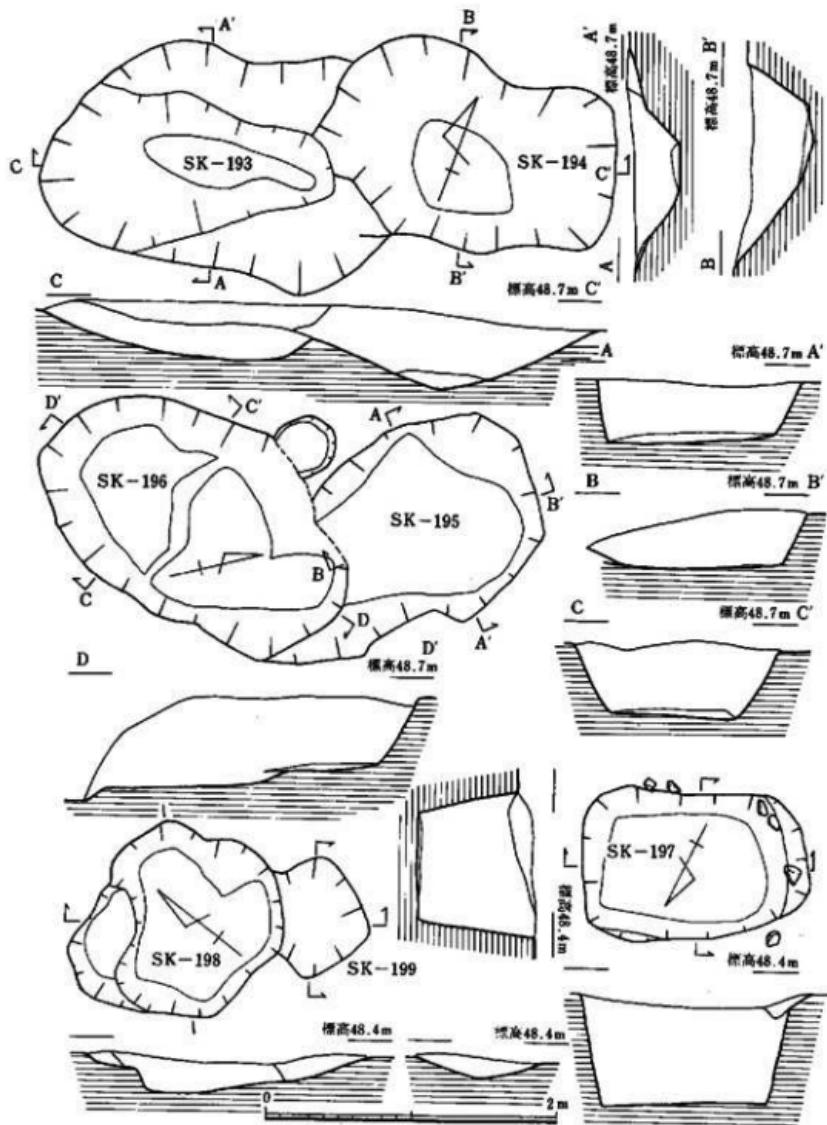


Fig. 88 第193~199号土壤(SK-193~199)実測図

5. 土壌状況図

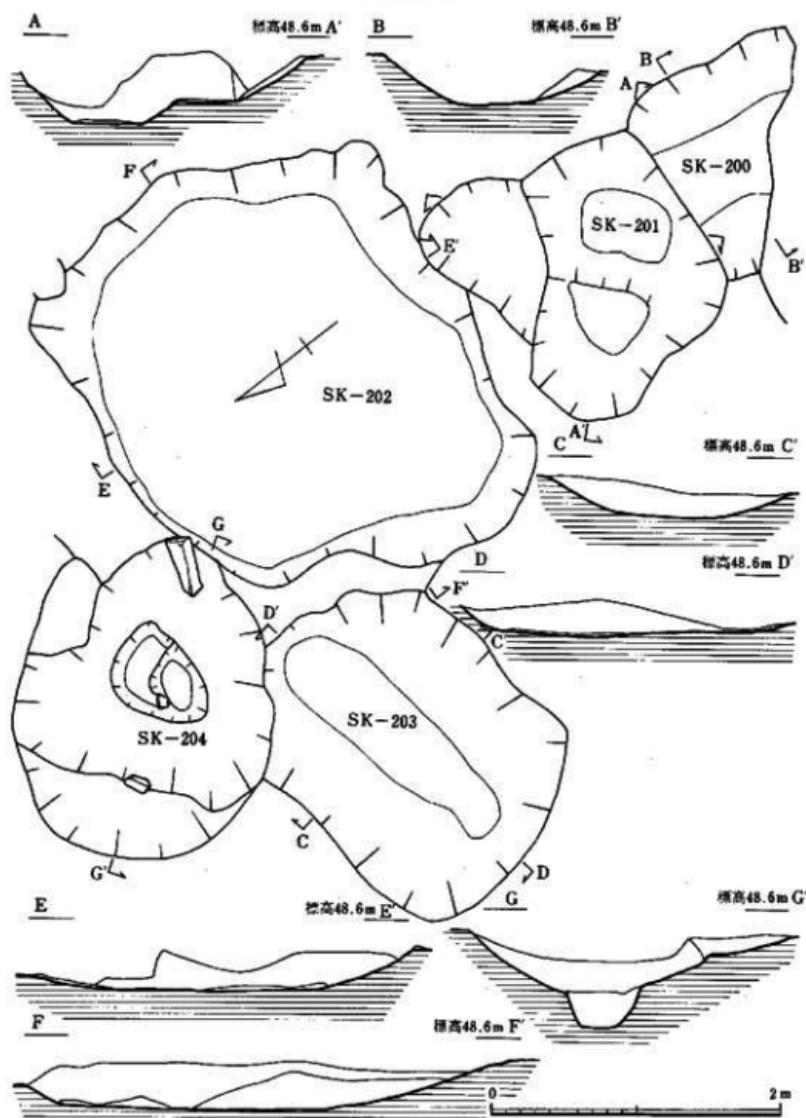


Fig. 89 第200~204号土壤(SK-200~204)実測図

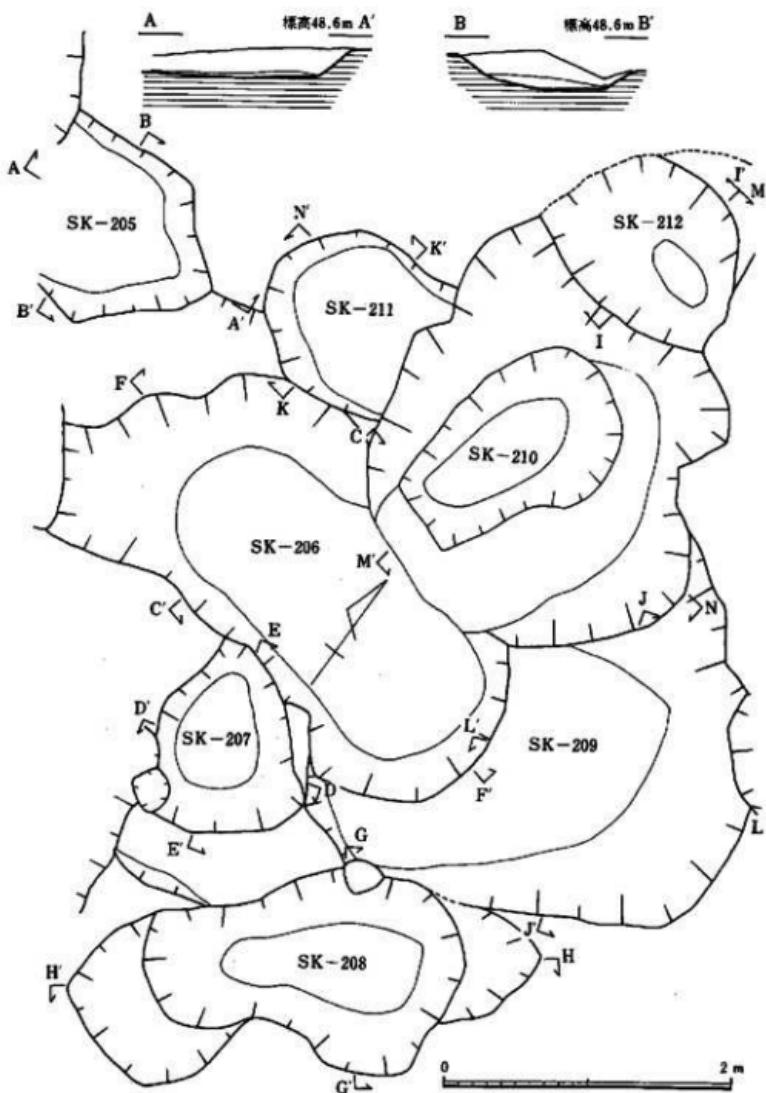


Fig. 90 第205~212号土壤(SK-205~212)実測図 I

5. 土壌状遺構

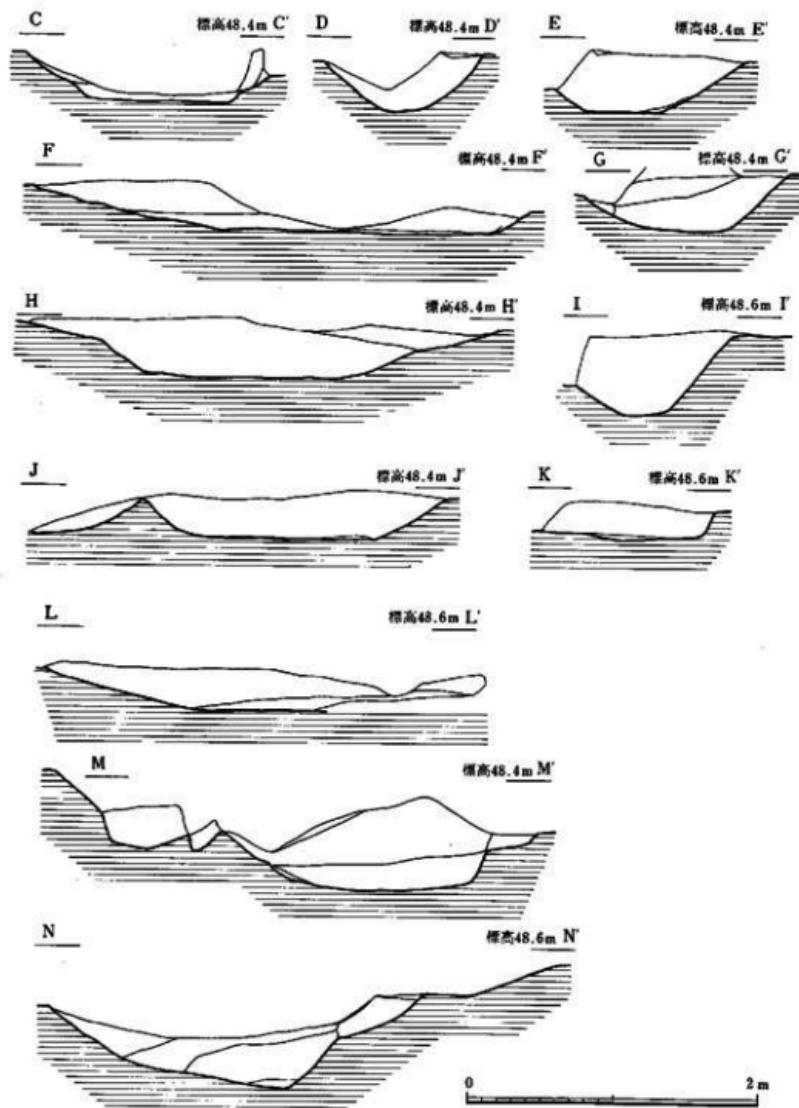


Fig. 91 第205~212号土壤(SK-205~212)実測図II

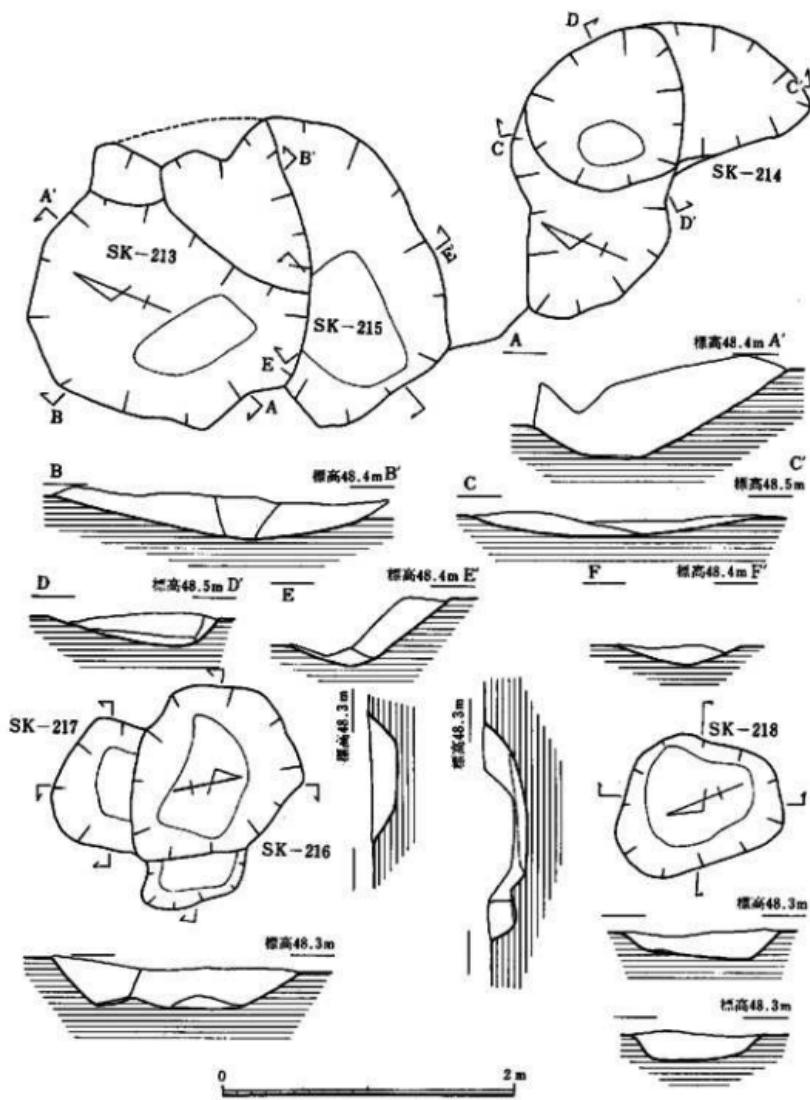


Fig. 92 第213～218号土壠(SK-213～218)実測図

5. 土壌状況図

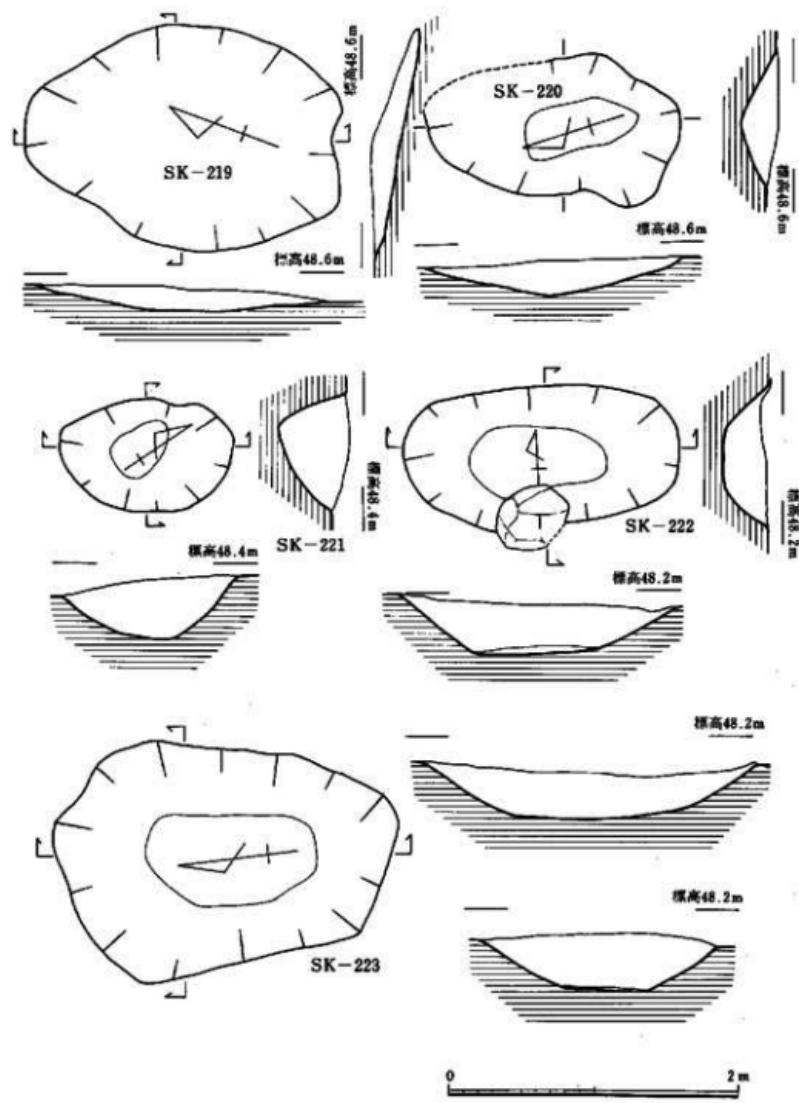


Fig. 93 第219~223号土壤(SK-219~223)実測図

第8章 K遺跡の記録

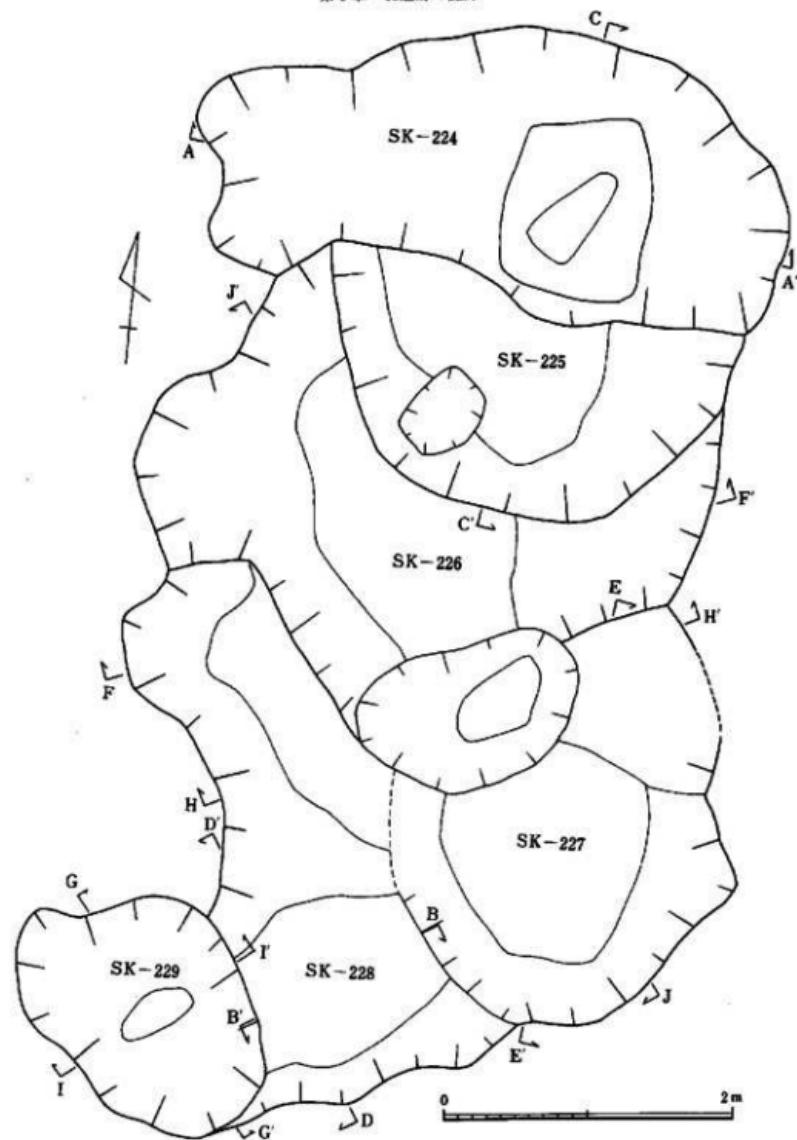


Fig. 94 第224~229号土壤(SK-224~229)実測図 I

5. 土壤剖面

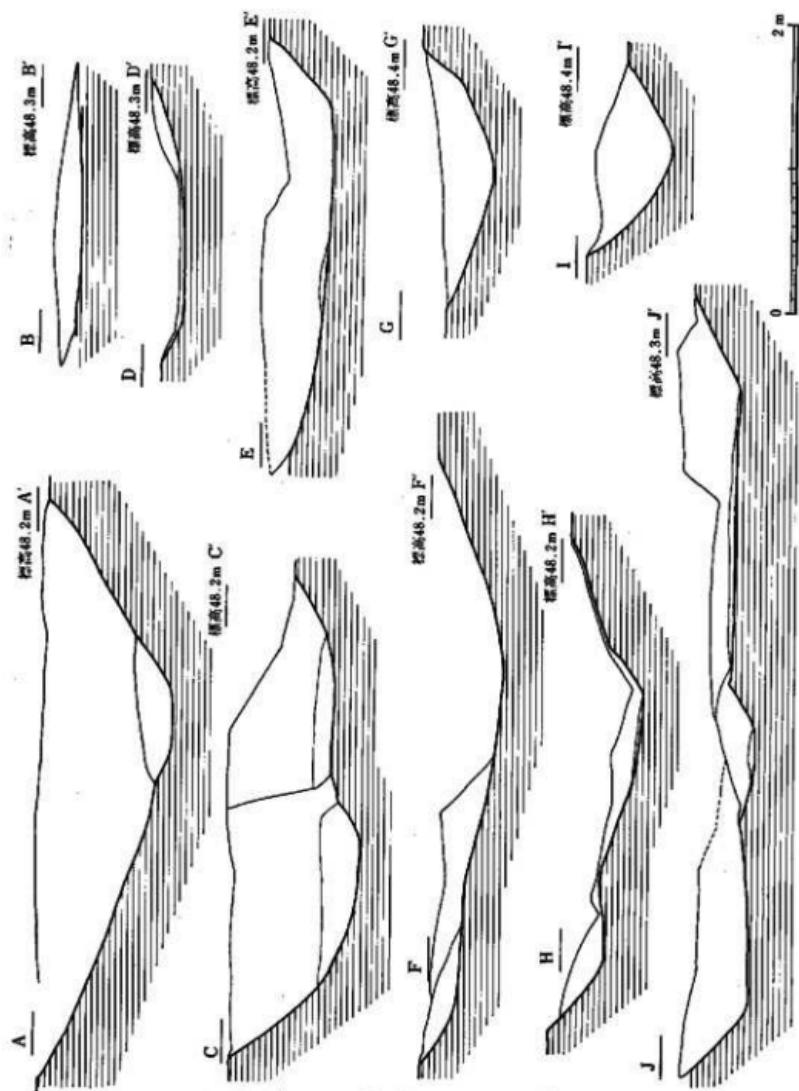


Fig. 95 第224~229号土壤(SK-224~229)实测图II

第8章 K遭跡の記録

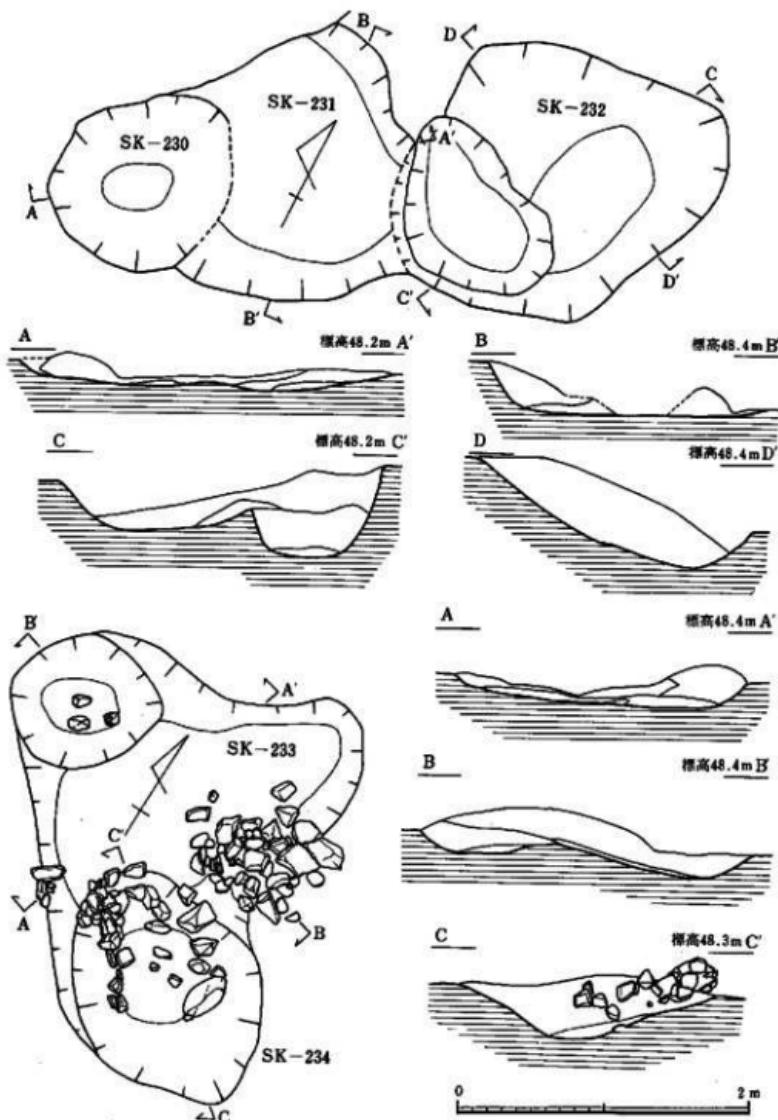


Fig. 96 第230~234号土壤(SK-230~234)実測図

5. 土壤状态图

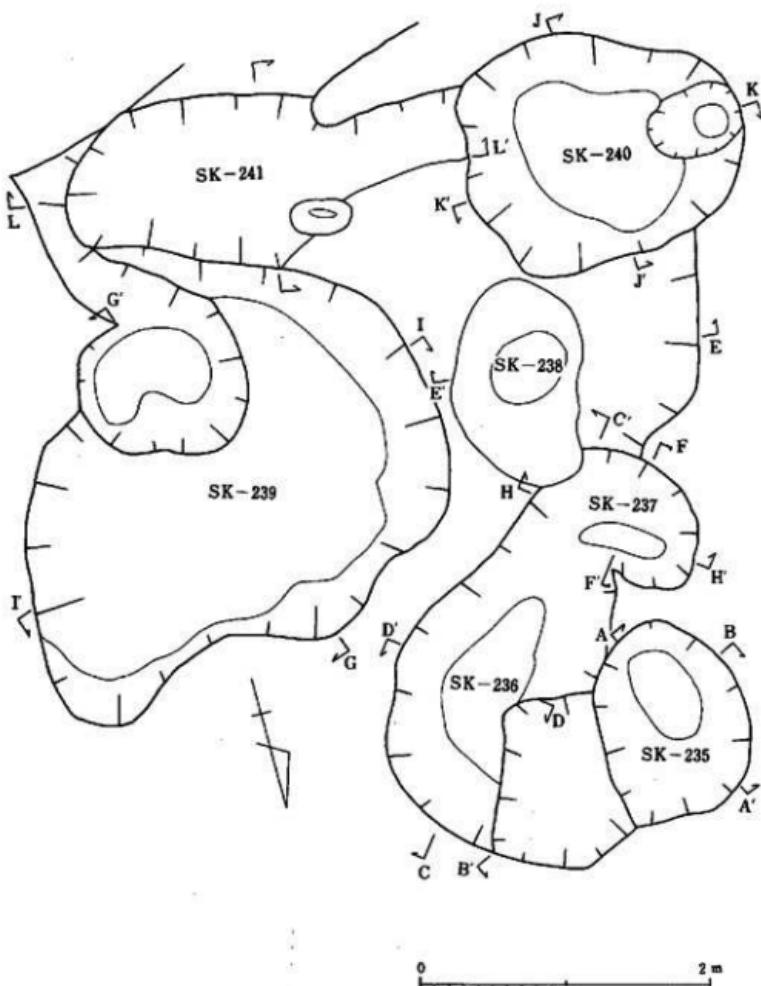


Fig. 97 第235~241号土壤(SK-235~241)実測図 I

第8章 K遺跡の記録

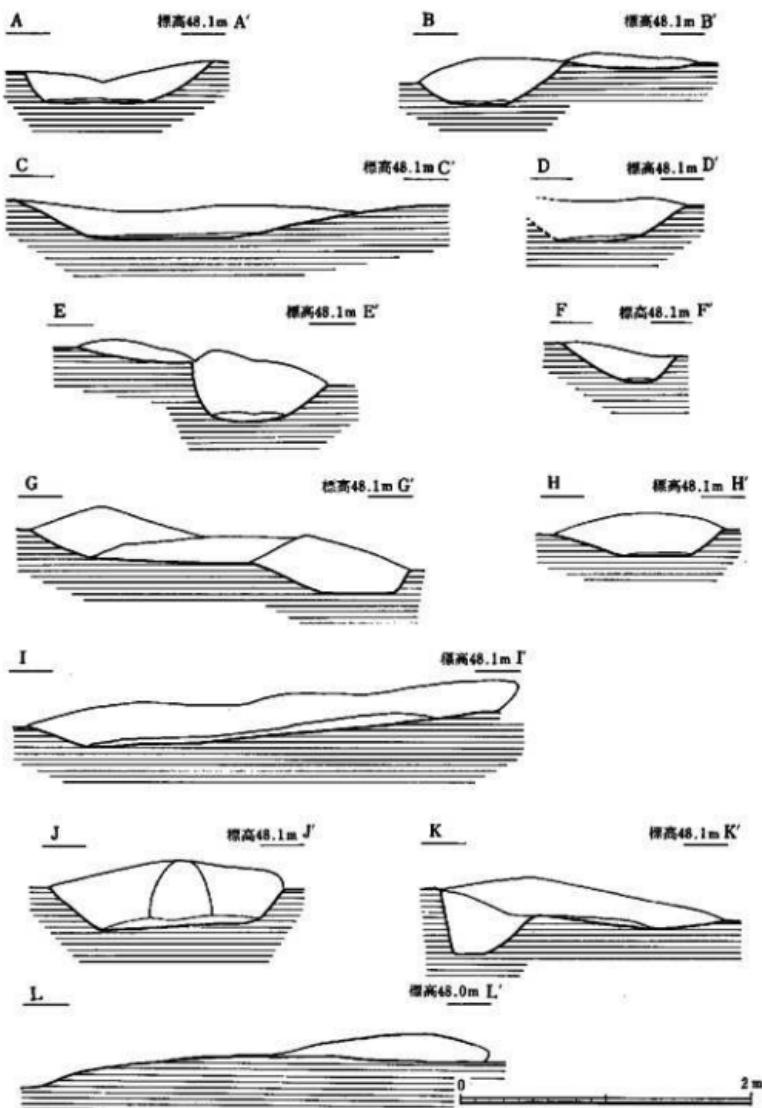


Fig. 98 第235-241号土壤(SK-235-241)実測図II

5. 土壌状遺跡

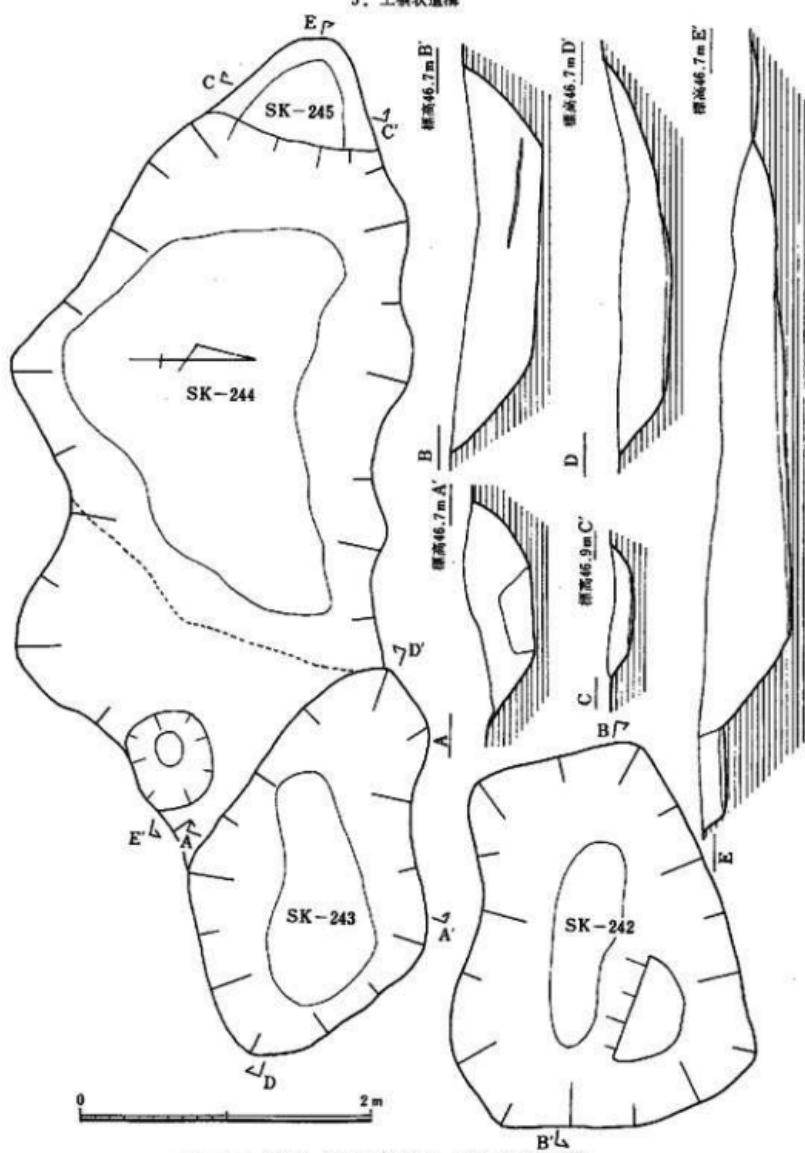


Fig. 99 第242-245号土壤(SK-242-245)実測図

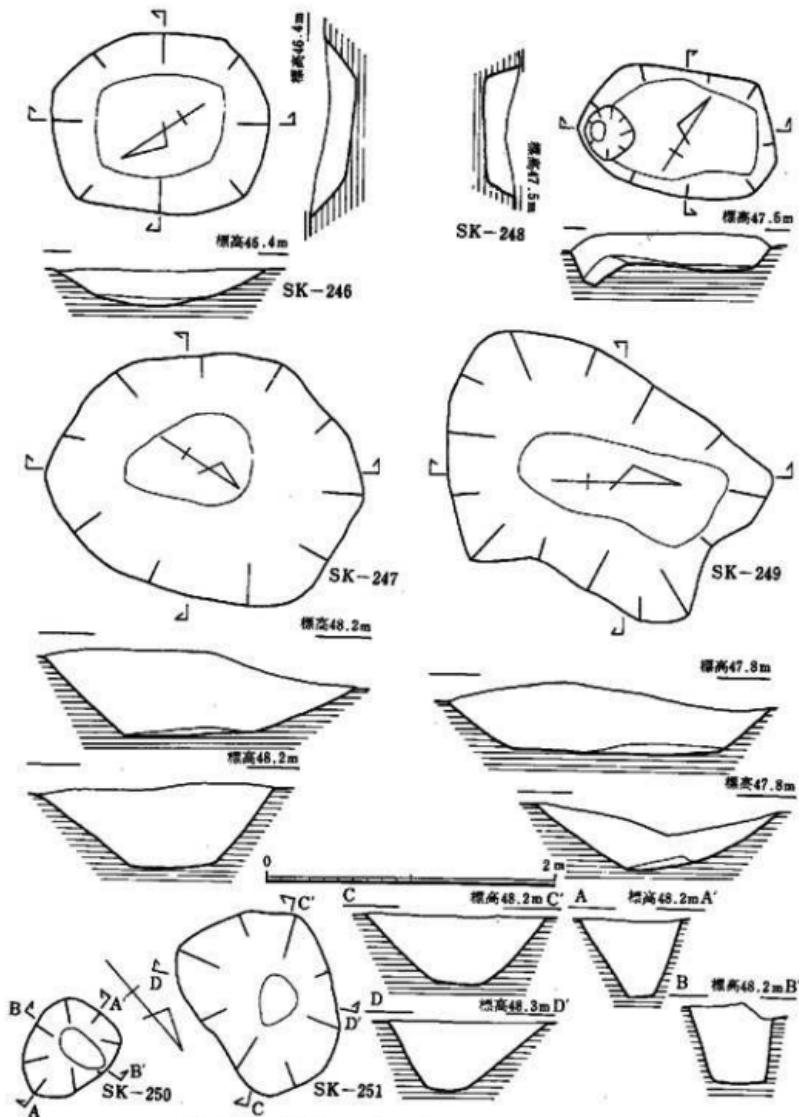


Fig. 100 第246~251号土壌(SK-246~251)実測図

5. 土壌状況図

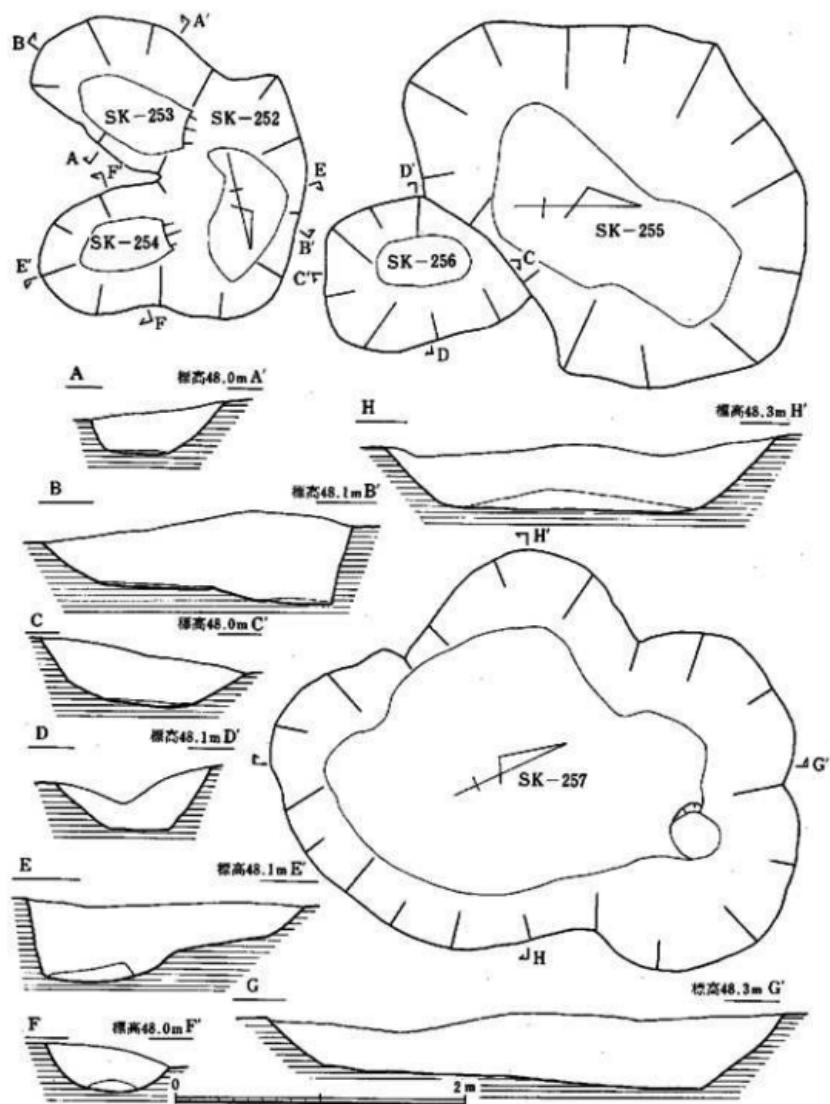


Fig. 101 第252~257号土壤(SK-252~257)実測図

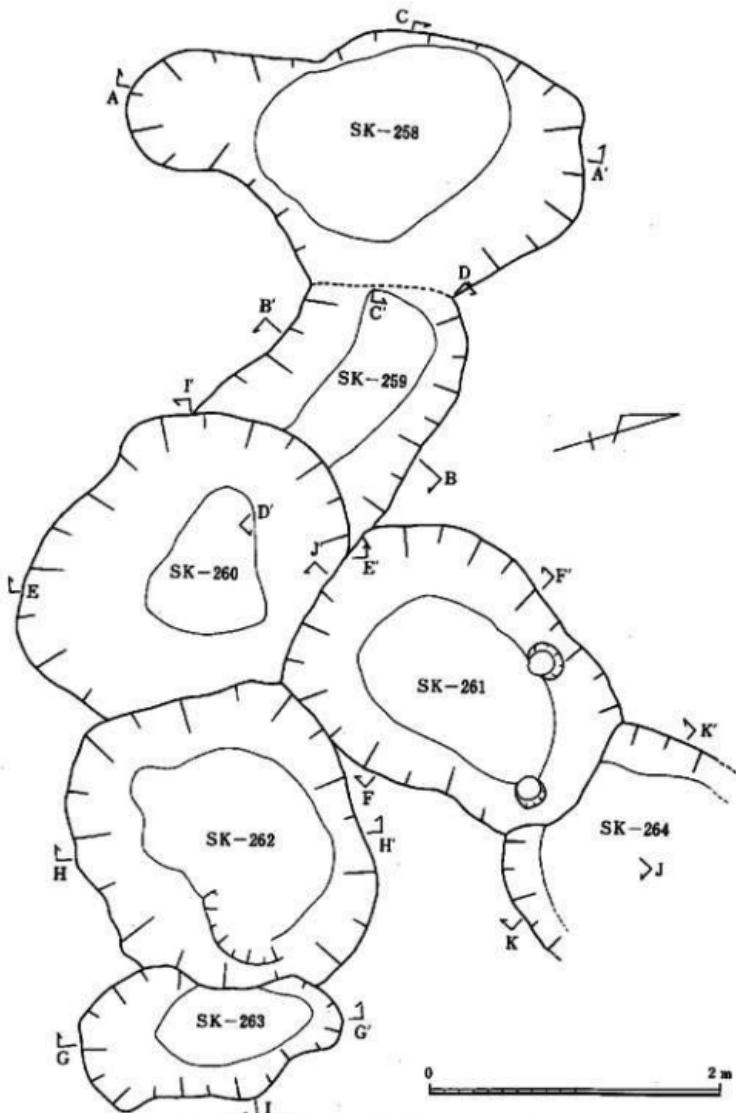


Fig. 102 第258-264号土壤(SK-258~264)実測図I

5. 土壌状造構

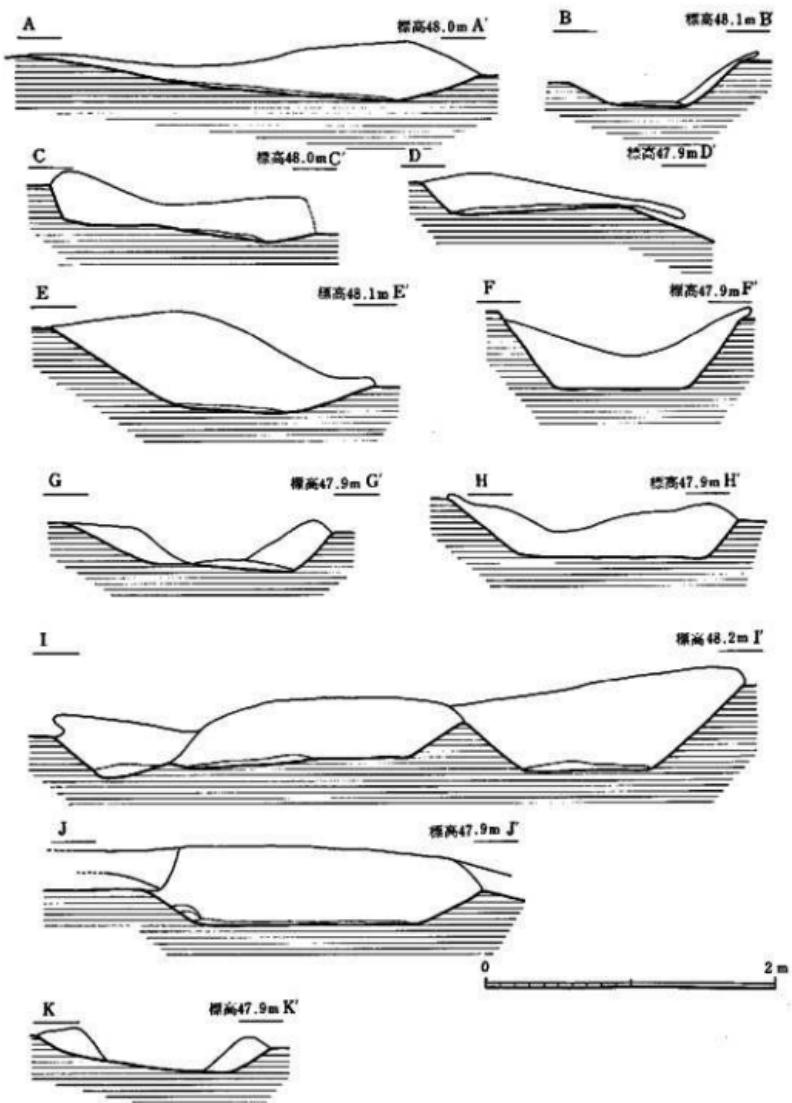


Fig. 103 第258~264号土壤(SK-258~264)実測図II

第8章 K遺跡の記録

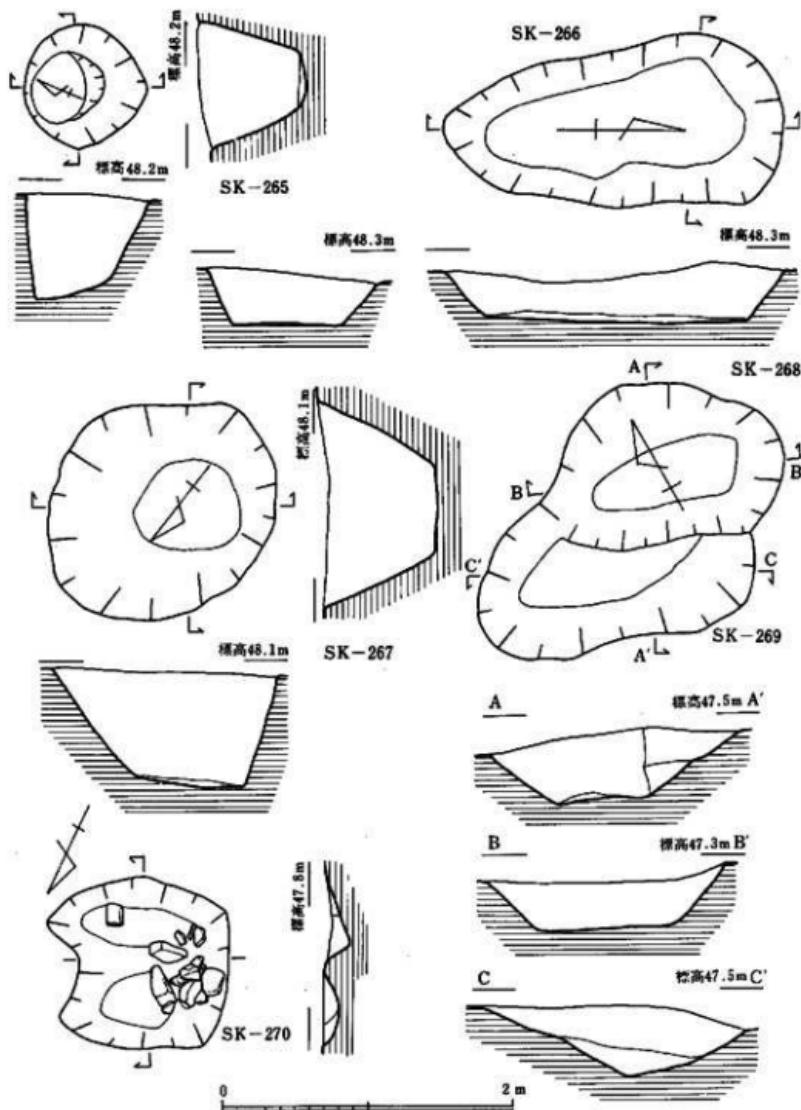


Fig. 104 第265～270号土壙(SK-265～270)実測図

5. 土壌状遺構

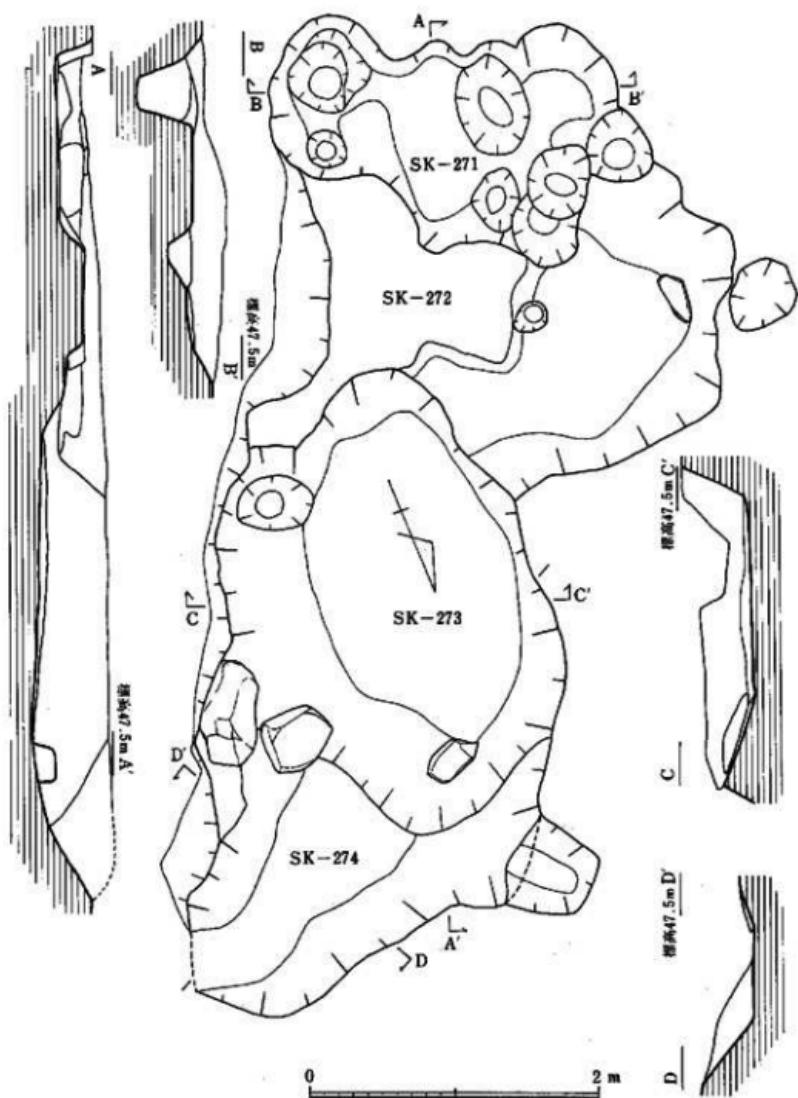


Fig. 105 第271~274号土壌(SK-271~274)実測図

第8章 K遺跡の記録

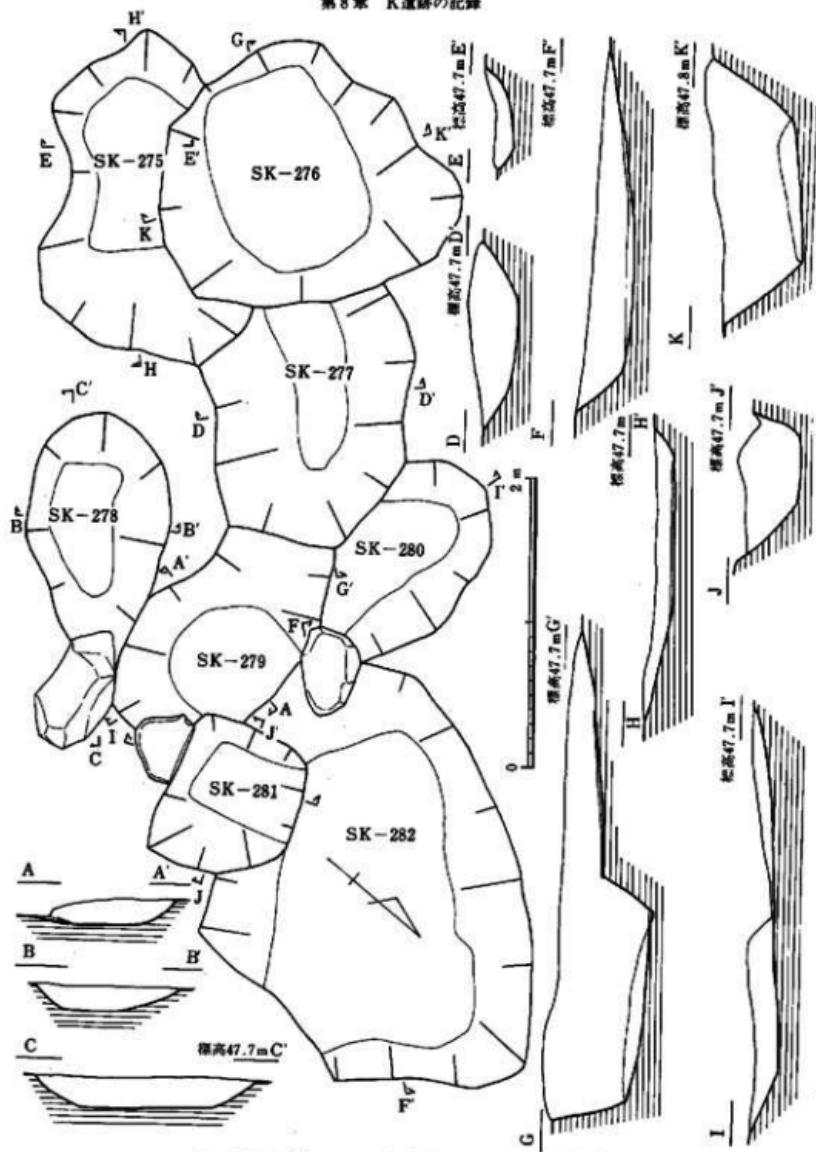


Fig. 106 第275~282号土壌(SK-275~282)実測図

5. 土壤状遺構

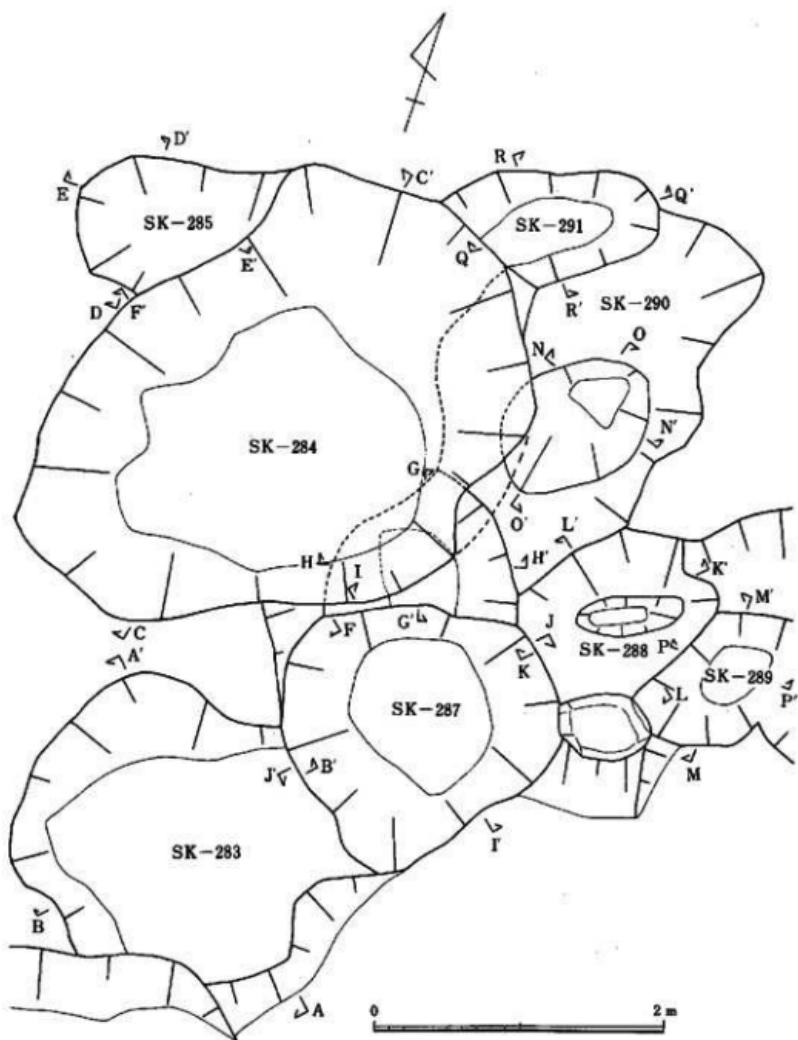


Fig. 107 第283~291号土壤(SK-283~291)実測図 I

第8章 K遺跡の記録

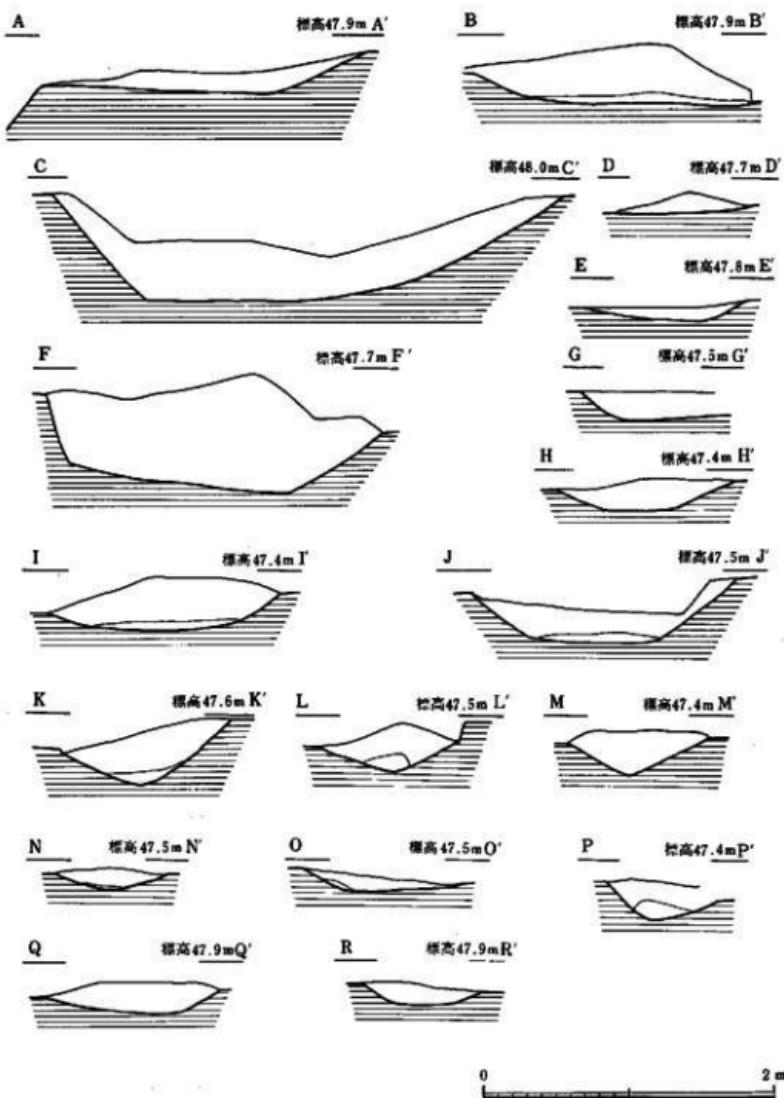


Fig. 108 第283~291号土壤(SK-283~291)実測図II

5. 土壤状達拂

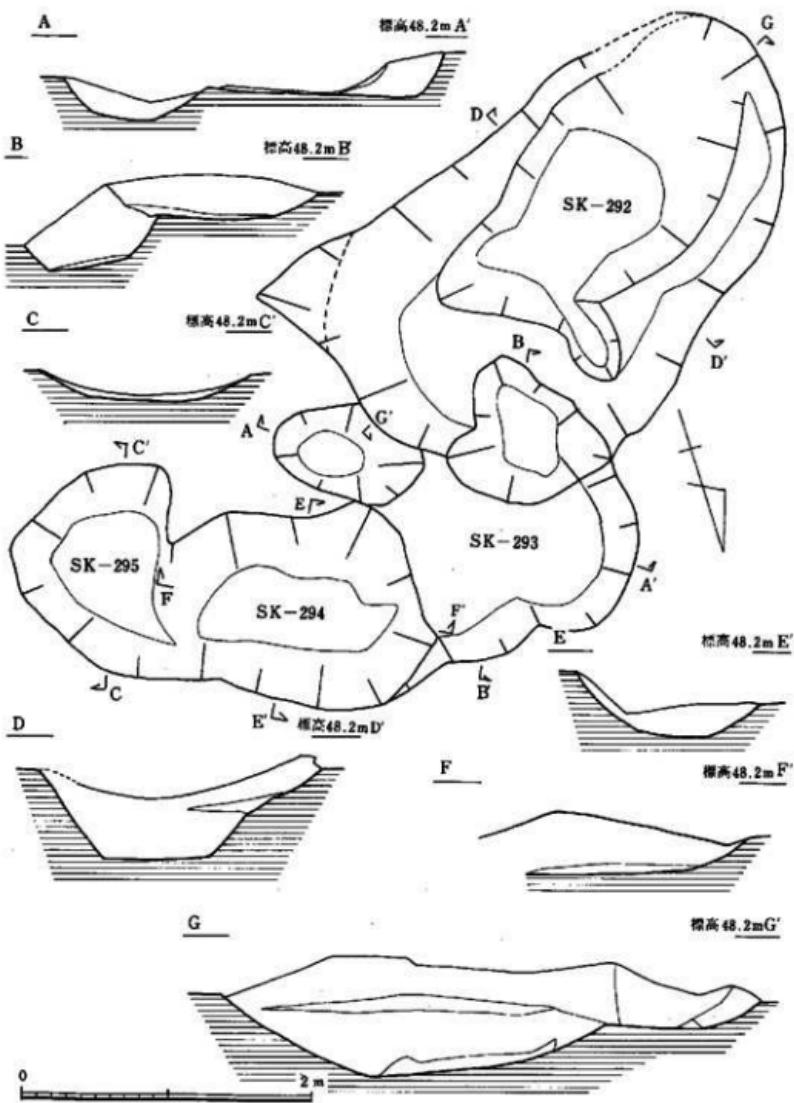


Fig. 109 第292~295号土壤(SK-292~295)実測図

第8章 K遺跡の記録

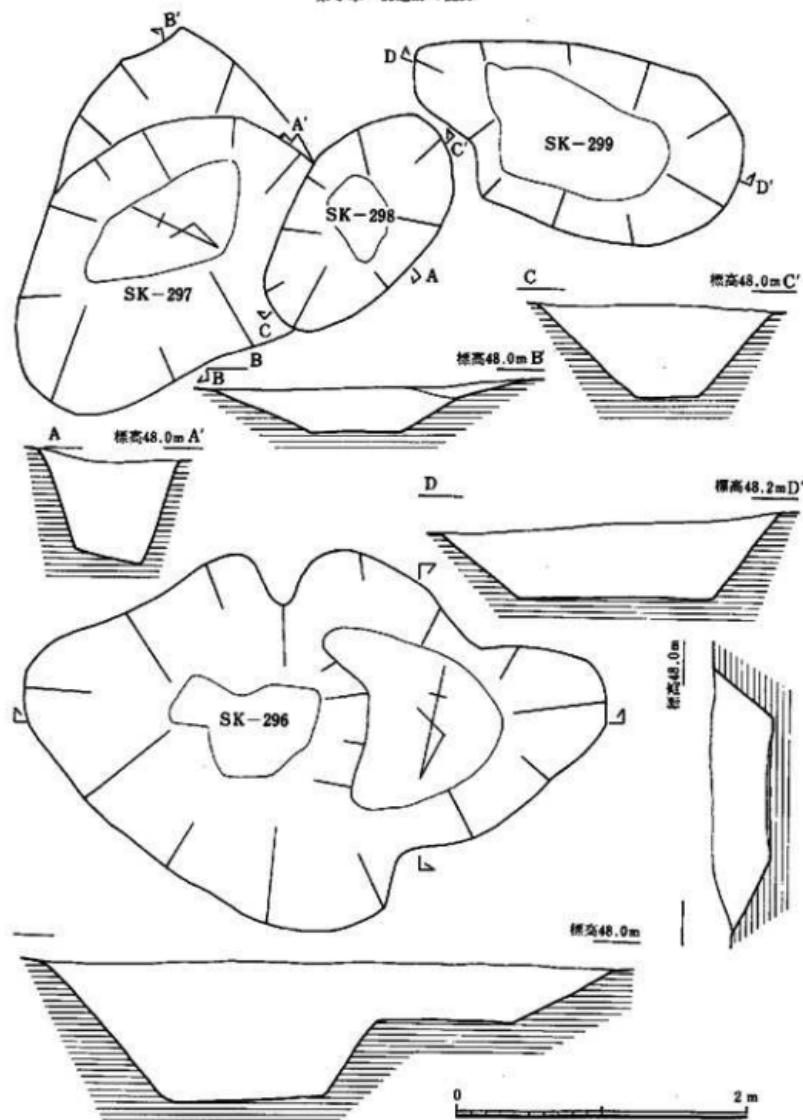


Fig. 110 第296～299号土壙(SK-296～299)実測図

5. 土壌状遺構

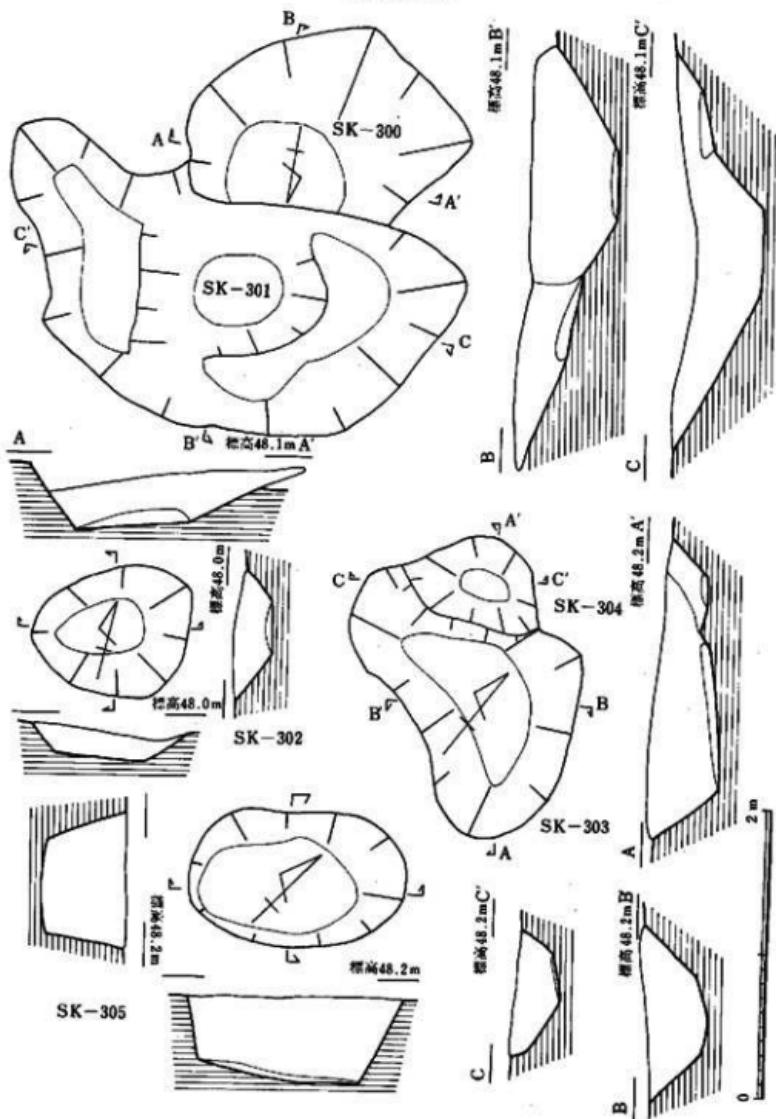


Fig. 111 第300~305号土壤(SK-300~305)実測図

第8章 K遺跡の記録

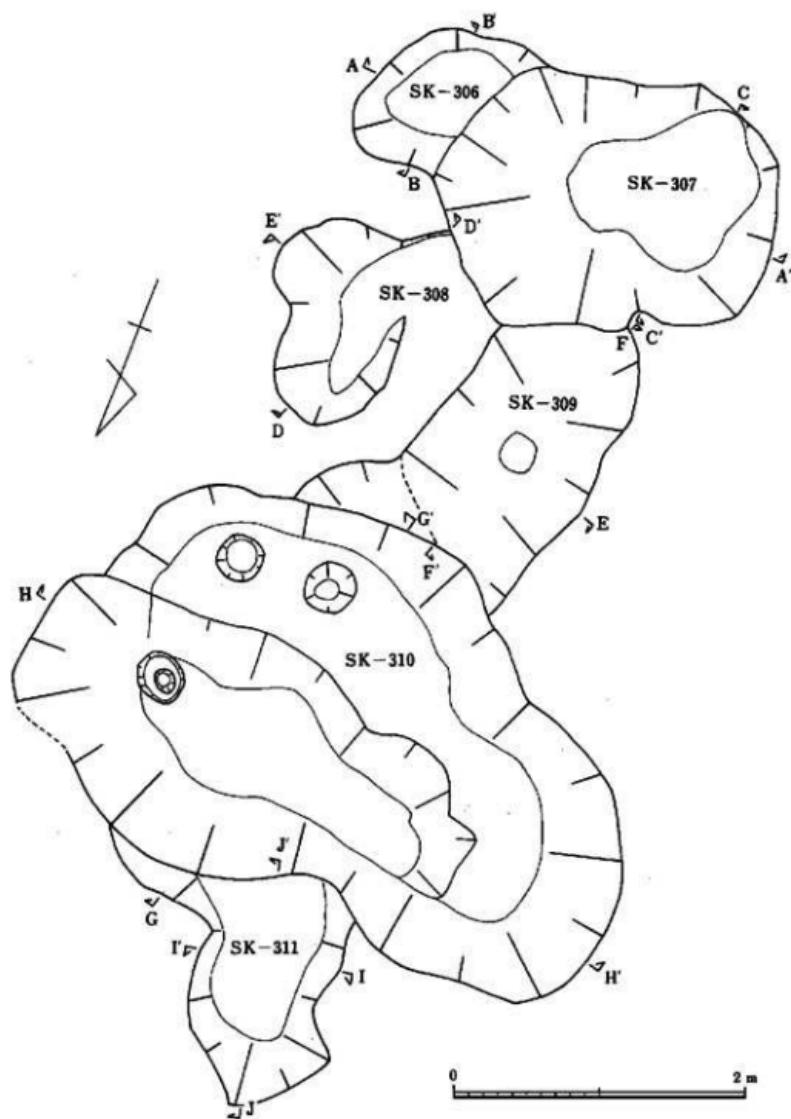


Fig. 112 第306~311号土壙(SK-306~311)実測図 I

5. 土壤状遺構

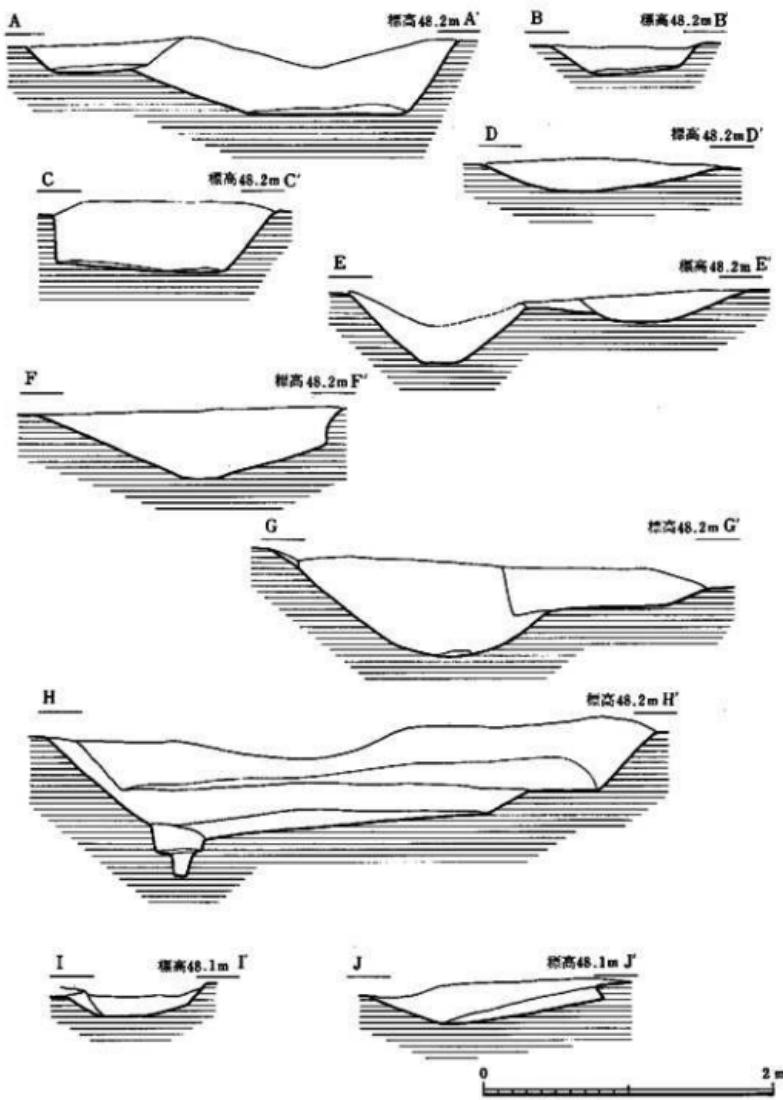


Fig. 113 第306~311号土壤(SK-306~311)実測図II

第8章 K遺跡の記録

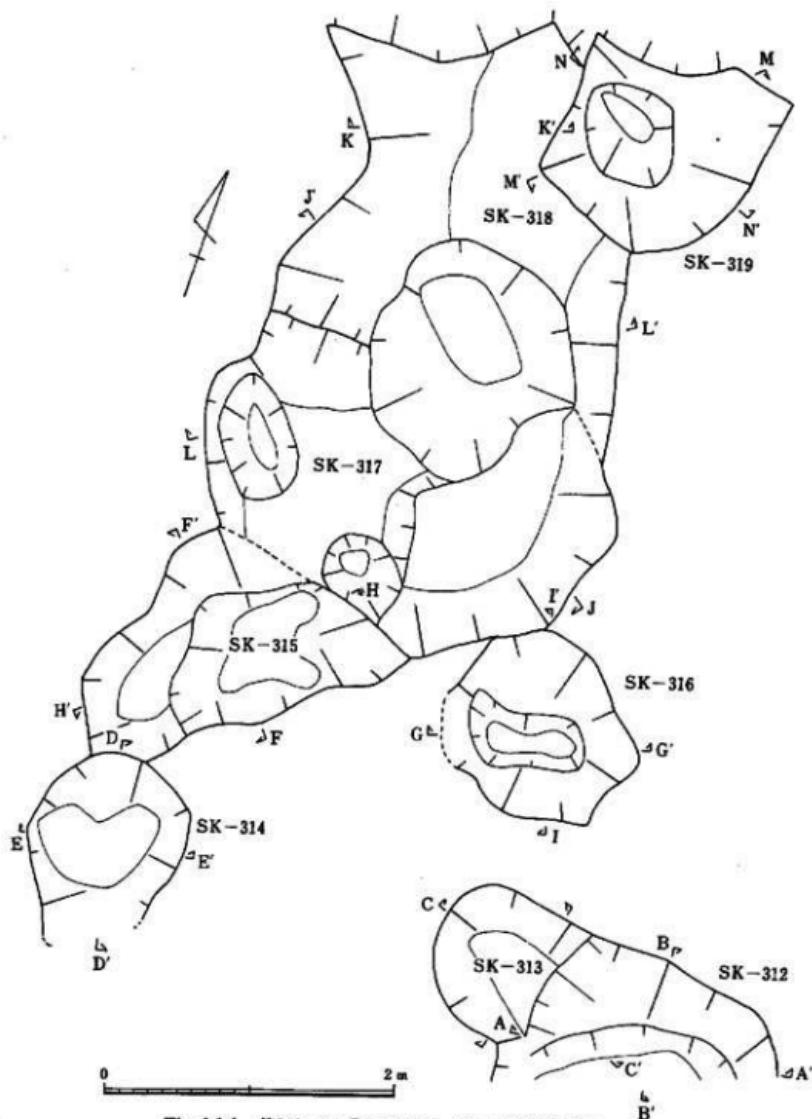


Fig. 114 第312-319号土壤(SK-312~319)実測図 I

5. 土壤状遺構

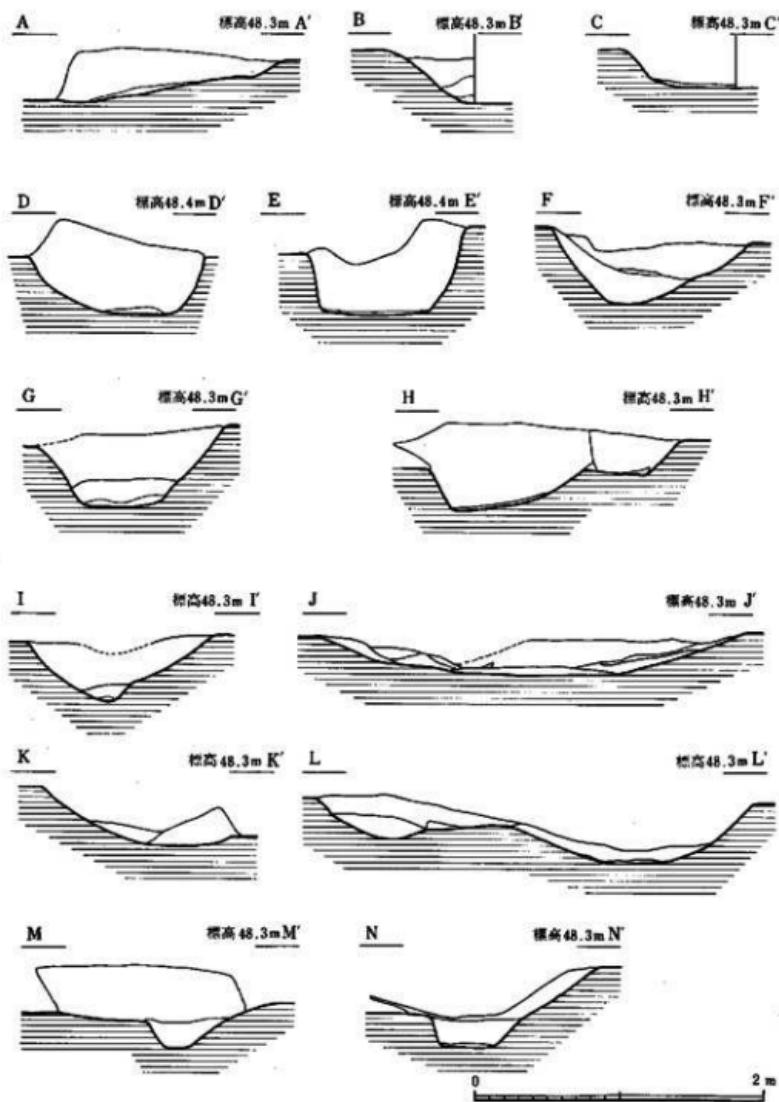


Fig. 115 第312~319号土壤(SK-312~319)実測図II

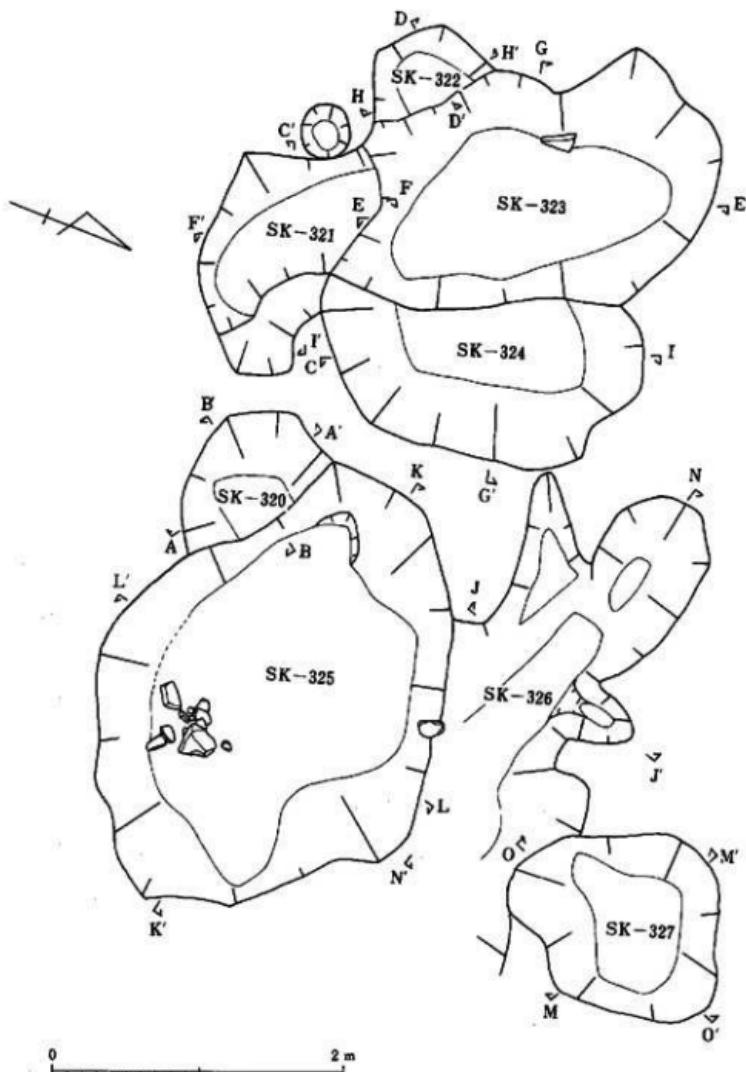


Fig. 116 第320~327号土壇(SK-320~327)実測図 I

5. 土壌状遺構

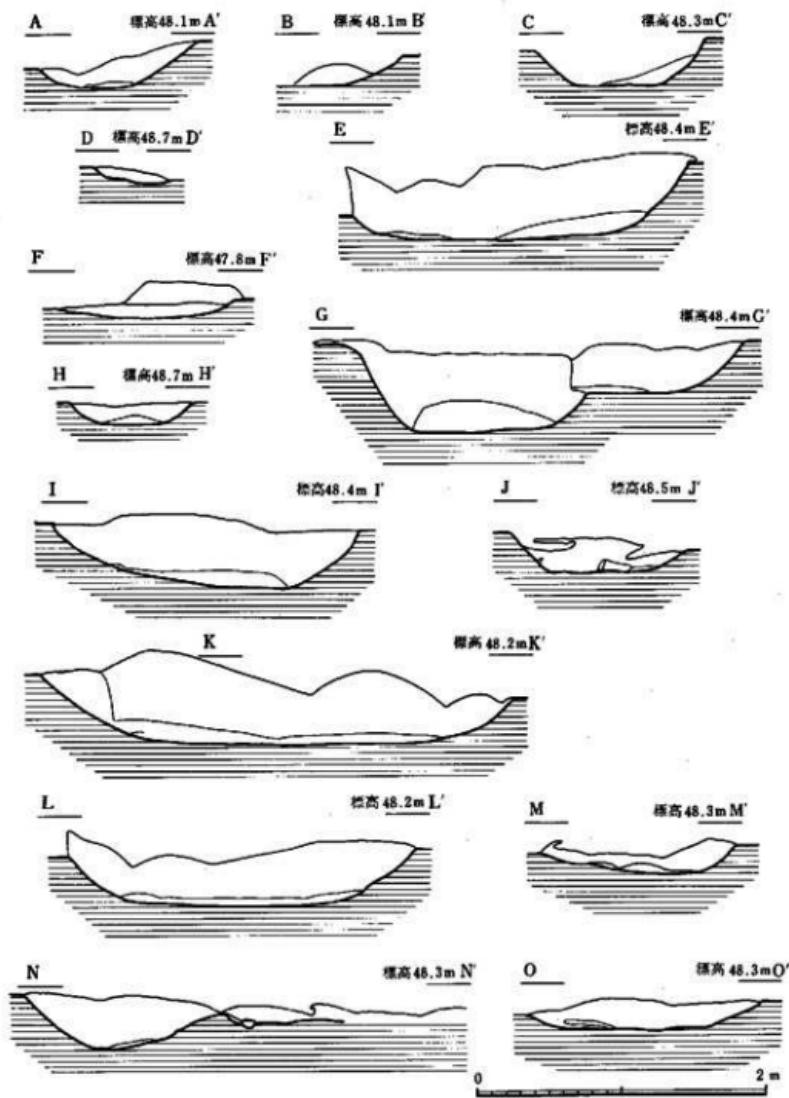


Fig. 117 第320~327号土壤(SK-320~327)実測図II

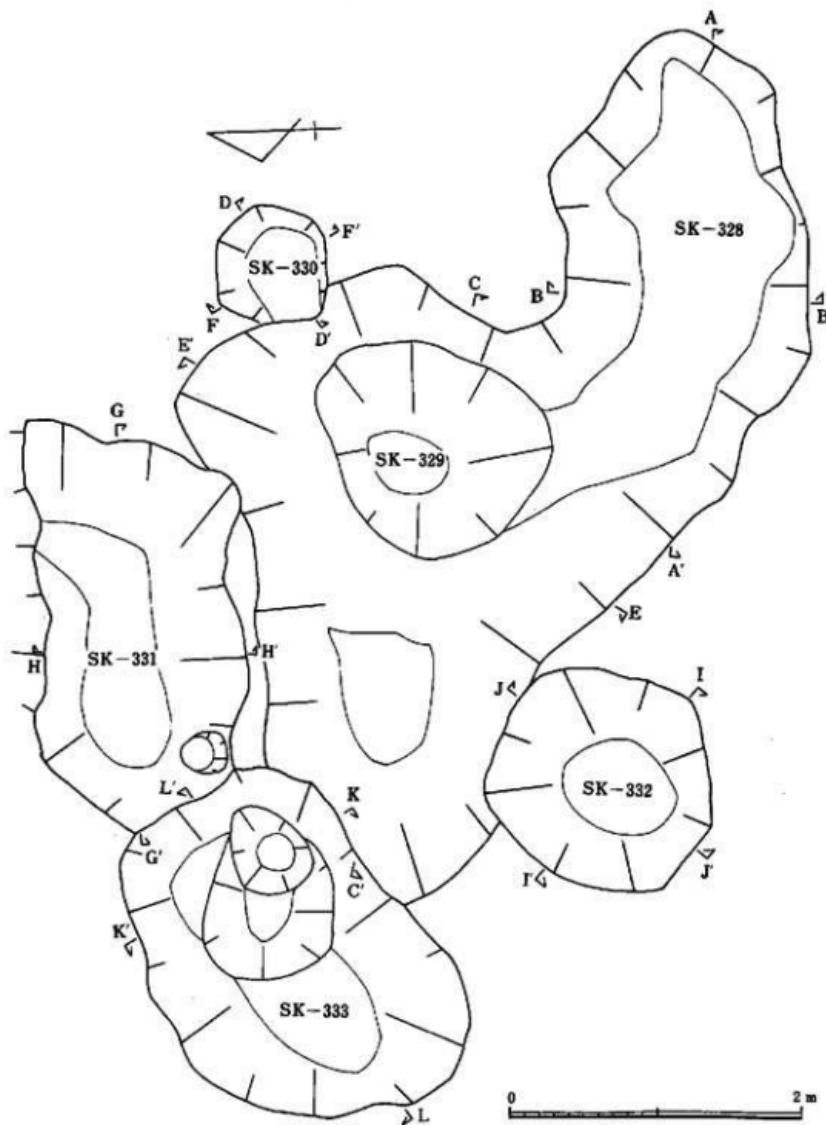


Fig. 118 第328~333号土墳(SK-328~333)実測図 I

5. 土壠状遺構

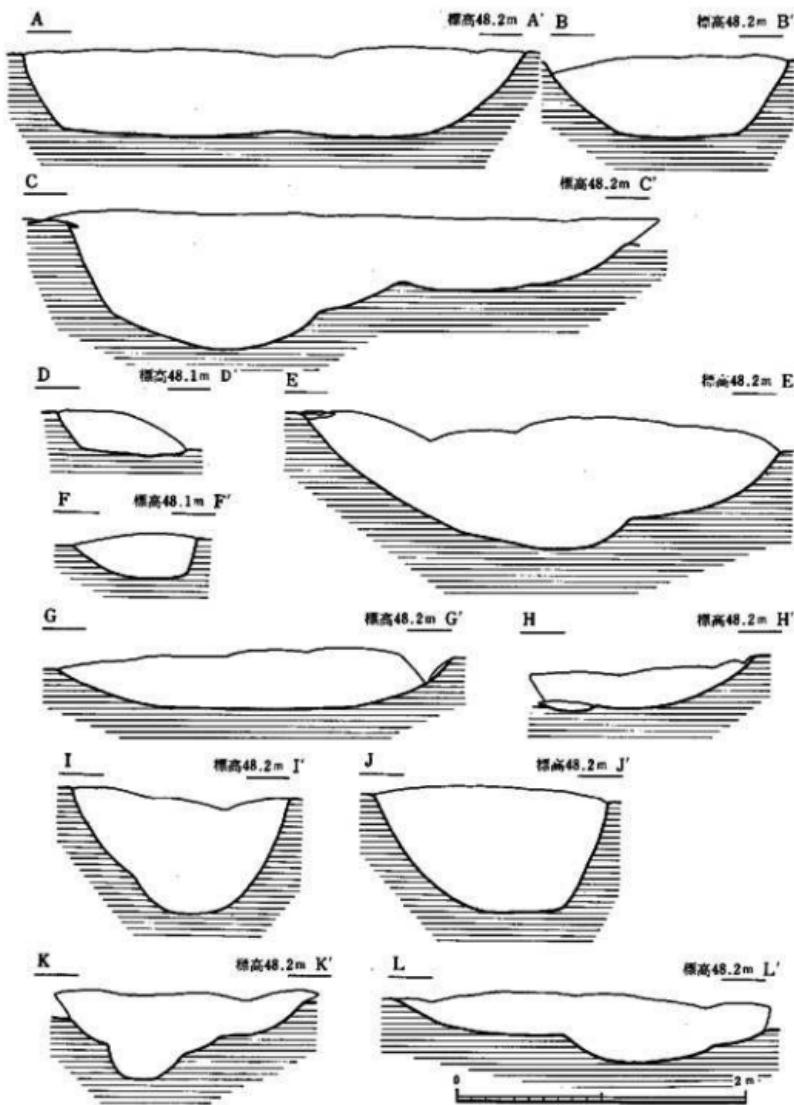


Fig. 119 第328—333号土壤 (SK-328~333) 實測圖 II

第8章 K遺跡の記録

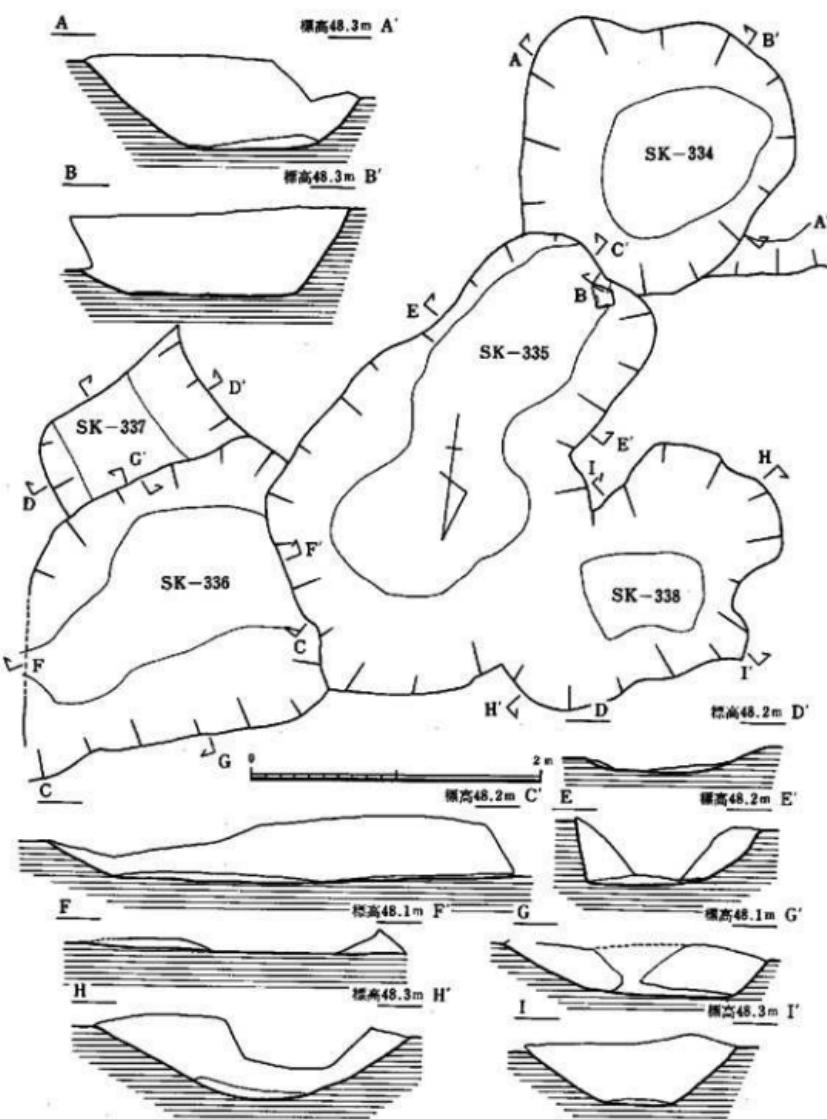


Fig. 120 第334～338号土壤 (SK-334～338) 実測図

5. 土壌状況図

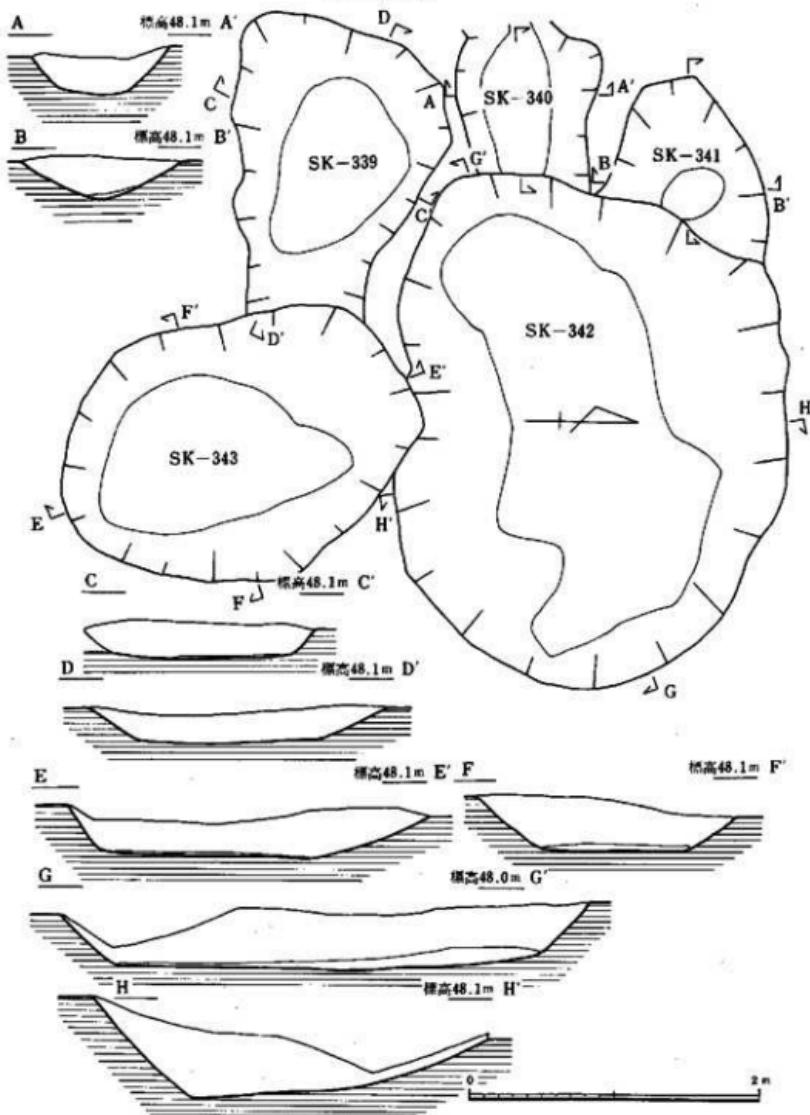


Fig. 121 第339~343号土壤 (SK-339~343) 実測図

第8章 K邊跡の記録

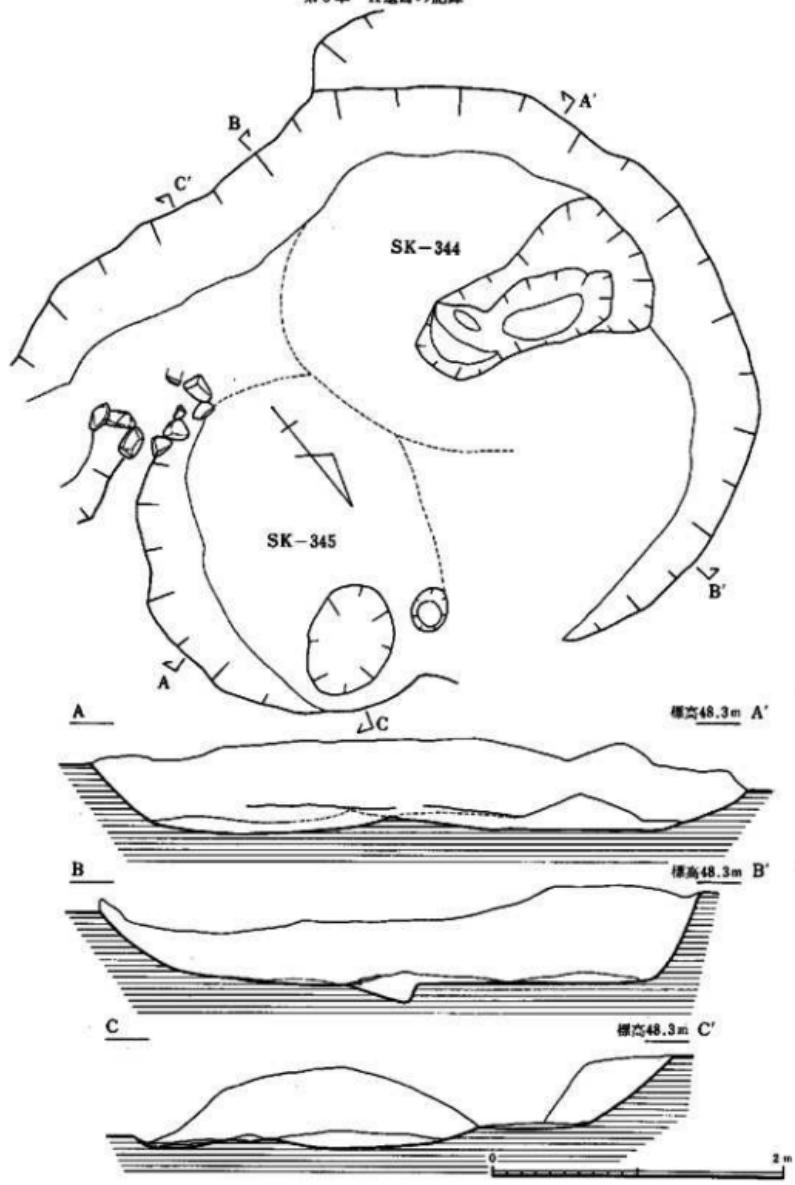


Fig. 122 第344・345号土壤 (SK-344・345) 実測図

5. 上壤状遺構

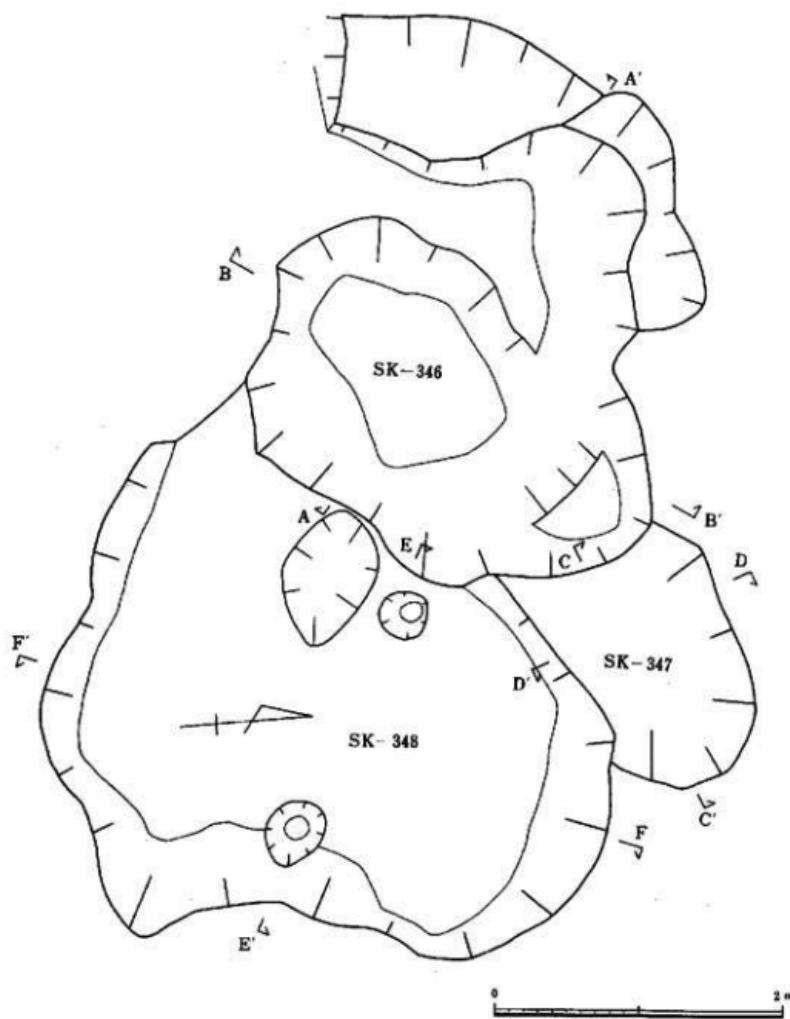


Fig. 123 第346~348号土壤 (SK-346~348) 實測図 I

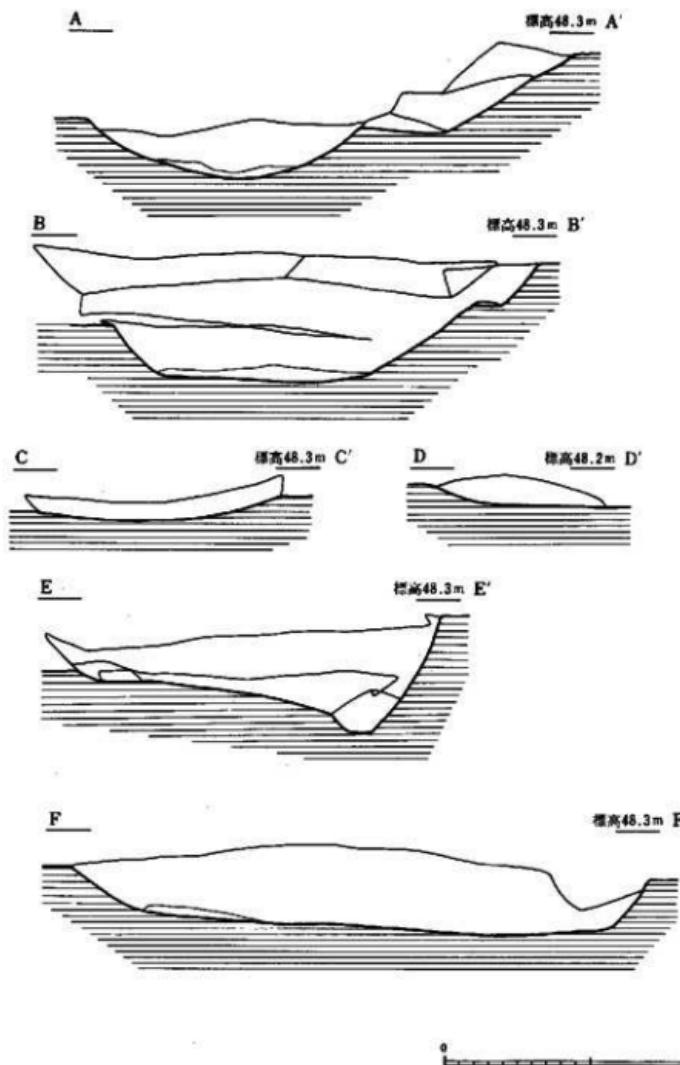


Fig. 124 第346~348号土壤 (SK-346~348) 実測図 II

5. 土壌状遺構

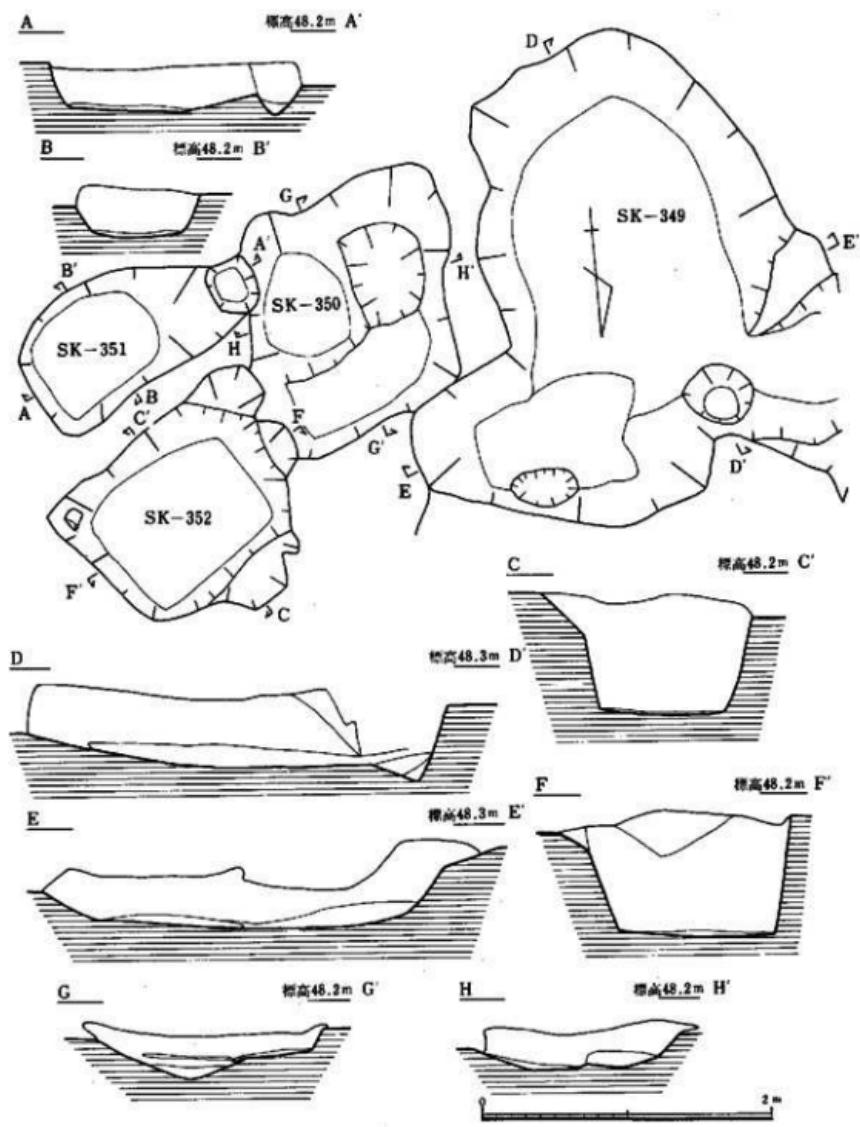


Fig. 125 第349~352号土壤 (SK-349~352) 実測図

第8章 K遺跡の記録

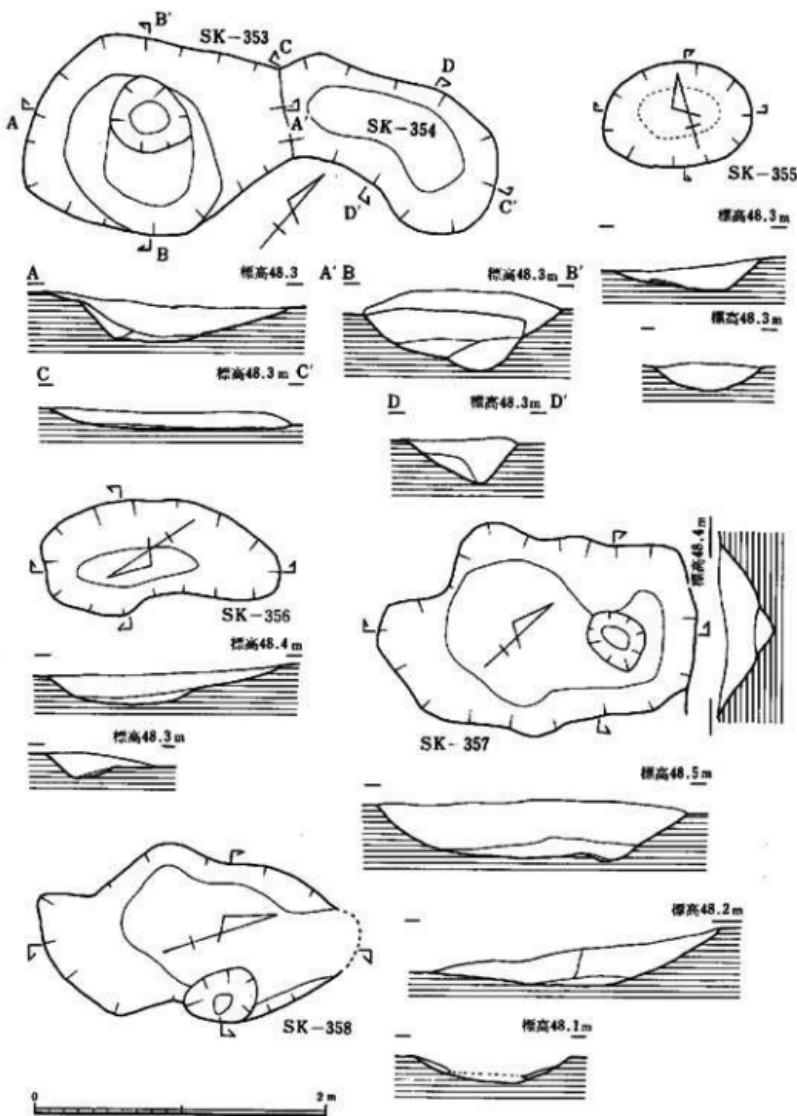


Fig. 126 第353~358号土壤 (SK-353~358) 矢測図

5. 土壌状造構

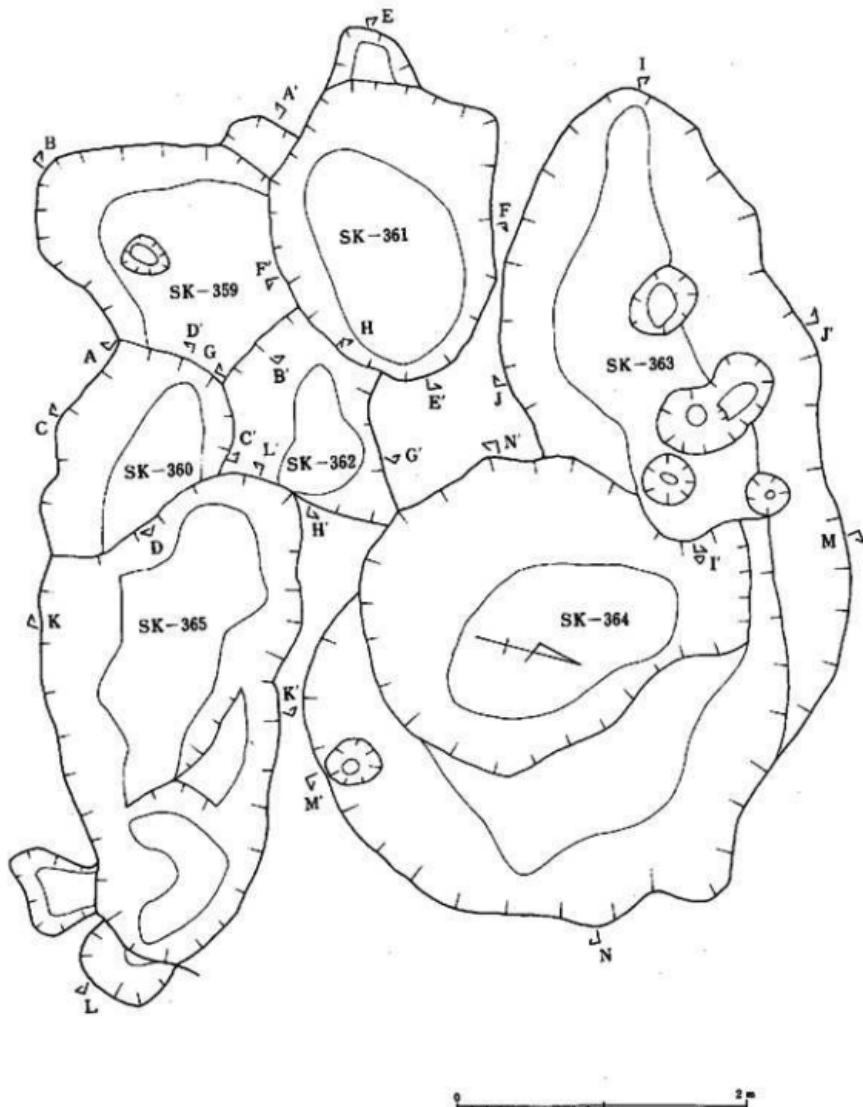


Fig. 127 第359~365号土壤 (SK-359~365) 実測図 I

第8章 K遺跡の記録

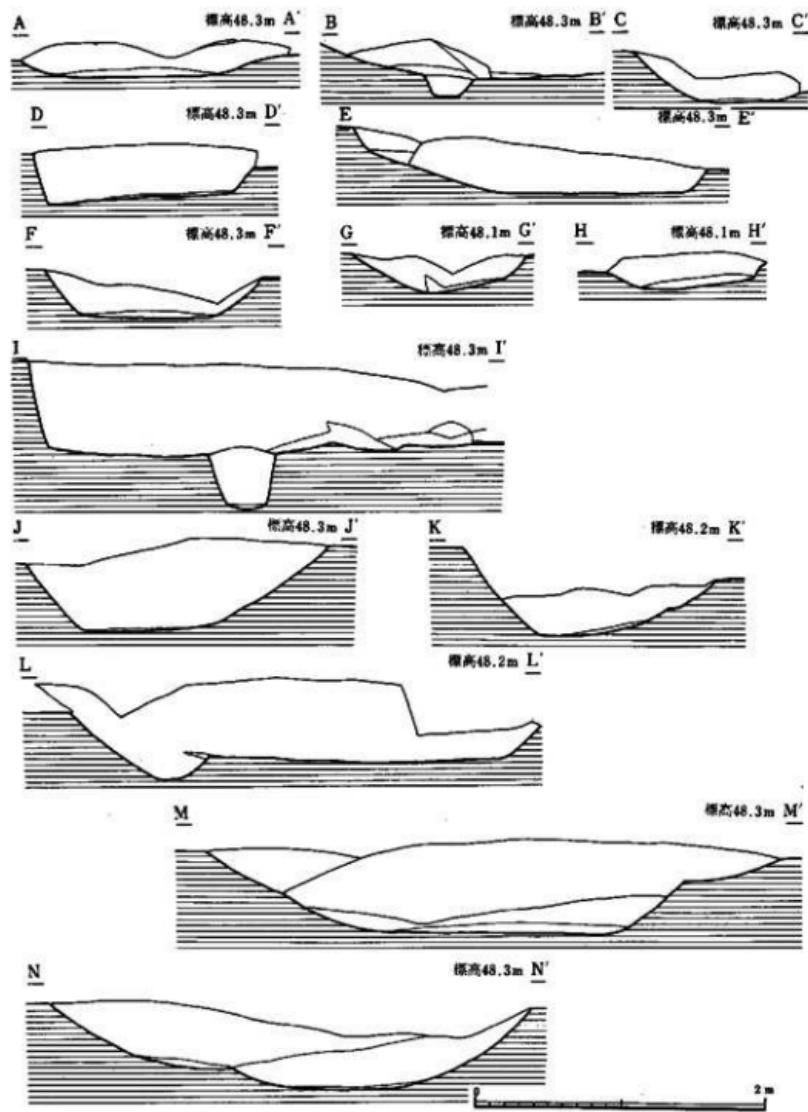


Fig. 128 第359~365号土壤 (SK-359~365) 実測図 II

5. 土壤状造構

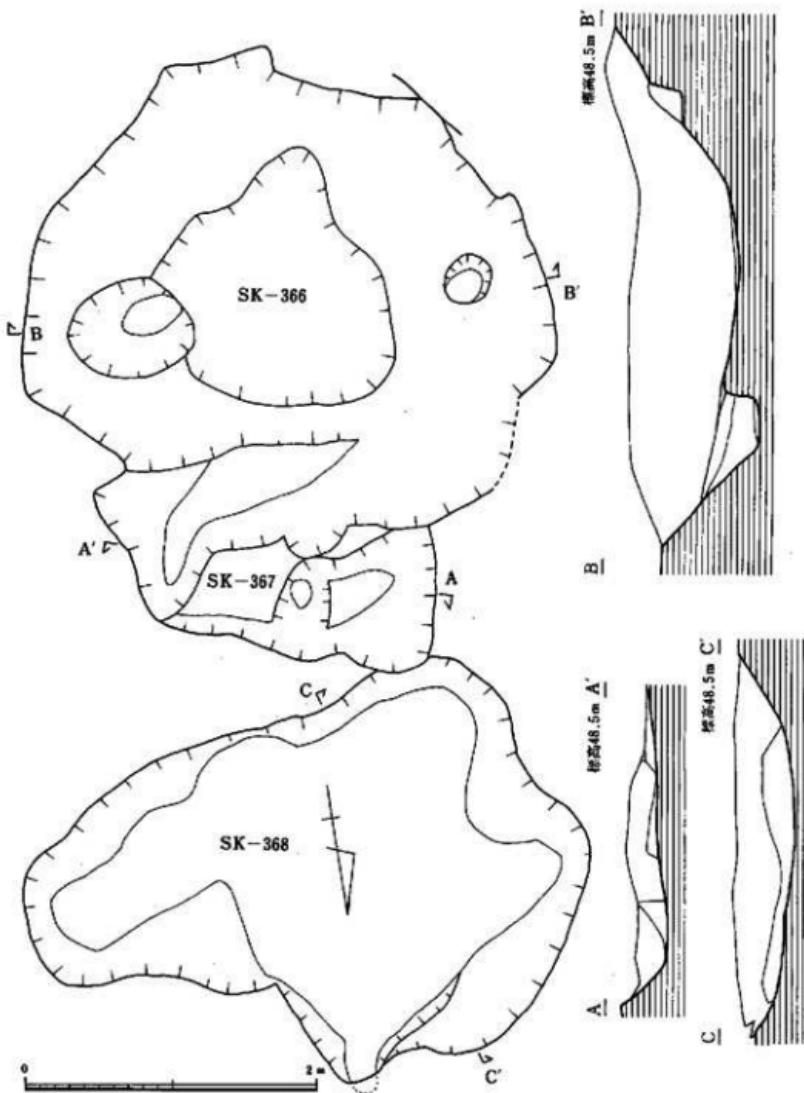


Fig. 129 第366—368号土壤 (SK-366—368) 実測図

第8章 K連続の記録

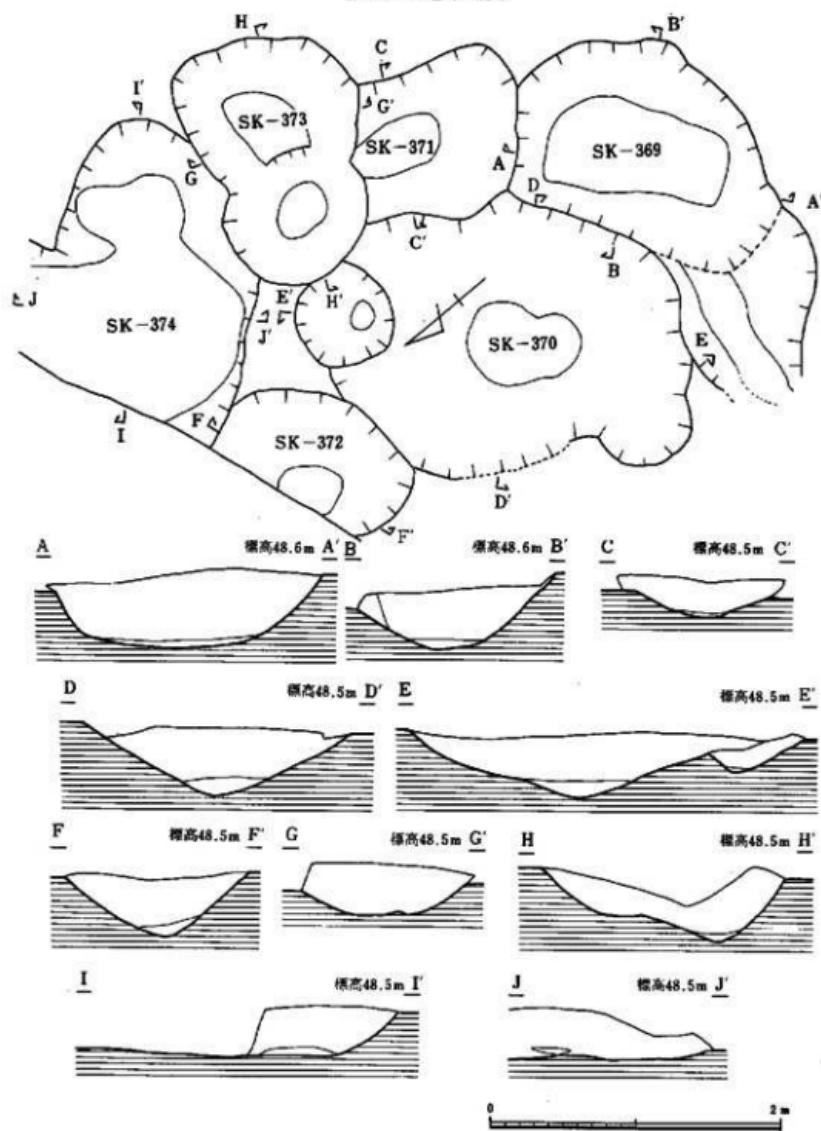


Fig. 130 第369～374号土壤 (SK-369～374) 調査図

5. 土壌状況図

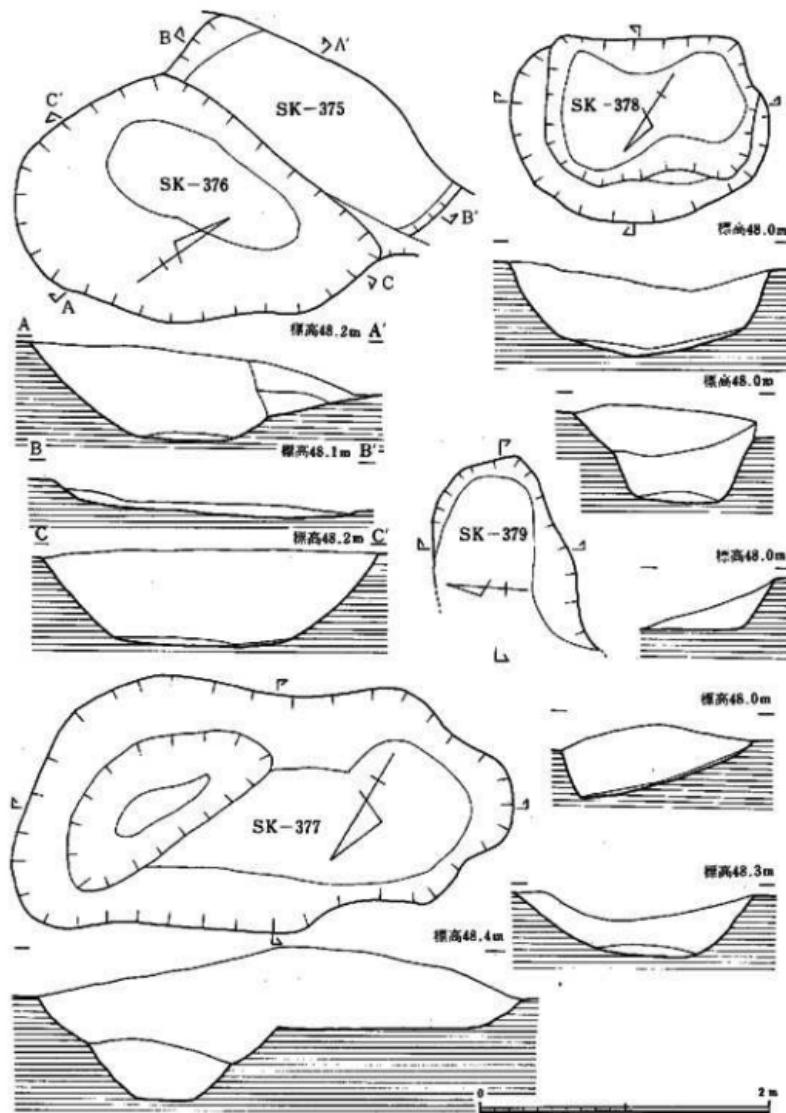


Fig. 131 第375~379号土壤 (SK-375~379) 断面図

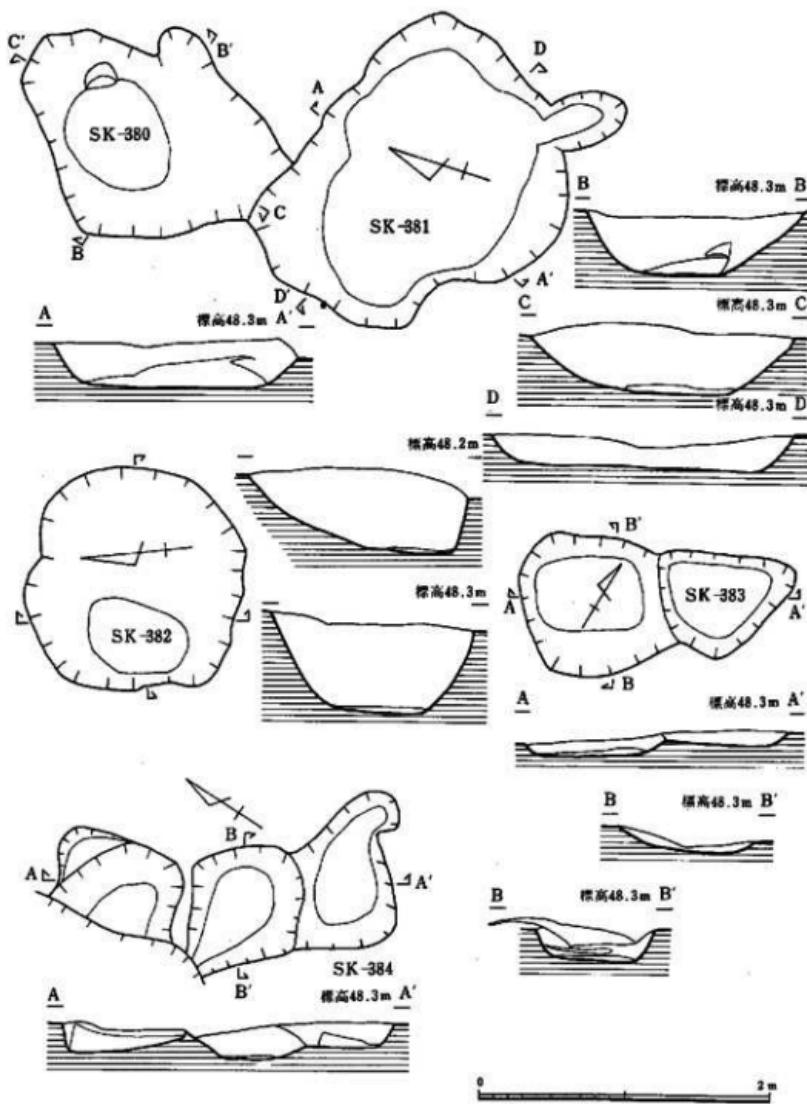


Fig. 132 第380~384号土壤 (SK-380~384) 実測図

5. 土壌状況図

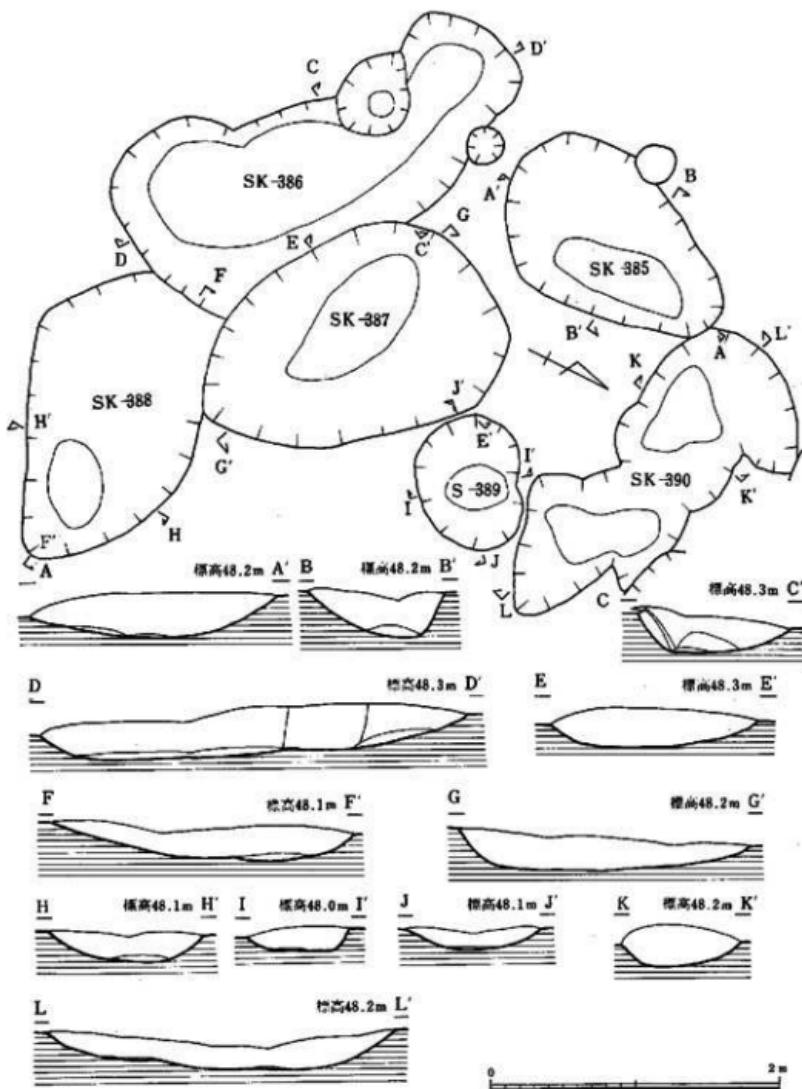


Fig. 133 第385～390号土壤 (SK-385～390) 実測図

第8章 K遺跡の記録

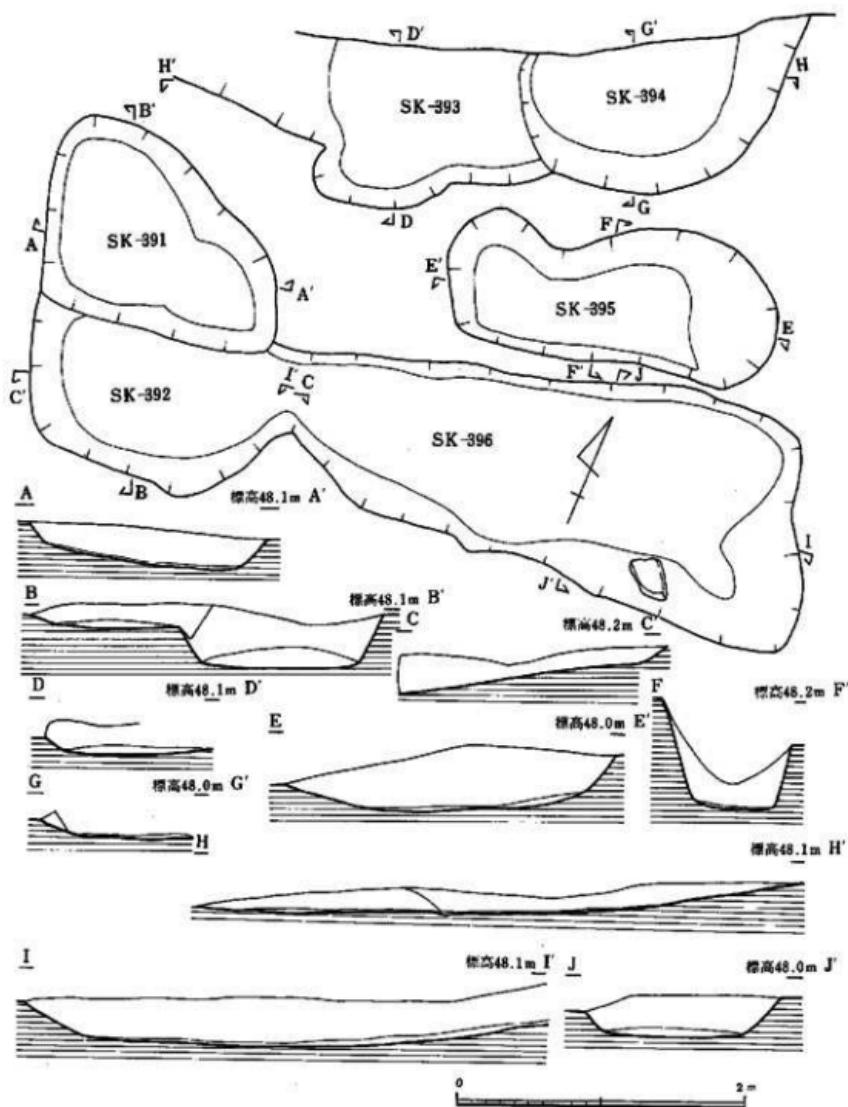


Fig. 134 第391~396号土壤 (SK-391~396) 実測図

5. 土壌状還構

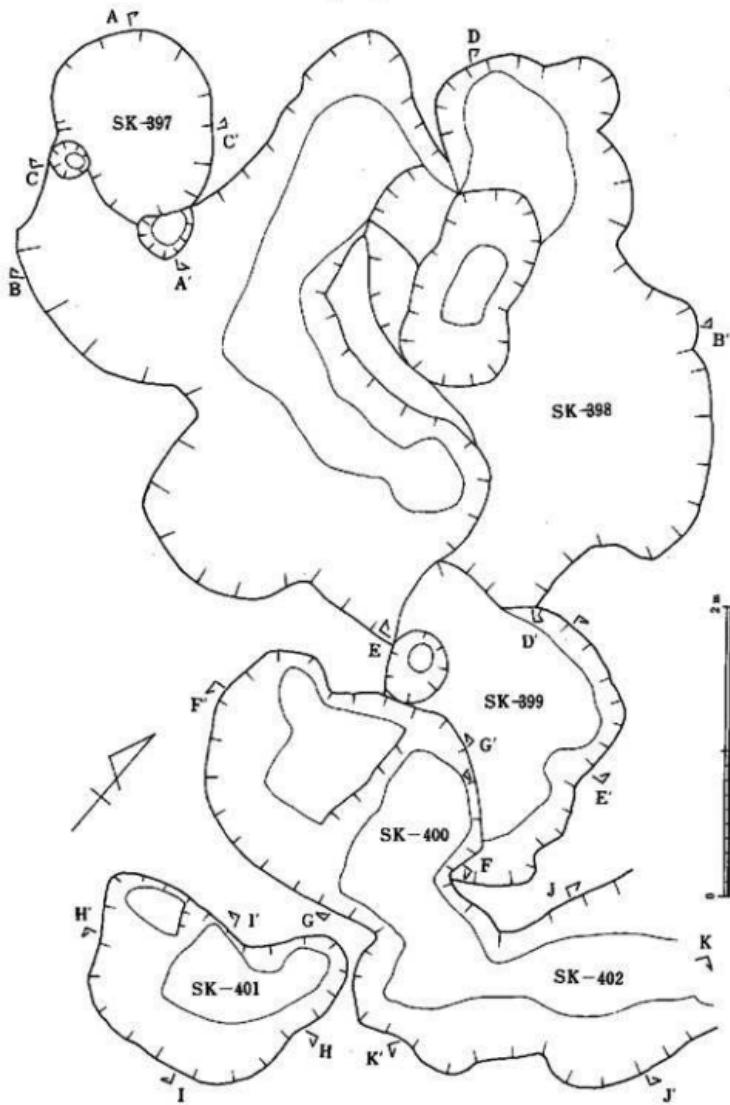


Fig. 135 第397~402号土壤 (SK-397~402) 実測図 I

第8章 K遺跡の記録

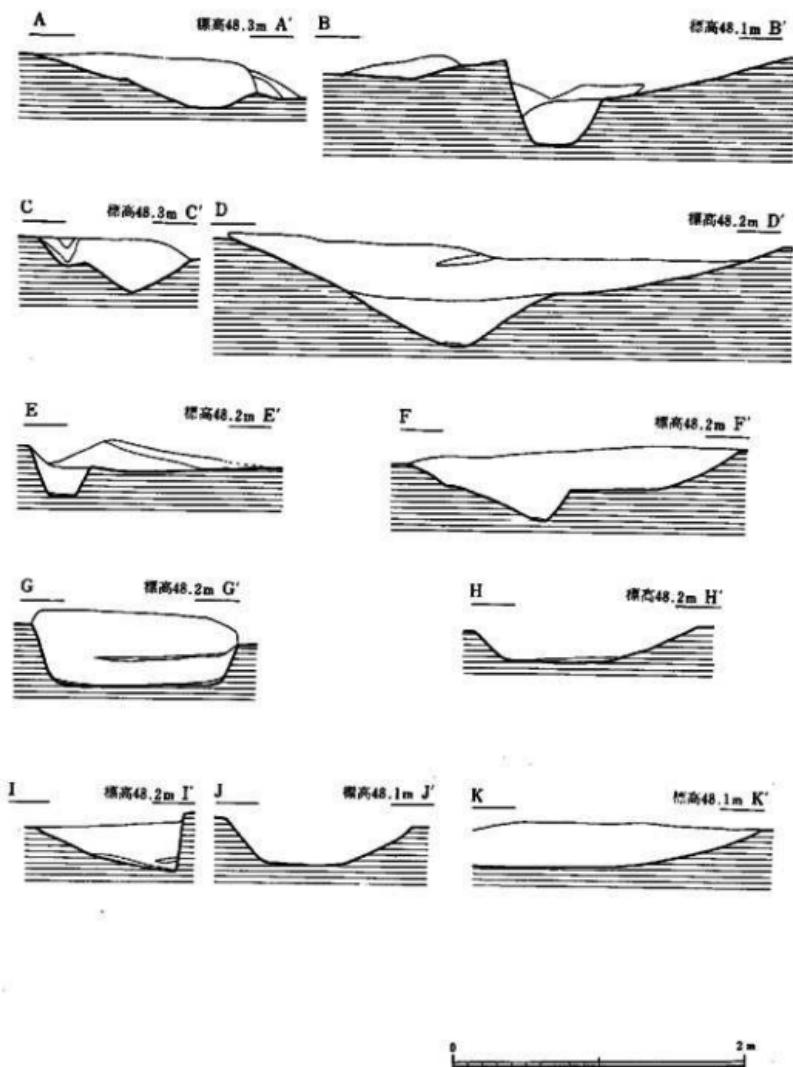


Fig. 136 第397~402号土壤 (SK-397~402) 実測図II

5. 土壌状造構

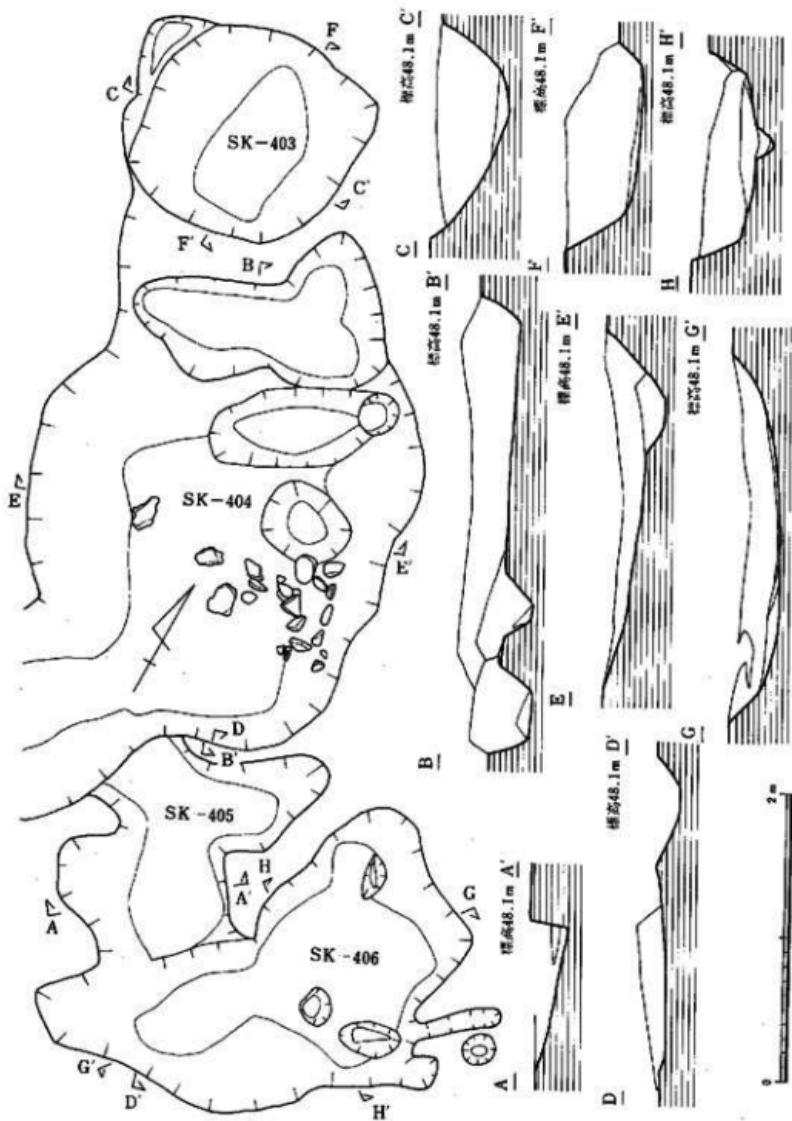


Fig. 137 第403~406号土壤 (SK-403~406) 実測図

第8章 K遺跡の記録

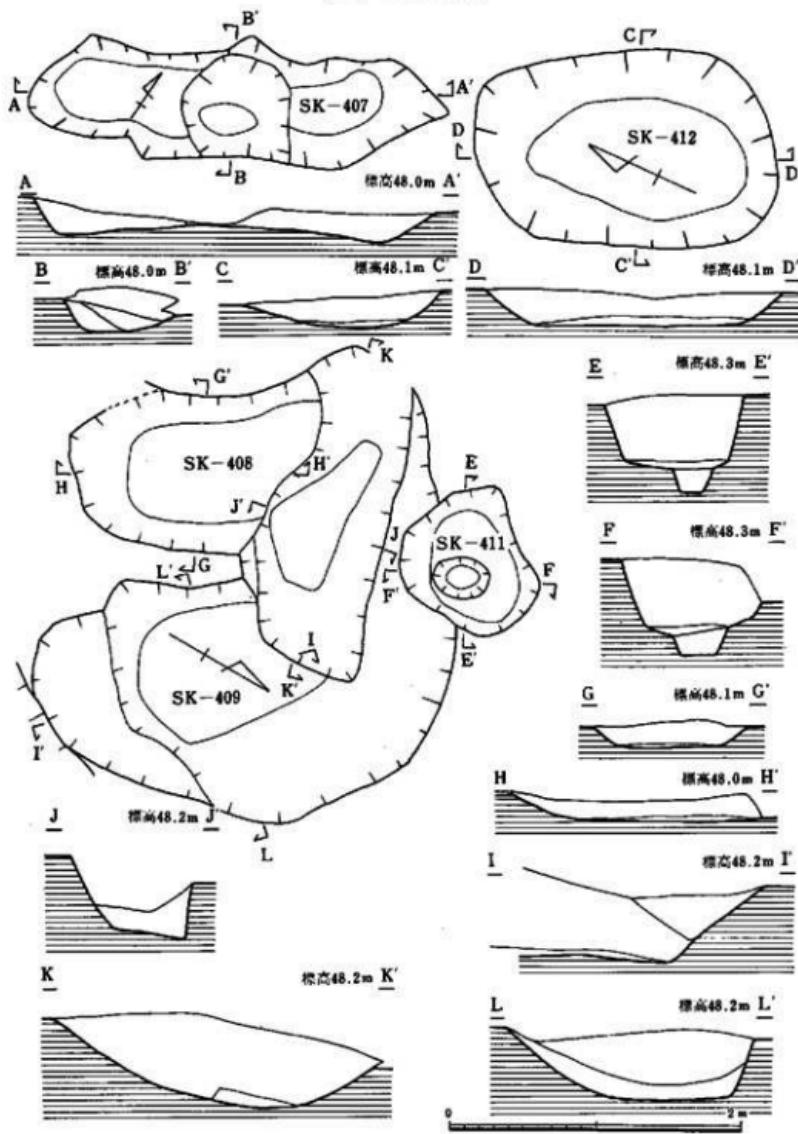


Fig. 138 第407~412号土塁 (SK-407~412) 実測図

5. 土壤状態圖

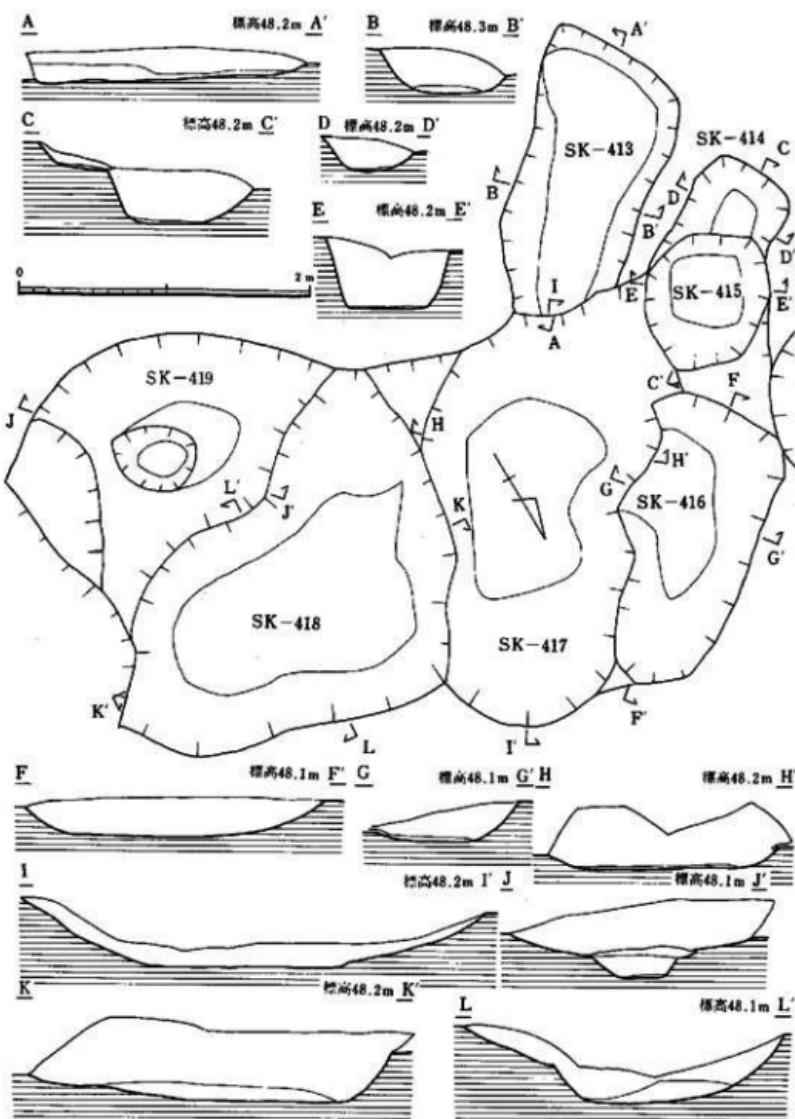


Fig. 139 第413~419号土壤 (SK-413~419) 実測図

第8章 K遺跡の記録

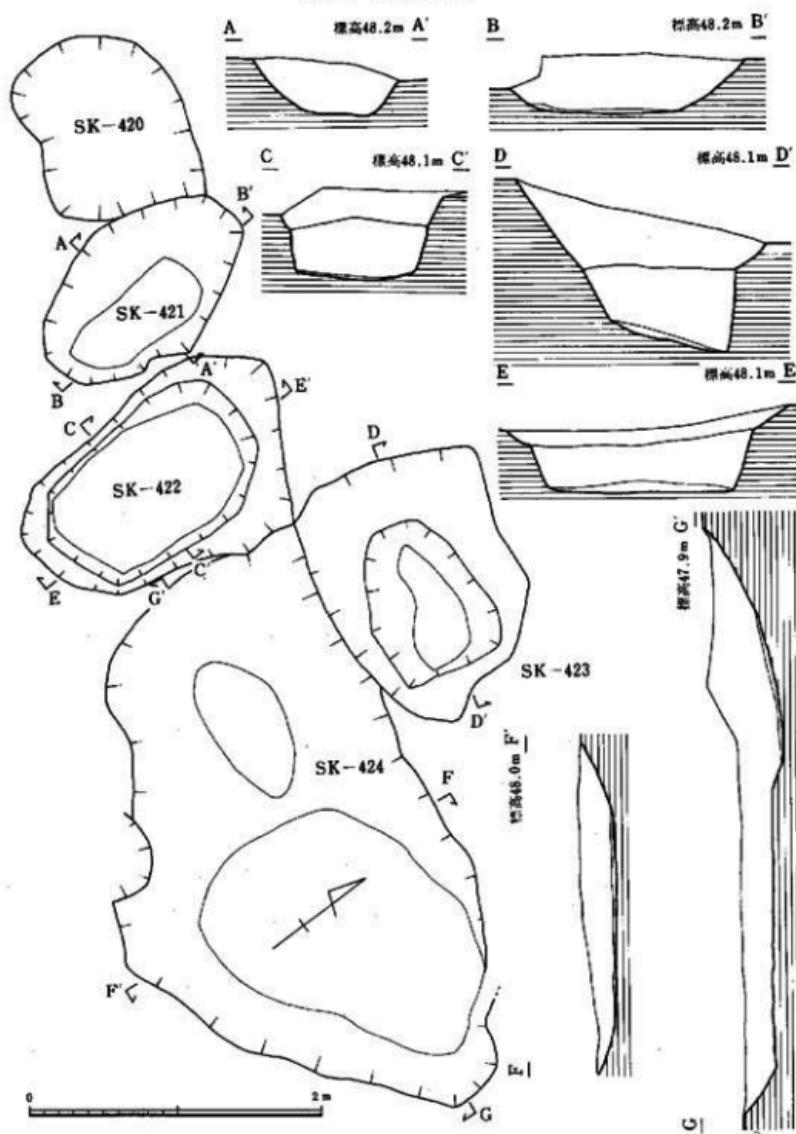


Fig. 140 第420~424号土壌 (SK-420~424) 実測図

5. 土壌状遺構

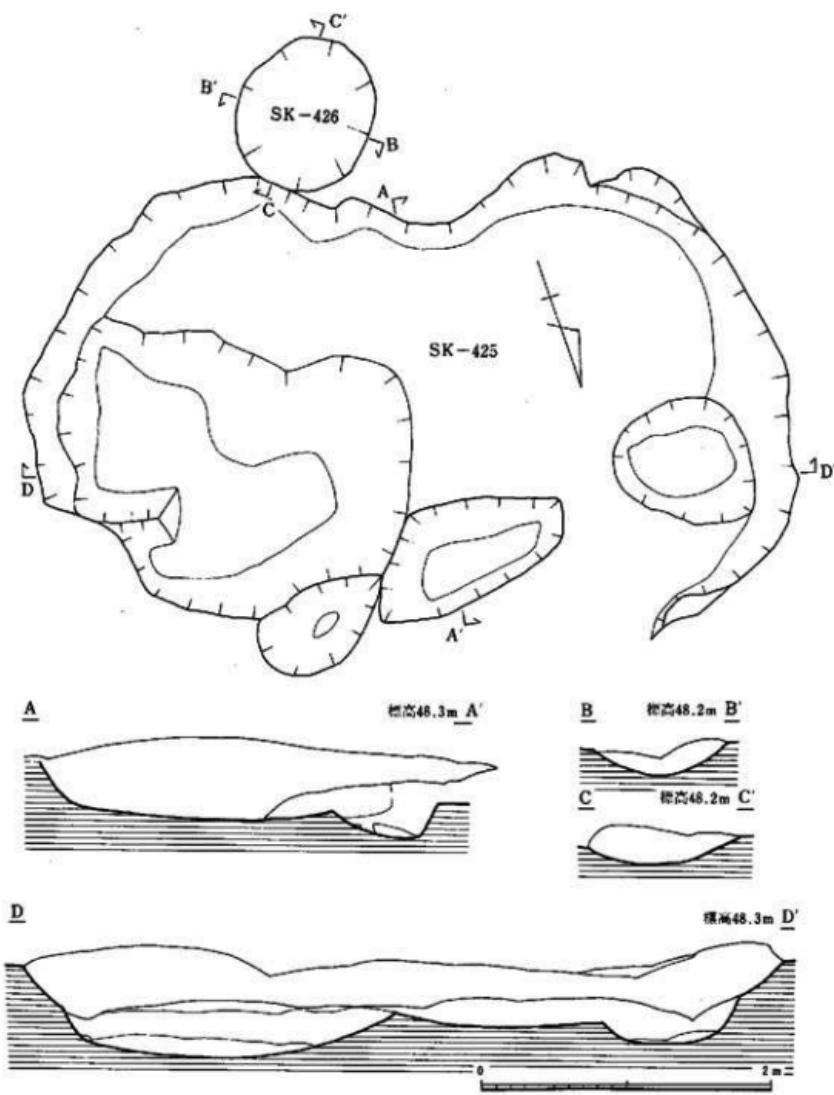


Fig. 141 第425・426号土壤 (SK-425・426) 実測図

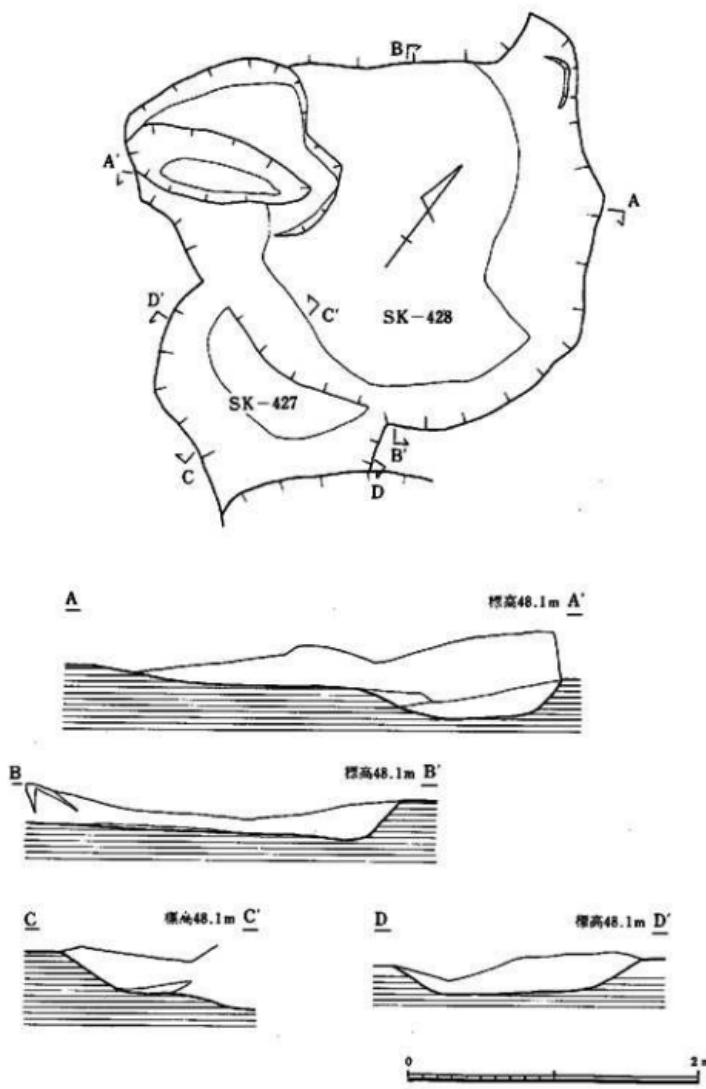


Fig. 142 第427・428号土壤 (SK-427・428) 実測図

5. 土壌状況図

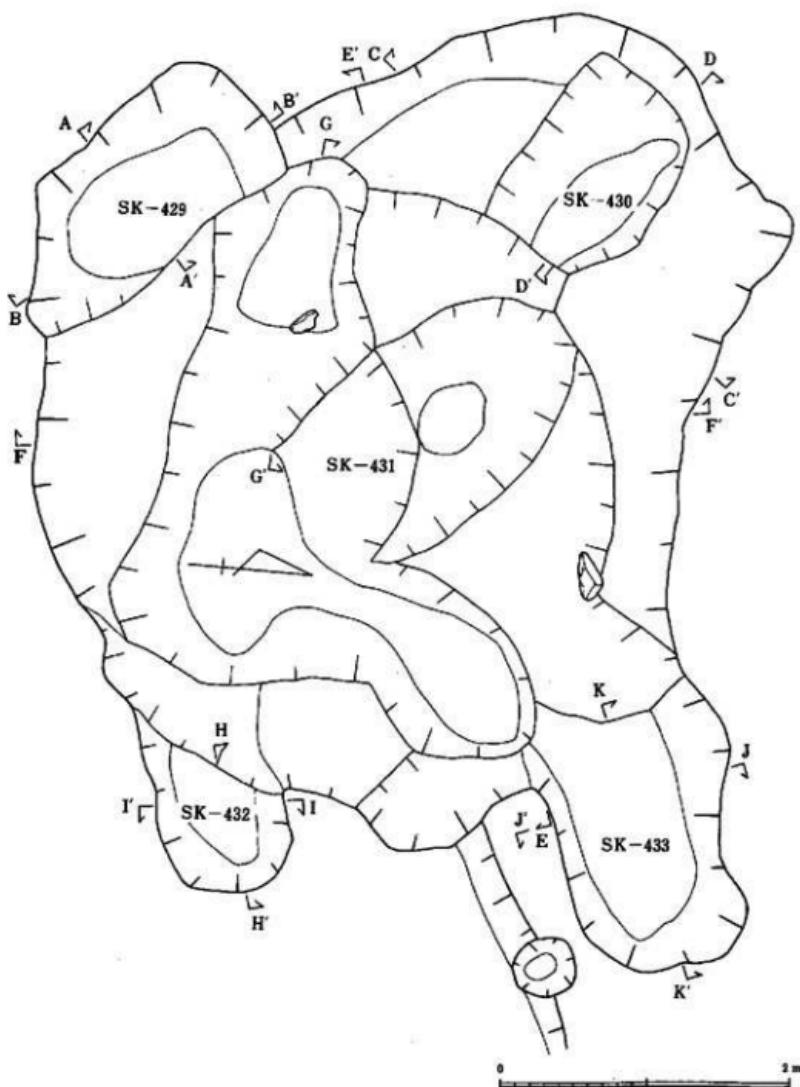


Fig. 143 第429~433号土壤 (SK-429~433) 実測図 I

第8章 K遺跡の記録

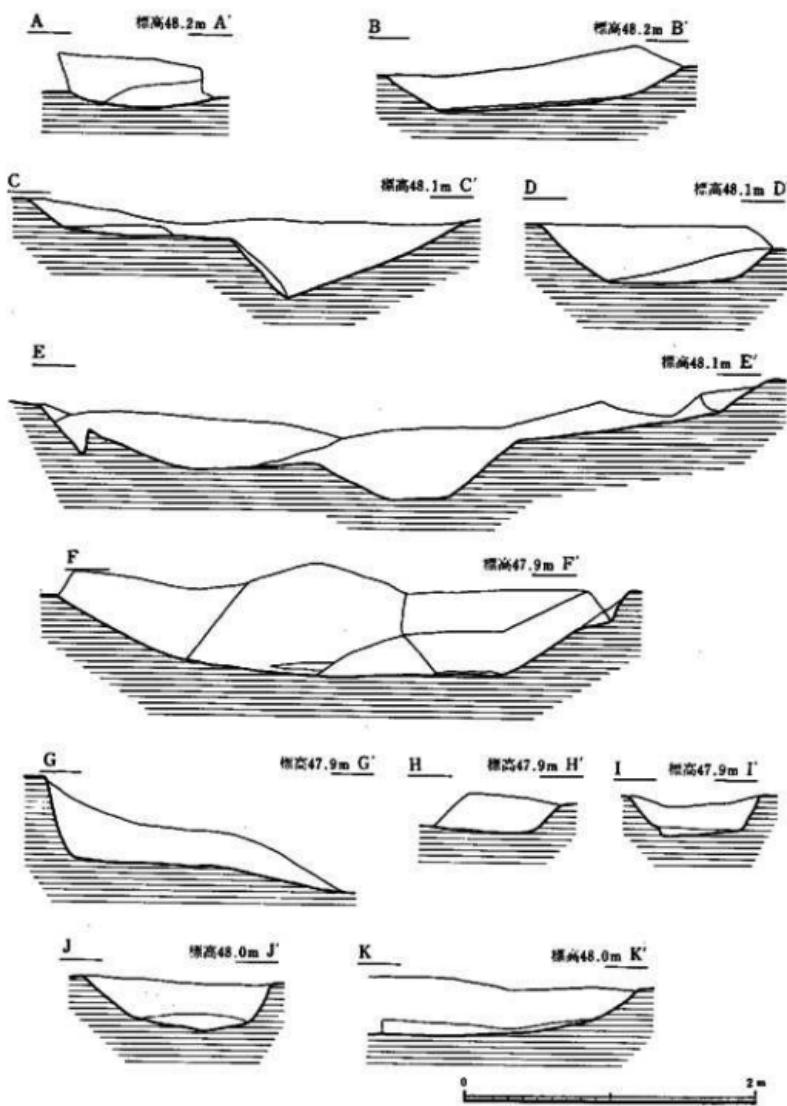


Fig. 144 第429~433号土壤 (SK-429~433) 実測図II

5. 土壠状遺構

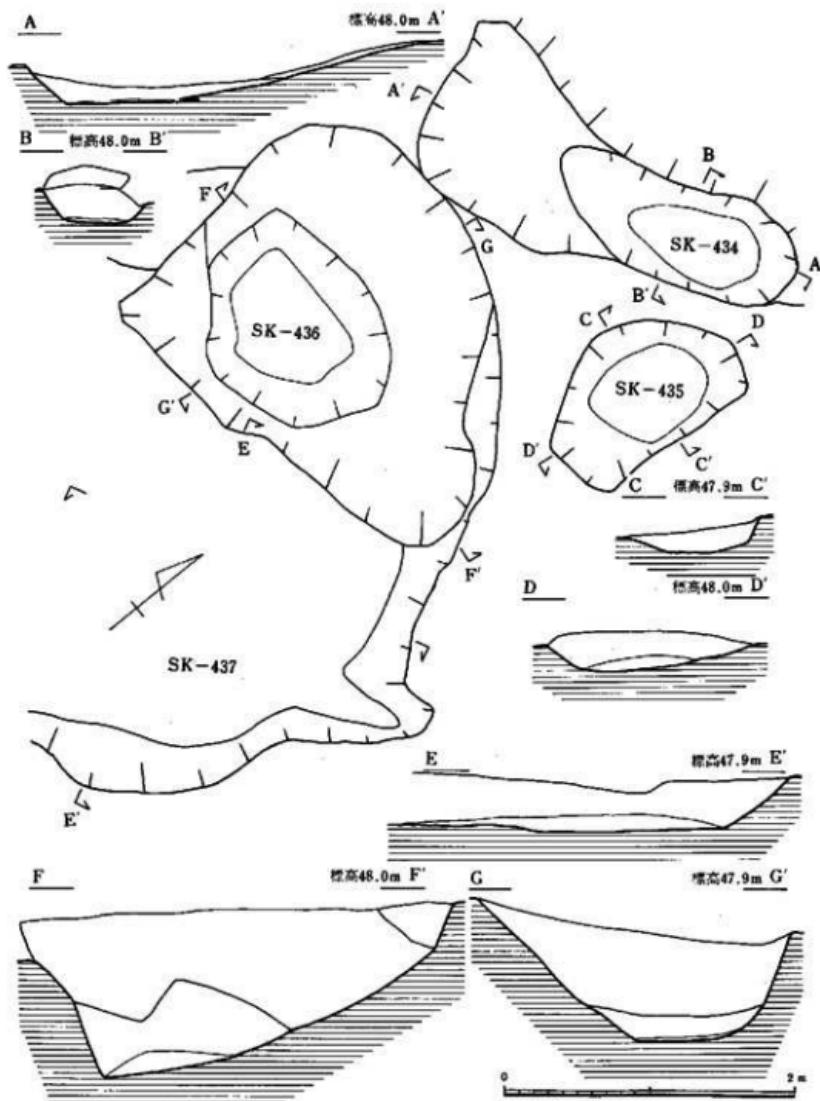


Fig. 145 第434~437号土壤 (SK-434~437) 断測図

第8章 K遺跡の記録

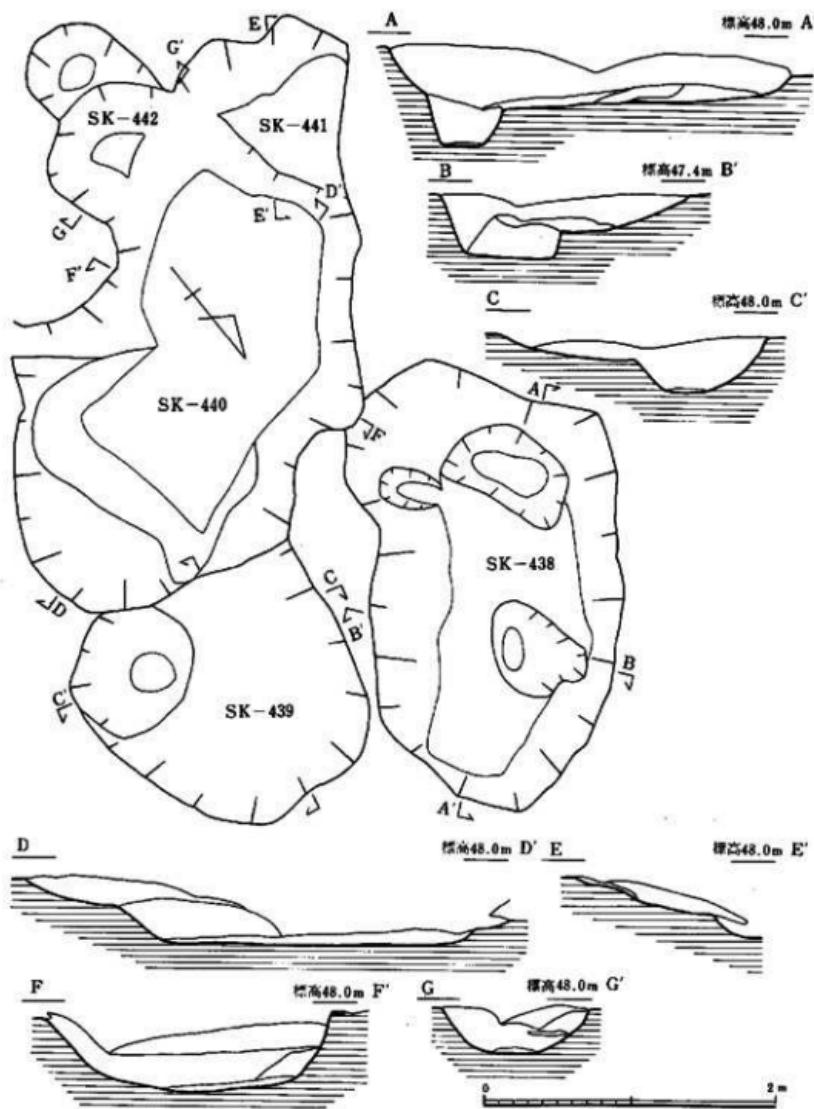


Fig. 146 第438～442号土壙 (SK-438-442) 実測図

5. 土壌状遺構

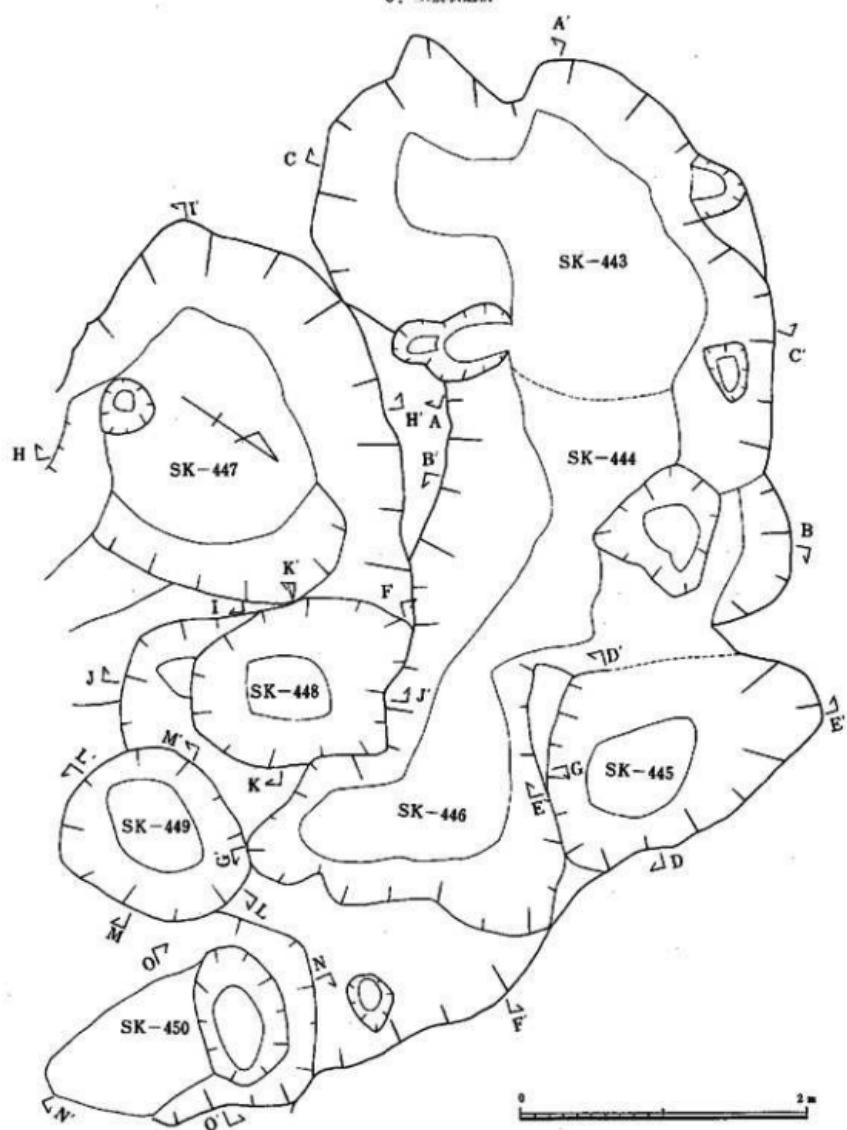


Fig. 147 第443~450号土壌 (SK-443~450) 実測図 I

第8章 K遺跡の記録

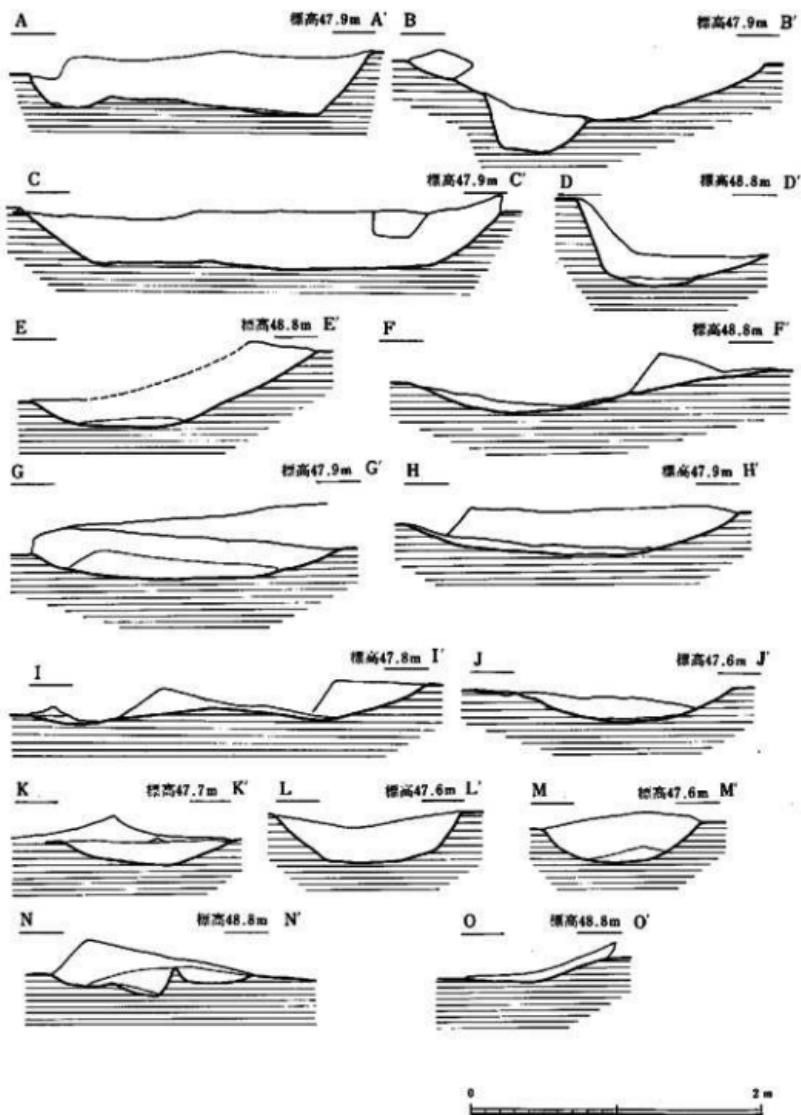


Fig. 148 第443~450号土壤 (SK-443~450) 実測図II

5. 土壌状遺構

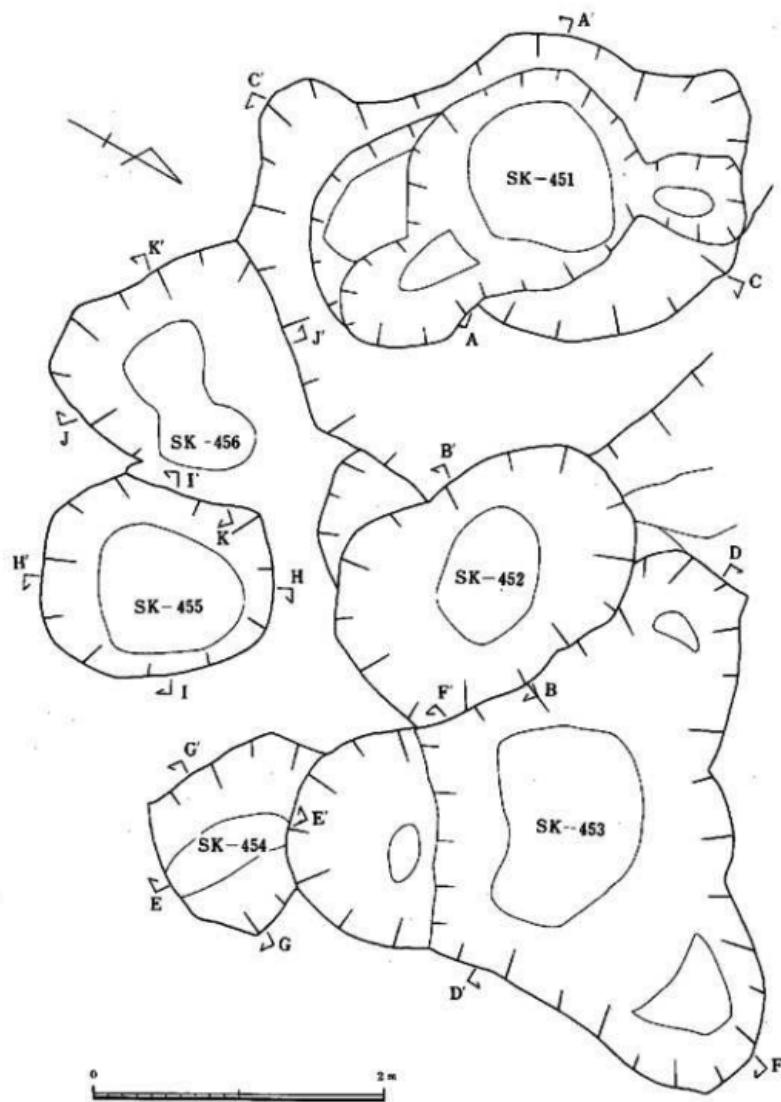


Fig. 149 第451~456号土壤 (SK-451~456) 実測図 I

第8章 K道路の記録

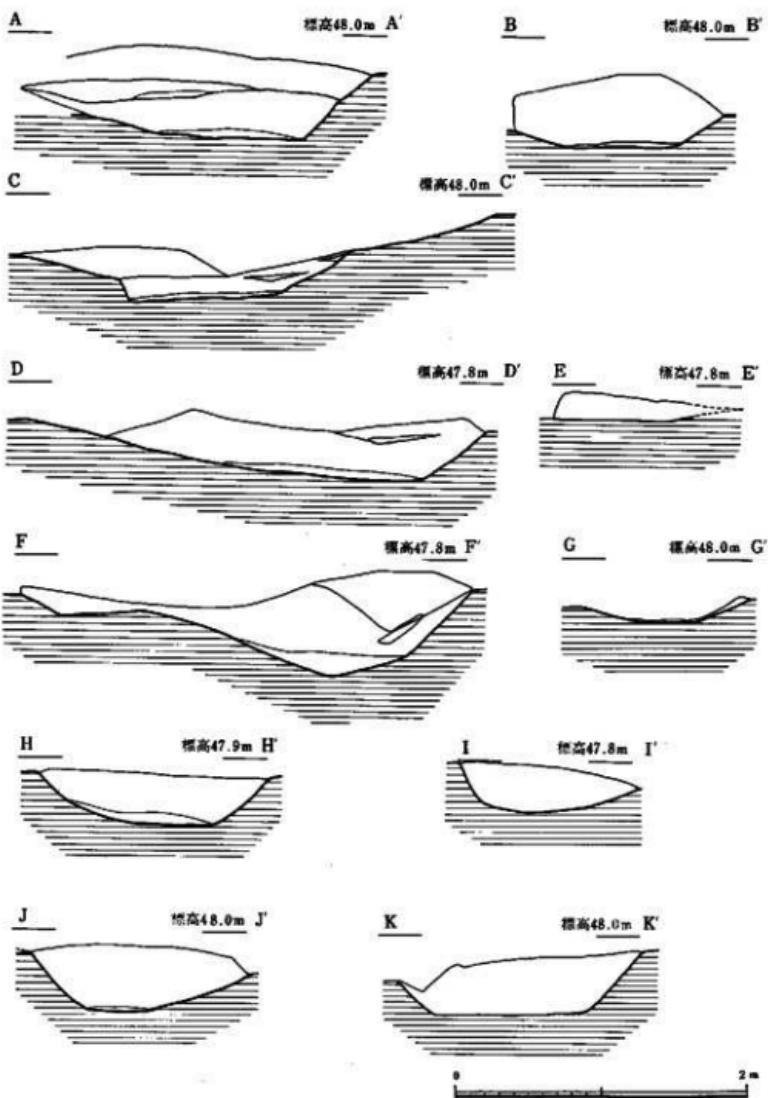


Fig. 150 第451~456号上坡 (SK-451~456) 実測図II

5. 土壠状造構

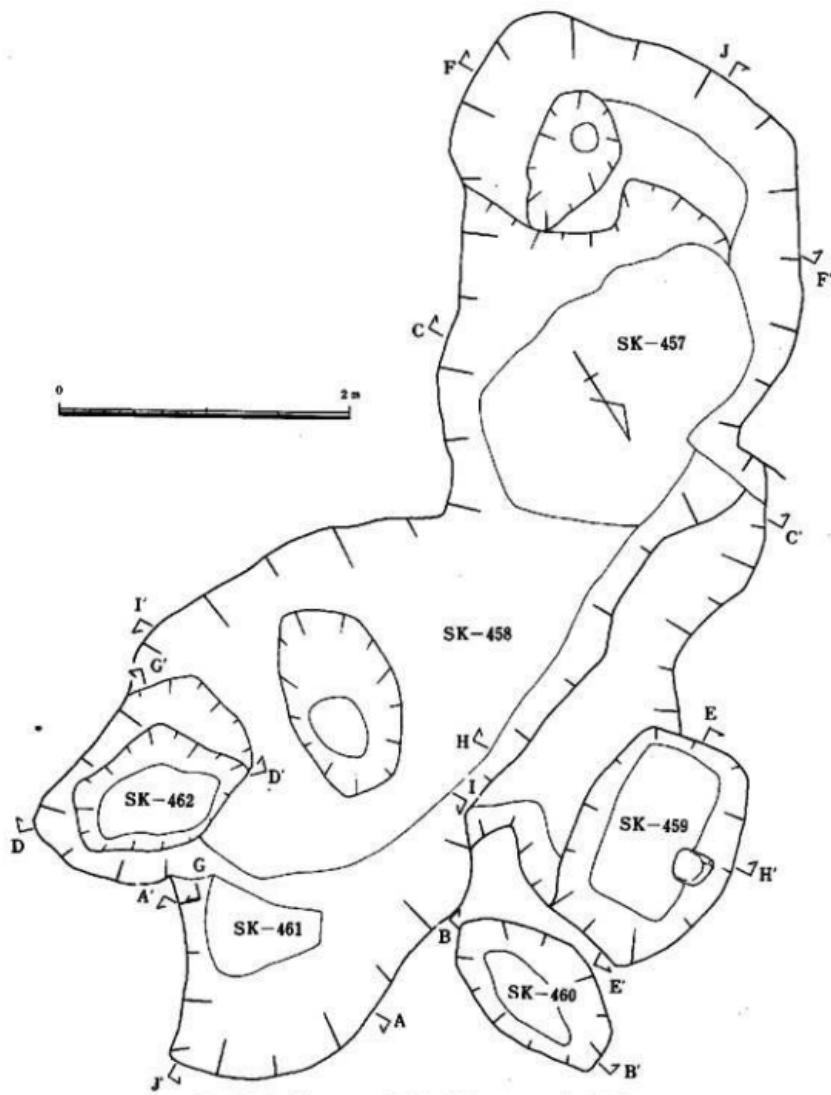


Fig. 151 第457~462号土壤 (SK-457~462) 実測図 1

第8章 K遺跡の記録

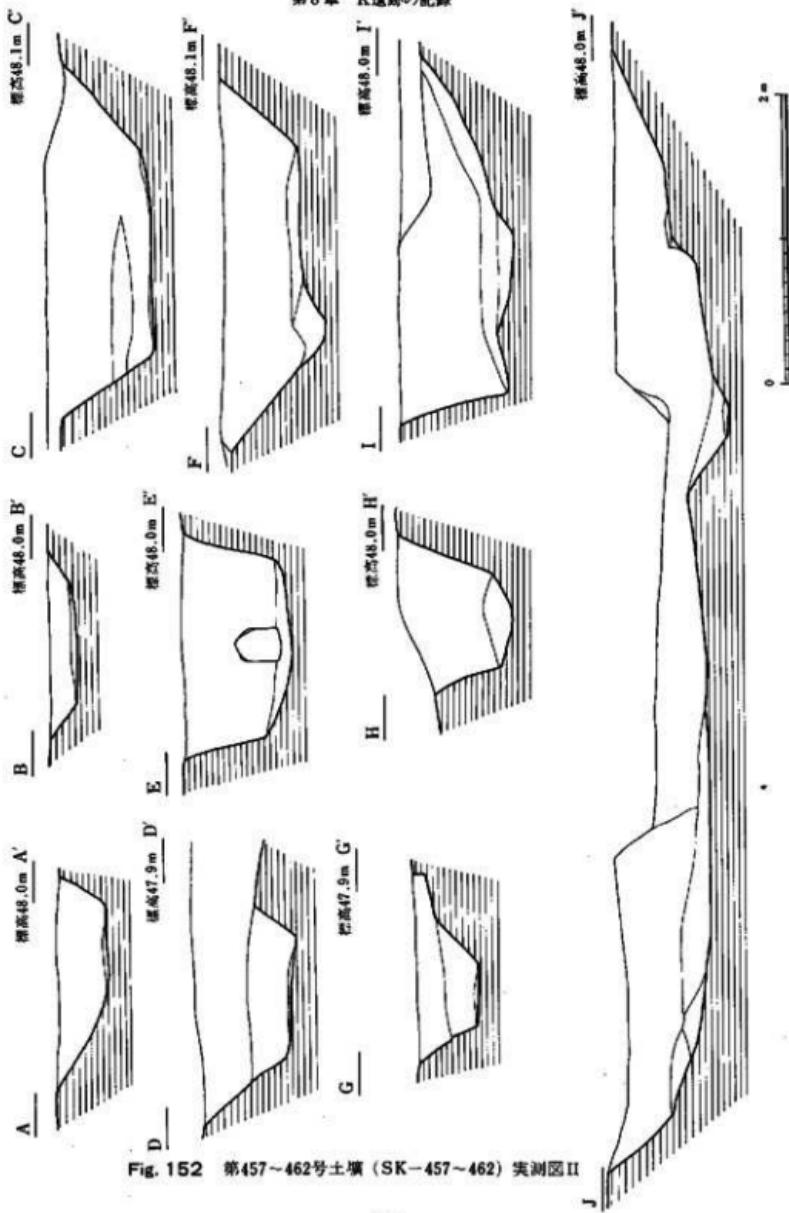


Fig. 152 第457~462号土壤 (SK-457~462) 実測図II

5. 土壤状遺構

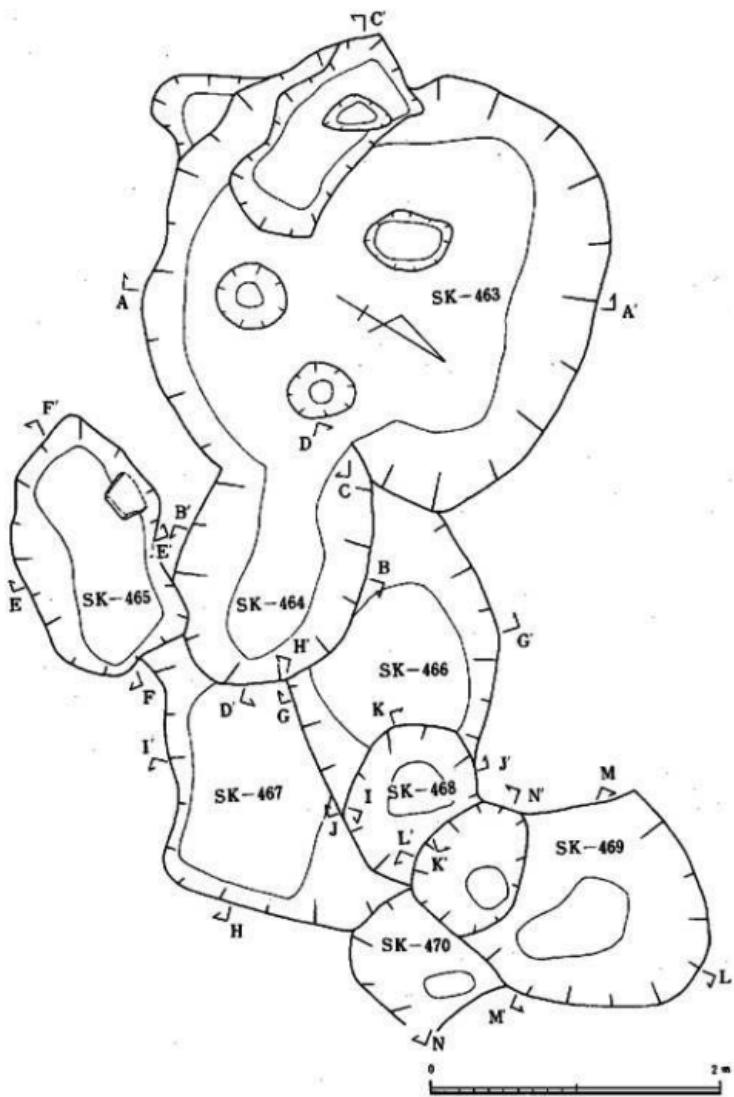


Fig. 153 第463~470号土壤 (SK-463~470) 実測図 I

第8章 K連続の記録

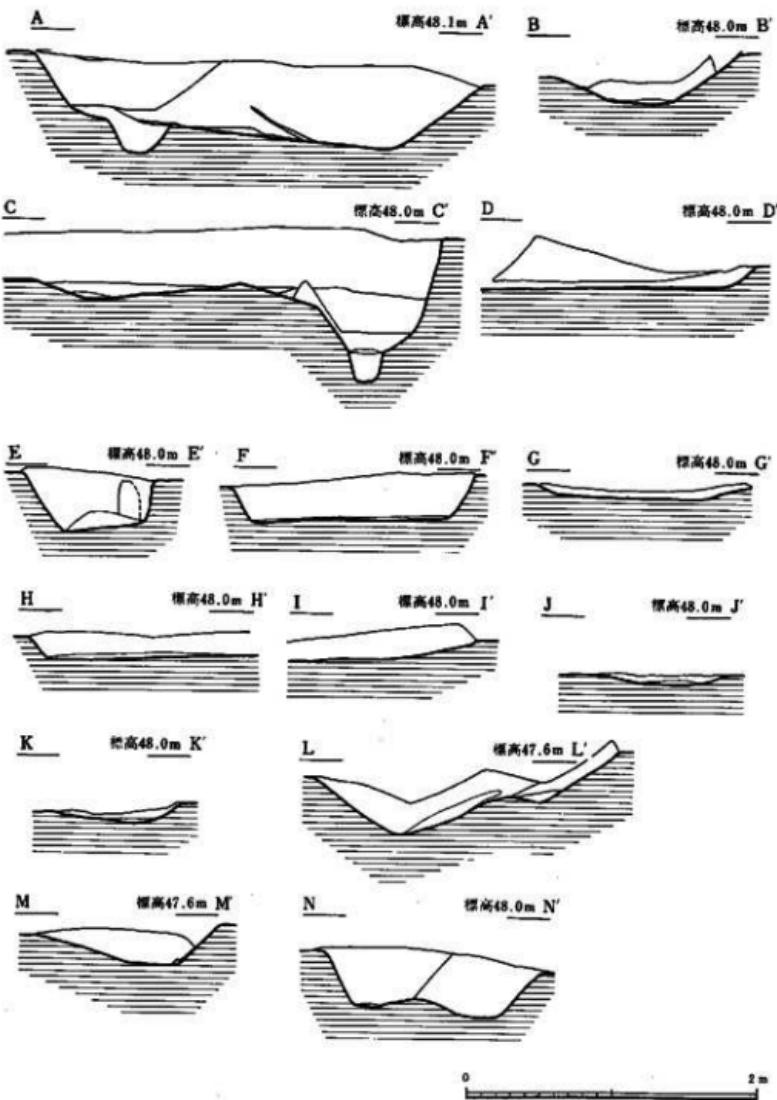


Fig. 154 第463~470号土壤 (SK-463~470) 痕測図II

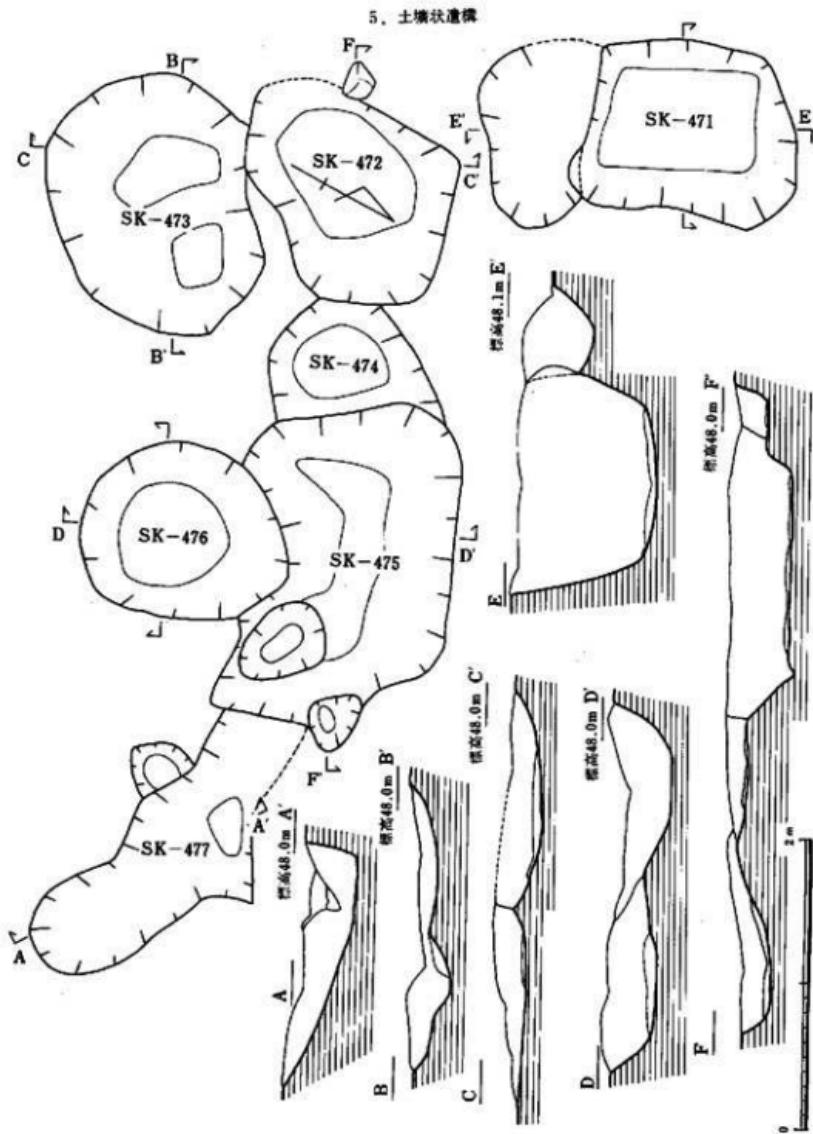


Fig. 155 第471~477号土壤 (SK-471~477) 実測図

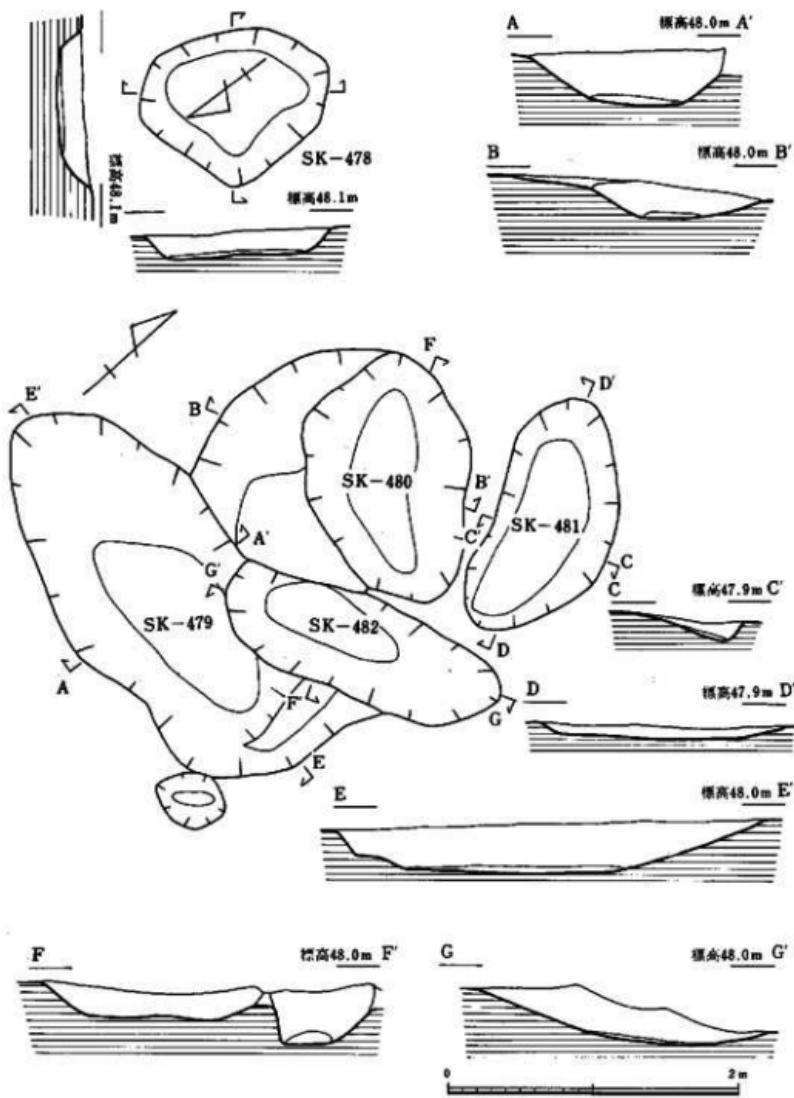


Fig. 156 第478~482号土壤 (SK-478~482) 実測図

5. 土壤状遺構

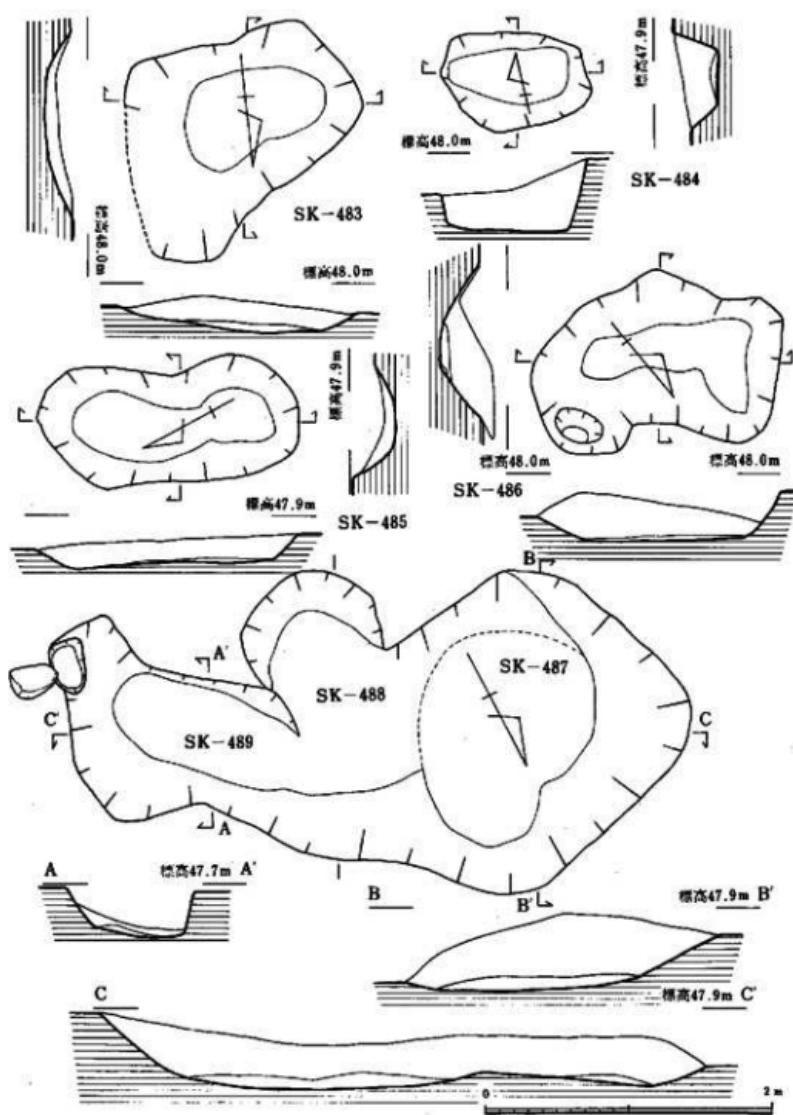


Fig. 157 第483~489号土壤 (SK 483~489) 実測図

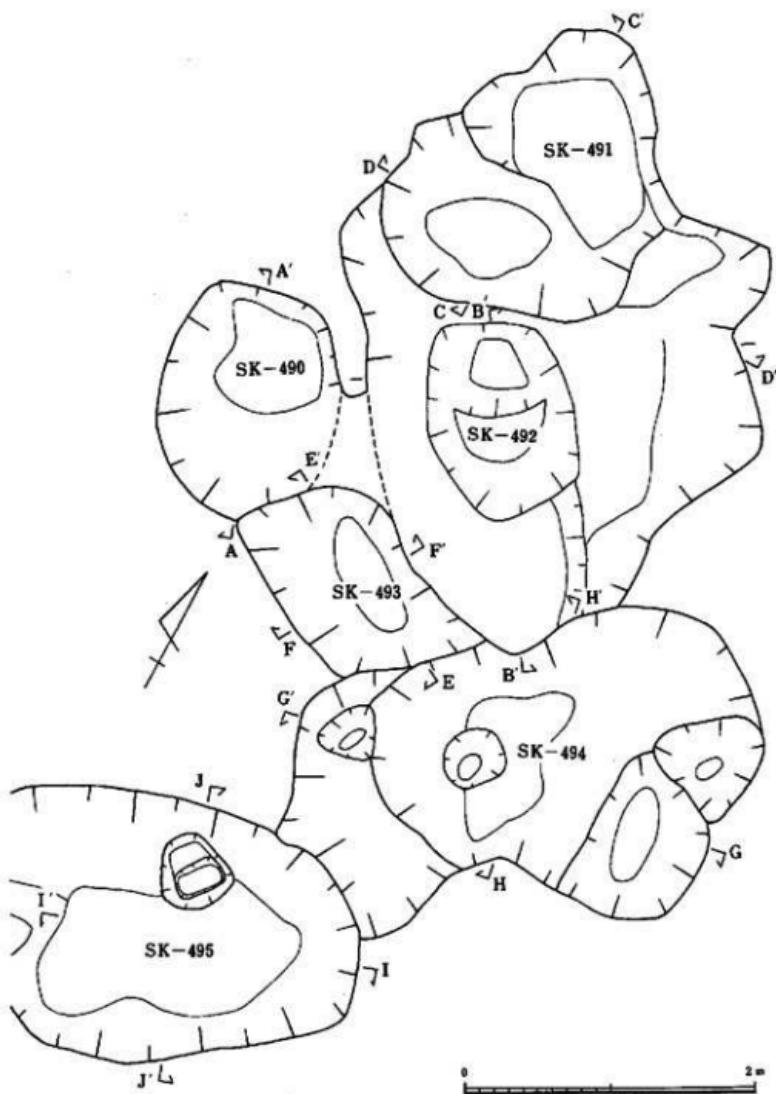


Fig. 158 第490~495号土壤 (SK-490~495) 実測図 I

5. 土壤状溝構

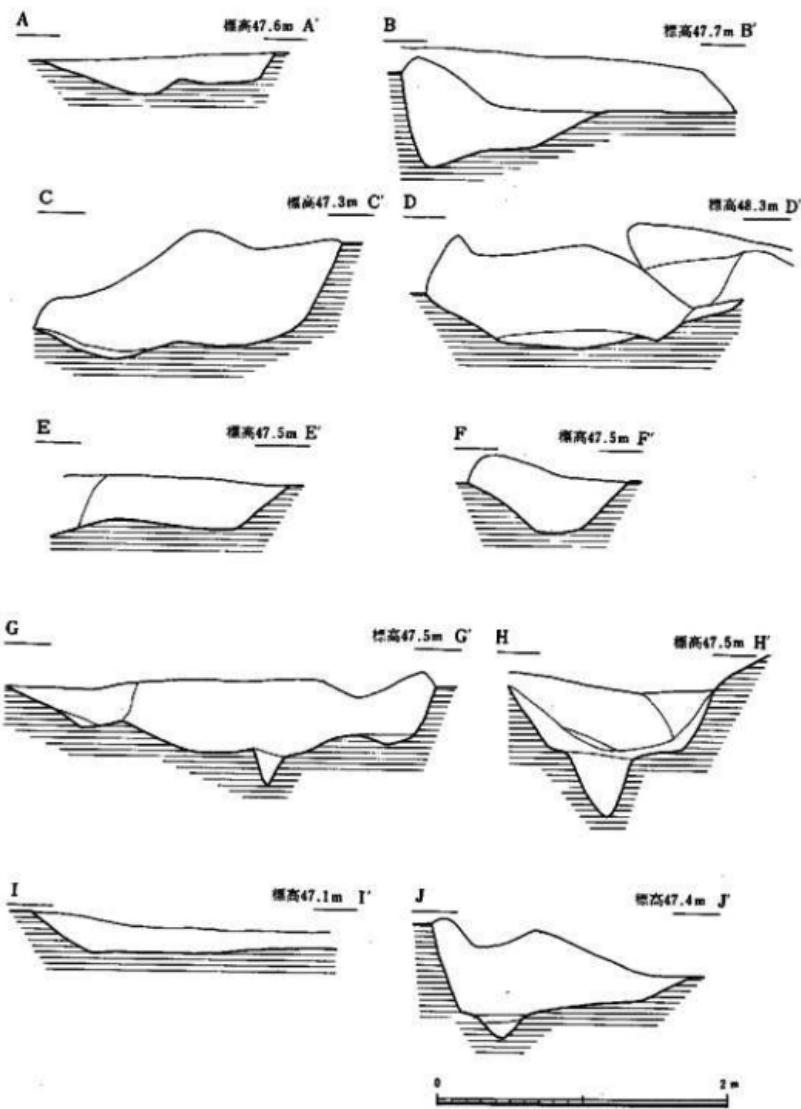


Fig. 159 第490~495号土壤 (SK 490~495) 實測圖II

第8章 K遺跡の記録

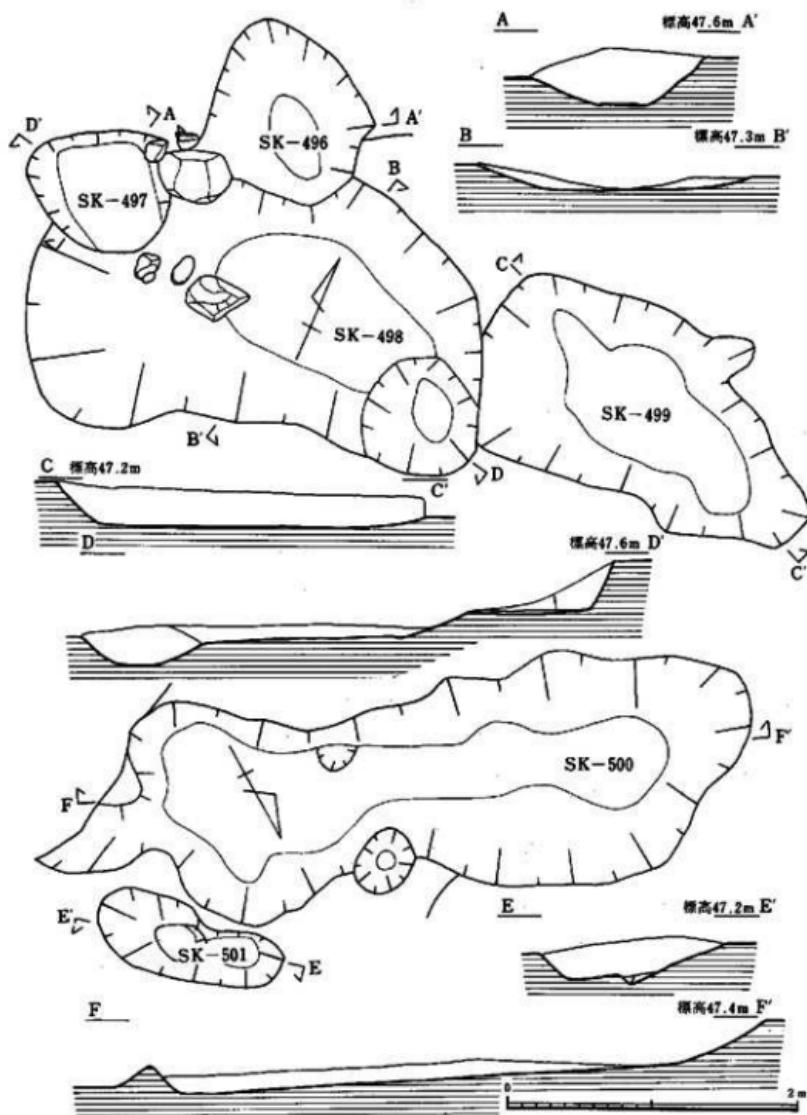


Fig. 160 第496~501号土壤 (SK-496~501) 実測図

5. 土壌状遺構

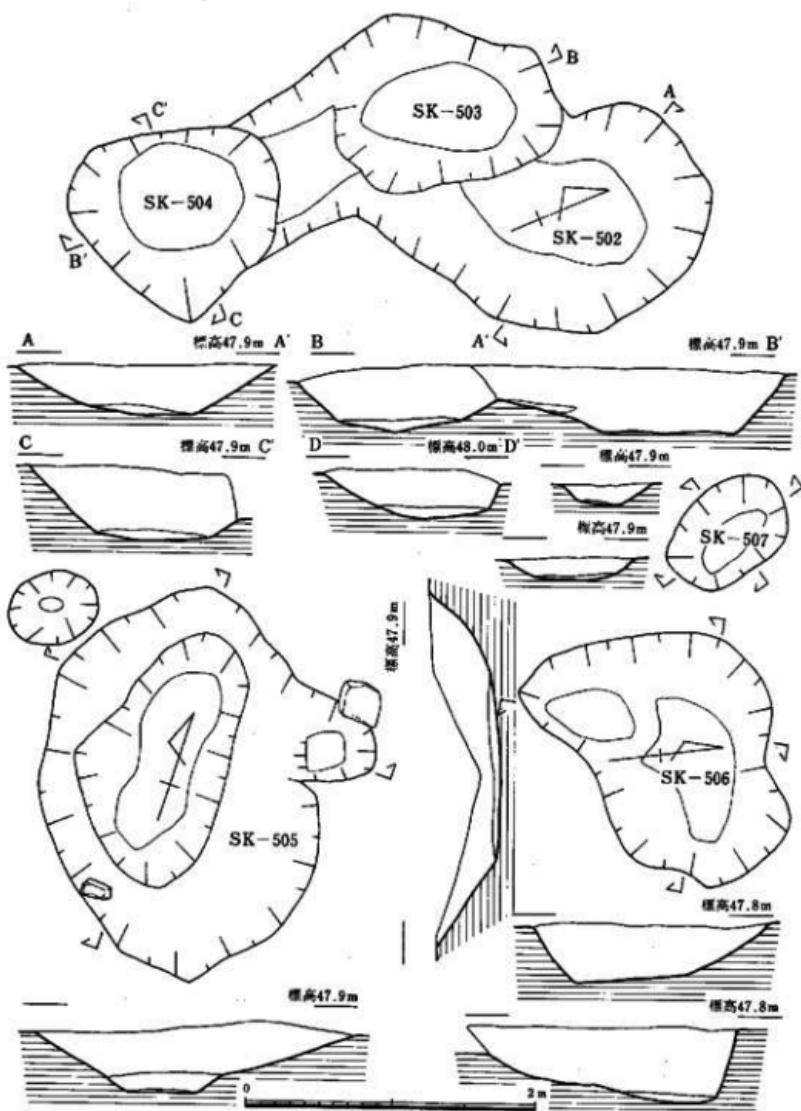


Fig. 161 第502~507号土壤(SK-502~507)実測図

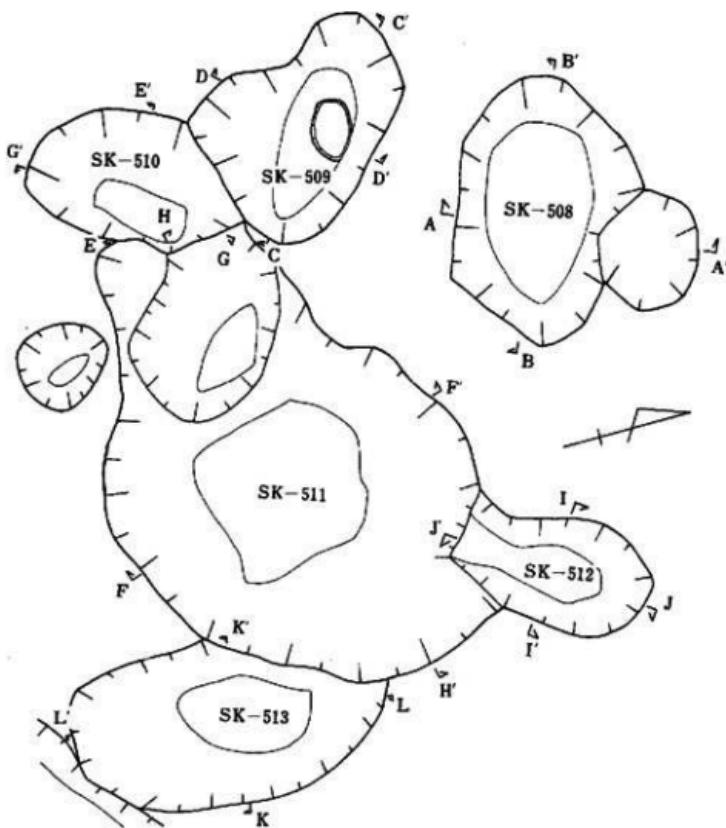


Fig. 162 第508~513号土壤 (SK-508~513) 実測図 I

5. 土壤状遺構

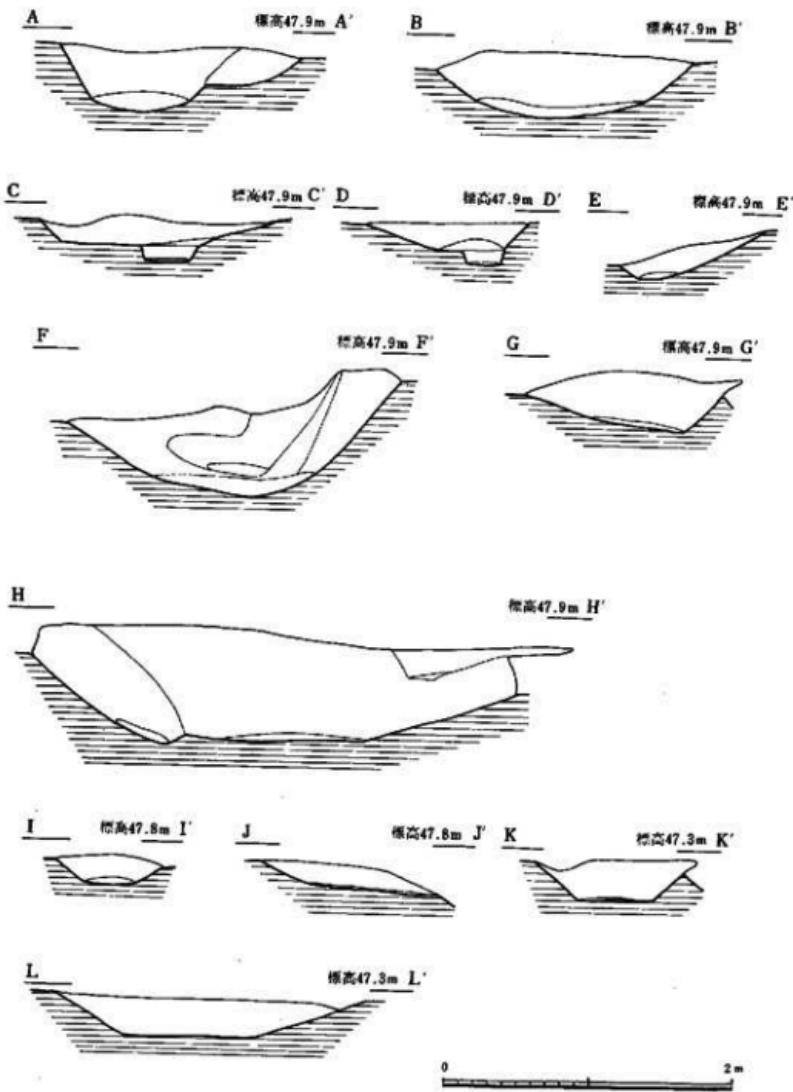


Fig. 163 第508~513号土壤 (SK-588~513) 実測図II

第8章 K遭時の記録

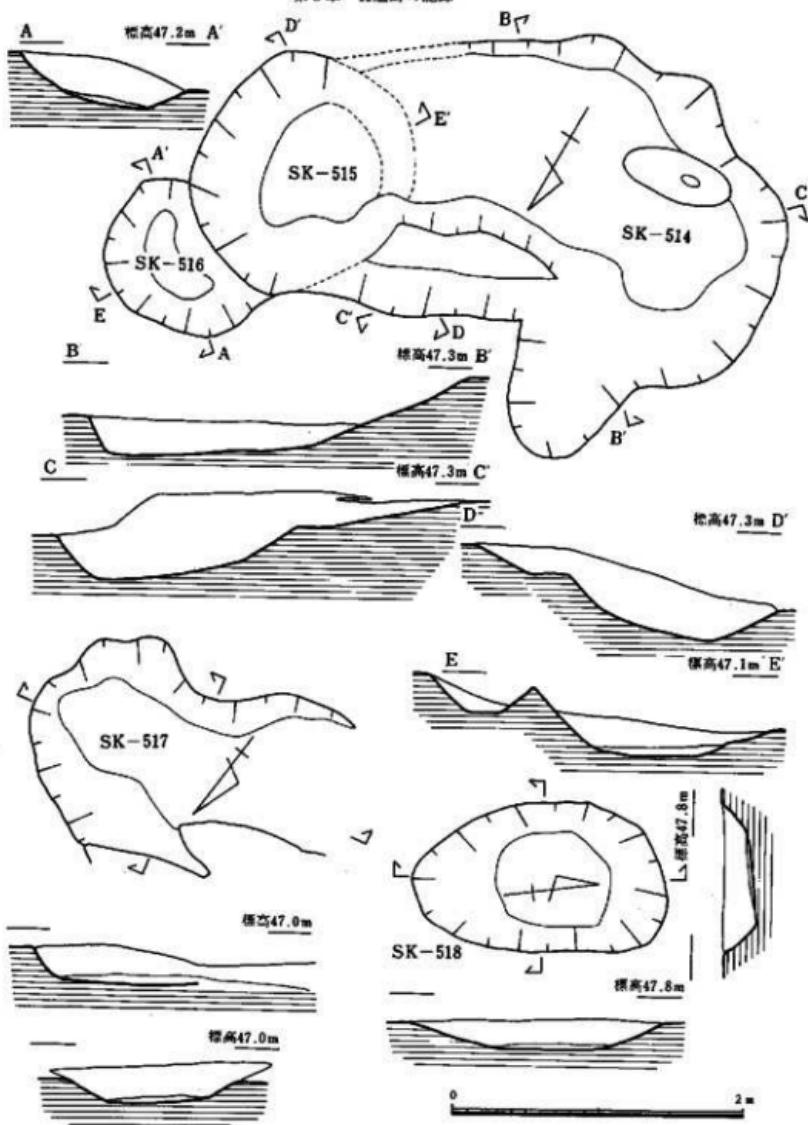


Fig. 164 第514~518号土壤 (SK-514~518) 実測図

5. 土壌状構

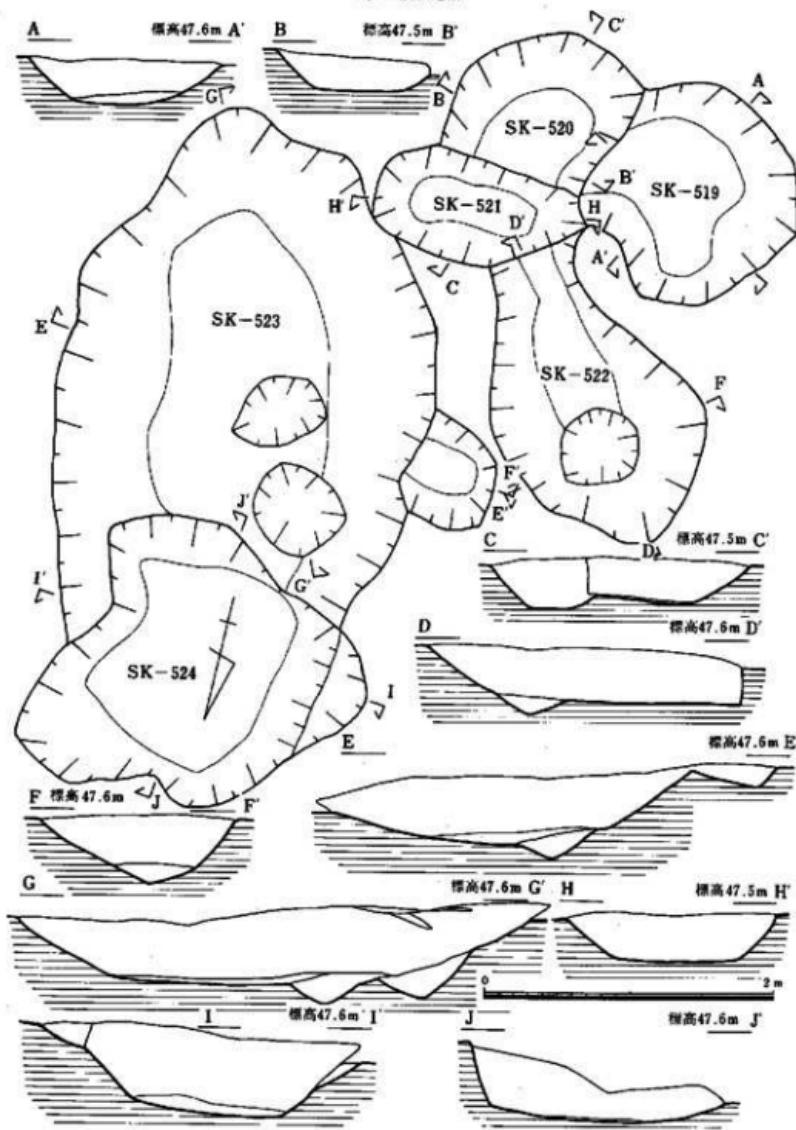


Fig. 165 第519~524号土壤 (SK-519~524) 実測図

第8章 K遺跡の記録

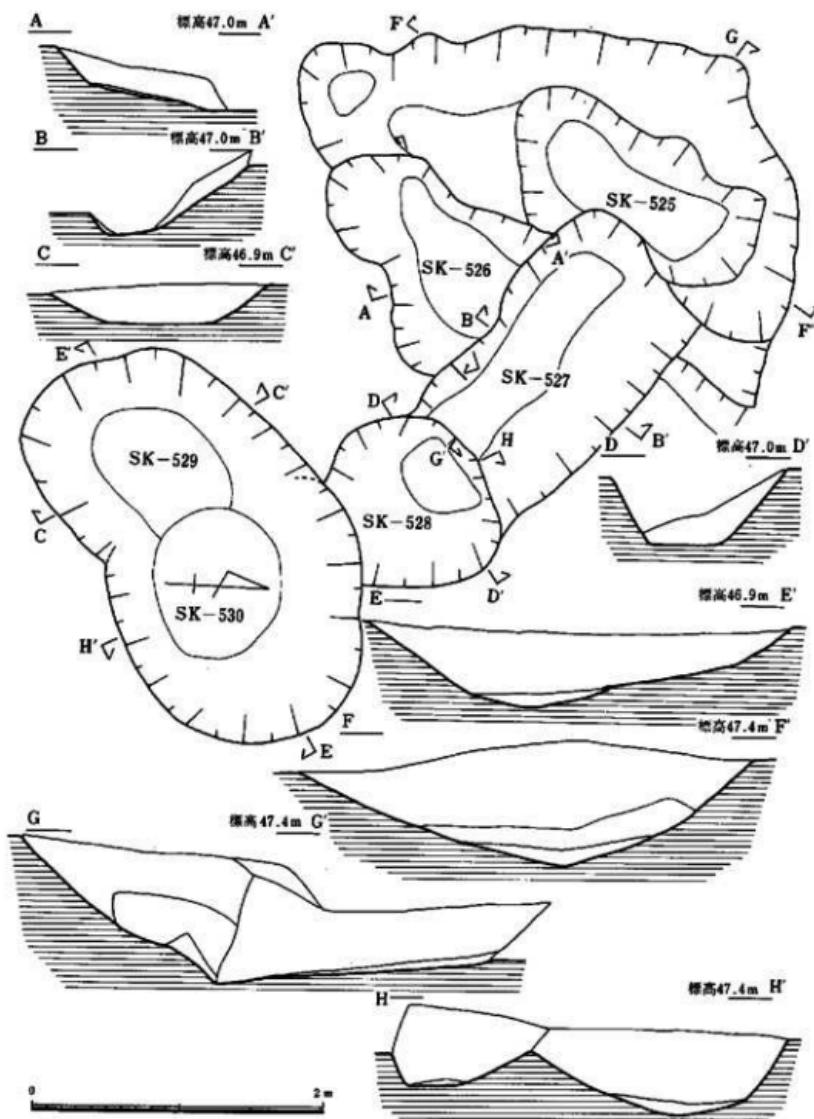


Fig. 166 第525～530号土壤 (SK-525～530) 実測図

5. 上壤状遺構

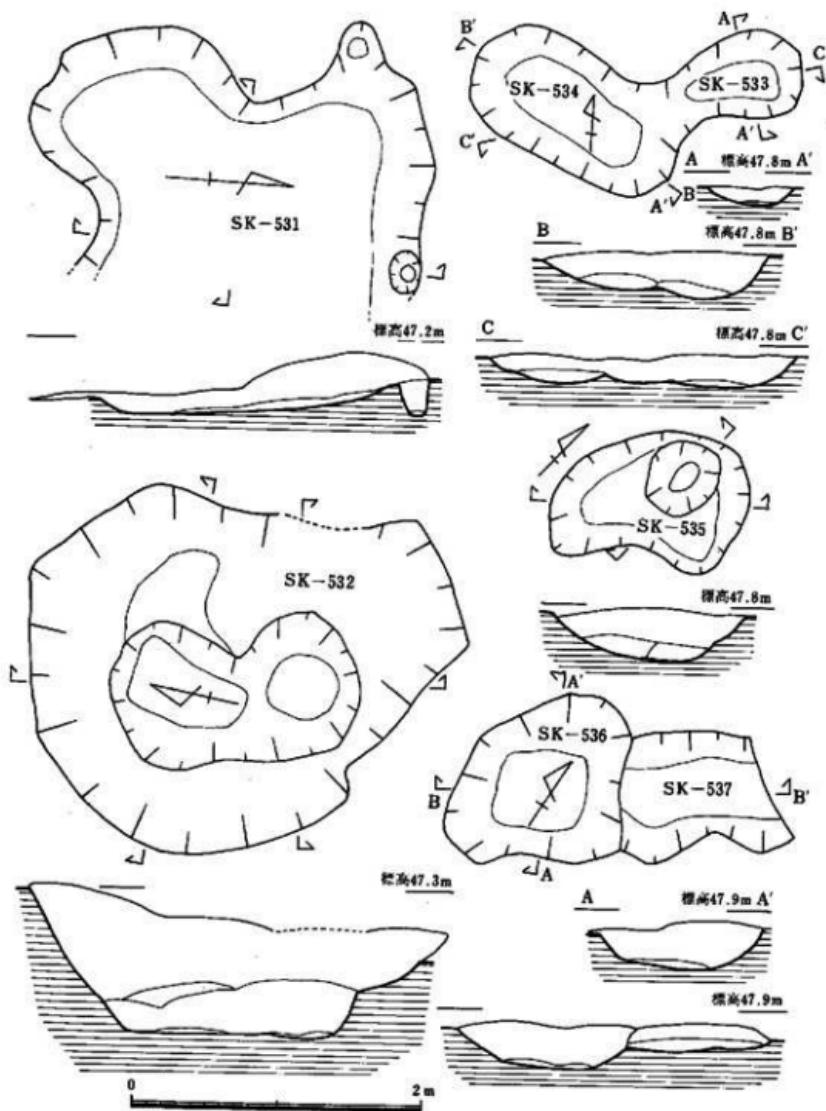


Fig. 167 第531~537号土壤(SK-531~537)実測図

第8章 K道路の記録

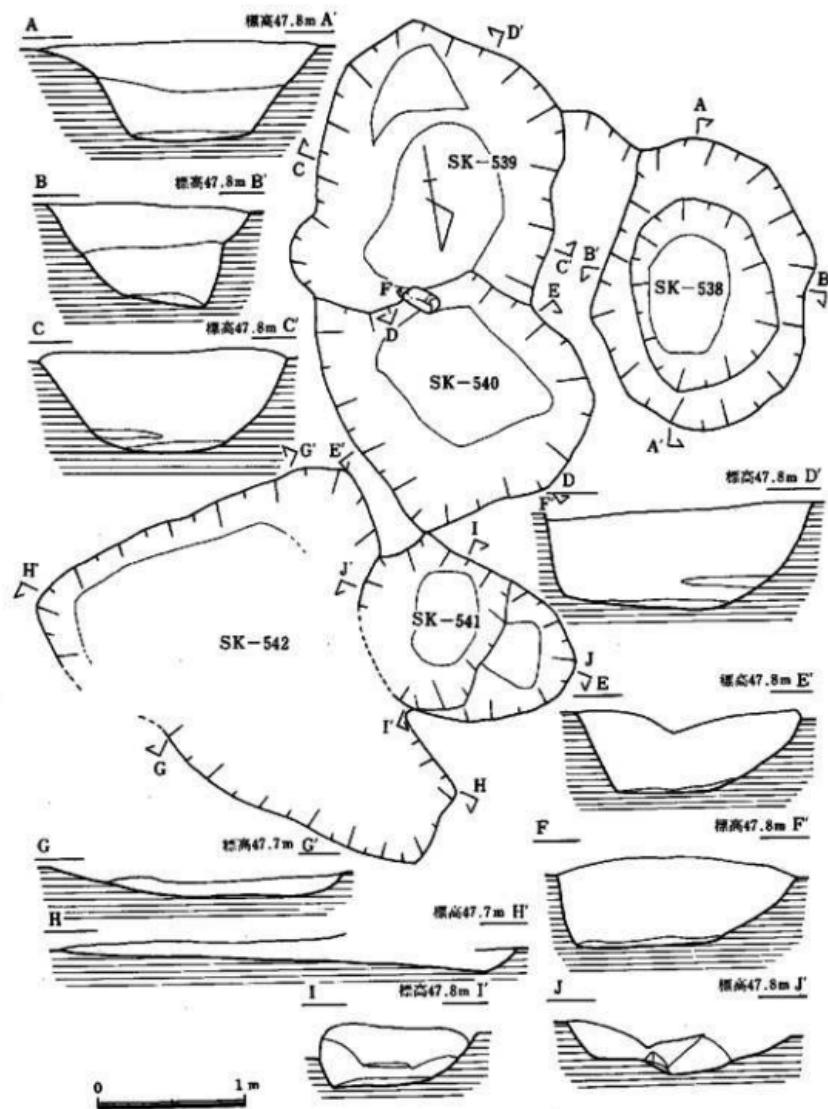


Fig. 168 第538~542号土壤(SK-538~542)実測図

5. 上壤状遺構

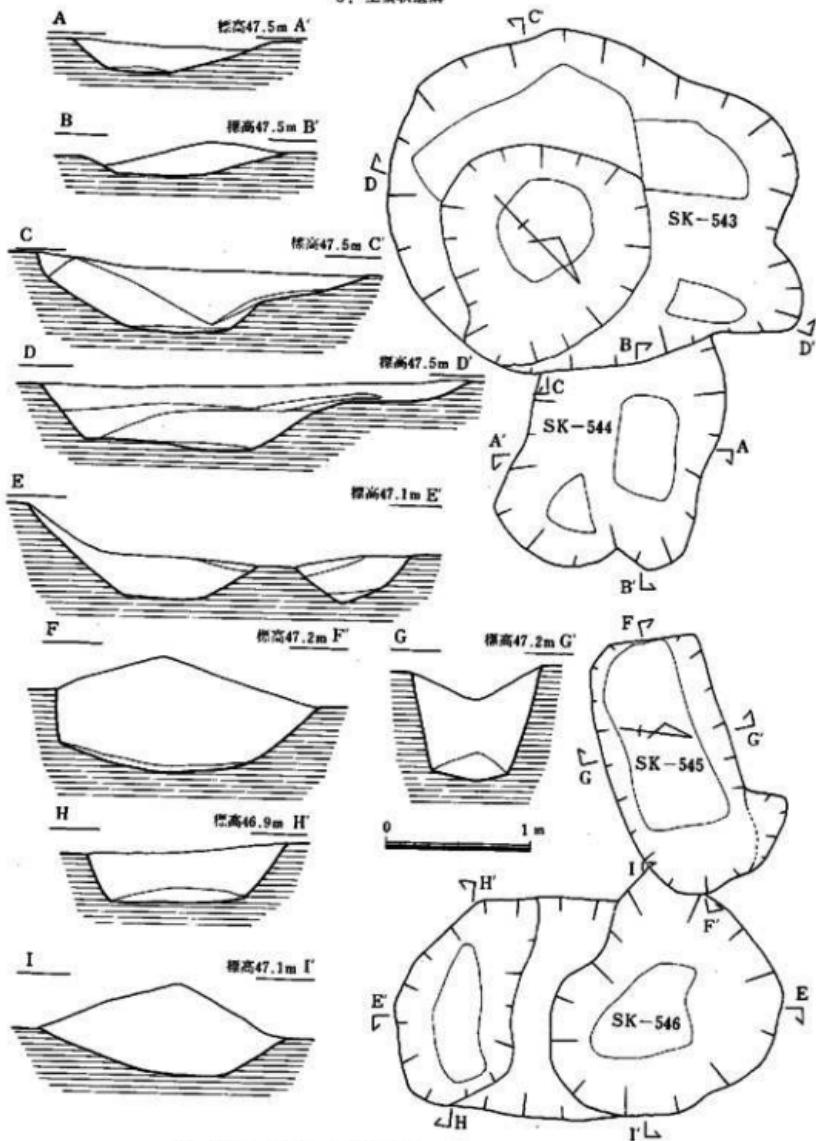


Fig. 169 第543~546号土壤(SK-543~546)実測図

第8章 K遺跡の記録

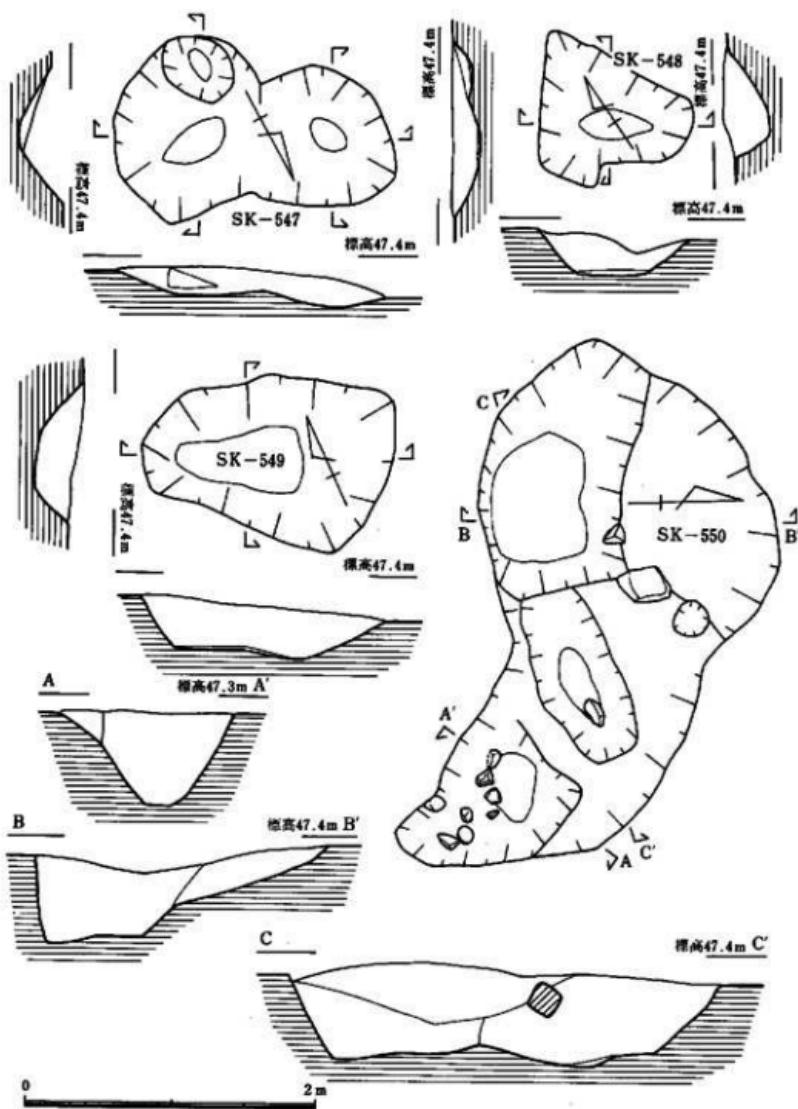


Fig. 170 第547～550号土壙(SK-547～550)実測図

5. 土壌状遺構

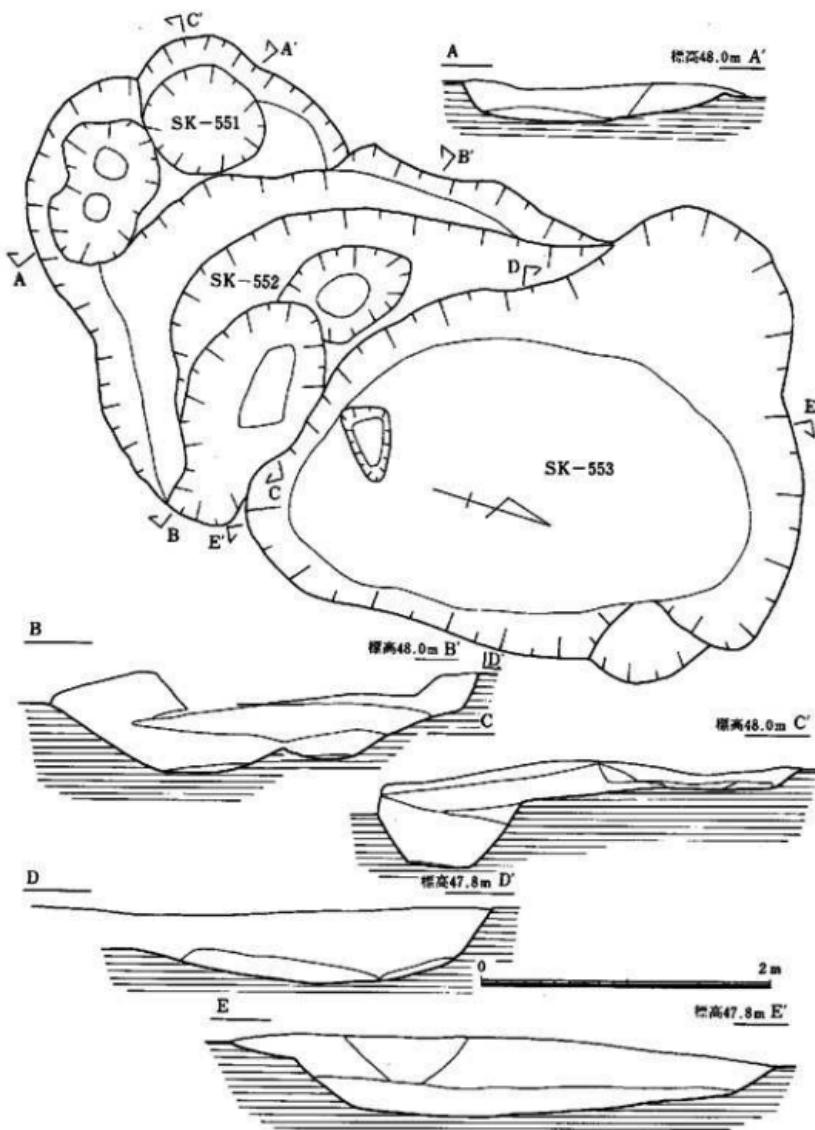


Fig. 171 第551~553号土壤(SK-551~553)実測図

第8章 K遺跡の記録

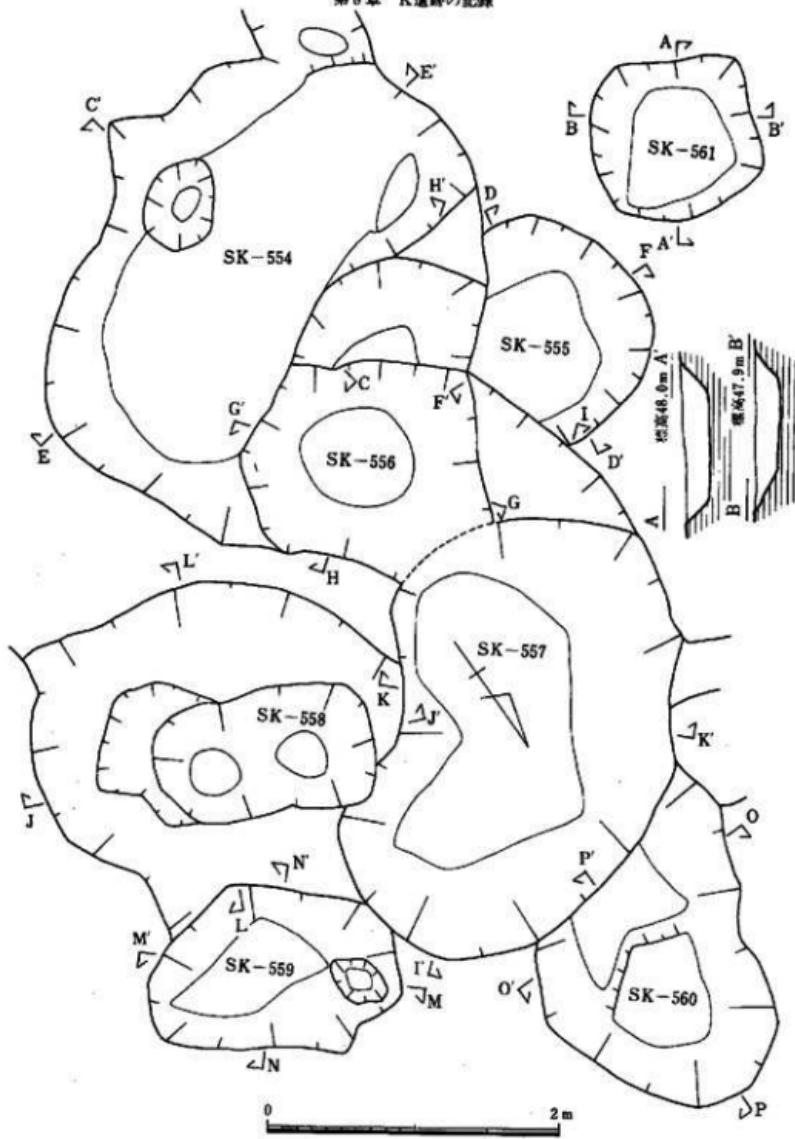


Fig. 172 第554-561号土壤(SK-554-561)実測図 I

5. 土壤状遺構

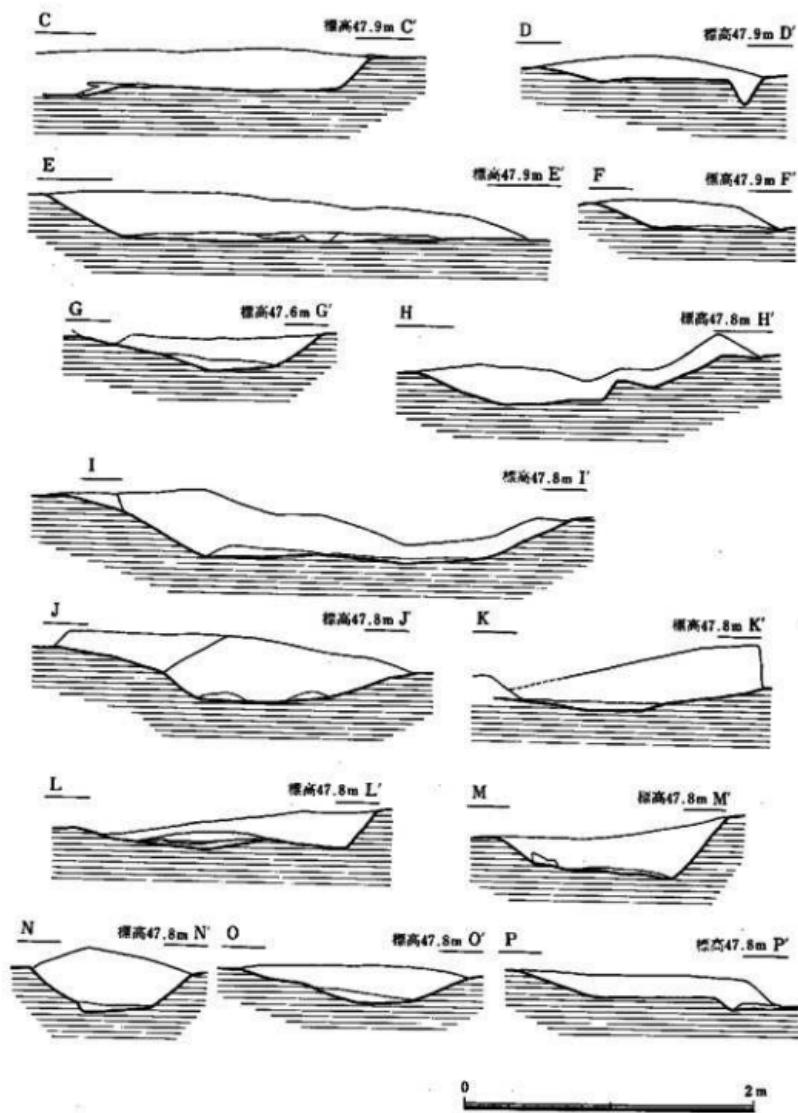


Fig. 173 第554—561号土坡(SK-554-561)実測図II

第8章 K遺跡の記録

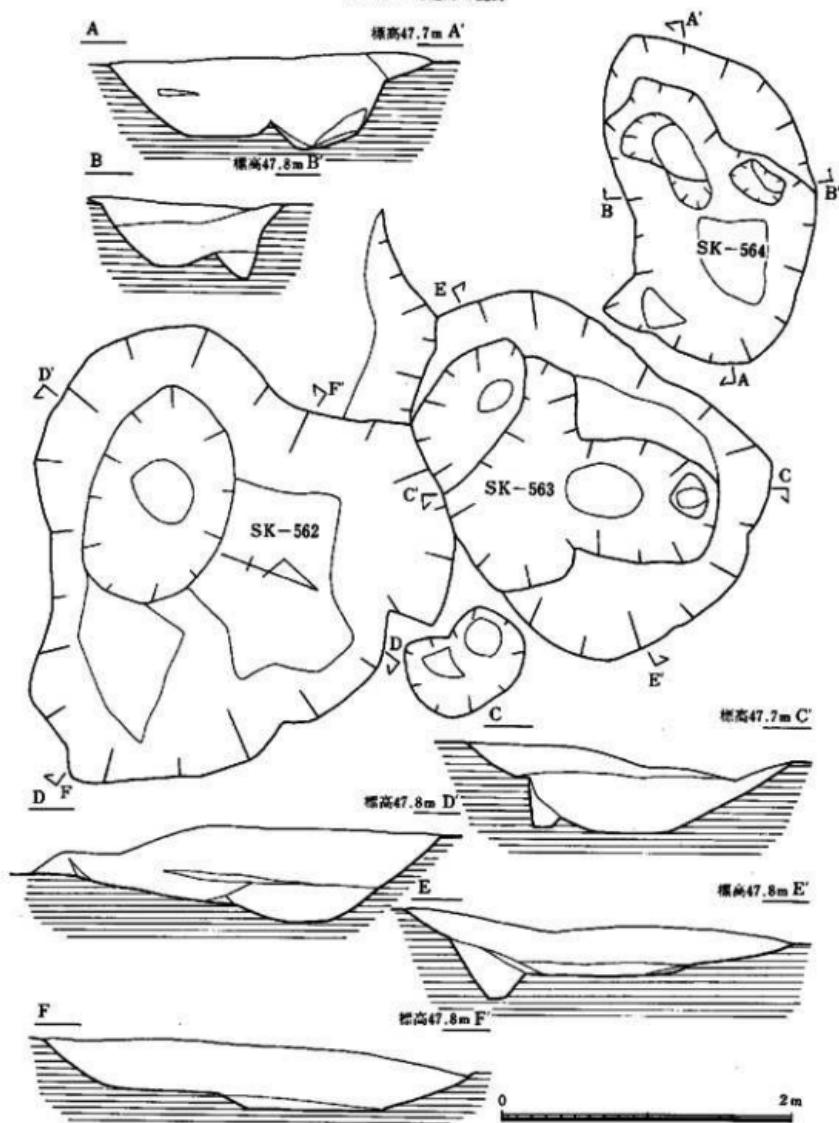


Fig. 174 第562~564号土壙(SK-562~564)実測図

5. 土壤剖面構造

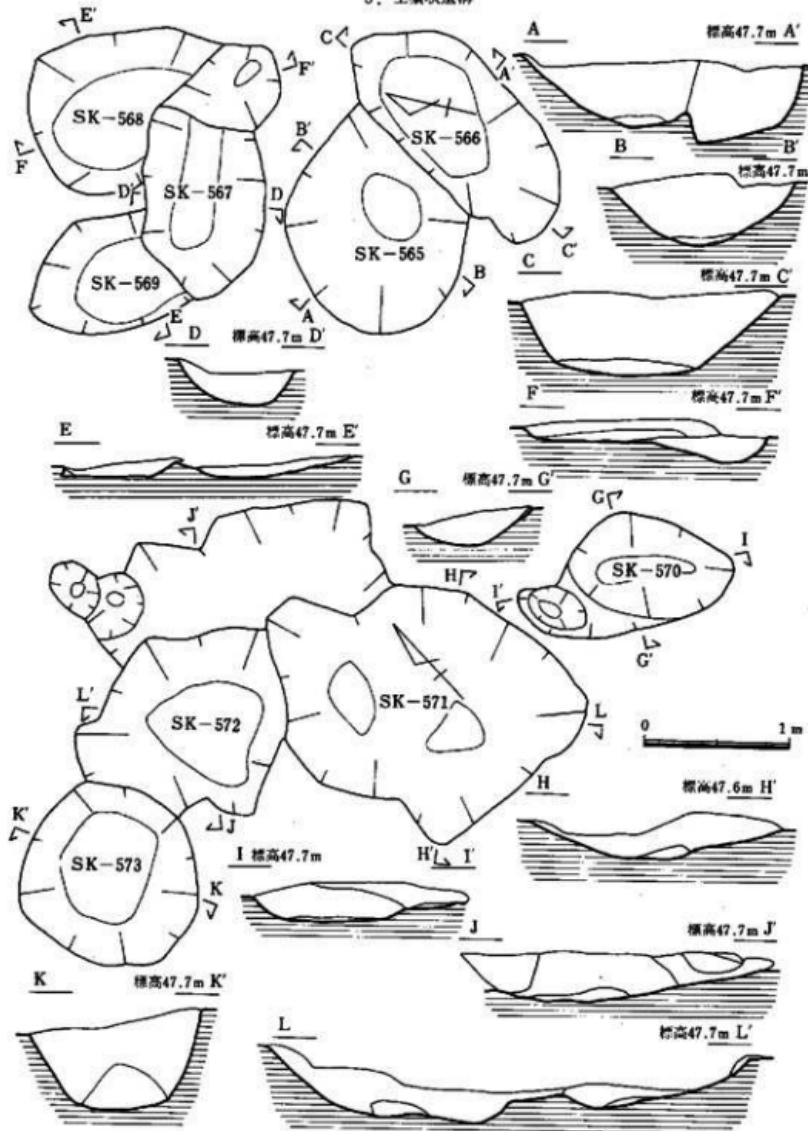


Fig. 175 第565~573号土壤(SK-565~573)実測図

第8章 K遺跡の記録

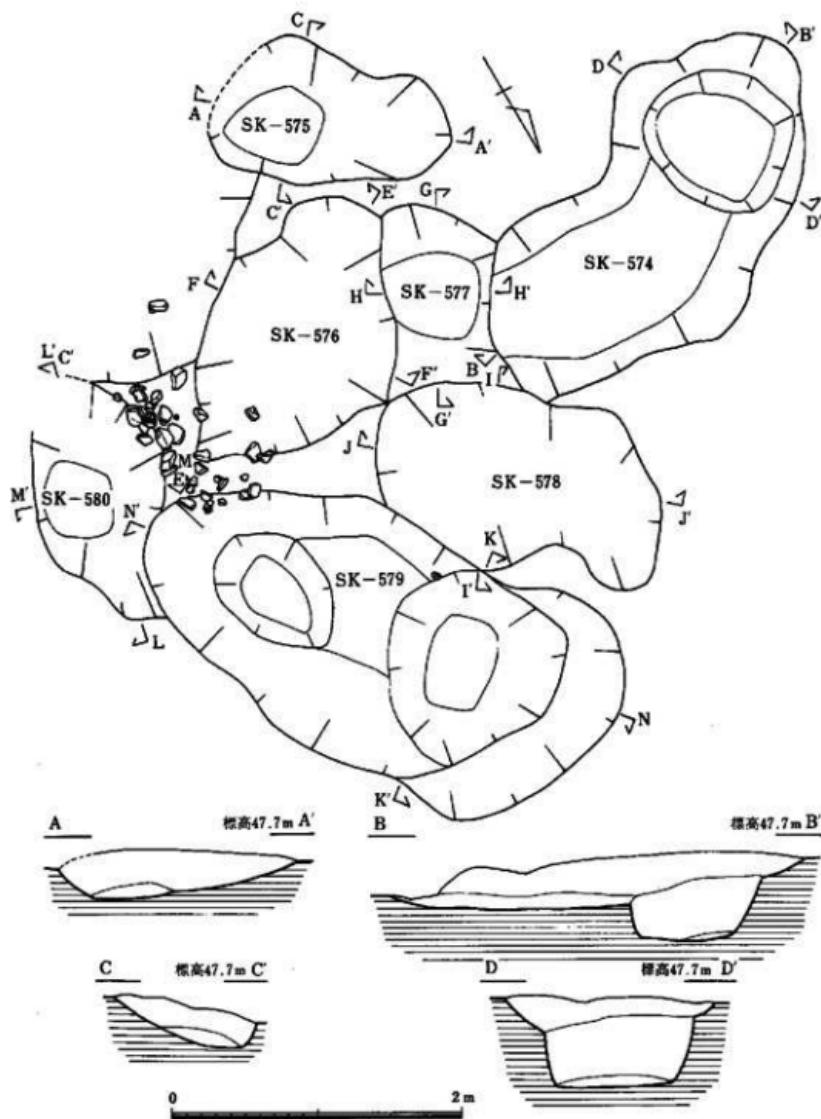


Fig. 176 第574~580号土壤(SK-574~580)実測図 I

5. 土壤状遺構

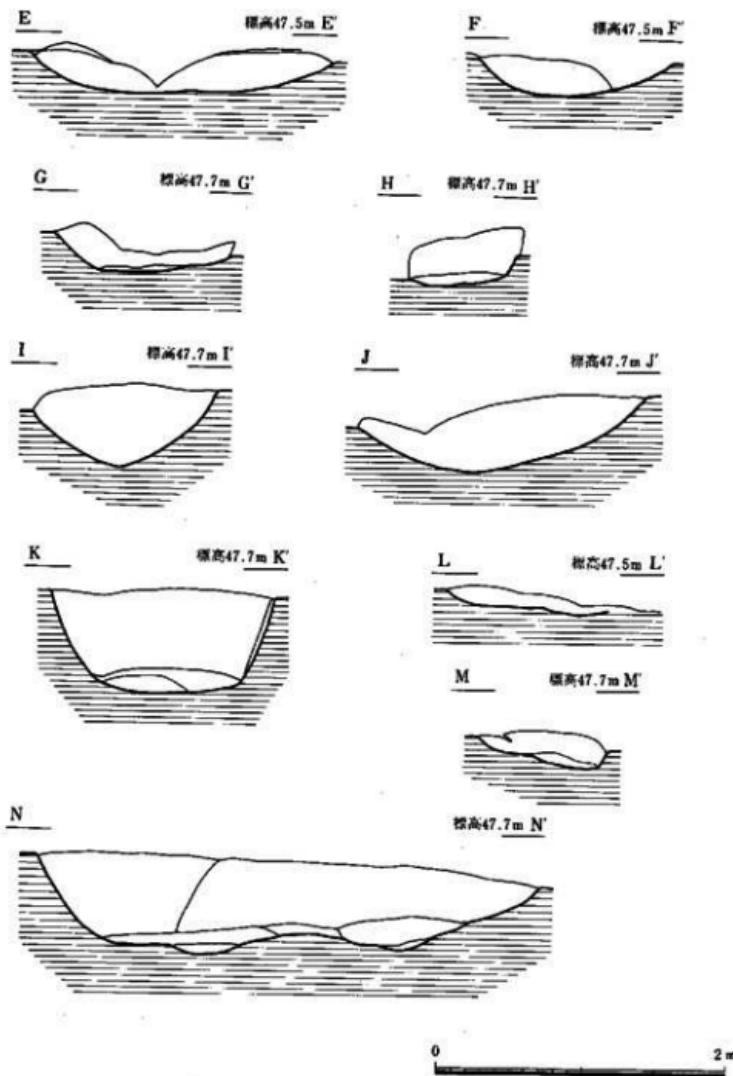


Fig. 177 第574~580号土壤(SK-574~580)実測図II

第8章 K遺跡の記録

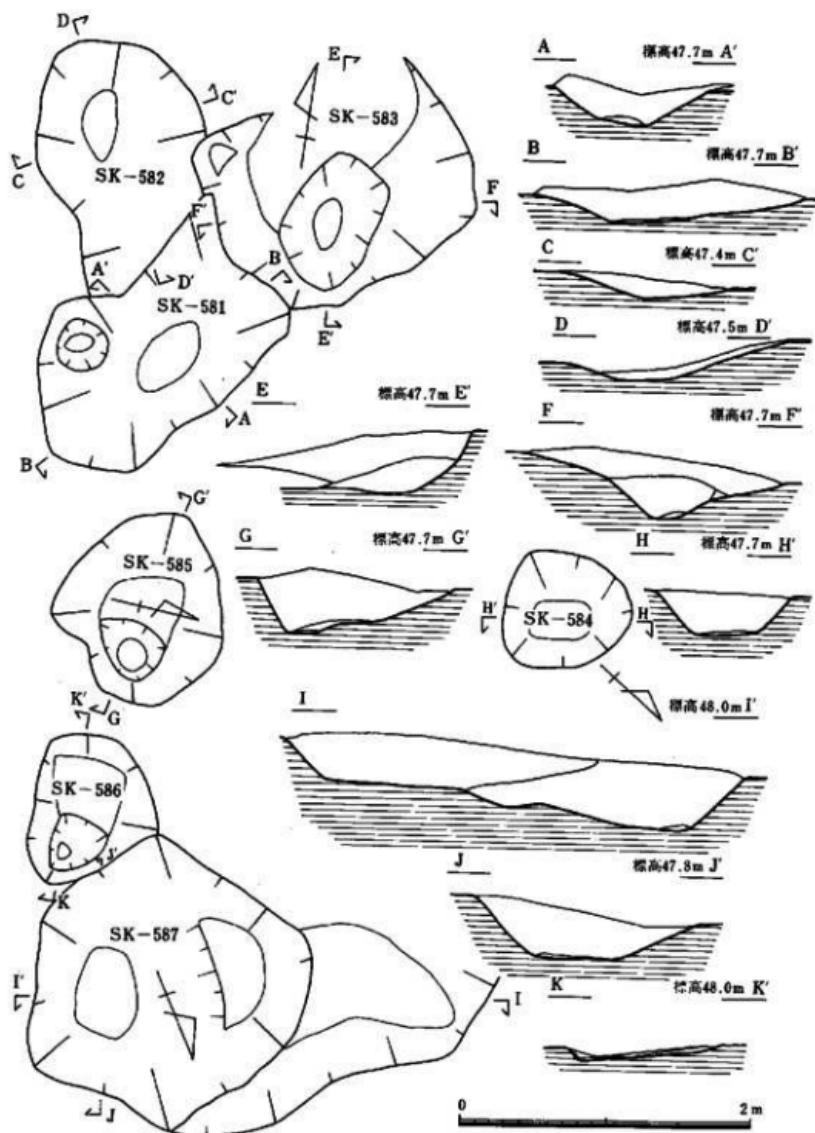


Fig. 178 第581~587号土壤(SK-581~587)実測図

5. 土壌状遺構

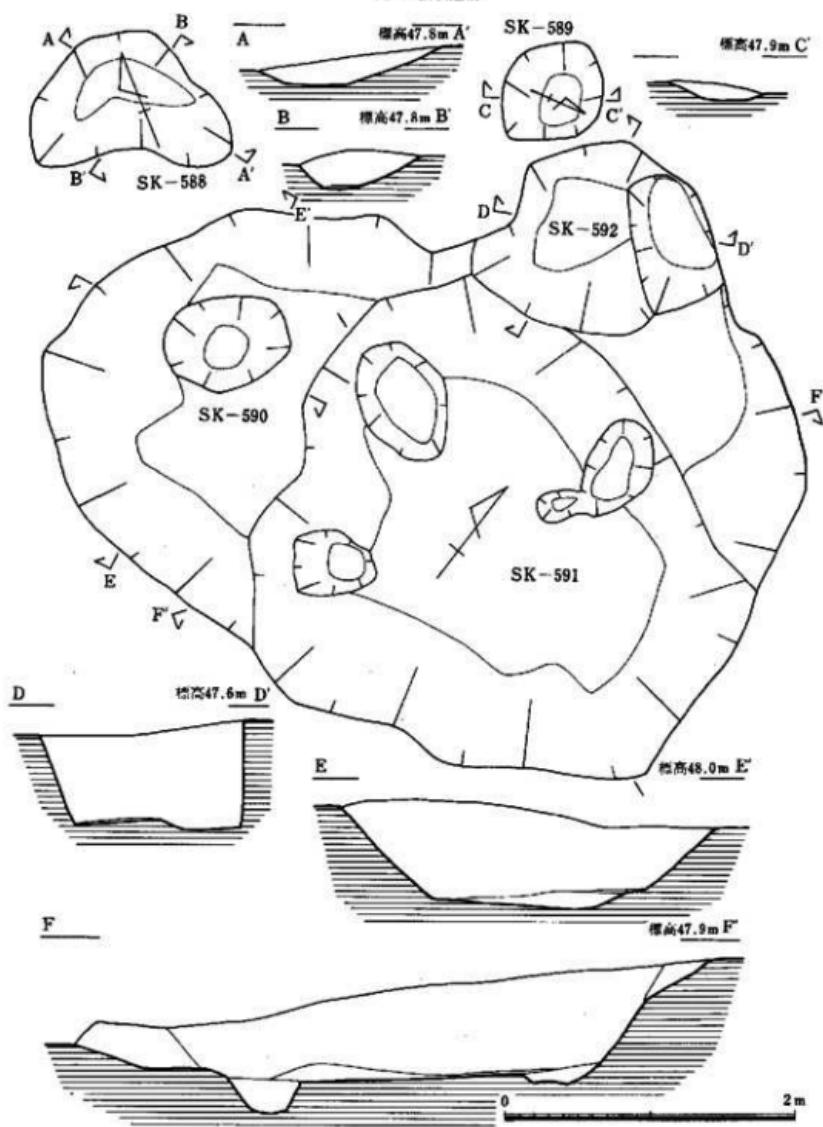


Fig. 179 第588~592号土壤(SK-588~592)実測図

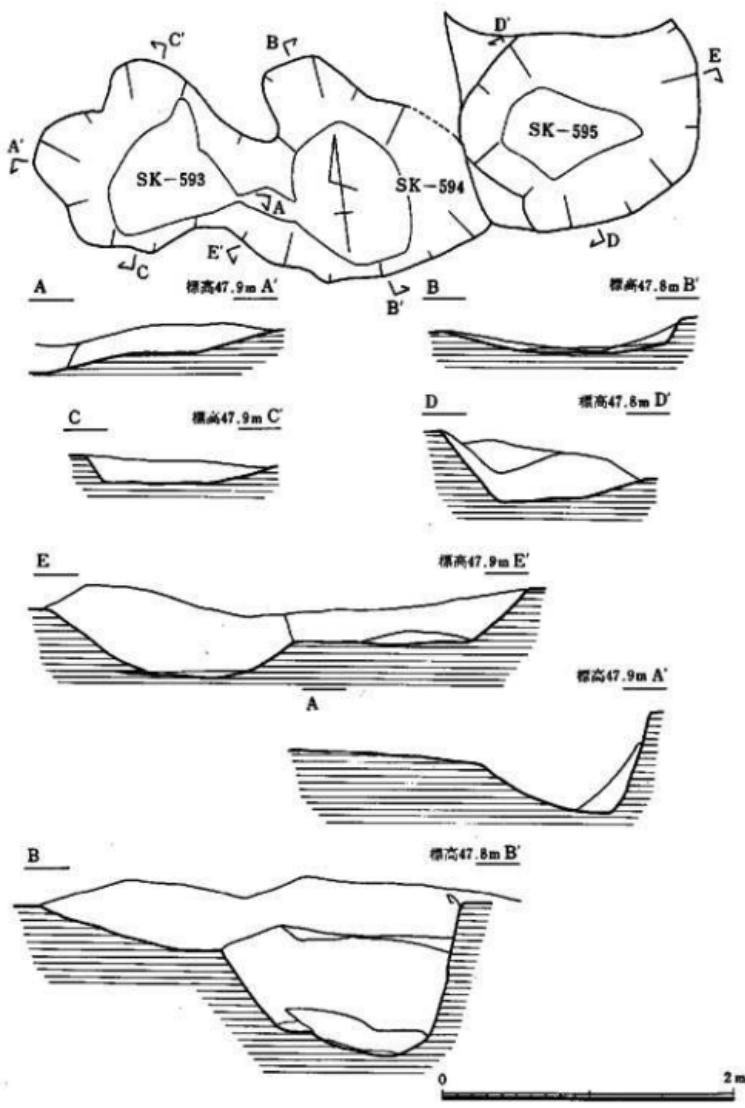


Fig. 180 第593-595号土壤(SK-593-595)実測図

5. 土壌状遺構

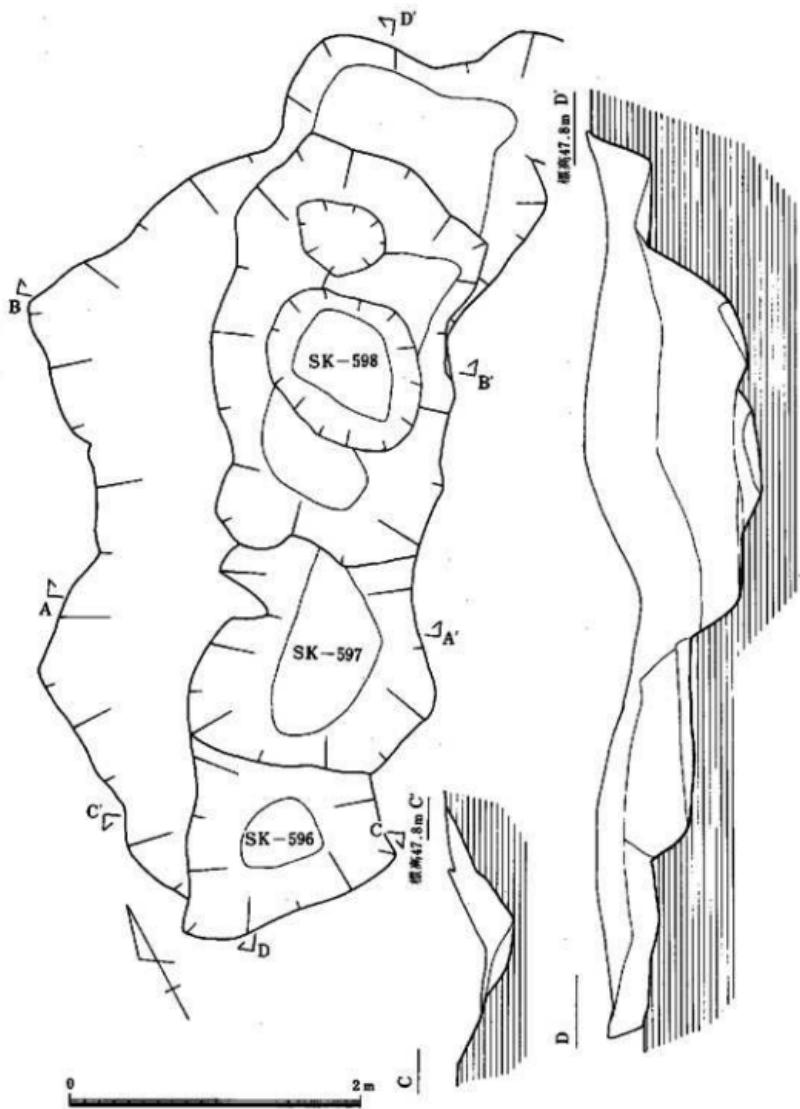


Fig. 181 第596~598号土壤(SK-596~598)実測図

第8章 K遺跡の記録

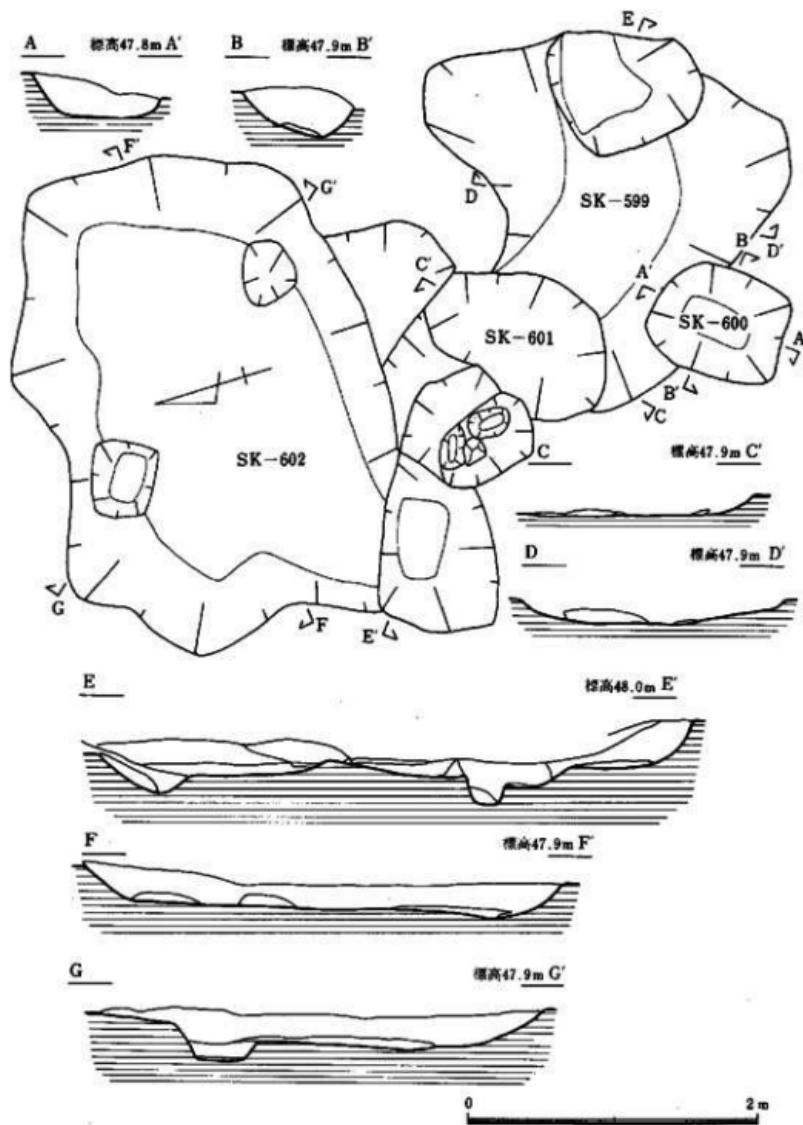


Fig. 182 第599~602号土壤(SK-599~602)実測図

5. 上壤状遺構

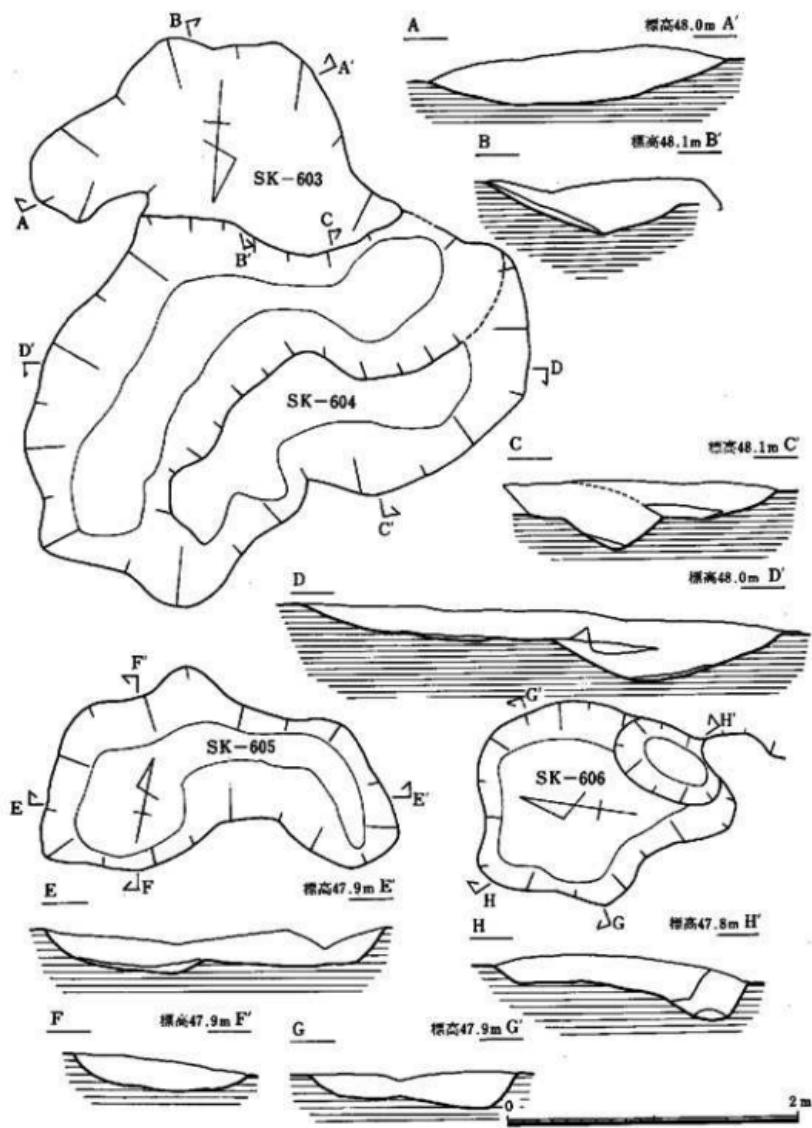
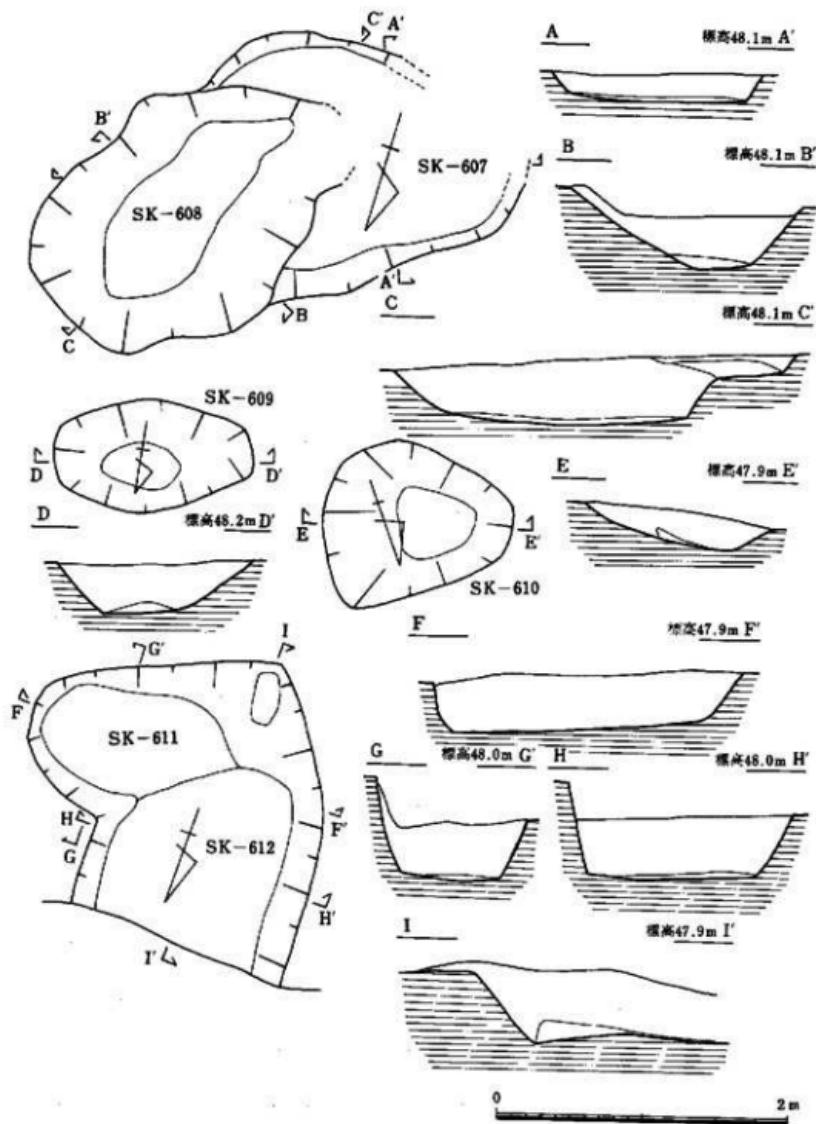


Fig. 183 第603~606号土壤(SK-603~606)実測図

第8章 K遺跡の記録



5. 土壌状造構

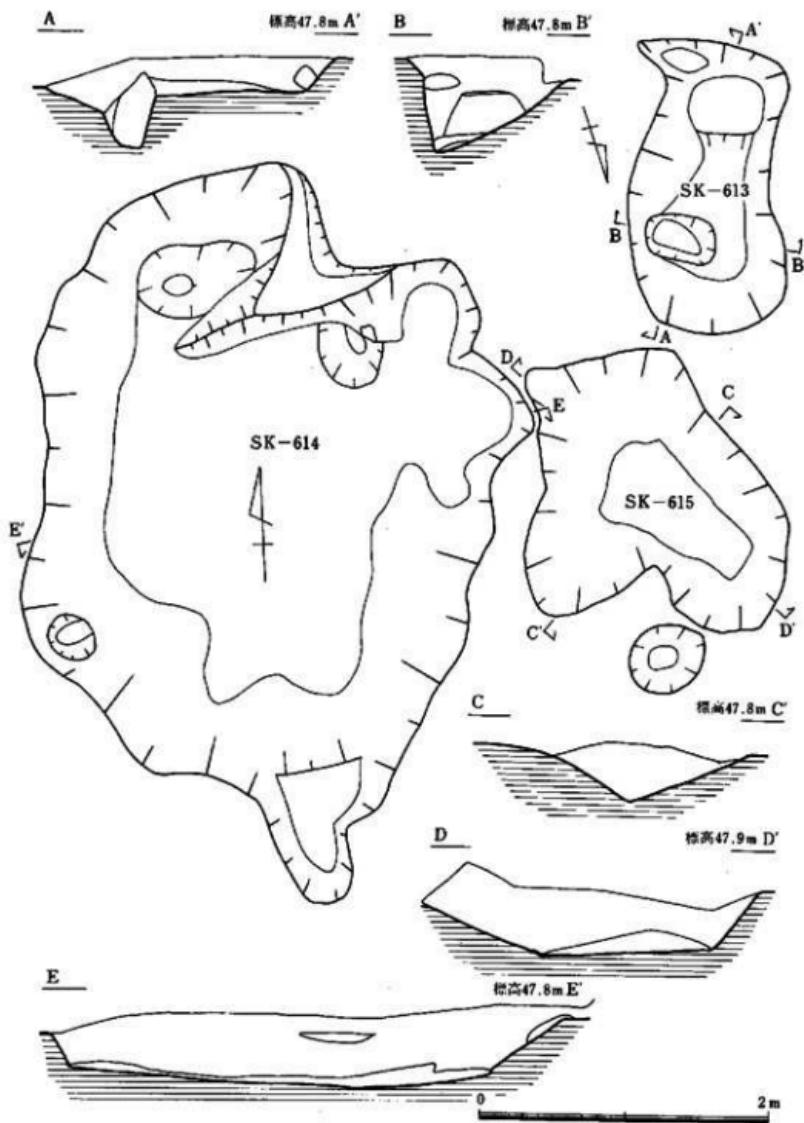


Fig. 185 第613~615号土壤(SK-613~615)実測図

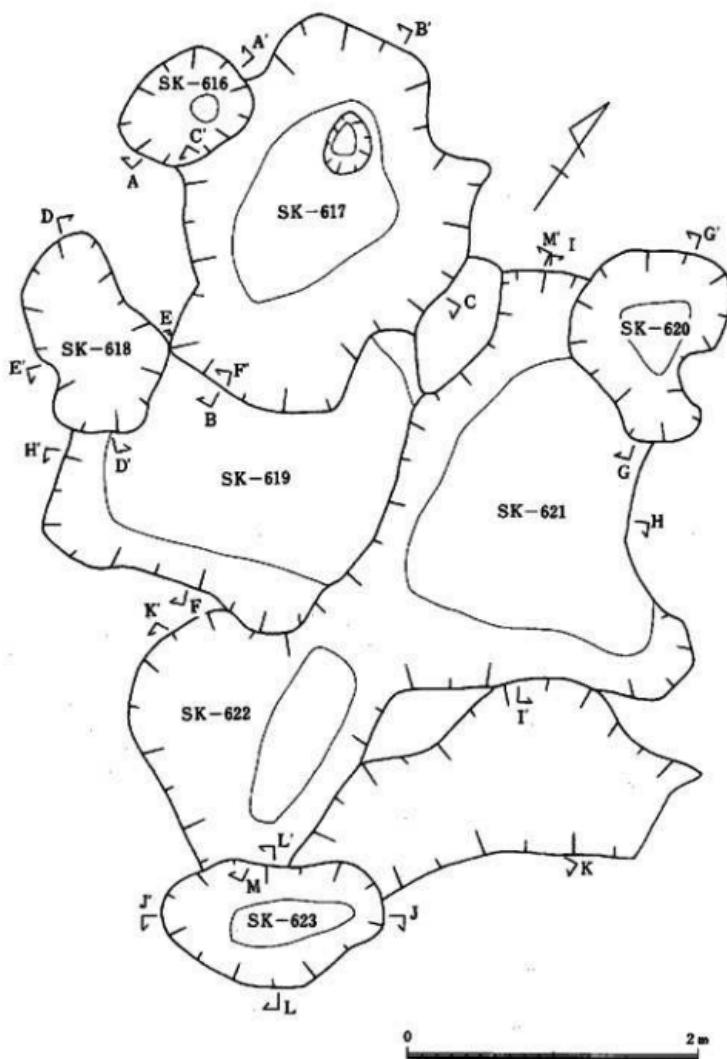


Fig. 186 第616~623号土壤(SK-616~623)実測図 I

5. 土壤状遺構

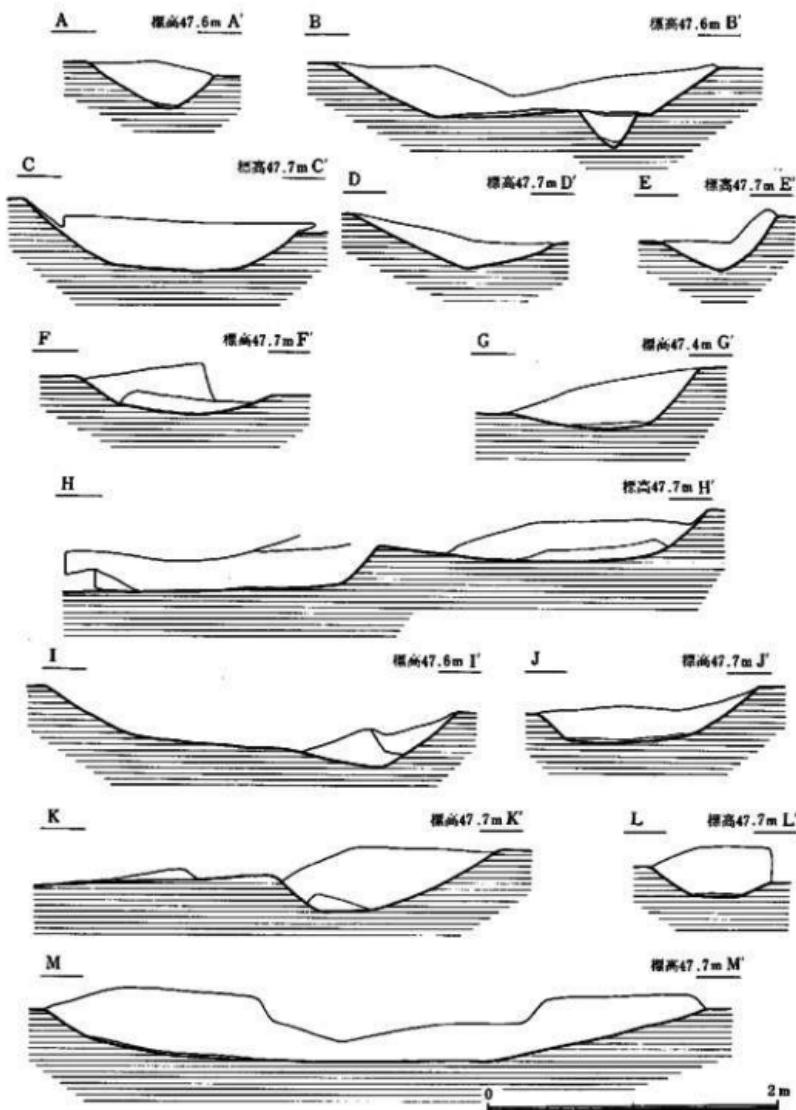


Fig. 187 第616~623号土壤(SK-616~623)実測図II

第8章 K遺跡の記録

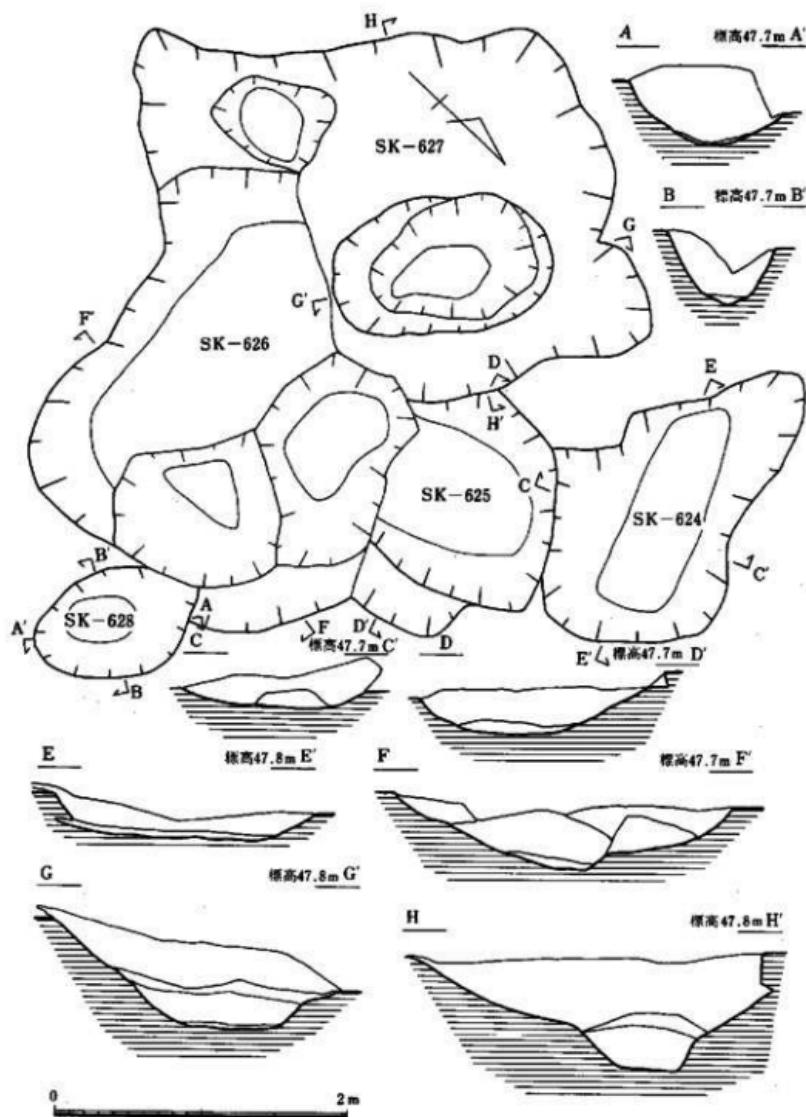


Fig. 188 第624~628号土壤(SK-624~628)実測図

5. 土壌状況

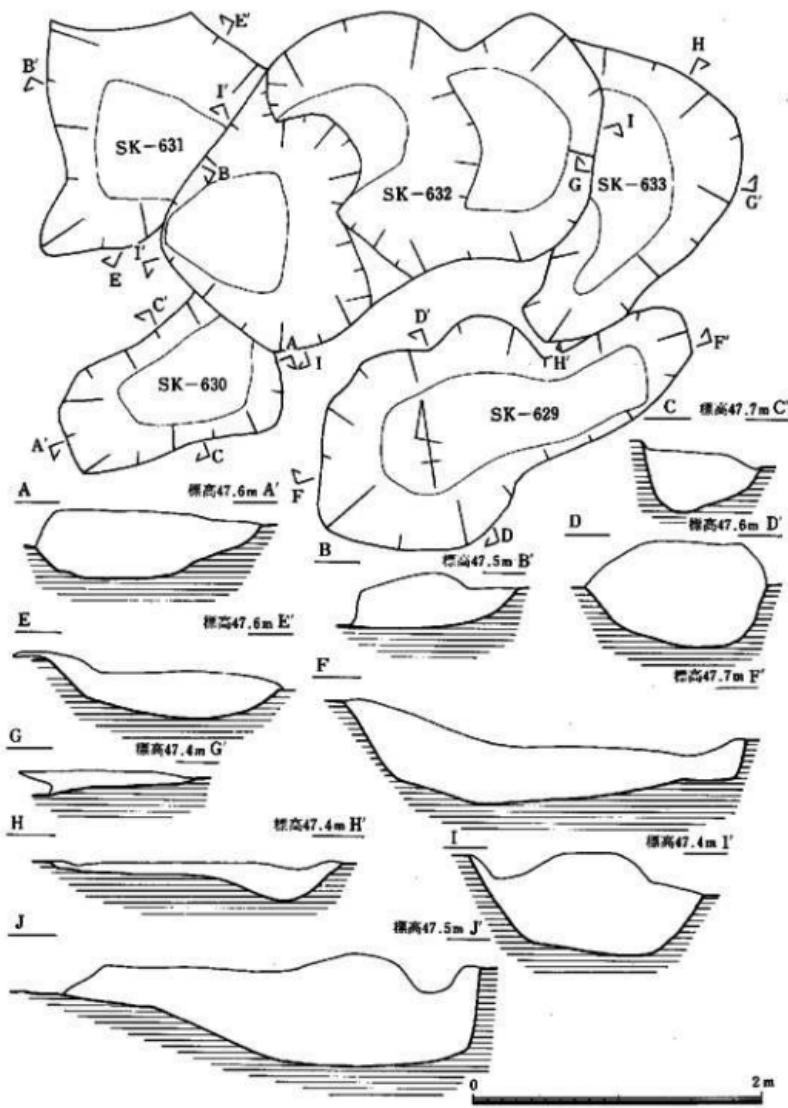


Fig. 189 第629~633号土壤(SK-629~633)実測図

第8章 K遺跡の記録

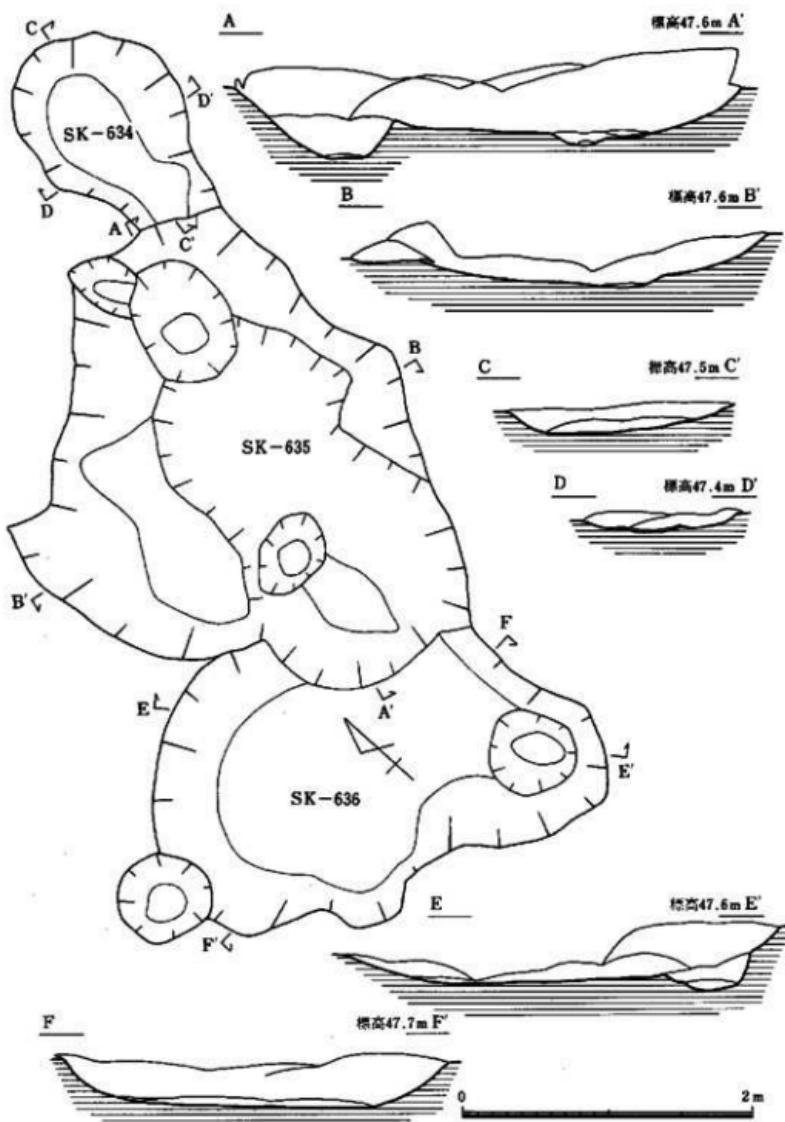


Fig. 190 第634~636号土壙(SK-634~636)実測図

5. 土壌状況図

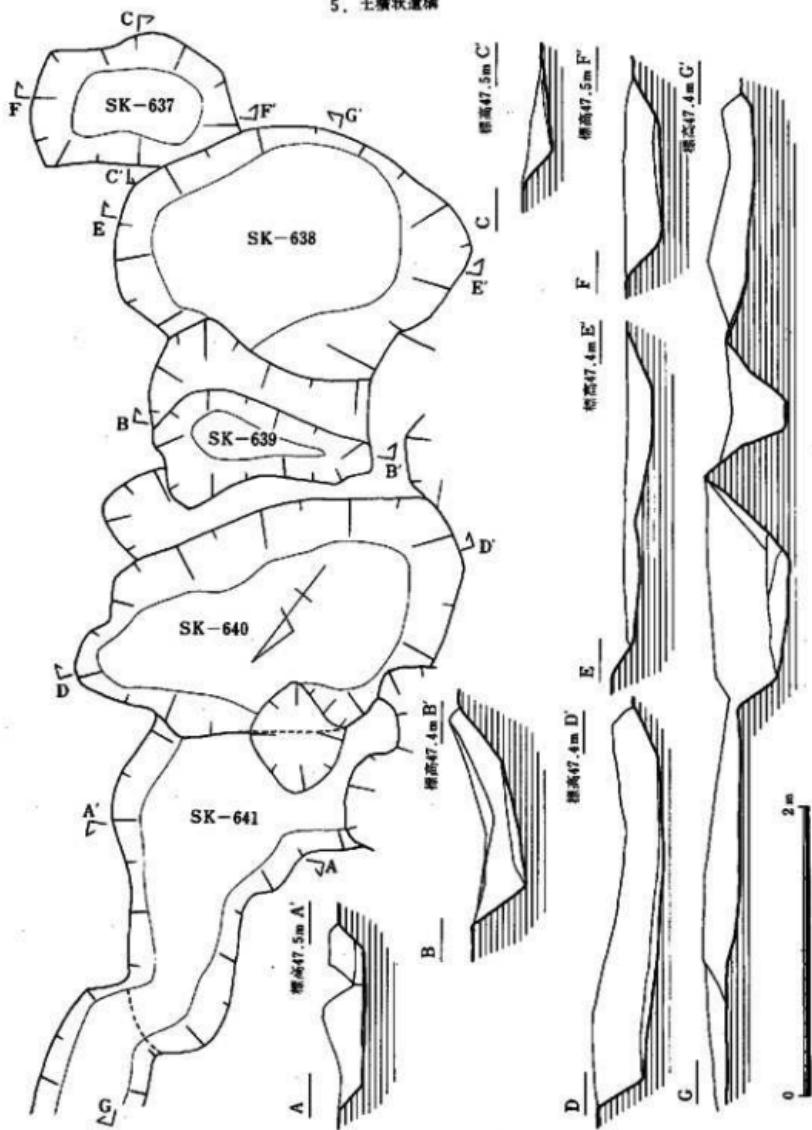


Fig. 191 第637~641号土壤(SK-637~641)実測図

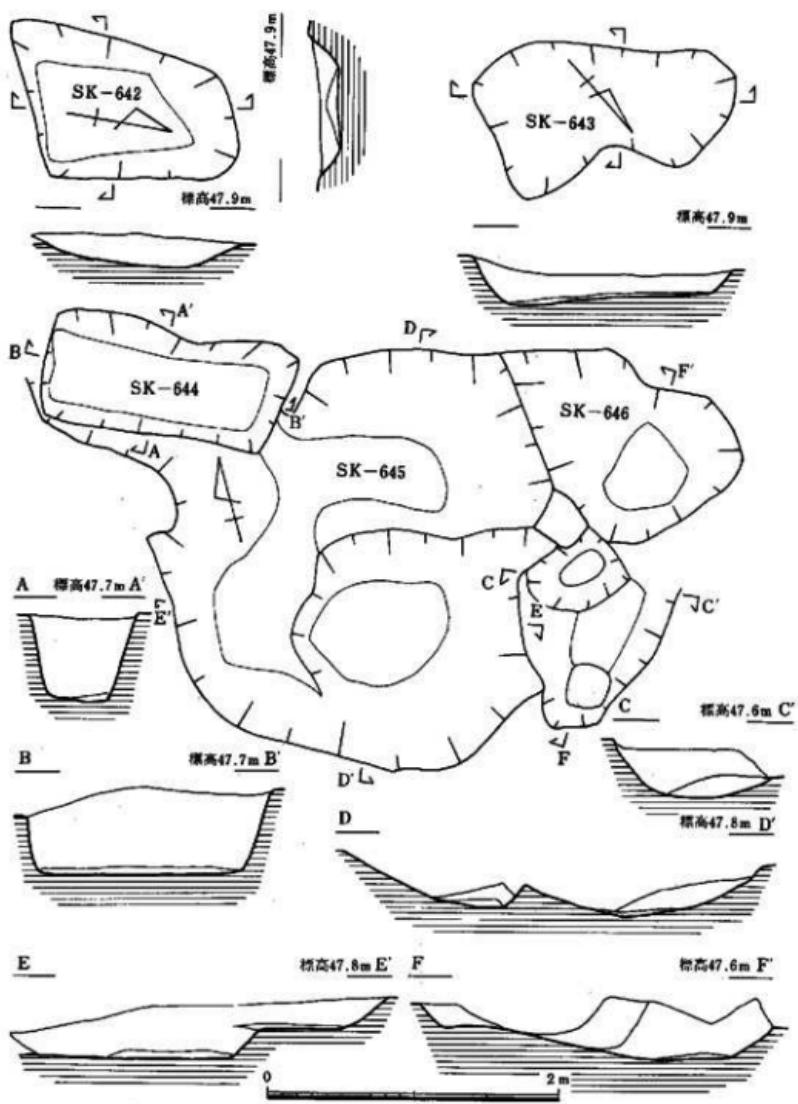


Fig. 192 第642～646号土壤(SK-642～646)実測図

5. 土壌状造模

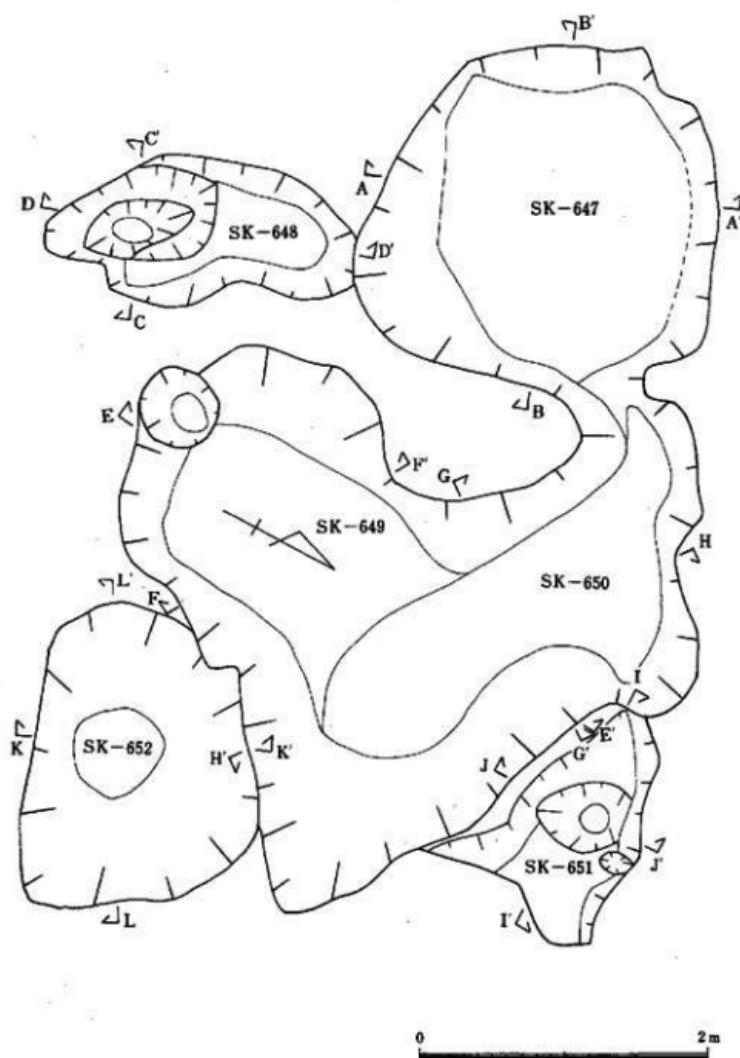


Fig. 193 第647~652号土壤(SK-647~652)実測図 T

第8章 K遺跡の記録

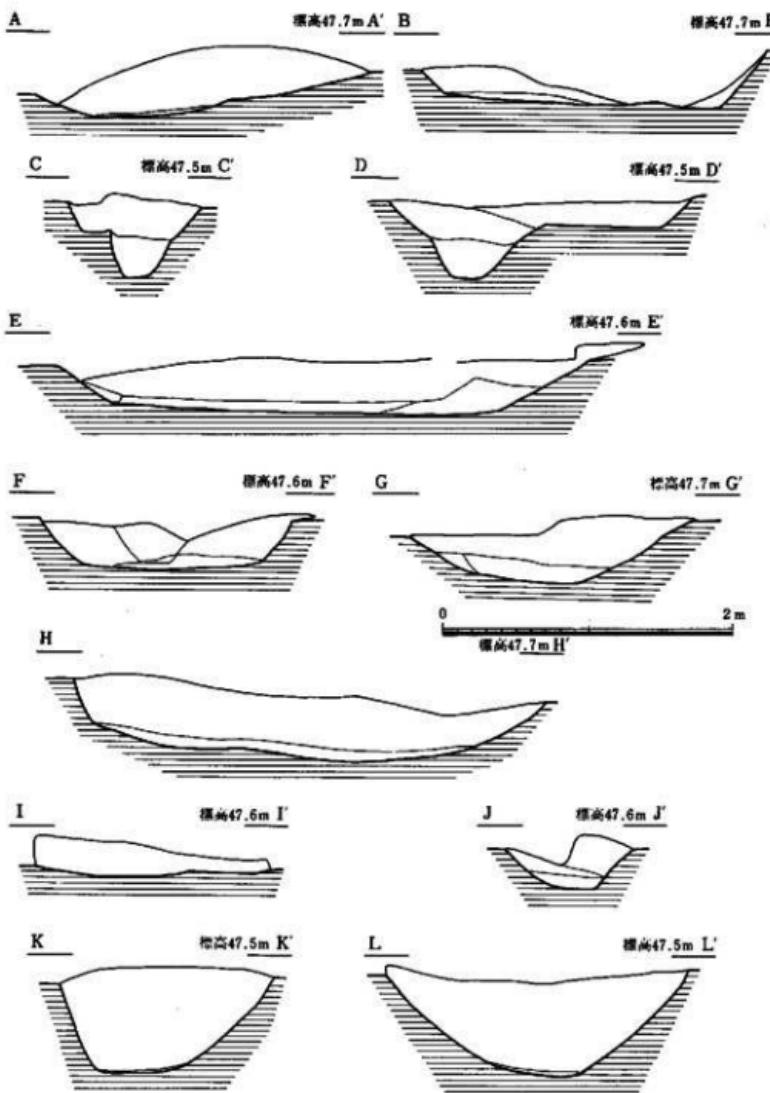


Fig. 194 第647~652号土壤(SK-647~652)実測図II

5. 土壌状達構

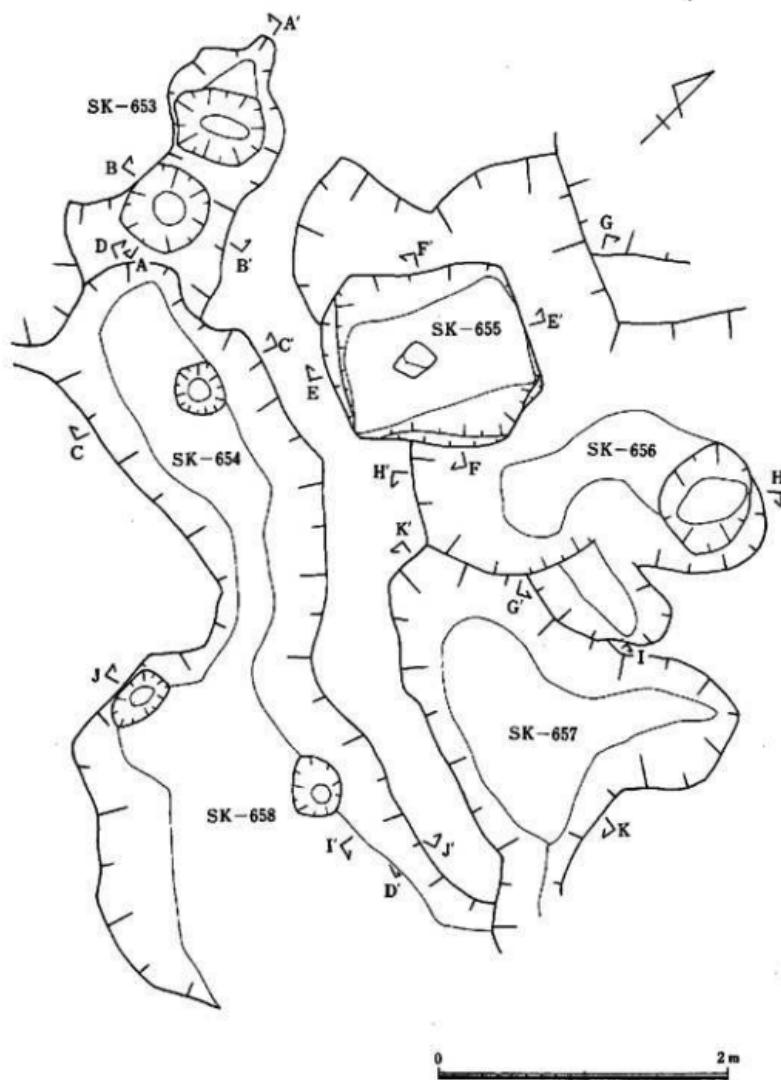


Fig. 195 第653~658号土壤(SK-653~658)実測図 I

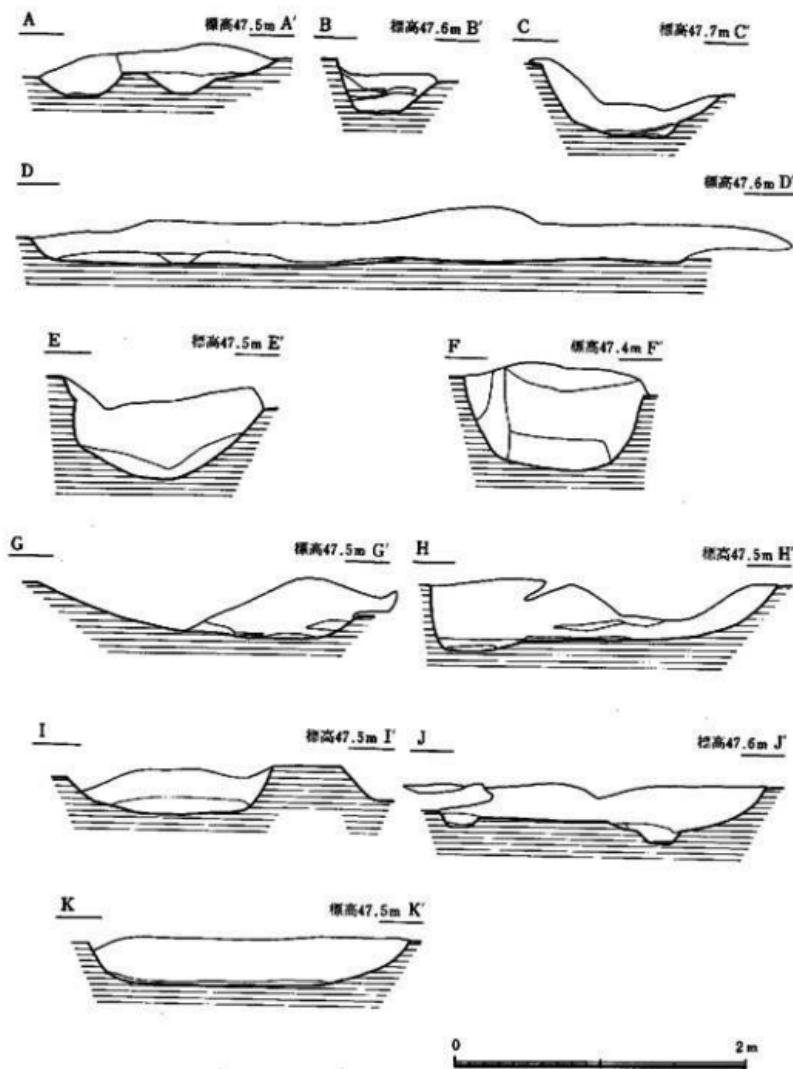


Fig. 196 第653-658号土壙(SK-653-658)実測図II

5. 上壤状遺構

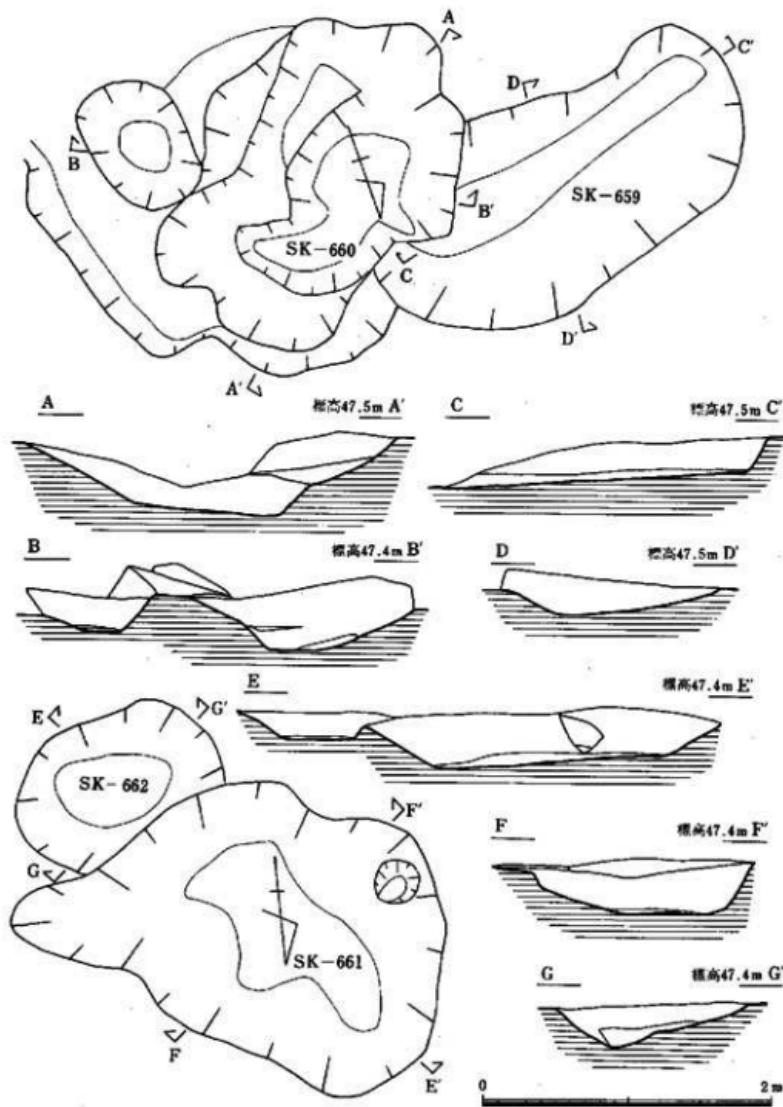


Fig. 197 第659~662号土壤(SK-659~662)実測図

第8章 K造跡の記録

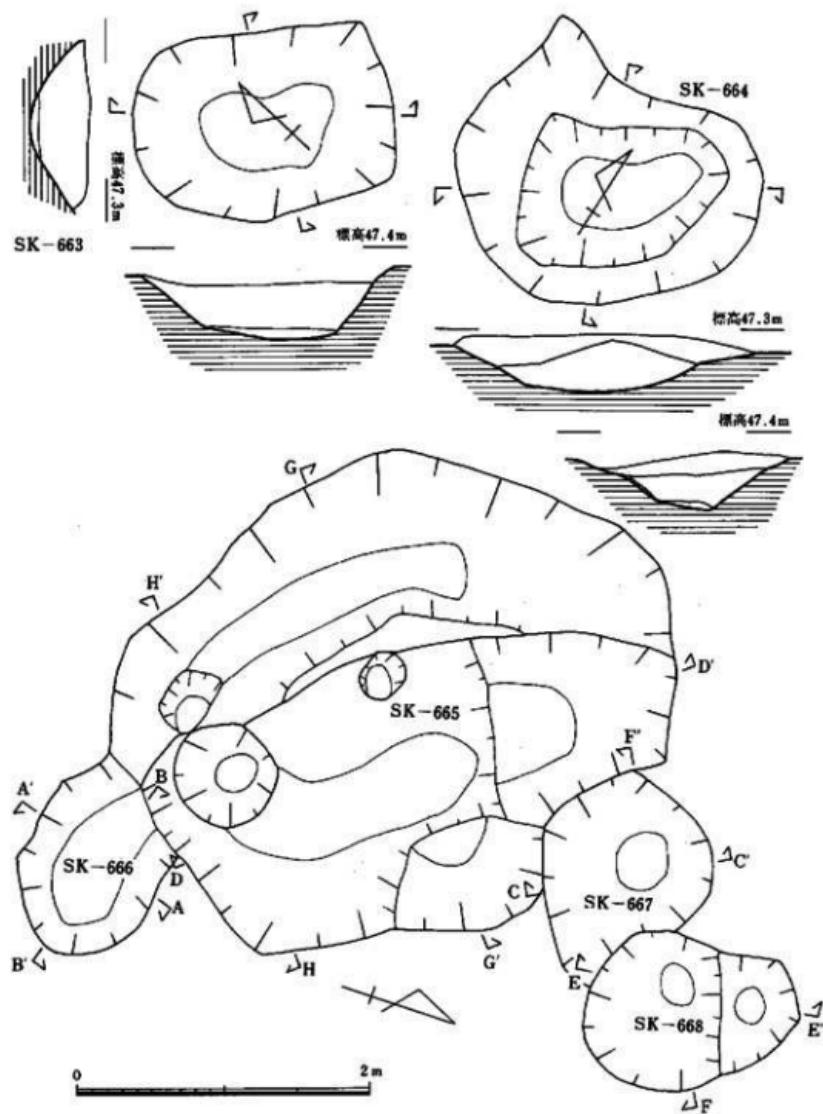


Fig. 198 第663~668号土壤(SK-663~668)実測図 I

5. 上壤状遺構

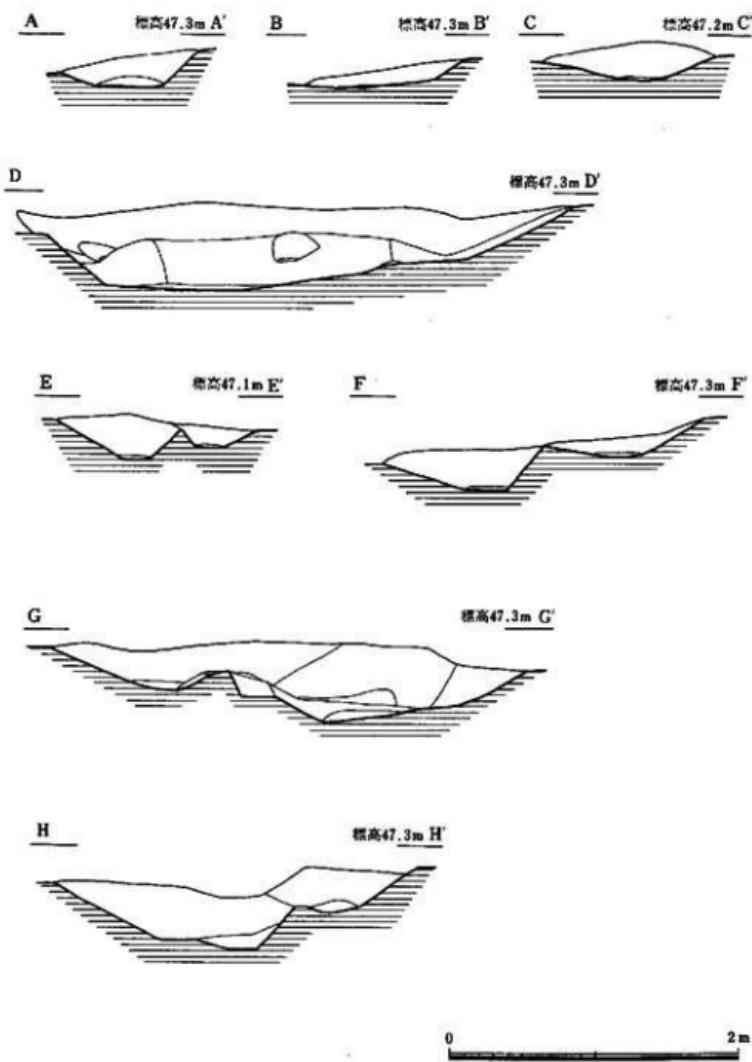


Fig. 199 第663~668号土壤(SK-663~668)実測図II

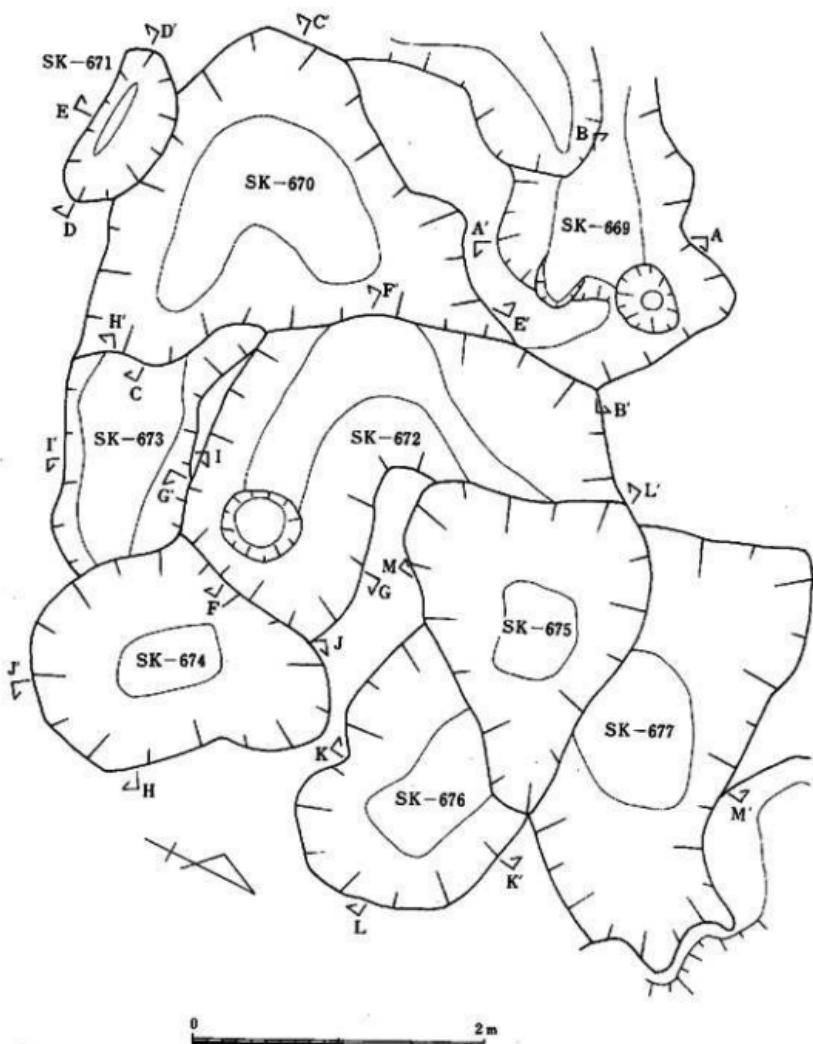


Fig. 200 第669~677号土壙(SK-669~677)実測図 I

5. 土壤状遺構

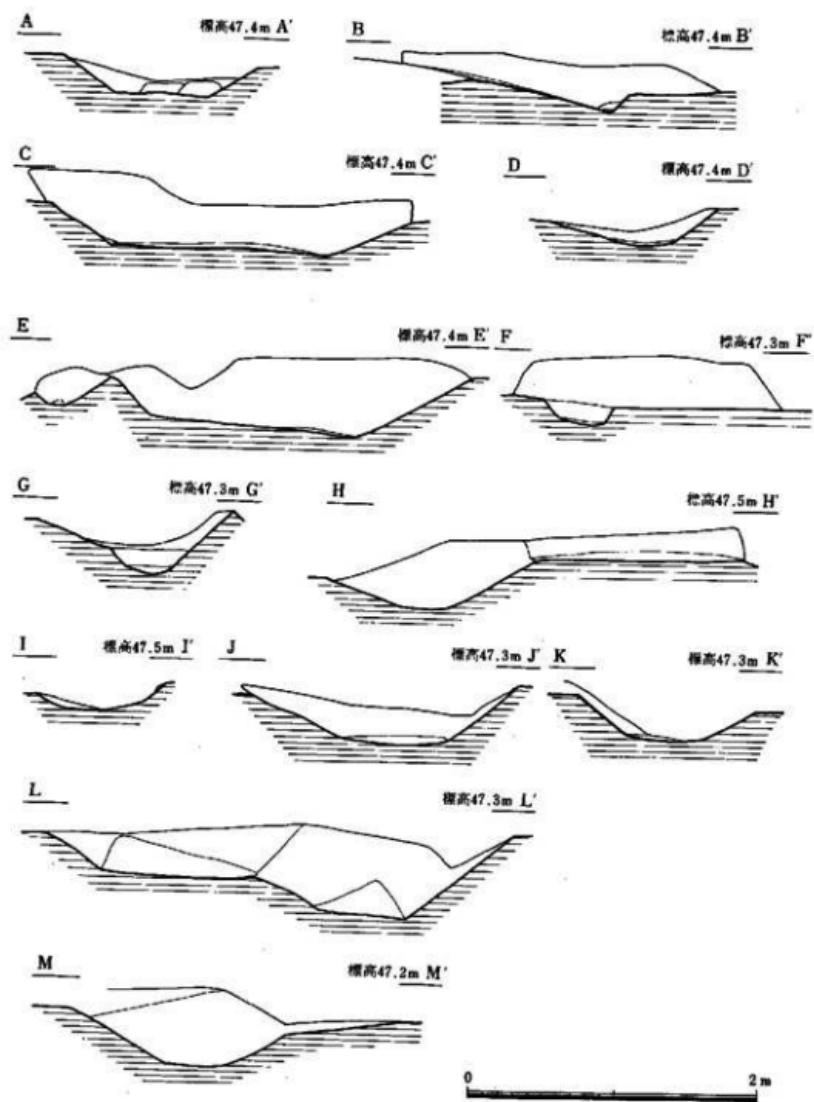


Fig. 201 第669~677号土壤(SK-669~677)実測図II

第8章 K遺跡の記録

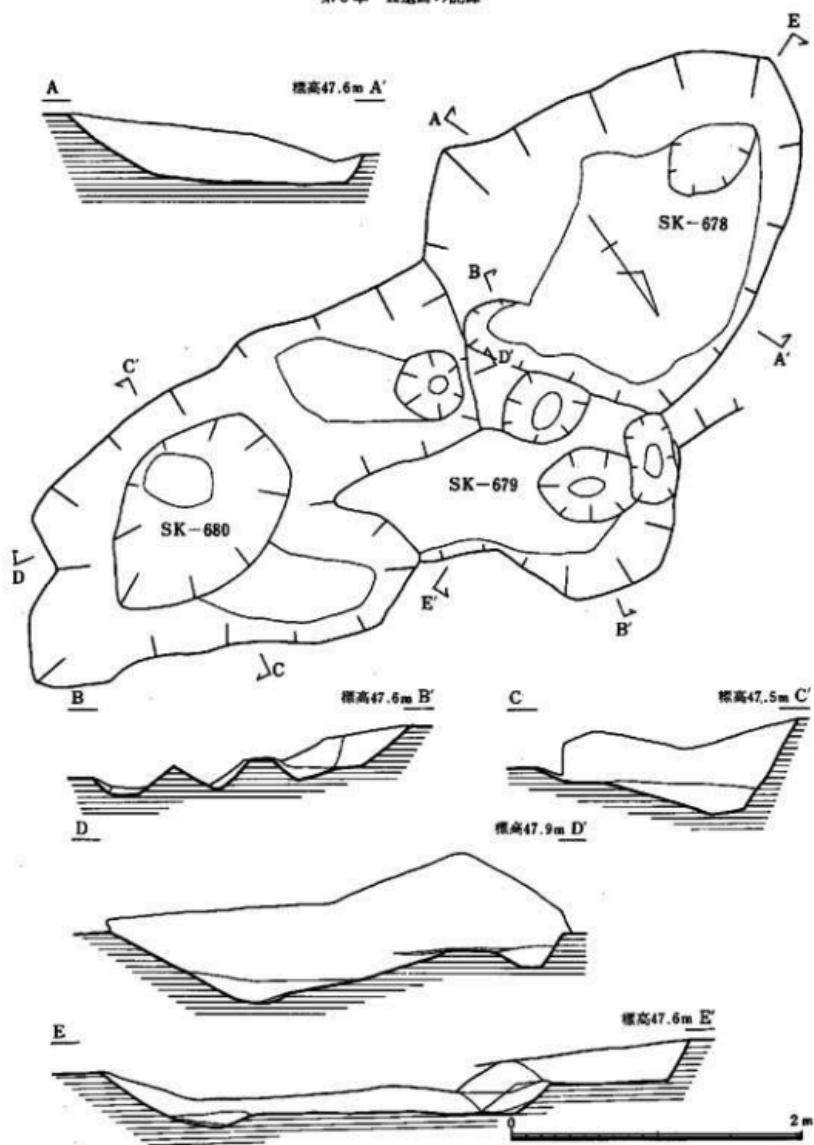


Fig. 202 第678~680号土壤(SK-678~680)実測図

5. 土壤状造構

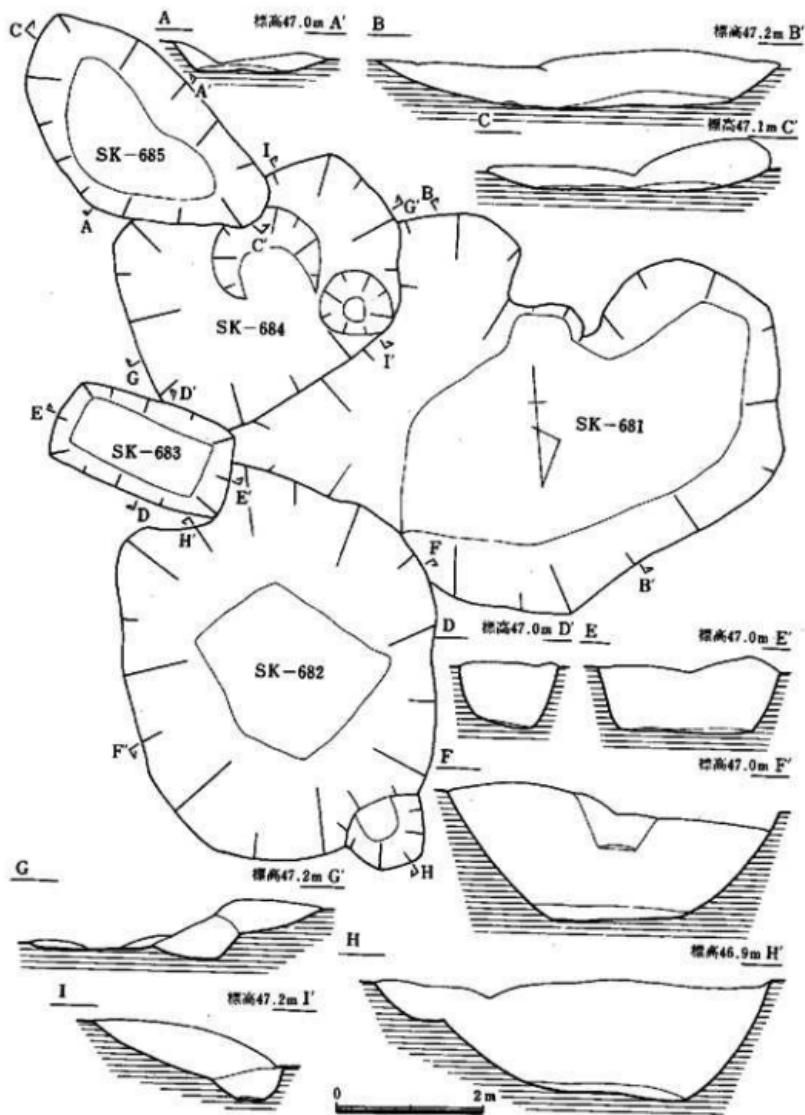


Fig. 203 第681~685号土壤(SK-681~685)実測図

第8章 K遺跡の記録

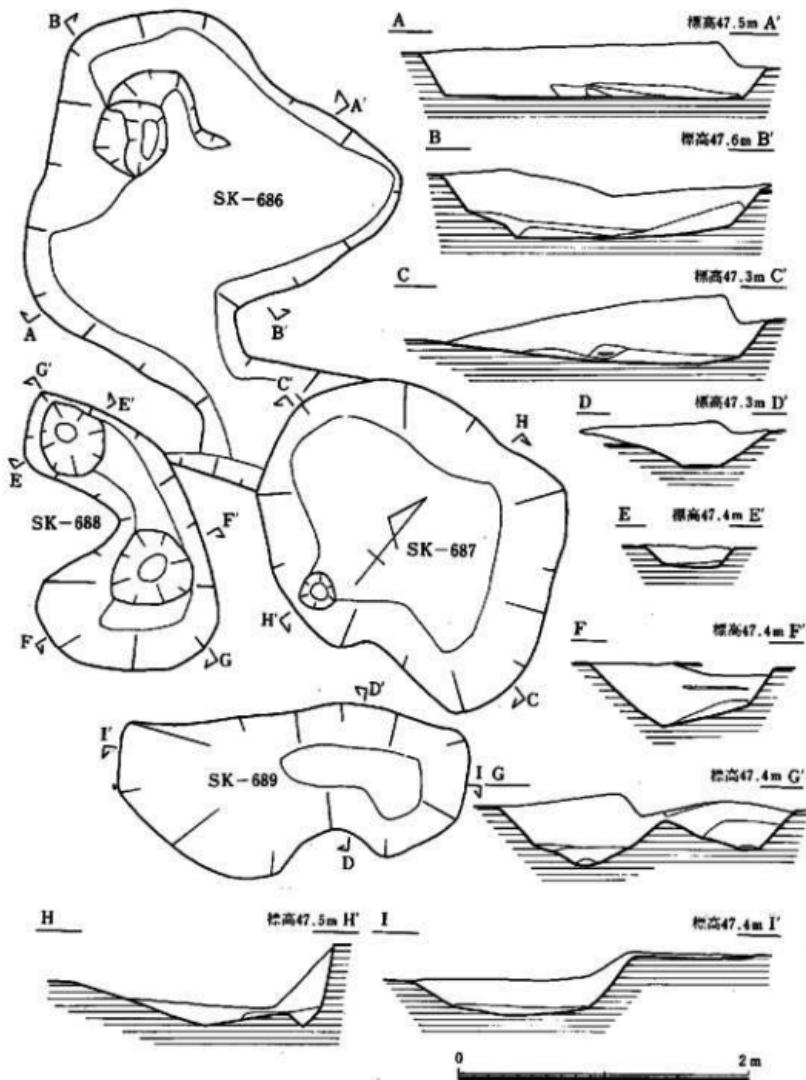


Fig. 204 第686~689号土壤(SK-686~689)実測図

5. 上坡状地槽

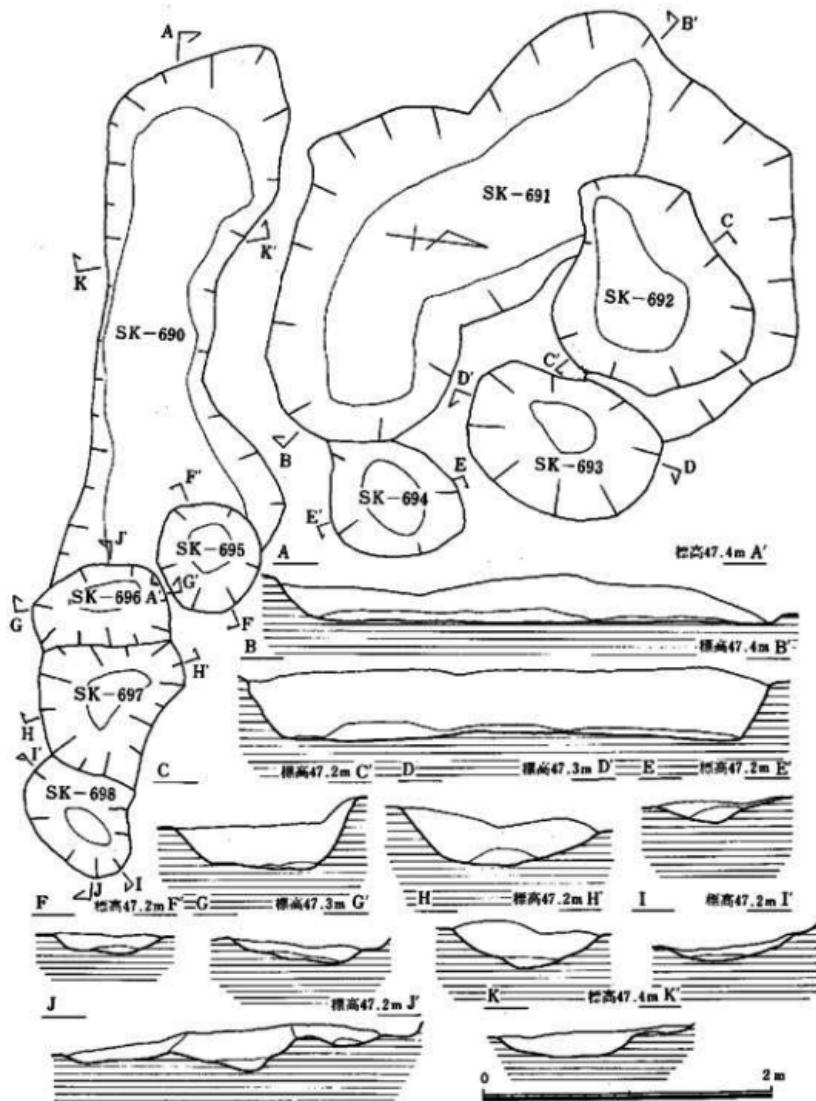


Fig. 205 第690~698号土坡(SK-690~698)実測図

第8章 K遺跡の記録

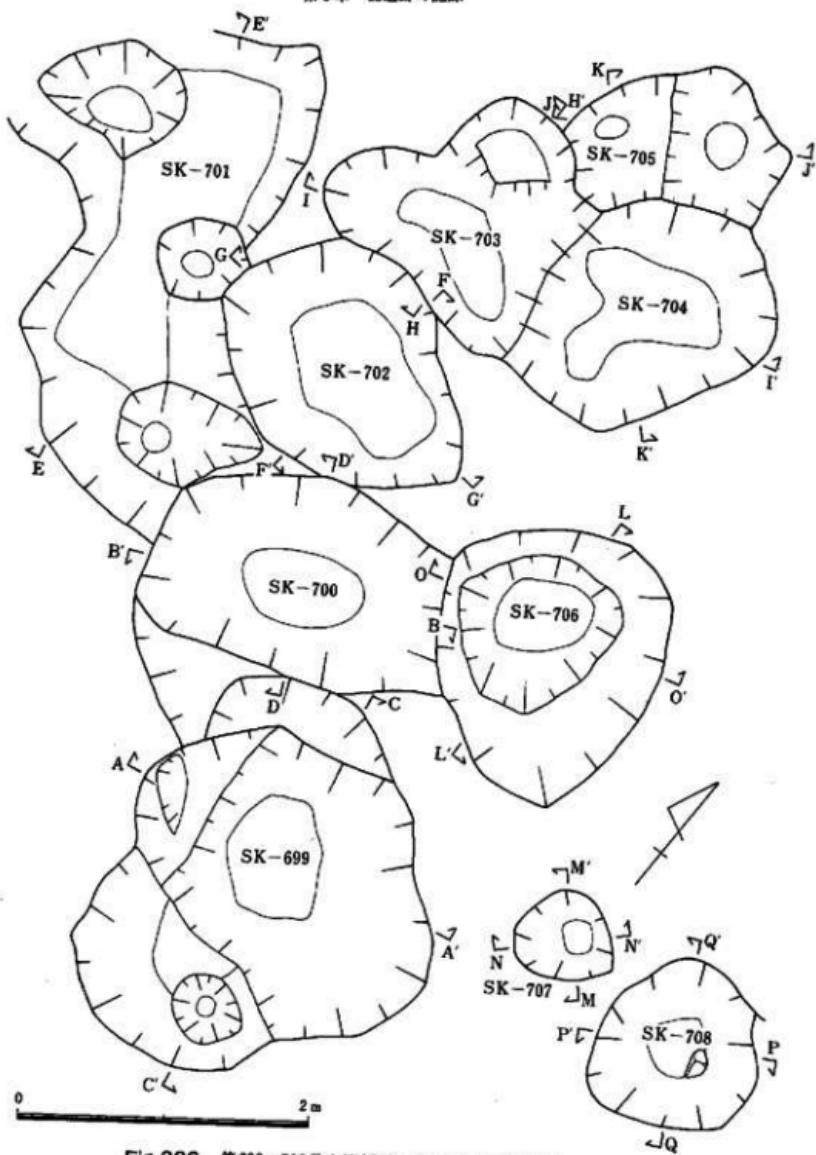


Fig. 206 第699~708号土壤(SK-699~708)実測図1

5. 土壌状造構

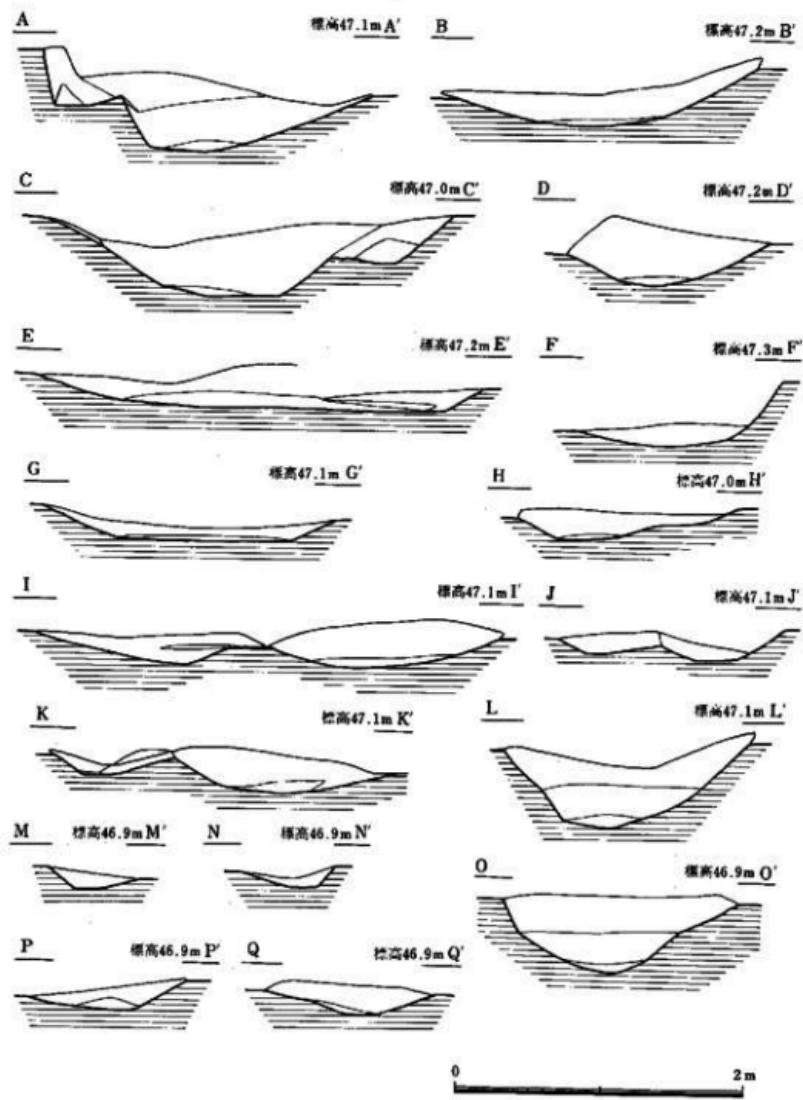


Fig. 207 第699~708号土壤(SK-699~708)実測図II

第8章 K達跡の記録

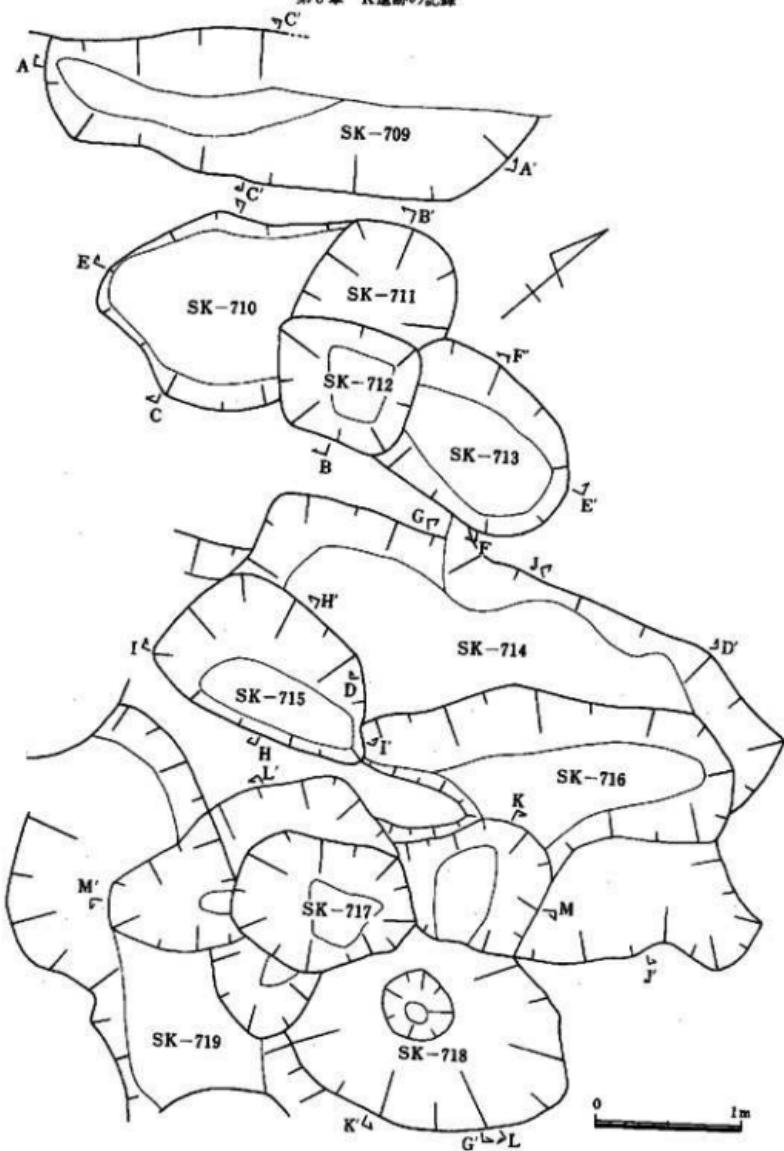


Fig. 208 第709~719号土壤(SK-709~719)実測図 I

5. 土壤状遺構

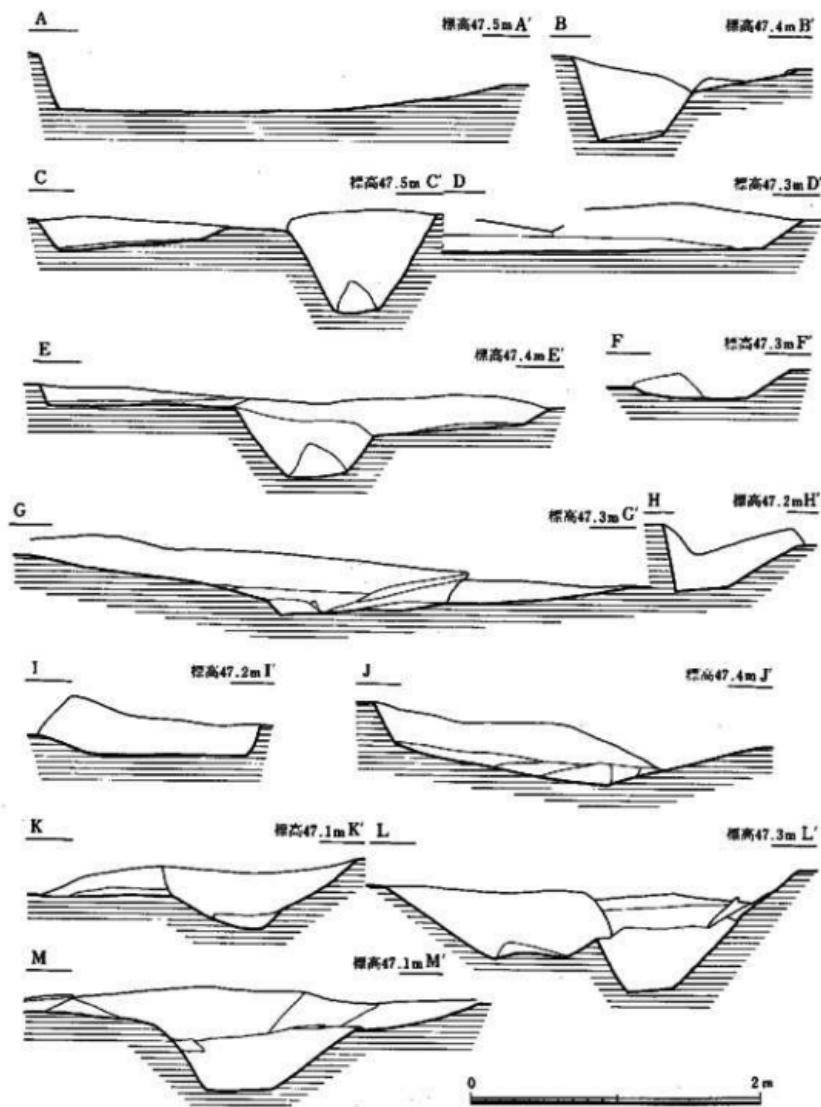


Fig. 209 第709~719号土壤(SK-709~719)実測図II

第8章 K遺跡の記録

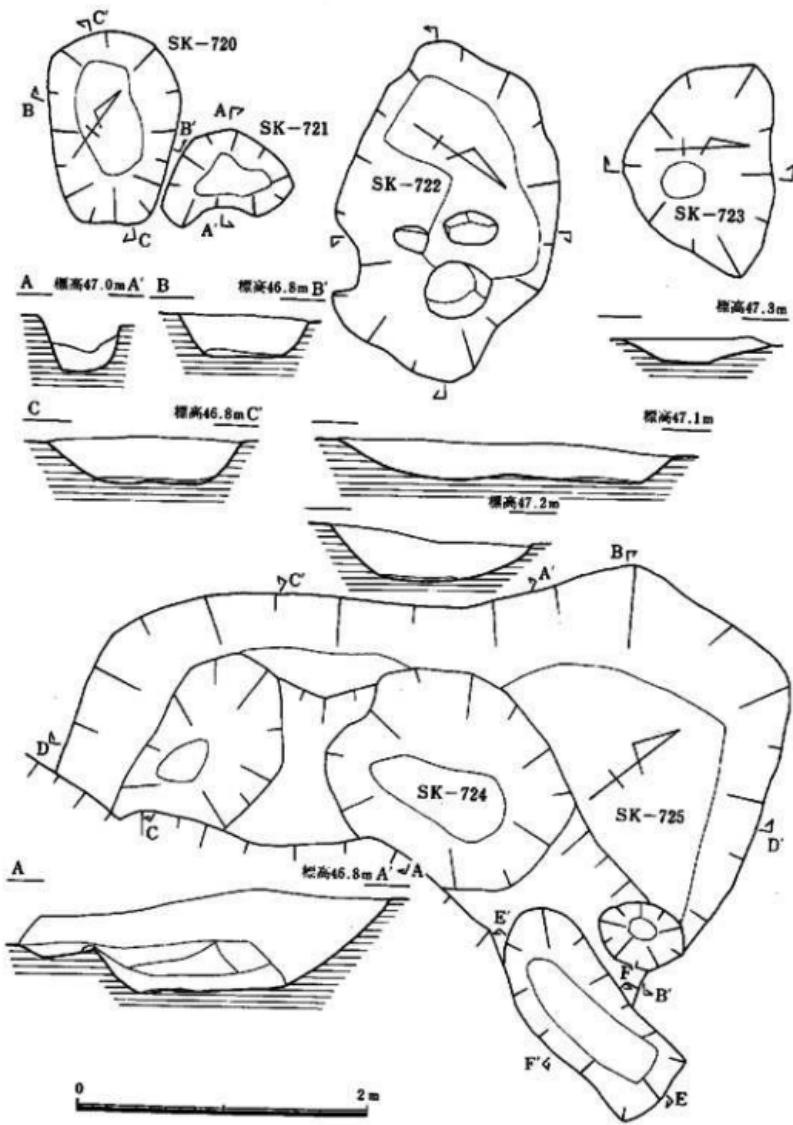


Fig. 210 第720~726号土壤(SK-720~726)実測図

5. 土壠状遺構

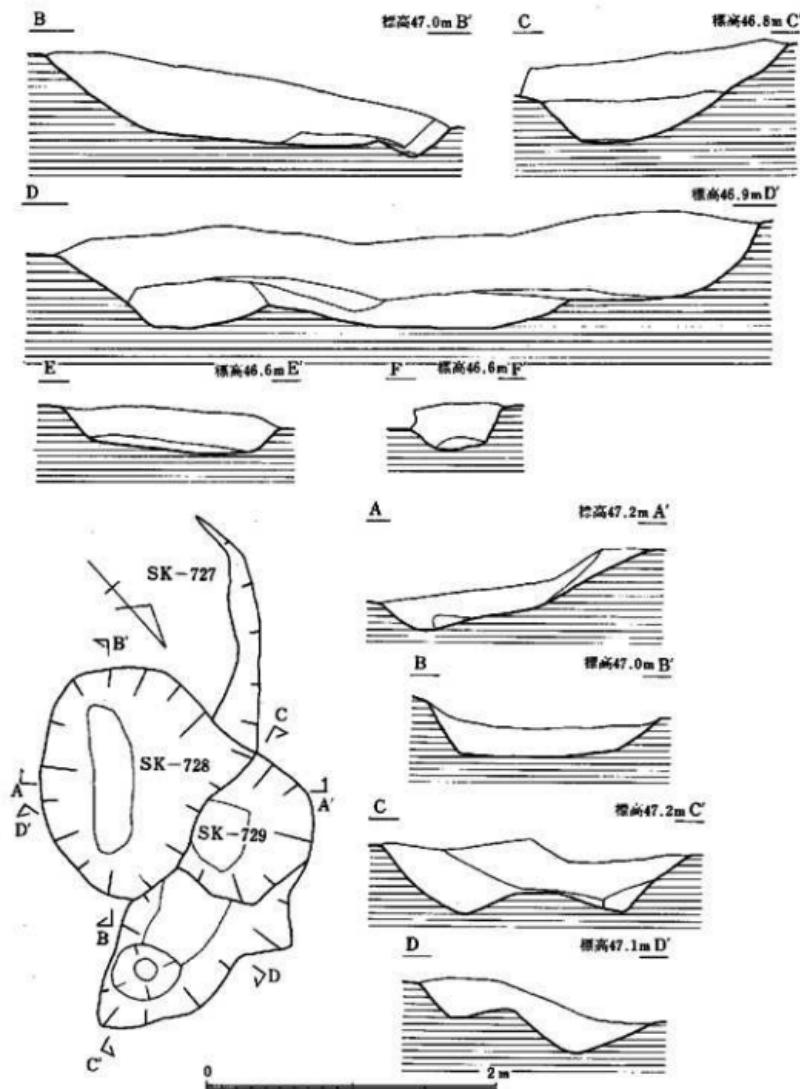


Fig. 211 第727~729号土壤(SK-727~729)実測図

第8章 K遺跡の記録

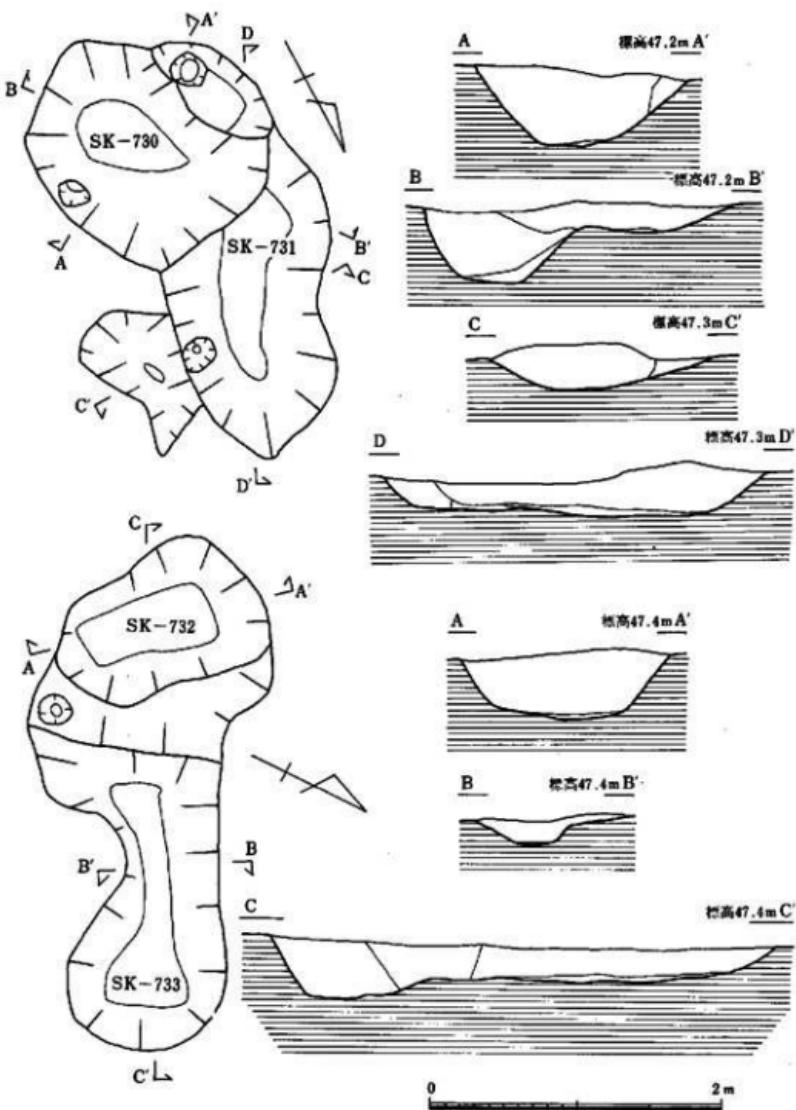


Fig. 212 第730~733号土壤(SK-730~733)実測図

5. 土壌状遺構

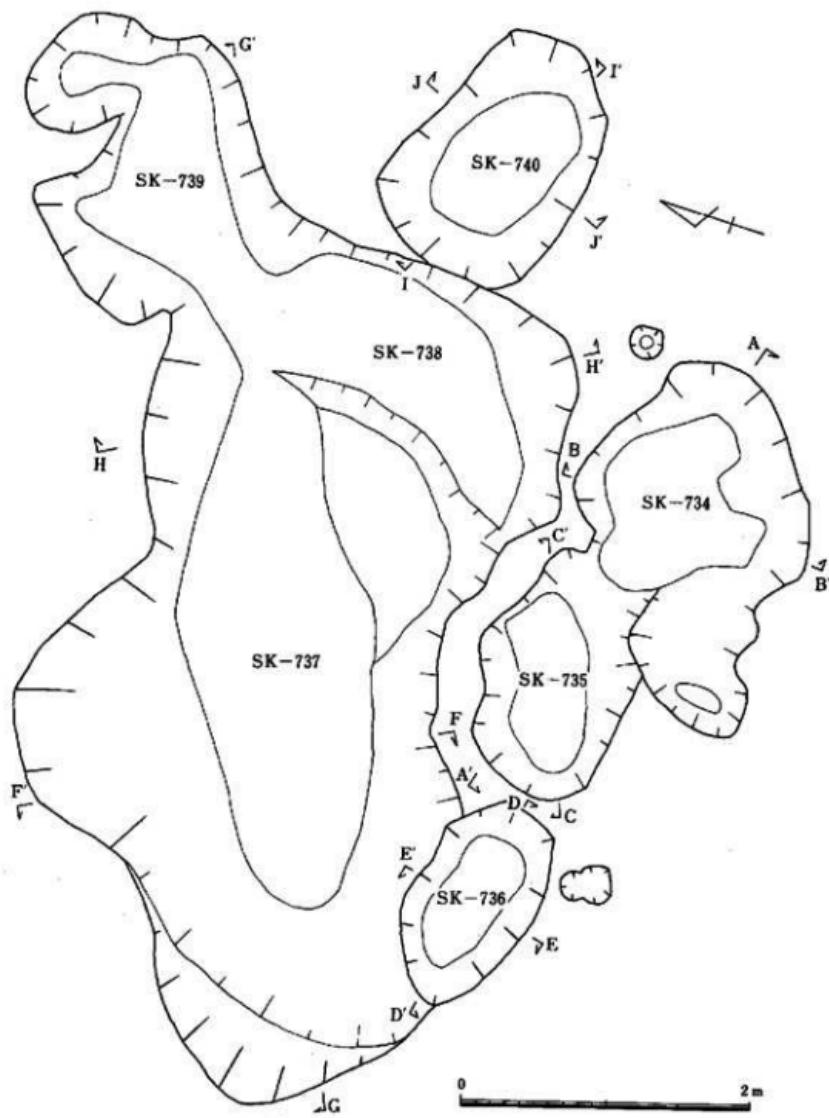


Fig. 213 第734~740号土壤(SK-734~740)実測図 I

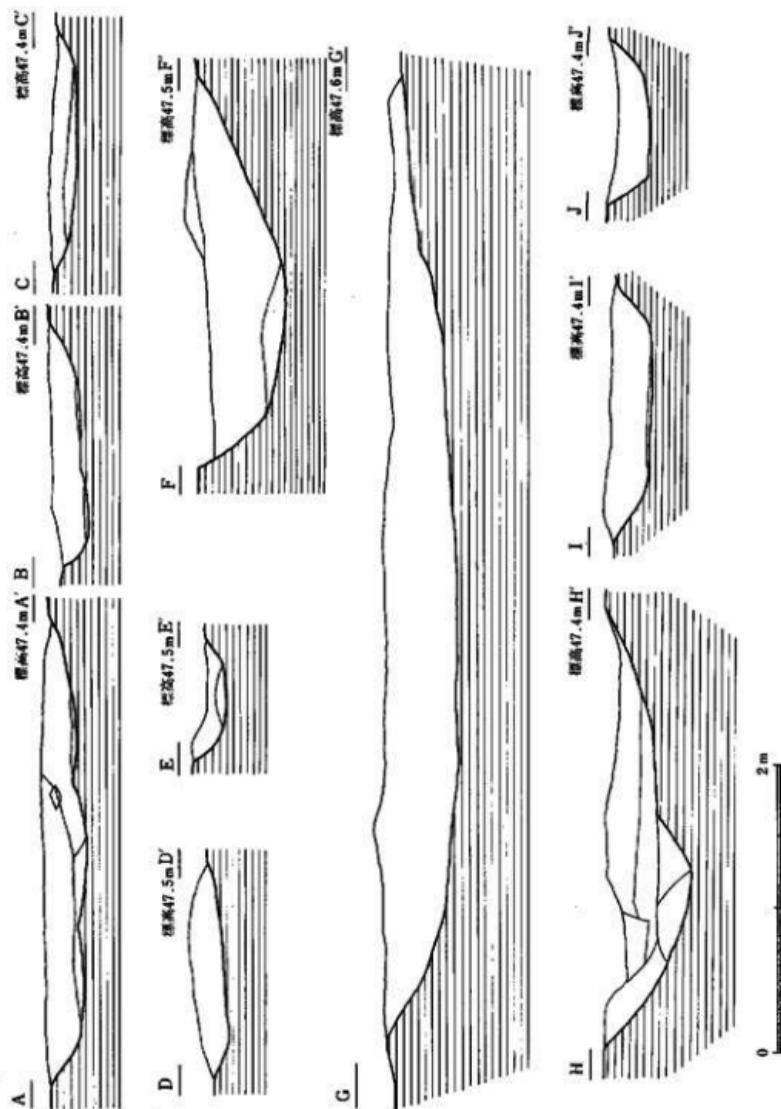


Fig. 214 第734-740号土壤(SK-734-740)実測図II

5. 土壠状遺構

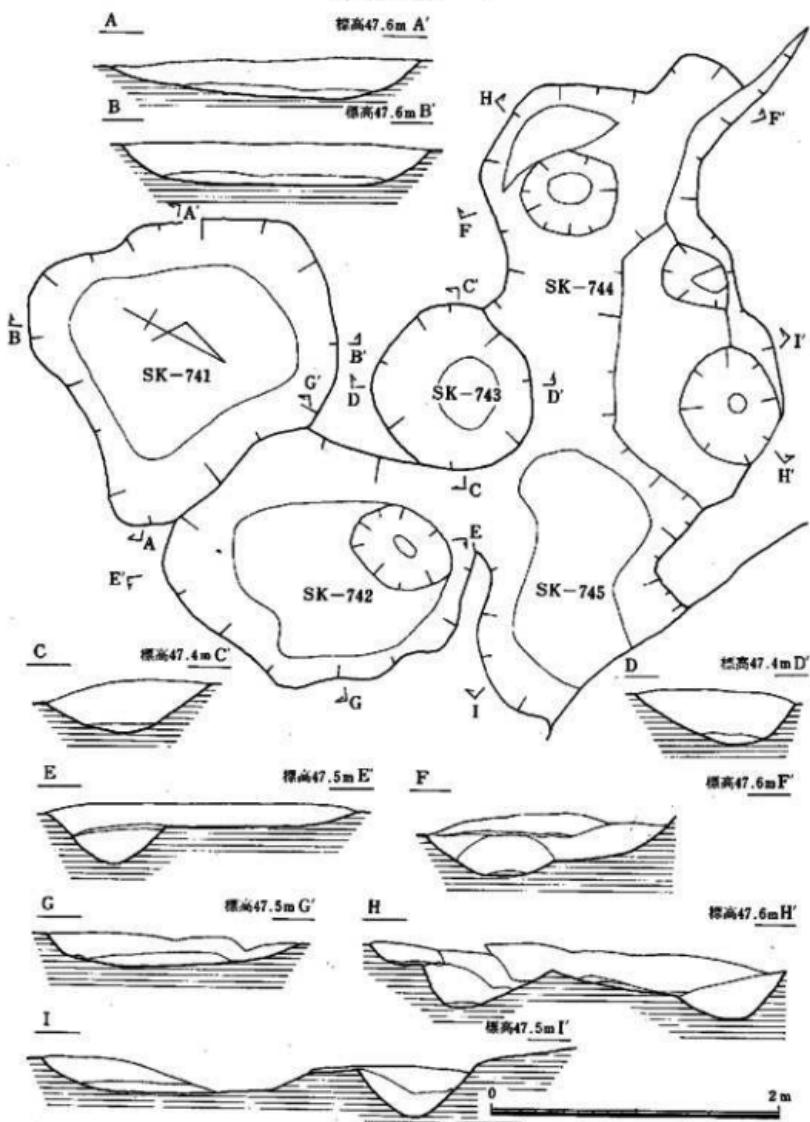


Fig. 215 第741~745号土壤(SK-741~745)実測図

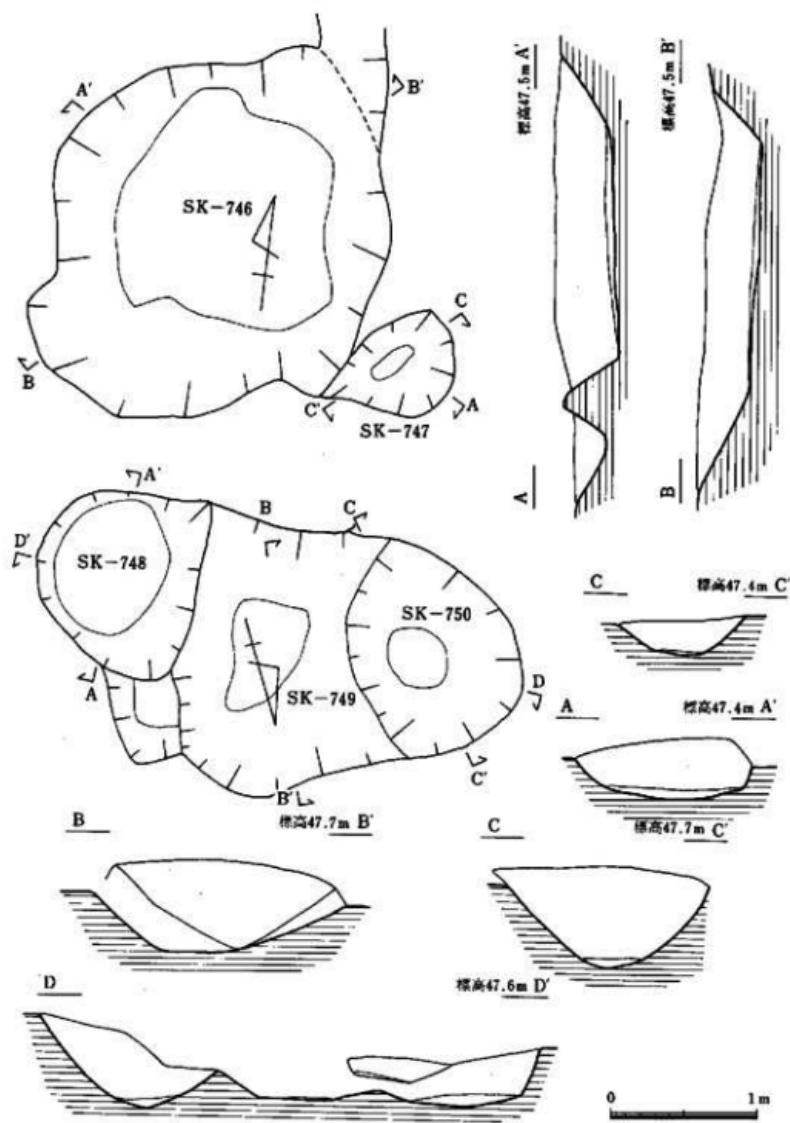


Fig. 216 第746~750号土壤(SK-746~750)実測図

5. 土壤状灌木

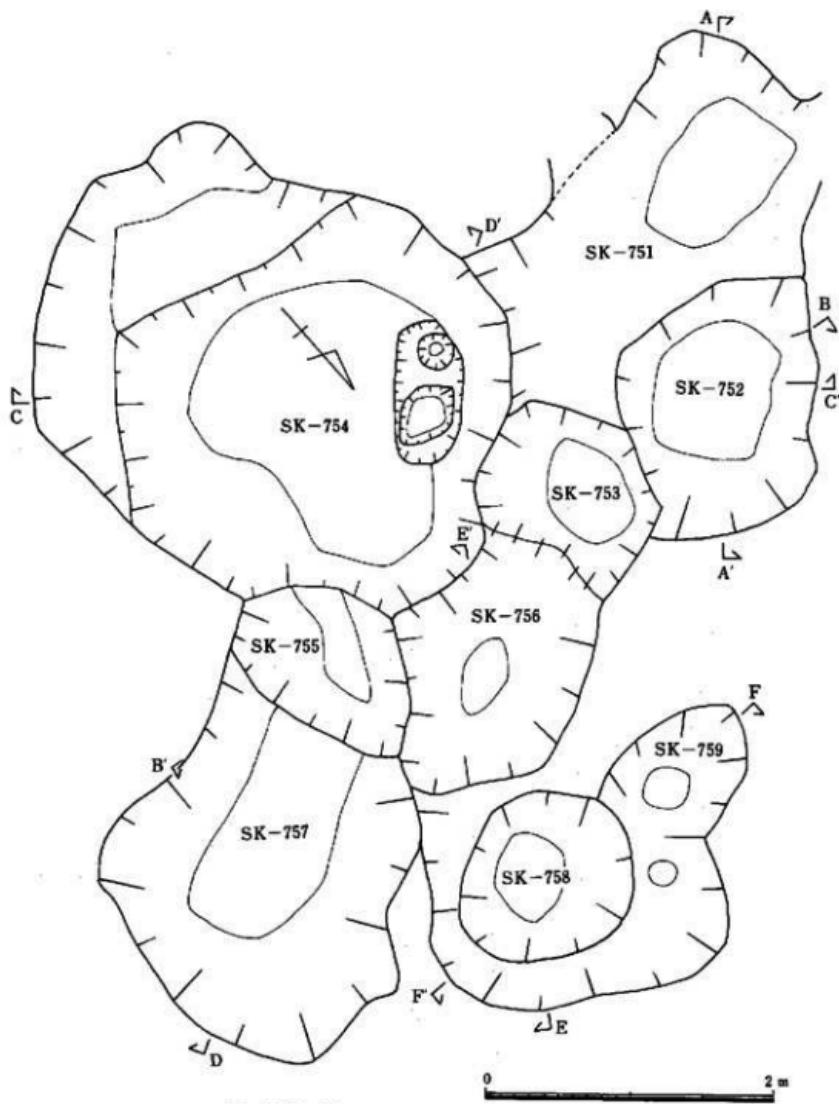


Fig. 217 第751~759号土壤(SK-751~759)実測図 I

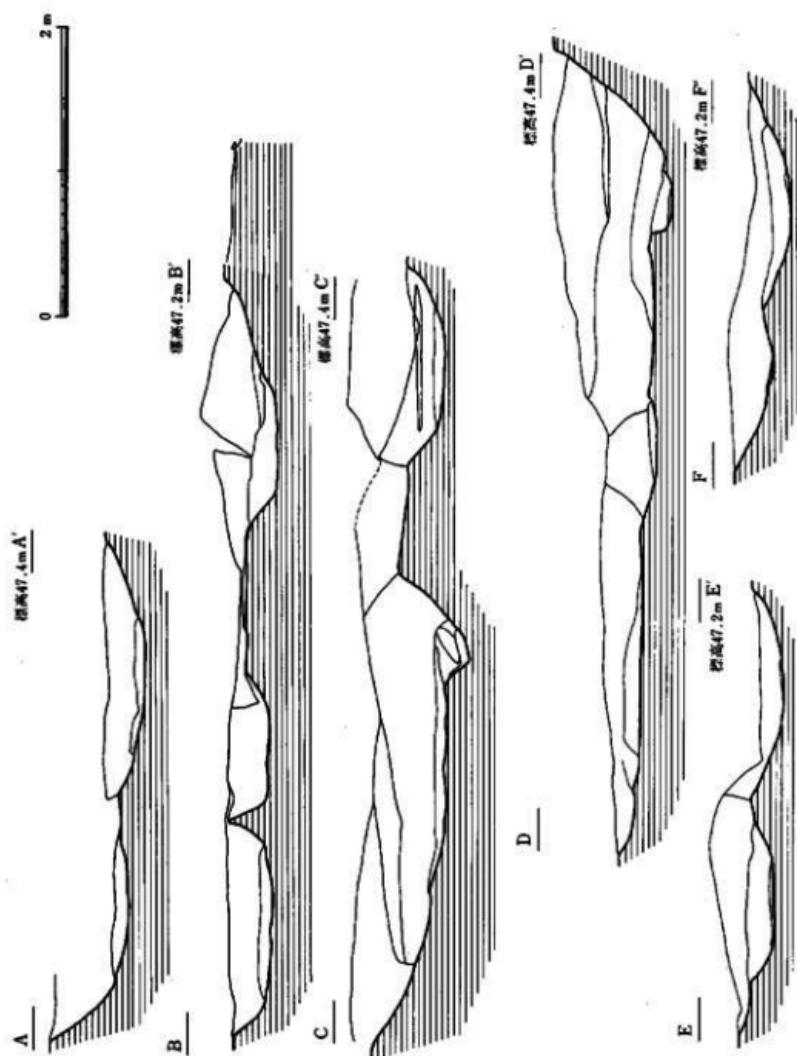


Fig. 218 第751~759号土壤(SK-751~759)実測図II

5. 土壤状遺構

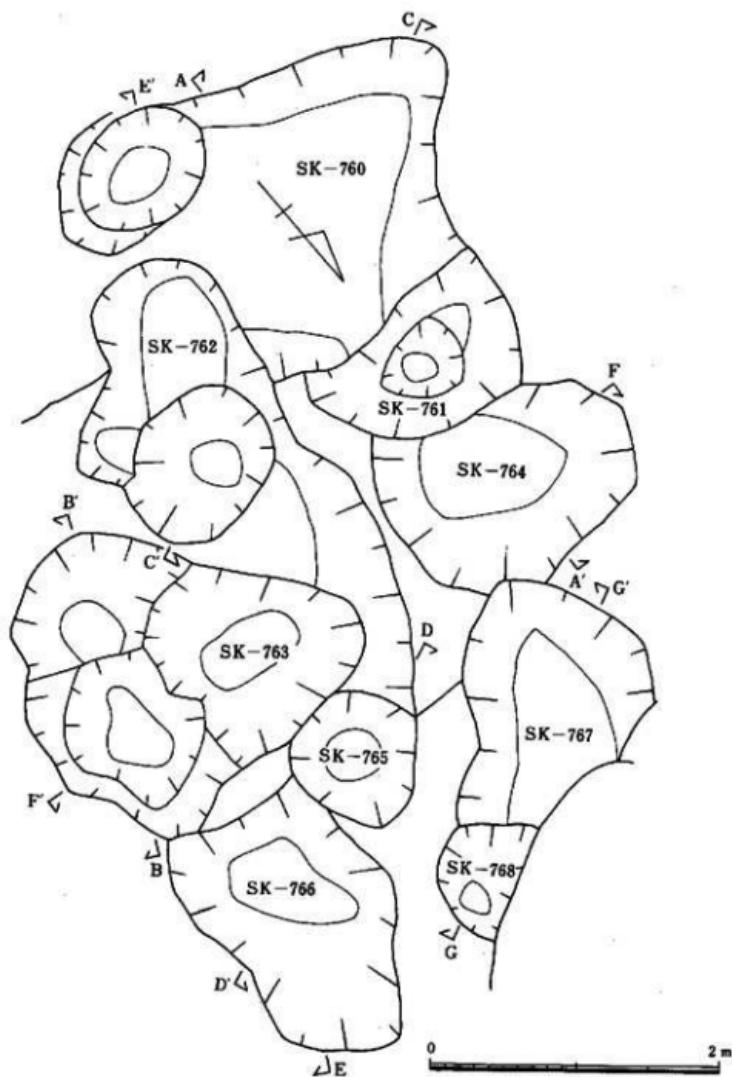


Fig. 219 第760~768号土壤(SK-760~768)実測図 I

第8章 K遺跡の記録

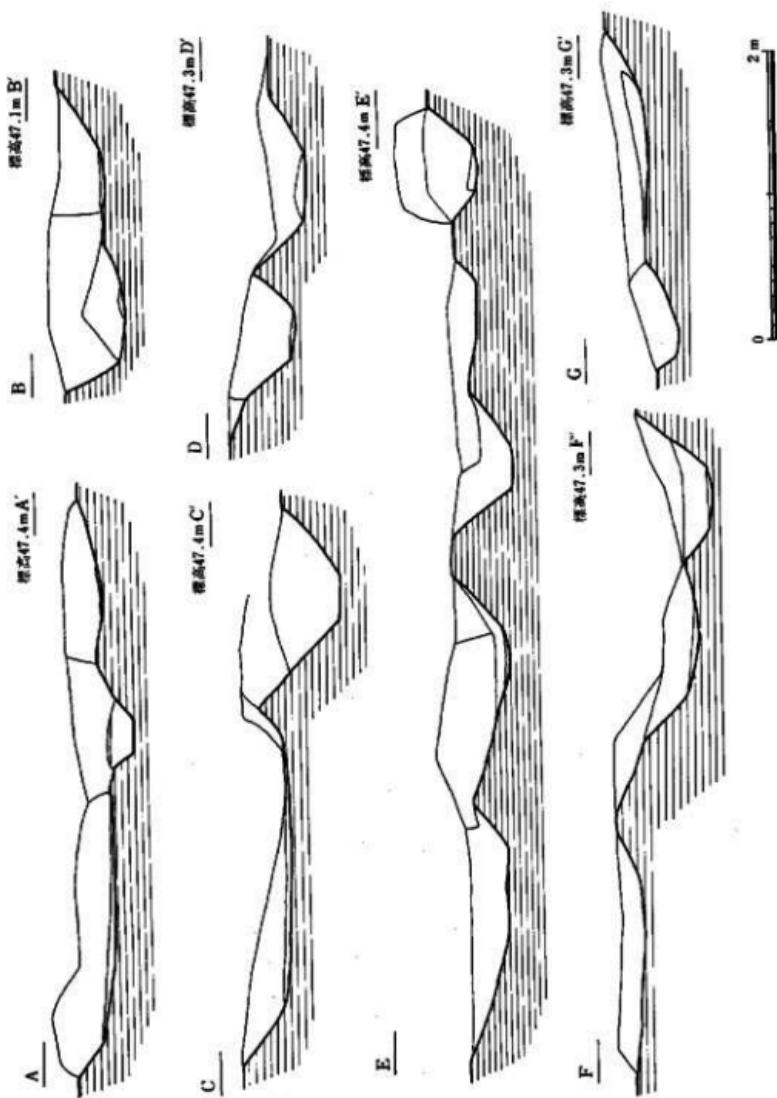


Fig. 220 第760-768号土塙(SK-760-768)実測図II

5. 土壌状況

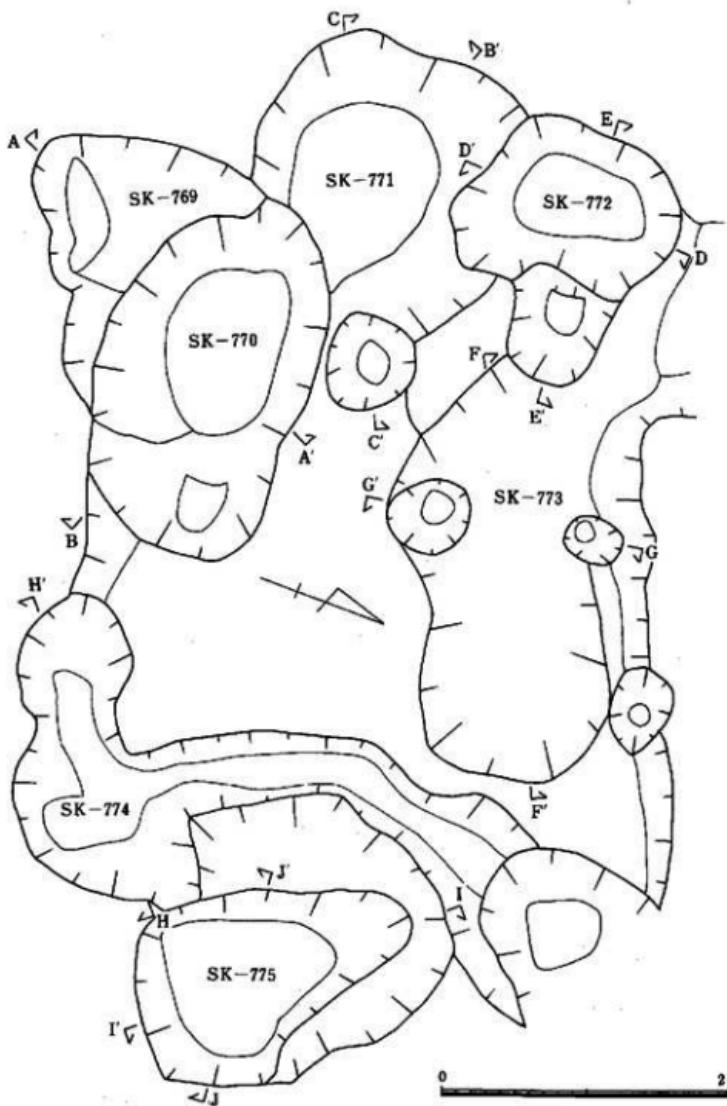


Fig. 221 第769~775号土壤(SK-769~775)実測図 I

第8章 K遺跡の記録

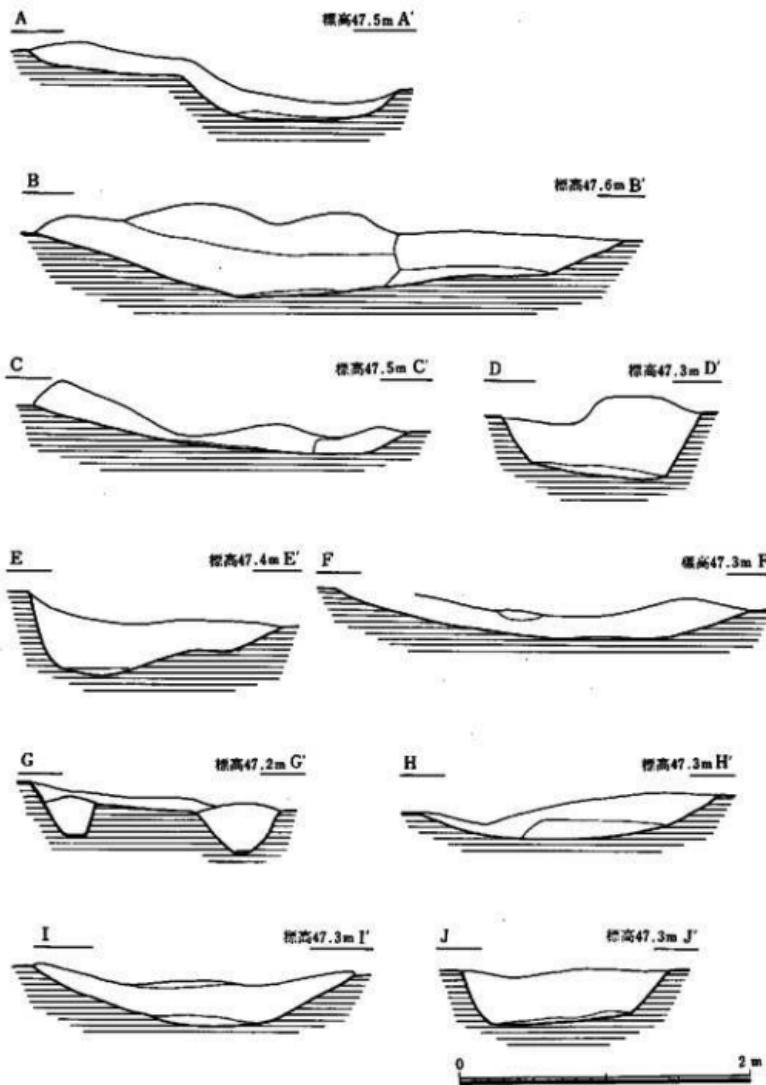


Fig. 222 第769-775号土壤(SK-769-775)実測図II

5. 土壌状遺構

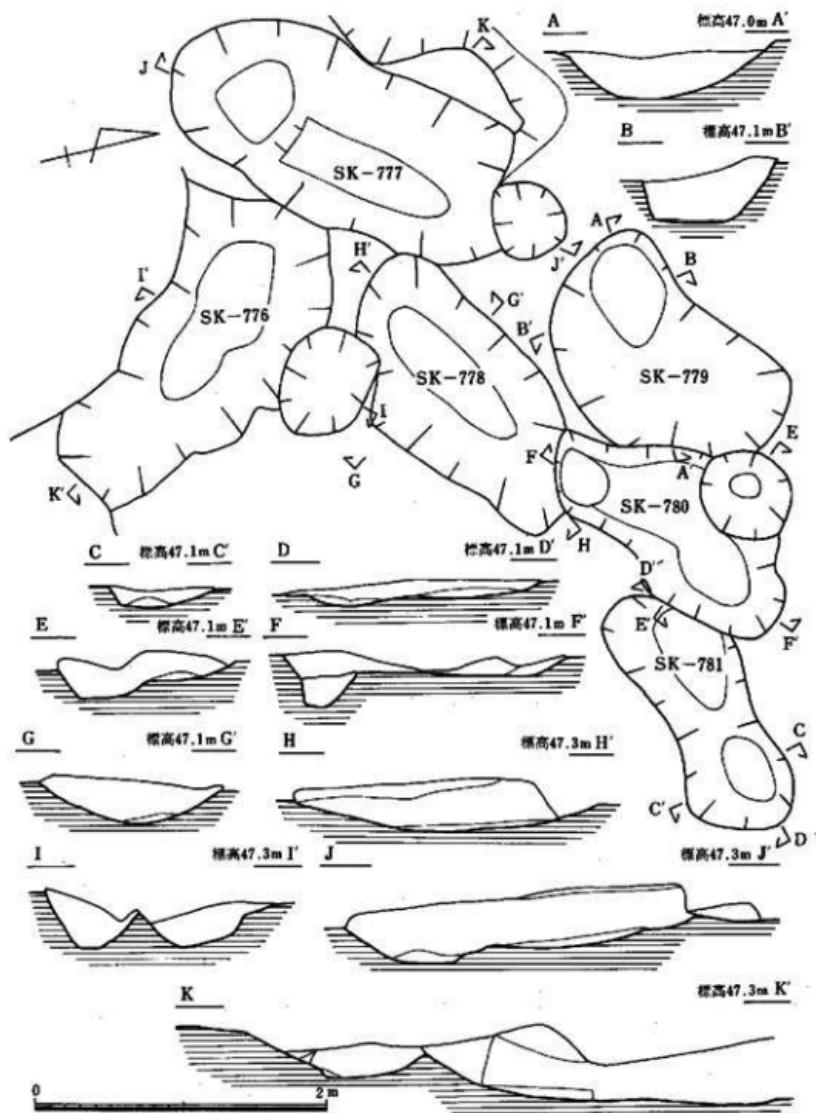


Fig. 223 第776~781号土壤(SK-776~781)実測図

第8章 K遺跡の記録

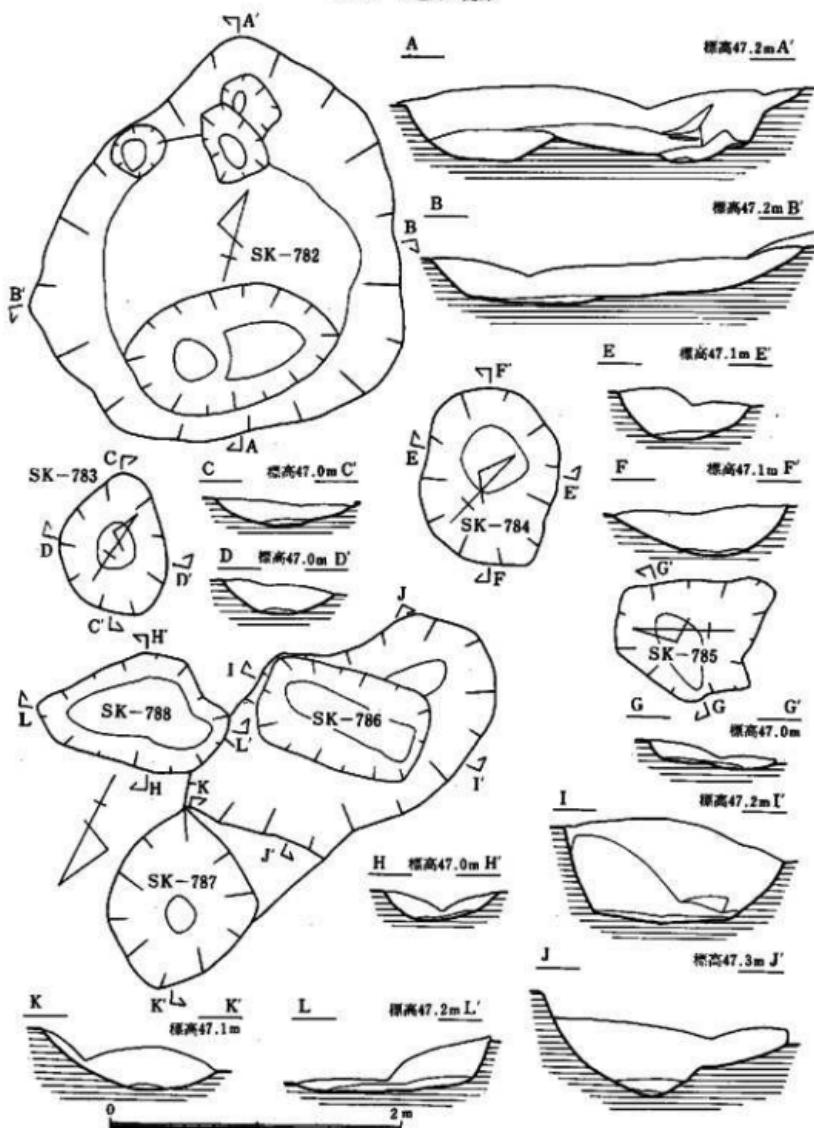


Fig. 224 第782~788号土壤(SK-782~788)断面図

5. 土壤状遺構

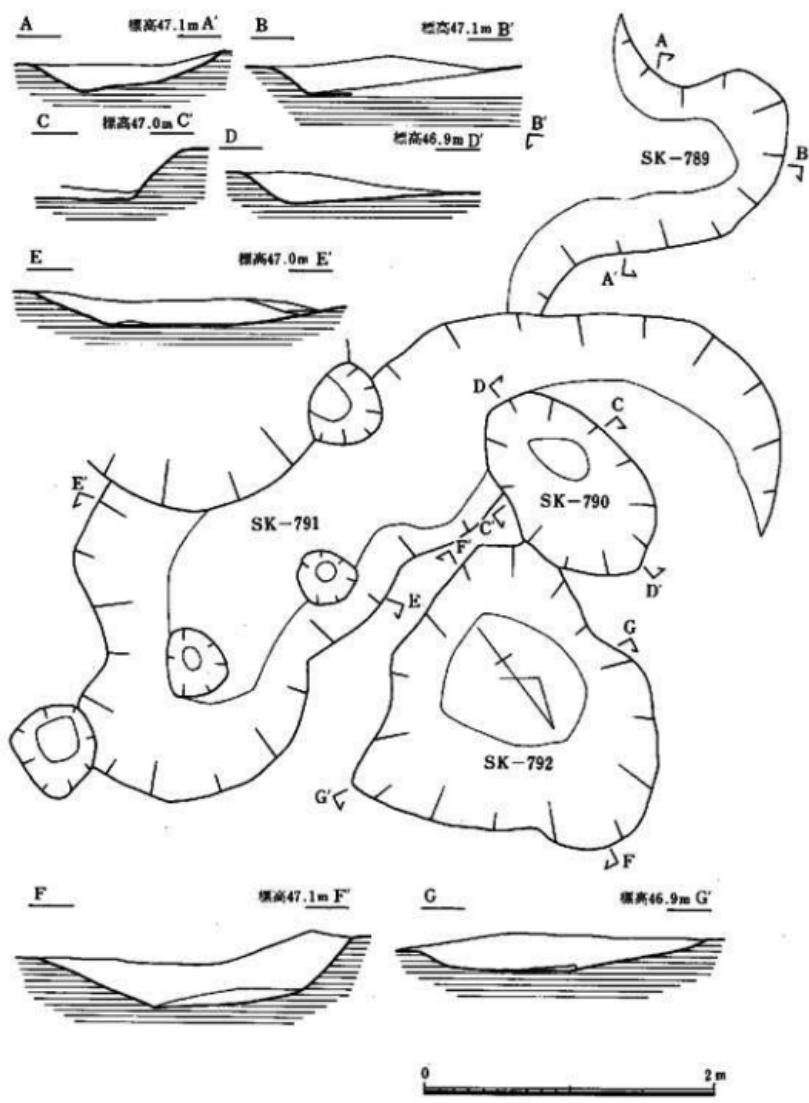


Fig. 225 第789~792号土壤(SK-789~792)実測図

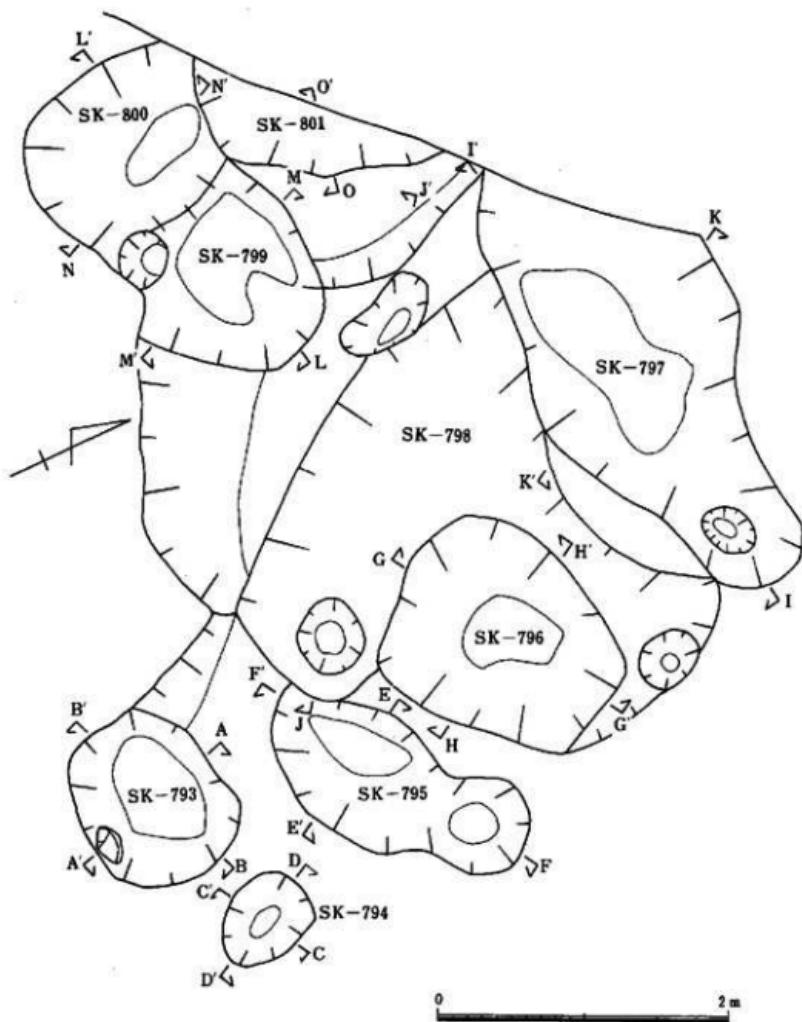


Fig. 226 第793-801号土壇(SK-793-801)尖測図 I

5. 土壠状造構

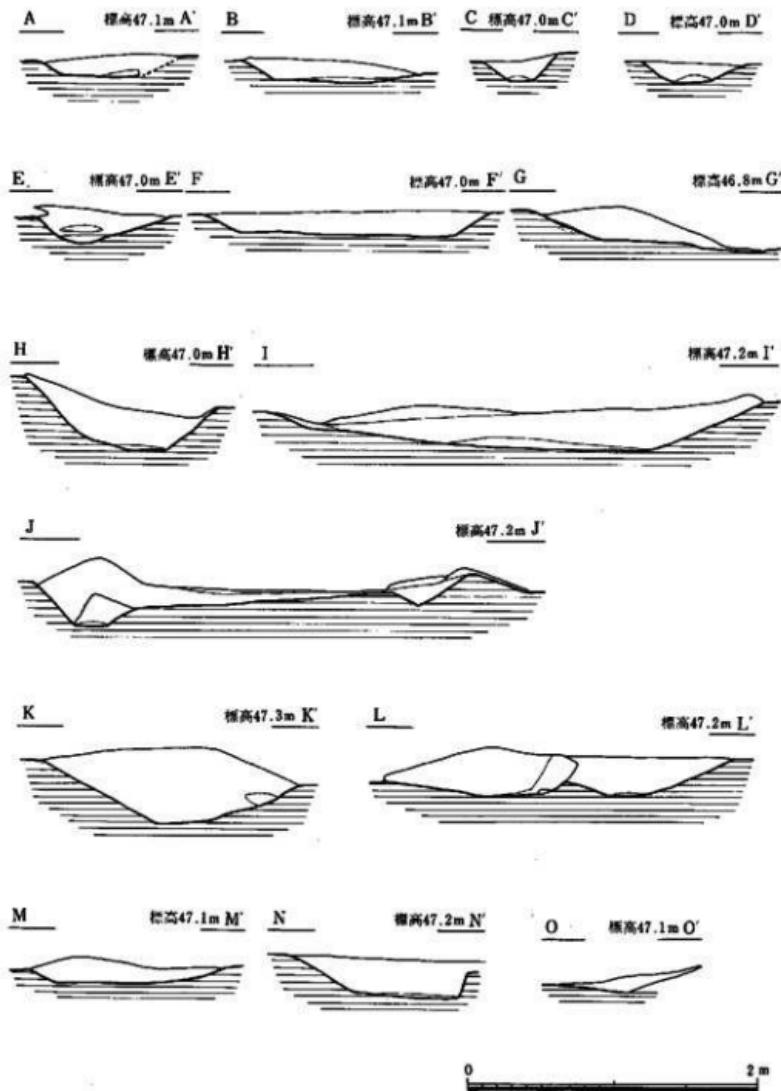


Fig. 227 第793~801号上坡(SK-793~801)尖測圖 II

第8章 K遺跡の記録

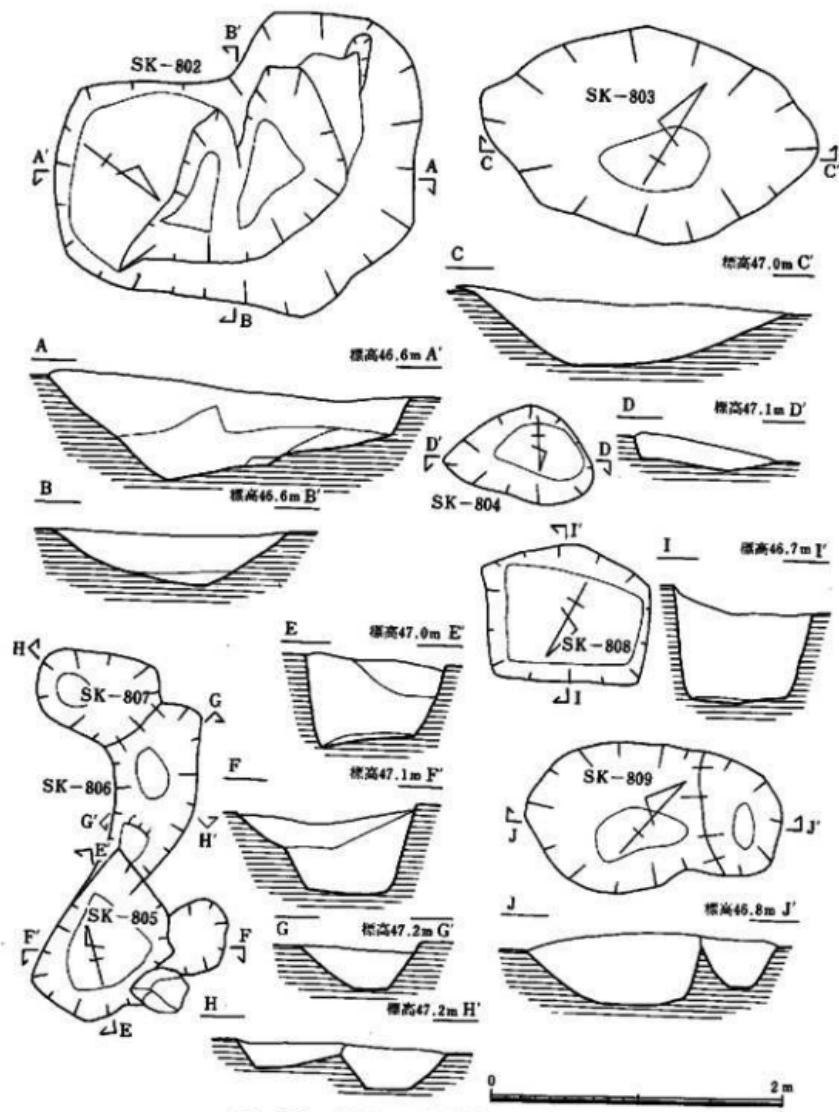


Fig. 228 第802~809号土壤(SK-802~809)実測図

5. 七块状遗搏

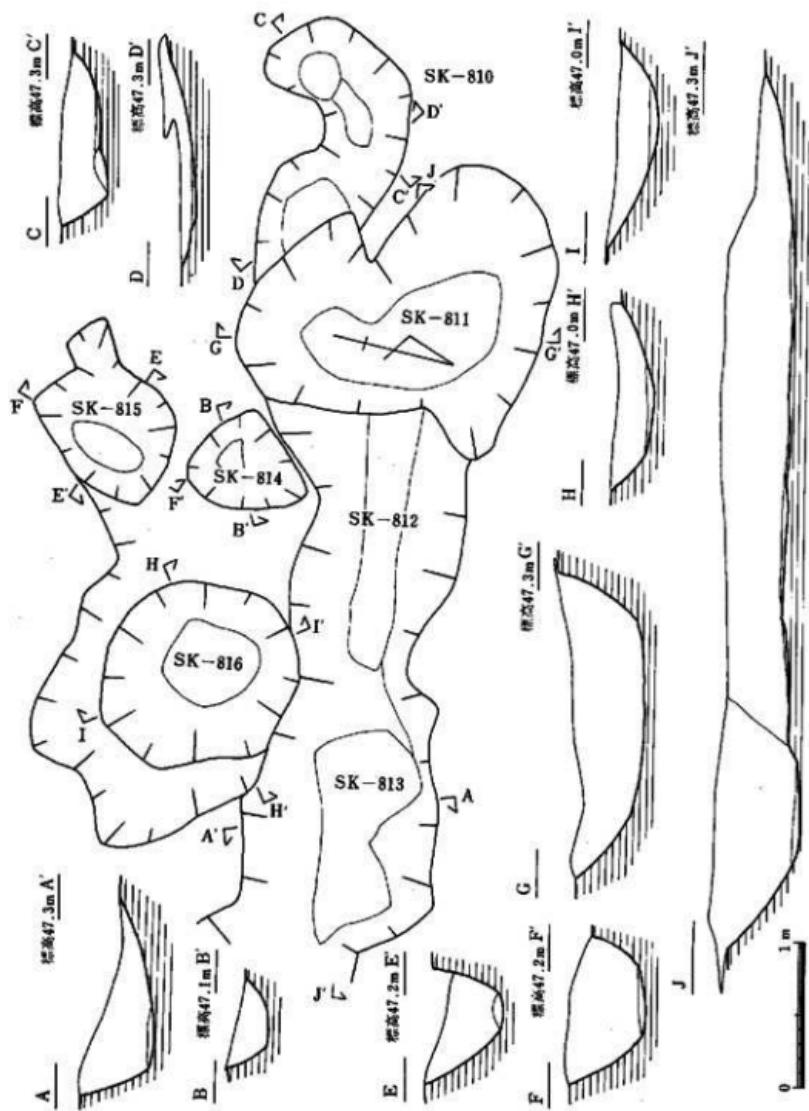


Fig. 229 第810~816号土壤(SK-810~816)实测图

第8章 K連続の記録

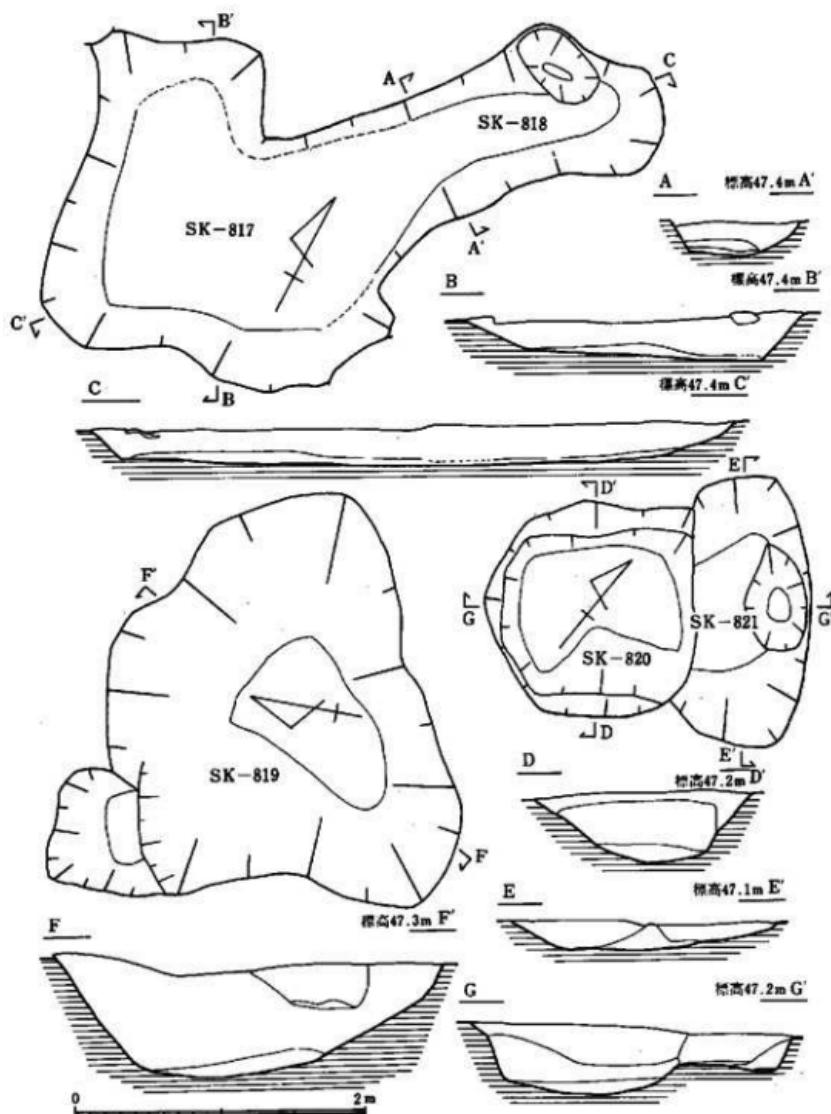


Fig. 230 第817~821号土壤(SK-817~821)実測図

5. 土壤状造構

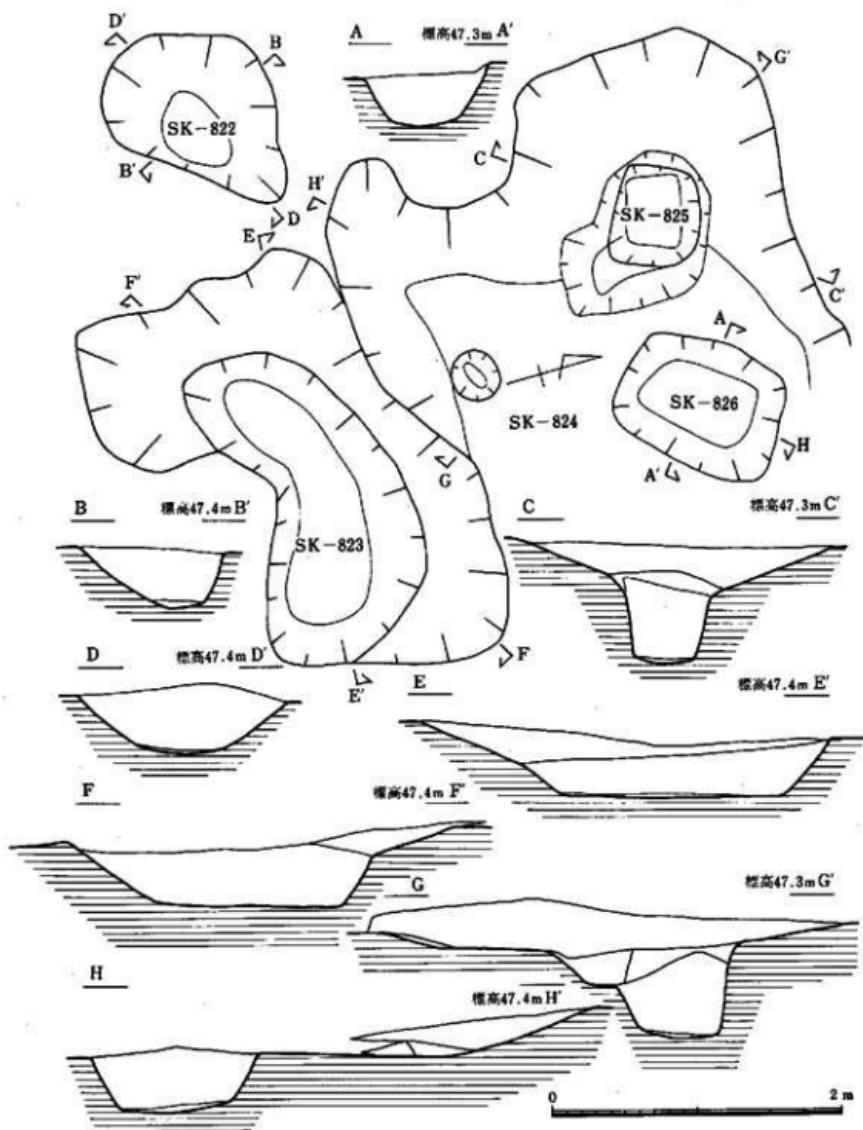


Fig. 231 第822~826号土壤(SK-822~826)実測図

第8章 K遺跡の記録

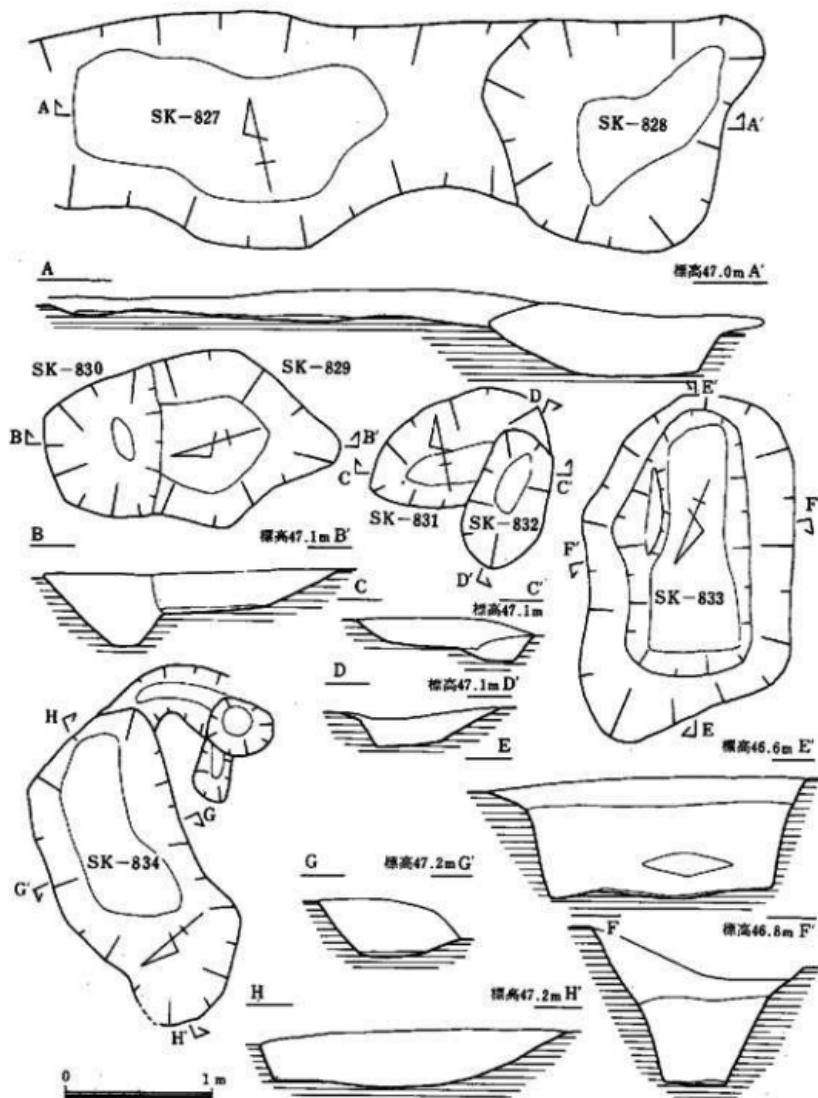


Fig. 232 第827~834号土壙(SK-827~834)実測図

5. 土壤状造構

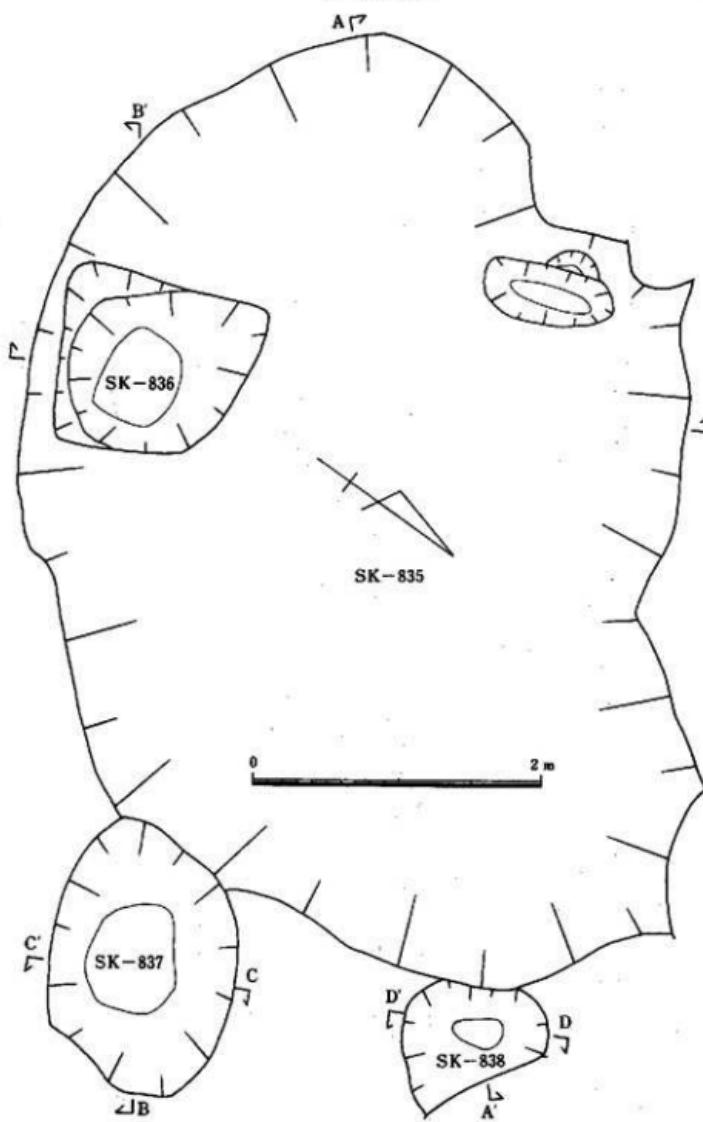


Fig. 233 第835—838号土壤(SK-835~838)実測図 I

第8章 K遺跡の記録

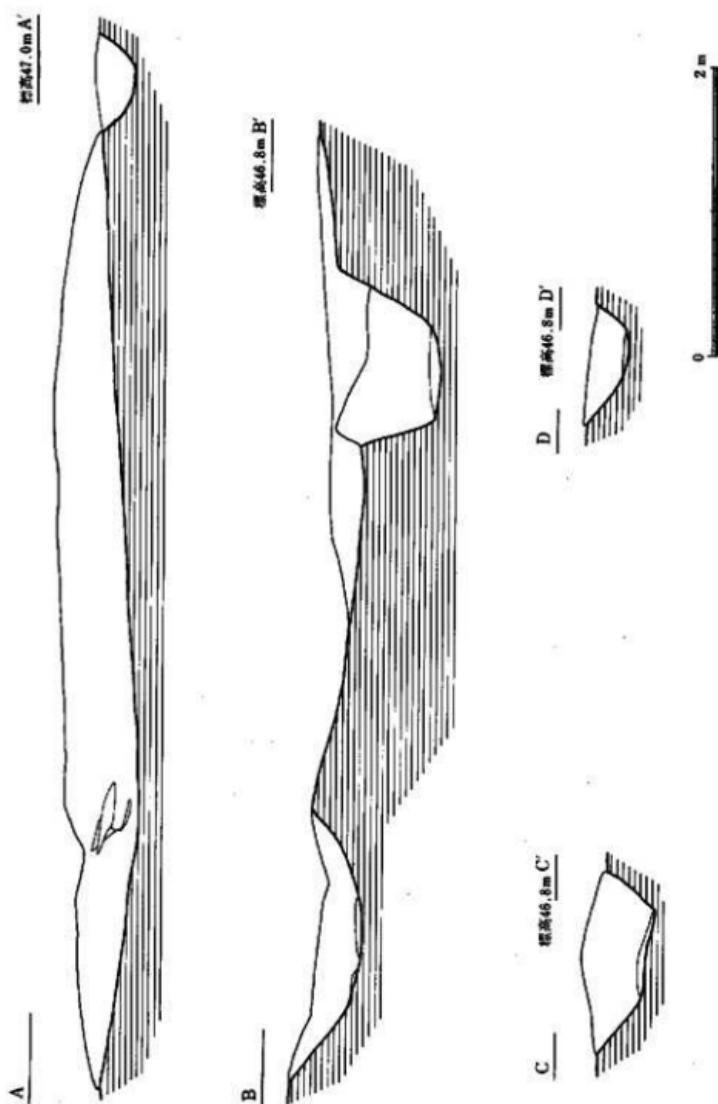


Fig. 234 第835~838号土壤(SK-835~838)実測図II

5. 土壤状遺情

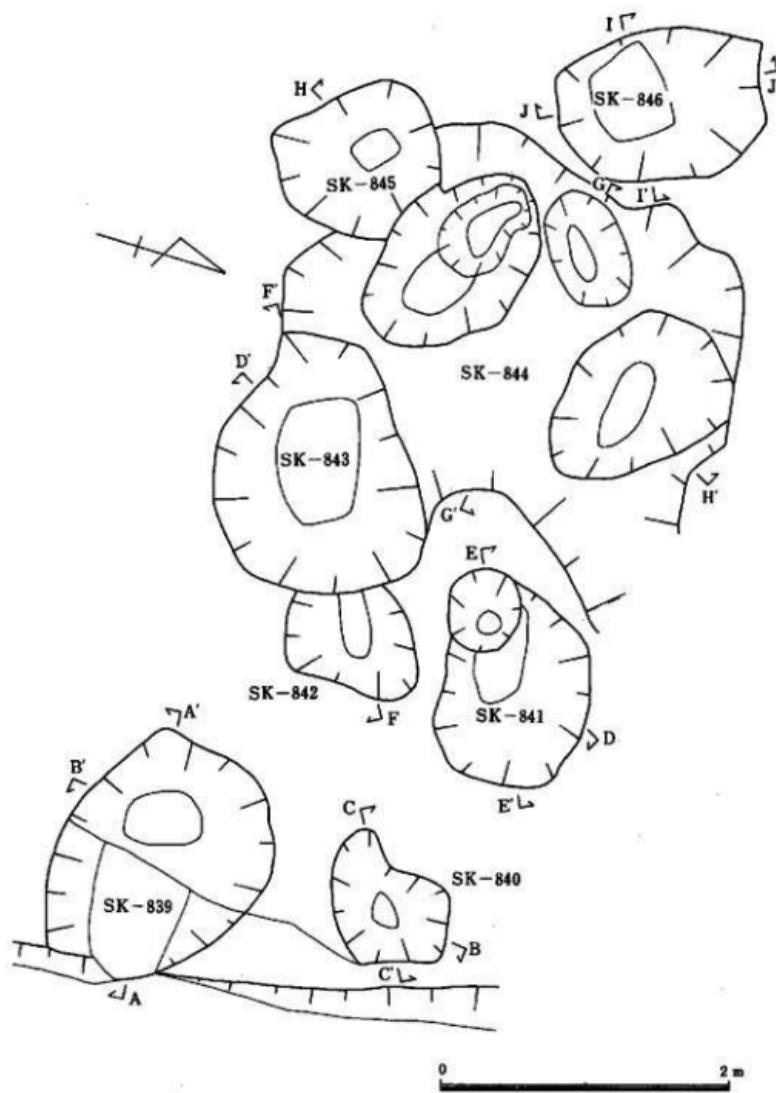


Fig. 235 第839~846号土壤(SK-839~846)実測図 I

第8章 K地形の記録

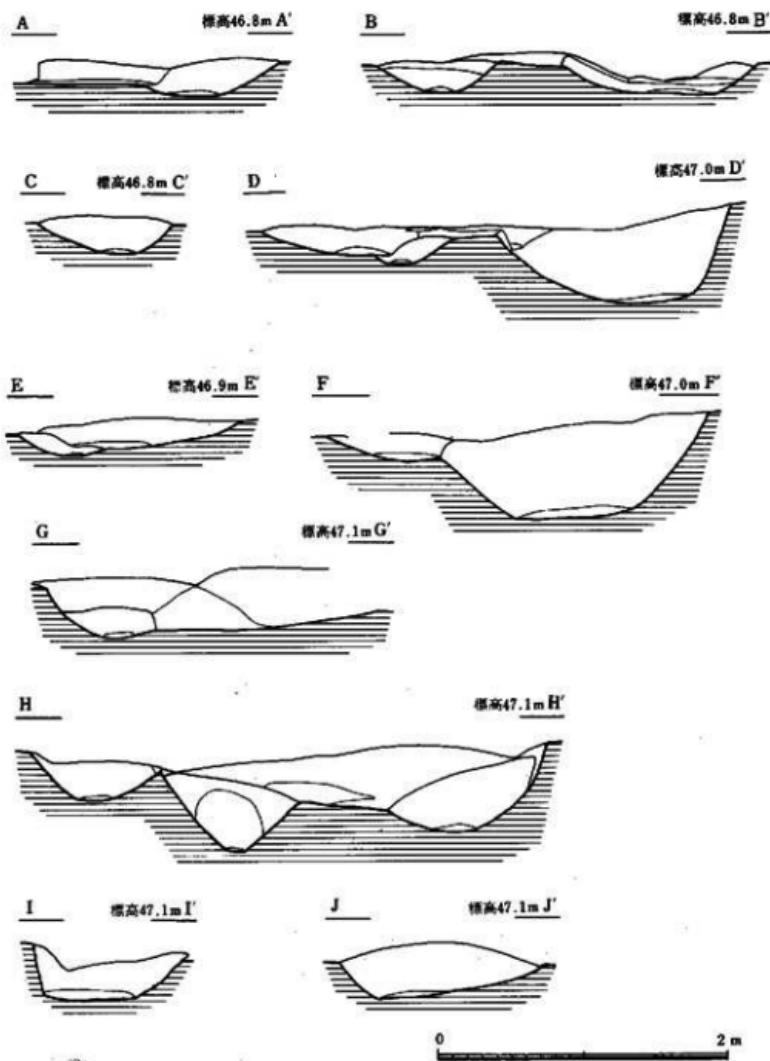


Fig. 236 第839~846号土壠(SK-839~846)実測図II

5. 土壌状況図

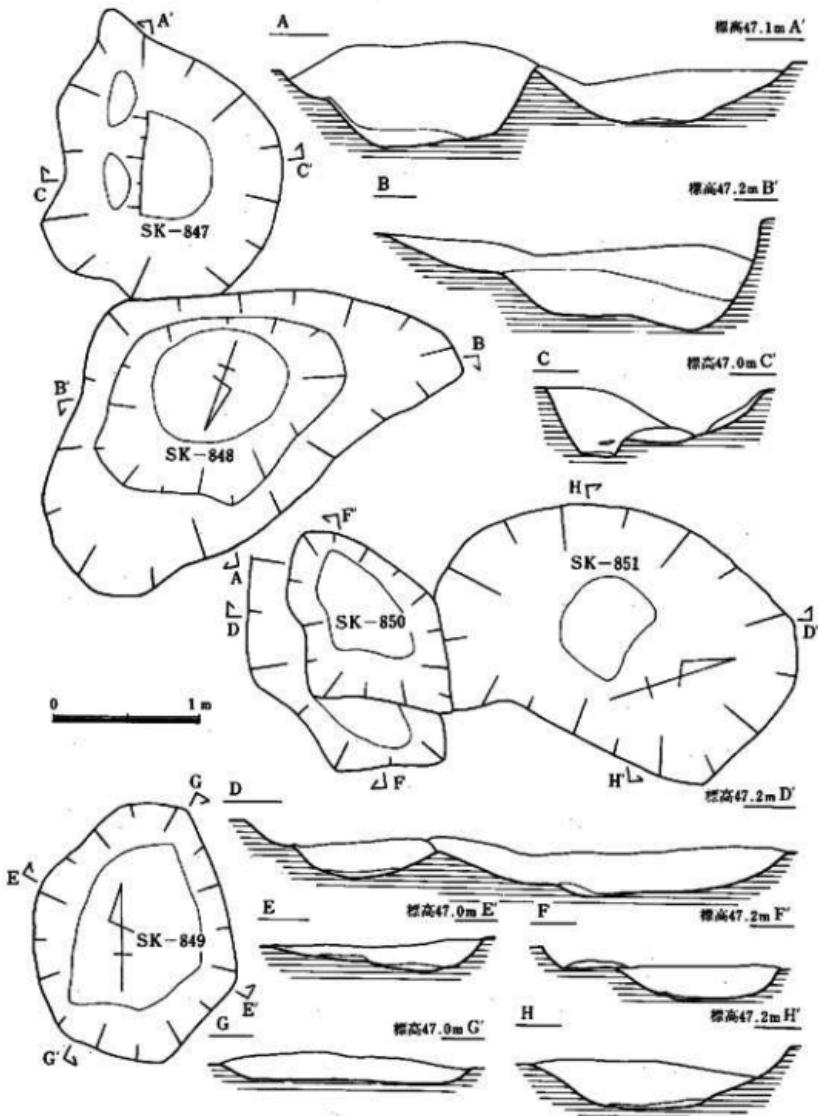


Fig. 237 第847~851号土壤(SK-847~851)実測図

第8章 K遺跡の記録

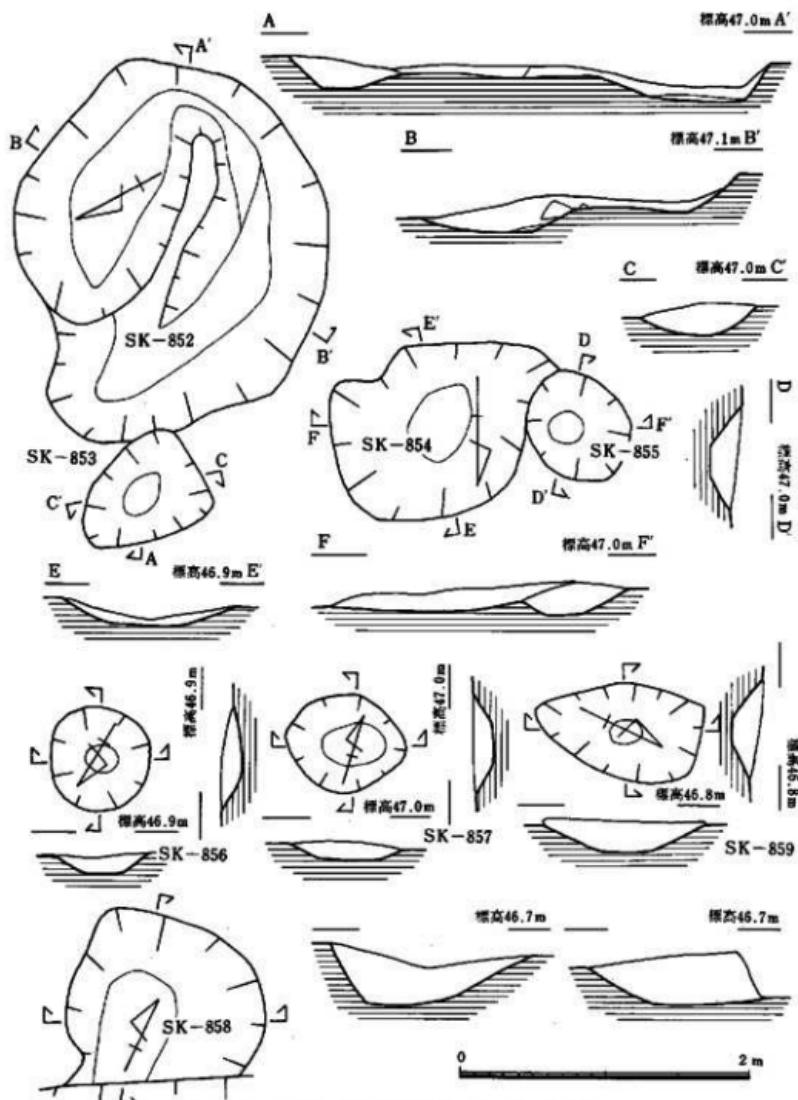


Fig. 238 第852~859号土壤(SK-852~859)実測図

5. 土壌状況図

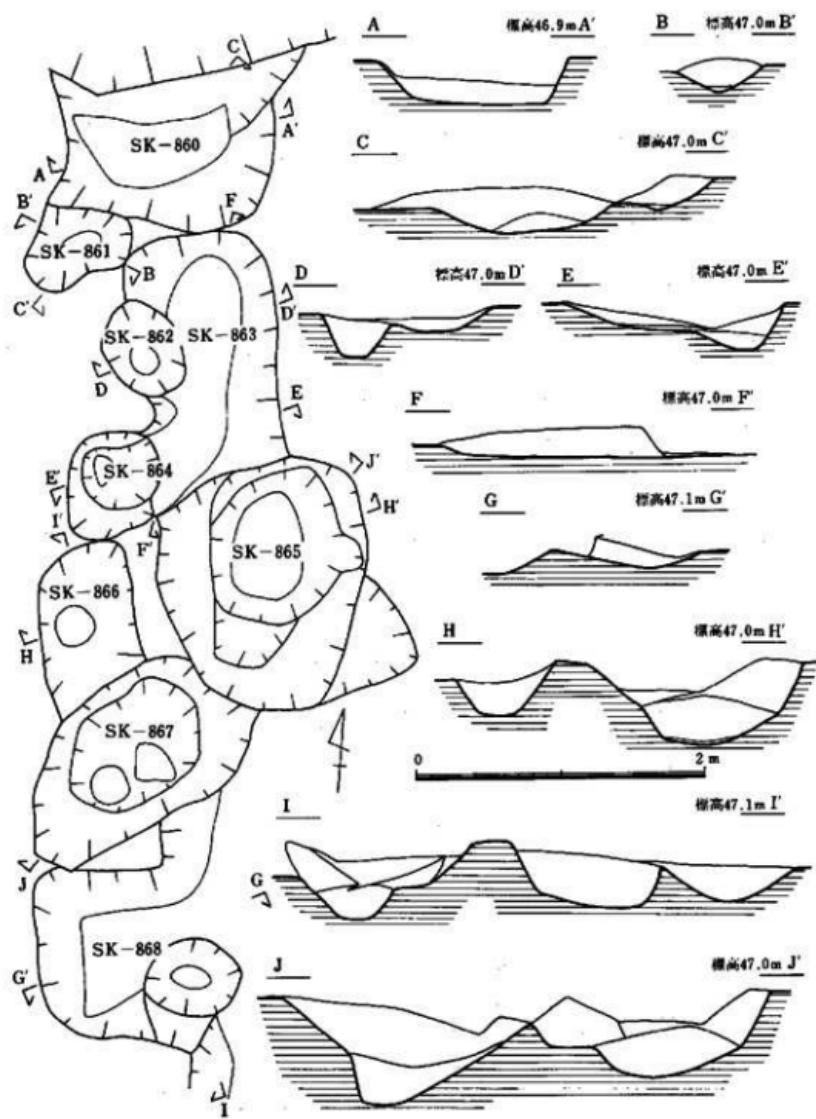


Fig. 239 第860~868号土壤(SK-860~868)実測図

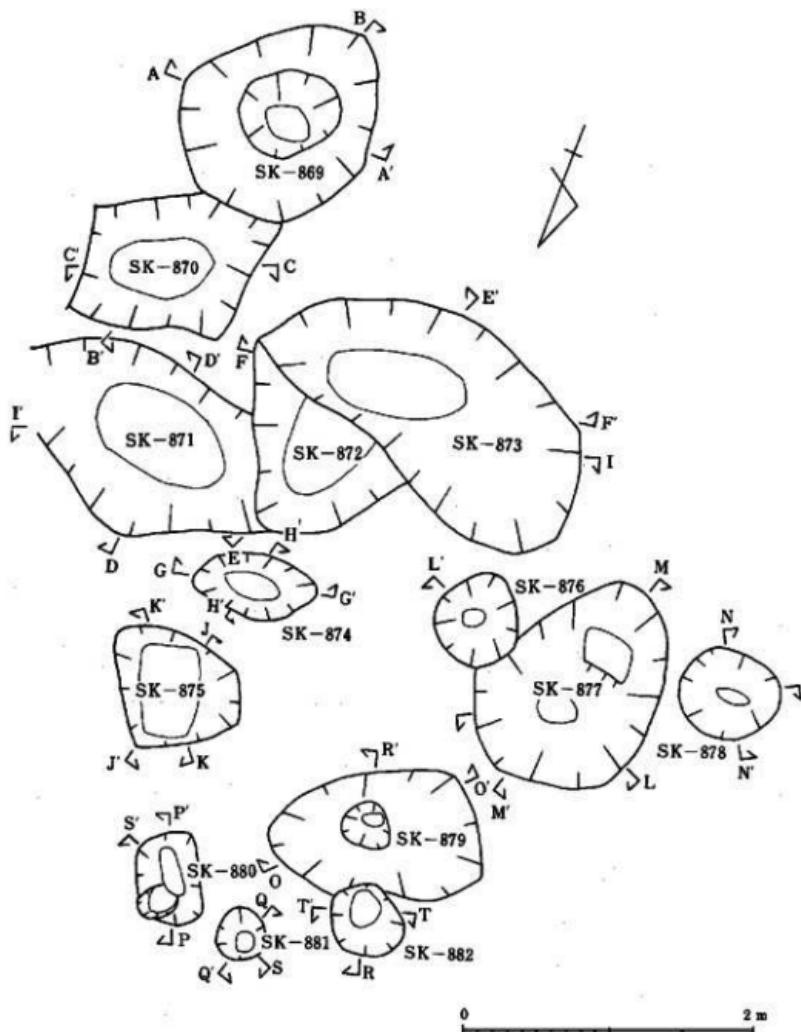


Fig. 240 第869～882号土壤(SK-869～882)実測図 I

5. 土壤状遺構

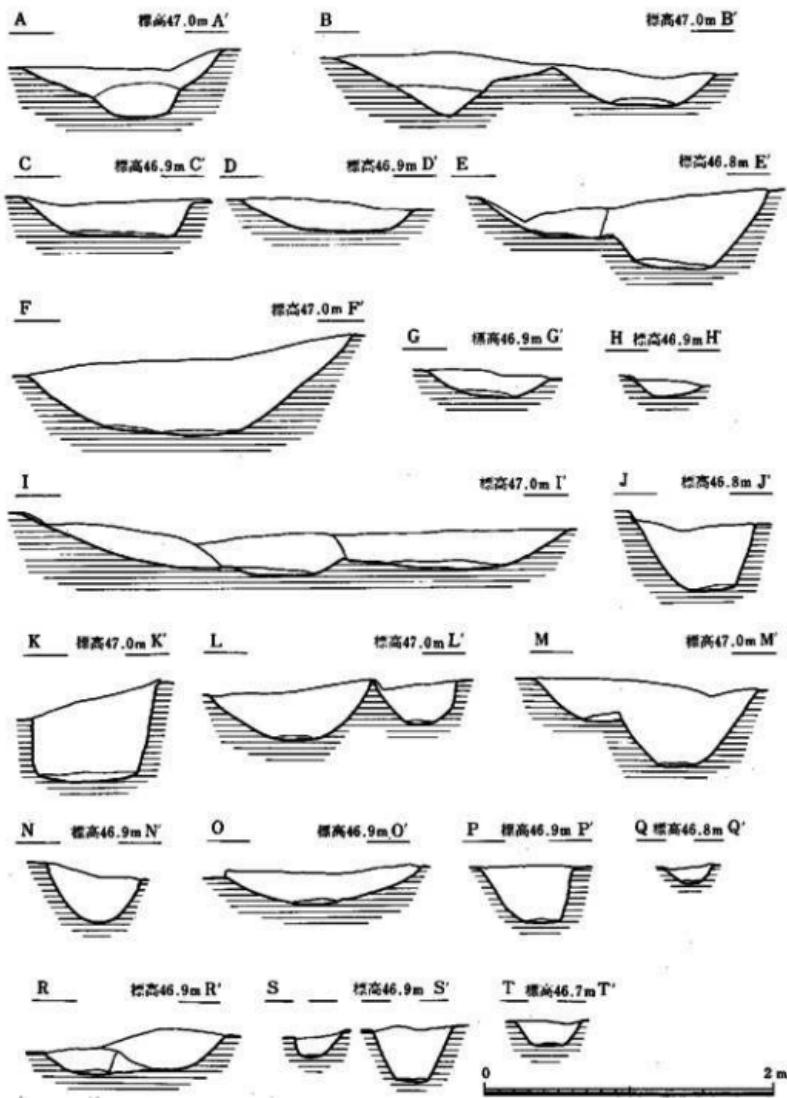


Fig. 241 第869~882号土壤(SK-869~882)実測図II

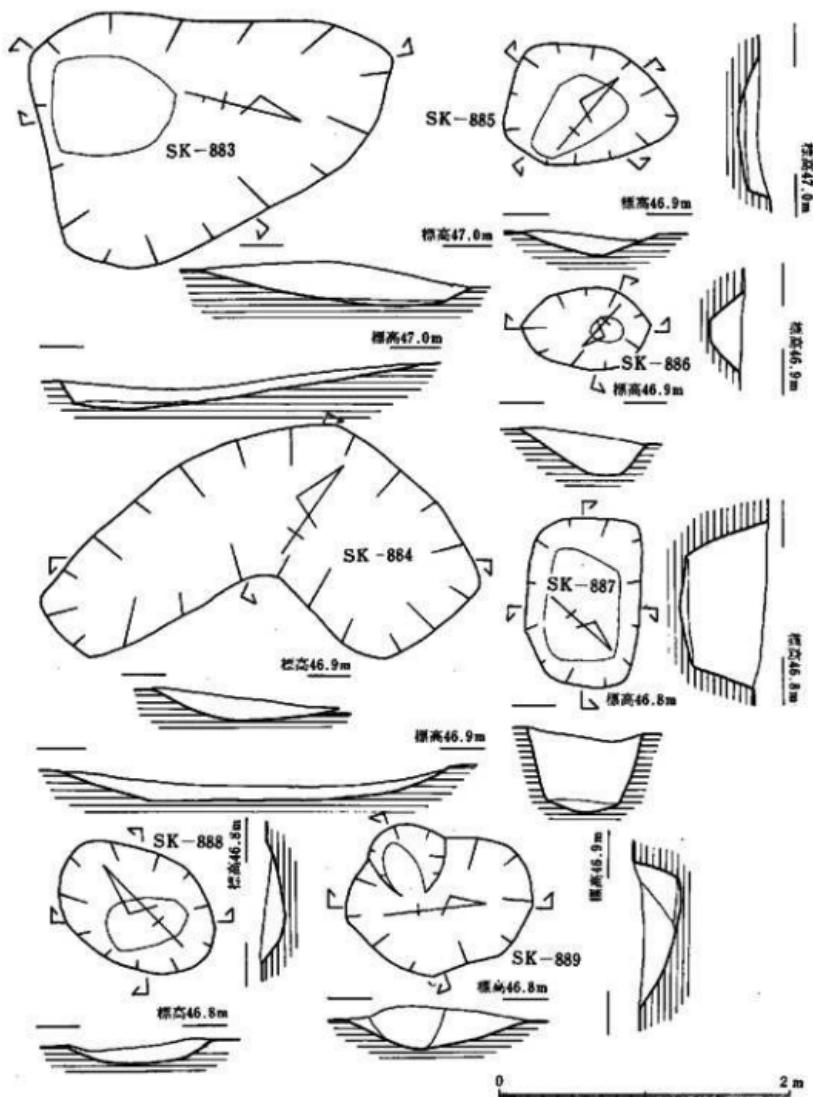


Fig. 242 第883～889号土壤(SK-883～889)実測図

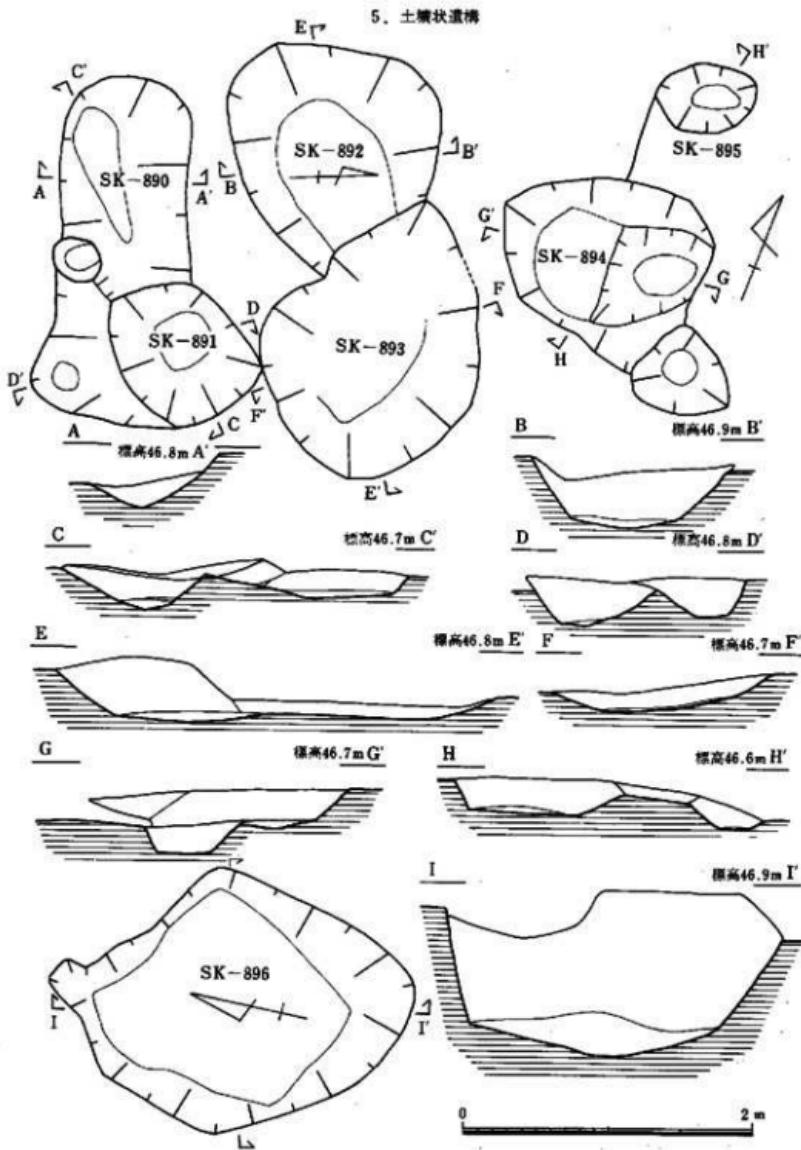


Fig. 243 第890~896号土壤(SK-890~896)実測図

第8章 K遺跡の記録

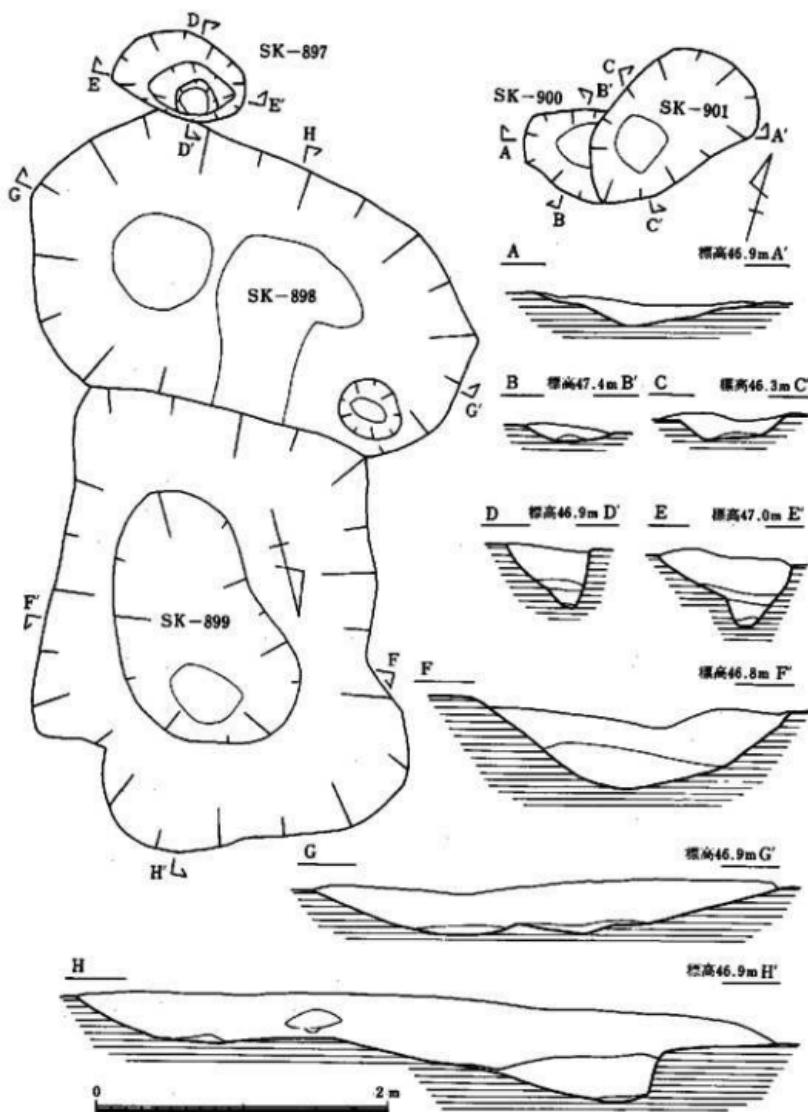


Fig. 244 第897~901号土壤(SK-897~901)実測図

5. 土壤状遺構

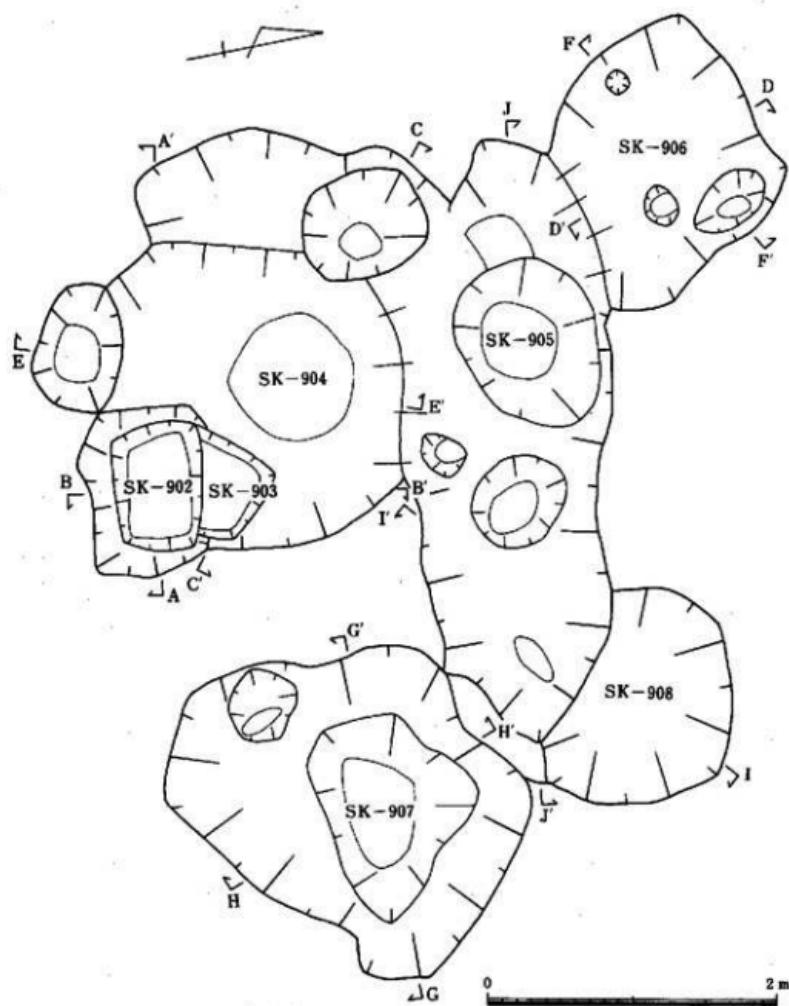


Fig. 245 畜902~908号土壤(SK-902~908)実測図I

第8章 K遺跡の記録

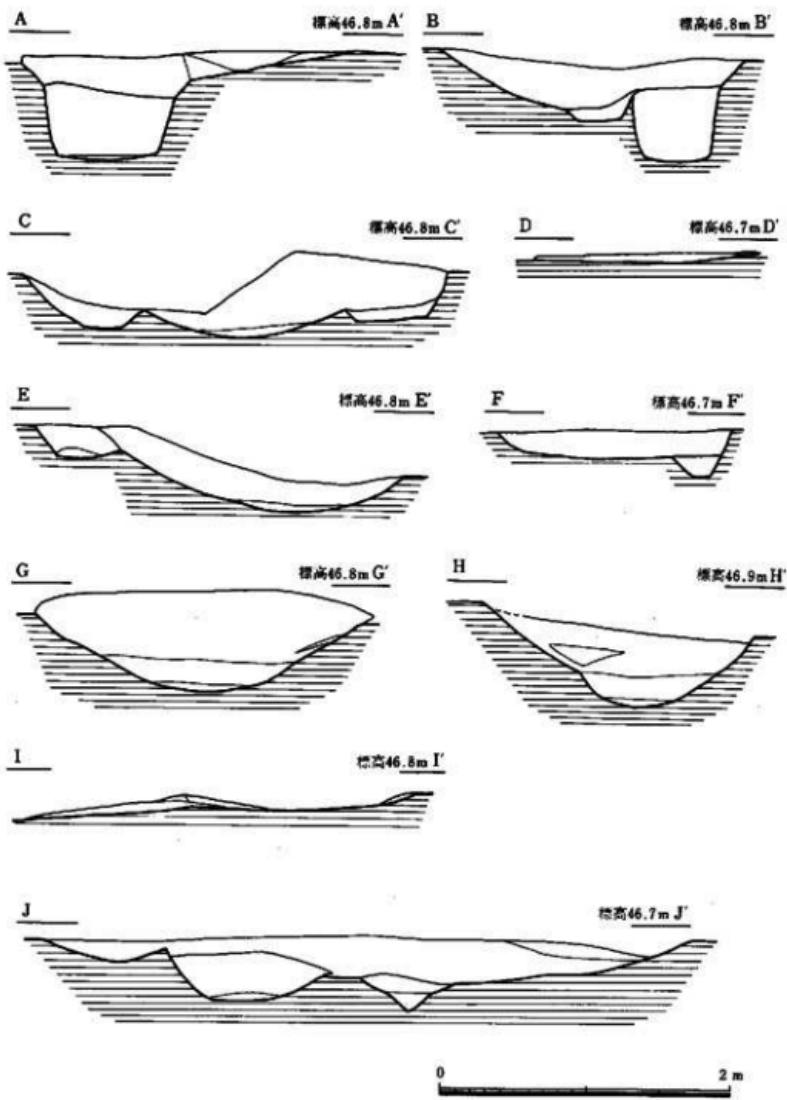


Fig. 246 第902~908号土壤(SK-902~908)実測図II

5. 土壌状況図

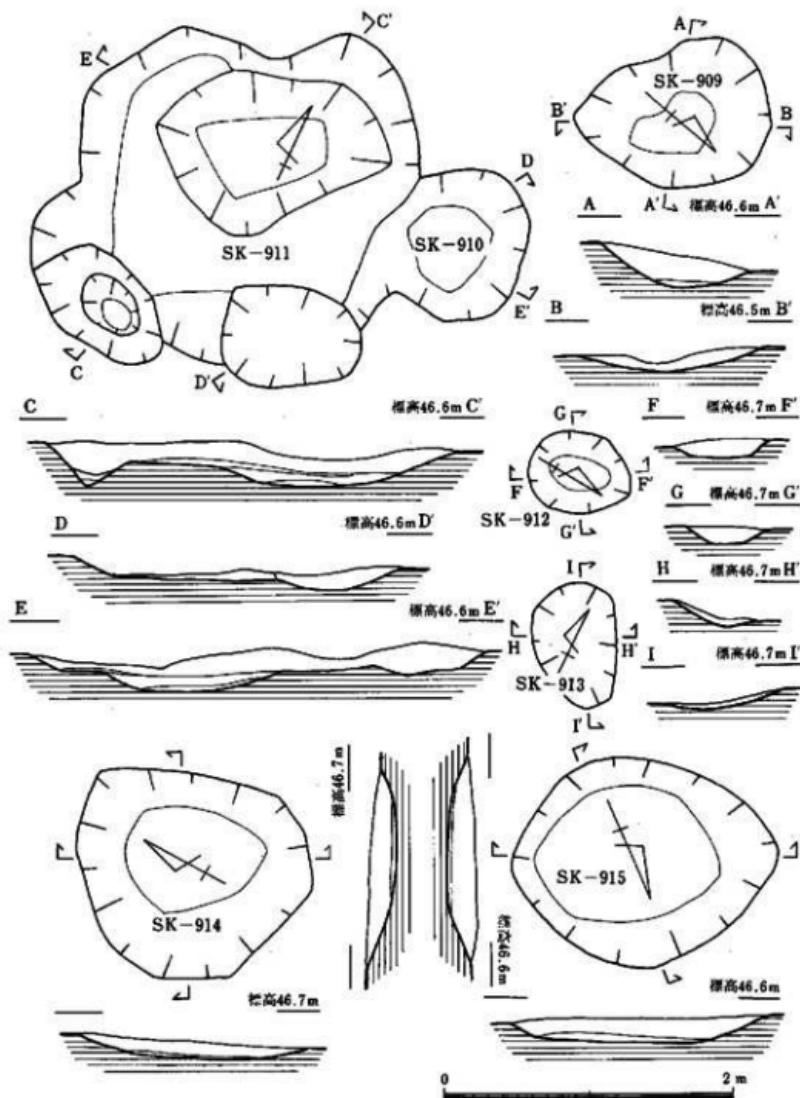


Fig. 247 第909~915号土壤(SK-909~915)実測図

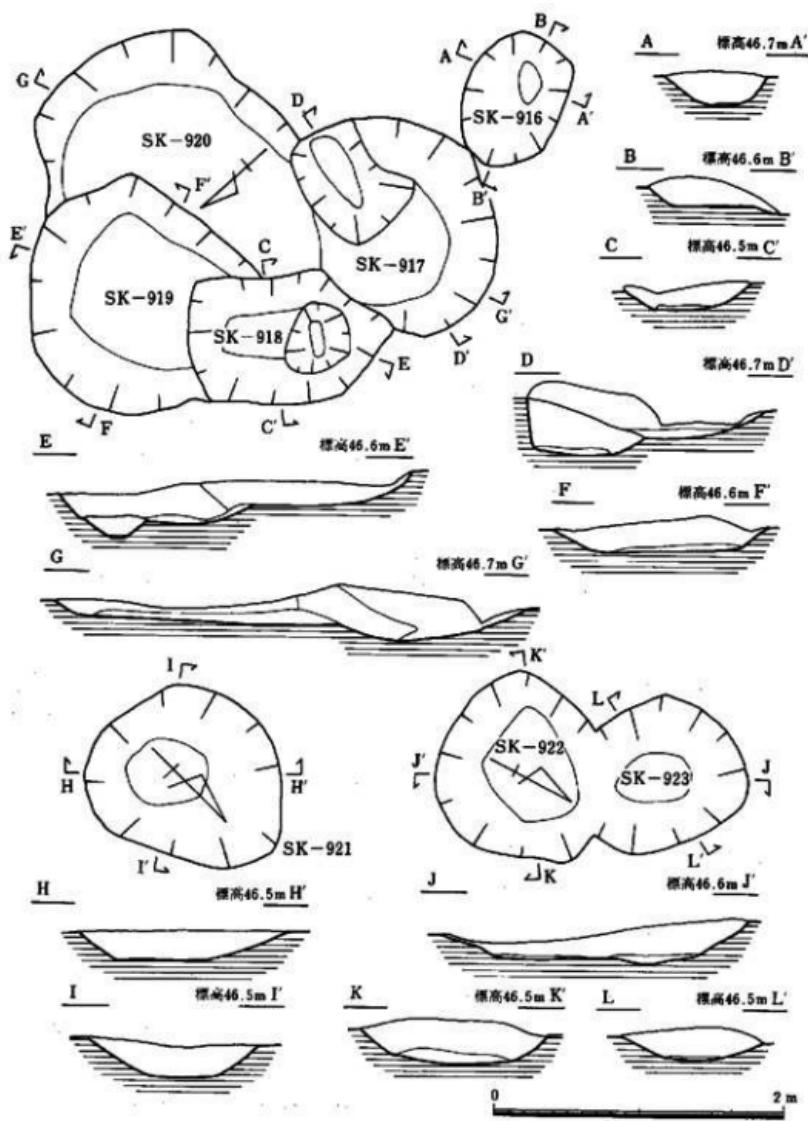


Fig. 248 第916~923号土壙(SK-916~923)実測図

5. 土壠状達構

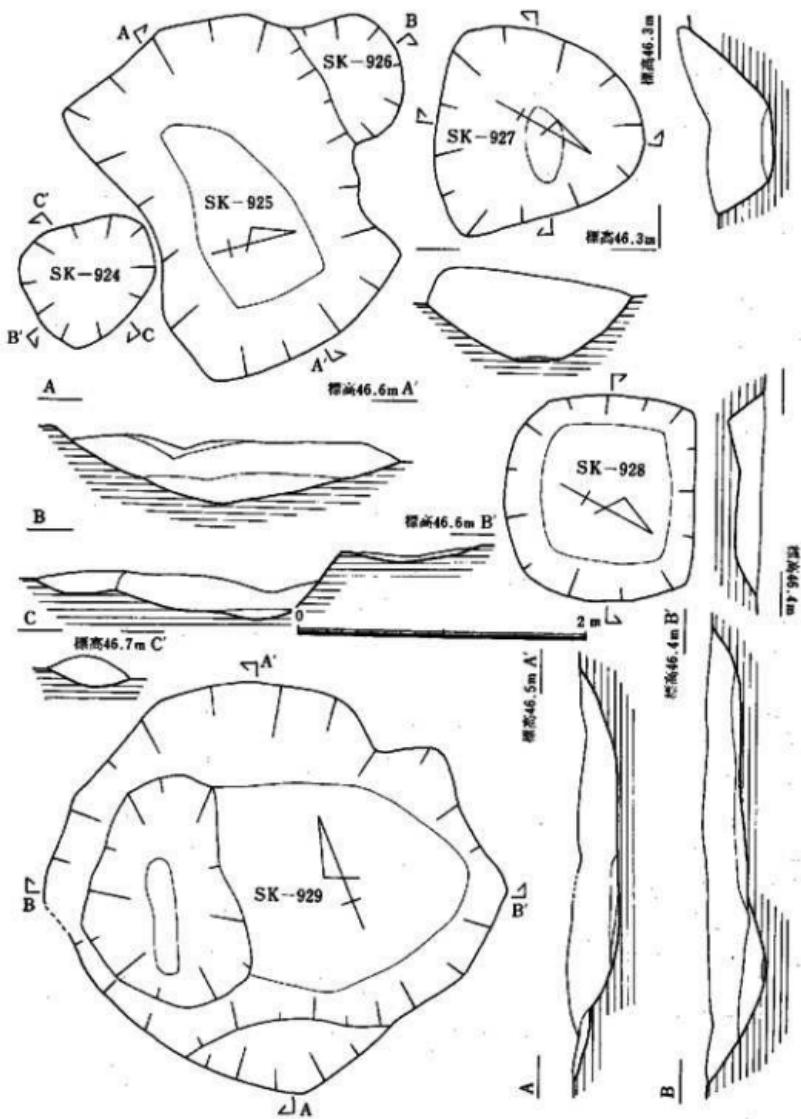


Fig. 249 第924~929号土壤(SK-924~929)実測図

第8章 K進跡の記録

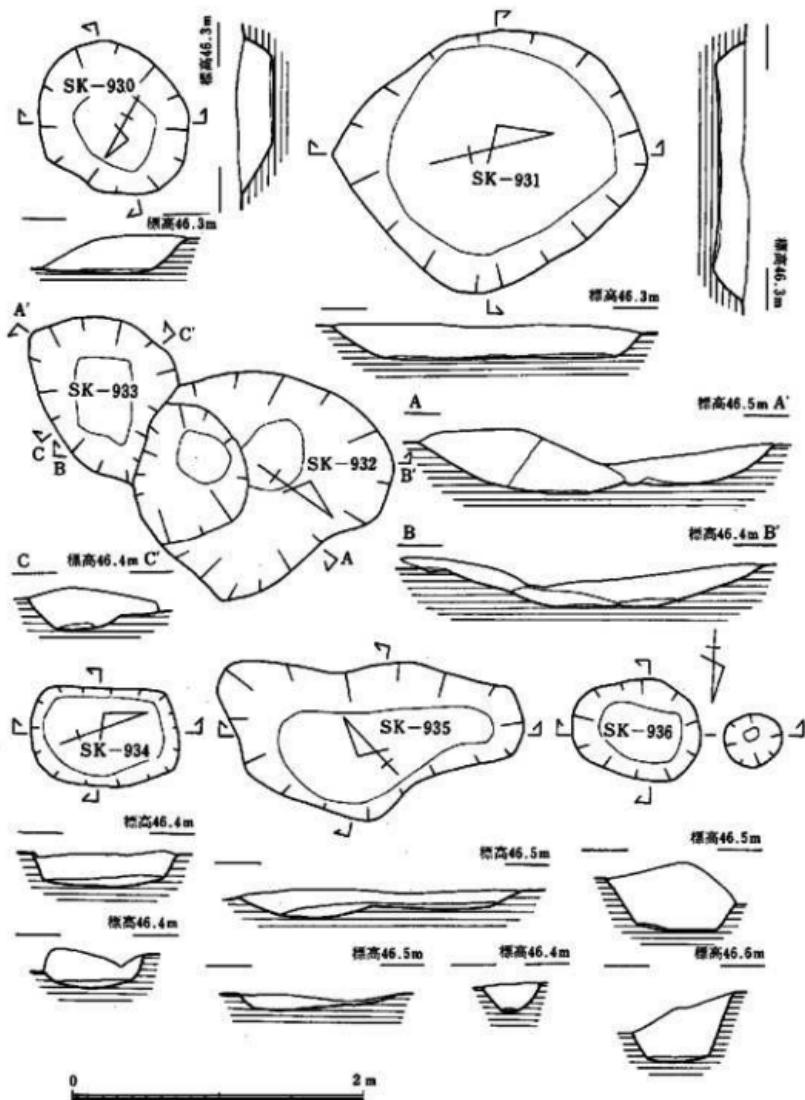


Fig. 250 第930～936号土壤(SK-930～936)実測図

5. 土壤状遺構

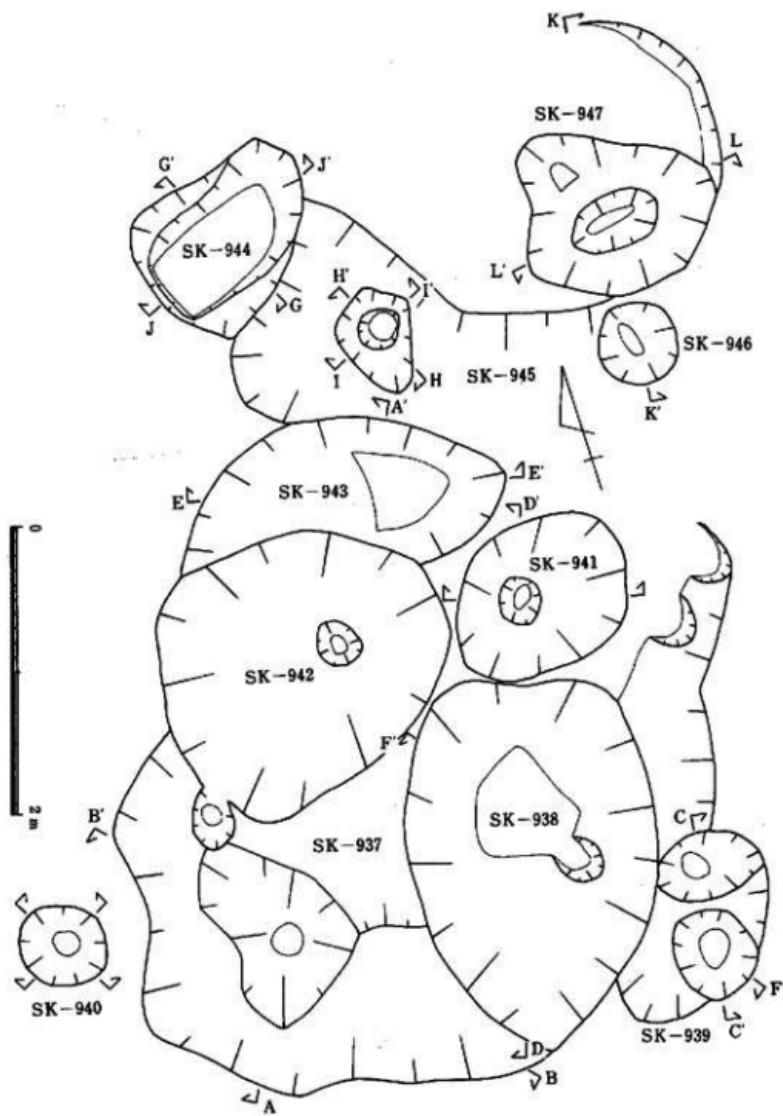


Fig. 251 第937~947号土壤(SK-937~947)実測図 I

第8章 K遺跡の記録

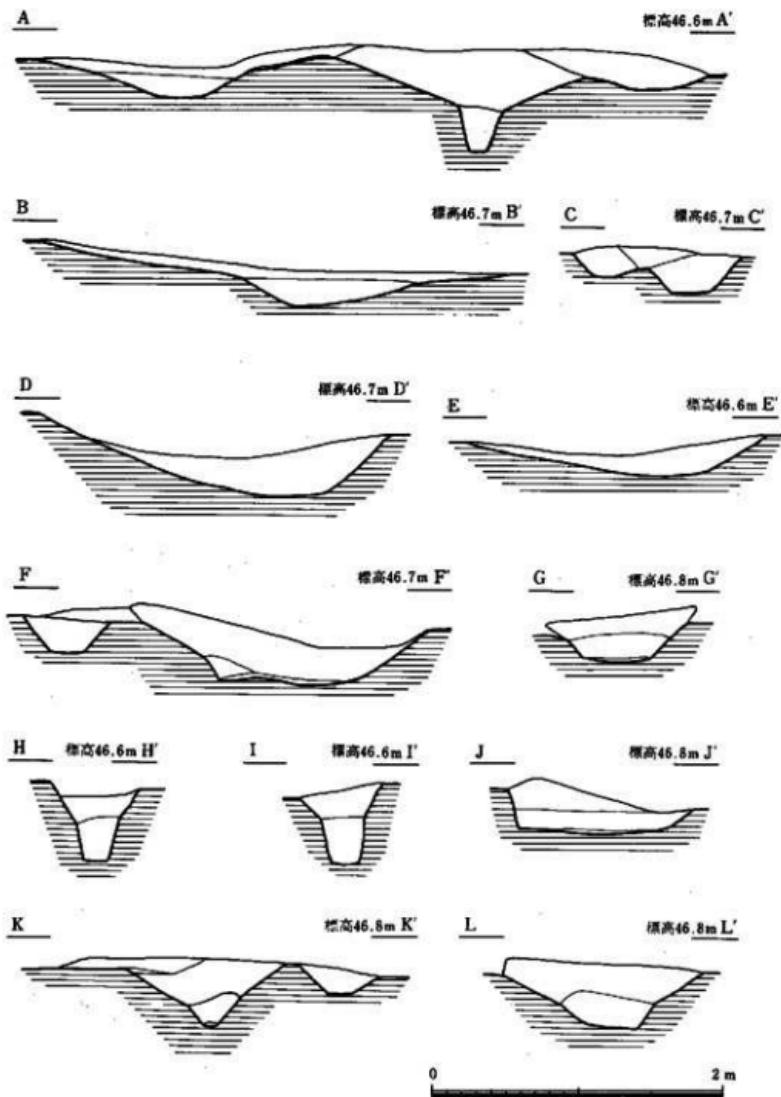


Fig. 252 第937~947号土壤(SK-937~947)実測図II

5. 土壤状況圖

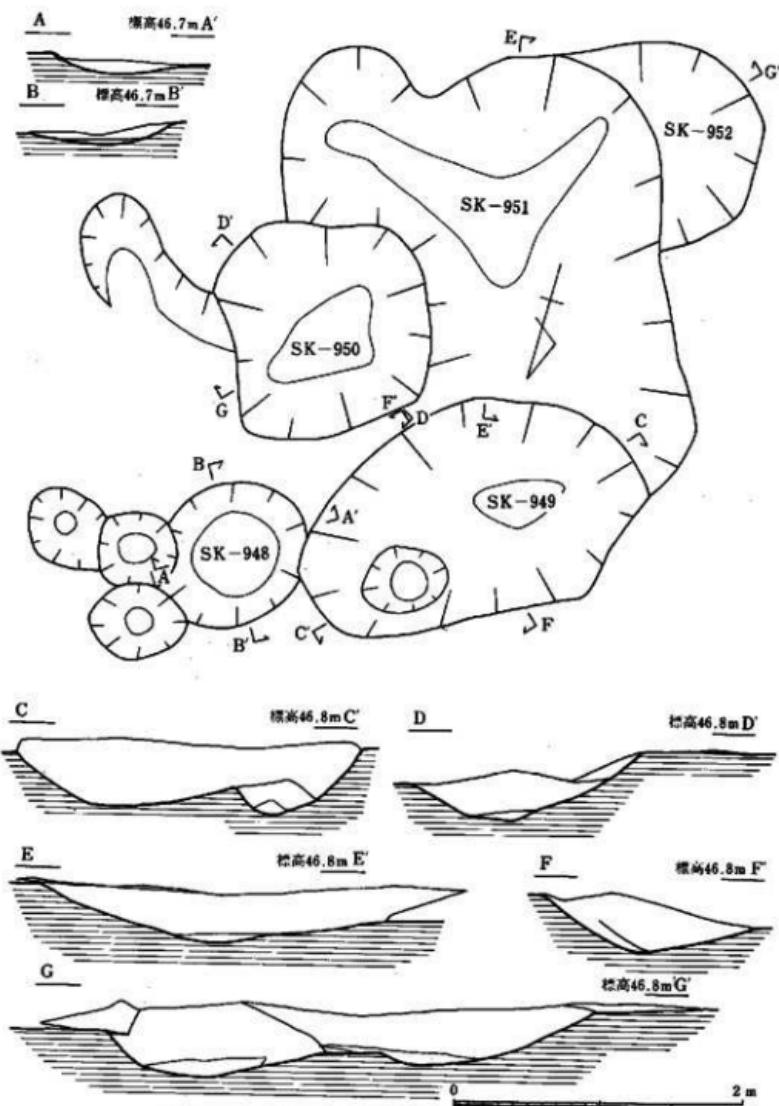


Fig. 253 第948~952号土壤(SK-948~952)実測図

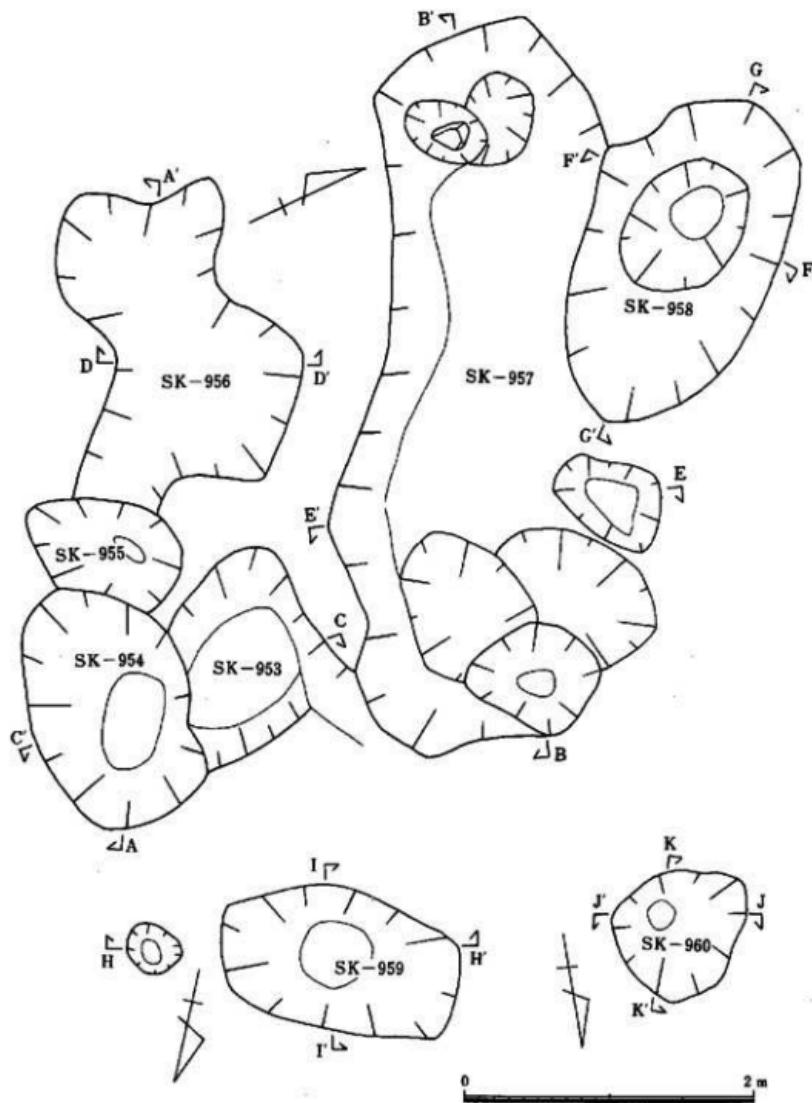


Fig. 254 第953~960号土壤(SK-953~960)実測図 I

5. 土壌状圖構

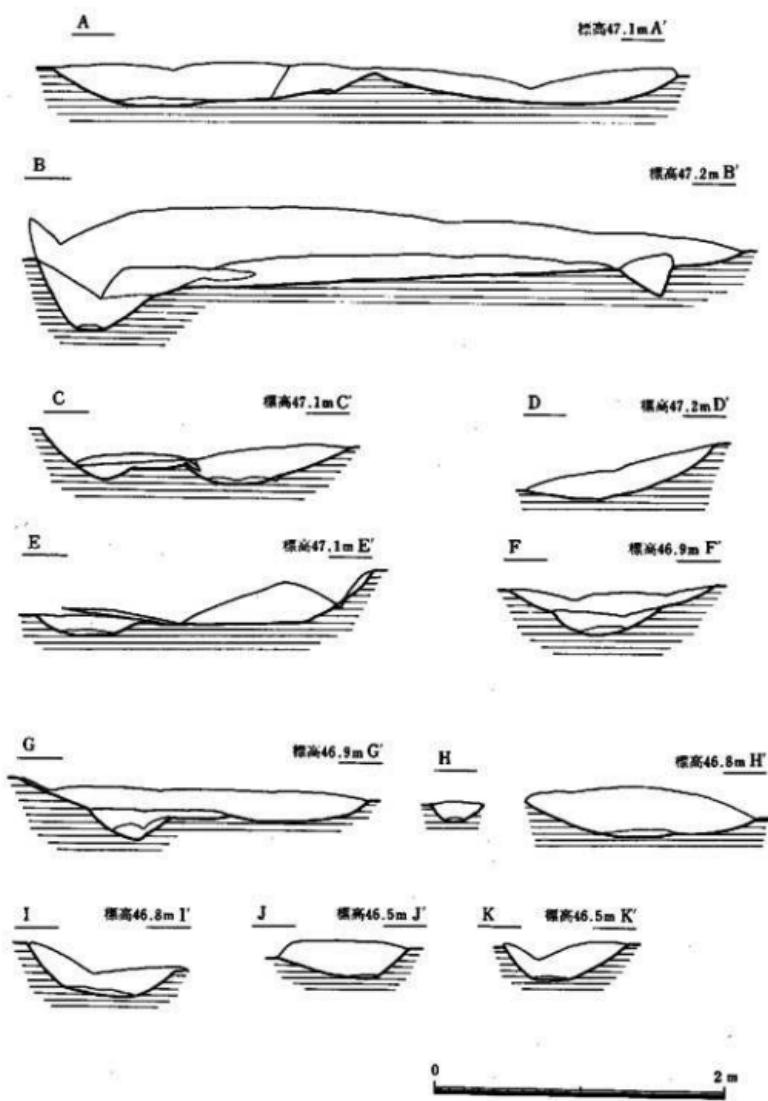


Fig. 255 第953~960号土壤(SK-953~960)実測図II

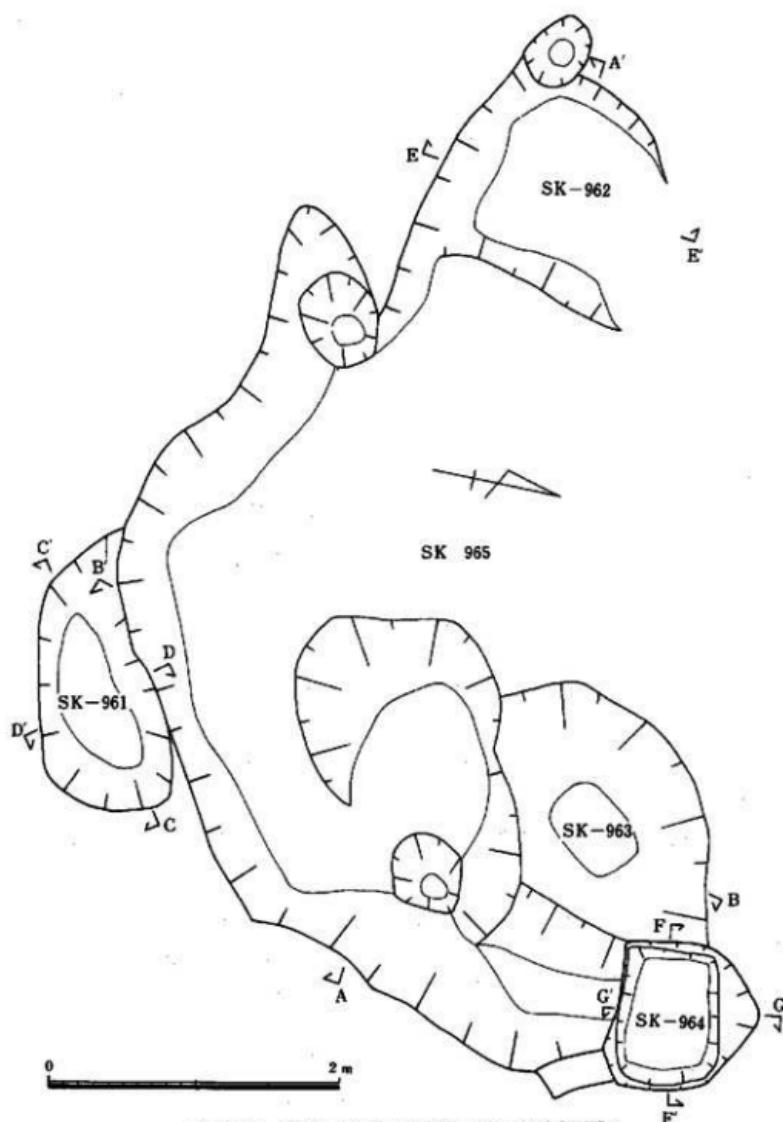


Fig. 256 第961~965号土壤(SK-961~965)実測図 I

5. 土壤剖面圖

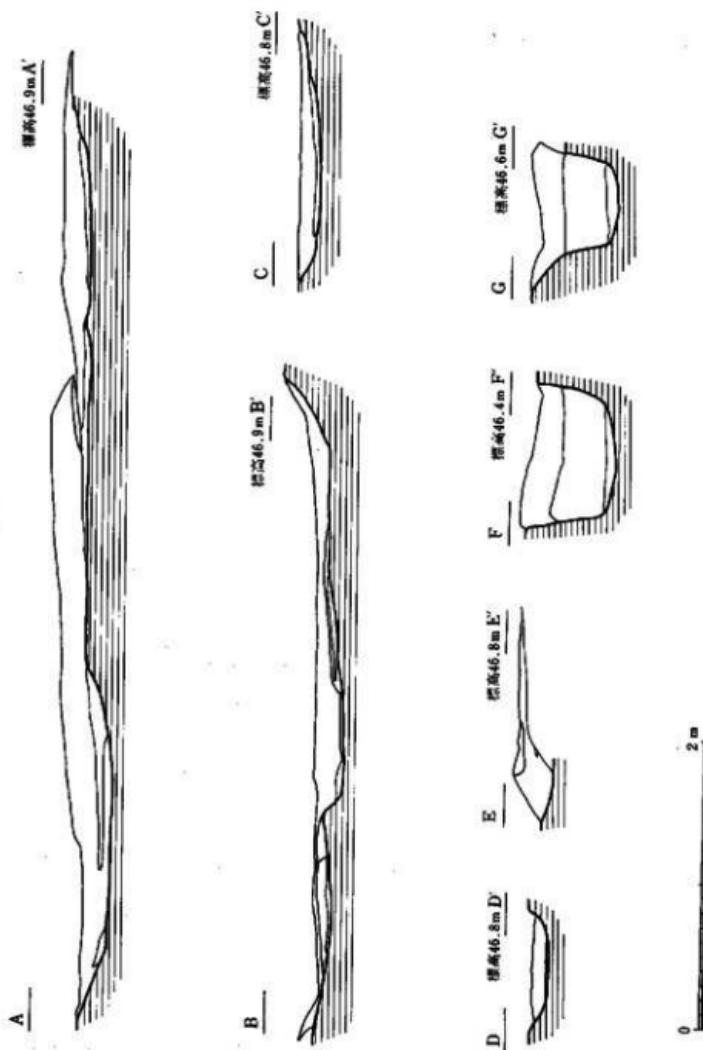


Fig. 257 第961~965号土壤(SK-961~965)实测图 II

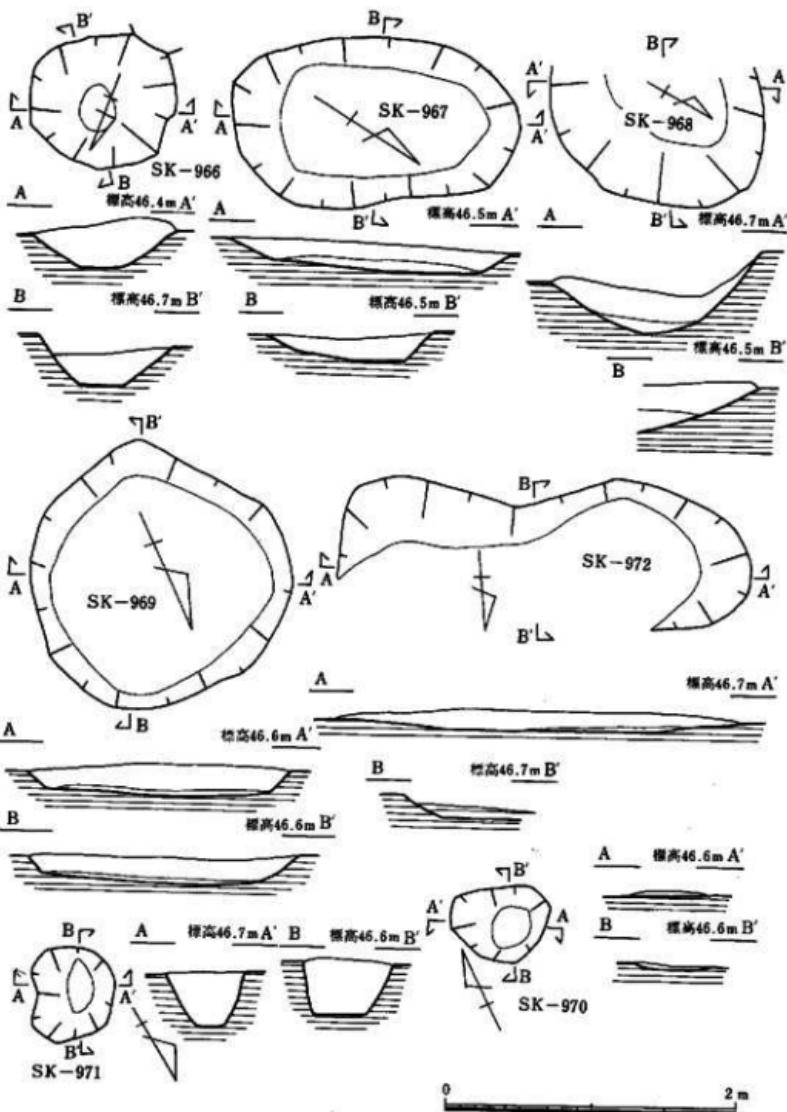


Fig. 258 第966~972号土壤(SK-966~972)実測図

5. 土壤状達構

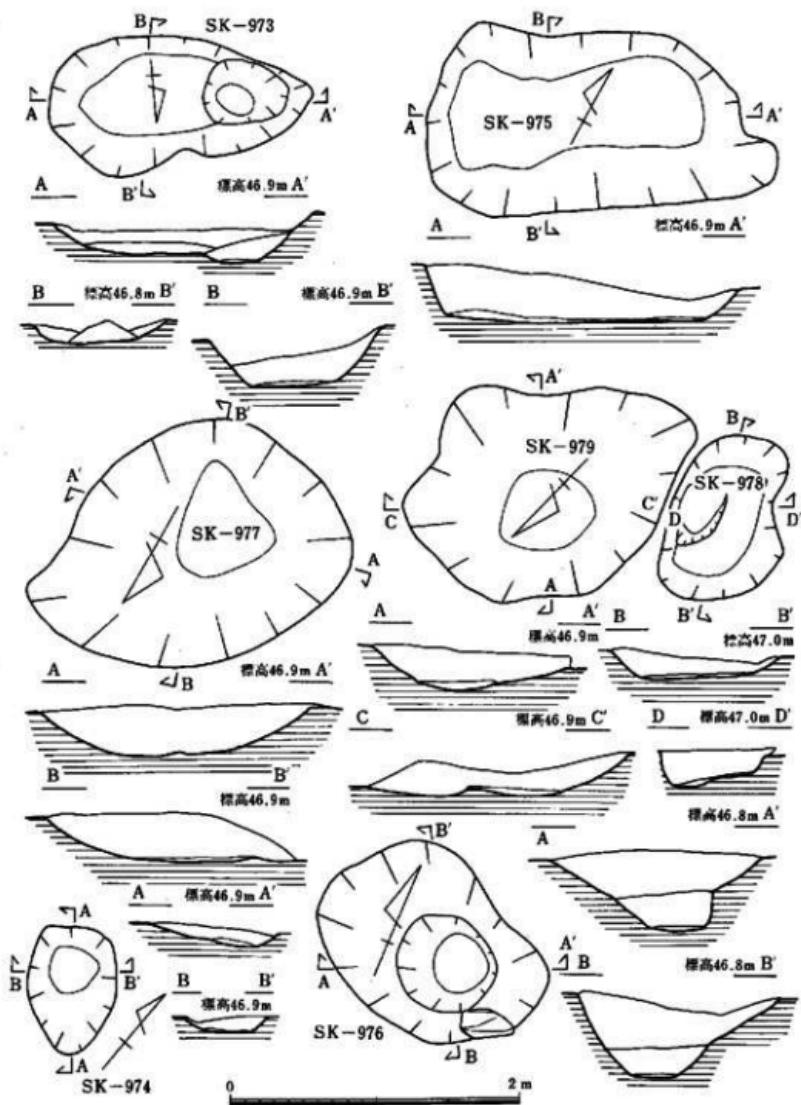


Fig. 259 第973~979号土壤(SK-973~979)実測図

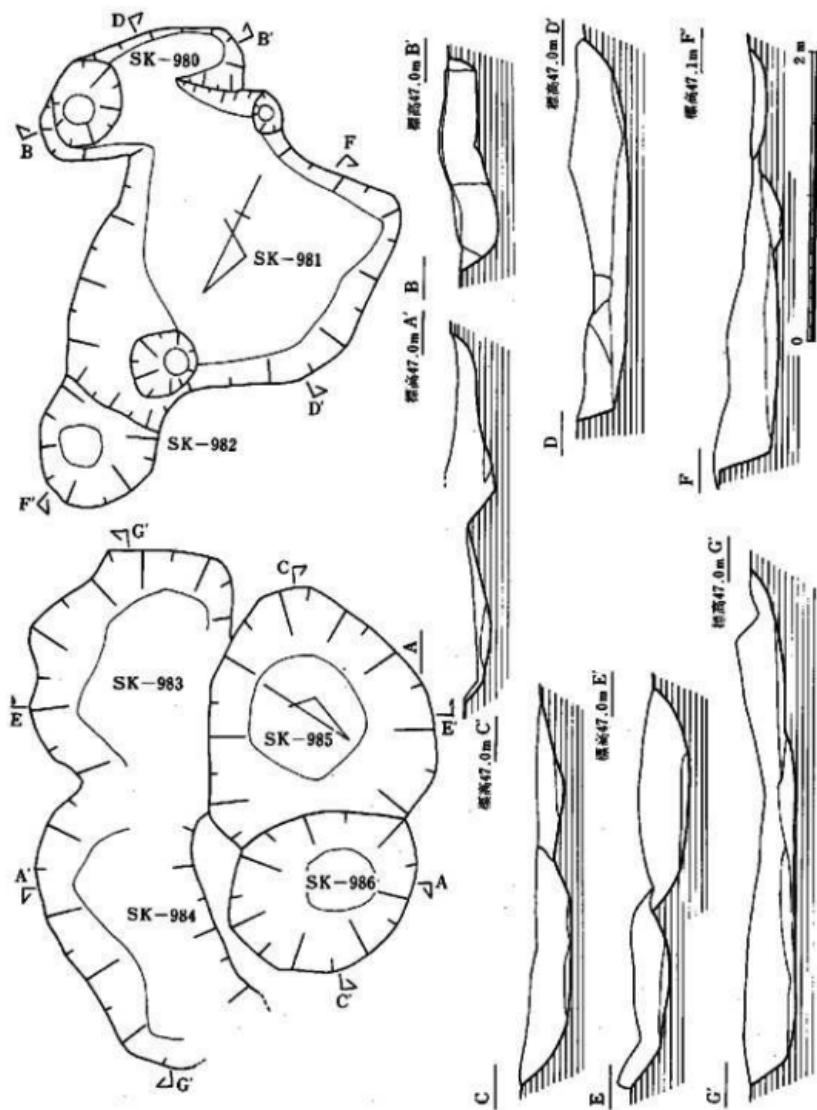


Fig. 260 第980-986号土壤(SK-980-986)実測図

5. 土壌状遺構

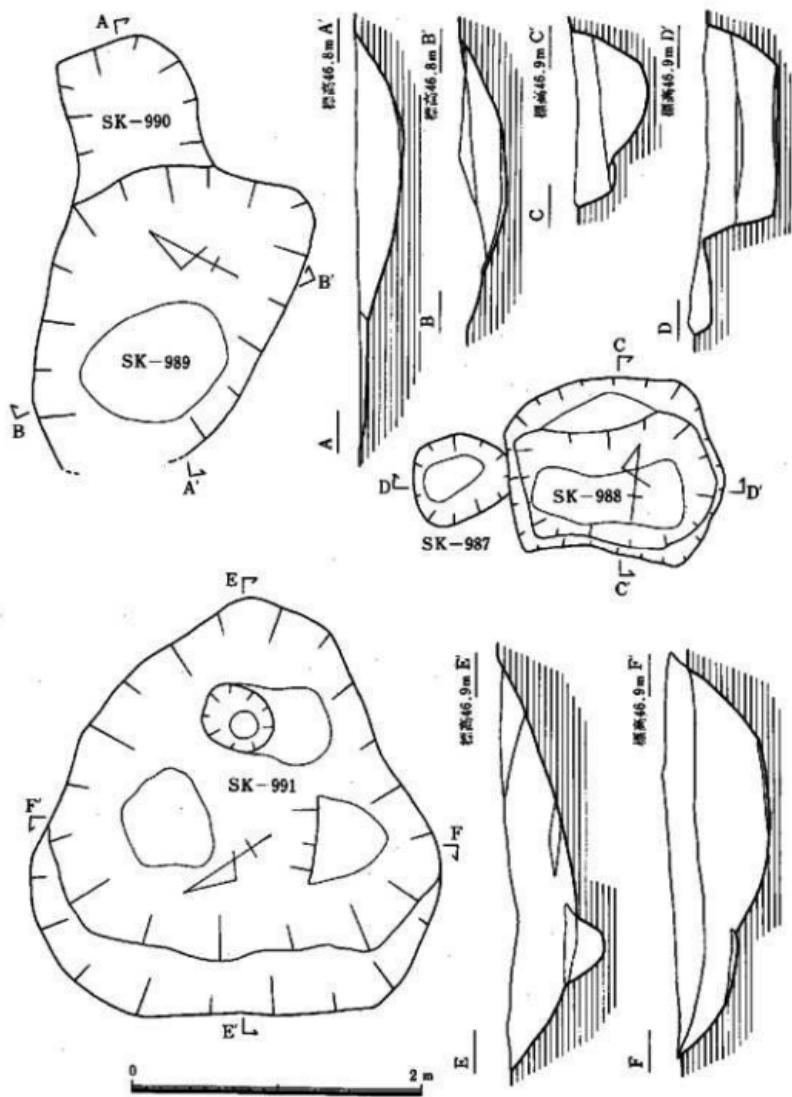


Fig. 261 第987~991号土壤(SK-987~991)実測図

第8章 K遺跡の記録

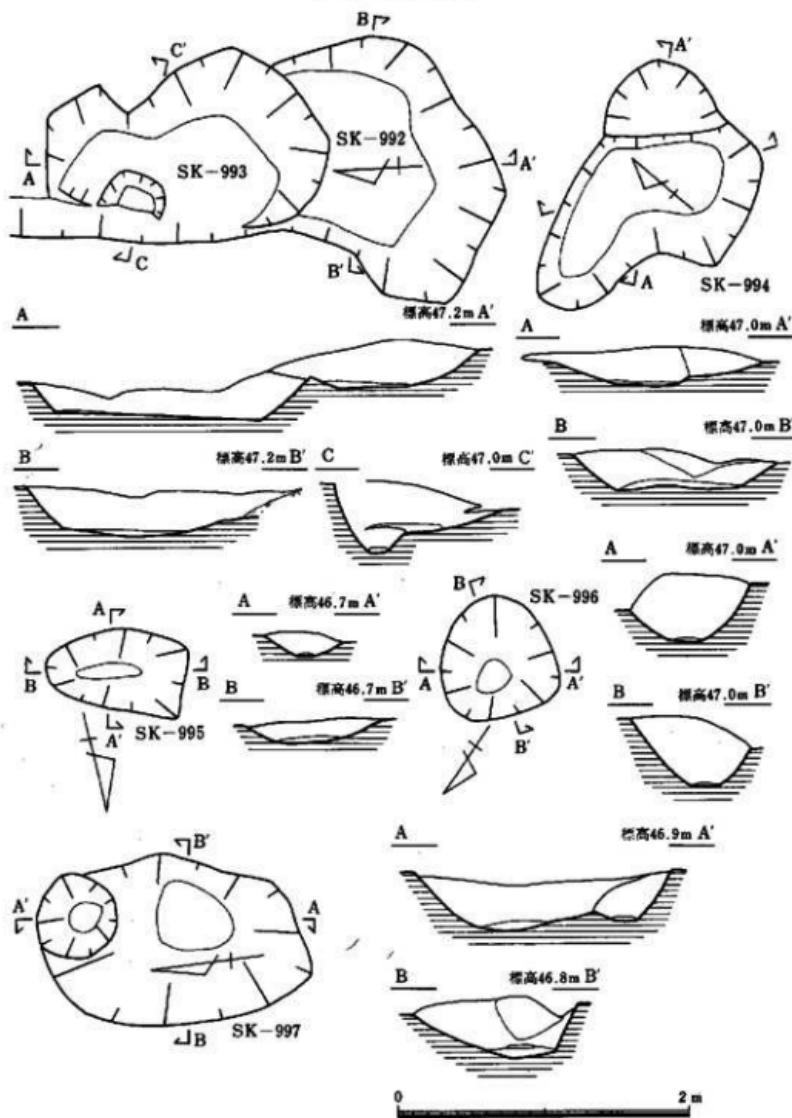


Fig. 262 第992~997号土壌(SK-992~997)実測図

5. 土壠状遺構

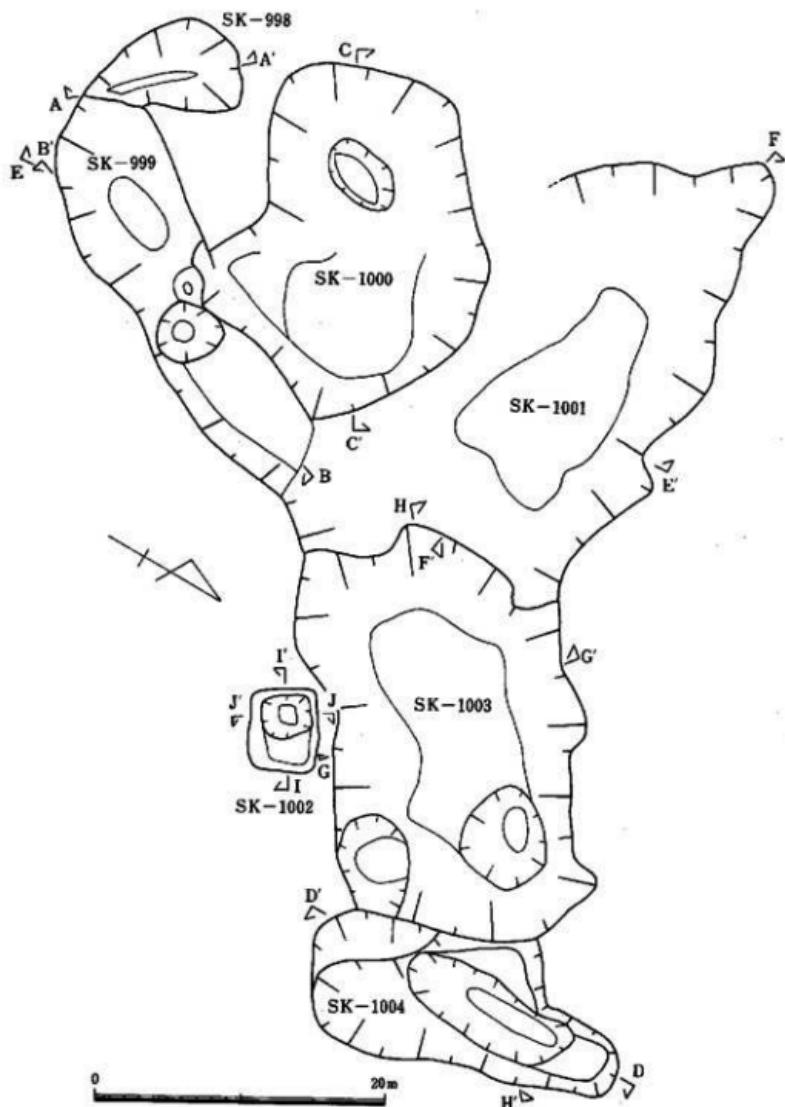


Fig. 263 第998~1004号土壤(SK-998~1004)実測図 I

第8章 K道路の記録

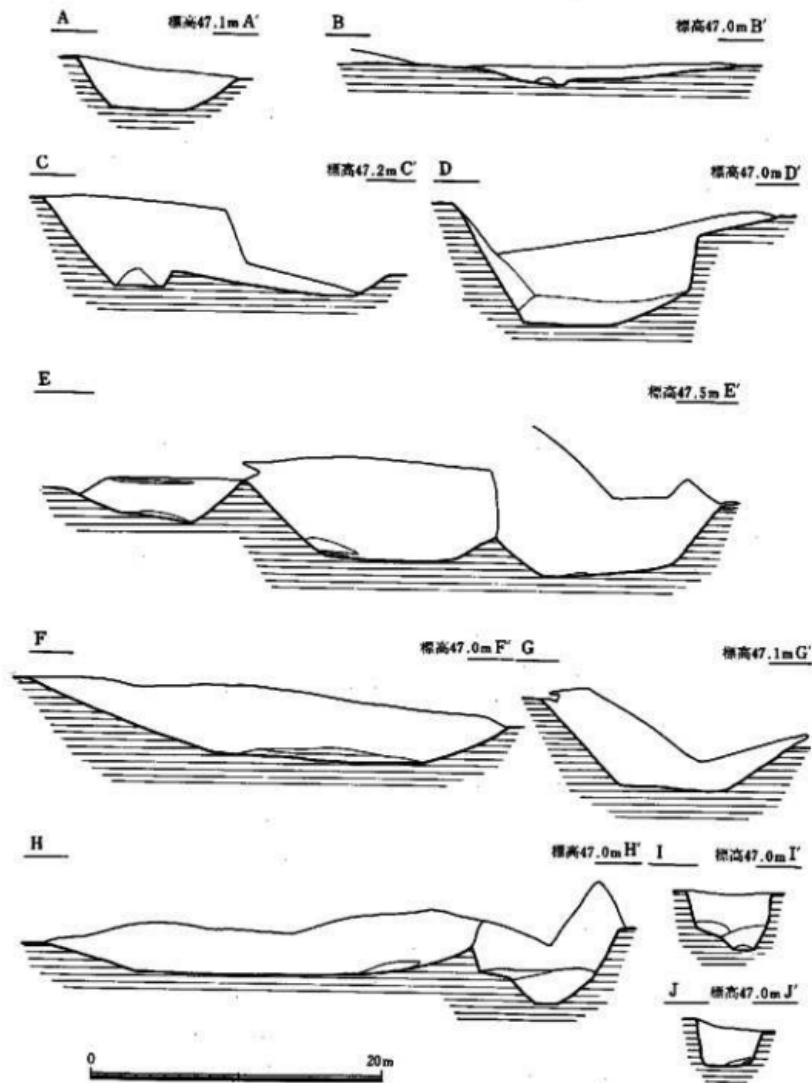


Fig. 264 第998~1004号土壤(SK-998~1004)実測図 II

5. 土壠状遺構

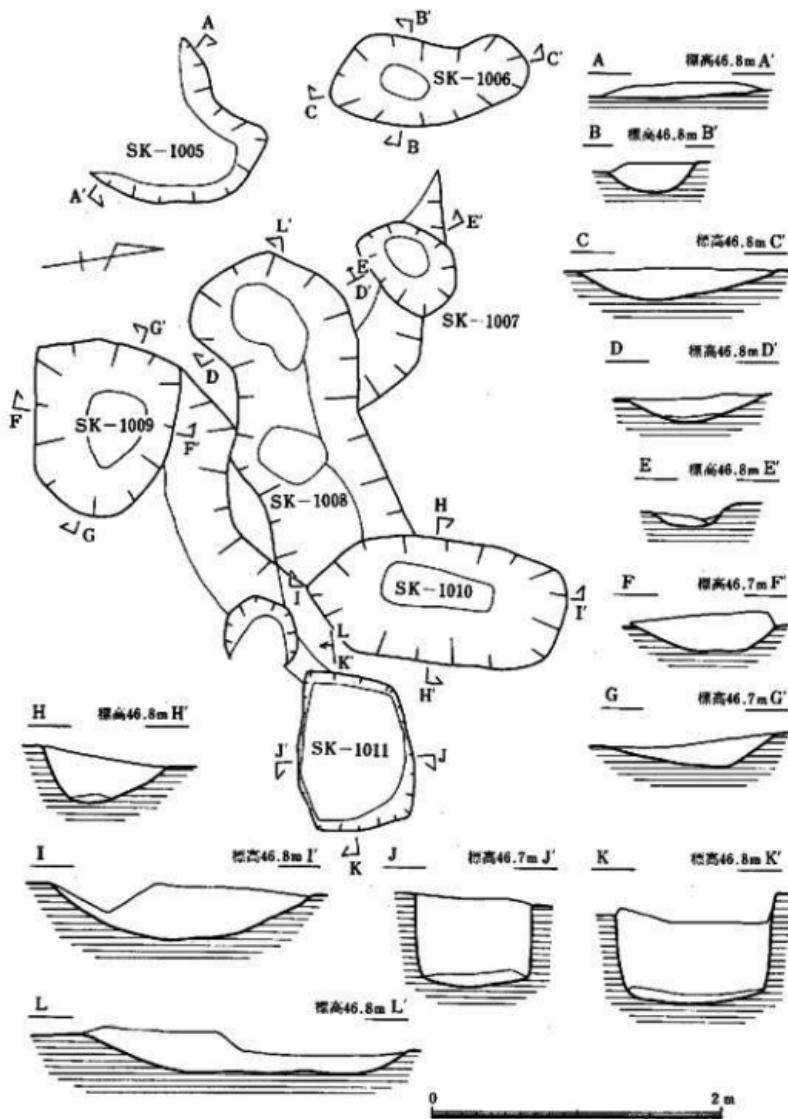


Fig. 265 第1005~1011号土壤(SK-1005~1011)実測図

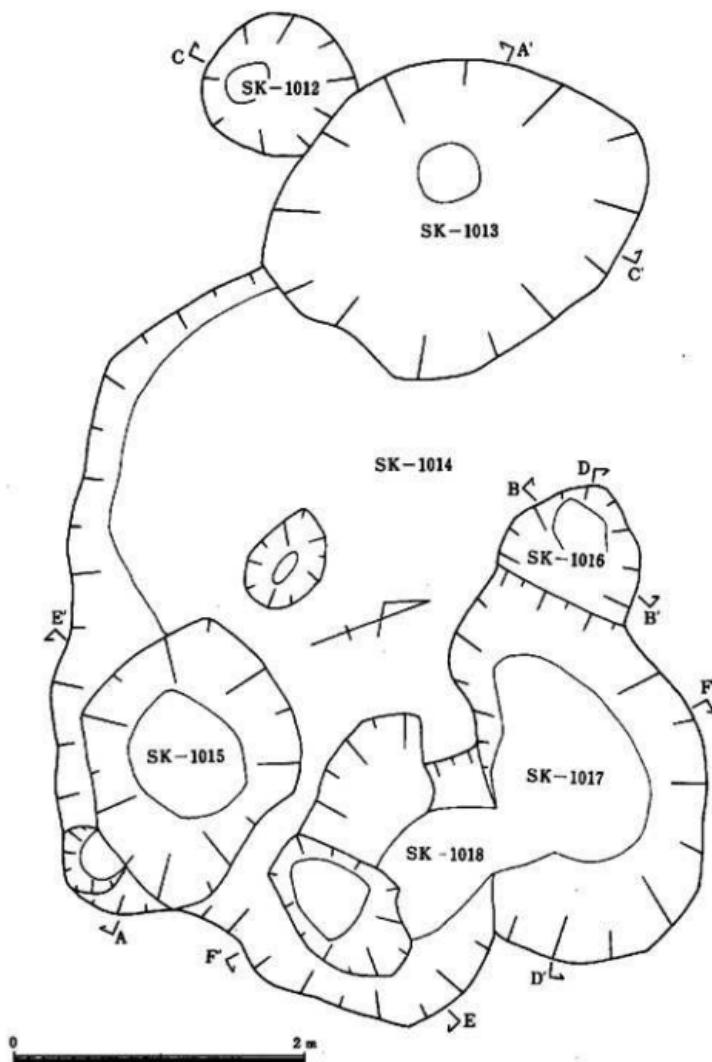


Fig. 266 第1012~1018号土壤(SK-1012~1018)実測図 I

5. 土壠状遺構

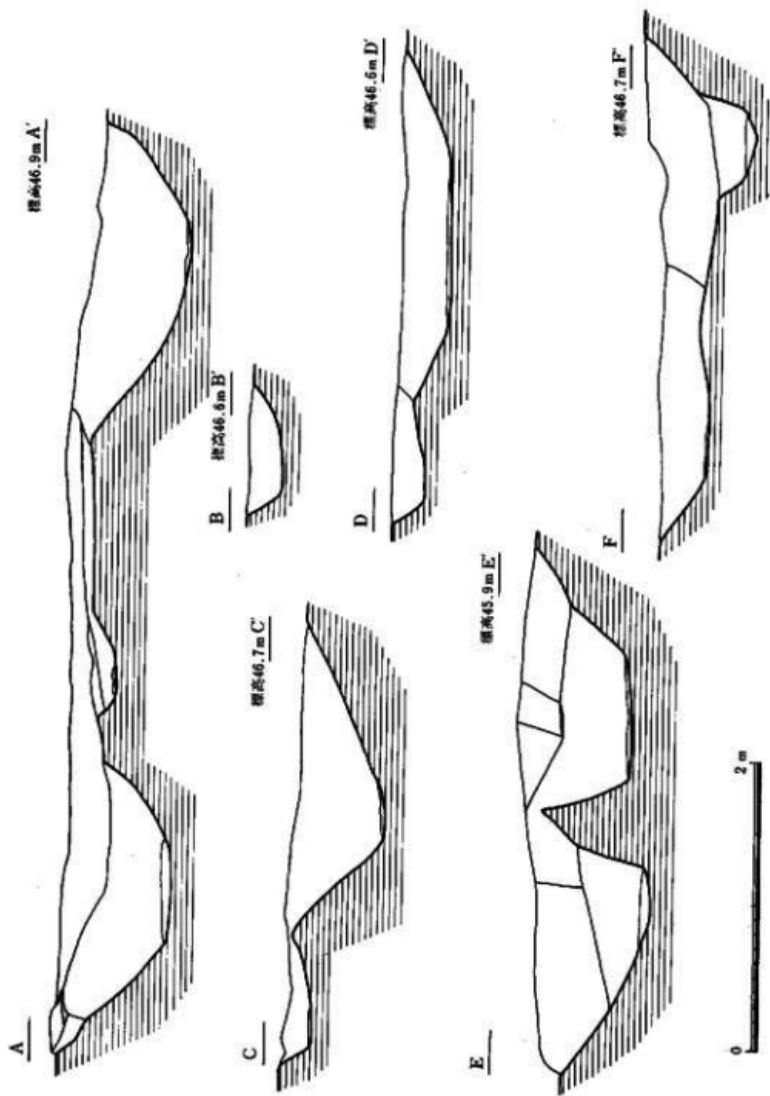


Fig. 267 第1012—1018号土壤(SK-1012-1018)実測図 II

第8章 K遺跡の記録

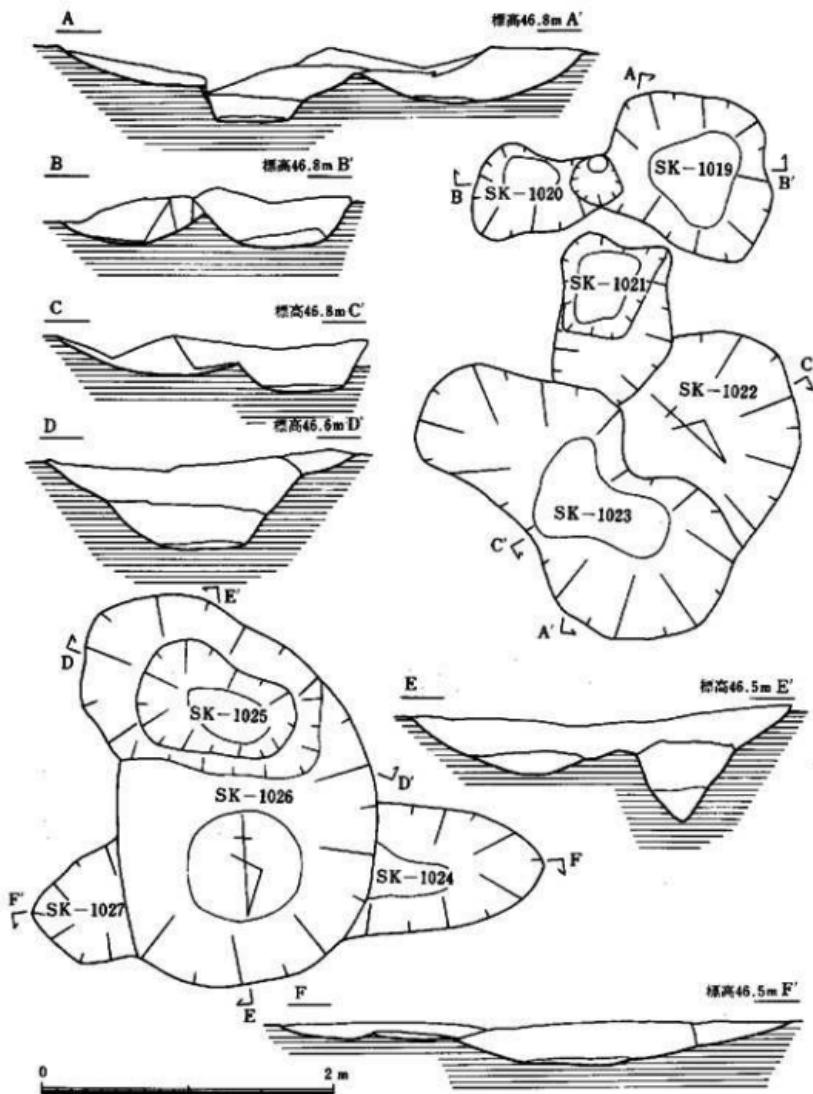


Fig. 268 第1019～1027号土壙(SK-1019～1027)実測図

5. 土壌状造構

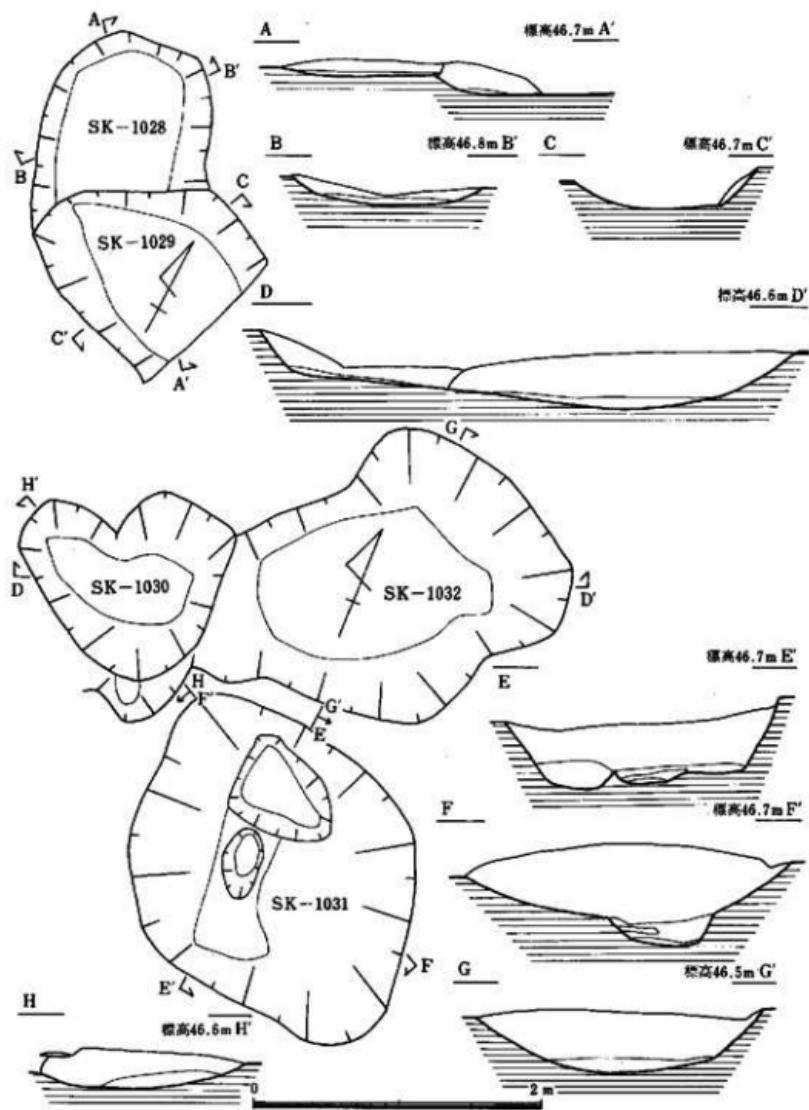


Fig. 269 第1028~1032号土壤(SK-1028~1032)実測図

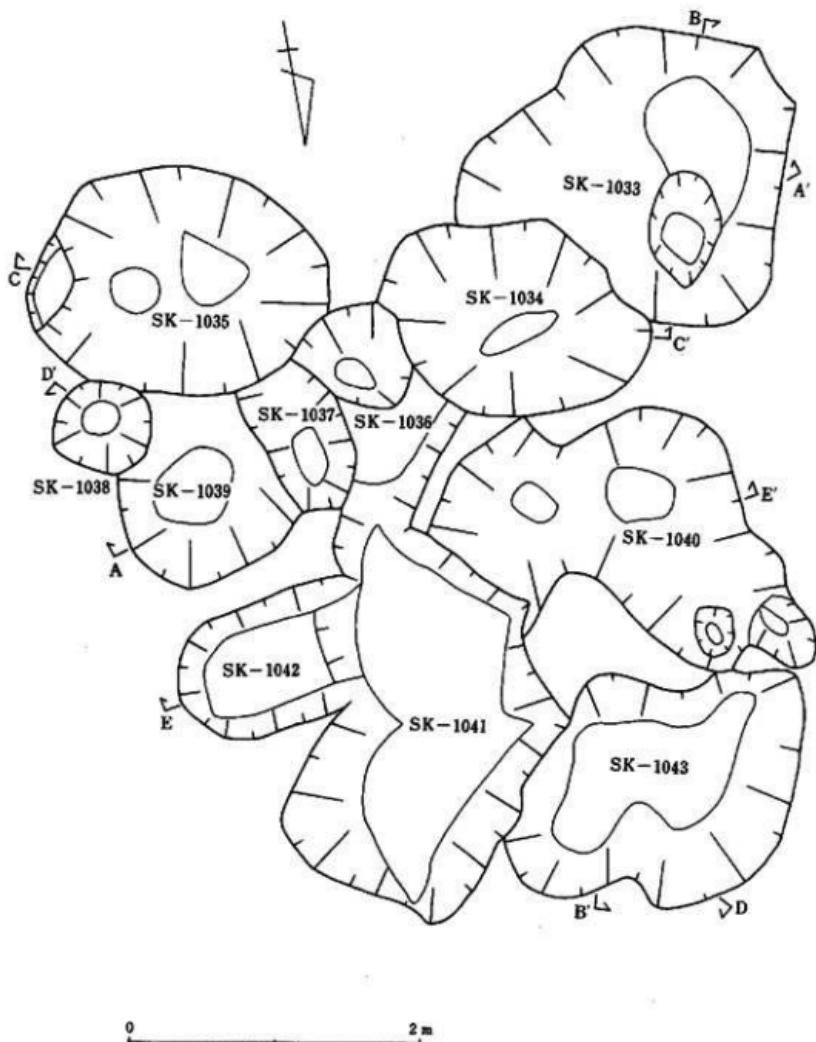


Fig. 270 第1033~1043号土壌(SK-1033~1043)実測図 I

5. 土壌状造構

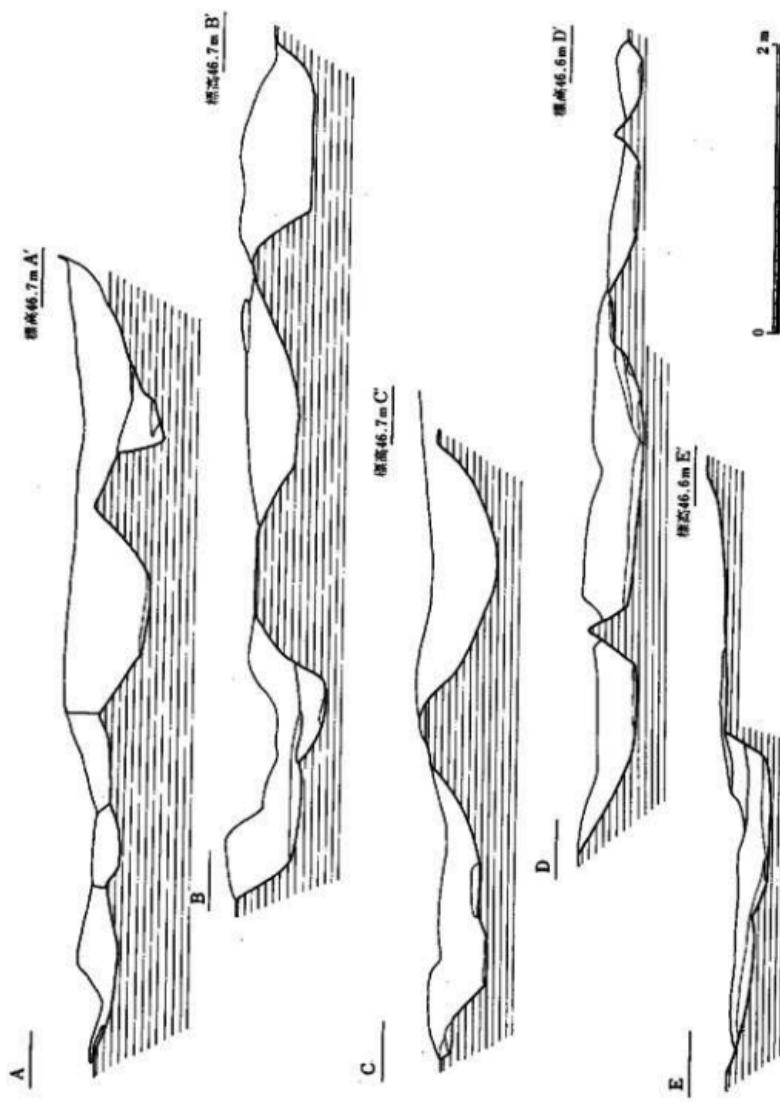


Fig. 271 第1033~1043号土壤(SK-1033~1043)実測図 II

第8章 K遺跡の記録

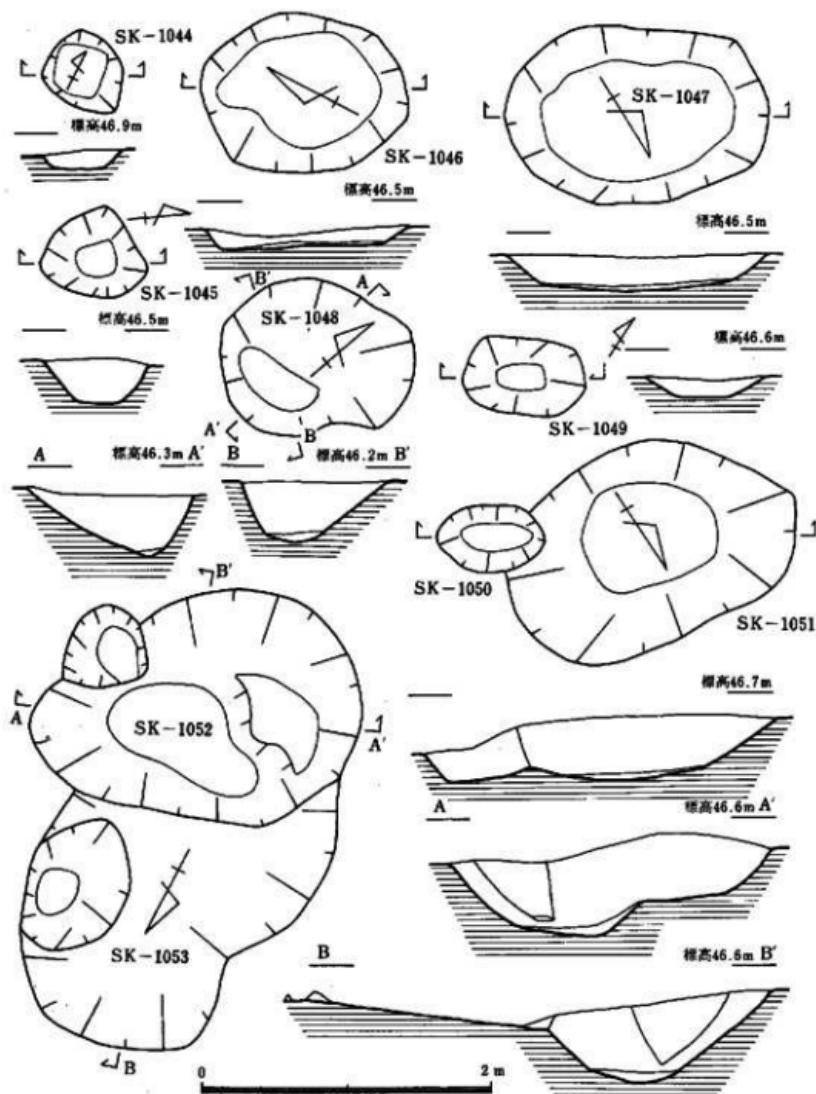


Fig. 272 第1044～1053号土壤(SK-1044～1053)実測図

5. 土壌状況図

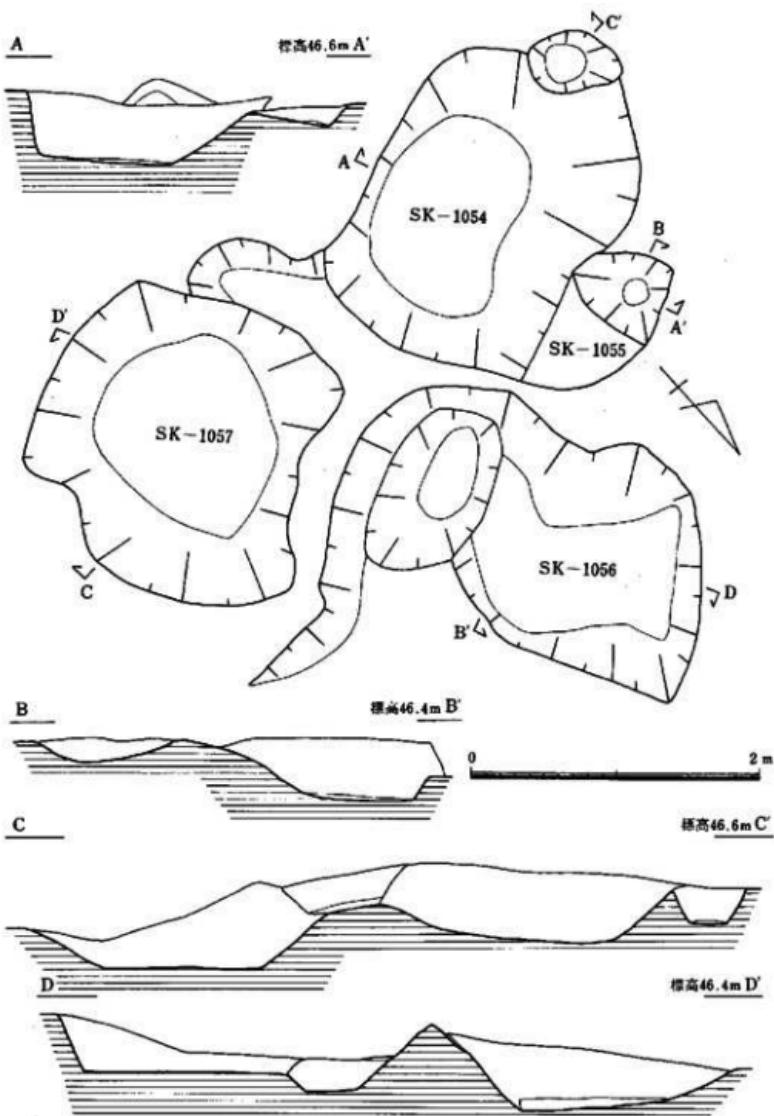


Fig. 273 第1054~1057号土壤(SK-1054~1057)実測図

第8章 K遺跡の記録

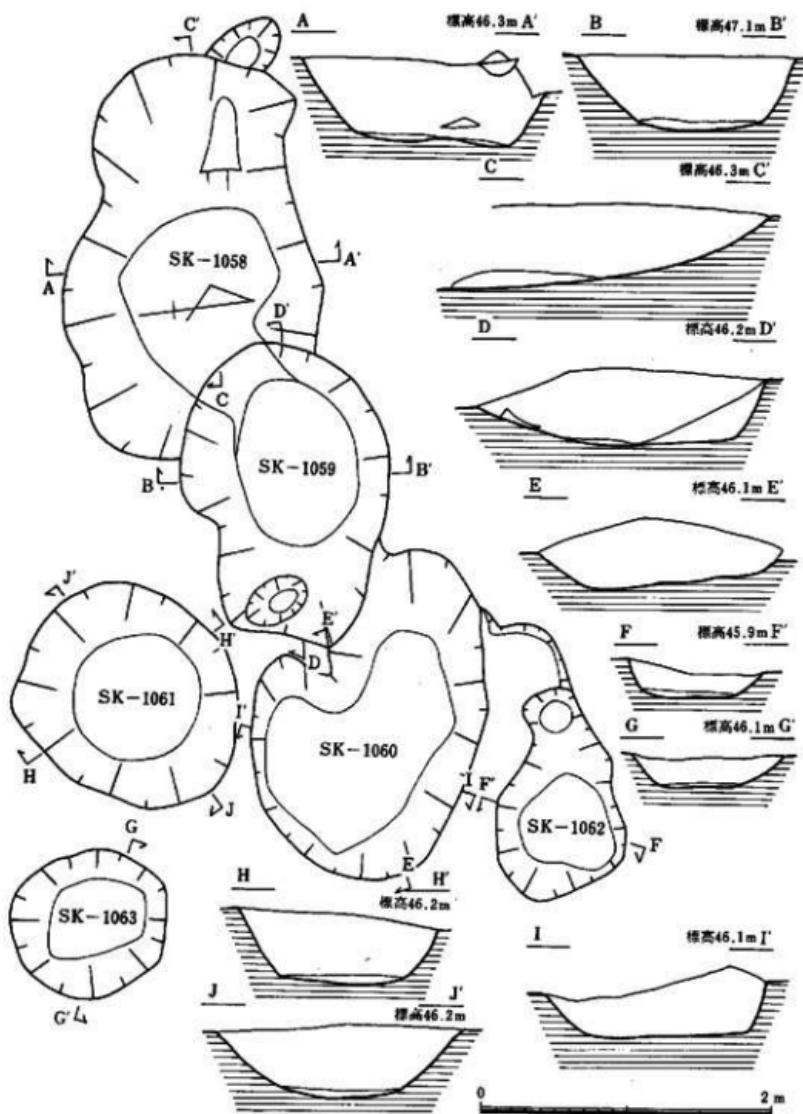


Fig. 274 第1058~1063号土壙(SK-1058~1063)実測図

5. 土塘状遺構

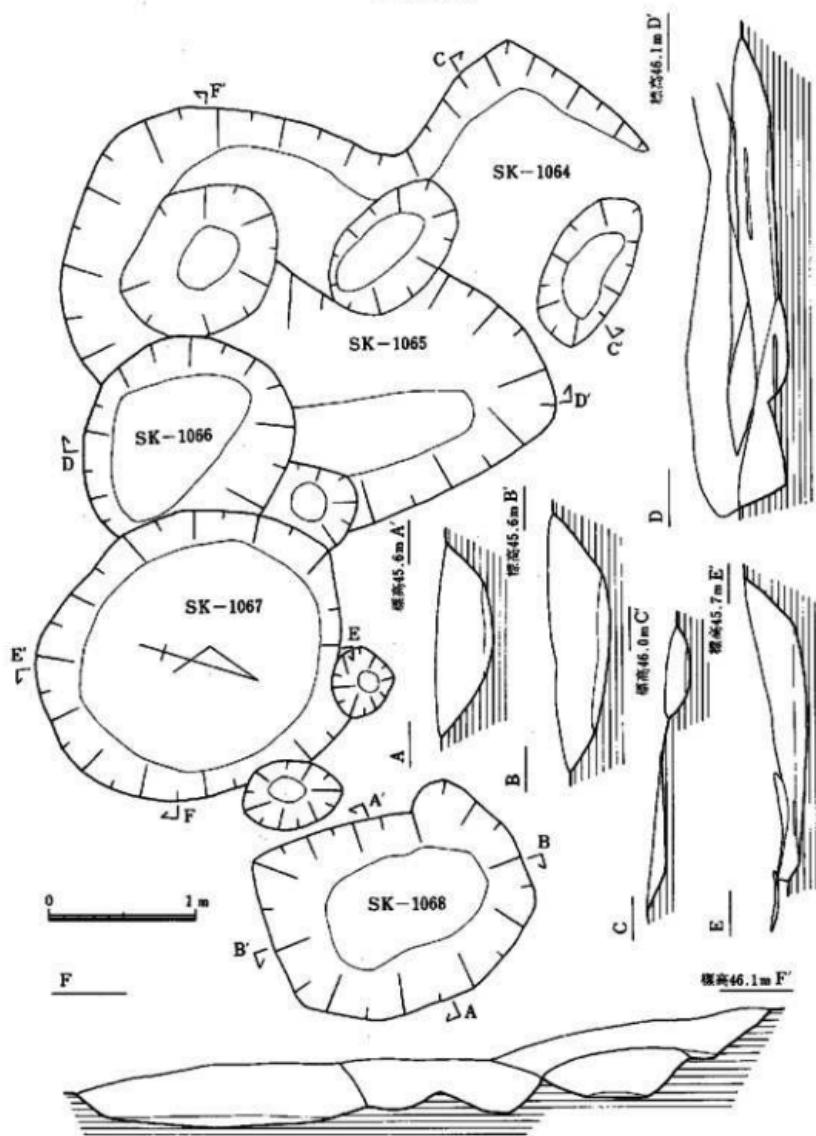


Fig. 275 第1064~1068号土壤(SK-1064~1068)実測図

第8章 K遺跡の記録

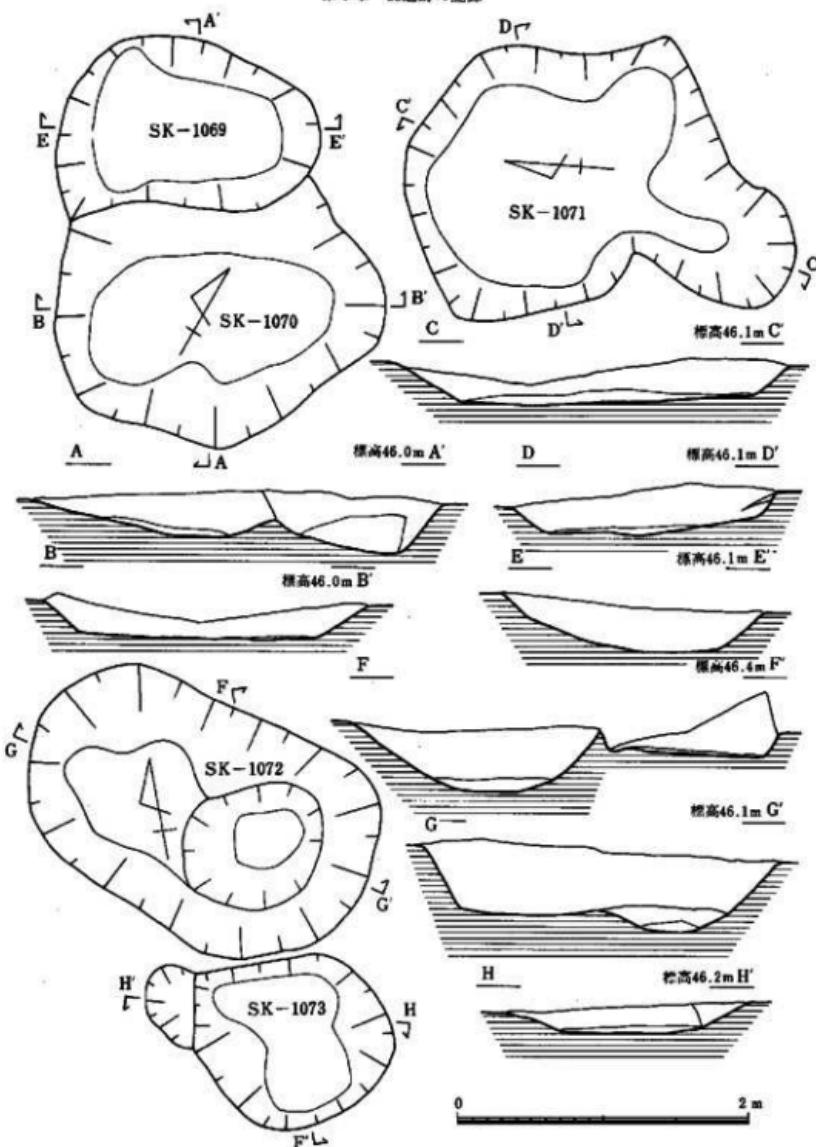


Fig. 276 第1069~1073号土壠(SK-1069~1073)実測図

5. 土壌状遺構

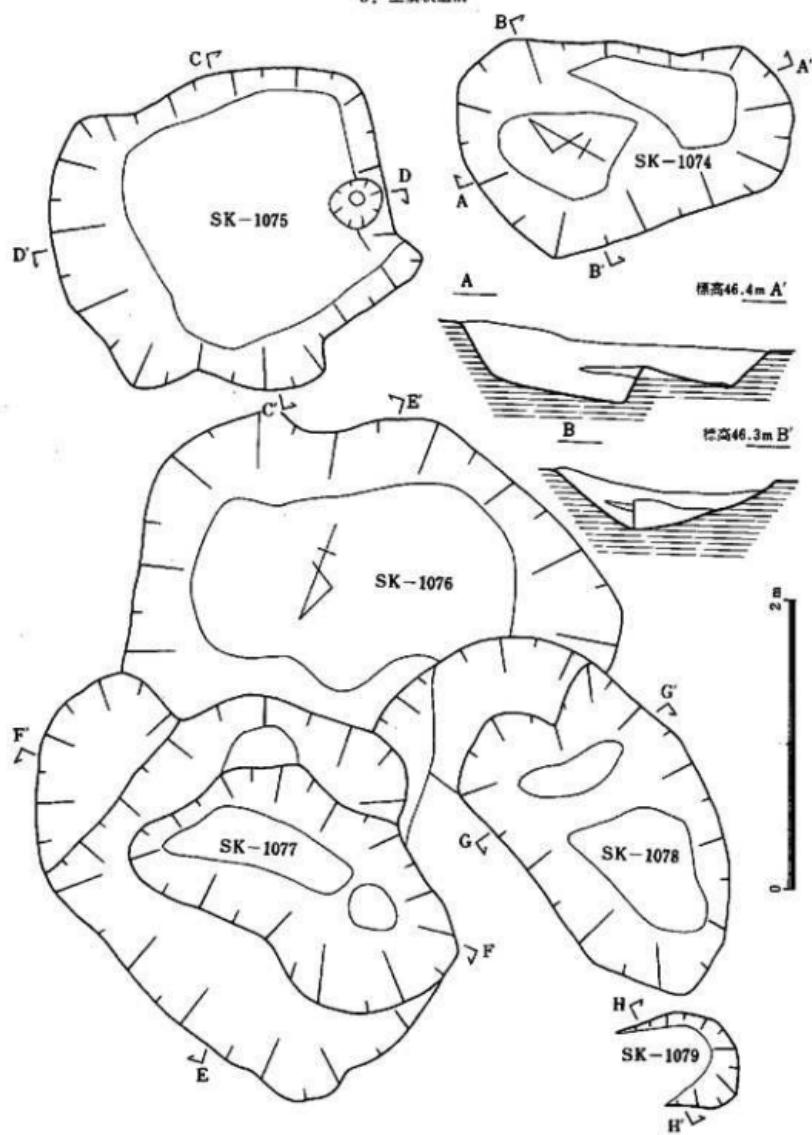


Fig. 277 第1074~1079号土壤(SK-1074~1079)実測図 I

第8章 K遺跡の記録

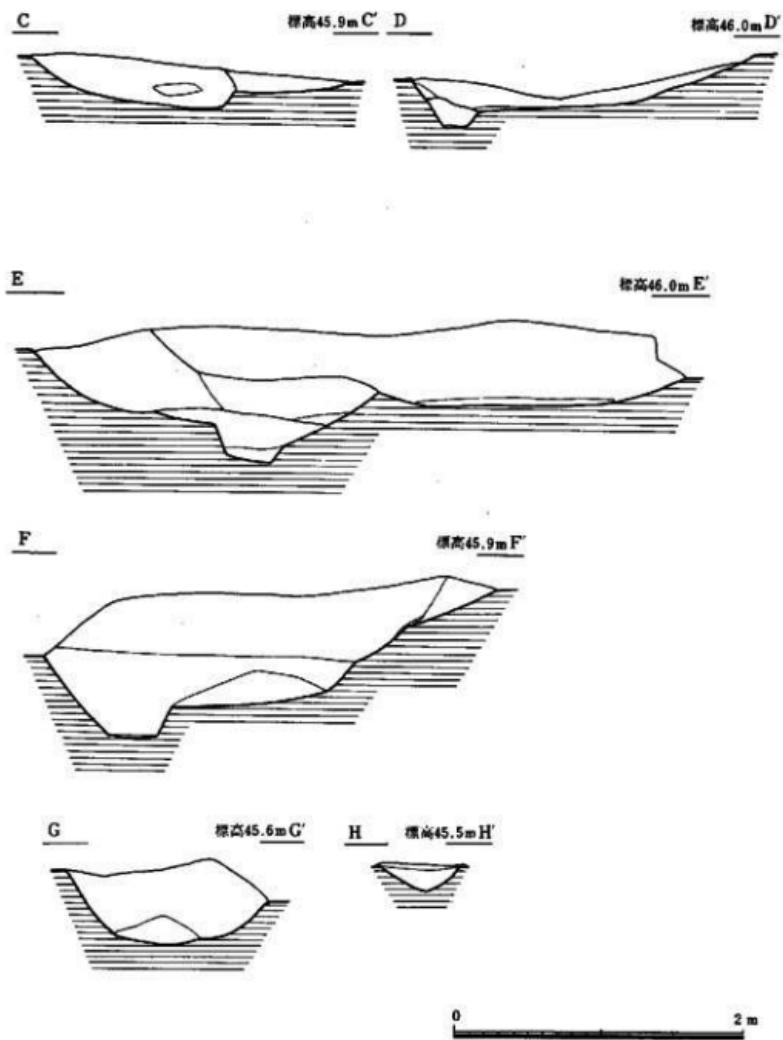


Fig. 278 第1074~1079号土壤(SK-1074~1079)実測図II

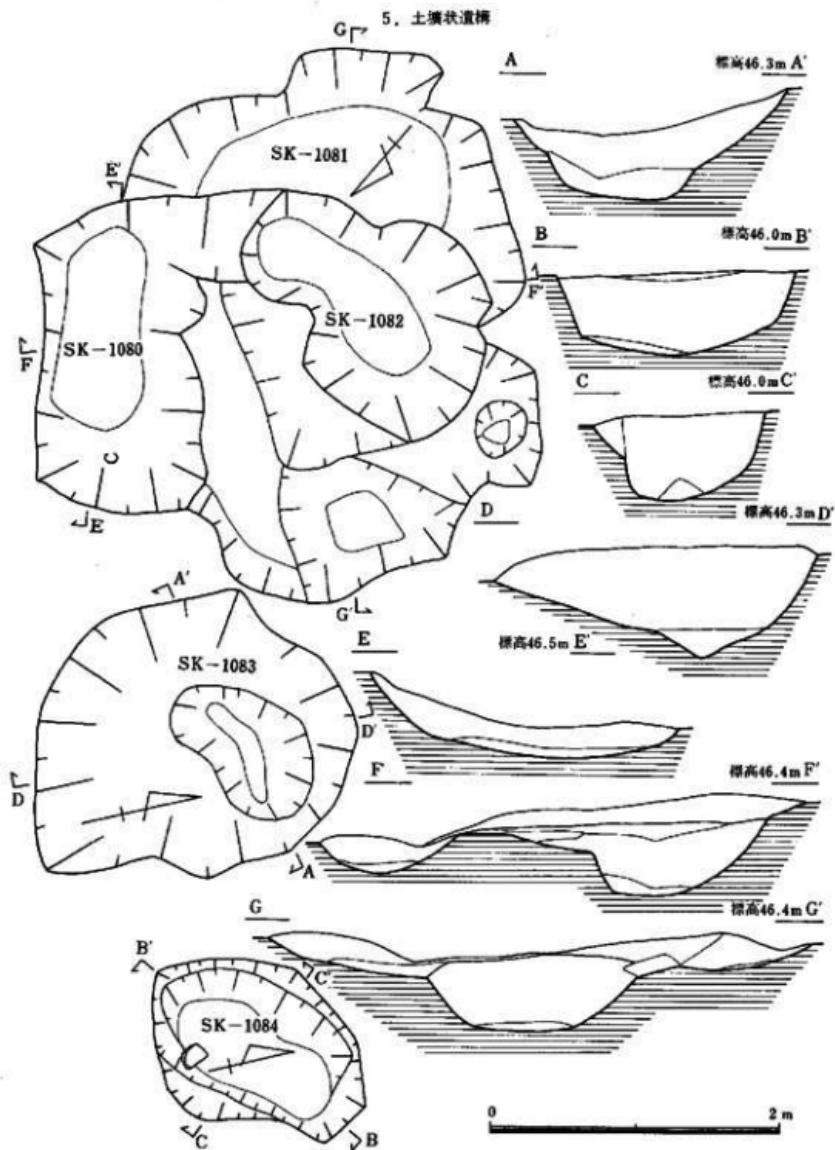


Fig. 279 第1080~1084号土壤(SK-1080~1084)実測図

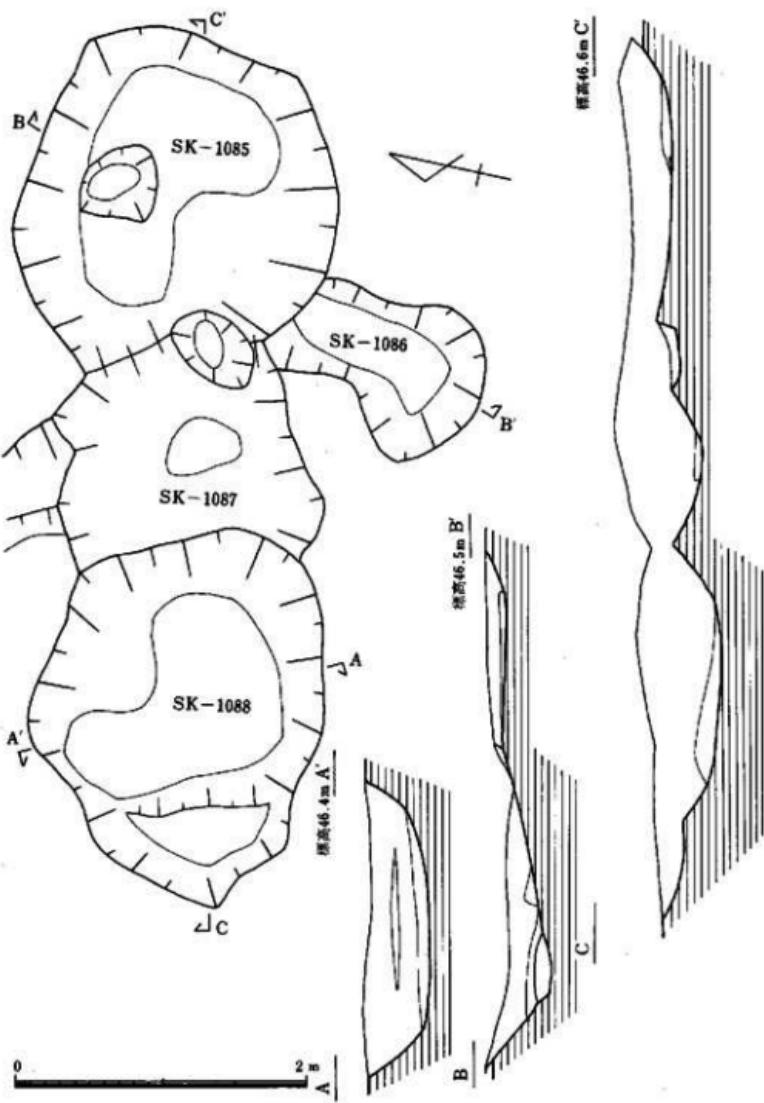


Fig. 280 第1085~1088号土壤(SK-1085~1088)実測図

5. 土壌状造構

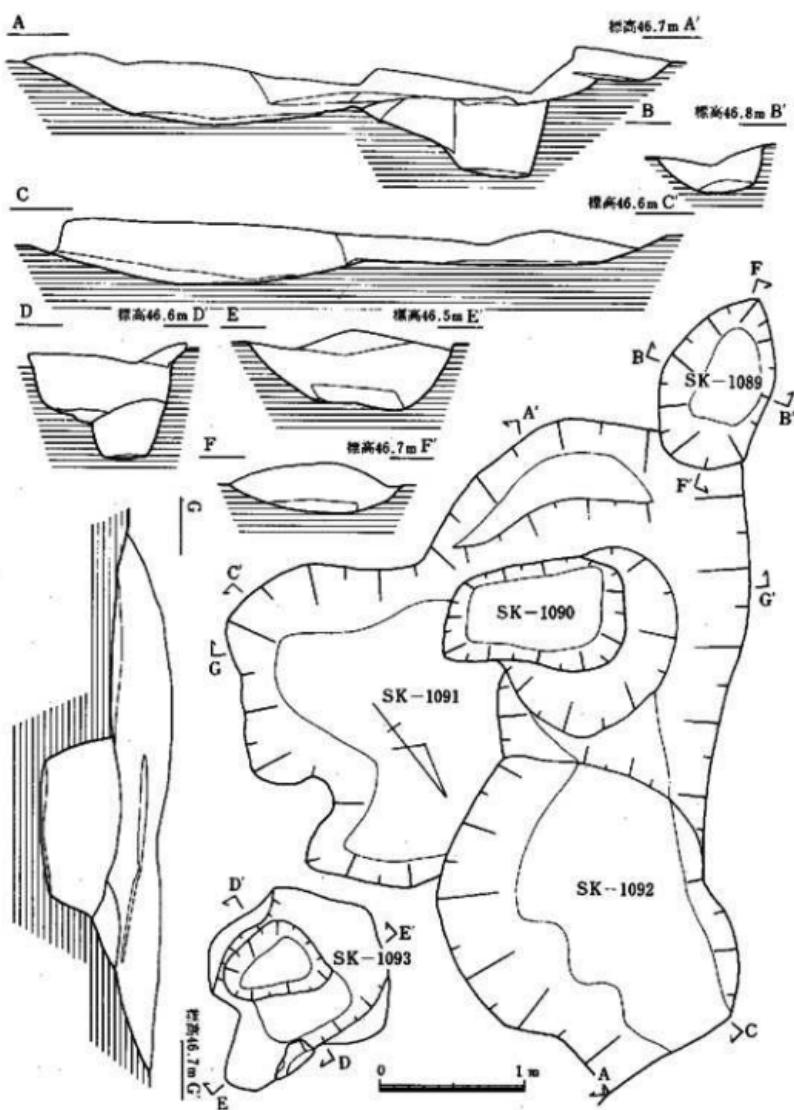


Fig. 281 第1089~1093号土壤(SK-1089~1093)実測図

第8章 K遺跡の記録

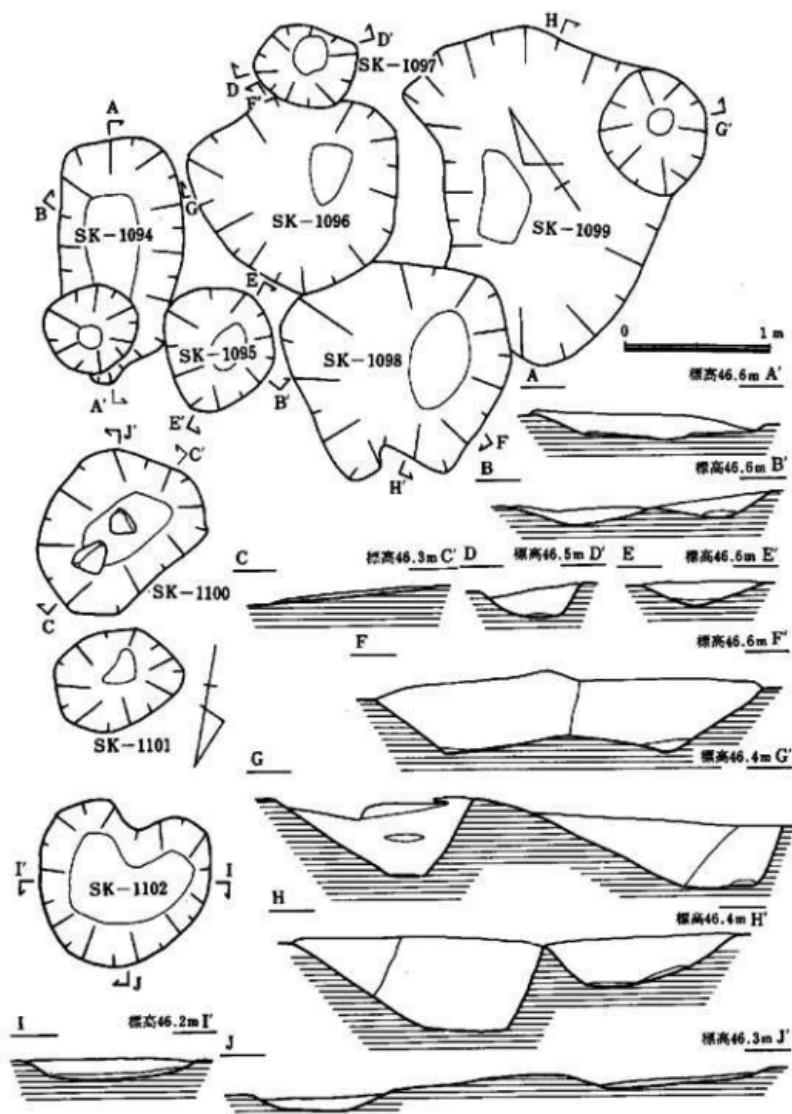


Fig. 282 第1094~1102号土壙(SK-1094~1102)実測図

5. 土壤状遺構

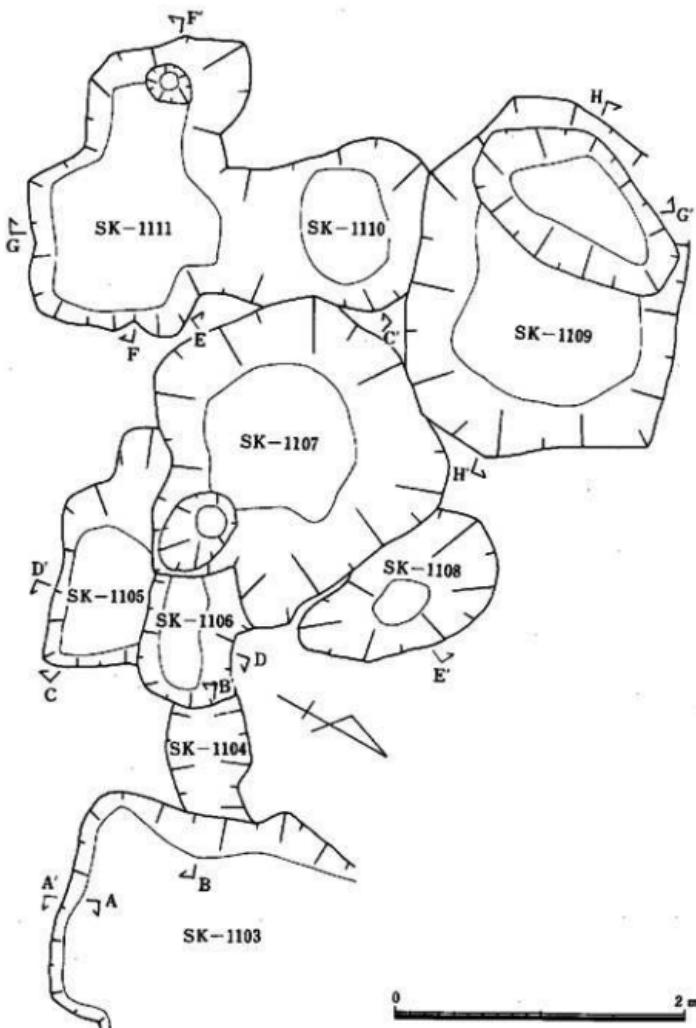


Fig. 283 第1103~1111号土壤(SK-1103~1111)実測図 I

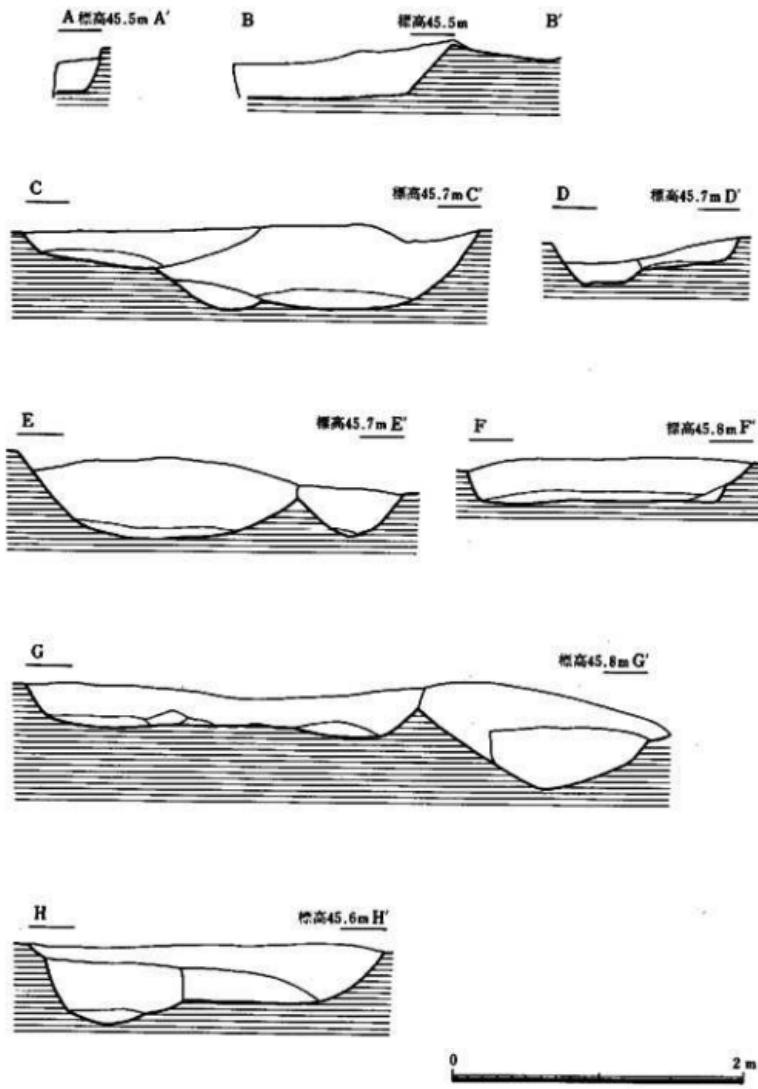


Fig. 284 第1103~1111号土壤(SK-1103~1111)実測図II

5. 土壤状溝構

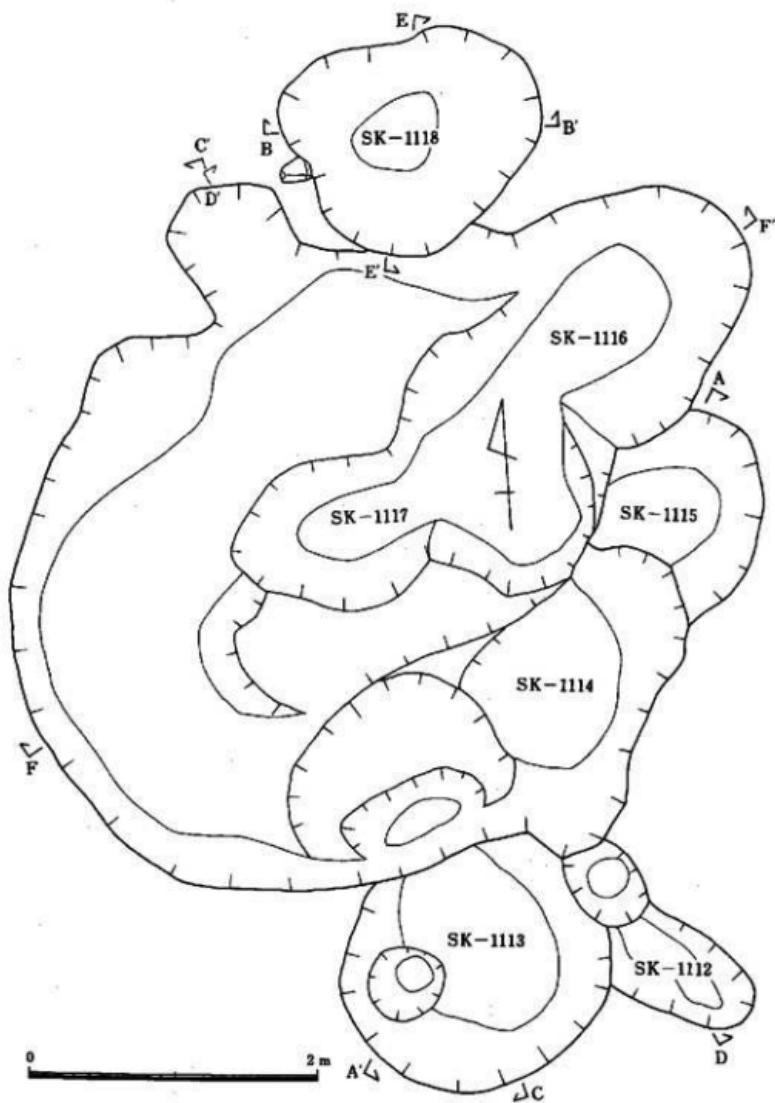


Fig. 285 第1112--1118号土壤(SK-1112~1118)実測図 I

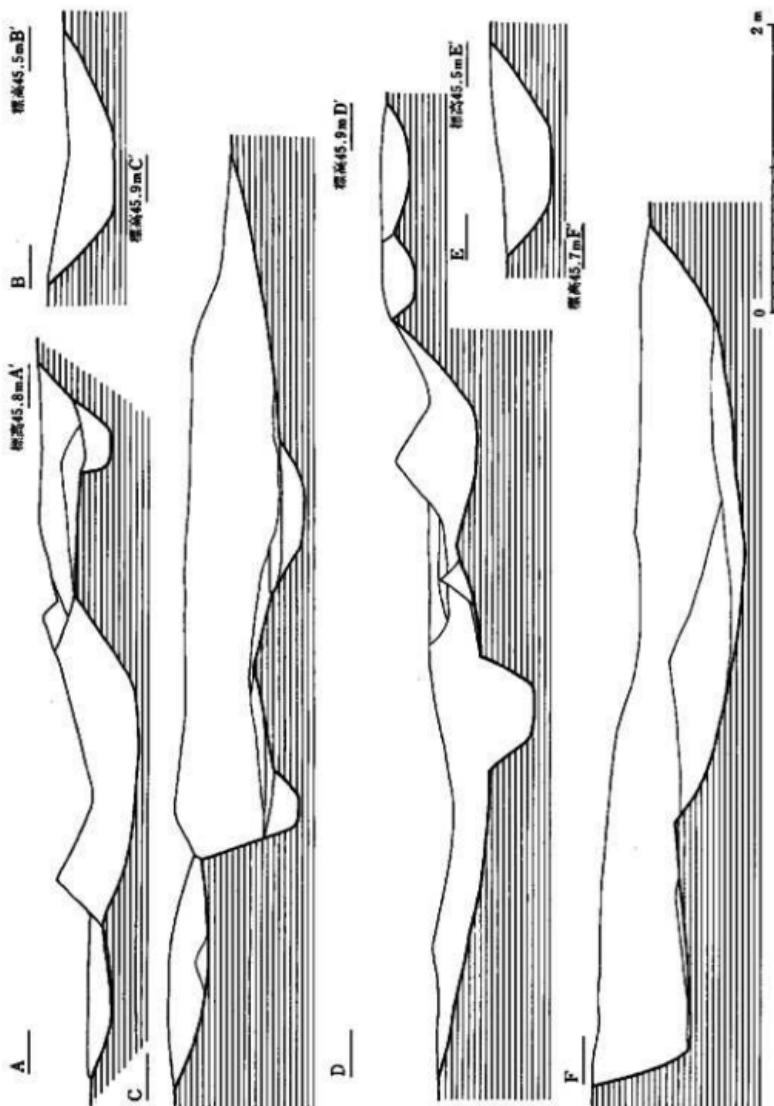


Fig. 286 第1112～1118号土壤(SK-1112～1118)実測図II

5. 土壤状構

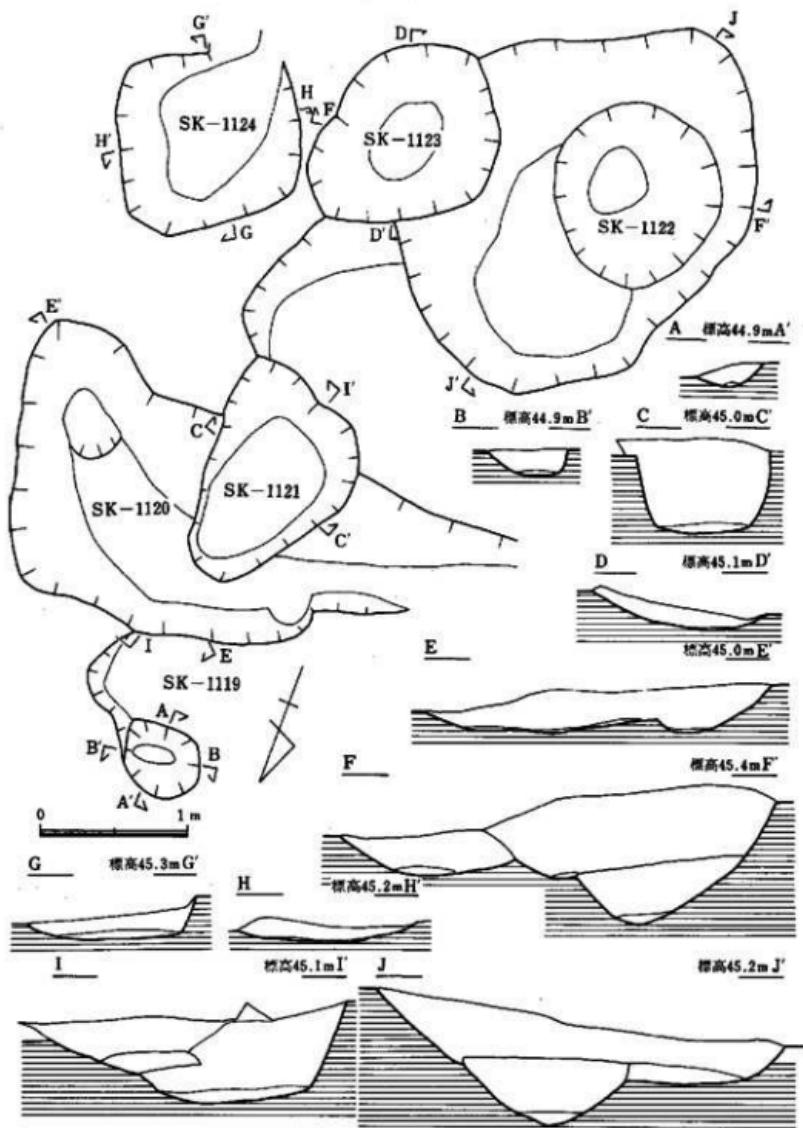


Fig. 287 第1119~1124号土壤(SK-1119~1124)実測図

第8章 K遺跡の記録

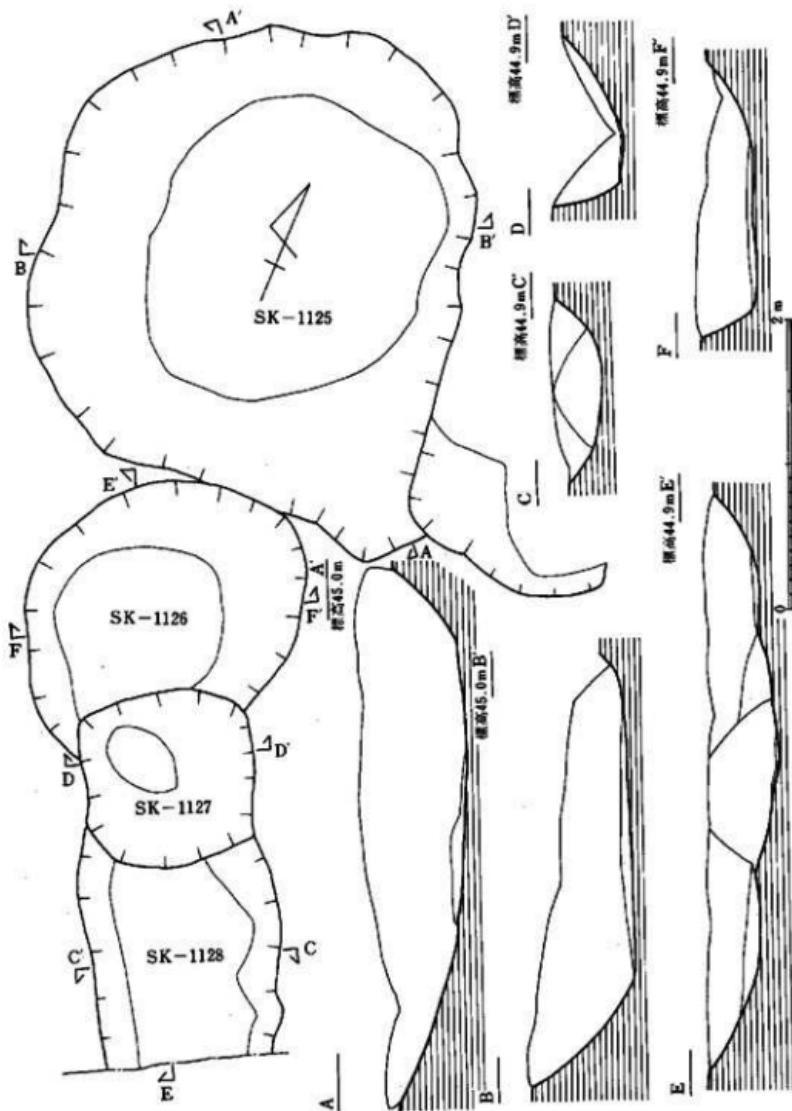


Fig. 288 第1125~1128号土壌(SK-1125~1128)実測図

5. 土壤状遺構

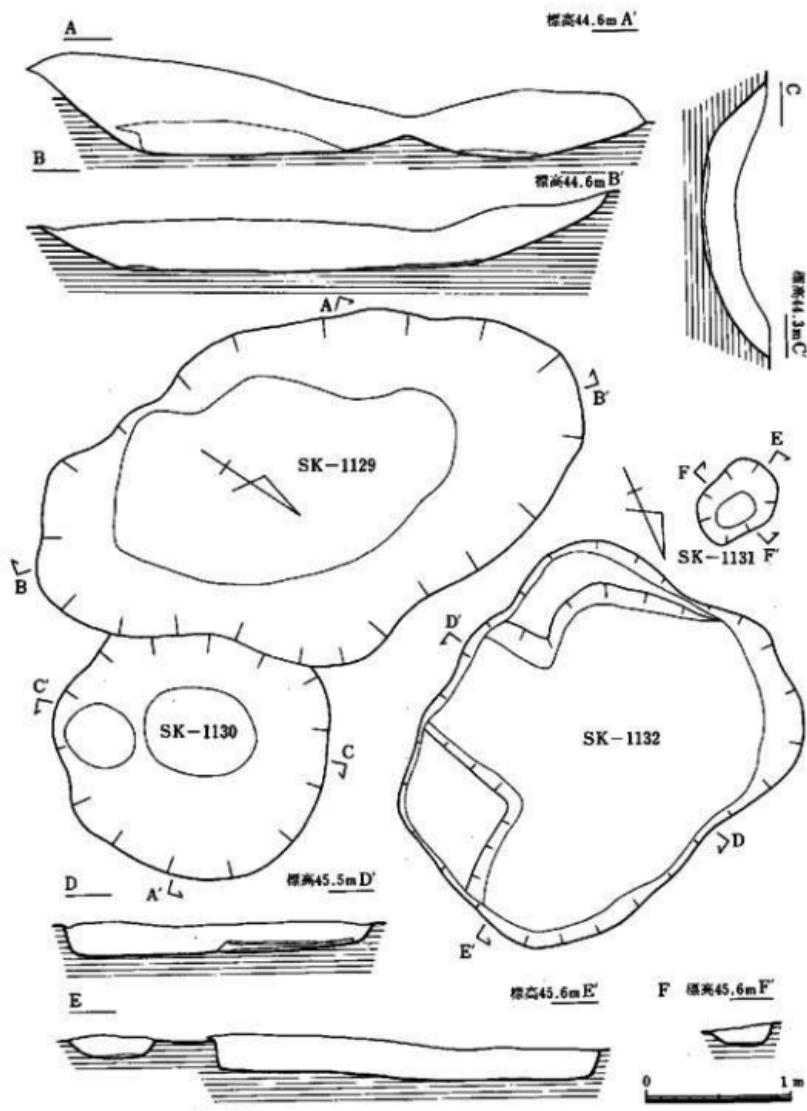


Fig. 289 第1129~1132号土壤(SK-1129~1132)実測図

第8章 K遺跡の記録

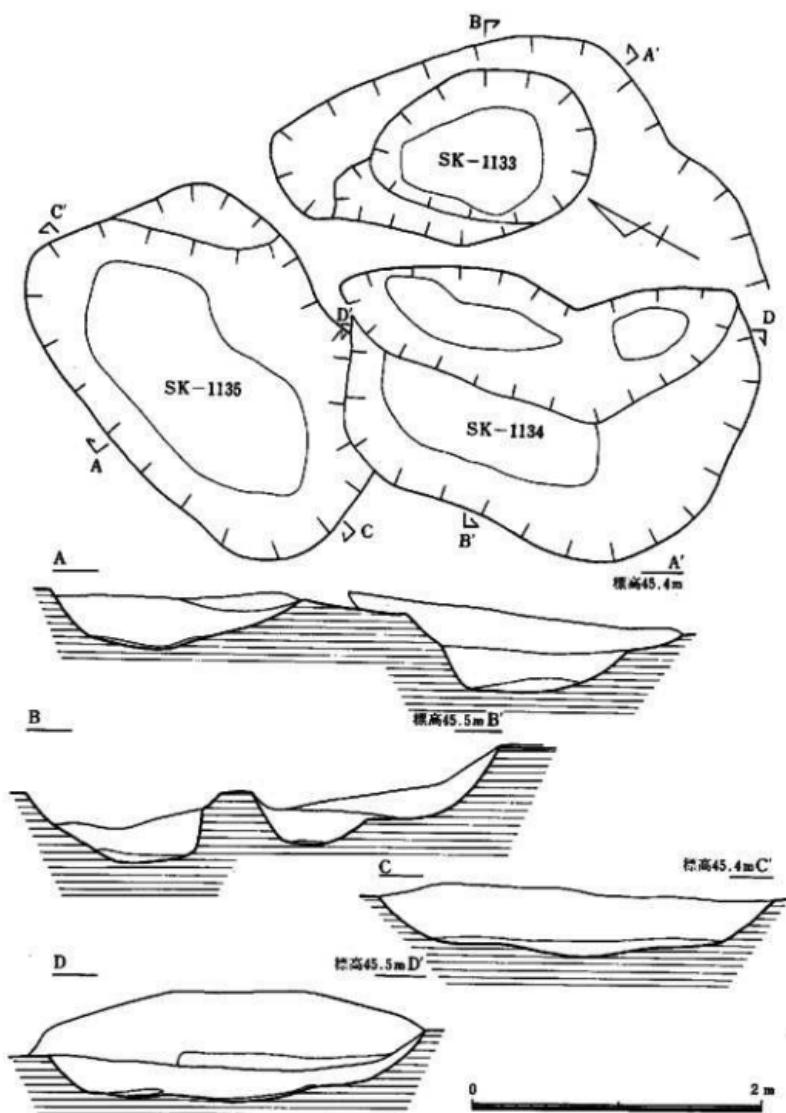


Fig. 290 第1133~1135号土墳(SK-1133~1135)実測図

5. 土壤状遺構

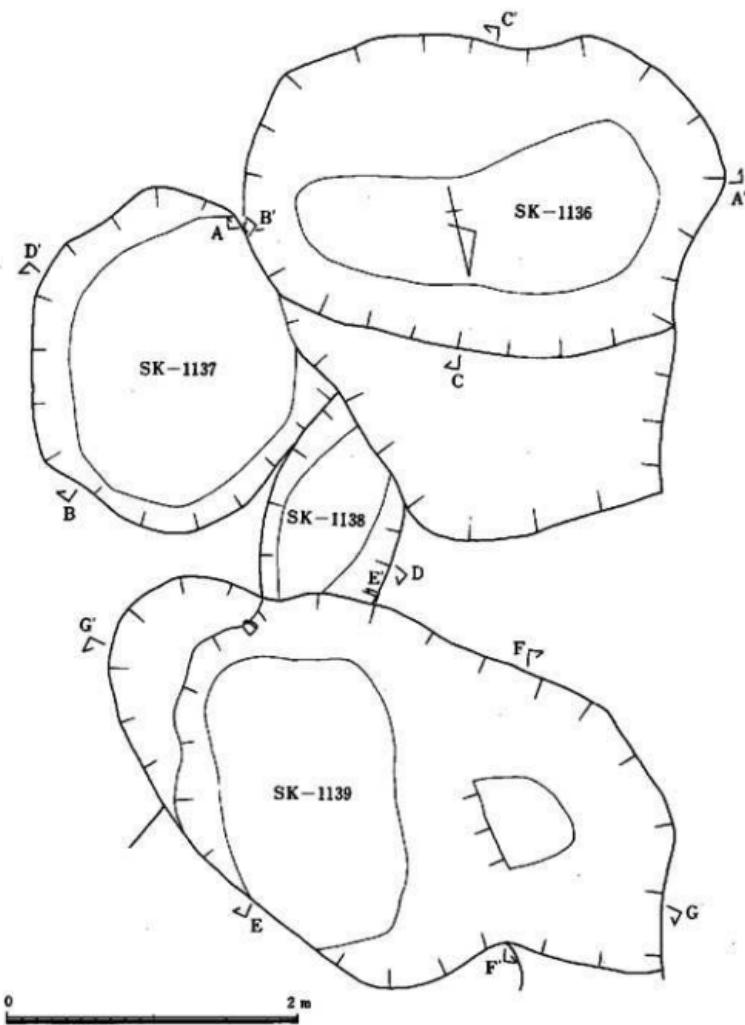


Fig. 291 第1136~1139号土壤(SK-1136~1139)実測図 I

第8章 K遺跡の記録

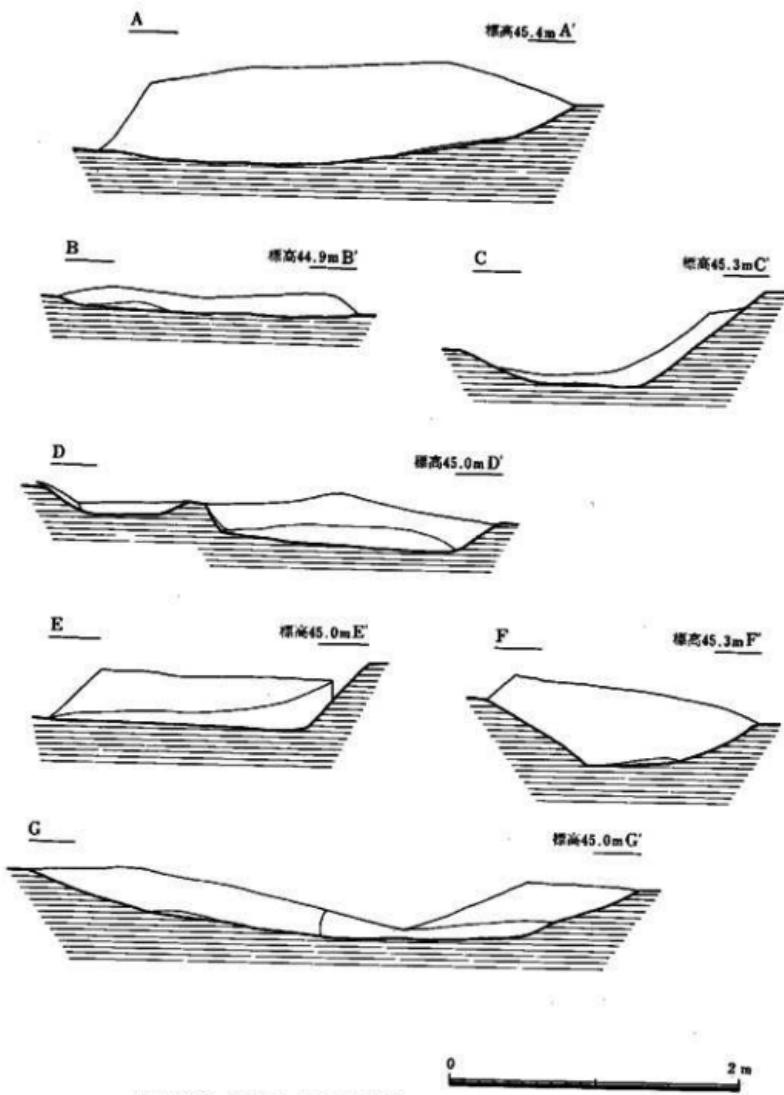


Fig. 292 第1136~1139号土壤(SK-1136~1139)実測図II

5. 土壌状遺構

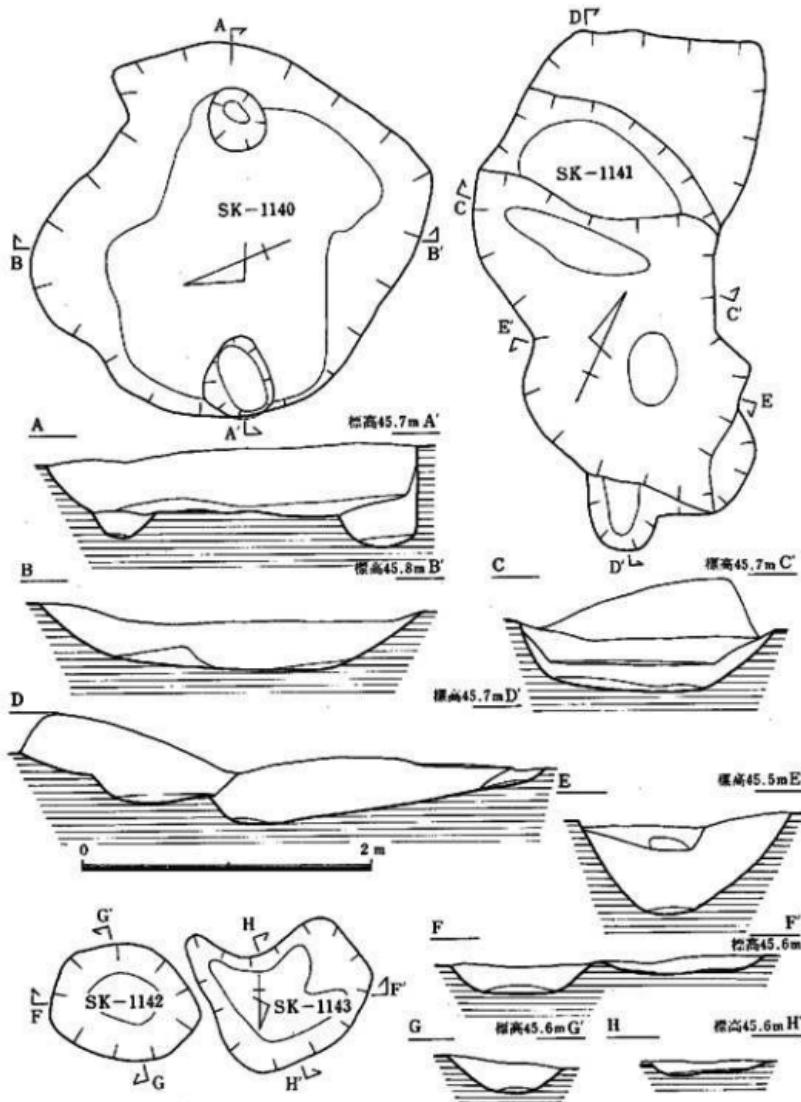


Fig. 293 第1140~1143号土壌(SK-1140~1143)実測図

第8章 K遺跡の記録

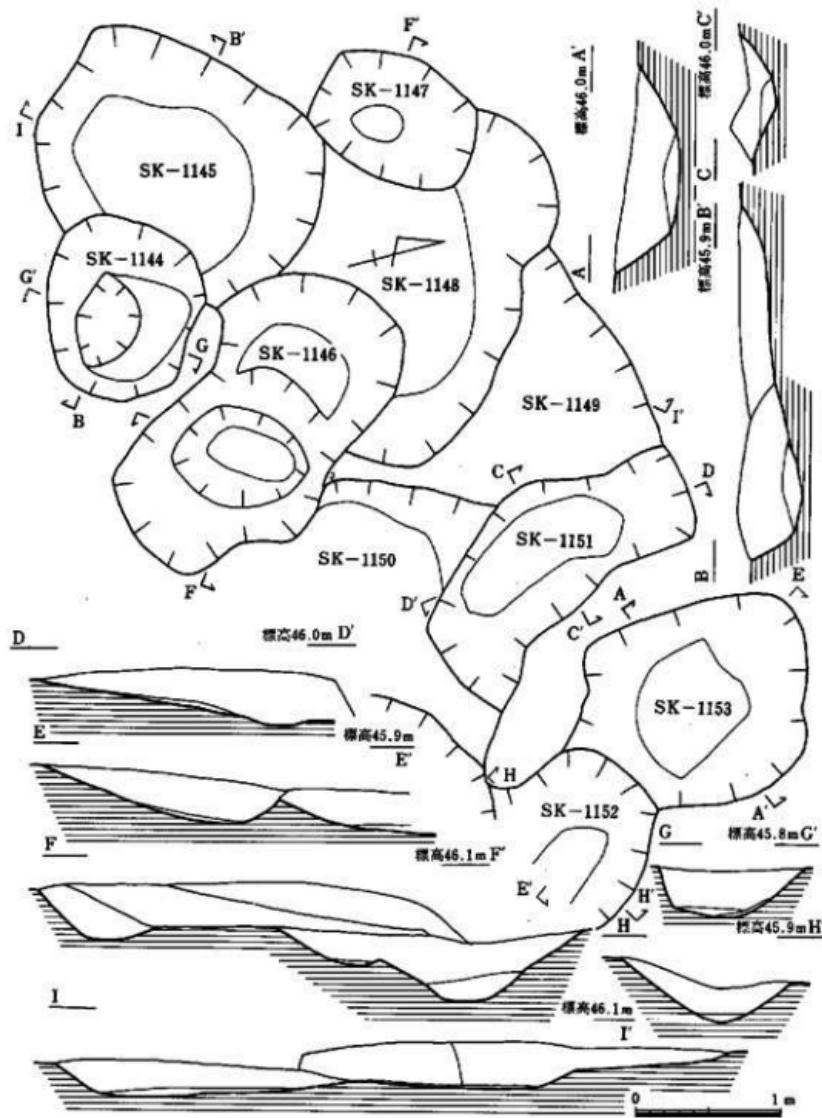


Fig. 294 第1144~1153号土壙(SK-1144~1153)実測図

5. 土壌状遺構

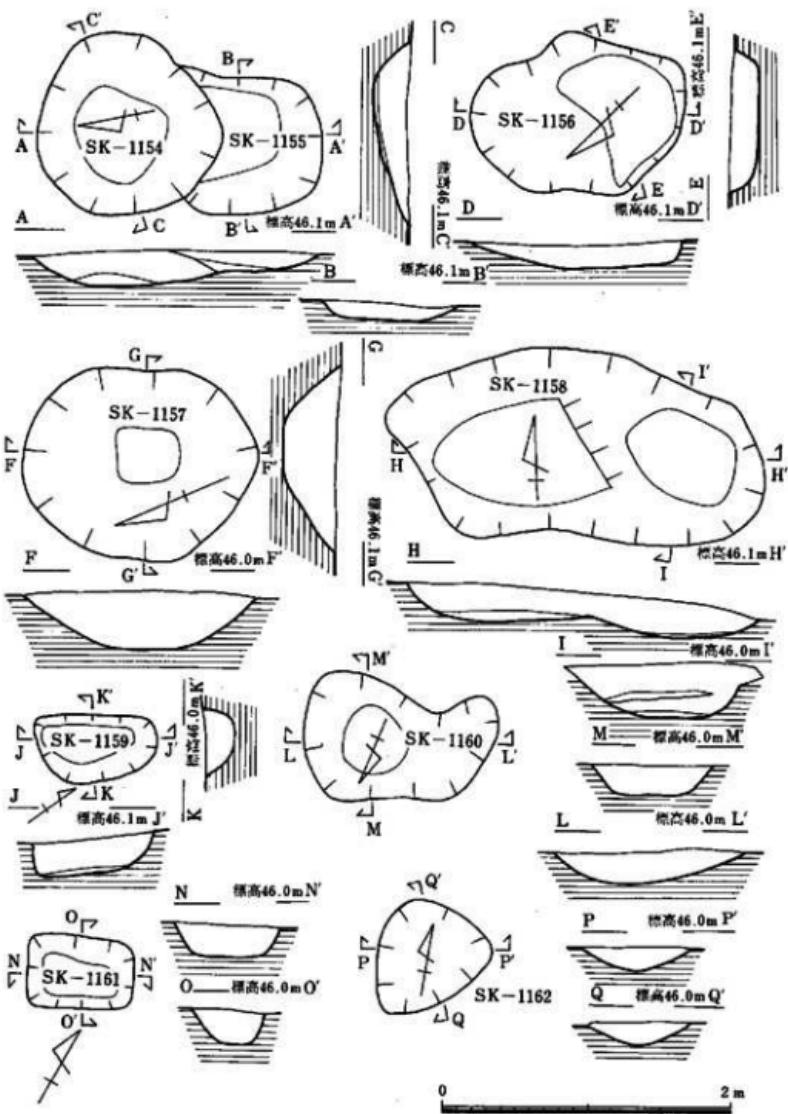


Fig. 295 第1154~1162号土壤(SK-1154~1162)実測図

第8章 K遺跡の記録

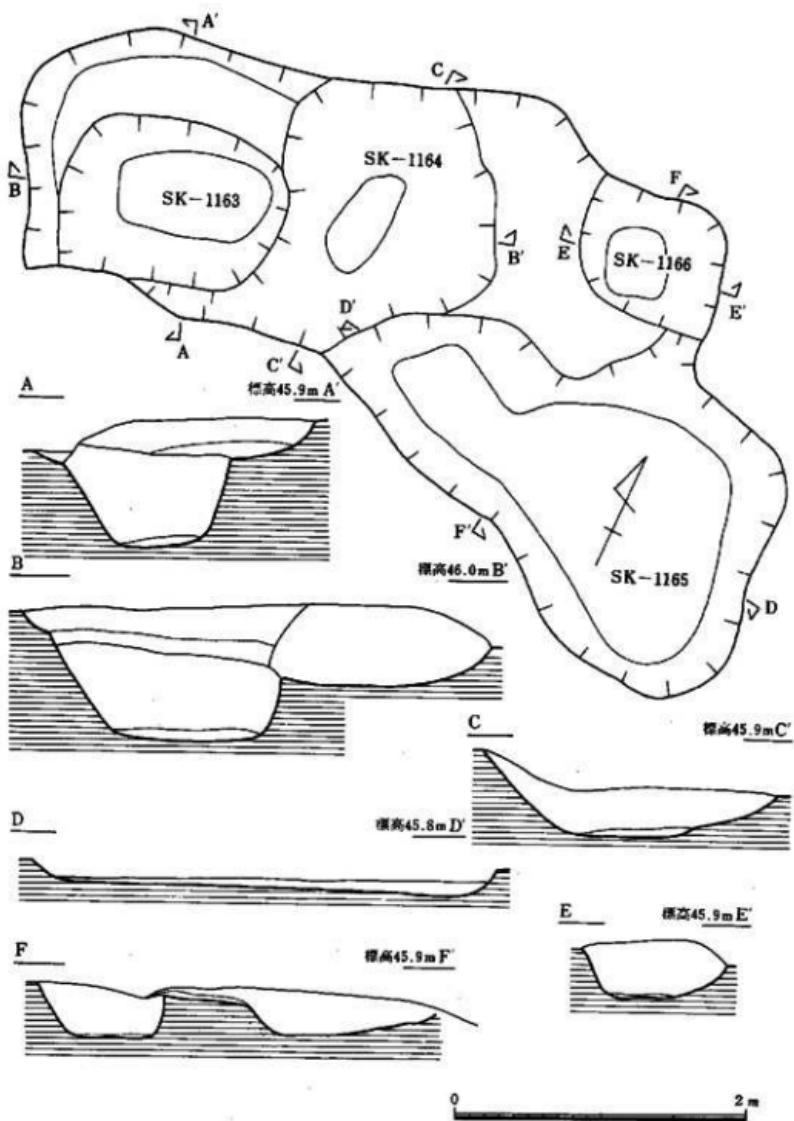


Fig. 296 第1163~1166号土壤(SK-1163~1166)実測図

5. 土壌状遺構

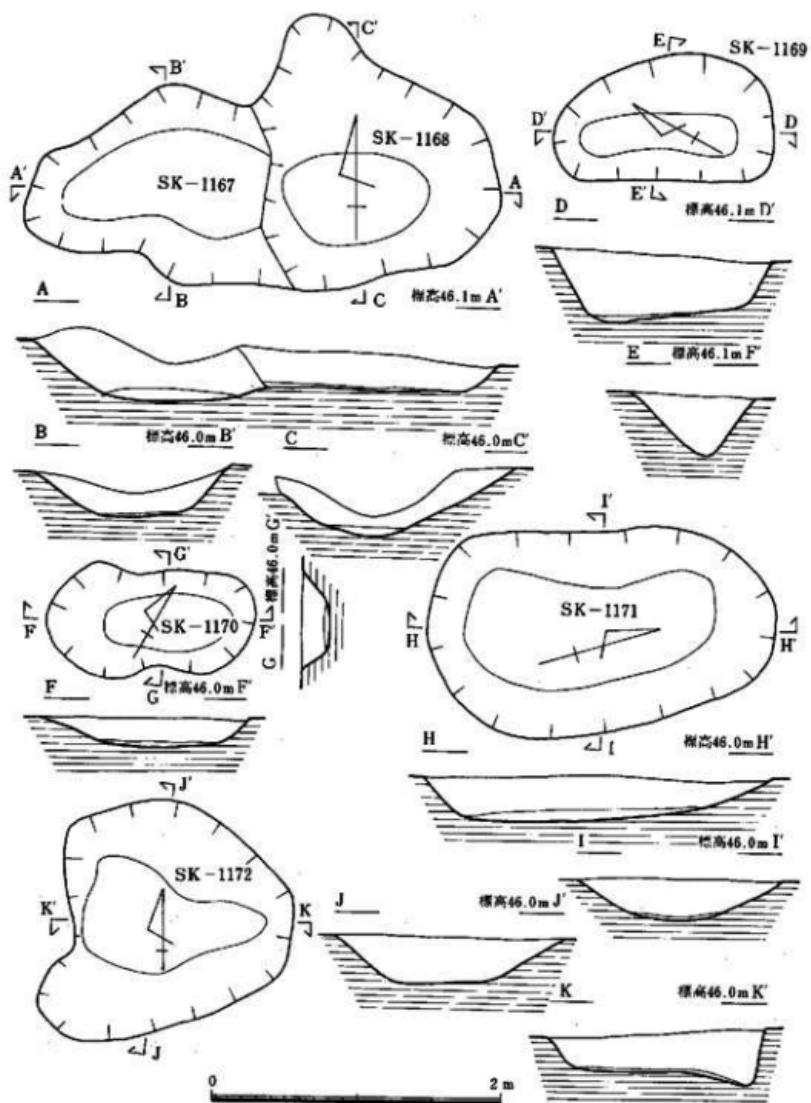


Fig. 297 第1167~1172号土壤(SK-1167~1172)実測図

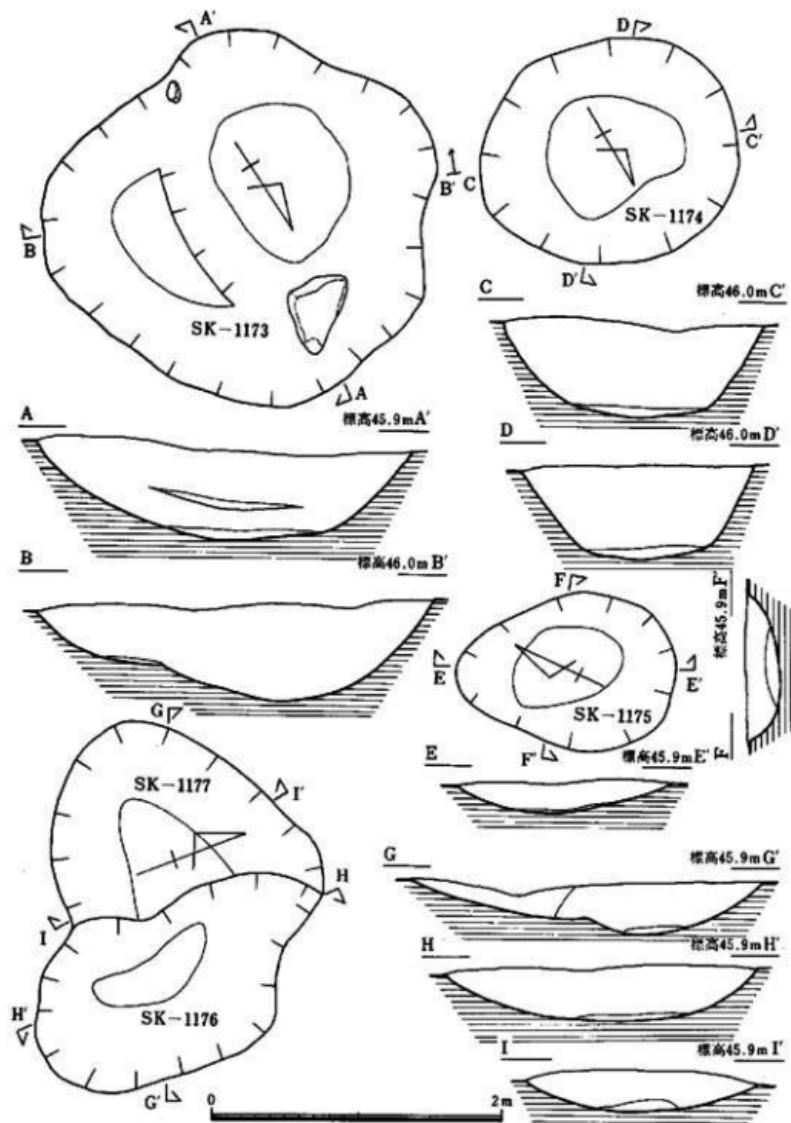


Fig. 298 第1173~1177号土壤(SK-1173~1177)実測図

5. 土壤状遺構

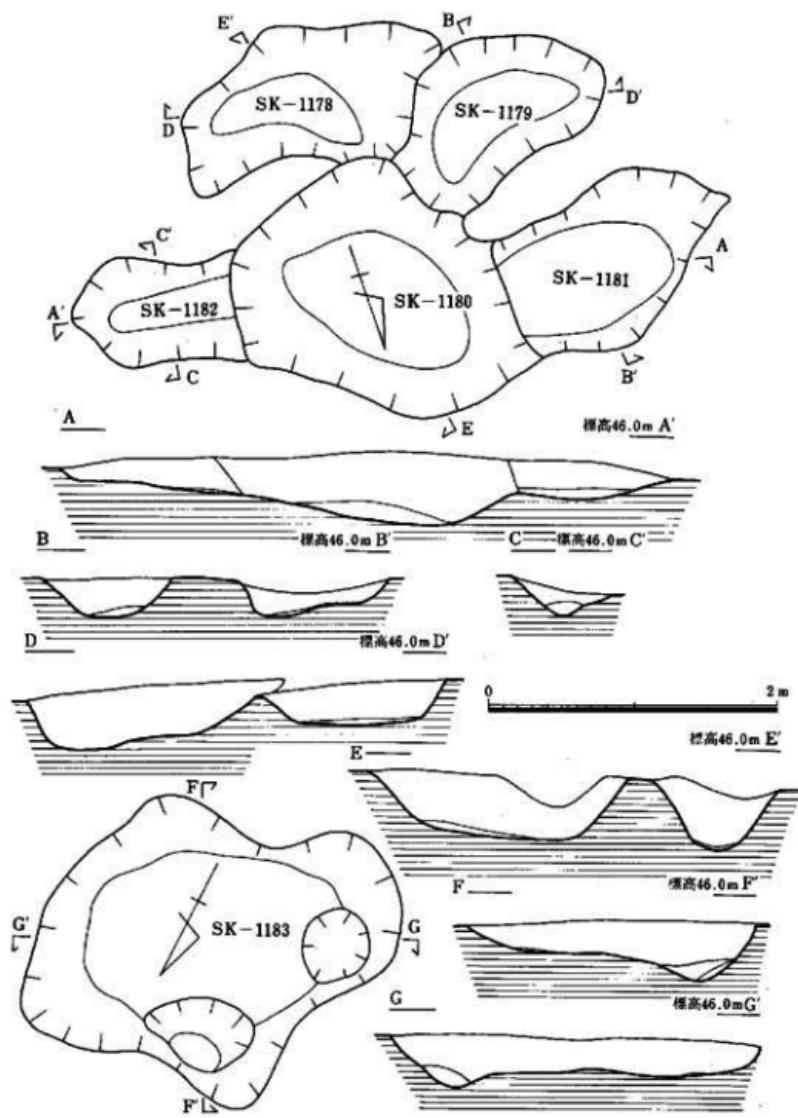


Fig. 299 第1178~1183号土壠(SK-1178~1183)実測図

第8章 K遺跡の記録

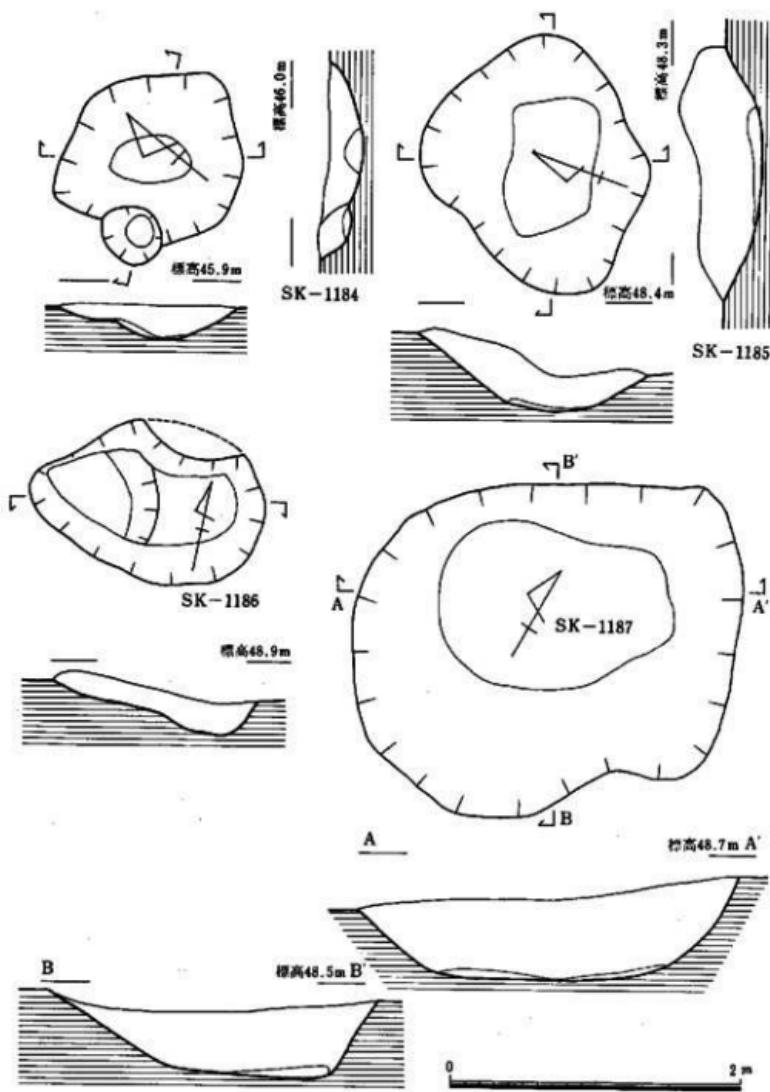


Fig. 300 第1184~1187号土壤(SK-1184~1187)実測図

5. 土壌状造構

測定No	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
1	F-17, G-17	隅丸長方形	船形	140	100	55	基壇	
2	G-16, 17	長方形	船形	203+α	110	35	基壇	SK-03と重複
3	G-16	方形	船形	140	133	72	基壇	SK-02と重複
4	G-17	橢円形	皿形	201	159	55	基壇(?)	
5	H-17	橢円形	皿形	155	80	16		
6	H-16, I-16	橢円形	皿形	133	111	21		
7	I-16	不整長方形	船形	154	77	34	基壇	
8	I-16	橢円形	皿形	159	117	61		
9	H-17, I-17	隅丸長方形	船底形	141	105	38	基壇	
10	I-17	小整方形	皿形	170+α	166	21		SK-11と重複
11	I-17	不整長方形	船形	170+α	146	30	基壇	SK-10と重複
12	I-16, 17	橢円形	皿形	100+α	117	22		SK-13と重複
13	I-17	隅丸長方形	皿形	145	133	26	基壇(?)	SK-12と重複
14	I-17, J-17	長方形	皿形	139	71	13	基壇(?)	
15	I-16, J-16, 17	不整円形	皿形	226	213	48		
16	J-16, 17	不整円形	船形	153	141	60	基壇(?)	
17	J-16	橢円形	皿形	222	174	50		
18	J-17	不整円形	皿形	202	201	28		
19	J-17	不整橢円形	皿形	181	127	33		
20	J-17, 18	長橢円形	皿形	264	144	44	基壇(?)	SK-21と重複
21	J-17, 18 K-17, 18	不整橢円形	皿形	159	140	36		SK-20と重複
22	J-18	円形	皿形	65	61	37		
23	J-18	不整円形	皿形	94	82	100		
24	K-16	不整円形	皿形	210+α	205	41		SK-25と重複
25	K-16	橢円形	皿形	150+α	95	30		SK-24と重複
26	L-16	橢円形	皿形	103+α	77	24		SK-27と重複
27	L-16	橢円形	皿形	135+α	99	18		SK-26, 28, 29と重複
28	L-16	不整円形	皿形	191+α	128	55		SK-27, 29, 30と重複
29	L-16	不整橢円形	皿形	233	150	15		SK-27, 28と重複
30	L-16, 17	円形	皿形	165	167	46		SK-28, 29と重複
31	K-16, 17 L-16, 17	不整橢円形	皿形	353	136+α	50		SK-32, 33と重複
32	K-16, 17	不整橢円形	皿形	235	173	45		SK-31, 33と重複

第8章 K遺跡の記録

遺構No	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
33	K-17	不整円形	皿形	136+α	125	13		SK-31,32,34と重複
34	K-17	精円形	皿形	170+α	130	45		SK-33,35,61,62と重複
35	K-17	長楕円形	皿形	223+α	102+α	16		SK-34,36と重複
36	K-16,17	精円形	皿形	174+α	147	24		SK-35,37と重複
37	J-16 K-16	不整椭円形	皿形	197+α	153	30		SK-36,38と重複
38	J-16 K-16	長方形	皿形	68	60+α	16		SK-37と重複
39	M-16	長方形	皿形	109	75	10	墓壙(?)	SK-40と重複
40	M-16	不整精円形	皿形	171	148+α	36		SK-39,41と重複
41	M-16	不整椭円形	皿形	126+α	138	19		SK-40と重複
42	M-16	精円形	皿形	117+α	75	23		SK-43と重複
43	M-16	不整円形	精形	160+α	124	52		SK-42と重複
44	M-16,17	不整形	皿形	100+α	160	42		SK-45と重複
45	L-16,17 M-16,17	精円形	精形	205	135+α	46	墓壙	SK-44と重複
46	M-17,18	円形	皿形	268	230	57		SK-47,49と重複
47	M-18	不整精円形	皿形	128+α	150	32		SK-46,48,49と重複
48	L-18 M-18	不整椭円形	皿形	262	194	86	住居址(?)	SK-47,49,50,52と重複
49	L-17,18 M-17,18	精円形	皿形	247	130	22		SK-46,51と重複
50	L-18	精円形	皿形	206	171	67		SK-48と重複
51	L-17,18	円形	皿形	106	82	37		SK-49,65と重複
52	L-18,19 M-18,19	不整円形	皿形	307	285	45	住居址(?)	SK-48と重複
53	M-19	不整円形	皿形	167	109	22		
54	M-19	円形	皿形	160	157	57		SK-57と重複
55	M-19	不整形	皿形	128	91	30		
56	M-19	円形	皿形	86	74	28		
57	M-19	長楕円形	皿形	233	120+α	55		SK-54,58,59,60と重複
58	M-19	不整形	皿形	153	110	48		SK-57,60と重複
59	M-19,20	精円形	皿形	175	144	24		SK-60と重複
60	M-19,20	不整形	皿形	245	140	20		SK-57,58,59と重複
61	K-17	円形	皿形	150	122+α	38		SK-34,62,63と重複
62	K-17	円形	皿形	178+α	165+α	17		SK-34,61,63と重複
63	K-17,18	精円形	皿形	227+α	145+α	27		SK-61,62と重複
64	K-17,18	精円形	皿形	173+α	124	42	墓壙(?)	SK-63,65,66と重複

5. 土壌状造構

遺構No	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
65	K-17, 18 L-17, 18	長方形	直形	437	262	27	住居址(?)	SK-51, 66と重複
66	K-18 L-18	不整形	直形	220	163	60		SK-65, 67と重複
67	K-18 L-18	不整形	直形	200+α	90+α	40		SK-66, 70と重複
68	L-18, 19	楕円形	直形	150+α	110-α	36	墓塚(?)	SK-69, 72と重複
69	L-18, 19	不整形	直形	270+α	120	37		SK-66, 67, 68, 70, 71, 72, 73と重複
70	K-18 L-18	不整形	直形	145	116+α	40		SK-67, 71と重複
71	K-18, 19 L-18, 19	不整形円形	直形	147	116	42		SK-69, 70, 72, 73, 79と重複
72	L-19	円形	直形	143	147	20		SK-68, 69, 83, 76と重複
73	K-19 L-19	不整形	直形	195	170	24		? SK-69, 71, 72, 74, 75, 76, 79と重複
74	K-19 L-19	不整形	直形	170+α	110+α	39		SK-73, 75, 79と重複
75	K-19 L-19	円形	直形	205	200	40		SK-73, 74と重複
76	L-19	不整形円形	直形	215	190	65		SK-72, 77と重複
77	L-19	楕円形	直形	195	95+α	40		SK-76と重複
78	K-18	楕円形	直形	217	116	35		SK-67, 79と重複
79	K-18, 19	不整形楕円形	直形	149+α	126	35		SK-70, 71, 78, 80と重複
80	K-19	不整形	直形	258	245	52	住居址(?)	SK-79, 83と重複
81	K-18	不整形	直形	130+α	60	14		SK-82と重複
82	K-18	不整形	直形	180-α	155	35		SK-81, 83, 84と重複
83	J-18, 19 K-18, 19	楕円形	直形	222+α	200	27	住居址(?)	SK-80, 82, 84と重複 ピット深さ37
84	J-18 K-18	楕円形	直形	87+α	67	11		SK-82, 83と重複
85	K-19	不整形	直形	87+α	60+α	10		SK-86, 87と重複
86	K-19	円形	直形	137	105	36		SK-85, 87と重複
87	J-19 K-19	円形	直形	183	176	81		SK-85, 86, 90, 93と重複
88	J-19	不整形	直形	85	52+α	19		SK-89と重複
89	J-19	楕円形	直形	127	124+α	44		SK-88, 90, 91と重複
90	J-19	不整形円形	直形	207	118	24		SK-87, 89, 91, 93と重複
91	J-19	楕円形	直形	837+α	111+α	30		SK-90, 92と重複
92	J-19, 20	楕円形	直形	129	99	65		SK-90, 91, 137, 141と重複
93	J-19 K-19	不整形	直形	113+α	110	30		SK-87, 90, 141と重複
94	J-19	円形	直形	81	83	28		
95	I-18	不整形	直形	251	258	53		SK-96と重複
96	J-18, 19	楕円形	直形	160	85	22		SK-95, 97, 98と重複

第8章 K遺跡の記録

遺跡No.	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
97	I-18, 19 J-18, 19	楕円形	一部階形	167	107	46	墓壙	SK-96と重複
98	I-19	楕円形	舟底形	198	124	32	墓壙(?)	SK-96と重複
99	I-19 J-19	楕円形	皿形	194	105	15	墓壙(?)	
100	I-19 J-19	楕円形	梯形	190	124	39	墓壙	配石、スクレイバー
101	H-18 I-18	楕円形	皿形	240	166	68		
102	I-19	楕円形	皿形	198	148	41		
103	H-19 I-19	楕円形	皿形	177	122	43		SK-104, 105と重複
104	H-19	不整形	皿形	170	165+α	35		SK-103, 105と重複
105	H-19	楕円形	皿形	160	176+α	42		SK-103, 104と重複
106	H-18, 19	不整形	皿形	210	127	38		SK-107と重複
107	H-18	楕円形	皿形	223	175	58		SK-106, 108と重複
108	H-18	楕円形	皿形	185	82	22		SK-107と重複
109	G-18	楕円形	皿形	215	134	45		
110	G-18	楕円形	皿形	192	169	31		
111	F-18, 19 G-19	楕円形	皿形	270	178	32		SK-112と重複
112	G-19	楕円形	皿形	120	128	27		SK-111, 113と重複
113	G-19	楕円形	皿形	127+α	75	12	墓壙(?)	SK-112, 114と重複
114	G-19, 20	不整形	皿形	126	93+α	31		SK-115と重複
115	F-19, 20 G-19, 20	楕円形	皿形	270	203	47		SK-116と重複
116	F-19, 20	不整形	皿形	159	200	47		SK-117と重複
117	E-20 F-19, 20	楕円形	皿形	408	290+α	27	住居址(?)	SK-116, 118と重複
118	E-20	不整形	皿形	296	262	52		SK-117と重複
119	D-19 E-19	楕円形	梯形	134	115	32	墓壙	
120	E-19, 20	楕円形	梯形	126	90	65	墓壙	
121	E-20	楕円形	梯形	143	92	52	墓壙	
122	E-21	楕円形	梯形	176	96	25	墓壙(?)	
123	F-20	楕円形	皿形	170	134	32		SK-124と重複
124	F-20	不整楕円形	皿形	157	175	50		SK-123と重複
125	F-20, 21 G-20, 21	楕円形	皿形	250	179	40		
126	G-20, 21	不整楕円形	皿形	84	118	12		
127	G-20	不整形	皿形	79+α	85	17		SK-128と重複
128	G-20 H-20	不整形	皿形	250	184	60		SK-127と重複

5. 土壌状況表

土壤No.	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
129	G-20 H-20	楕円形	皿形	134	105	14		
130	H-20	楕円形	皿形	165	122	25		
131	H-19, 20	楕円形	皿形	207	168	22		SK-131と重複
132	H-19	隅丸長方形	皿形	150	74	24	基盤(?)	SK-131と重複
133	I-19	楕円形	皿形	146	95	21		
134	G-21 H-21	円形	皿形	156	135	23		
135	I-20	楕円形	皿形	263	211	75	住居址	SK-136と重複 無文土器
136	I-20 J-20	長楕円形	皿形	150+α	169	58		SK-135, 137, 138, 139 と重複
137	J-20	円形(?)	皿形	330+α	95+α	8		SK-136, 138と重複
138	J-20	円形	皿形	309+α	293+α	90	住居址	SK-135, 137, 139, 145, 160と重複 骨2点器
139	I-20 J-20, 21	円形(?)	皿形	224	204+α	38		SK-140, 150と重複
140	I-20, 21 J-21	円形	皿形	264	212	58	住居址	SK-139, 206と重複 無文土器
141	J-19, 20 K-19, 20	楕円形(?)	皿形	120	81+α	35		SK-144, 145と重複
142	K-19, 20	楕円形	皿形	225+α	185	38		SK-141, 143, 144と重複
143	K-20	長方形	皿形	230+α	150	28		SK-142, 144と重複
144	J-20 K-20	楕円形	皿形	310	201	80		SK-141, 142, 143, 145, 146と重複
145	J-20 K-20	不整楕円形	皿形	225	140+α	49		SK-137, 141, 144, 146 と重複
146	J-20 K-20	楕円形	皿形	185+α	207	34		SK-144, 145と重複
147	J-20, 21 K-20, 21	楕円形	皿形	245	177	21		SK-146, 148, 149と重複
148	K-20, 21	楕円形	皿形	254	157+α	20		SK-147, 149と重複
149	J-21 K-21	楕円形	皿形	187+α	178	35		SK-147, 148と重複
150	J-20, 21	不整形	皿形	320	305	60		SK-145, 146と重複
151	J-21	楕円形	皿形	270+α	166	45		SK-152と重複
152	J-21, 22	円形	皿形	164	150	15		SK-151と重複
153	J-21, 22	楕円形	皿形	160	79	40		SK-154, 155と重複
154	J-21, 22	楕円形	皿形	204	159	58		SK-153, 155と重複
155	J-22	楕円形	皿形	215	165	32		SK-153, 154と重複
156	J-22 K-21, 22	不整形	皿形	366	257	55		
157	H-20, 21 I-20, 21	不整楕円形	皿形	295	167	44		SK-158と重複
158	H-21	円形	皿形	103	107	48		SK-157と重複
159	H-20, 21	円形	皿形	335	300	84	住居址	SK-160と重複 無文土器
160	H-21	不整形	皿形	172	200+α	48		SK-159, 161と重複

第8章 K遺跡の記録

遺構No	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
161	G-21 H-21, 22	不整形	皿形	235	95	28		SK-160, 162, 205と重複
162	G-21 H-21	楕円形	皿形	152	134	42	墓壙	SK-161と重複
163	F-21, 22 G-21	楕円形	皿形	306	265	45		SK-164と重複
164	F-21	円形	皿形	169	144	40		SK-163と重複
165	F-22	楕円形	皿形	271	189	57		
166	G-21	不整形	皿形	220+α	135	36		SK-167と重複
167	G-21	円形	皿形	96+α	95	25		SK-166, 168と重複
168	G-21, 22	不整形	皿形	205	148	60		SK-167, 169と重複
169	G-22	不整形	皿形	161	235	55		SK-168, 170, 171と重複
170	G-22	楕円形	皿形	213+α	173	42		SK-168, 169, 171と重複
171	G-22, 23 H-22	楕円形	皿形	270	212+α	64		SK-169と重複
172	F-23 G-23	円形	皿形	291	284	43	住居址	
173	F-23 G-23	楕円形	皿形	113	79	21		
174	F-22, 23	楕円形	皿形	290	150+α	21		
175	E-22	長楕円形	皿形	217	116	36		
176	E-22	楕円形	皿形	265-α	175	31		SK-177, 178と重複
177	E-22, 23	楕円形	皿形	260	170	65		SK-176, 179と重複
178	E-22, 23	不整形	皿形	120-α	135	30		SK-176, 177と重複
179	D-22, 23	楕円形	皿形	230+α	160	55		SK-180, 181と重複
180	D-22, 23	楕円形	皿形	242	60+α	35		SK-179, 180と重複
181	D-23	楕円形	皿形	180	150	50		SK-179, 180と重複
182	D-23	楕円形	皿形	127	95	38		
183	F-23, 24	楕円形	皿形	220	195	44		
184	E-23 F-23	長方形	皿形	127	103	82	墓壙	SK-185, 186と重複
185	E-23 F-23	円形	皿形	300	321	74	住居址(?)	SK-184, 185と重複
186	E-23, 24	楕円形	皿形	440	312	56	住居址(?)	SK-184, 185と重複
187	G-23	楕円形	皿形	170+α	124	60		SK-188と重複
188	G-23	楕円形	皿形	85+α	96	23		SK-187, 189, 190と重複
189	G-23	楕円形	皿形	205	134	35		SK-188, 190と重複
190	G-23	楕円形	皿形	215	238	64		SK-188, 189, 191と重複
191	G-23	楕円形	皿形	175	80	49		SK-190, 192と重複
192	G-23, 24	円形	皿形	184	180	35		SK-191と重複

5. 土壌状況

遺構No	クリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
193	H-23, 24	楕円形	直形	200- α	155	36		SK-194と重複
194	H-23, 24	楕円形	直形	197	140	52		SK-193と重複
195	H-23, 24	楕円形	直形	148+ α	140	35		SK-195と重複
196	H-23, 24	楕円形	直形	326	145	50		SK-195と重複
197	I-23	長方形	直形	155	100	80	墓壙	配石
198	I-22, 23 J-22, 23	楕円形	直形	149	135	34		SK-199と重複
199	J-22, 23	楕円形	直形	84	58	85		SK-198と重複
200	I-21	不整形	直形	150	80	37		SK-140, 201と重複
201	I-21	不整形	直形	212	200	47		SK-200, 202と重複
202	I-21, 22	隅丸長方形	直形	329	270	27	住居址(?)	SK-201, 203, 204, 207 と重複
203	H-21 I-21	隅丸長方形	直形	227	170	25		SK-202, 204と重複
204	H-21, 22	楕円形	直形	217+ α	180	43		SK-202, 203, 206と重複
205	H-22	不整形	直形	145+ α	118	18		
206	H-22 I-22	楕円形	直形	340	165	35		SK-204, 207, 209, 210, 211と重複
207	I-22	楕円形	直形	130	118	33		SK-202, 206, 208, 209 と重複
208	I-22	不整楕円形	直形	323	130	48		SK-207, 209と重複
209	H-22 I-22, 23	楕円形	直形	300	185+ α	26		SK-206, 207, 208, 214 と重複
210	H-22	楕円形	直形	250+ α	260	56		SK-206, 209, 211, 212, 213, 215と重複
211	H-22	楕円形	直形	110+ α	120	17		SK-206, 210, 212と重複
212	H-22	楕円形	直形	134	142	22		SK-210, 211, 213と重複
213	H-22, 23	不整円形	直形	210	190	30		SK-210, 212, 213と重複
214	I-23	楕円形	直形	200	108	19		SK-209と重複
215	H-22, 23	不整形	直形	135	205	50		SK-210, 212, 213と重複
216	K-22	楕円形	直形	150	117	29		SK-217と重複
217	K-22	楕円形	直形	90	54+ α	22		SK-216と重複
218	K-22	楕円形	直形	107	100	19		
219	K-20 L-20	楕円形	直形	215	155	17		
220	L-20 M-20	楕円形	直形	175	101	25		
221	M-20	楕円形	直形	120	77	48		
222	N-20	楕円形	直形	190	97	29	墓壙	配石
223	M-21 N-21	楕円形	直形	228	164	35		
224	K-21 L-21	楕円形	直形	403	194	87		SK-225と重複

第8章 K遺跡の記録

遺構No.	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
225	L-21	円形(?)	皿形	270	135+α	70		SK-226と重複
226	L-20,21	楕円形	皿形	215+α	132	85		SK-227と重複
227	L-21 M-21	円形	皿形	285+α	240+α	39		SK-226,228,230,231 と重複
228	L-20,21 M-20,21	不整形	皿形	126+α	150+α	45		SK-227,229と重複
229	L-20 M-20	楕円形	皿形	174	130	48		SK-228と重複
230	M-21	円形	皿形	125+α	122	14		SK-227,231と重複
231	M-21	円形(?)	皿形	190	132	11		SK-227,230,232と重複
232	M-21,22	楕円形	皿形	223	187	34		SK-231と重複
233	M-21,22 N-21	不整形	皿形	220	199	18		SK-234と重複 集石
234	M-21 N-21	楕円形	皿形	171	128	31		SK-233と重複 集石
235	N-21	楕円形	皿形	205	130	28		SK-236,237と重複
236	N-21,22	楕円形	皿形	282	133+α	27		SK-235,237と重複
237	N-21	楕円形	皿形	118	80	25		SK-235,236,238と重複
238	N-21 O-21	楕円形	皿形	145	84	31		SK-237,240と重複
239	N-21,22 O-21,22	楕円形	皿形	312	260	41	住居址(?)	SK-241,242と重複
240	N-21 O-21	楕円形	皿形	196	152	40		SK-238,241と重複
241	N-21 O-21	楕円形	皿形	277	177	20		SK-239,242と重複
242	O-21	楕円形	皿形	260	202	60		SK-239,241と重複
243	O-21 P21-	楕円形	皿形	280	169	43		SK-244と重複
244	O-20,21 P-20,21	不整楕円形	皿形	346+α	255	57		SK-243,245と重複
245	O-20	楕円形	皿形	52+α	80	17		SK-244と重複
246	P-22	楕円形	皿形	148	122	23	墓壙(?)	
247	O-23 P-23	楕円形	箱形	216	170	23	墓壙(?)	
248	O-23	楕円形	皿形	134	87	57		
249	N-23 O-23	不整椭円形	皿形	246	169	22		
250	L-22	楕円形	箱形	70	57	45		
251	L-22	楕円形	皿形	125	95	47		
252	M-22	楕円形	皿形	171	100	56		SK-253,254と重複
253	M-22	楕円形	皿形	170	100+α	30		SK-252,254と重複
254	M-22	楕円形	皿形	112+α	95	31		SK-252,253と重複
255	M-22,23	楕円形	皿形	93+α	88	70		SK-256と重複
256	M-23	楕円形	皿形	300	238	42		SK-255と重複

5. 土壌状造構

遺構No.	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
257	L-22,23	不整精円形	皿形	357	280	48	住居址(?)	
258	M-22	楕円形	皿形	316	190	40		SK-259と重複
259	M-22 N-22	楕円形	皿形	141	145	27		SK-258, 260, 261と重複
260	N-22,23	楕円形	皿形	232	180	55		SK-259, 261, 262と重複
261	M-23 N-22,23	楕円形	皿形	229	166	53		SK-259, 260, 262, 264と重複
262	N-22,23	円形	皿形	197	205	37		SK-260, 263と重複
263	N-23	楕円形	皿形	180	90+α	27		SK-262と重複
264	M-23 N-23	楕円形	皿形	164+α	27			SK-261と重複
265	L-23	円形	皿形	86	84	73		
266	K-23 L-23	楕円形	皿形	233	115	40	墓壙(?)	
267	K-24	円形	皿形	167	149	74		
268	N-24	楕円形	皿形	163	105	43		SK-269と重複
269	N-23,24	楕円形	皿形	195	99+α	45		SK-268と重複
270	O-23,24	不整円形	皿形	119	110	11		集石
271	O-23,24 P-23,24	不整形	皿形	226	180	23		SK-272と重複
272	O-24 P-24	不整形	皿形	300	133+α	11		SK-271, 273と重複
273	O-24 P-24	楕円形	皿形	310	210+α	46	住居址(?)	SK-272, 273と重複
274	O-24,25	精円形	皿形	178+α	135+α	45		SK-273, 283と重複
275	O-23,24	不整精円形	皿形	220	80+α	20		SK-276, 277と重複
276	N-23,24 O-23,24	楕円形	皿形	205	180	66	墓壙(?)	SK-275, 277と重複
277	N-24 O-24	精円形	皿形	170+α	130	22		SK-275, 276, 279, 280と重複
278	O-24	楕円形	皿形	200	100	22		SK-279と重複
279	N-24 O-24	楕円形	皿形	187	103-α	17		SK-277, 278, 280, 281と重複
280	N-24	楕円形	皿形	120+α	93-α	15		SK-277, 279, 281と重複
281	N-24 O-24	楕円形	皿形	104	89+α	17		SK-279, 280, 282と重複
282	N-24,25 O-24,25	楕円形	皿形	300	218	30		SK-281, 284と重複
283	O-24,25	不整円形	皿形	224	180+α	55		SK-274, 287と重複
284	N-25 O-25	精円形	皿形	300	265+α	87		SK-282, 285, 286, 290, 291と重複
285	N-25	楕円形	皿形	110+α	98+α	15		SK-284と重複
286	O-25	精円形	皿形	367	210	22		SK-284, 287, 288, 290と重複
287	O-25	円形	皿形	182	165	43		SK-283, 286, 288, 289と重複
288	O-25	不整形	皿形	130	100	48		SK-286, 287, 289, 495と重複

第8章 K遺跡の記録

遺構No.	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
289	O-25, 26	精円形	直形	200+α	137	29		SK-288, 295と重複
290	N-25, 26 O-25, 26	精円形	直形	268+α	170	15		SK-290, 291と重複
291	N-25, 26	精円形	直形	147+α	85	21		SK-284, 290と重複
292	M-23, 24	精円形	直形	370	225	70		SK-293と重複
293	M-24	不整形	直形	265+α	180+α	67		SK-292, 294と重複
294	M-24	精円形	直形	200	145	44		SK-293, 295と重複
295	M-24	精円形	直形	170	130	22		SK-294, 297と重複
296	N-25, 26	精円形	直形	400	260	97		
297	M-24, 25	精円形	直形	253	215	30		SK-295, 298と重複
298	M-25	精円形	直形	117	96	68		SK-297と重複
299	L-25 M-24, 25	精円形	直形	237	130	60		
300	M-25	精円形	直形	170	150	45		SK-301と重複
301	M-25, 26	精円形	直形	325	158	62		SK-300と重複
302	L-25 M-25	精円形	直形	108	90	25		
303	L-25	精円形	直形	203	122	49		SK-304と重複
304	L-25	精円形	直形	103	60	29		SK-303と重複
305	L-24, 25	精円形	直形	150	83	59	墓壙	
306	L-24	精円形	直形	90+α	100+α	23		SK-307と重複
307	L-23, 24	精円形	直形	235	170	52		SK-306, 308, 309と重複
308	L-24	精円形	直形	142	100	21		SK-307, 309と重複
309	L-24	不整形	直形	230+α	150	47		SK-307, 308, 310と重複
310	K-24, 25 L-24, 25	精円形	直形	440	273	72	住居址(?)	SK-309, 311と重複
311	K-24	不整形	直形	165+α	95	29		SK-310, 322と重複
312	K-22	不整形	直形	175	95+α	34		SK-313と重複
313	K-22	精円形	直形	80+α	97	26		SK-312と重複
314	K-22, 23	精円形	直形	133+α	110	65		SK-315と重複
315	K-22, 23	不整形	直形	200	135	51		SK-314, 316, 317と重複
316	K-23	不整形	直形	130	120	60		SK-317と重複
317	J-23 K-23	不整形	直形	315	280	25	住居址(?)	SK-315, 316, 318, 319と重複
318	J-23 K-23	不整形	直形	250+α	210+α	40		SK-315, 317, 321と重複
319	J-23	不整形	直形	145+α	135	56		SK-317, 318, 320, 325と重複
320	J-23	不整形(?)	直形	75+α	120	32		SK-319, 325と重複

5. 土壌状遺構

遺構No	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
321	J-23	不整形	直形	140+α	123	41		SK-318, 323, 324と重複
322	J-23	横円形(?)	直形	53+α	90	13		SK-321, 323と重複
323	I-23 J-23	横円形	直形	282	160	60		SK-321, 322, 324と重複
324	J-23	横円形	直形	222	106+α	52		SK-321, 323と重複
325	J-23, 24	横円形	直形	330	240	47		SK-319, 320, 326, 334と重複
326	J-24	不整形	直形	325+α	145+α	38		SK-325, 327, 334, 335と重複
327	J-24	横円形	直形	160	135	22		SK-326と重複
328	K-25 L-25	横円形	直形	330	170	59		SK-329と重複
329	K-24, 25	不整形	直形	440	350	94		SK-328, 330, 331, 332, 333と重複
330	K-25	円形	直形	86	85	30		SK-329と重複
331	J-25 K-25	横円形	直形	270	147	40		SK-329, 333, 337, 339と重複
332	K-24, 25	円形	直形	160	153	85		SK-311と重複
333	J-24, 25 K-24, 25	横円形	直形	257	183	60		SK-331と, 337重複
334	J-24 K-24	円形	直形	195+α	190	63		SK-325, 335と重複
335	J-24, 25	横円形	直形	318	200	48		SK-333, 334, 336, 338と重複
336	J-25	横円形	直形	200	185	40		SK-335, 337, 349と重複
337	J-25	不整形	直形	90+α	125	18		SK-331, 333, 336, 339と重複
338	J-24, 25	不整横円形	直形	216	140	55		SK-335, 336, 349と重複
339	J-25 K-25	横円形	直形	205+α	153	28		SK-331, 337, 343と重複
340	J-25	横円形	直形	102+α	120	33		SK-336, 342と重複
341	J-25, 26	横円形	直形	130+α	120	30		SK-342と重複
342	J-25, 26	横円形	直形	365	272	55		SK-340, 341, 343, 440, 441と重複
343	J-25, 26 K-25, 26	横円形	直形	250	185	36		SK-342と重複
344	H-24 I-24	横円形	直形	410	250	83	住居址(?)	SK-345, 346, 349と重複
345	I-24	横円形	直形	240	200	57	住居址(?)	SK-344, 346, 348, 349と重複
346	H-24, 25 I-24, 25	横円形	直形	310+α	360	96		SK-344, 345, 347, 348と重複
347	H-25	横円形	直形	200+α	115+α	30		SK-346, 348と重複
348	H-25 I-24, 25	横円形	直形	390	335	80	住居址(?)	SK-346, 347, 349と重複
349	I-24, 25 J-24, 25	横円形	直形	315	310	60		SK-338, 345, 348と重複
350	I-25 J-25	横円形	直形	160	153	40		SK-351, 352と重複
351	J-25	横円形	直形	170	84	38		SK-350と重複
352	I-25 J-25	長方形	箱形	140	115	85	墓壙	SK-350, 425と重複

第8章 K遺跡の記録

遺跡No	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
353	H-24, 25	楕円形	皿形	185	135	57		SK-354と重複
354	H-25	楕円形	皿形	170	80	33		SK-353と重複
355	F-24 G-24	楕円形	皿形	183	71	23		
356	F-24	楕円形	皿形	160	77	26		
357	F-24	楕円形	皿形	215	136	43		SK-366と重複
358	F-25	楕円形	皿形	218	108	40		
359	G-24, 25	不整形	皿形	137+α	155	40		SK-360, 361, 362と重複
360	G-24, 25 H-25	楕円形	皿形	150+α	115	38		SK-359, 362, 365と重複
361	G-24, 25	楕円形	皿形	208	150	48		SK-359, 362と重複
362	G-24, 25	不整形	皿形	160+α	110+α	28		SK-359, 360, 361, 364, 365と重複
363	F-24, 25 G-24, 25	楕円形	皿形	315	200	95		SK-364と重複
364	F-25 G-25	円形	皿形	390	330	63	住居址(?)	SK-362, 363, 410, 411と重複
365	G-25 H-25	楕円形	皿形	375	175	68		SK-360, 362, 408, 410と重複
366	E-24, 25 F-24, 25	円形	皿形	365	340	10.5	住居址(?)	SK-357, 367と重複
367	E-25 F-25	不整形	皿形	205	100+α	2.3		SK-366, 368と重複
368	E-25	不整楕円形	皿形	360	256	4.5		SK-367, 377と重複
369	E-24	楕円形	皿形	190	135	55		SK-370, 371と重複
370	D-24 E-24	楕円形	皿形	275	196	46		SK-369, 371, 372, 373と重複
371	E-24	楕円形	皿形	120+α	110	32		SK-369, 370, 373と重複
372	D-24 E-24	楕円形	皿形	140+α	75+α	45		SK-370, 374と重複
373	E-24, 25	楕円形	皿形	174	122	53		SK-370, 371, 374と重複
374	D-24, 25 E-24, 25	不整形	皿形	208	155	36		SK-372, 373と重複
375	E-26	楕円形(?)	皿形	208	80+α	65		SK-376と重複
376	E-26	楕円形	皿形	255	160	67		SK-375, 384と重複
377	E-26	楕円形	皿形	345	170	106		SK-368と重複
378	F-25, 26	楕円形	皿形	178	125	68	墓壙	
379	F-25	楕円形	皿形	125+α	95+α	5.5		
380	E-26 F-26	不整形	皿形	182	145	4.8		SK-381と重複
381	F-26	楕円形	皿形	220	180	33		SK-380と重複
382	F-25, 26 G-25, 26	円形	皿形	165	155	70		
383	E-27	楕円形	皿形	190	96	26		
384	E-27	不整形	皿形	230	80	30		SK-376と重複

5. 土壌状遺構

遺構No	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
385	F-26	楕円形	圓形	175	115	31		SK-390と重複
386	F-26 G-26	長椭円形	圓形	287	140	38		SK-387,388と重複
387	F-26 G-26	楕円形	圓形	215	145	33		SK-386,388と重複
388	G-26,27	楕円形	圓形	208+α	130	29		SK-386,387と重複
389	F-26,27	圓形	圓形	95	72	16		
390	F-26,27	不整形	圓形	250	118	33		SK-385,397と重複
391	E-27	楕円形	圓形	204	136	37		SK-392,396と重複
392	E-27	楕円形	圓形	180	100+α	30		SK-391,396と重複
393	E-27,28	楕円形(?)	圓形	140+α	110+α	23		SK-394と重複
394	E-28	楕円形	圓形	175+α	130+α	25		SK-393と重複
395	E-28	長椭円形	圓形	225	97	75	墓壙(?)	
396	E-27,28 F-28	長椭円形	圓形	370	155	48		SK-391,392と重複
397	E-26,27 F-26,27	楕円形	圓形	130	108	38		SK-390,398,399と重複
398	E-27 F-27	不整形	圓形	415	320	75		SK-397,399と重複
399	F-27	不整形	圓形	227	160+α	38		SK-397,398,400と重複
400	F-27 G-27	楕円形	圓形	200	155	53		SK-399,402と重複
401	G-27	不整形	圓形	177	103	40		
402	F-27 G-27	不整形	圓形	230+α	130	30		SK-400,404,405と重複
403	F-27,28	隅丸方形	圓形	150	160	55	墓壙(?)	SK-404と重複
404	F-27,28 G-27,28	楕円形	圓形	320	265	54	竹器址(?)	SK-402,403,405と重複 鑿石
405	G-27,28	不整形	圓形	155	115	48		SK-402,404,406と重複
406	G-27,28	不整形	圓形	300	150	58		SK-402,404,405,407 と重複
407	G-27,28	不整形	圓形	290	83	30		SK-406と重複
408	G-25,26 H-25,26	楕円形	圓形	170+α	110	20		SK-410,365,409と重複
409	G-26 H-26	楕円形	圓形	170+α	165+α	55		SK-410,415と重複
410	G-25,26	楕円形	圓形	228	85	63		SK-364,408,409,411 と重複
411	G-25,26	圓形	圓形	95	82	68		SK-410と重複
412	G-26	隅丸長方形	圓形	205	135	2.5	墓壙(?)	
413	H-25,26	楕円形	圓形	195+α	90	32		SK-417,420と重複
414	H-26	隅丸長方形	圓形	95+α	65	20	墓壙(?)	SK-415と重複
415	H-26	圓形	圓形	93	85	50	墓壙(?)	SK-409,414,416,417 と重複
416	G-26 H-26	楕円形	圓形	200	100+α	30		SK-417と重複

第8章 K遺跡の記録

遺跡No	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
417	H-26	楕円形	直形	325	150	52		SK-413, 415, 416, 418と重複
418	H-26, 27	楕円形	直形	260	165	56		SK-417, 419, 436と重複
419	H-26, 27	楕円形	直形	240+α	150+α	55		SK-418, 436と重複
420	H-25, 26	楕円形	直形	125+α	105	10		SK-413, 421と重複
421	H-26 I-26	楕円形	直形	160	105	42		SK-420, 422と重複
422	H-26 I-26	楕円形	直形	206	120	63	墓壙	SK-421, 424と重複
423	H-26 I-26	不整長方形	直形	185	130	117	墓壙	SK-424, 437と重複
424	I-26, 27	楕円形	直形	410	290	53		SK-422, 423, 425, 428, 437と重複
425	I-25, 26 J-25, 26	楕円形	直形	525	330	72	住居址(?)	SK-352, 422, 424, 426, 427と重複
426	J-25, 26	円形	直形	105	92	25		SK-425と重複
427	J-26	円形(?)	直形	105+α	160	32		SK-428, 438, 425と重複
428	I-26, 27 J-26, 27	円形	直形	315	250	63		SK-424, 427と重複
429	H-26, 27	楕円形	直形	210	100+α	45		SK-430, 431, 434と重複
430	G-27	楕円形	直形	250+α	305+α	67		SK-429, 431と重複
431	G-27, 28 H-27, 28	円形	直形	420	410	87	住居址(?)	SK-429, 430, 432, 433, 434と重複
432	H-27, 28	楕円形	直形	140+α	90	30		SK-431と重複
433	G-28 H-27, 28	楕円形	直形	200+α	130	46		SK-431と重複
434	H-27	楕円形	直形	250	105	23		SK-429, 431, 436と重複
435	H-27	円形	直形	142	90	28		
436	H-26, 27 I-26, 27	楕円形	直形	285	215	120		SK-418, 419, 434, 437と重複
437	I-26, 27	不整形	直形	265+α	280+α	40		SK-424, 436と重複
438	J-26, 27	楕円形	直形	300	170	67		SK-427, 440と重複
439	J-26, 27 K-27	円形	直形	166+α	180	40		SK-440と重複
440	J-26, 27 K-26, 27	楕円形	直形	335	245	55		SK-438, 439, 442と重複
441	J-26 K-26	不整形	直形	145+α	85+α	42		SK-342, 440, 442と重複
442	K-26	円形	直形	80+α	100+α	33		SK-440, 441, 457, 459と重複
443	I-27 J-27	楕円形	直形	340	240	52	住居址(?)	SK-444と重複
444	I-27, 28	小整形	直形	180+α	260	67		SK-443, 445, 446と重複
445	I-28	楕円形	直形	197	126	60		SK-444, 446と重複
446	I-28 J-28	小整形	直形	210	135	50		SK-445, 448, 449, 450と重複
447	I-27, 28 J-27	円形	直形	270	220	30		SK-443, 444, 448, 451, 452と重複
448	I-27, 28 J-27, 28	楕円形	直形	200	110	32		SK-446, 447, 449と重複

5. 土壌状造構

土壤No	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
449	J-28	円形	皿形	130	106	35		SK-446, 448, 450, 453と重複
450	J-28 J-28	楕円形	皿形	193	120	36		SK-449, 453, 458と重複
451	J-27, 28	楕円形	皿形	350	290	63		SK-447, 452, 456と重複
452	J-27, 28	楕円形	皿形	220	140	50		SK-451, 453, 456と重複
453	J-28	不整形	皿形	370	305	73		SK-450, 452, 454と重複
454	J-28 K-28	楕円形	皿形	85+α	115	20		SK-453, 557, 560と重複
455	J-28 K-28	楕円形	皿形	160	140	37		SK-456と重複
456	J-27 K-27, 28	楕円形	皿形	160	145	45		SK-451, 452, 455と重複
457	K-26	楕円形	皿形	340	235	72		SK-442, 458, 463と重複
458	K-27	楕円形	皿形	350	210	78		SK-457, 462, 463と重複
459	K-27	隅丸長方形	箱形	155	113	70	基壇	SK-461と重複
460	K-27	楕円形	皿形	133	76	16		
461	K-27	不整形	皿形	260+α	165+α	33		SK-458, 459, 462, 469と重複
462	K-27	楕円形	皿形	155	110	80		SK-458, 461, 466, 468, 469と重複
463	K-26, 27 L-26, 27	円形	皿形	305	300	108	住居址	SK-457, 458, 464, 466と重複
464	L-27	楕円形	皿形	190	125	30		SK-463, 465, 466, 467と重複
465	L-27	楕円形	皿形	172	105	43	基壇	SK-464, 467と重複
466	K-27 L-27	楕円形	皿形	97+α	105	10		SK-462, 464, 466, 468と重複
467	L-27	不整形	皿形	160+α	170+α	23		SK-464, 465, 466, 468, 470と重複
468	K-27 L-27	円形	皿形	110+α	95	18		SK-462, 466, 467, 469と重複
469	K-27 L-27	楕円形	皿形	210	160	47		SK-461, 462, 468, 469, 470, 554と重複
470	K-27 L-27	楕円形	皿形	70+α	88	47		SK-467, 469, 554と重複
471	L-26	隅丸長方形	箱形	145	116	98	基壇	
472	L-26	楕円形	皿形	180	130	30		SK-473, 474と重複
473	L-26 M-26	楕円形	皿形	185	135	30		SK-472と重複
474	L-26	楕円形	皿形	90+α	106	15		SK-472, 475と重複
475	L-26 M-26	楕円形	皿形	230	150	45		SK-474, 476, 477と重複
476	L-26 M-26	円形	皿形	147	120	53		SK-475と重複
477	L-26, 27 M-26, 27	長楕円形	皿形	240+α	80	40		SK-475, 479と重複
478	L-26	楕円形	皿形	130	105	18		
479	L-27 M-27	楕円形	皿形	298	136+α	36		SK-477, 480, 482と重複
480	L-27	楕円形	皿形	191	180	30		SK-479, 482と重複

第8章 K遺跡の記録

遺物No	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
481	L-27	楕円形	皿形	172	82	20		
482	L-27 M-27	楕円形	皿形	200	67	42		SK-479,480と重複
483	M-26	楕円形	皿形	165	130	23		
484	M-26	楕円形	箱形	102	68	50	基壇(?)	
485	M-26 N-26	楕円形	皿形	180	83	33		
486	M-26 N-26	楕円形	皿形	170	105	35		
487	N-26,27	円形	皿形	218	188	52		SK-488,491と重複
488	N-27	楕円形	皿形	95+α	95	35		SK-487,489と重複
489	N-27	不整形	皿形	190+α	108	38		SK-488と重複
490	N-26	楕円形	皿形	160	125	30		SK-492,493と重複
491	N-26,27	不整形	皿形	216	200	90		SK-487,492と重複
492	N-26,27 O-26	楕円形	皿形	335+α	260	76		SK-490,491,493,494と重複
493	N-26 O-26	楕円形	皿形	144	92	50		SK-490,492,494と重複
494	N-26 O-26,27	楕円形	皿形	320	215	98		SK-492,493,495と重複
495	O-26	楕円形	皿形	210	197	85		SK-289,494と重複
496	N-27 O-27	円形	皿形	130	115	38		SK-497と、498重複
497	N-27 O-27	円形	皿形	182	87	27		SK-496,498と重複
498	O-27	楕円形	皿形	330	176	45		SK-496,497,499と重複
499	O-27,28	楕円形	皿形	255	134	30		SK-498と重複
500	N-28 O-28	長楕円形	皿形	425	160	50		SK-501と重複
501	O-28	楕円形	皿形	130	53	33		SK-500,513,514と重複
502	M-27,28	楕円形	皿形	235+α	150	35		SK-503と重複
503	M-27	楕円形	皿形	153	120	48		SK-502,504と重複
504	M-27	楕円形	皿形	147	130	45		SK-503と重複
505	M-27 N-27,28	楕円形	皿形	270	190	50		
506	M-28	不整楕円形	皿形	201	182	50		
507	M-28	楕円形	皿形	90	62	15		
508	N-28	楕円形	皿形	185	127	45		
509	N-28	楕円形	皿形	165	120	28		SK-510,511と重複
510	N-27,28	楕円形	皿形	152	90	40		SK-509,511と重複
511	N-28	楕円形	皿形	365	226	88		SK-509,510,512,513と重複
512	N-28	楕円形	皿形	135+α	80	20		SK-511と重複

5. 土壌状遺構

遺構No.	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
513	N-28 O-28	楕円形	圓形	220	115	28		SK-501, 511と重複
514	N-29 O-28, 29	楕円形	圓形	330+α	210	61		SK-501, 515と重複
515	O-29	円形	圓形	160+α	145	62		SK-514, 516と重複
516	O-29	円形	圓形	100+α	115	33		SK-515と重複
517	O-29	不整形	圓形	200+α	130	28		
518	N-28, 29	楕円形	圓形	175	100	21		
519	N-28, 29	円形	圓形	135+α	135	30		SK-520, 521と重複
520	N-29	楕円形	圓形	105+α	110	32		SK-519, 521と重複
521	N-29	楕円形	圓形	150	73	34	墓壙(?)	SK-519, 520, 522, 523と重複
522	N-29	楕円形	圓形	215+α	90	47		SK-521と重複
523	N-29, 30	楕円形	圓形	360+α	260	72		SK-521, 524と重複
524	N-29, 30	不整形	圓形	200	165	63		SK-523と重複
525	N-30 O-29, 30	29, 30楕円形	圓形	370	170+α	88		SK-526, 527と重複
526	O-30	楕円形	圓形	150+α	130	45		SK-525, 527と重複
527	N-30 O-30	楕円形	圓形	185+α	115	80		SK-525, 526, 528と重複
528	O-30	円形	圓形	96+α	125	57		SK-527, 529, 530と重複
529	O-30	円形	圓形	128+α	150	26		SK-528, 530と重複
530	O-30	円形	圓形	170+α	173	58		SK-528, 529と重複
531	O-30, 31	不整形	圓形	170+α	275	50		
532	N-30, 31 O-30	楕円形	圓形	300	260	100		SK-525, 527と重複
533	M-29	楕円形	圓形	95	58	18		SK-534と重複
534	M-29	楕円形	圓形	157	80	30		SK-533と重複
535	M-28, 29	楕円形	圓形	140	95	35		
536	L-28	不整方形	圓形	123	115	32		SK-537と重複
537	L-28, 29	不整楕円形	圓形	110+α	88	19		SK-536と重複
538	L-29 M-29	楕円形	圓形	202	146	72	墓壙(?)	
539	M-29	楕円形	圓形	201	162	70		SK-540と重複
540	L-29 M-29	楕円形	圓形	200+α	157	61		SK-539と重複
541	L-29, 30	楕円形	圓形	155	110	43		SK-542と重複
542	L-29, 30 M-29, 30	不整楕円形	圓形	300	235	23		SK-541と重複
543	M-30, 31	楕円形	圓形	305	236	53		SK-544と重複
544	M-30, 31	楕円形	圓形	178+α	130	23		SK-543と重複

第8章 K遺跡の記録

遺物No	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
545	N-31 O-31	楕円形	楕形	180	88	82	墓壙	SK-545と重複
546	O-31	楕円形	皿形	265	153	62		SK-545と重複
547	N-31	楕円形	皿形	192	126	28		
548	N-31	不整楕円形	皿形	105	95	32		
549	N-31	楕円形	皿形	172	117	43		
550	N-31,32 O-32	楕円形	皿形	377	206	65		集石
551	L-28,29	楕円形	皿形	220	120+α	30		SK-552と重複
552	K-29 L-29	楕円形	皿形	350	160+α	67	住居址(?)	SK-551,553と重複
553	K-29 L-29	楕円形	皿形	383	325	53	住居址(?)	SK-552と重複
554	K-27,28 L-27,28	楕円形	皿形	330	185	37		SK-469,470,555,556と重複
555	K-28	楕円形	皿形	130+α	155	32		SK-554,556と重複
556	K-28	不整形	皿形	270+α	170+α	51		SK-554,555,557,558と重複
557	K-28	楕円形	皿形	320	190	46		SK-454,555,556,558,559,560と重複
558	K-28,29	楕円形	皿形	258	210	45		SK-556,557,559,561と重複
559	K-28,29	楕円形	皿形	175	110	45		SK-557,558と重複
560	J-28,29 K-28,29	楕円形	皿形	225+α	145	26		SK-454,557と重複
561	K-28,29 L-28,29	円形	皿形	116	110	20		SK-558と重複
562	K-29,30	楕円形	皿形	332	290	62	住居址(?)	SK-563と重複
563	J-29 K-29	楕円形	皿形	265	198	60	住居址(?)	SK-562と重複
564	J-29	楕円形	皿形	240	125	65		
565	L-29,30	楕円形	皿形	160+α	125	60		SK-566と重複
566	L-29,30	楕円形	皿形	182	80	60		SK-565と重複
567	L-30	楕円形	皿形	180	85	35		SK-568,569と重複
568	K-30 L-30	楕円形	皿形	140+α	108	33		SK-567と重複
569	K-30 L-30	楕円形	皿形	105+α	78	10		SK-507と重複
570	K-30	楕円形	皿形	150	80	28		
571	K-30	不整楕円形	皿形	230	150	47		SK-572と重複
572	K-30	不整楕円形	皿形	250+α	160+α	33		SK-571,573と重複
573	K-30	円形	皿形	123	120	70		SK-572と重複
574	L-30	不整楕円形	皿形	290	133	62		SK-577,578と重複
575	L-30 M-30	楕円形	皿形	167	100	33		
576	L-30,31	楕円形	皿形	215	134	35		SK-577と重複

5. 土壌状態表

測定No	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
577	L-30,31	不整形	皿形	120+α	73+α	40		SK-574,576,578と重複
578	L-30,31	楕円形	皿形	200	125	52		SK-574,575,579と重複
579	L-31	楕円形	皿形	346	170	68		SK-578,580と重複
580	L-31	楕円形	皿形	175	90	20		SK-579と重複 集石
581	J-30 K-30	楕円形	皿形	190	120	43		SK-582,583と重複
582	J-30	楕円形	皿形	175+α	167	28		SK-581,583と重複
583	J-30 K-30	楕円形	皿形	180	145	47		SK-581,582と重複
584	K-31	円形	皿形	90	80	30		
585	K-30,31	不整円形	皿形	134	118	46		
586	J-28,29	不整円形	皿形	105	85	12		SK-587と重複
587	I-28 J-28,29	楕円形	皿形	300	170	42		SK-586と重複
588	J-29	不整楕円形	皿形	135	80	26		
589	J-29	円形	皿形	70	65	12		
590	I-28,29	楕円形	皿形	180+α	298	72	住居址(?)	SK-591,595と重複
591	I-29 J-29	楕円形	皿形	340	300	103	住居址(?)	SK-590,592と重複
592	J-29	楕円形	皿形	310+α	140+α	78		SK-590,591と重複
593	I-28	不整形	皿形	150	126	33		SK-594と重複
594	I-28	不整形	皿形	160	100+α	36		SK-593,595と重複
595	I-28	楕円形	皿形	170	140	65		SK-590,594,596と重複
596	H-28 I-28	不整形	皿形	138+α	130+α	53		SK-595,597と重複
597	H-28,29 I-28,29	楕円形	皿形	158+α	165+α	76		SK-596,598と重複
598	H-29 I-29	楕円形	皿形	340+α	290	125		SK-592,597と重複
599	H-28,29	不整形	皿形	260	250	35		SK-600,601と重複
600	H-28	隅丸長方形	皿形	93	74	33	墓壙(?)	SK-599,601と重複
601	H-28,29	楕円形	皿形	130	95	56		SK-599,600,602,642と重複
602	G-28,29 H-28,29	楕円形	皿形	325	240	36	住居址(?)	SK-601重複
603	G-28	不整楕円形	皿形	256	129	35		SK-604と重複
604	F-28,29 G-28,29	不整楕円形	皿形	376	225	45		SK-603と重複
605	G-29	不整楕円形	皿形	244	115	28		SK-606と重複
606	G-29	不整楕円形	皿形	181	142	43		SK-605と重複
607	F-28	楕円形	皿形	220+α	132	20		SK-608と重複
608	F-28,29	楕円形	皿形	235	163	57		SK-607と重複

第8章 K遺跡の記録

遺物No	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	性 別	備 考
609	F-28	楕円形	皿形	135	78	38		
610	E-28 F-28	楕円形	皿形	130	110	31		
611	E-28, 29	楕円形	盤形	191	100+α	68	墓標(?)	SK-611と重複
612	F-28, 29	楕円形	皿形	130+α	155	58		SK-611と重複
613	E-29	楕円形	皿形	198	102	65		
614	E-29 F-29	不整楕円形	皿形	506	310	55	住居址(?)	
615	F-29, 30	不整楕円形	皿形	236	177	65		
616	E-30	円形	皿形	91	67	32		SK-617と重複
617	E-30	不整楕円形	皿形	265	206	57		SK-616, 619と重複
618	E-29, 30 F-30	不整楕円形	皿形	140	85	45		SK-619と重複
619	E-30 F-30	隅丸長方形	皿形	218+α	220	35		SK-617, 618と重複
620	E-30	楕円形	皿形	132	115	43		SK-621, 640, 641と重複
621	E-30 F-30	楕円形	皿形	235	165+α	53		SK-619, 620, 640と重複
622	F-30	不整形	皿形	175+α	165	50		SK-619, 621, 623と重複
623	F-30	楕円形	皿形	152	83	37		SK-615, 622, 624と重複
624	F-30 G-30	不整楕円形	皿形	230	150	30		SK-615, 623, 625と重複
625	F-30 G-30	楕円形	皿形	130+α	137	43		SK-624, 627, 630と重複
626	G-30	不整楕円形	皿形	360	260	50		SK-627と重複
627	G-29, 30	楕円形	皿形	250	213	83		SK-625, 626と重複
628	G-30	楕円形	皿形	120	77	55		SK-626と重複
629	G-30, 31	楕円形	皿形	284	144	70		SK-633, 634と重複
630	F-30 G-30	楕円形	皿形	155+α	105	47		SK-625, 632と重複
631	F-30, 31	不整形	皿形	190+α	140+α	37		SK-632, 638と重複
632	F-30, 31 G-30, 31	楕円形	皿形	323	182	75		SK-630, 631, 633と重複
633	F-31 G-31	楕円形	皿形	203	100+α	25		SK-629, 632と重複
634	G-31	楕円形	皿形	150+α	108	18		SK-629, 635と重複
635	G-30, 31 H-30, 31	不整楕円形	皿形	350	286	76	住居址(?)	SK-634, 636と重複
636	G-30 H-30	楕円形	皿形	312	200	46		SK-635と重複
637	F-31	隅丸長方形	皿形	142	87	25	墓標(?)	SK-638と重複
638	F-30, 31	楕円形	皿形	245	170	28		SK-621, 631, 637, 639と重複
639	F-30, 31	楕円形	皿形	150	130	55		SK-621, 638, 640と重複
640	E-30, 31 F-30, 31	楕円形	皿形	236	155	56		SK-620, 621, 639, 641と重複

5. 土壌状況

遺跡No	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
641	E-30, 31	不整形	皿形	230+α	170+α	23		SK-620, 640と重複
642	H-29	長方形	皿形	137	100	23	墓壙(?)	
643	H-29	不整長方形	皿形	180	108	32		
644	H-29, 30	長方形	盤形	165	75	30	墓壙	SK-636, 645と重複
645	H-29, 30	円形	皿形	290	250	40	住居址(?)	SK-644, 646と重複
646	H-30	楕円形	皿形	260	150	43		SK-645, 650, 653, 654と重複
647	I-29, 30	円形	皿形	240	240	47		SK-648, 649と重複
648	I-29, 30	楕円形	皿形	213	105	53		SK-647と重複
649	I-30	楕円形	皿形	220+α	190	40		SK-650, 652と重複
650	I-30	楕円形	皿形	355	185	57		SK-649, 651, 652, 655と重複
651	I-30	不整形	皿形	150+α	110	36		SK-650, 655と重複
652	I-30 J-30	円形	皿形	206	150	73		SK-649, 659と重複
653	H-30	不整楕円形	皿形	175+α	87	35		SK-646, 654と重複
654	H-30, 31 I-30, 31	楕円形	皿形	300	123	48		SK-646, 653と重複
655	H-31	長方形	盤形	137	120	67	墓壙	SK-656, 657と重複
656	H-31 I-31	不整形	皿形	345	260+α	42		SK-655, 657, 663と重複
657	I-31	不整形	皿形	220	190	33		SK-656, 669と重複
658	I-30, 31	楕円形	皿形	245+α	218	35		SK-651, 654, 655と重複
659	I-30 J-30	楕円形	皿形	283	150	30		SK-652, 660と重複
660	J-30, 31	楕円形	皿形	260	189	55		SK-659と重複
661	G-31 H-31	不整楕円形	皿形	295	180	37		SK-662と重複
662	H-31	楕円形	皿形	144	90+α	18		SK-661と重複
663	H-31	楕円形	皿形	180	125	50		
664	G-31, 32	楕円形	皿形	213	196	38		SK-665と重複
665	G-32 H-32	楕円形	皿形	385	330	60	住居址(?)	SK-666, 667と重複
666	H-32	楕円形	皿形	130+α	95	26		SK-665, 677と重複
667	G-32 H-32	円形	皿形	152	116	25		SK-665, 668と重複
668	G-32 H-32	楕円形	皿形	150	110	32		SK-667と重複
669	H-31 I-31	不整形	皿形	150+α	130	40		SK-657と重複
670	I-31	楕円形	皿形	210+α	238	55		SK-671, 672, 673と重複
671	I-31	楕円形	皿形	113	53	35		SK-670, 772, 773と重複
672	I-31, 32	不整形	皿形	220	127	46		SK-673, 675と重複

第8章 K遺跡の記録

遺構No.	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
673	I-31,32	橢円形	皿形	145+α	85	25		SK-670,671,672,674と重複
674	I-32	橢円形	皿形	210	150	42		SK-672,673,777と重複
675	I-32	橢円形	皿形	215	170	62		SK-672,676,677と重複
676	I-32	橢円形	皿形	175+α	145	26		SK-675,677と重複
677	H-32 I-32	不整形	皿形	305	130+α	53		SK-666,675,676,781と重複
678	J-30,31 K-30,31	橢円形	皿形	262	235	48		SK-679,680と重複
679	K-31	不整形	皿形	235+α	125+α	85		SK-678,680と重複
680	K-31	不整形	皿形	390	210	37		SK-678,679,744,748,749と重複
681	H-32,33 I-32,33	橢円形	皿形	382+α	255	42		SK-677,682,683,684と重複
682	H-33 I-33	橢円形	皿形	276	215	97		SK-681,683,791,957と重複
683	I-33	長方形	箱形	127	67	53	墓壙	SK-681,682,684と重複
684	I-32,33	橢円形	皿形	200	160	53		SK-681,683,685と重複
685	I-32,33	橢円形	皿形	195	106	37		SK-684と重複
686	E-31	橢円形	皿形	240	215	50		SK-687,688と重複
687	E-31,32 F-31,32	橢円形	皿形	240	190	47		SK-686,715と重複
688	E-31 F-31	不整橢円形	皿形	210	122	48		SK-686,687と重複
689	F-31,32	不整橢円形	皿形	240	113	58		
690	G-31,32	長橢円形	皿形	380	140	30		SK-695,696と重複
691	F-31,32 G-31,32	橢円形	皿形	360	165	48		SK-692,694と重複
692	F-31,32	橢円形	皿形	155	126	50		SK-691,693と重複
693	F-32	橢円形	皿形	136	97	40		SK-692と重複
694	F-32 G-32	橢円形	皿形	112	80	15		SK-691と重複
695	G-32	円形	皿形	78	68	13		SK-690と重複
696	G-32	円形(?)	皿形	94	57+α	17		SK-690,697と重複
697	G-32	円形(?)	皿形	90+α	100	32		SK-696,698と重複
698	G-32	円形	皿形	90	65	20		SK-697と重複
699	G-32,33	円形	皿形	276	220	70		SK-700と重複
700	F-32 G-32,33	橢円形	皿形	205	140	47		SK-699,701,702,706と重複
701	F-32 G-32	不整形	皿形	355	170+α	30		SK-700,702,718,719と重複
702	F-32,33	橢円形	皿形	200	145	43		SK-700,701,703と重複
703	F-32,33	不整形	皿形	162	141	22		SK-702,704,705と重複
704	F-33	橢円形	皿形	185	145	35		SK-703,705と重複

5. 土壌状造様

土壤No.	アリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
705	F-33	精円形	直形	150	90	20		SK-703,704,983と重複
706	G-33	精円形	直形	190	157	65		SK-700と重複
707	G-33	円形	直形	70	62	15		
708	G-33	円形	直形	115	115	25		
709	F-31,32	長楕円形	直形	340	100	70		
710	E-31,32	精円形	直形	170+α	140	23		SK-711,712と重複
711	E-32	精円形	直形	80+α	100	13		SK-710,712,713と重複
712	E-32	長方形	直形	95	81	58		SK-710,711,713と重複
713	E-32	精円形	直形	140+α	100	30		SK-711,712,714と重複
714	E-32	不整形	直形	386	140+α	35		SK-713,715,716と重複
715	E-32	精円形	直形	160	97	40		SK-714と重複
716	E-32 F-32	楕円形	直形	254	187	56		SK-714,717,793と重複
717	F-32	精円形	直形	210	135	80		SK-718,719と重複
718	F-32	楕円形	直形	195+α	130	73		SK-701,716,717,719と重複
719	F-32	不整形	直形	252+α	155	45		SK-701,717,718と重複
720	O-31	精円形	直形	132	85	30	基礎(?)	
721	O-31,32	不整椭円形	直形	91	54	40		
722	O-31,32	精円形	直形	233	150	38		
723	N-32	精円形	直形	145	100	18		
724	O-32,33	小整椭円形	直形	345	174+α	70		SK-725,726と重複
725	O-32,33	小整形	直形	210+α	230+α	80		SK-724,726と重複
726	O-33	精円形	直形	160	65	33		SK-724,725と重複
727	O-32	不整形	直形	160+α	60+α	10		SK-728,729と重複
728	O-32	精円形	直形	160	145	55		SK-727,729と重複
729	O-32,33	精円形	直形	216	80+α	53		SK-727,728と重複
730	N-32 O-32	精円形	直形	160	154	57		SK-731と重複
731	N-32,33	精円形	直形	230+α	110	38		SK-730と重複
732	M-32 N-32	精円形	直形	145	98	50	基礎(?)	SK-733と重複
733	N-32	精円形	直形	205	108	27		SK-732と重複
734	M-31,32	不整精円形	直形	260	155	30		SK-735と重複
735	M-31,32	精円形	直形	175	110	23		SK-736,737,738と重複
736	M-31	精円形	直形	150	83	30		SK-735,737と重複

第8章 K遺跡の記録

遺跡No	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
737	L-31, 32 M-31, 32	不整楕円形	直形	470	288	67	住居址(?)	SK-735, 736, 738, 739 と重複
738	M-32	楕円形	直形	260+α	125+α	45		SK-737, 739, 740と重複
739	L-32, 33 M-32, 33	不整形	直形	215+α	152	60		SK-737, 738, 740, 822 と重複
740	M-32	楕円形	直形	180	120	30	墓壙(?)	SK-738, 817と重複
741	L-31, 32	不整方形	直形	190	185	28		SK-742と重複
742	K-32 L-31, 32	楕円形	直形	216	175	42		SK-741, 743, 745と重複
743	K-31 L-31	円形	直形	113	105	36		SK-742, 744と重複
744	K-31, 32	不整楕円形	直形	310	170	42		SK-743, 745と重複
745	K-32	楕円形	直形	165+α	135	44		SK-742, 744と重複
746	L-32	不整円形	直形	277	246	44		SK-747, 751と重複
747	L-32	楕円形	直形	100	68	29		SK-746と重複
748	J-32 K-31, 32	円形	直形	130	116	43		SK-680, 749と重複
749	J-31, 32 K-31, 32	不整形	直形	185	123	62		SK-680, 748, 750と重複
750	J-31	楕円形	直形	150	113	52		SK-749と重複
751	K-32, 33 L-32, 33	楕円形	直形	300+α	150+α	13		SK-746, 752, 753, 754, 760, 762と重複
752	K-32, 33	楕円形	直形	172	130	32		SK-751, 753, 762と重複
753	K-33 L-33	楕円形	直形	126	95	28		SK-751, 752, 754, 756 と重複
754	L-32, 33	楕円形	直形	360	293	81	住居址(?)	SK-751, 753, 755, 756, 825と重複
755	L-33	楕円形	直形	150+α	105	35		SK-754, 756, 757と重複
756	K-33 L-33	楕円形	直形	190	140	16		SK-753, 754, 755, 757, 759と重複
757	K-33, 34 L-33, 34	楕円形	口形	220+α	215	24		SK-750, 755, 756と重複
758	K-33	円形	直形	130	115	42		SK-756, 757, 759と重複
759	K-33	楕円形	直形	267	200+α	31		SK-756, 757, 758と重複
760	K-32	不整形	直形	256+α	245+α	45		SK-745, 751, 761, 762 と重複
761	K-32	楕円形	直形	152	95	42		SK-760, 762, 764と重複
762	K-32	楕円形	直形	113	90	48		SK-760, 761, 763と重複
763	K-32, 33	楕円形	直形	240	228	52		SK-765, 766と重複
764	J-32 K-32	楕円形	直形	178	125	21		SK-761, 767と重複
765	K-32, 33	円形	直形	100	86	47		SK-762, 763, 766と重複
766	J-33 K-33	楕円形	直形	187	120	33		SK-763, 765と重複
767	J-32 K-32, 33	楕円形	直形	168+α	130	32		SK-764, 768, 782と重複
768	J-32, 33 K-33	円形	直形	56+α	85	34		SK-767, 782と重複

5. 土壌状況

試験No.	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
769	J-31	楕円形	皿形	160+α	108	65		SK-770,771と重複
770	J-31	楕円形	皿形	254	146	30		SK-769,771と重複
771	J-31	楕円形	皿形	253	183	50		SK-769,770,772と重複
772	I-31 J-31	楕円形	皿形	175	150	54		SK-771,773と重複
773	I-31,32 J-31,32	不整形	皿形	410+α	188	48	住居址(?)	SK-671,772と重複
774	J-32	不整楕円形	皿形	228	110	30		SK-770,775,777と重複
775	J-32	楕円形	皿形	197	135	38		SK-774,776,777と重複
776	J-32	不整楕円形	皿形	237	106	55		SK-767,775,777, 778,782と重複
777	I-32 J-32	楕円形	皿形	260	110	50		SK-674,773,776,778 と重複
778	J-32,33	楕円形	皿形	210	125	36		SK-776,777,780と重複
779	I-32,33 J-32,33	楕円形	皿形	180	110	45		SK-780と重複
780	I-33 J-33	楕円形	皿形	195	128	38		SK-778,779,781と重複
781	J-33	楕円形	皿形	190	74	17		SK-780と重複
782	J-32,33	円形	皿形	268	255	53	住居址	SK-767,768,776と重複
783	J-33	楕円形	皿形	97	71	20		
784	J-33	楕円形	皿形	122	92	34		
785	J-34	不整形	皿形	117	82	19		
786	K-33	楕円形	皿形	232	135	72	墓場(?)	SK-781,788と重複
787	K-33,34	楕円形	皿形	125	99	40		SK-786と重複
788	K-33,34	楕円形	皿形	131	80	40		SK-786と重複
789	H-32,33	不整形	皿形	140+α	130	28		SK-791と重複
790	H-33	楕円形	皿形	230+α	196	36		SK-791,792と重複
791	H-33	楕円形	皿形	390+α	190	22		SK-789,790,682と重複
792	G-33 H-33	不整楕円形	皿形	200	200	54		SK-790と重複
793	E-32,33	円形	皿形	124	100	15		SK-716,798と重複
794	E-33	楕円形	皿形	70	53	21		
795	E-33	楕円形	皿形	196	90	26		SK-798と重複
796	E-33	楕円形	皿形	165	140	50		SK-798と重複
797	D-32,33 E-32,33	楕円形	皿形	348	154	52		SK-796,992と重複
798	D-32 E-32,33	楕円形	皿形	430+α	290+α	48	住居址	SK-793,795,796, 797,799と重複
799	E-32	楕円形	皿形	125	134	33		SK-796,800,801と重複
800	E-32	楕円形	皿形	130+α	116	28		SK-799,801と重複

第8章 K遺跡の記録

遺構No.	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
801	D-32 E-32	不整形	皿形	182+α	55+α	18		SK-800と重複
802	O-33 P-33	不整橢円形	皿形	246	207	76		
803	O-33, 34	橢円形	皿形	232	145	53		
804	N-33 O-33	橢円形	皿形	104	75	25		
805	O-33	不整形	箱形	100	67	66	墓壙(?)	SK-806と重複
806	N-33 O-33	不整形	皿形	124+α	53	32		SK-805, 807と重複
807	N-33	橢円形	皿形	85	60	20		SK-806と重複
808	O-34 P-34	長方形	箱形	110	95	80	墓壙	
809	O-34	橢円形	皿形	175	104	50		
810	N-32, 33	不整形	皿形	127	60	34		SK-811と重複
811	N-33	不整橢円形	皿形	229	163	61		SK-810, 812, 813, 815, 817, 818, 827, 828と重複
812	N-33	長橢円形	皿形	180+α	110	48		SK-813, 816, 818, 827, 828と重複
813	N-33, 34	橢円形	皿形	195+α	127	48		SK-812, 813, 816, 818, 827, 828と重複
814	N-33	橢円形	皿形	81	69	27		
815	N-33	橢円形	皿形	124	78	56		SK-816と重複
816	N-33	橢円形	皿形	143	130	36		SK-811, 812, 813, 815, 827, 828と重複
817	M-32, 33 N-32, 33	不整橢円形	皿形	242	220	34		SK-740, 811, 818と重複
818	M-33	長橢円形	皿形	215+α	88	26		SK-740, 811, 817と重複
819	M-33, 34 N-34	不整形	皿形	294	280	84		
820	N-34	円形	皿形	145	143	50	墓壙(?)	SK-821と重複
821	N-34	橢円形	皿形	185	85	50		SK-820と重複
822	L-33 M-33	橢円形	皿形	147	105	49		SK-739と重複
823	M-33	不整橢円形	皿形	295	170	51		SK-824, 825と重複
824	L-33 M-33	不整形	皿形	305	260+α	60		SK-823, 825, 826と重複
825	L-33	不整橢円形	箱形	130	80	88	墓壙	SK-754, 823, 824と重複
826	L-33, 34	長方形	箱形	113	87	45	墓壙	
827	O-34 N-34	橢円形	皿形	250+α	160	24		SK-811, 812, 813, 816, 828と重複
828	O-34 N-34	不整円形	皿形	197	157	51		SK-827, 835と重複
829	N-34	橢円形	皿形	123+α	123	31		SK-830と重複
830	N-34	橢円形	皿形	100	80	50		SK-829と重複
831	N-34	橢円形	皿形	127	70	22		SK-832と重複
832	N-34	橢円形	皿形	96	53	28		SK-831と重複

5. 土壌状遺構

遺構No	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
833	O-35 P-35	横円形	箱形	215	137	108	墓壙	SK-835と重複
834	M-34	横円形	皿形	218	96	40		
835	O-34, 35 P-35	横円形	皿形	665	410	56	住居址(?)	SK-828, 833, 836, 837, 838, 843と重複
836	O-35	不整方形	箱形	130	118	84	墓壙(?)	SK-835と重複
837	O-35, 36	横円形	皿形	192	129	50		SK-835と重複
838	O-35, 36	円形	皿形	103	76	29		SK-835, 839と重複
839	O-36	横円形	皿形	174	137	24		SK-838, 840と重複
840	N-36 O-36	不整横円形	皿形	95	82	24		SK-839と重複
841	N-35, 36	横円形	皿形	155	105	25		SK-852と重複
842	N-35, 36 O-35	横円形	皿形	78+α	88	20		SK-841, 843と重複
843	N-35 O-35	横円形	皿形	184	139	71	墓壙(?)	SK-835, 841, 842, 844, 845と重複
844	N-35	円形	皿形	315	270+α	60	住居址(?)	SK-841, 843, 845と重複
845	N-35	円形	皿形	112	105	33		SK-844と重複
846	N-35	横円形	皿形	140	103	40		
847	N-34, 35	不整円形	皿形	202	162	45		SK-848と重複
848	M-34, 35 N-34, 35	精円形	皿形	307	184	77		SK-847と重複
849	M-34, 35	横円形	皿形	177	138	21		
850	M-34	不整精円形	皿形	183	132	41		SK-851と重複
851	L-34 M-34	横円形	皿形	260	162	43		SK-850と重複
852	N-36	円形	皿形	267	218	45		SK-841, 853と重複
853	N-36	横円形	皿形	90	70	23		SK-852と重複
854	M-36 N-36	横円形	皿形	165	120	20		SK-855, 895と重複
855	M-36 N-36	円形	皿形	80	78	23		SK-854と重複
856	M-36	円形	皿形	72	66	15		
857	M-36	円形	皿形	82	67	13		
858	L-36	円形	皿形	117+α	136	44		
859	L-35, 36	横円形	皿形	114	68	21		
860	M-36	小整形	皿形	140	105+α	33		SK-861, 863と重複
861	M-36	精円形	皿形	76	55	25		SK-860, 863と重複
862	M-36	円形	皿形	68	50	30		SK-863と重複
863	M-36	横円形	皿形	165	100	24		SK-862, 864, 865と重複
864	M-36	円形	皿形	72	61	32		SK-863, 865, 866と重複

第8章 K遺跡の記録

遺構No	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
865	M-36	円形	圓形	175	133	61		SK-863, 864, 866, 867と重複
866	M-35, 36	楕円形	圓形	105	65	38		SK-864, 867, 870と重複
867	M-35, 36 N-35, 36	楕円形	圓形	155	120	74		SK-865, 866, 868と重複
868	N-35	不整形	圓形	140	125	53		SK-867と重複
869	M-35	円形	圓形	150	120	46		SK-870と重複
870	M-35	不整形	圓形	115	90	28		SK-866, 869と重複
871	M-35	精円形	圓形	180	123	28		SK-872と重複
872	M-35	精円形	圓形	94+α	140	36		SK-871, 873と重複
873	M-35	精円形	圓形	247	112	68		SK-872と重複
874	M-35	精円形	圓形	85	46	18		
875	M-35	不整方形	矩形	81	80	67	墓壙	
876	M-35	円形	圓形	65	57	30		SK-877と重複
877	L-35 M-35	楕円形	圓形	156	120	60		SK-876と重複
878	L-35 M-35	円形	圓形	70	64	41		
879	L-35	精円形	圓形	145	90	26		SK-882と重複
880	L-35	長方形	矩形	64	42	38	墓壙	
881	L-35	円形	圓形	35	35	17		
882	L-35	円形	圓形	52	46	16		SK-879と重複
883	L-34	精円形	圓形	247	177	27		
884	L-34, 35 K-34, 35	不整椭円形	圓形	302	112	21		
885	L-34, 35	楕円形	圓形	117	82	22		
886	L-34, 35	精円形	圓形	87	58	32		
887	L-35	長方形	矩形	115	78	62	墓壙	
888	L-35 K-35	精円形	圓形	115	80	17		
889	L-35	楕円形	圓形	78	90	34		
890	L-35	精円形	圓形	240	92	39		SK-891, 892と重複
891	L-35	精円形	圓形	105	83	34		SK-890, 892, 893と重複
892	L-35 K-35	精円形	圓形	143+α	145	48	墓壙(?)	SK-890, 893, 907と重複
893	L-35, 36	精円形	圓形	200	152	26		SK-891, 892と重複
894	L-36, 37	精円形	圓形	208	123	44		SK-895と重複
895	L-37	不整形	圓形	70	48	22		SK-839, 854, 925, 927と重複
896	L-34 K-34	楕円形	圓形	250	180	114		SK-904と重複

5. 上模状造機

造機No	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
897	K-34	楕円形	皿形	90	58	53		SK-896と重複
898	J-34 K-34	楕円形	皿形	320	185	39		SK-897, 899と重複
899	J-34 K-34	楕円形	皿形	305	255	70		SK-898と重複
900	J-34	楕円形	皿形	55+α	63	12		SK-901と重複
901	J-34	楕円形	皿形	132	78	19		SK-900と重複
902	K-34, 35	長方形	箱形	116	98	71	基盤	SK-903, 904と重複
903	K-35	長方形	皿形	66+α	66+α	61	基盤(?)	SK-902, 904と重複
904	K-34, 35	円形	皿形	285	253	53		SK-902, 903, 905と重複
905	J-35 K-35	楕円形	皿形	417	150	42		SK-904, 906, 907, 908と重複
906	J-35 K-35	楕円形	皿形	205	155	33		SK-905と重複
907	K-35	楕円形	皿形	250	198	71		SK-905, 908と重複
908	K-35	円形	皿形	160	130+α	50		SK-905, 907と重複
909	K-36, 37	楕円形	皿形	136	102	31		
910	K-36, 37	円形	皿形	105	102	30		SK-911と重複
911	K-36, 37	楕円形	皿形	290	265	30		SK-910と重複
912	K-36	円形	皿形	72	56	12		
913	K-36	楕円形	皿形	85	57	18		
914	K-36	楕円形	皿形	160	142	22		
915	J-36 K-36	楕円形	皿形	185	145	19		
916	J-35 K-35	楕円形	皿形	84	70	24		
917	J-35, 36	楕円形	皿形	165	135	48		SK-918, 920と重複
918	J-36	楕円形	皿形	140	88	39		SK-917, 919, 920と重複
919	J-36	楕円形	皿形	155+α	150	28		SK-918, 920と重複
920	J-36	楕円形	皿形	220+α	160+α	18		SK-917, 918, 919と重複
921	J-36	楕円形	皿形	143	115	27		
922	J-36, 37	円形	皿形	130	115	31		SK-923と重複
923	J-36, 37	円形	皿形	105	100	21		SK-922と重複
924	J-37	楕円形	皿形	95	81	22		
925	J-37	長方形	皿形	240	160	54		SK-926と重複
926	J-37	楕円形	皿形	55+α	88	16		SK-925と重複
927	J-37	楕円形	皿形	143	140	62		
928	I-36, 37	方形	皿形	142	132	25		

第8章 K遺跡の記録

遺物No.	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
929	H-37 I-36, 37	円形	皿形	320	285	42	住居址(?)	SK-909と重複
930	I-37	円形	皿形	112	97	24		
931	H-37	円形	皿形	190	170	23		
932	H-36 I-36	楕円形	皿形	180	153	34		SK-933と重複
933	H-36 I-36	楕円形	皿形	100+α	93	27		SK-932と重複
934	H-36 I-36	長方形	楕形	102	68	27	基壙	
935	I-36	楕円形	皿形	210	165	17		
936	I-36	楕円形	楕形	90	70	48	基壙(?)	
937	I-36 J-36	不整形	皿形	395+α	290+α	44		SK-938, 942と重複
938	I-35, 36 J-35	楕円形	皿形	250	73	57		SK-937, 939と重複
939	I-25	楕円形	皿形	145	85+α	32		SK-938と重複
940	J-36	円形	皿形	65	56			
941	I-35 J-35	円形	皿形	137	105			
942	J-35, 36	円形	皿形	215	180	73		SK-937, 943と重複
943	J-35	楕円形	皿形	233+α	105+α	28		SK-942, 945と重複
944	J-35	楕円形	皿形	133	85	38	基壙(?)	SK-945と重複
945	J-35	不整形	皿形	210+α	140+α	54		SK-943, 944, 947と重複
946	J-35	円形	皿形	57	55	20		
947	J-34, 35	不整形	皿形	250+α	180+α	48		SK-944, 945と重複
948	I-34, 35	円形	皿形	110+α	95	16		SK-949と重複
949	I-34	楕円形	皿形	245	148	49		SK-948と重複
950	I-34, 35 J-34, 35	隅丸方形	皿形	150	135	52		SK-951と重複
951	I-34 J-34	隅丸長方形	皿形	305	260	43		SK-949, 950, 952と重複
952	I-34 J-34	楕円形	皿形	125+α	145	7		SK-951と重複
953	I-33 J-33	楕円形	皿形	155+α	106	34		SK-954, 957と重複
954	I-33 J-33	楕円形	皿形	172	112	27		SK-953, 955と重複
955	I-33	楕円形	皿形	112	65+α	25		SK-954, 956と重複
956	I-33	不整形	皿形	230	125	38		SK-955と重複
957	H-33 I-33, 34	長楕円形	皿形	495	225+α	84		SK-953と重複
958	H-33 J-33, 34	楕円形	皿形	240	135	41		
959	I-35	楕円形	皿形	166	96	37		
960	H-36 I-35, 36	円形	皿形	97	85	24		

5. 土壌状遺構

遺構No.	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
961	I-34	楕円形	皿形	192+α	87+α	15		SK-965と重複
962	H-34	円形	皿形	150+α	140	28		SK-961、965と重複
963	H-34, 35	楕円形	皿形	223+α	85+α	22		SK-964、965、966と重複
964	H-35	長方形	箱形	101	97	66	墓壙	SK-963、966と重複
965	H-34, 35 I-34, 35	不整形	皿形	570	380+α	21	住居址(?)	SK-961、962、963、964と重複
966	G-35 H-35	円形	皿形	100	90	35		SK-964と重複
967	H-35	楕円形	皿形	198	116	20		
968	H-36	円形	皿形	146	95+α	58		
969	G-35, 36 H-35, 36	円形	皿形	185	180	22		
970	H-36	楕円形	皿形	70	52	4		
971	G-35 H-35	楕円形	箱形	66	57	37		
972	H-34, 35	不整形	皿形	284	96+α	17		
973	G-33, 34	楕円形	皿形	180	95	34		
974	G-33	楕円形	皿形	87	60	17		
975	G-33, 34	楕円形	皿形	242	125	41	墓壙(?)	
976	F-34 G-34	楕円形	皿形	155	112	58		
977	F-34 G-34	楕円形	皿形	225	161	28		
978	F-34	楕円形	皿形	123	82	25		
979	F-34	楕円形	皿形	210	140	31		
980	F-33 G-33	楕円形	皿形	149	72	39		SK-981と重複
981	F-33	不整形	皿形	223	186	41		SK-980、982と重複
982	F-33	円形	皿形	70+α	83	12		SK-981と重複
983	F-33	楕円形	皿形	180	85+α	35		SK-703、984、985と重複
984	F-33	楕円形	皿形	210+α	105	35		SK-983と重複
985	E-33 F-33	円形	皿形	115+α	155	34		SK-983、986と重複
986	E-33 F-33	円形	皿形	137	108	19		SK-985と重複
987	F-34	楕円形	皿形	67+α	58	16		SK-988と重複
988	F-34	長方形	箱形	148	127	52	墓壙	SK-987と重複
989	E-34 F-34	楕円形	皿形	230-α	160	33		SK-990と重複
990	E-34 F-34	楕円形	皿形	90-α	90	6		SK-989と重複
991	E-34	円形	皿形	286	280	74	住居址(?)	
992	D-33	楕円形	皿形	115-α	150	35		SK-797、993と重複

第8章 K遺跡の記録

遺構No	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
993	D-33	楕円形	皿形	195	130	49		SK-992と重複
994	E-33	不整椭円形	皿形	175	116	29		
995	D-36	椭円形	皿形	95	56	15		
996	C-34 D-34	円形	皿形	84	80	47		
997	D-34,35	椭円形	皿形	190	120	42		
998	E-33	椭円形	皿形	110	65	36		SK-999と重複
999	E-33,34	椭円形	皿形	305	85	31		SK-998,1000と重複
1000	D-33,34 E-33,34	不整椭円形	皿形	245	208	66		SK-999と重複
1001	D-33,34 E-34	不整形	皿形	413+α	208+α	52		SK-999,1000,1013と重複
1002	E-34	長方形	箱形	56	48	40	墓壙	
1003	D-34 E-34	椭円形	皿形	298	175	69		SK-999,1001,1004と重複
1004	D-34,35 E-34,35	椭円形	皿形	228	95	82		SK-1003と重複
1005	G-34,35	不整形	皿形	95+α	114-α	8		
1006	F-34,35 G-34,35	椭円形	皿形	137	63	20		
1007	G-35	椭円形	皿形	72	52	19		SK-1008と重複
1008	G-35	長椭円形	皿形	228+α	110			SK-1007,1009,1010と重複
1009	G-35	椭円形	皿形	120	95	27		SK-1008,1011と重複
1010	G-35	椭円形	皿形	180	85	38		SK-1008と重複
1011	G-35	長方形	箱形	110	78	75	墓壙	SK-1008,1009と重複
1012	F-34,35	円形	皿形	107+α	97	20		SK-1013と重複
1013	E-35 F-35	円形	皿形	274	208	81		SK-1012と重複
1014	F-35	円形	皿形	465+α	290+α	16	住居址(?)	SK-1013,1015と重複
1015	F-35 G-35	椭円形	皿形	203	153	79		SK-1014,1018と重複
1016	F-35	椭円形	皿形	82+α	100	24		SK-1017と重複
1017	F-35,36	椭円形	皿形	282+α	150	35		SK-1018と重複
1018	F-35,36 G-35,36	椭円形	皿形	268	160	79		SK-1017と重複
1019	D-35 E-35	不整凹形	皿形	118	105	42		SK-1020と重複
1020	E-35	椭円形	皿形	105	60	30		SK-1019と重複
1021	E-35	椭円形	皿形	110	77	38		SK-1022,1023と重複
1022	D-35 E-35	椭円形	皿形	128+α	138+α	28		SK-1021,1023と重複
1023	D-35 E-35	小整椭円形	皿形	242	120	37		SK-1021,1022と重複
1024	G-36	椭円形	皿形	135+α	90	12		SK-1026と重複

5. 土壌状遺構

遺構No.	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
1025	G-36	楕円形	皿形	180	125	81		SK-1026, 1027と重複
1026	G-36	楕円形	皿形	205+α	180	38		SK-1024, 1025, 1027と重複
1027	G-36	楕円形	皿形	62+α	80	16		SK-1026と重複
1028	D-35, 36 E-35, 36	楕円形	皿形	122+α	115	22		SK-1029と重複
1029	E-35, 36	楕円形	皿形	132+α	125	30		SK-1028, 1033と重複
1030	E-36 F-36	不整形	皿形	140	130	39		SK-1031, 1032と重複
1031	F-36	楕円形	皿形	260	197	69		
1032	E-36 F-36	楕円形	皿形	270+α	168	43		SK-1030と重複
1033	E-36	楕円形	皿形	245+α	218	74		SK-1029, 1034と重複
1034	E-36	楕円形	皿形	190	135	55		SK-1033, 1036, 1040と重複
1035	E-36, 37	楕円形	皿形	208	157	31		SK-1036, 1037, 1038, 1039と重複
1036	E-36	楕円形	皿形	125	100+α	29		SK-1034, 1035, 1037と重複
1037	E-36	楕円形	皿形	105+α	60+α	19		SK-1035, 1036, 1039, 1041と重複
1038	E-37	円形	皿形	65	63	18		SK-1035, 1039と重複
1039	E-36, 37	円形	皿形	140+α	113+α	30		SK-1035, 1037, 1038と重複
1040	D-36	不整形	皿形	278	223-α	49		SK-1034, 1041, 1043と重複
1041	D-36, 37	不整形	皿形	230+α	155+α	38		SK-1040, 1042と重複
1042	E-36, 37	楕円形	皿形	135+α	92	17		SK-1041と重複
1043	D-36, 37	不整楕円形	皿形	235	175	54		SK-1040, 1041と重複
1044	H-36	円形	皿形	58	50	13		
1045	H-36	楕円形	皿形	78	62	33		
1046	H-36	椭円形	皿形	140	110	18		
1047	G-36 H-36	楕円形	皿形	180	120	23	基盤(?)	
1048	H-37	楕円形	皿形	134	108	42		
1049	G-36	楕円形	皿形	83	53	13		
1050	G-37	楕円形	皿形	75	45	37		SK-1051と重複
1051	G-36, 37	楕円形	皿形	265	186	45		SK-1050と重複
1052	F-36, 37 G-36, 37	楕円形	皿形	227	163	71		SK-1053と重複
1053	F-36, 37	楕円形	皿形	225+α	173	35		SK-1052と重複
1054	F-36, 37	楕円形	皿形	255	170	50		SK-1055, 1057と重複
1055	F-36, 37	不整形	皿形	80+α	75+α	15		SK-1054と重複
1056	F-37	不整形	皿形	260	200+α	42		

第8章 K遺跡の記録

遺構No.	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
1057	F-37	不整橢円形	皿形	225	210	60		SK-1054と重複
1058	F-37 G-37	楕円形	皿形	280	180	55		SK-1059と重複
1059	F-37 G-37	楕円形	皿形	215	145	50		SK-1058、1060、1061と重複
1060	F-37, 38 G-37, 38	不整橢円形	皿形	230	160	47		SK-1059、1062と重複
1061	G-37	円形	皿形	163	140	50		
1062	F-38 G-38	楕円形	皿形	145	90	27		SK-1060と重複
1063	G-37, 38	円形	皿形	108	100	23		
1064	G-38	不整形	皿形	180+α	155+α	13		
1065	G-38 H-38	楕円形	皿形	358	240+α	50	住居址(?)	SK-1066と重複
1066	G-38 H-38	円形	皿形	155	140	36		SK-1065、1067と重複
1067	G-38, 39 H-38, 39	円形	皿形	220	191	43		SK-1066と重複
1068	G-39 H-39	隅丸長方形	皿形	182	136	47	墓塚(?)	
1069	H-38 I-38	楕円形	皿形	176	115	43		SK-1070と重複
1070	I-38	楕円形	皿形	226	187+α	30		SK-1069と重複
1071	F-37, 38	不整形	皿形	275	192	36		
1072	E-38 F-38	楕円形	皿形	251	178	63		
1073	E-38 F-38	楕円形	皿形	175	110	18		
1074	E-37 F-37	楕円形	皿形	230	150	52		
1075	E-38 F-38, 39	不整長方形	皿形	232	224	57		
1076	F-38, 39	楕円形	皿形	332	210+α	57		SK-1077, 1078と重複
1077	F-38 G-38	不整形	皿形	325	240	113		SK-1076, 1078と重複
1078	F-38, 39 G-39	楕円形	皿形	285	140	58		SK-1076, 1077と重複
1079	G-39	不整形	皿形	83+α	65	18		
1080	E-37	楕円形	皿形	215	110+α	55		SK-1082, 1087と重複
1081	E-37	不整形	皿形	280	120+α	28		SK-1080, 1082と重複
1082	E-37	円形	皿形	275+α	235	65	住居址(?)	SK-1080, 1081と重複
1083	D-38	不整形	皿形	235	190	77		
1084	E-38, 39	楕円形	皿形	170	114	73		
1085	D-37	円形	皿形	240+α	225	43		SK-1086, 1087と重複
1086	D-37	不整楕円形	皿形	155+α	110	13		SK-1085, 1087と重複
1087	D-37, 38	楕円形	皿形	140+α	170	60		SK-1085, 1086, 1088と重複
1088	D-37, 38 E-37, 38	楕円形	皿形	253	200	57		SK-1087と重複

5. 土壌状態構

遺跡No	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
1089	C-36 D-36	椭円形	皿形	125	75	35		SK-1089, 1091と重複
1090	C-36, 37 D-36, 37	長方形	船形	127	79	82	墓壙	SK-1089, 1091, 1092と重複
1091	D-37	不整形	皿形	400	250	90		SK-1089, 1090, 1092と重複
1092	C-37 D-37	椭円形	皿形	233+α	188	46		SK-1090, 1091と重複
1093	D-37	不整形	皿形	153	80	78		
1094	C-38 D-38	椭円形	皿形	163	87	15		SK-1095と重複
1095	D-38	円形	皿形	85	74	17		SK-1094と重複
1096	D-38	円形	皿形	145	133	50		SK-1097, 1098と重複
1097	D-38	円形	皿形	73	55	30		SK-1096と重複
1098	D-38	不整円形	皿形	150	150	62		SK-1096, 1099と重複
1099	D-38	不整椭円形	皿形	233	190	65		SK-1098と重複
1100	D-38, 39	椭円形	皿形	120	93	5		
1101	D-38, 39	椭円形	皿形	88	66	13		
1102	D-38, 39	不整円形	皿形	115	113	16		
1103	I-40 J-40	不整形	皿形	205+α	160+α	40		SK-1104と重複
1104	I-40	椭円形	皿形	75+α	58	8		SK-1103, 1106と重複
1105	I-39, 40 J-39, 40	不整椭円形	皿形	165	115+α	26		SK-1106, 1107と重複
1106	I-39, 40	椭円形	皿形	100+α	75+α	27		SK-1104, 1105, 1107と重複
1107	I-39, 40	円形	皿形	215	195	60		SK-1105, 1106, 1108, 1109, 1110, 1111と重複
1108	I-39, 40	椭円形	皿形	150	78-α	33		SK-1107と重複
1109	I-39	椭円形	皿形	250	188	55		SK-1107, 1110, 1111, 1114, 1115, 1116, 1117と重複
1110	I-39	椭円形	皿形	190+α	120	52		SK-1107, 1109, 1111と重複
1111	I-39 J-39	不整形	皿形	200	185	35		SK-1107, 1109, 1110と重複
1112	I-39	椭円形	皿形	115+α	62	18		SK-1113, 1114, 1115, 1116, 1117と重複
1113	I-38, 39	円形	皿形	190	165+α	50		SK-1112, 1114, 1115, 1116, 1117と重複
1114	I-39	椭円形	皿形	210	135+α	65		SK-1109, 1112, 1113, 1115, 1116, 1117, 1118と重複
1115	H-39 I-39	円形	皿形	132+α	130+α	17		SK-1109, 1114, 1116, 1117と重複
1116	H-39	椭円形	皿形	170+α	171	85		SK-1109, 1112, 1113, 1114, 1115, 1117, 1118と重複
1117	H-38, 39 I-38, 39	円形	皿形	465+α	430	88	住居址(?)	SK-1109, 1112, 1113, 1114, 1115, 1116, 1118と重複
1118	H-39	椭円形	皿形	175	155	43		SK-1116, 1117と重複
1119	H-40	椭円形	皿形	115+α	70+α	16		
1120	H-40, 41 I-40	不整形	皿形	280+α	175	32		SK-1121と重複

第8章 K遺跡の記録

遺構No.	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種 岩	備 考
1121	H-40 I-40	橢円形	箱形	143	103	62	基壇(?)	SK-1120, 1123, 1136 と重複
1122	H-40 I-39, 40	橢円形	皿形	280	220	100		SK-1121, 1123と重複
1123	I-40	橢円形	皿形	150	116	32		SK-1121, 1122と重複
1124	I-40	方形	皿形	126	120	28		
1125	H-41 I-41	円形	皿形	376	297	73		SK-1126, 1129と重複
1126	I-40, 41	円形	皿形	185+α	188	40		SK-1125, 1127と重複
1127	I-41	円形	皿形	122	117	50		SK-1126, 1128と重複
1128	I-41	橢円形	皿形	170+α	132	32		SK-1127と重複
1129	H-41, 42 I-41, 42	橢円形	皿形	394	240	72		SK-1125, 1130と重複
1130	H-42 I-42	円形	皿形	190	167+α	50		SK-1129と重複
1131	F-39	橢円形	皿形	61	45	13		
1132	F-39, 40	橢円形	箱形	265	215	38	住居址(?)	
1133	G-39, 40	橢円形	皿形	280	135	71		SK-1132, 1136と重複
1134	G-39 H-39	橢円形	皿形	280	185	75		SK-1133と重複
1135	G-39	橢円形	皿形	280	175	50		SK-1134と重複
1136	G-39, 40 H-39, 40	橢円形	皿形	347	332	67		SK-1121, 1133, 1137, 1138と重複
1137	H-40	円形	皿形	200+α	215	35		SK-1136, 1138と重複
1138	G-40 H-40	不整形	皿形	150+α	93	30		SK-1136, 1137, 1139 と重複
1139	G-40 H-40	橢円形	皿形	442	245	62		SK-1138と重複
1140	E-39 F-39	不整形	皿形	283	256	70	住居址(?)	
1141	F-40	不整形	皿形	360	180	78		
1142	F-41	円形	皿形	105	80	20		
1143	F-41	不整形	皿形	110	105	13		
1144	E-39	円形	皿形	122	105	43		SK-1145と重複
1145	E-39	橢円形	皿形	197	143+α	22		SK-1144, 1146, 1147, 1148と重複
1146	E-39	不整形	皿形	232	132	82		SK-1144, 1145, 1148, 1150と重複
1147	E-39	橢円形	皿形	115	85	37		SK-1145, 1148, 1149 と重複
1148	E-39	橢円形	皿形	235+α	200+α	33		SK-1145, 1146, 1147, 1149, 1150と重複
1149	E-39, 40	不整形	皿形	225-α	165+α	17		SK-1146, 1147, 1148, 1150, 1151と重複
1150	E-39, 40	不整形	皿形	160-α	180			SK-1146, 1151と重複
1151	E-40	橢円形	皿形	205	88	32		SK-1149, 1150と重複
1152	E-40	橢円形	皿形	90-α	110	26		SK-1153と重複

5. 土壌状態

土壤No	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
1153	E-40	楕円形	皿形	175+α	155	45		SK-1152と重複
1154	D-39	円形	皿形	127	125	26		SK-1155と重複
1155	D-39	楕円形	皿形	100+α	95	13		SK-1154と重複
1156	D-39,40	楕円形	皿形	150	112	19		
1157	C-39,40	楕円形	皿形	163	130	40		
1158	D-40 E-40	楕円形	皿形	265	125	38		
1159	D-40,41	楕円形	皿形	80	48	26	基壇(?)	
1160	D-41	不整椭円形	皿形	133	90	23		
1161	D-41	長方形	箱形	73	52	24	基壇	
1162	D-41	楕円形	皿形	80	75	17		
1163	E-40,41	長方形	箱形	180	170	86	基壇	SK-1164,1168と重複
1164	E-41 F-41	楕円形	皿形	372+α	190	58		SK-1163,1165,1166と重複
1165	E-41 F-41	不整椭円形	皿形	295	190	20		SK-1164,1166と重複
1166	E-41 F-41	長方形	箱形	100	85	40	基壇	SK-1164,1165と重複
1167	E-40	不整椭円形	皿形	165+α	140	27		SK-1168と重複
1168	E-40,41	不整形	皿形	160+α	190	50		SK-1163,1167と重複
1169	C-41	楕円形	一部箱形	153	90	45	基壇(?)	
1170	C-41 D-41	楕円形	皿形	145	80	20		
1171	D-42 E-42	楕円形	皿形	240	142	28		
1172	D-42 E-42	不整椭円形	皿形	190	155	40		
1173	E-41,42 F-41,42	円形	皿形	277	260	71		
1174	E-41	円形	皿形	178	155	65		
1175	D-43	楕円形	皿形	150	110	25		
1176	D-42,43 E-42,43	不整椭円形	皿形	220	120	40		SK-1177と重複
1177	D-42,43 E-42	楕円形	皿形	127+α	170	30		SK-1176と重複
1178	F-42,43	不整椭円形	皿形	186	95	40		SK-1179,1180と重複
1179	E-42 F-42	楕円形	皿形	157	93	25		SK-1178,1180と重複
1180	E-42,43 F-42,43	楕円形	皿形	190	160	47		SK-1178,1179,1181,1182と重複
1181	E-42	不整椭円形	皿形	168+α	100	25		SK-1180と重複
1182	F-43	楕円形	皿形	112+α	77	30		SK-1180と重複
1183	E-43 F-43	不整椭円形	皿形	270	223	33		
1184	D-43 E-43	不整椭円形	皿形	123	115	25		

遺構No	グリット	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	備考
1185	M-15	不整円形	皿形	176	157	50		
1186	L-15	不整椭円形	皿形	164	105	37		
1187	L-15, 16 M-15, 16	不整長方形	皿形	266	226	70		

6. 集石遺構

集石遺構は調査区の東側のグリットに比較的集中して検出した。集石遺構の中には、構造上から明らかに炉址と考えられるものと、単に集石したもの、あるいは土壙中に廃棄されたような状態で集石したものがある。ただしこれら集石は焼石が多いことが注意される。本調査区で検出した炉址は二基で他は数ヶ所の集石が存在する。以下、炉址と集石について詳述する。

(1) 第1号炉址 (Fig.301-1)

E-35グリット西側で検出した炉址である。包含層の中位において検出したもので、残存状態は比較的良好である。炉の本体は長径74cm、短径63cm、深さ10cmの楕円形プランをなした皿状の掘り込み内に構築されている。石材はすべてが花崗岩で、径5~30cmの比較的小さな扁平礫26個を使用している。石材の約8%は加熱のため赤変している。この炉址は一見して集石のごとく見えるが、これはこの炉が廃棄される時に炉の中の消火のために周辺の小石、土砂を投げ入れられたためと考えられる。これら炉の内部の石材を取り除くと比較的良好な炉址であることがわかる。炉は凹みの中央部に径30cmの扁平な礫を配し、そのまわりに8個の扁平礫を傾斜をもって花弁状に配している。そして、さらにそのまわりに小石を配しているが、この部分の状態は良好でない。炉の内部には木炭片、灰が若干認められたが、周辺には灰、木炭等の広がりは認められない。

(2) 第2号炉址 (Fig.301-3)

P-30グリットに検出した炉址である。この炉址も第1号炉址同様に包含層の中位において検出した。残存状態は良好ではない。長径50cm、短径35cmの範囲に敷石をしたもので周囲に掘り込み等の施設はない。敷石の上には若干の小石が積まれて集石遺構的であるが、敷石はしっかりとしたもので炉址と考えることができる。炉は径5~20cmの花崗岩の川原石を用いたものである。石は加熱のため赤変している。敷石の上部や間に若干の木炭片、灰等を検出した。

以上2基の炉はF遺跡で分類した分類に従えば1号炉址はII類型に、2号炉址はI類型にはいるものである。

(3) 集石遺構 (Fig.301-2)

図に示したのはF-28グリットに検出した集石遺構である。図のように一部に掘り方をもち炉址の半壊したものと考えられるものと明らかに土壙内に投棄された例がある。半壊された考えられるは図示した1例である。

6. 集石造構

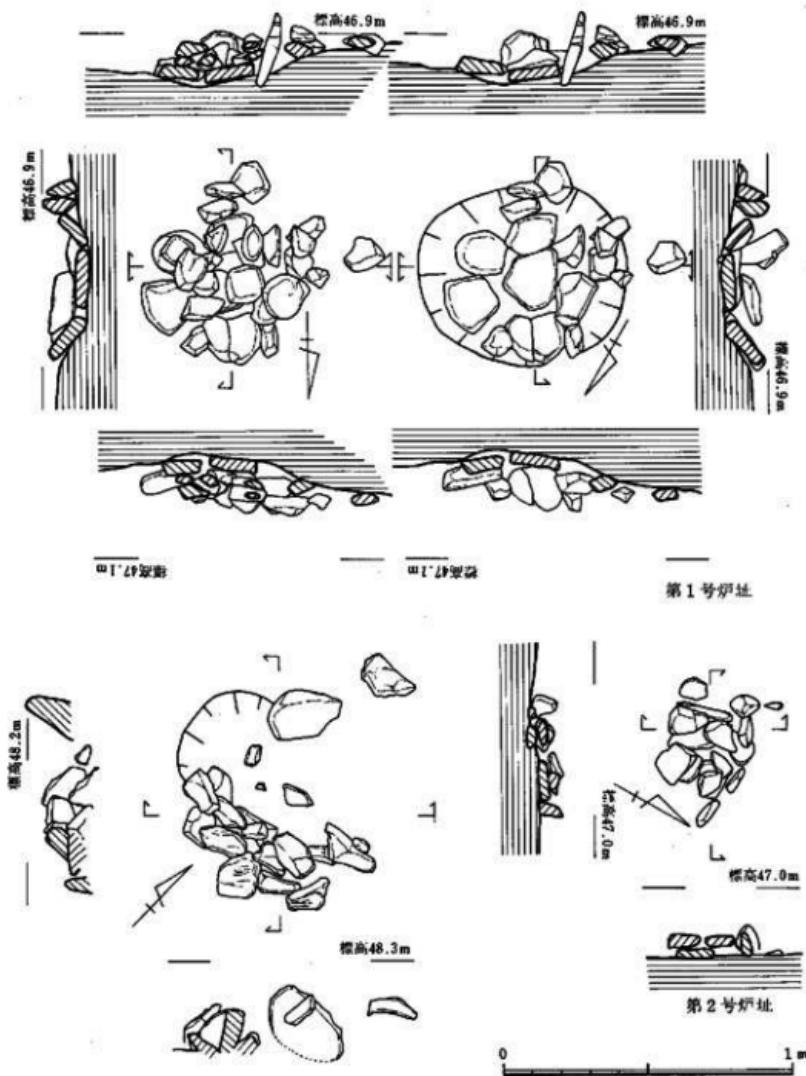


Fig. 301 集石造構火洞圖

7. 出土遺物

出土遺物は土器、石器が主で、木炭片を除いて自然遺物の出土はない。遺物は時間的制約、紙数の関係と整理が充分でないため、代表的な資料を提示し、詳細は縦密な分析の結果、再論したいと考えている。

(1) 出土土器 (Fig.302~324)

本遺跡から出土した土器は出土位置を記録した総点数が20637点で、その他中世遺構や搅乱部から出土したものを入れるとその点数はさらに増加する。時期的には草創期、早期、前期、中期、晩期の土器が存在するが、量的には早期土器が圧倒的に多く、中・晩期土器は量が少ない。図示した土器実測図は各時期の代表的なものである。紙面の関係上、その概略を説明しておく。

Fig.302は草創期・早期の土器である。1~3は口縁部下に刺突文をめぐらし、その下位に粘土貼付文をつけた土器で地文として条痕がつけられている。E遺跡で良好な資料が出土している、草創期までさかのばる土器とみられる。4~9は無文ないしは条痕文の上器で早期押型文土器に伴出するものとみられる。Fig.303~10~28は無文土器である。層位的にも押型文土器に先行する一群である。SK-135、140、159より単純に出土している。器壁の薄い小型土器と厚い大型土器がある。押型文土器に先行する無文土器の一時期があることを確認できたのは大きな成果である。Fig.304~29~57はベルト施文の押型文土器の一群である。57の横円文を除いて他はすべてが山形文である。ベルト施文はすべてが横走である。胎土は良質で器壁は薄い。小型品が多い。Fig.505~65~72、85~87は同一土器に二種の原体を使用した土器の一群である。65~72、85は山形文と横円文を交互に横走施文し、口縁部内面も同様の文様施文を行なっている。86、87は格子目文と撚糸文を交互に横走施文する。格子目文は本遺跡ではこの二点のみである。Fig.304~58~64、Fig.305~73~84、Fig.306~88~107、Fig.307~108~116、Fig.310~141~145は外面に山形押型文を横走施文し、口縁部内面にも同一原体によって帯状に横走施文する土器の一群である。東九州の稻荷山式土器に対比できる。器壁は比較的薄い。山形文原体は二単位のものが多く、鍛く小さい山形文とやくずれた大き目の山形文の二種類がある。Fig.308、309は外面に横円押型文を横走施文し、内面は無文ないしは口縁部内側に帯状に横走施文する土器の一群で、前者同様に稻荷山式土器に対比できるものである。横円文には一単位の文様が非常に小さいものとや大きいものの二種類がある。Fig.311~148、149、151、153、Fig.312~157~164、174~178は外面に山形押型文を横走施文し、口縁部内面に縦位の凹線(原体条痕)を施し、その下位に山形文を横走施文する一群である。東九州の早水台式土器に対比できる。148の土器は口縁部分が大きく外反し、早水台式土器の中では異質であり、注意すべきものである。Fig.313、314~186、197は外面に横円押型文を横走施文し、口縁部内面に縦位の凹線(原体条痕)を施文し、その下位に横円文を横走施文する一群で、前者同様に早水台式土器に対比

7. 出土遺物

できる。Fig.311-150, 152, 154-156は外面に直線の押型文を縱走施文し、口縁部内面には縱位の横線（原体条痕）を施し、その下位に直線の押型文を横走施文している一群である。量的には少ないが、特異な押型文である。時期的には東九州の下菅生B式土器に対比できる。Fig.312-165-171は外面に山形文を斜走施文し、口縁部内側には縱位の凹線（原体条痕）を施し、下位に山形文を横走施文する一群である。Fig.314-187, 191は外面に椿円文を横走施文し、内面に縱位の凹線（原体条痕）を施文する。Fig.310-146, 147, Fig.314-189, 190, 193, 196は外面に椿円文を縱走施文し、内面は縱位の凹線（原体条痕）のみのもの、原体条痕の下位に横走施文したもの、横走施文のみのものにわかれ。Fig.314-192, 194, 195は口縁部外面に椿円文を一条横走施文し、その下位は椿円文と縱走施文する。内面は口縁部に縱位の凹線を施したものと、さらに椿円文を横走施文する二種類がある。以上の土器はいずれも下菅生B式土器に併行するものであろう。Fig.315-198-200は同一個体である。口縁部がわずかに外反し、胴部は円筒状をなす。外面には一単位の大きな山形文を縱走施文し、口縁部内面には同一原体の山形文を横走施文している。202-206は山形文を横走施文したものであるが、胴部破片のため所属時期は不明。Fig.316, Fig.317-215-228は燃糸文土器あるいはそれに類する土器の一群である。小型品と大型品の二種が存在する。器形も口縁部がやや外反するもの、直口するものなど変化に富んでいる。押型文土器に共伴すると考えられるが、正確には分析結果まちである。Fig.317-214は口縁部外面に貝殻腹縁を縱位に押圧した、いわゆる円筒土器である。本遺跡では本例1点のみである。Fig.318, 319は遺跡を横断する自然河川より出土した前期の轟B式土器である。器壁は薄く、内外面に丁寧な貝殻条痕が施される。刺突文、隆起線文および両者の併用で文様施文が行なわれる。器形は口縁部が開き、胴部で屈曲するものである。後述する土器と層位関係が把握できたことは大きな成果である。Fig.320, 321-292は上層より出土する轟式土器で、底部は丸底で体部は円筒状をなしている。器壁は薄いが、体部の条痕はナデ消される傾向にある。形式的差が存在する。Fig.321-291は器壁の薄い条痕文土器で口縁部に押圧があり、波状の口縁を形成する。Fig.322-321は隆線文、列点文および沈線で文様施文する。Fig.322-293-320は阿高式土器破片である。いずれも同一個体と考えられる。器壁は薄く、胎土に滑石を混入している。Fig.323, 324は晩期土器である。322-326は突帯文以前の上器で北部九州における黒川式土器の良好なセットとみることができる。326は器面は条痕調整後ナデ消している。Fig.327-331は刻目突帯文土器で量的には少ない。

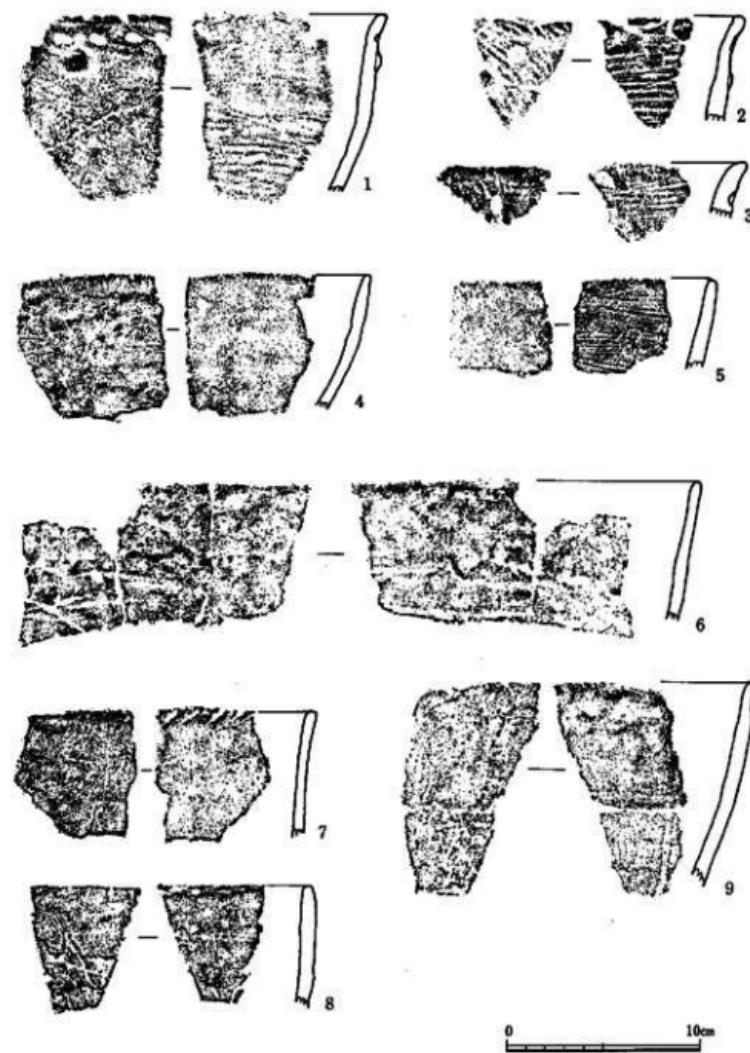


Fig. 302 出土土器実測図 I

7. 出土遺物

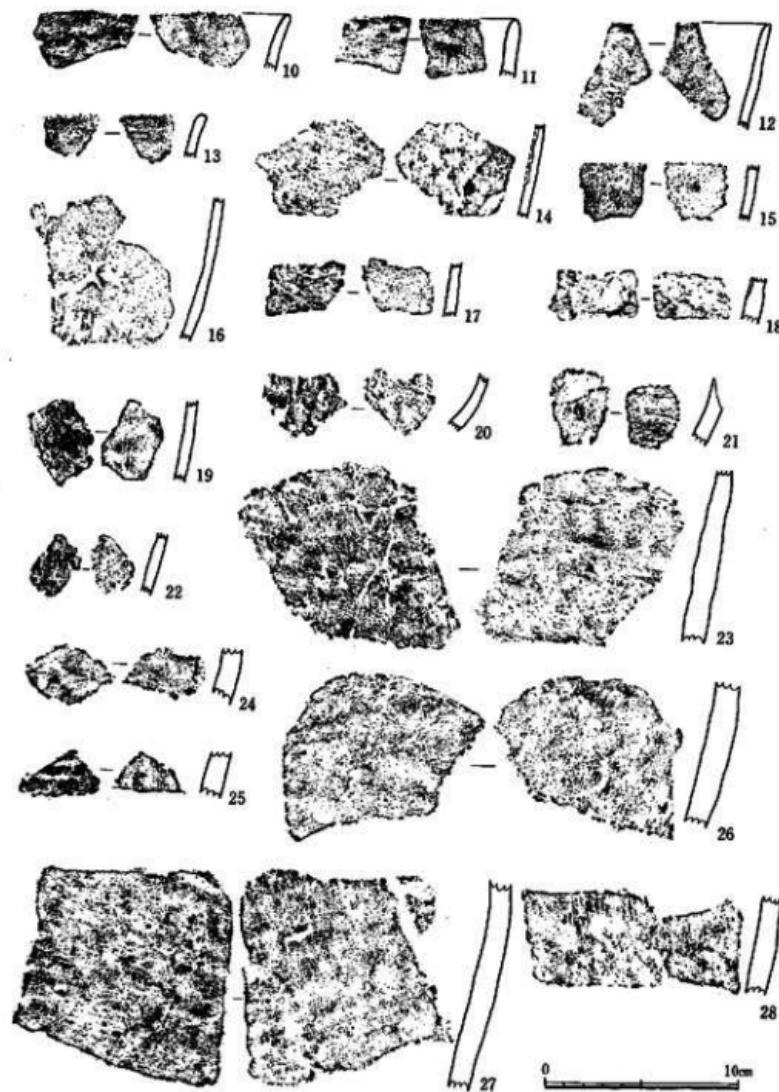


Fig. 303 出土上器尖測圖 II

第8章 K遺跡の記録

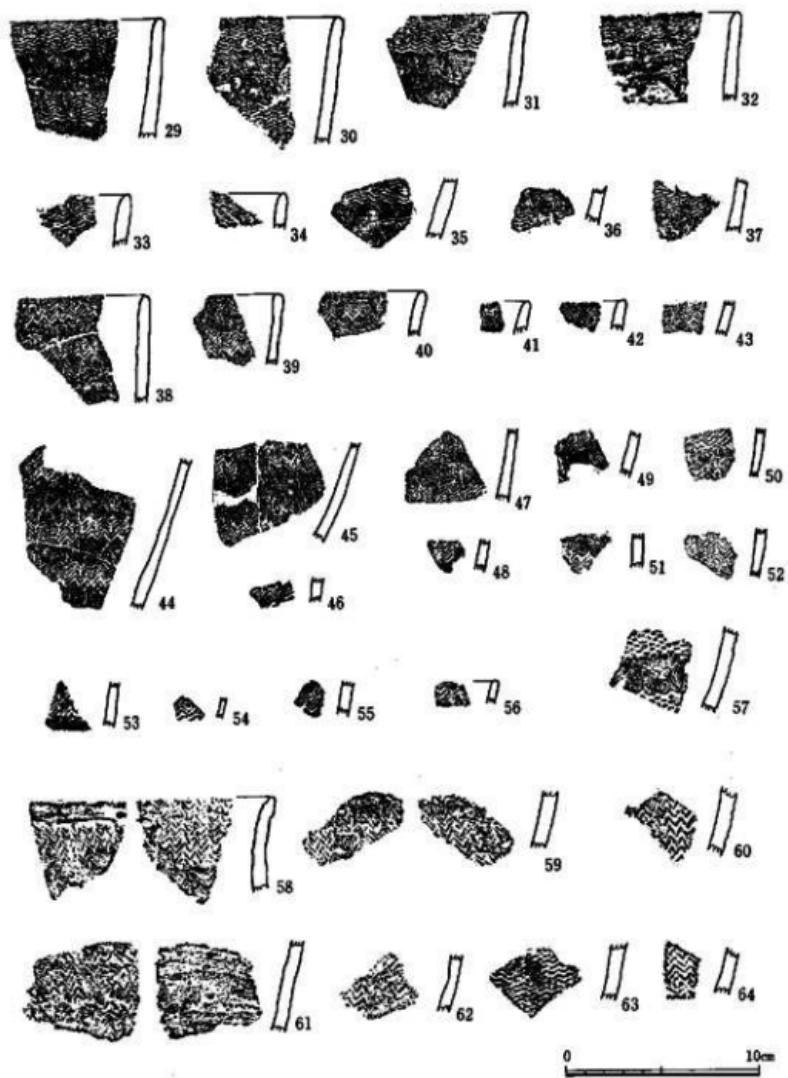


Fig. 304 出土土器実測図III

7. 出土遺物

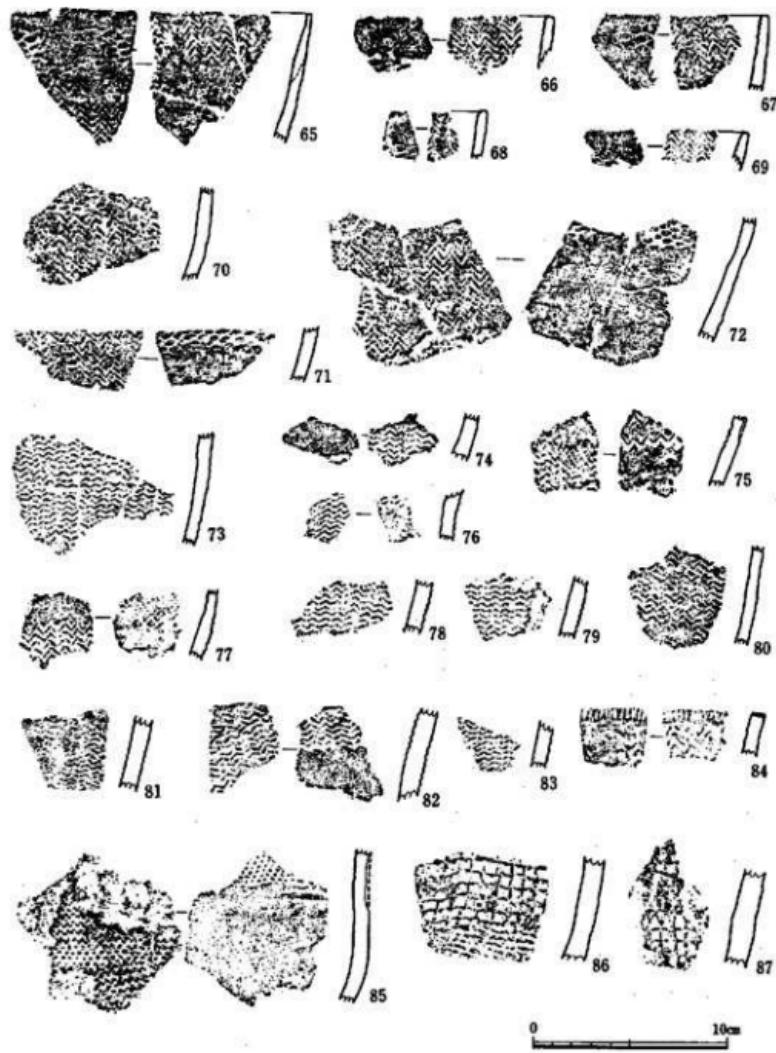


Fig. 305 出土土器尖端圖 N

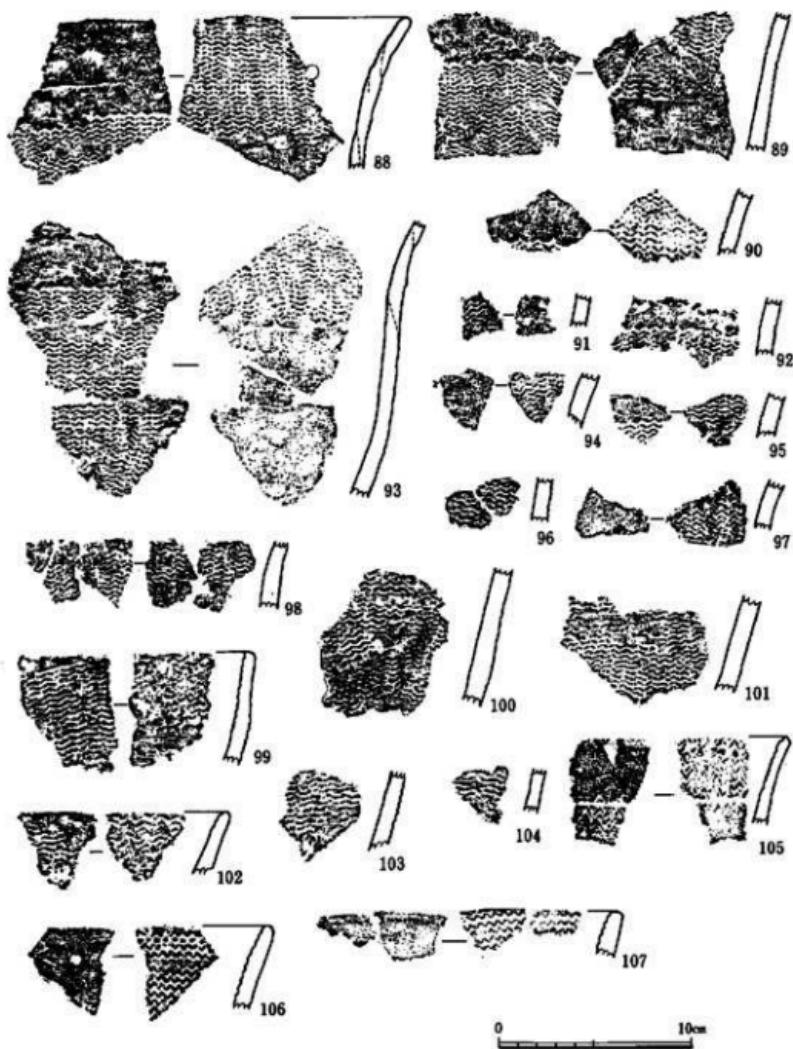


Fig. 306 出土土器実測図 V

7. 出土遺物

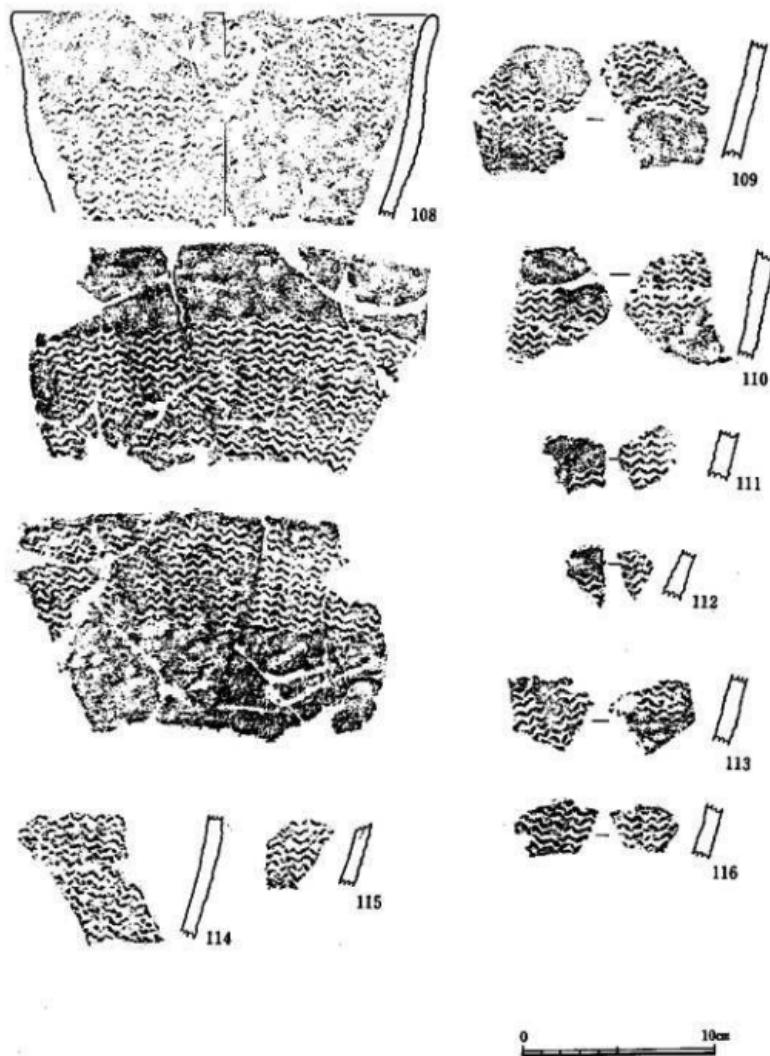


Fig. 307 出土土器実測図VI

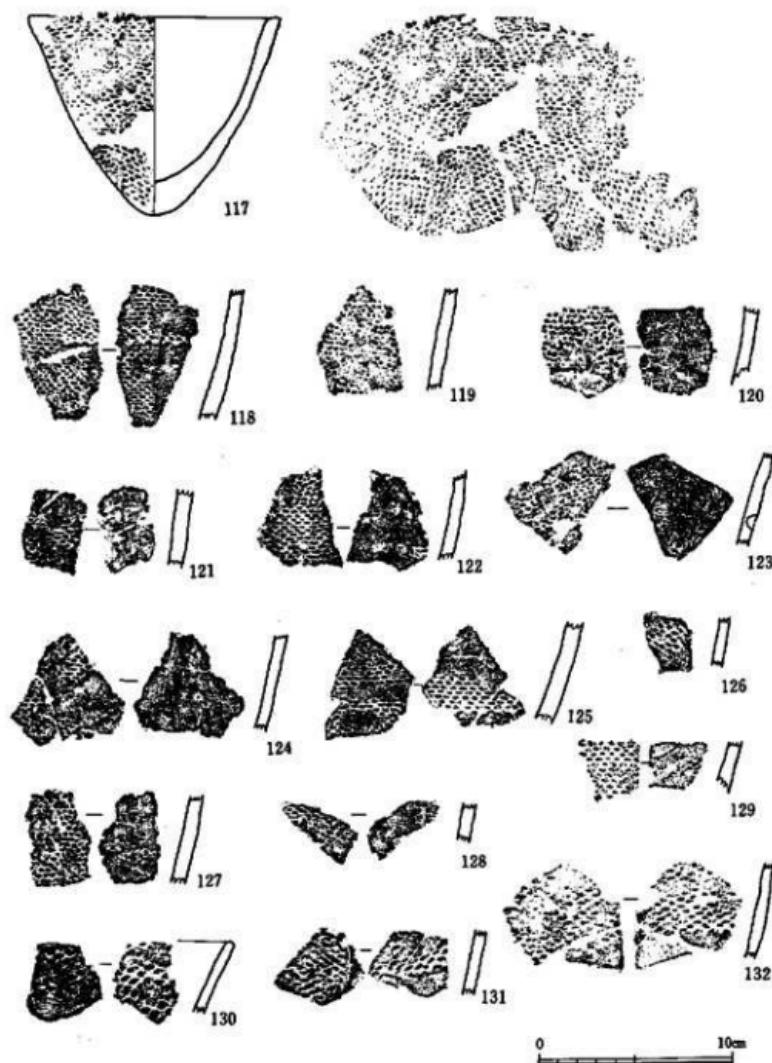


Fig. 308 出土土器実測図面

7. 出土遺物

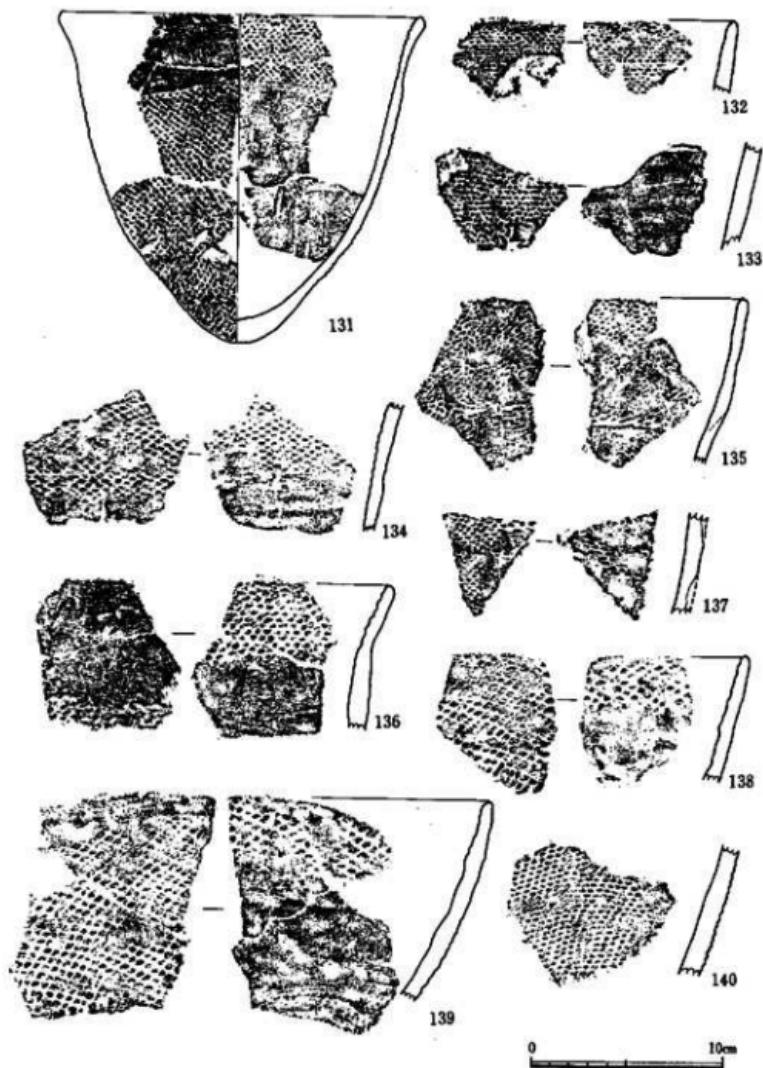


Fig. 309 出土石器実測図版

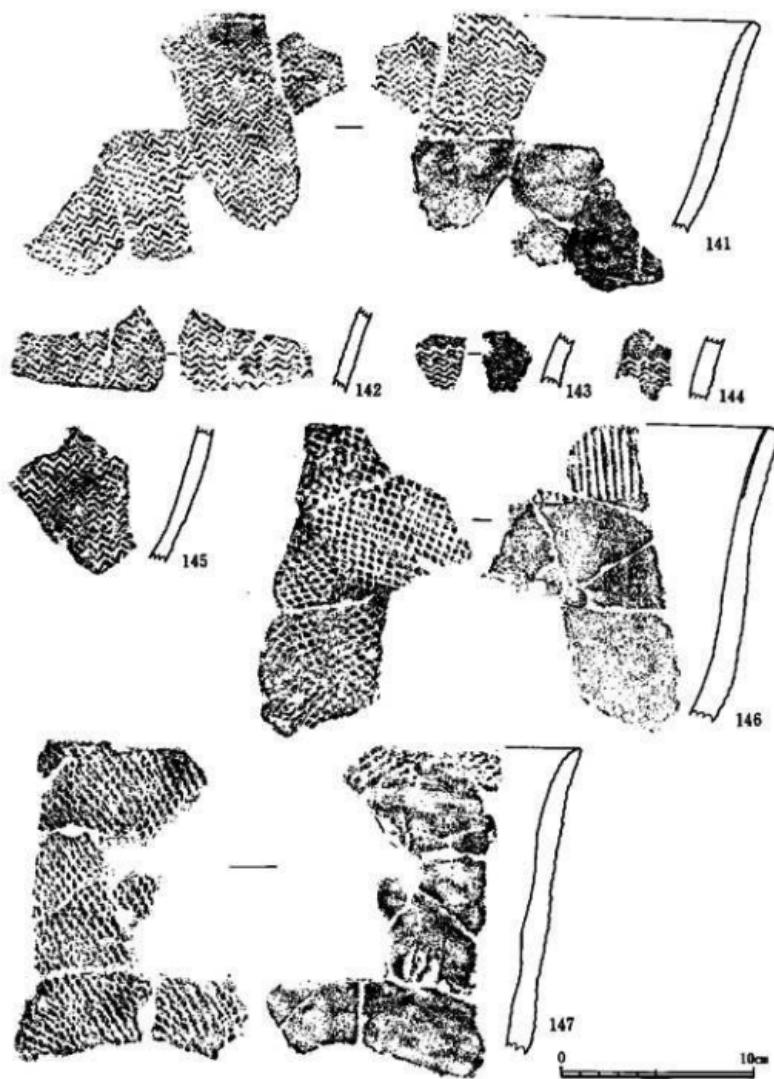


Fig. 310 出土土器実測図面

7. 出土遺物

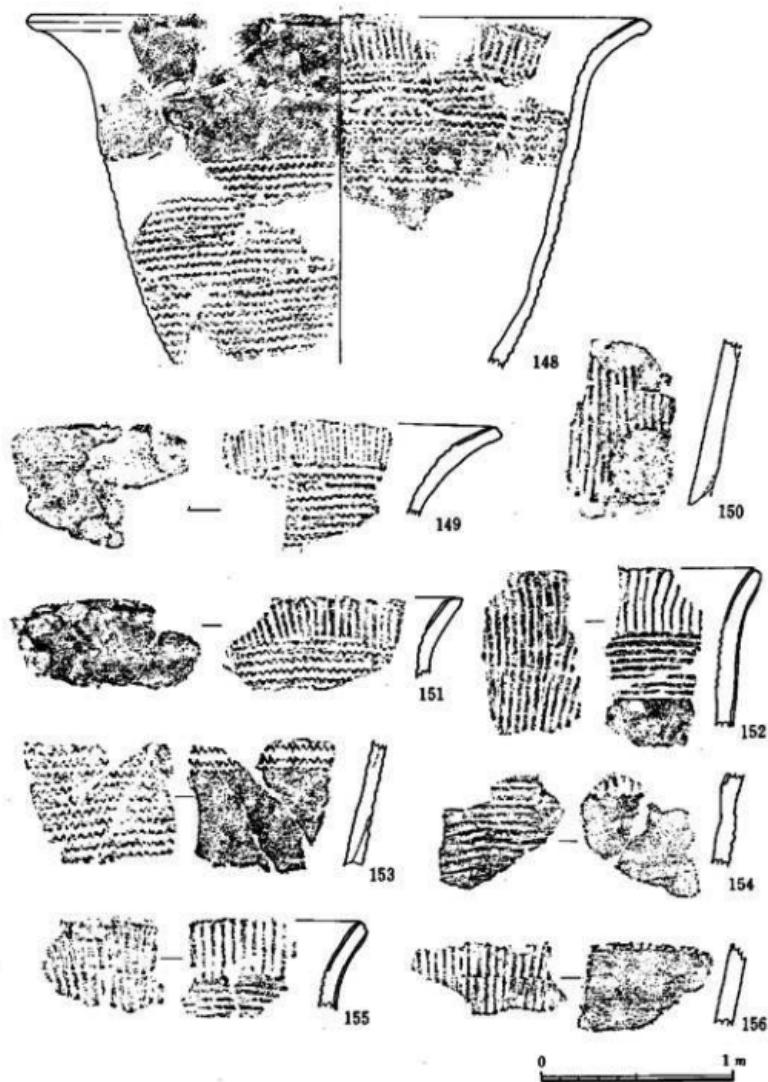


Fig. 311 出土土器尖測図 X

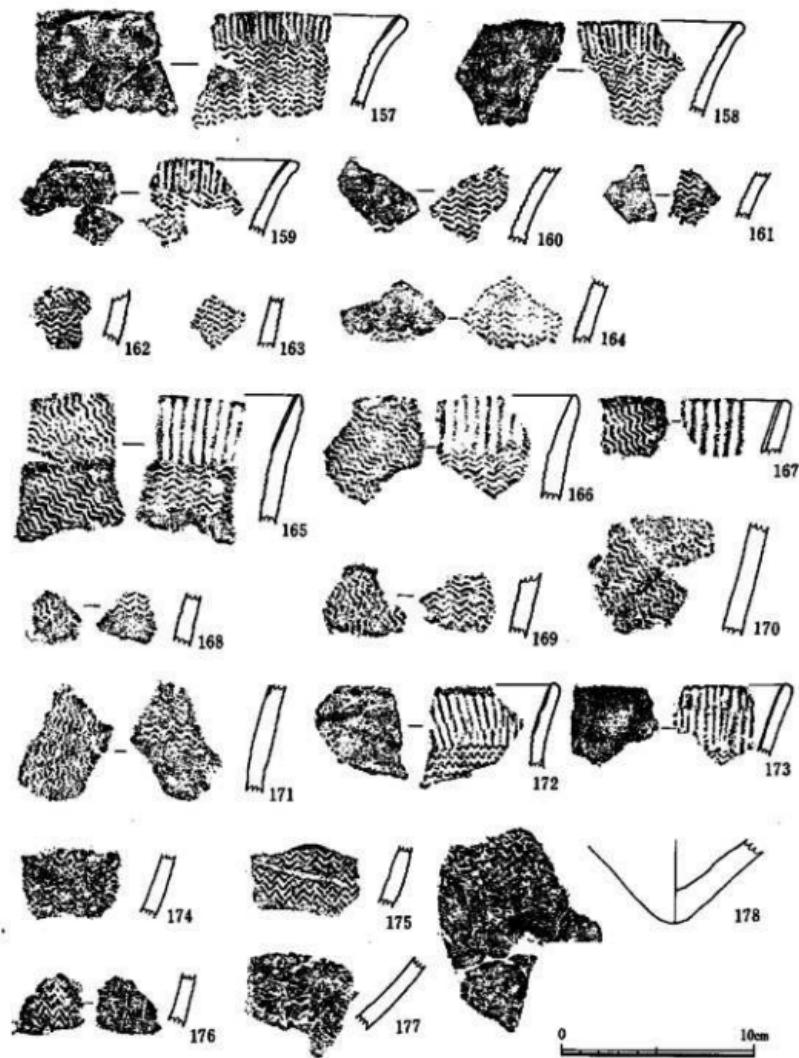


Fig. 312 出土土器実測図

7. 出土遺物

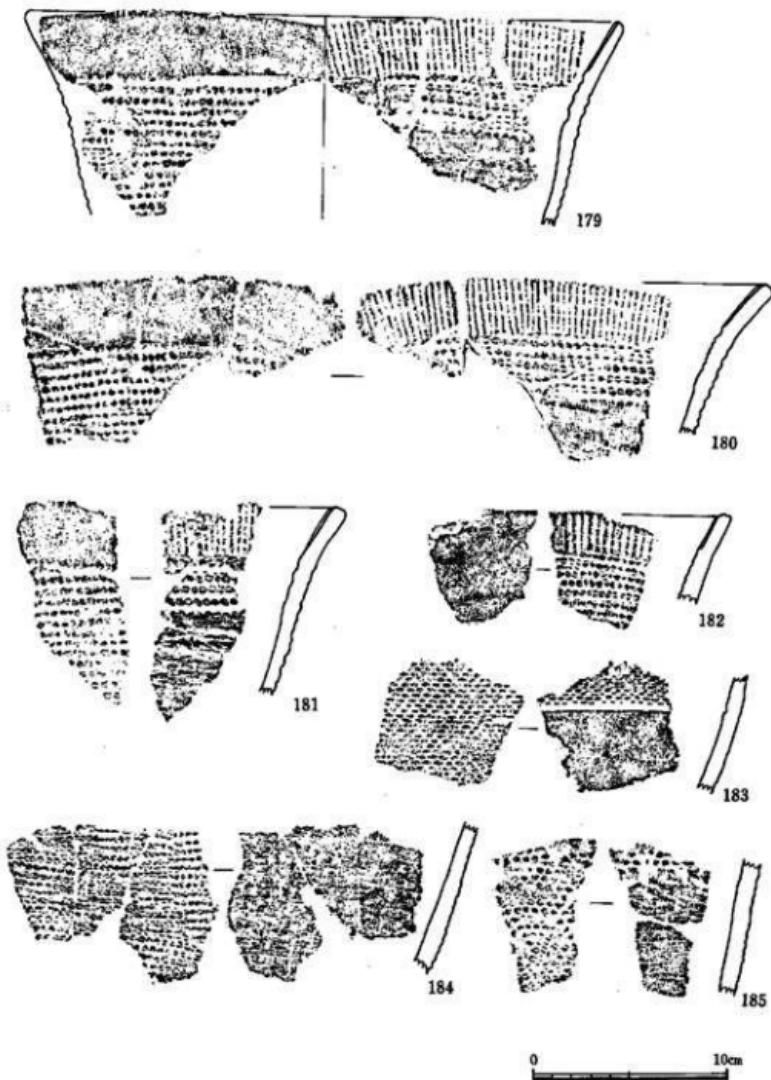


Fig. 313 出土上器火制図

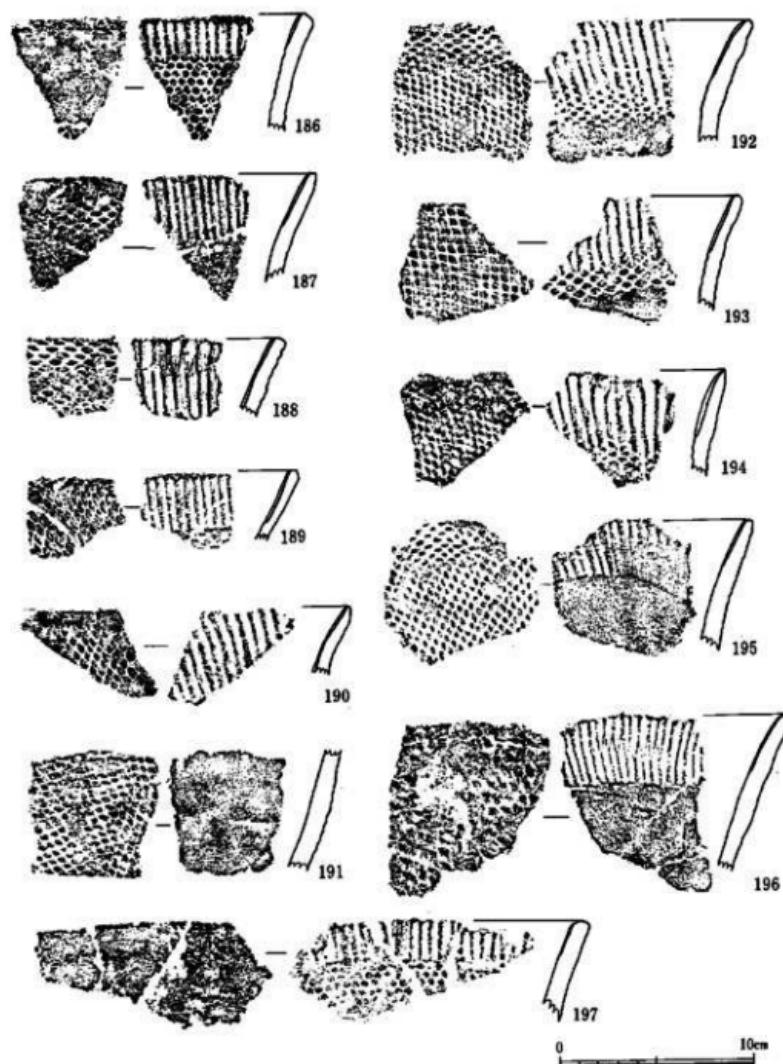


Fig.314 出土土器実測図 XIII

7. 出土產物

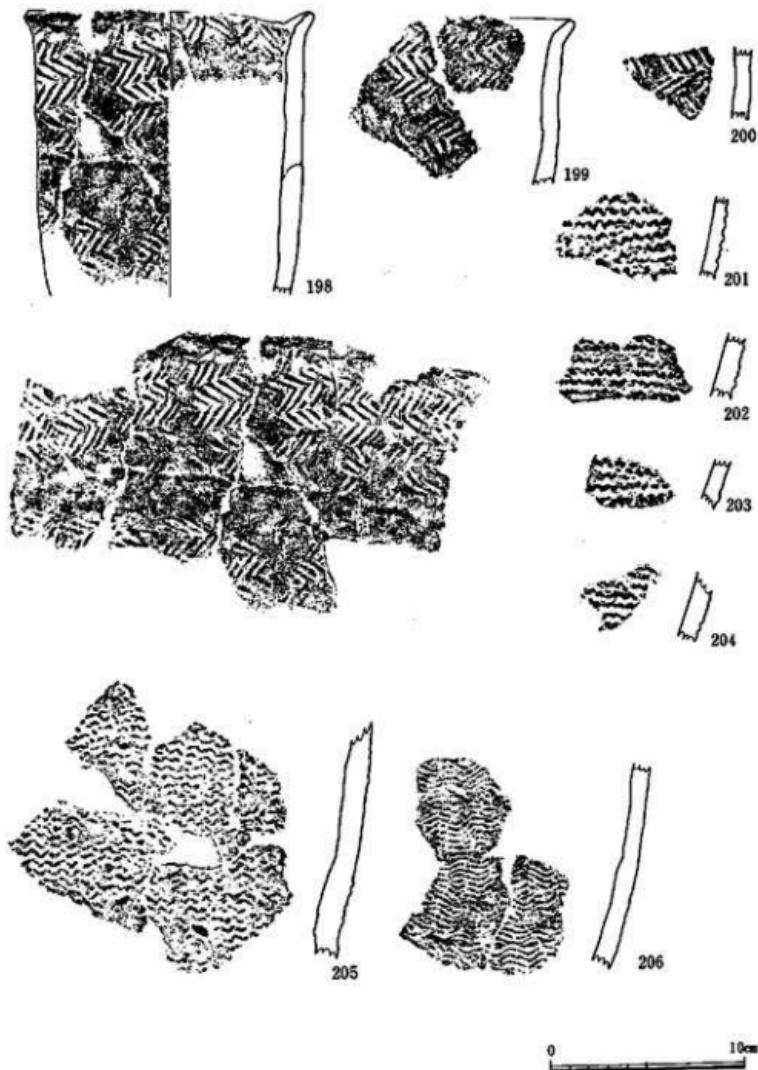


Fig. 315 出土土器実測図 XIV

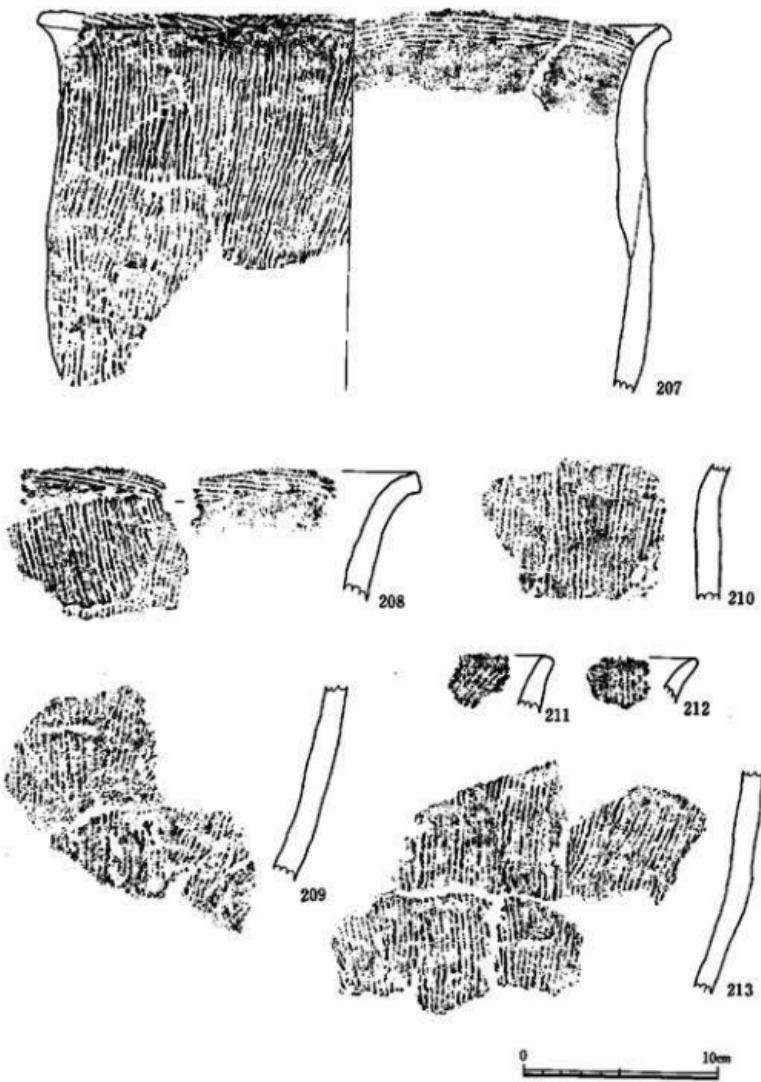


Fig. 316 出土土器実測図 XV

7. 出土遺物

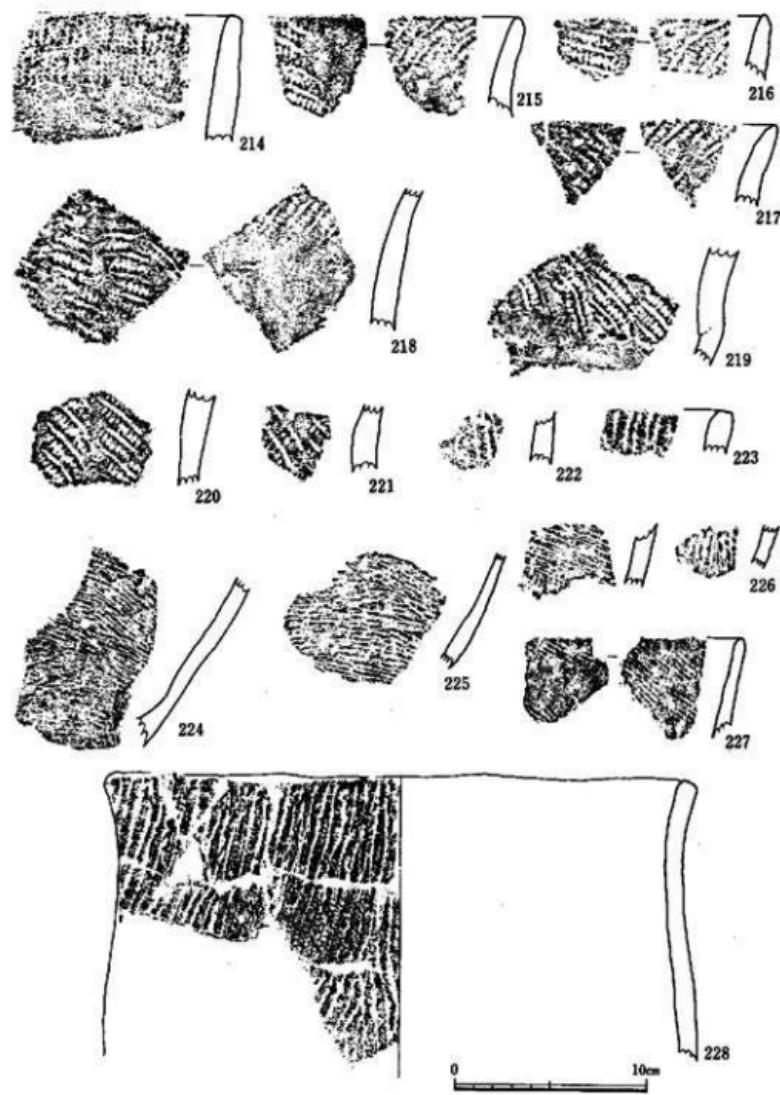


Fig. 317 出土土器実測図 XVI

第8章 K遺跡の記録

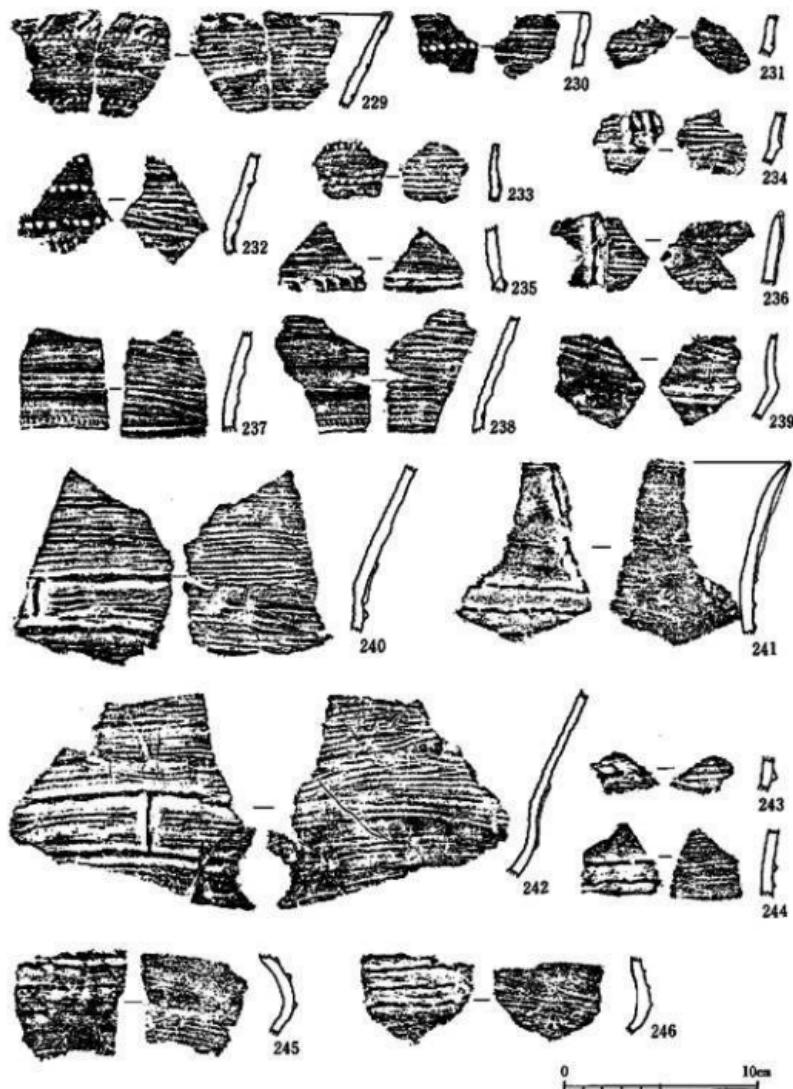


Fig. 318 出土土器実測図 XVII

7. 出土遺物

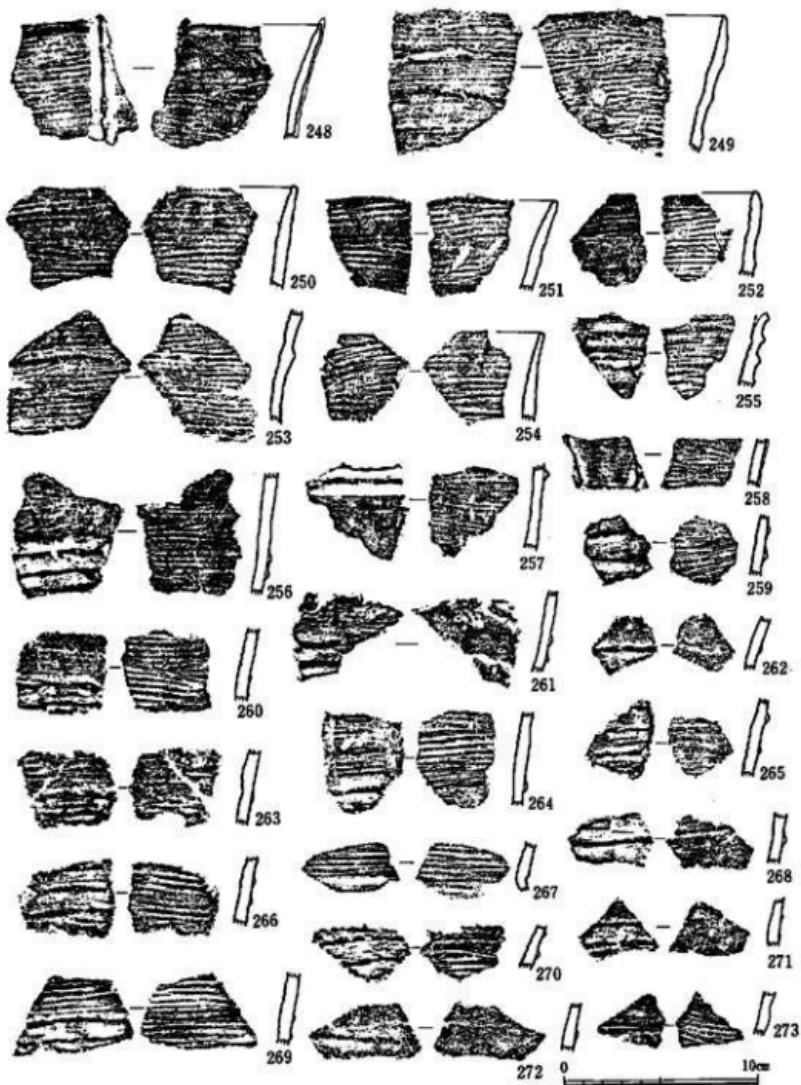


Fig. 319 出土土器実測図 XVII

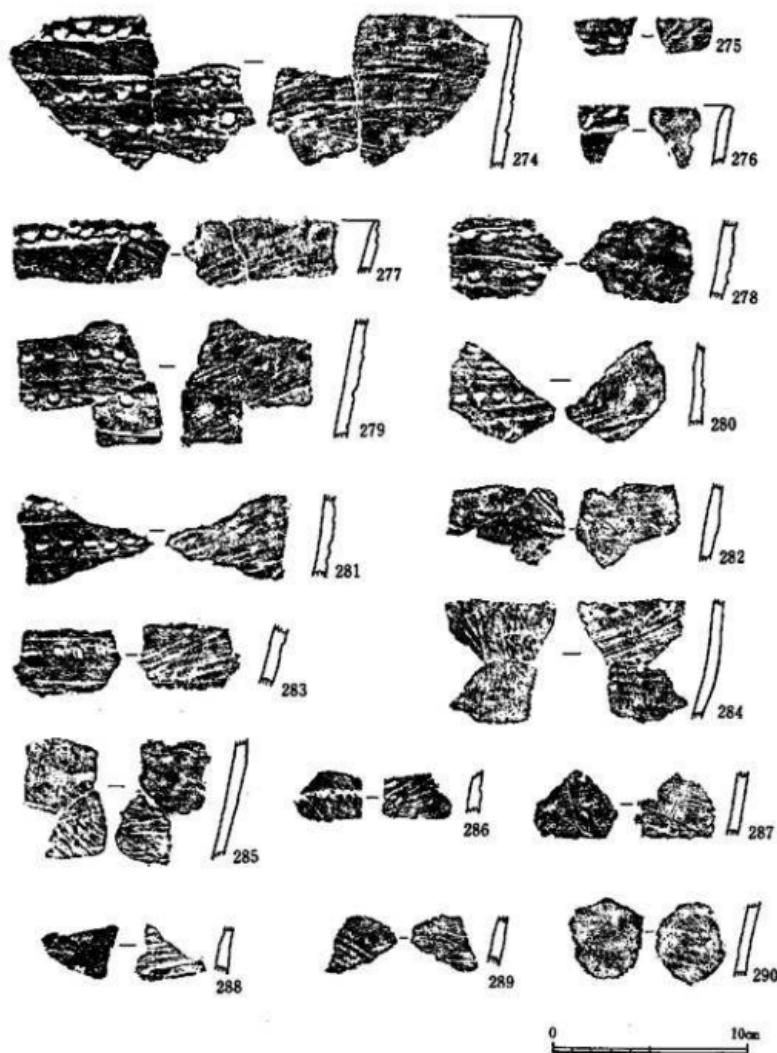


Fig. 320 出土土器実測図 IX

7. 出土遺物

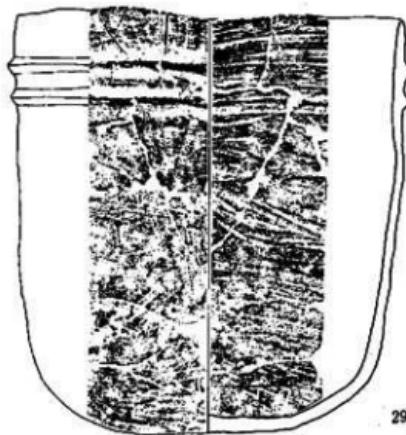
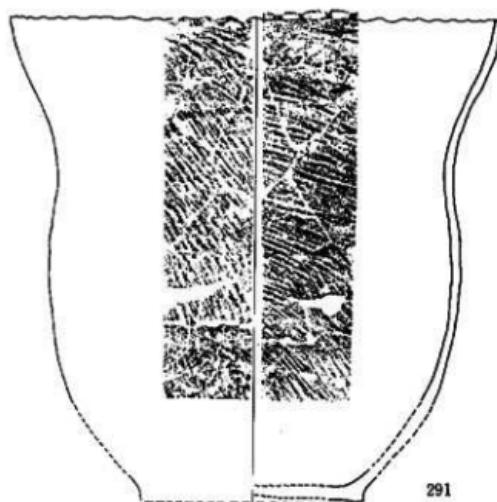


Fig. 321 出土土器実測図 XX



Fig. 322 出土土器実測図 XIII

7. 出土遺物

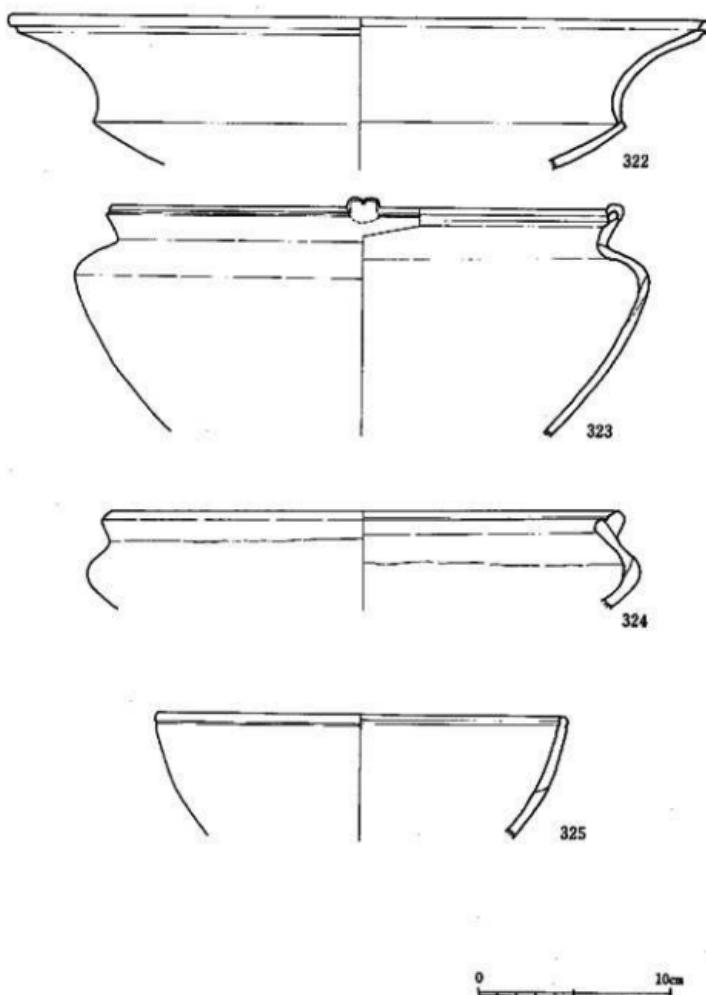


Fig. 323 出土土器失測圖 XIII

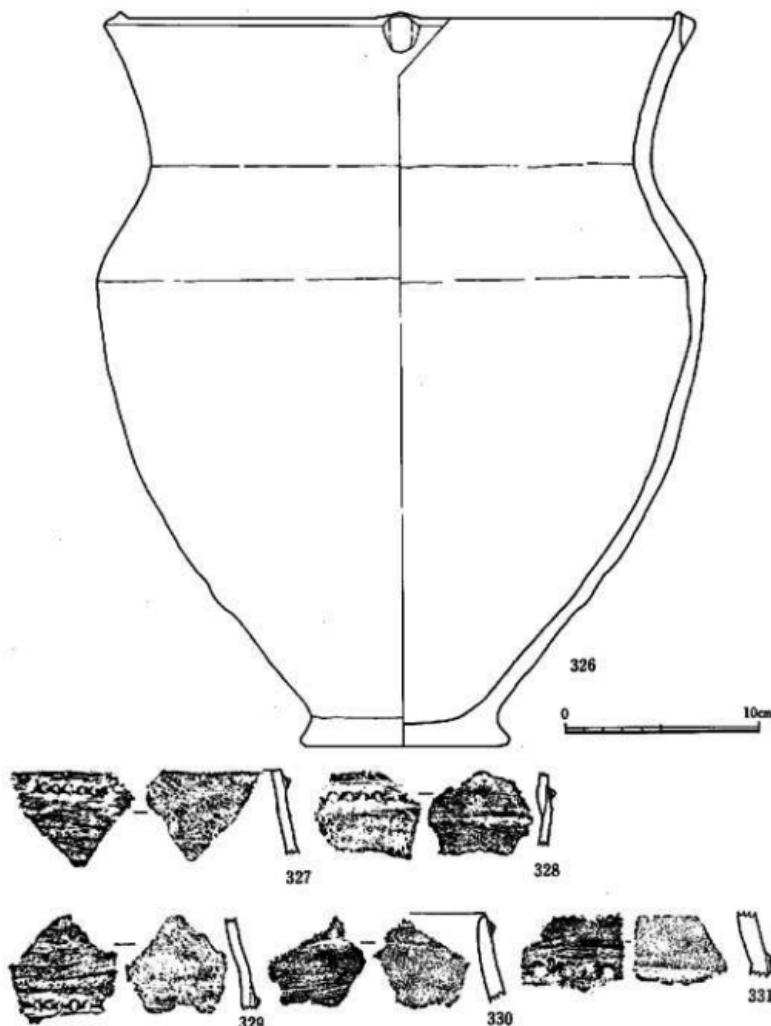


Fig. 324 出土土器実測図 XXIII

(2) 石器

柏原K遺跡の発掘調査により出土した、石器及びその製作に関連する石製遺物を含んだ石器群は点数にすれば2万余点を数えるが、そのうち19,906点については出土位置を記録し、他の多くについても出土区を記録している。

同時に出土した土器類から考えると、縄文時代に限ってもその早期から晩期に至る期間、継続的に使用された場であったことは明らかであり、Fig.325に示す石器類平面分布の様態は各時点に行われた行動の重複した結果を示すものである。但し、遺物の層位的な関係、垂直分布上での関係などによってその重複の関係を検討し得る段階にまで整理を進めることは出来なかった。同様に、検出された遺構との関連も検討し得なかった。以上のような理由もあって各時代、時期の石器群を分離検討することができなかった。そこで、本報告においては、器種毎に資料を掲げることとする。

石器は現在行われている器種分類に従い配列掲載するよう努めたが、主だった石器以外の資料については、適切な分類項目あるいは名称の見当たらないものが多くを占める。また、先史器時代（旧石器時代）の石器について行われている用語が仮に充てられているとみえるものがある。そういう用語を避け、柏原K遺跡出土の石器についての分類を行った結果を以下に示す。石器名称については分類、名称の明らかでないものについては、仮の名称を付しておく積もりであったが、上記のような状況と検討のための時間的余裕の無いためとて、取りあえず記号で示したものもある。

石器群2万余点のうち、石器として区分したもの1040点、小剝離痕・微剝離痕が纏続して残されている剥片393点、石核97点、原礫15点、残りが剥片、碎片とするものである。今回報告に掲載するものは石器のうちの345点、剥片のうちの16点である。

ナイフ形石器 (Fig.326) 16

調査区南端K1区の出土である。図上右辺の刃部に相当する部分にも刃遣し加工がみられる。裏面基部加工が行われている。

細刃器 (Fig.326) 9574, 12107, 12073

本遺跡から細石核の出土ではなく、また、それに関連する剥片あるいは素材といったものも確認できていない。ここに掲げる資料は、このような条件のなかで小形で刃器状を呈する剥片という意味で抽出し示すものである。9574は上半部を、12107・12073は頭部及び末端部をそれぞれ折れにより欠失している。器表に若干の風化がみられる。12107・12073は縁部が刃こぼれ状に欠けている。

槍先形尖頭器 (Fig.326) 3894, 19110, 3445, 5085, 1812

平面形状紡錘形、断面凸レンズ状の石器である。小形で大きさ・重量は石鎌と変わることろがないが、形状が石鎌とは明らかに異なる。時期の限定は難しいが、黒曜石製のものの器表面がわずかに風化していることから、縄文時代晚期あるいはそれ以降は考えられない。素材には縦長、横長いいずれの剥片も使用している。1812は長脚の石鎌の脚部の片側を欠くものを利用したような石器で、ために左右非対称である。

尖頭器 (Fig.327) 20007, 17765, 3, 15536, 9608

平面形が三角形状を呈す。両側辺は外湾弧状をなし基部は直線状か外湾弧状を呈す。基部に折れ面を残置するもの(17765)、素材剥片の打面を残置するもの(3)がある。20007は図上下半部を折れにより欠失しておりあるいは槍先形であった可能性もある。

石鎌 (Fig.328~337)

破片を含めて711点が出土した。完存の資料118点、極一部を欠くもの(端部欠)39点、先端部を欠くもの31点、脚部を欠くもの88点、半ばを欠くもの37点、破片209点を数える。破片は、



Fig. 325 柏原K遺跡石器類分布図 (1 : 800)

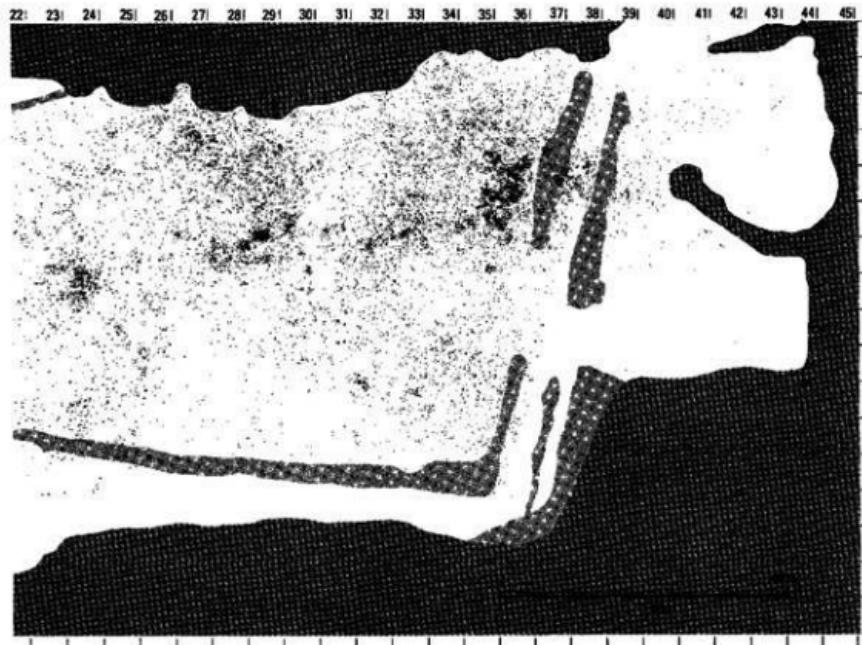
7. 出土遺物

先端部27点、体部16点、脚部91点、部位不明のもの75点を数える。これらのうち、全形の残るもの、あるいは、全形の復元可能なものによって行った分類により、資料を配列してみる。

石鎌の形状を考えてみると、多くの場合鋸く尖る一つの先端部、それを形成する2側刃、側刃の他端に挟まれて矢柄への着装が行われた部分であると考えられる基部から成り立っている。基部は三角形の1辺に近い形状(平基)から、抉り込みが加えられ(凹基)、それが次第に度を増して脚部と呼ぶことの出来る突出部(かえし)を形成する。脚部の形成も次第に度を強め、脚部を除いた身の部分(体部)の長さ(体長)以上の長さをもつものまでみられる。

さて、側刃についてみると、先端部を中心とする2辺の開き角つまり、幅広か細身かの相違、また、刃の形状が直線状か、外湾状かあるいは内湾状かの相違、加えて縁部の形状が平面上凸凹のない平縁か鋸歯状縁かの相違を考えることが出来る。また、断面形状についても厚薄を考えることが出来る。

以上のように考えられる石器形状であるが実際資料の分類操作(並べ替え)を行った結果か



らいえば、基部形状の変化を指標とすることがより容易であると思われた。そしてその結果として21の群に分別することが出来た。

以下、各群ごとに概要を示す。

石器 A 1 類 (Fig.328) 5077, 20020, 20060, 20058, 5430, 1604, 1734, 3517, 20116, 3965, 16520 三角形状を呈する。先端部が尖らないものが目立つ。基部は1辺をなし、直線状かまでは、僅かに中央部を抉り込む。基辺が外湾弧状を呈するものがあるがこれは素材の縁部を残置した結果である。20020は素材打面を、20060-20058は素材側縁をそれぞれ残置して基辺としている。また、20058は先端部に当たる部分が尖端を成さず、素材打面の一部が残されている。側辺は円弧状に外湾して基辺部両端が丸みをもつものが目立つ。厚さと共に考えて形状が前述した尖頭器に似るもの(5077-20020)がある。20016は側辺に加えられた調整のための刺離が対向する辺まで達してその辺の縁部を消失してしまっている例である。

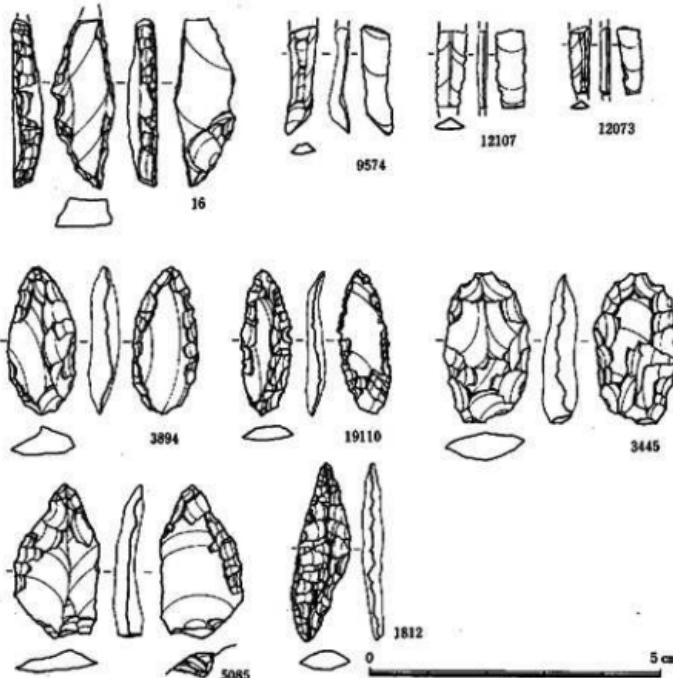


Fig. 326 柏原K遺跡出土石器(1)

7. 出土遺物

石鎌 B 1 類 (Fig.329) 15431, 20127, 2663+3637, 13604, 17669, 2785, 19207 三角形大形の石鎌である。基部は平基状で、連続平行する緩い角度の剥離により形成されている。側辺は、緩く外湾し基部端が丸く回り込む。15431, 20127は極厚く異質である。

石鎌 B 2 類 (Fig.329) 4323, (Fig.330) 13536, 10631, 12784, 466, 20184, 11802, 642, 15987 三角形小形の石鎌である。基部はやや外湾孤状を呈するものが顕著である。側辺部は外湾するもの、直線状、外湾するものとある。基部の端部（基端部）は尖るものが多い。

石鎌 B 3 類 (Fig.330) 20113, 16088, 113, 20066, 2681, 13366, 16849, 20128, 20125, 11261, 20044, 20130, 19649, 12521, 16419, 772, 20117, 6225, 12145, 2047, (Fig.331) 12975, 16046 三角形の石鎌である。基部は内湾、凹基状を呈す。平行連続する剥離痕により基辺部は形成される。内湾の状態は孤状を呈すものと基辺中央部に向かって両基端部から抉りが次第に深まり低い山形を呈するものがある。前者が優越する。側辺は外湾孤状を呈するものが殆どであるが、内湾孤状を呈するものもある(20113)。20113は更に基部を除く平面形状がB 2 類11182に一致する。12975, 16046は他とは異なり、側辺の中央部で屈曲、全体の形状が五角形状を呈す。

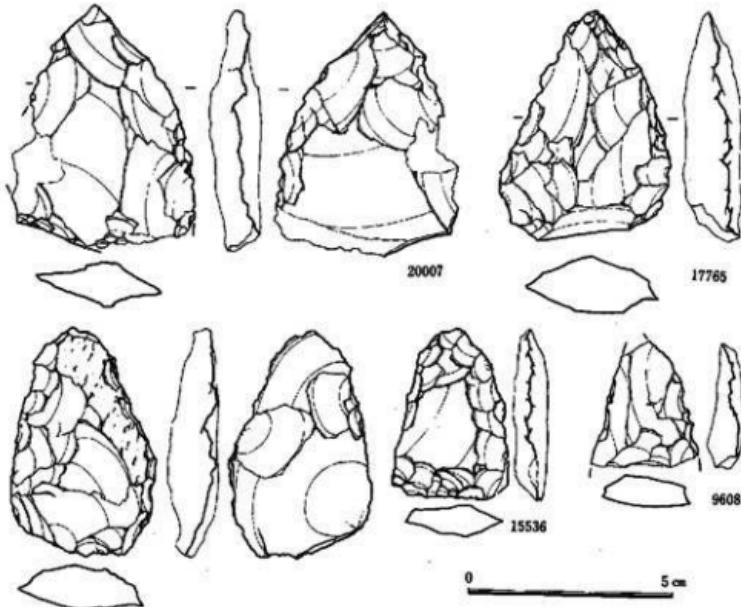


Fig.327 柏原K遺跡出土石器 (II)

石鎌 C 1 類 (Fig.331) 16798, 15382, 7024, 14546, 2421, 4237, 76, 18160, 12970, 19109, 7293, 12825, 12278, 12967 明確に内湾する基部を有する石鎌である。側辺の基部側端部は丸みをもって基辺に回り込む。基辺中央部に比較的大きな刺離が行われ、山形の抉り込みのその頂部を成すものが見られるようになる。配列してみると幅広のものと細身のものがある。幅広のものは側辺が直線状または外湾弧状を成し、細身のものは直線状または内湾弧状を成す。極端に小形のものがある (4237, 15382, 16798)。19109は、素材剥片の両縁面を加工。図上表面のもっとも厚い部分に研磨を行っており 2 方向の異なる擦状痕が見られ、2 面を成す。

石鎌 D 類 (Fig.331) 5905, 20134, 7187, 5025, 10091 基辺が内湾弧状を呈す。基辺中央には他より大きな刺離が加えられ、抉り込みの頂部を形成する。ここにみられるこのような手法は以下、脚部の発達する石鎌に及ぶまで抉り込みの明確な石鎌に一般的に観察される。頂部は、U 字形かまたは弧状を呈す。抉り込みの側辺は緩く外湾状を呈すものと緩く内湾弧状を呈すものとがあり、前者が卓越する。基部端部は側辺と基辺との加工により角状に突出する。

石鎌 E 類 (Fig.331) 13605, 17269, 20131, 660, 12108, (Fig.332) 15472, 799, 722, 7889, 647, 5051, 20136, 10514, 15165, 20124, 20045, 20047, 16008, 2674, 14805, 14800, 7972, 6220, 19857, 12256, 3438, 5036, 16417, 11143, 16821 基辺が内湾山形を呈す。同様な基辺の形状は石鎌 C 1 類にもみられたが、この群のほうがより程度が著しい。又、数的に明確な群を示している。三角形の石鎌が石器中軸線上に稜線を持つものであるとすれば、E 類以降の石鎌は体部でそれから分かれ基端部へ向かう 2 本の稜線を持つものといえこれを脚部とする事が出来よう。側辺は外湾弧状を呈す。16821は石器先端部と基部とのみ加工を行い他は素材の形状を残置している。図示しないが、図上裏面が素材主要刺離面にあたり、その打点位置が石器上の下方に位置する。いわゆる剥片鎌であるとできよう。12256は表裏面の一部に、16417は表裏面の大部分に研磨が行なわれる局部磨製石鎌である。また、12256及び11143, 16821は尖頭部を持たない石器である。

石鎌 F 1 類 (Fig.332) 1832, 14930, 17696, 3125 外湾弧状を呈する基辺の中央部のみに U 字形の抉り込みを行ったような形状の基部をもつ石器である。ために比較的薄い断面の脚部となっている。側辺は緩く外湾、弧状を呈す。

石鎌 F 2 類 (Fig.333) 17325, 4112, 17253, 3363, 4007, 20140 基辺中央部に施される深い山形の抉り込みと、外湾弧状の側辺とにより幅広で基端部の外側の角が僅かに外方に突出する様な形状の脚部となっている石器である。

石鎌 F 3 類 (Fig.333) 675, 19546, 16109, 12093, 10414, 200, 4441, 869, 1447, 1403, 14017, 16949, 12057 F 2 類と同様の抉り込みがなされるが、脚部端では直線状の側辺が丸く回り込み半円状あるいは僅かに尖る。

石鎌 G 1 類 (Fig.333) 51, 6877, 13603, 3646 深い U 字形の抉り込みと、外湾弧状の側辺により脚部が形成される。端部が半円状に丸まる脚部はその外側辺が石器中軸線に平行する。

7. 出土遺物

14954, 20145は抉り込みの深さと幅とがより著しく、体長が小の点を除けば寧ろ後述する H 2 類に含めるべきであろうか。18525は脚部も外方に広がりを持ち、むしろ G 2 類と言うべき形状となっている。

石錐 G 2 類 (Fig.333) 17323, (Fig.334) 18519, 12901, 2472, 16119, 1132, 10322, 18435, 10536, 6949, 16335, 18942, 10372, 872, 14483, 1939, 10784 基部には深い山形の抉り込みが行われる。側辺は直線状のものがもっとも多い、外湾弧状、内湾弧状のものもある。脚部外側辺は体部のその角度で広がっている。脚部端は側辺に直角に交わる 1 辺を形成するものが頗著である。

石錐 H 1 類 (Fig.334) 15711, 6717, 17541 基部には深い U 字形の抉り込みが行われる。大形で、脚部端は半円形状に丸まる。側辺は直線状でそのまま脚部に続く。

石錐 H 2 類 (Fig.334) 7884, 20120, 7994, 3981, 16603, 19139, 7266, 98, 11123, 5214, 19892, 17422 基部には深い U 字形の抉り込みが行われる。側辺はわずかに外湾弧状を呈し、そのまま脚部端にいたる。脚部端は、G 2 類に見られるような 1 边を形成するものが頗著である。

石錐 I 0 類 (Fig.335) 217, 7687, 7188, 4302, 3816 基部に深い U 字形の抉り込みを行う。極幅広の石器である。側辺は僅かに外湾弧状を呈す。

石錐 J 0 類 (Fig.333) 12271 (Fig.335) 15682, 12063, 538, 12998, 16208, 7435, 6285, 16021, 3640, 15943, 18828, 3472, 17559, 11616, 17699, 14435, 13504, 15860, 18792, 2895, 17792, 1824, 17062, 14120, 7453, 13844, 9858, 12080 基部に極深い U 字形の抉り込みを行う石器である。側辺は緩く外湾弧状を呈するものから直線状、緩く内湾弧状を呈するものまで含む。脚部は体部の広がりがそのまま続くもの、より広がるものとがある。脚部外側辺の端部に向かう形状は緩く内湾するもの(円脚錐)、急な曲線で内湾するもの、角を成して終わるものがある。脚部端は半円形状に丸まるもの、石器中軸に直交する 1 边を成すもの、脚部内側辺で角を成すものなどがある。体部の長さが脚部のそれと同じか、より短いものがある。

石錐 K 0 類 (Fig.335) 16312, (Fig.336) 14809, 7101, 16044, 20099, 18321, 20098, 6841, 1452, 2213, 5578, 7969, 3735, 5637, 13609, 6725, 16237, 104, 13853, 15952, 15713, 6750 (Fig.337) 7096 基部に極深い U 字形の抉り込みを行う石器である。側辺は緩く内湾弧状を呈しそのまま脚部に続くものと、体部側辺は緩く外湾するか直線状で脚部外側辺が緩く内湾弧状を呈するものとがある。脚部内側辺の形状は特徴的である。U 字形の抉り込み部から一旦外方に屈曲して開き、脚部外側辺端と角を成している。この脚部端の形状が K 0 類の石錐の特徴である。他とくらべ、極大型の資料を含む一群である。

石錐 L 0 類 (Fig.337) 7306 + 7307, 7752, 15288, 11653, 10052, 19064, 13553, 6819, 1373 基部に山形あるいは U 字形の抉り込みの行われる石器である。基部形状より寧ろ側辺形状が特徴的であり、細身でやや外湾弧状を呈す。そういう意味で基部形状を見返してみると、ここま

での分類の各特徴をそれぞれの個体が有しているように思われる。つまり石器基部の加工方法の癖と言う見方からすれば、それに左右されず他の群とは明らかに区別される一定の形状（長さと幅の関係）が認められるということになる。ここで道具としての石器を考えるならば、可能性として、L0群の石器でみるような体部の形状（幅広か細身か）あるいは、これまで固定的に見てきた基部の形状の何れかがその指標として意味を持つものではないかという見通しを得る事が出来よう。ただ、今回文頭に述べたような事情、時間的な制約等で以上の見通しをつけることが出来なかった。次の機会の課題としたい。

以上の他に2点未分類資料がある。18050は、両縁面を加工、山形に抉り込むと基部と、大きく外湾弧状を呈する側辺をもつ。12040は基部を山形に抉り込み、その部分と尖端部分にのみ加工を行う。素材の剥片の打点が石器上下位にあり、これと加工の様態から剥片器とできよう。

異形局部磨製石器 (Fig.337) 14696, 20039, 2211

尖端を持たない石器状を呈す。脚部は摘み状に斜め外方に突き出す。先端部は多くの例とは異なり研磨されない。2211は黒曜石製で綫長剥片を利用し縁部への加工を行っており、素材、加工の点で分類に疑問が残る。

石匙 (Fig.338) 20112, 20111, 18303, 203, 20106, (Fig.339) 14801, 20048, 6261, 43, 604, 787, 12541

縦形と横形がある。また摘み部の形状によりいくつかの群に分けることもできる。20111, 20112, 18303, 203, 20106は摘み部が幅広で、抉り込みが深く入る例がみられる。加工は摘み部と刃部とに行われる外は素材の形状を残している。素材打面を摘み部にあてる例が目立つといえよう。203は1点黒曜石を使用する例である。全周縁の両縁面に連続する剥離が施されている。縦形の20112, 20106と横形の20111, 18303, 203がある。

6261, 43, 604, 787, 12541は上述例より摘み部の幅が狭い例である。両側からの剥離による抉り込みが明確である。縦形の43とそれ以外の横形のものとがある。横形の例は正三角形状を呈する6261、低い二等辺三角形状の787、卵形の12541である。

更に摘み部の抉り込みの明確でない1群がある。14801, 20048ともに横形の例である。

円盤状の石器 (Fig.340) 20055, 6735, 5360, 12926, 13053, 18103, 253, 8848, 2008, (Fig.341) 15731, 15786+15788, 1508, 18963, 20081, 14015, 593, 12279, 19066, 6028, (Fig.342) 17078, 9302, 15282, 3758, 18202, 6665

両面に加工が行われ、平面形が円形あるいは橢円形となる石器である。周縁部の全体あるいは一部、全面あるいは部分に連続する剥離を行い橢円形あるいは円形の盤状とするものである。大形から小形のものまで変異が著しい。これまでの報告例では、石核あるいは搔器、スクリーパーとして分類提示されている。

もっとも大形の部類では比較的大きな剥離面が残されている。そしてそれ以上の調整剥離が

7. 出土遺物

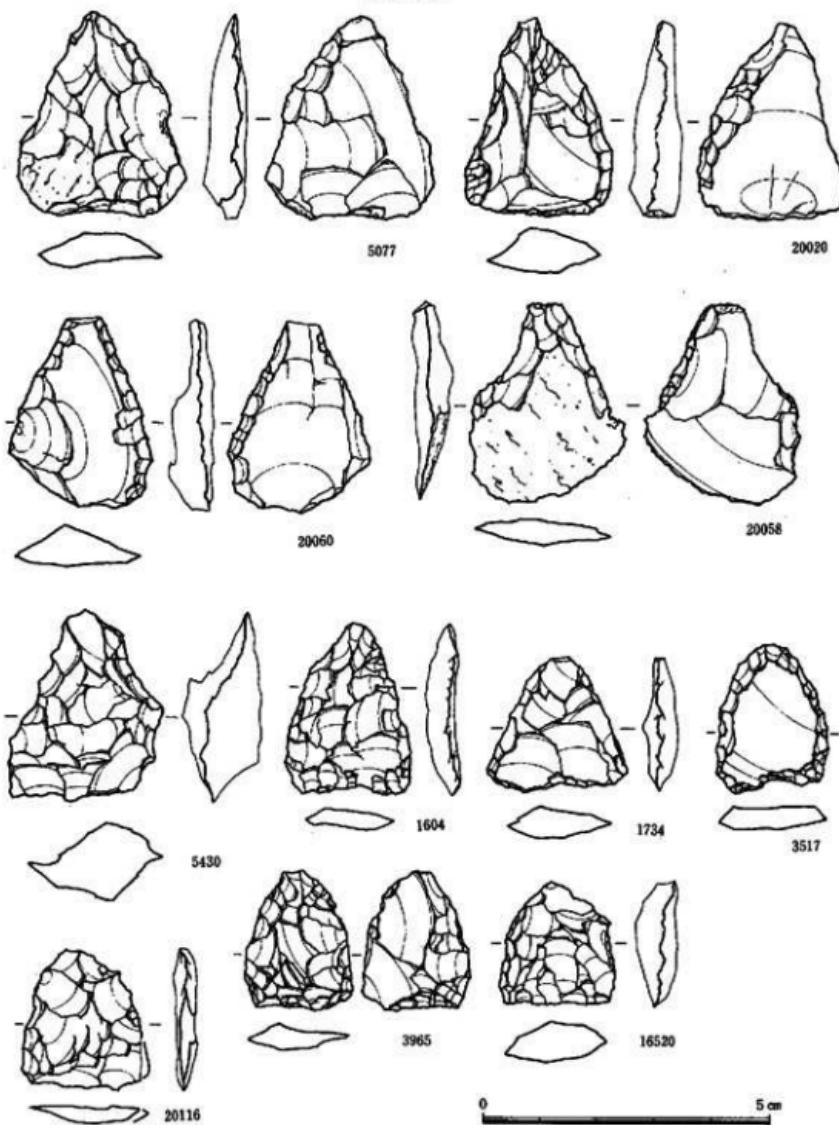


Fig. 328 柏原K遺跡出土石器 (III)

第8章 K遺跡の記録

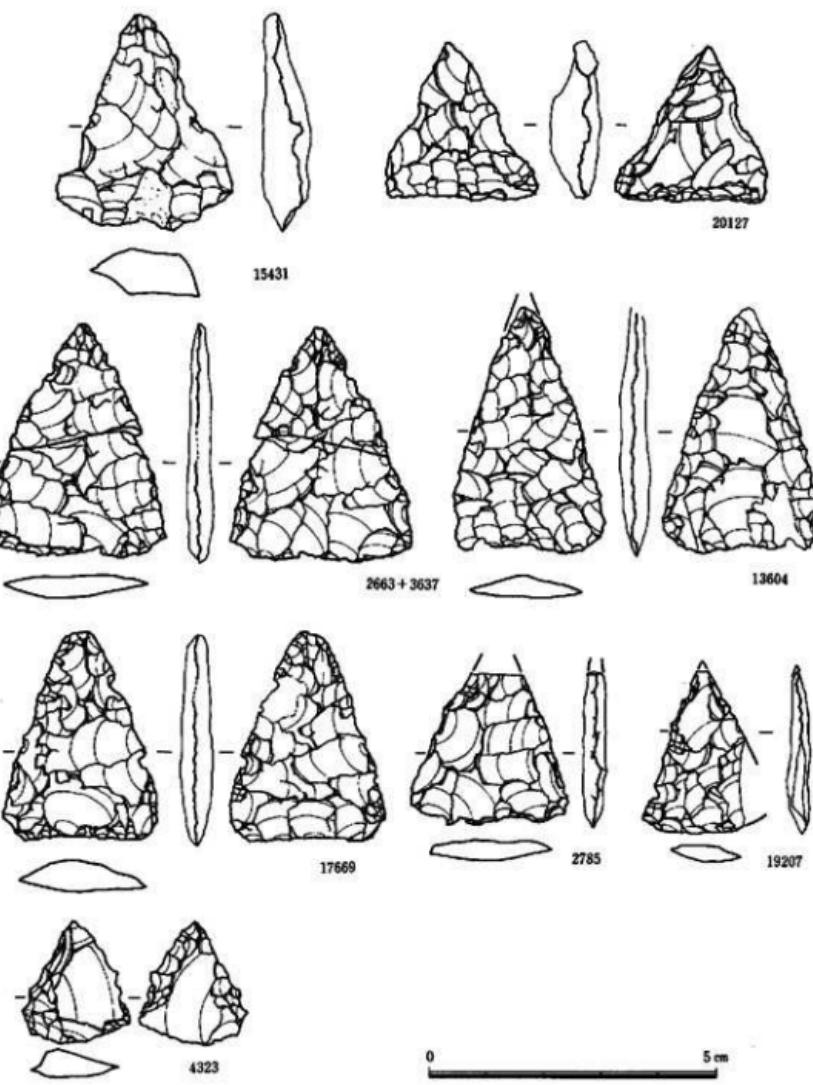


Fig. 329 柏原K遺跡出土石器 (IV)

7. 出土遺物

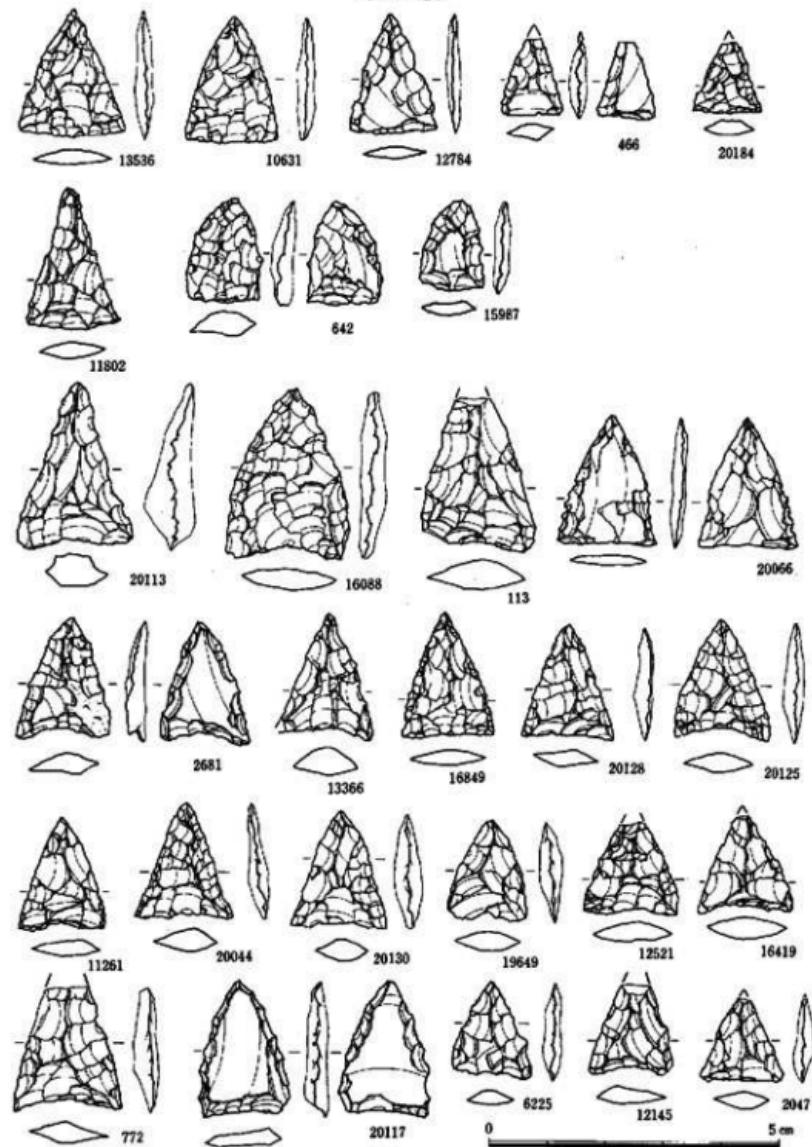


Fig. 330 柏原K遺跡出土石器 (V)

第8章 K遺跡の記録

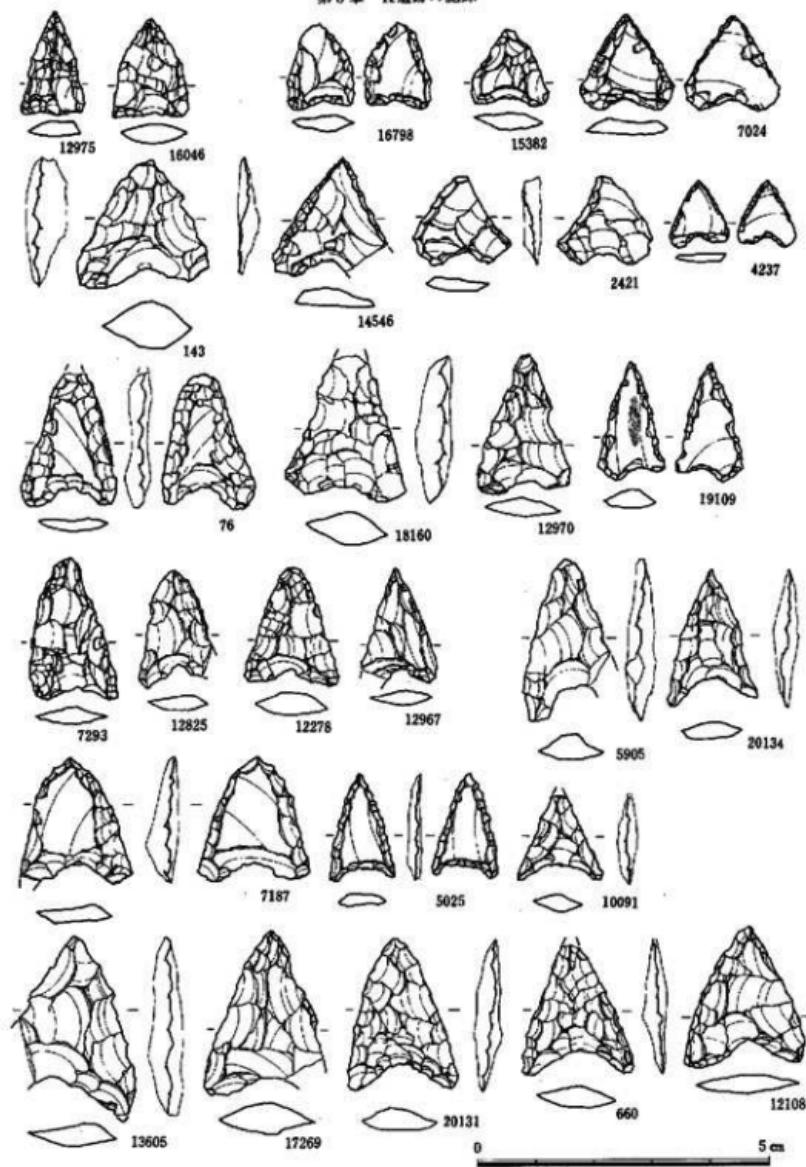


Fig. 331 柏原K遺跡出土石器 (W)

7. 出土遺物

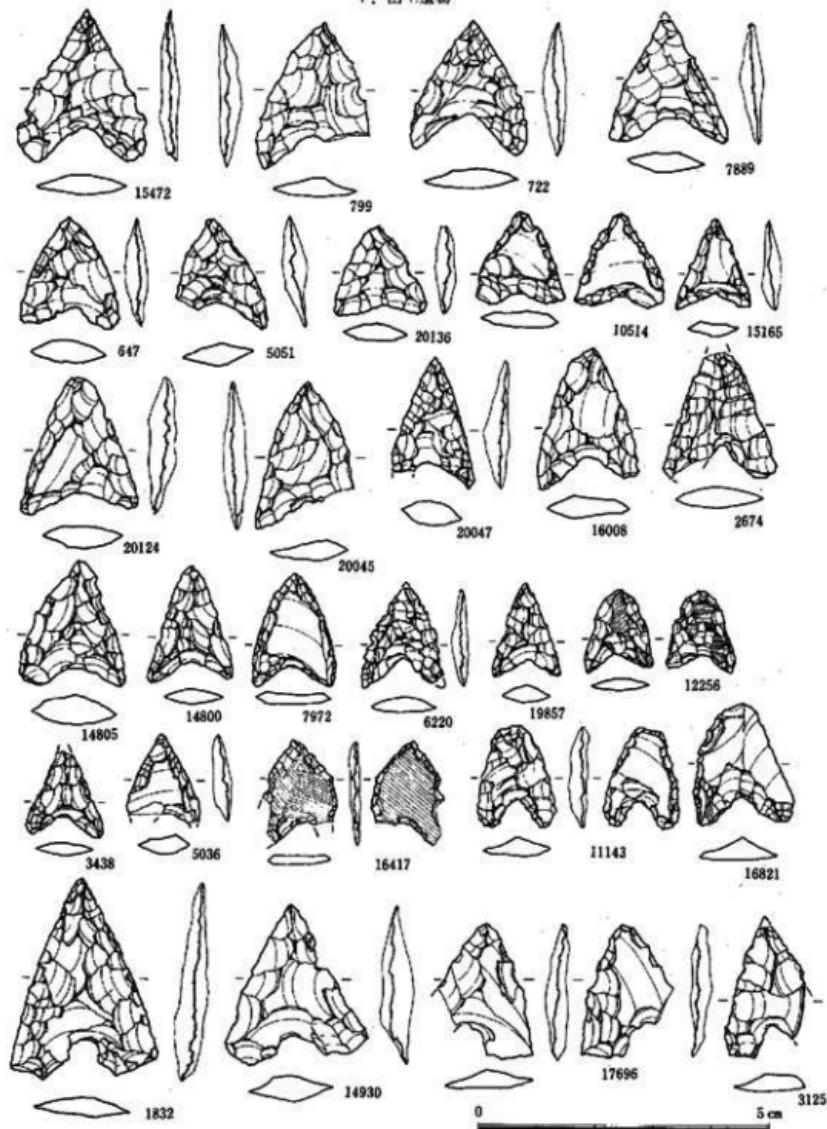


Fig. 332 柏原K遺跡出土石器 (VI)

第8章 K遺跡の記録

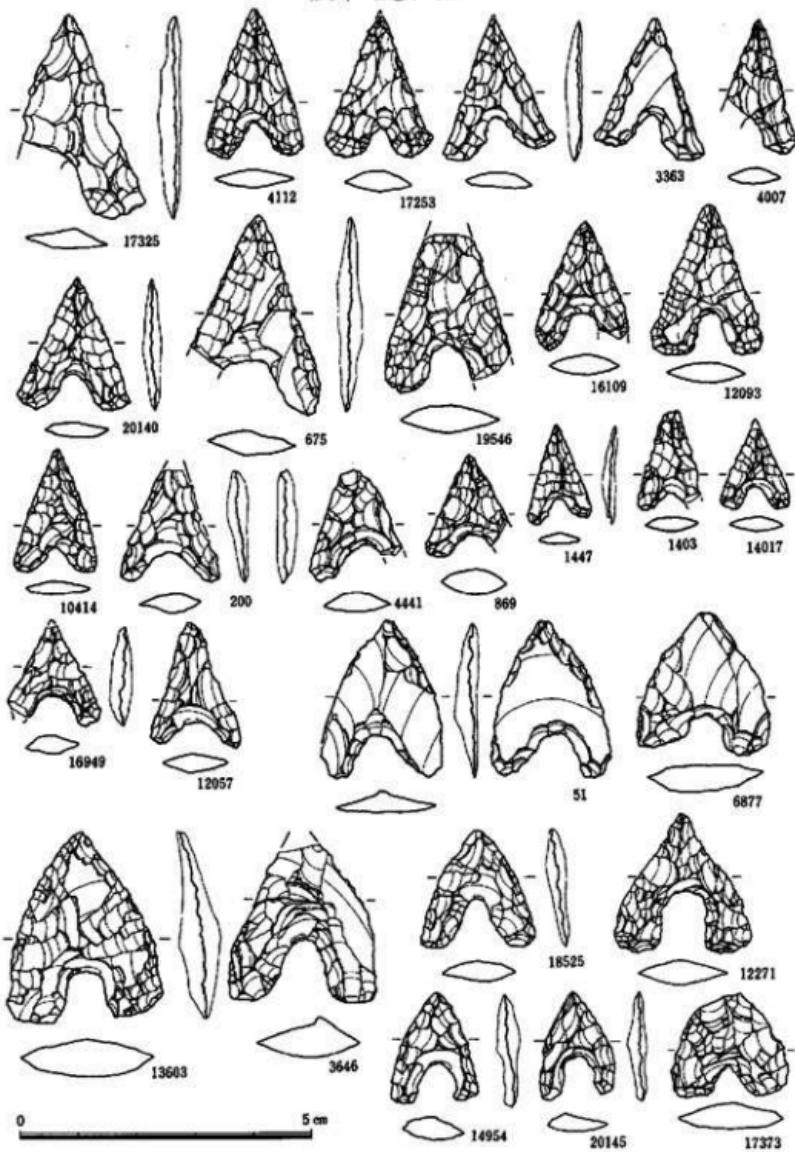


Fig. 333 柏原K遺跡出土石器 (図)

7. 出土遺物

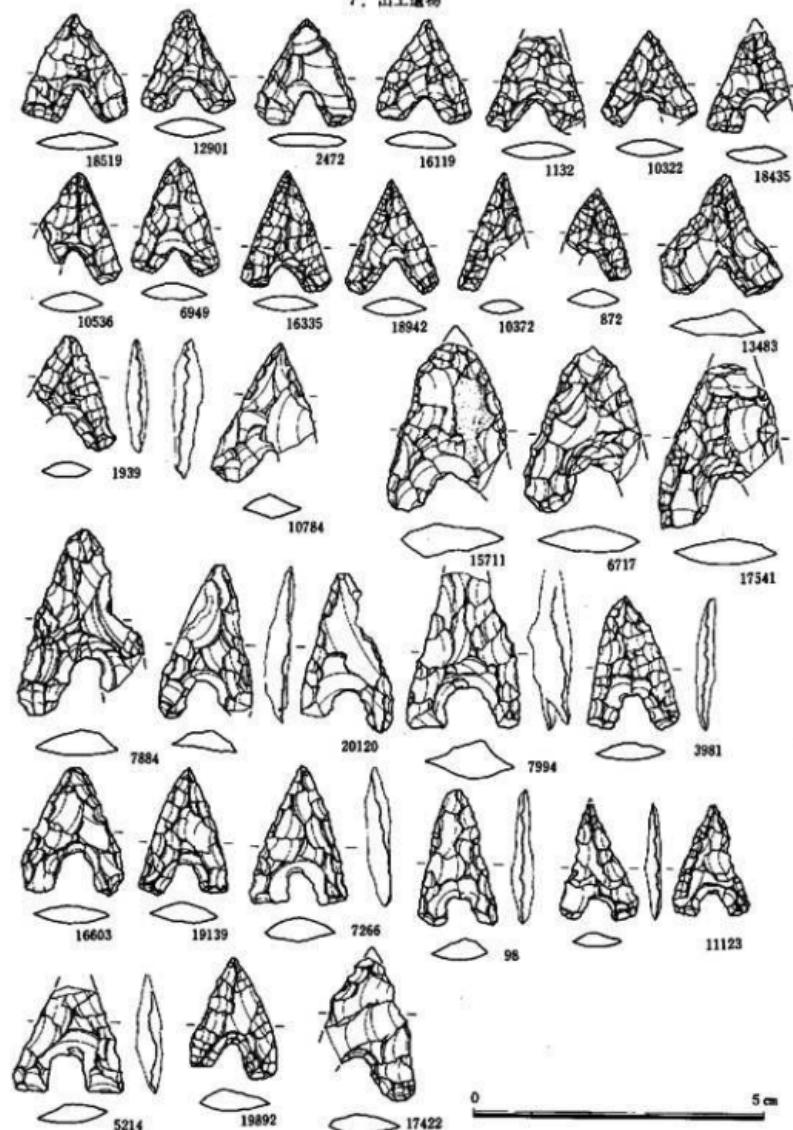


Fig. 334 柏原K道跡出土石器 (Ⅱ)

第8章 K遺跡の記録

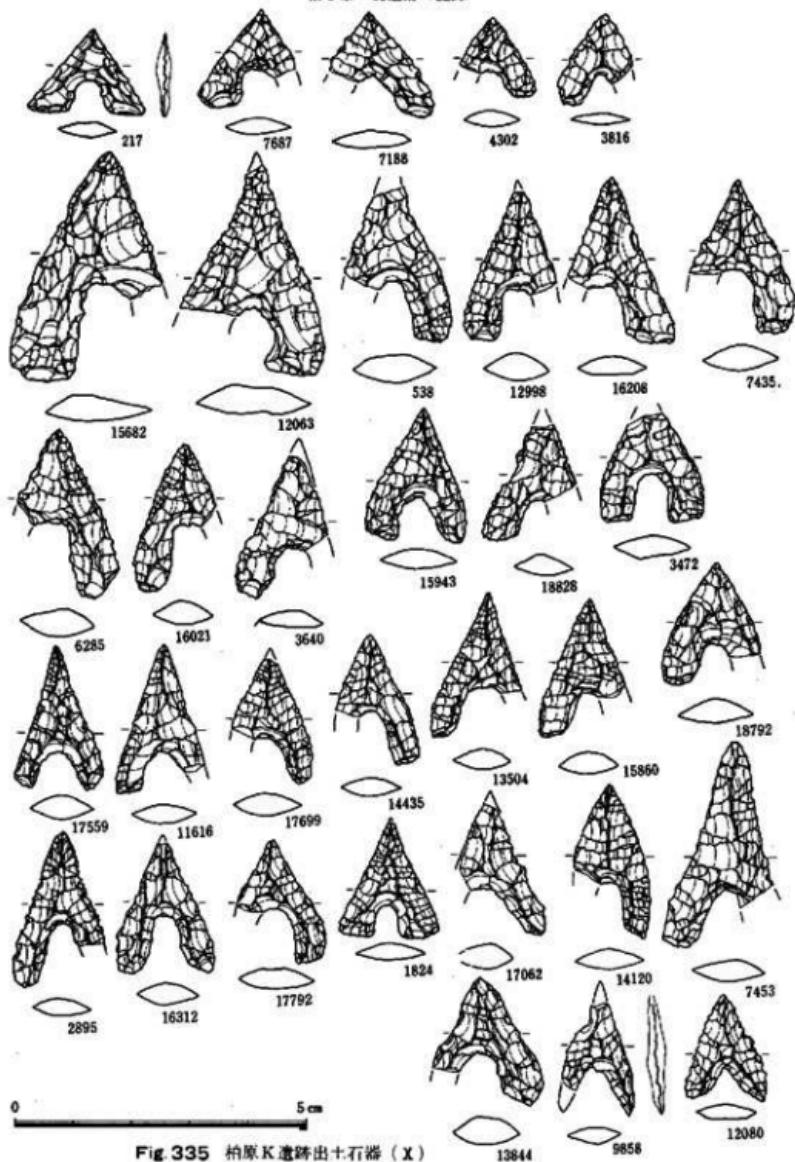


Fig. 335 柏原K遺跡出土石器 (X)

7. 出上遺物

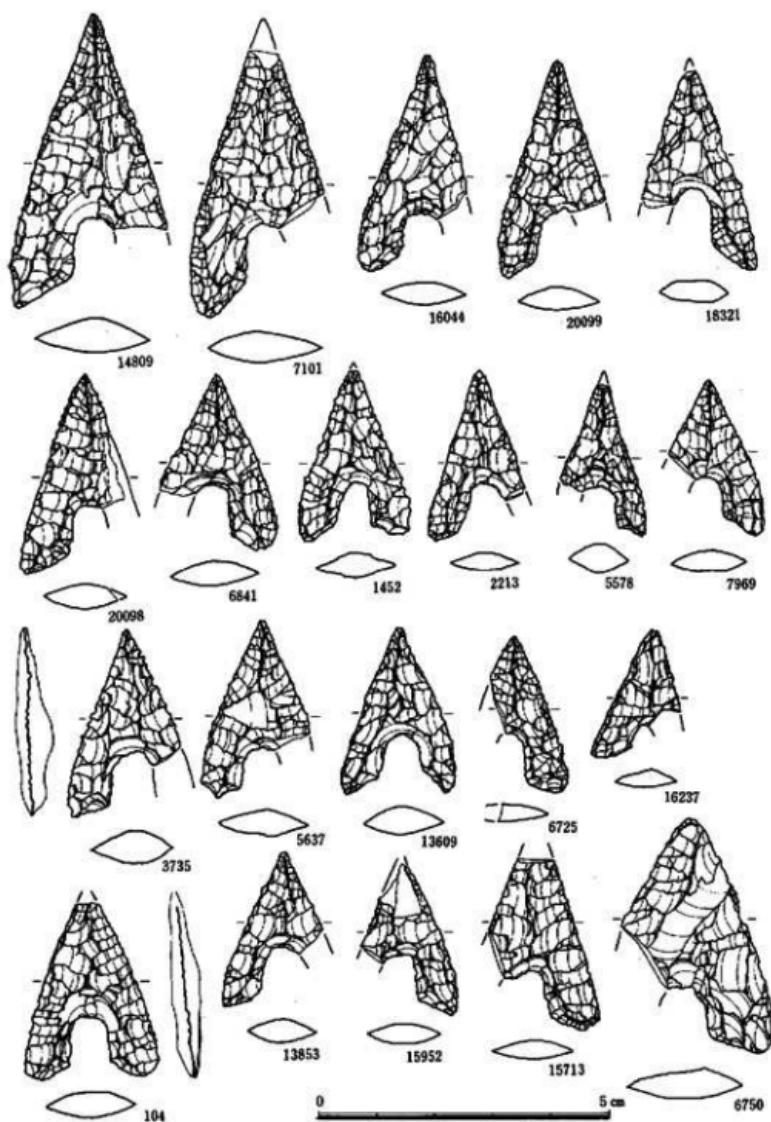


Fig. 336 柏原K遺跡出上石器(Ⅲ)

第8章 K遺跡の記録

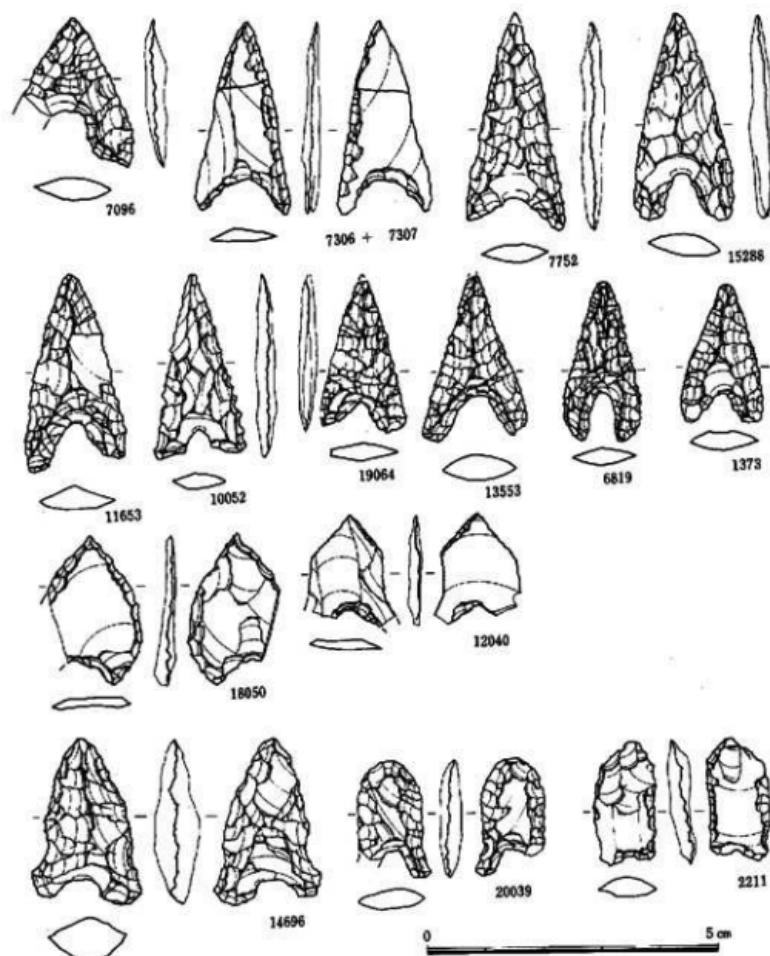


Fig. 337 柏原K遺跡出土石器（Ⅲ）

7. 出土遗物

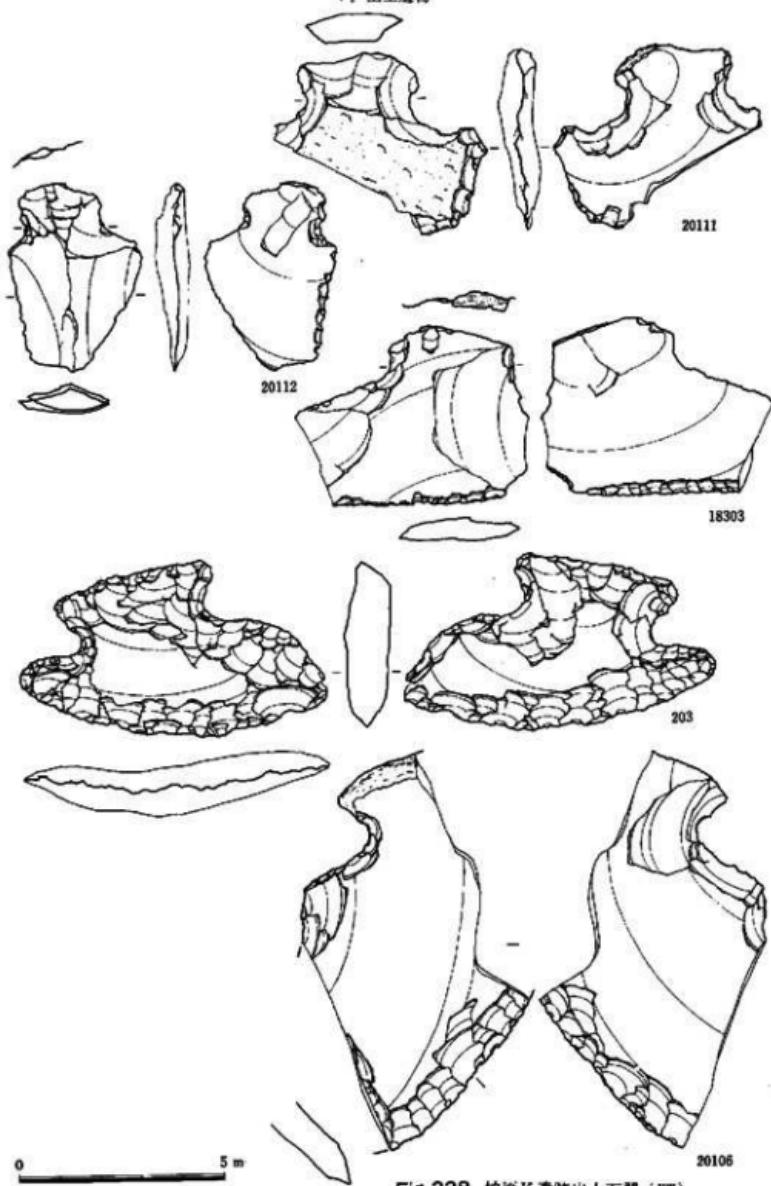


Fig. 33B 柏原K遺跡出土石器 (III)

第8章 K遺跡の記録

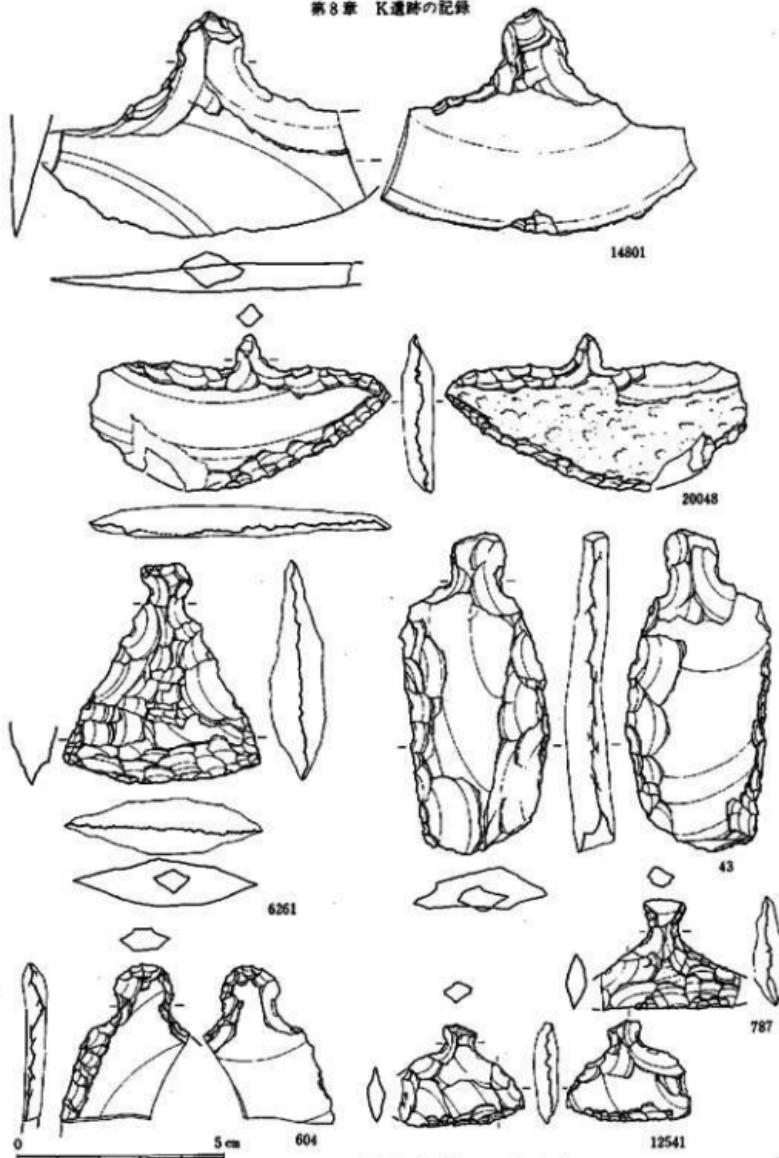


Fig. 339 柏原K遺跡出土石器 (XII)

7. 出土遺物

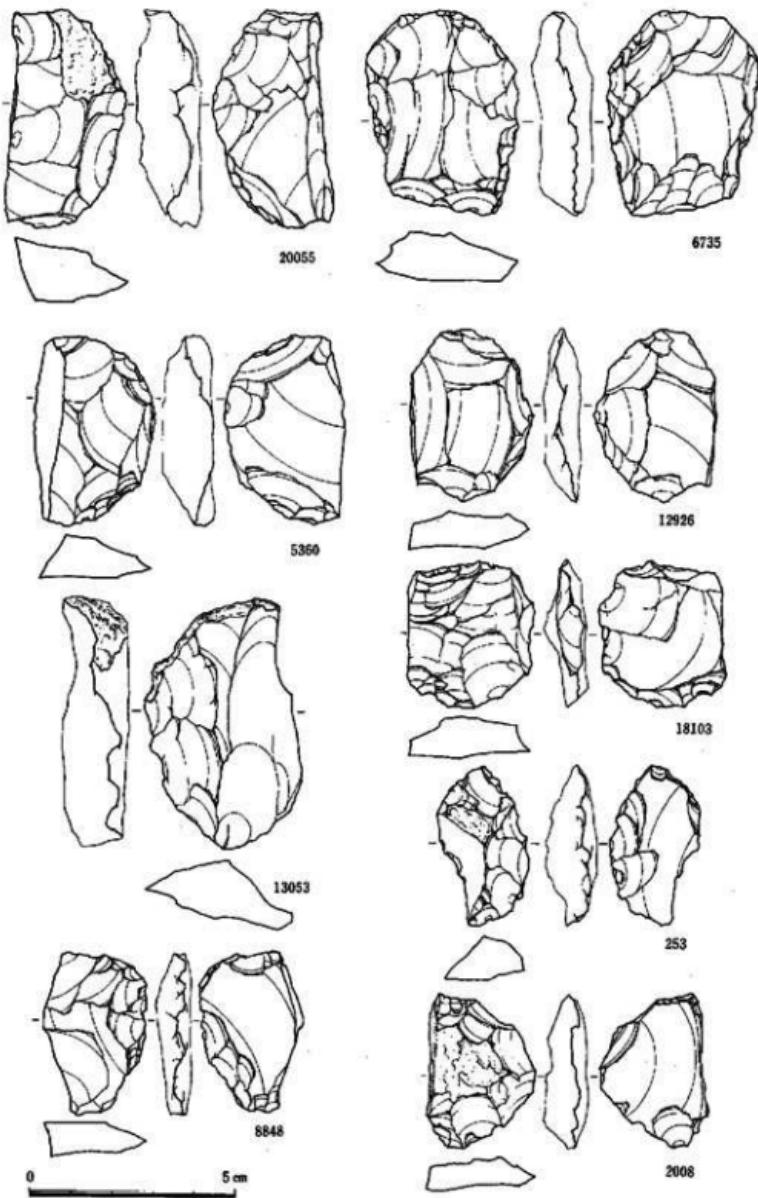


Fig. 340 柏原K遺跡出土石器 (XV)

第8章 K遺跡の記録

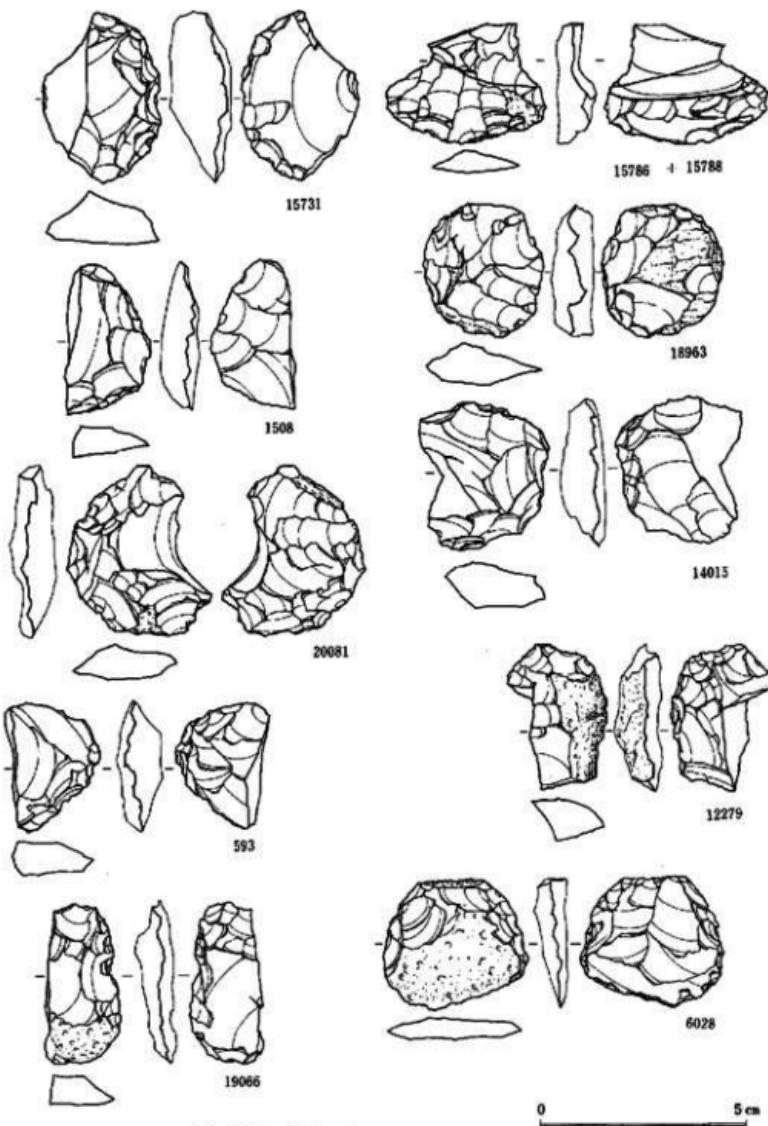


Fig. 341 柏原K遺跡出土石器 (XVI)

7. 出土遺物

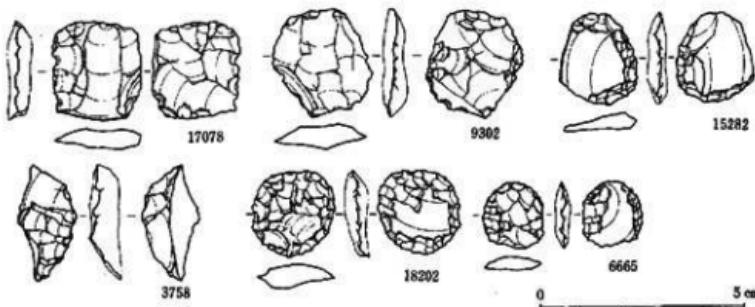


Fig. 342 柏原K遺跡出土石器 (XII)

加えられていない資料もある(13053, 20055, 12926など)。また、折れにより半ばを欠失するもの(8848, 15731, 1508, 14015, 20081, 12279, 19066), あるいはその破片とみられるもの(3758)がある。9302, 15282, 3758, 18202, 6665は小形の一群である。とくに15282, 18202, 6665は縁部に小剥離痕が平行連続し、断面も紡錘状を呈して整った形状をもっている。15786+15788はどのような状況か不明であるが、石器縁部からの剥離が深くなり過ぎてしまい他端の一部まで剥がし取ってしまったその剥片である。頭部を欠く。そしてそのような剥離が生じて後の石器が17078である。このような、比較的大きな剥片を得る剥離が、たとえば石器素材としての剥片を得ることを目的として行われたのかという問題は、この種石器の性格を考える上で重要なであろう。そのことに対する一つの解答として、石鏃3125(Fig.332)の例をあげる事が出来よう。この資料では石器縁部に行われた剥離が対辺にまで及び結果として石鏃脚部を欠失するにいたっている。いわば製作途中の事故と考えられる。またこのような剥離の結果として生じた剥片も、本報告には図示しないが複数点存在することに気づいた。決して積極的な資料とはなり得ないが、例に示す石鏃に生じた比較的大きな剥離痕は、示唆的である。

7. 出土遺物

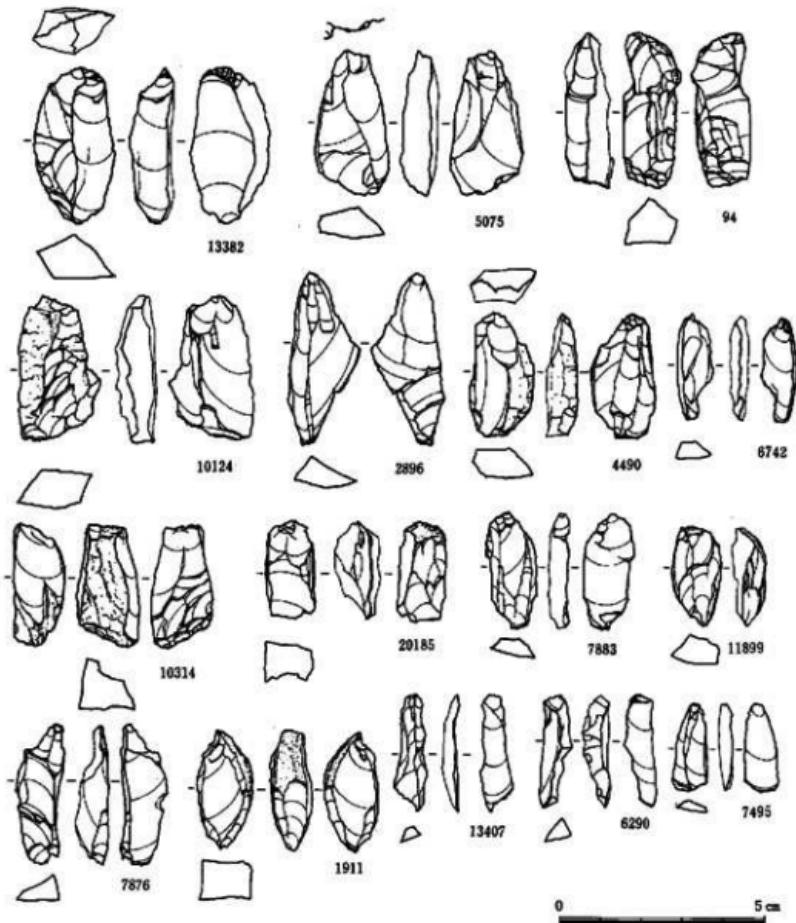


Fig. 343 柏原K遺跡出土石器 (XII)

楔形石器 (Fig. 343) 13381、5075、94、10124、2896、4490、6742、100314、20185、7883、11899、7876、1911、13407、6290、7495

石器長軸方向の圧力により生じて複合する剝離痕を短辺上にもつてゐる石器である。他遺跡例では更に石器短軸方向の同様の痕跡を残すものがある。加えられた圧力により同時に削片が生じるものがある。削片は石器長軸上の両方向からの同時の圧力を剥離の状態に示すものがあ

る。全部で38点が出土している。削片は10点を数える。13407, 6290, 7493が削片と出来るものである。6290は両面加工石器を考える事が出来るが、本遺跡において該当するのは、前述円盤状の石器である。

石錐 (Fig.344) 12122

1点が出土している。12122は素材である縦長剝片の末端部に断面四角形の刃部を作り出している。他の部位は素材の状態をそのまま残している。

分類途上の剝片石器 (Fig.344~348)

これまで述べてきた以外の、剝片を素材に加工を加えた石器である。全点数649点を数える。他遺跡の報告においてスクレイパー、あるいは削器とされる資料を含んでいる。本遺跡において、複数の例があるか又は、明確な存在を示すかする資料について報告し、取りあえず記号を付し呼称する。

剝片石器A (Fig.344) 18067, 10967, 20114

比較的小形の剝片周縁部の両面あるいは片面に小剥離痕が連続して施される石器である。18067, 10967は素材剝片の打面を除去している。10967は尖頭部を作り出している。

剝片石器B (Fig.344) 855

素材である剝片周縁部のうち、素材打面を含む縁辺の両面に加工を施す。素材打面は除去され、素材の一部縁部を意図的に残置したような状態となる。円盤状の石器とした15282或いはさらに6028も同種の石器とするべきかもしれない。

剝片石器C (Fig.344) 10369, 4779

現状で、折れ面による2辺と、両面または片面への連続する剝離の施される1辺とで成っている石器である。剝離痕が折れ面の形成より後に施されると見えるものもあるが、全ての資料についても観察が可能であったわけではないので、現状ではそれ以上のことは言えない。使用法とも大きく関わる問題であろう。今後の課題ではある。そういった意味で4779の2箇所の折れ面は共に加筆によっている点、示唆的である。

剝片石器D (Fig.344) 1178, 91, (Fig.345) 18350, 1107, 13824, 16334

素材である剝片の1辺の縁部両面に連続する剝離を行い刃部とする石器。刃部は平面形直線状あるいは外湾弧状を呈す。やはり折れ面が目立っている。図示する何れもがどの部分かに必

7. 出土遺物

す折れ面を持っている。91は刃部以外に図上の両側辺からも調整を加えている。図上上部は折れ面であり、あるいは打製石斧様の物であったかもしれない。刃縁が擦り潰し状を呈している。

剝片石器E (Fig.345) 20105, 448, 226

素材である剝片の1辺の縁部表面に素材主要剝離面からの連続する剝離を行い刃部とする石器である。剝片石器Fとの比較上緩い角度から成る刃部を持つことになる。資料のうち20105, 448は外湾弧状の刃部となっている。

剝片石器F (Fig.345) 12635, (Fig.346) 17460, 5316, 13094, 2711, 17107

素材である剝片の縁部表面に素材主要剝離面からの連続複合する急斜な剝離を行い刃部とする石器である。刃縁の凹凸の著しい言わば鋸歯状を呈する例 (12635, 17460, 2711, 17107) と全体として内湾弧状を呈する言わば凹刀の例 (5316, 13094) がある。何れの例も加工された部分以外の素材の部分が完全であることは無く、多くは一部が折れ面で構成されている。

剝片石器G (Fig.346) 5632, 11166

台形状の剝片の末端縁部に連続する剝離を加え刃部としている。刃縁は緩く内湾弧状を呈するか直線状である。

剝片石器H (Fig.347) 17365, 450, 14721, 20049

素材である剝片の打面に続く1辺と剝片末端部とに両縁面への平行連続する剝離を加え尖頭部を作り出している。加工された刃縁は尖端部近くでは緩く内湾ぎみの曲線となる。いずれも基部を作り付けるなどの特別な加工は施していない。

剝片石器I (Fig.348) 12077, 20143

素材である剝片の2辺の全部または一部の両面縁部に連続する剝離を施し、尖端部を作り出す。加えて側辺に行った加工で、石器の形状を「く」の字状を成すよう抉り込みを行っている。更にその屈折部の外側角部分に比較的大きな連続する剝離を加えている。

剝片石器J (Fig.344) 3467

あるいは先土器時代の石器とか思われる資料が前掲の外に2点ある。1点は、横断面二角形、2辺に相当する面が同一の後上からの剝離面により形作られている。図上の上下端部とも折れ面となっている。図上の下面は斜め方向に素材剝片の打面を持っていたようである。上下部を想定するといわゆる三棱尖頭器とも考えられる。

第8章 K遺跡の記録

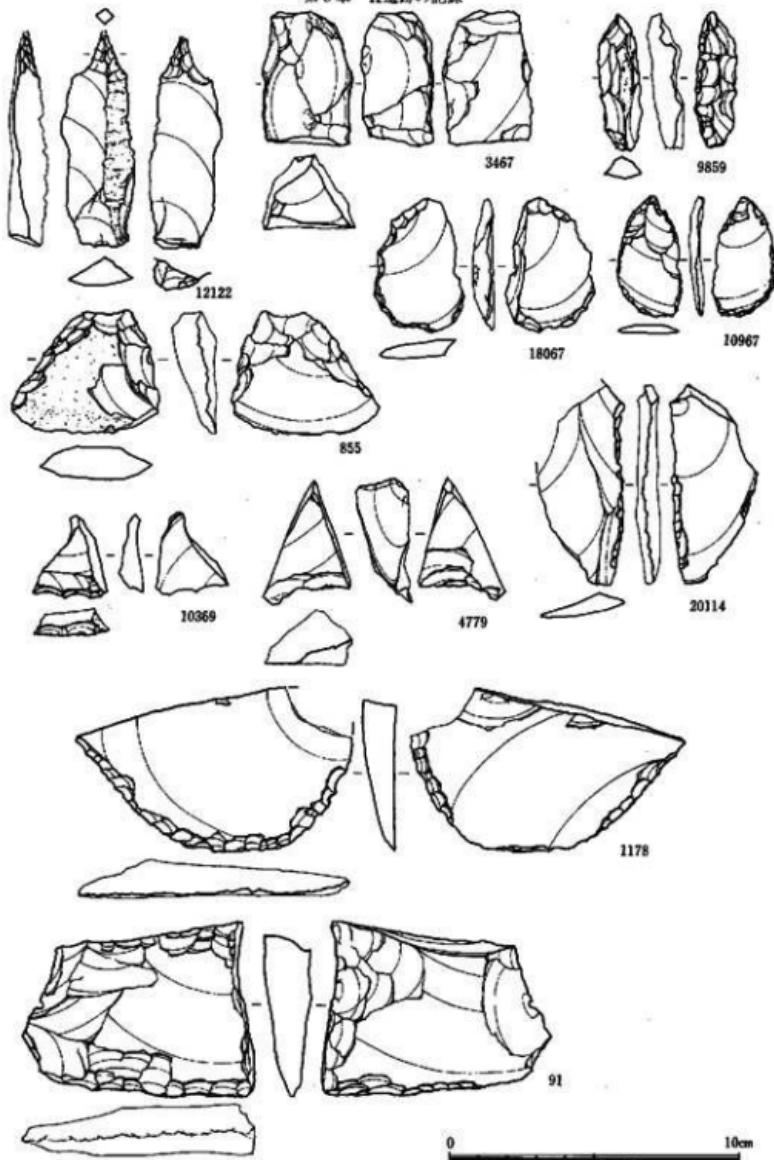
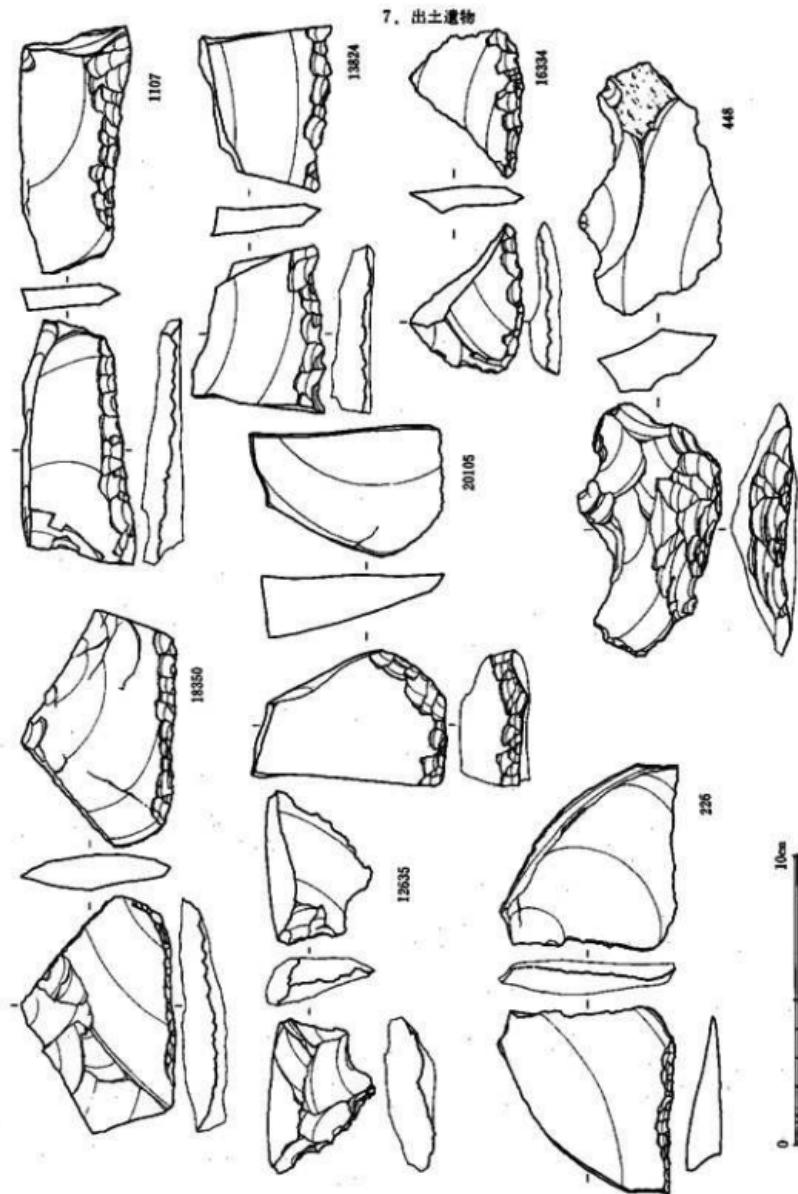


Fig. 344 柏原K遺跡出土石器 (XII)

Fig. 345 柏原K遺跡出土石器 (XI)



第8章 K遺跡の記録

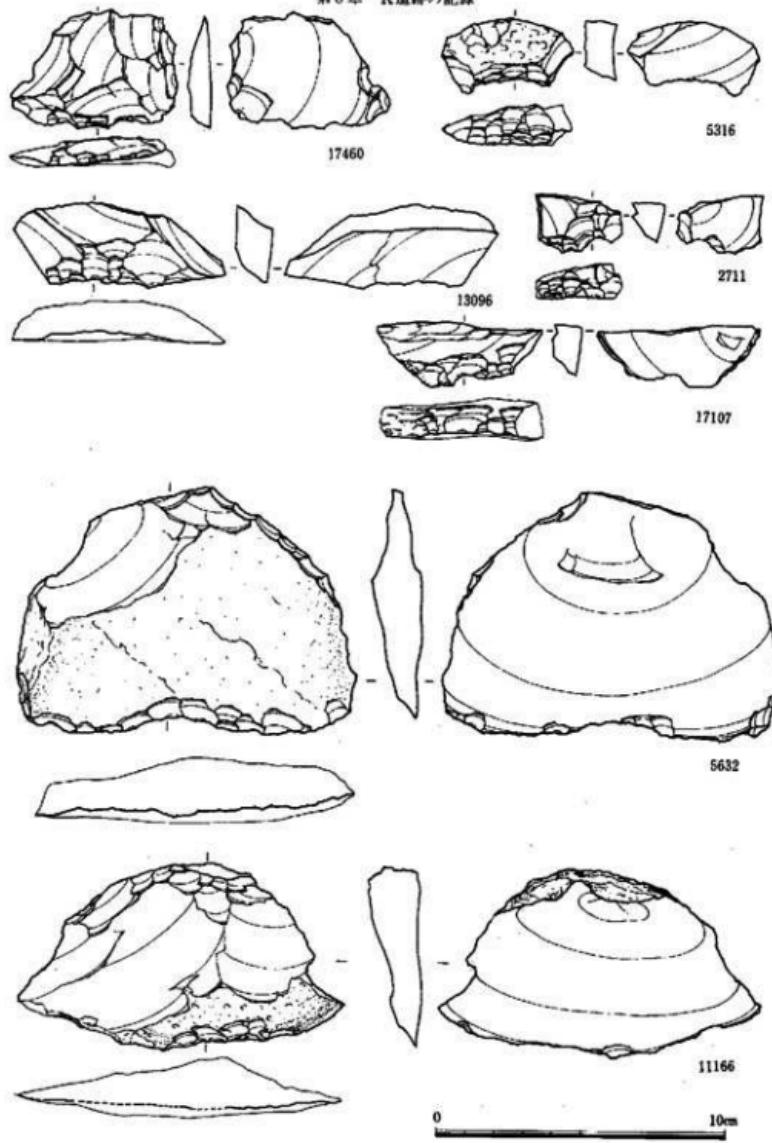


Fig. 346 柏原K遺跡出土石器 (XX)

7. 出土遺物

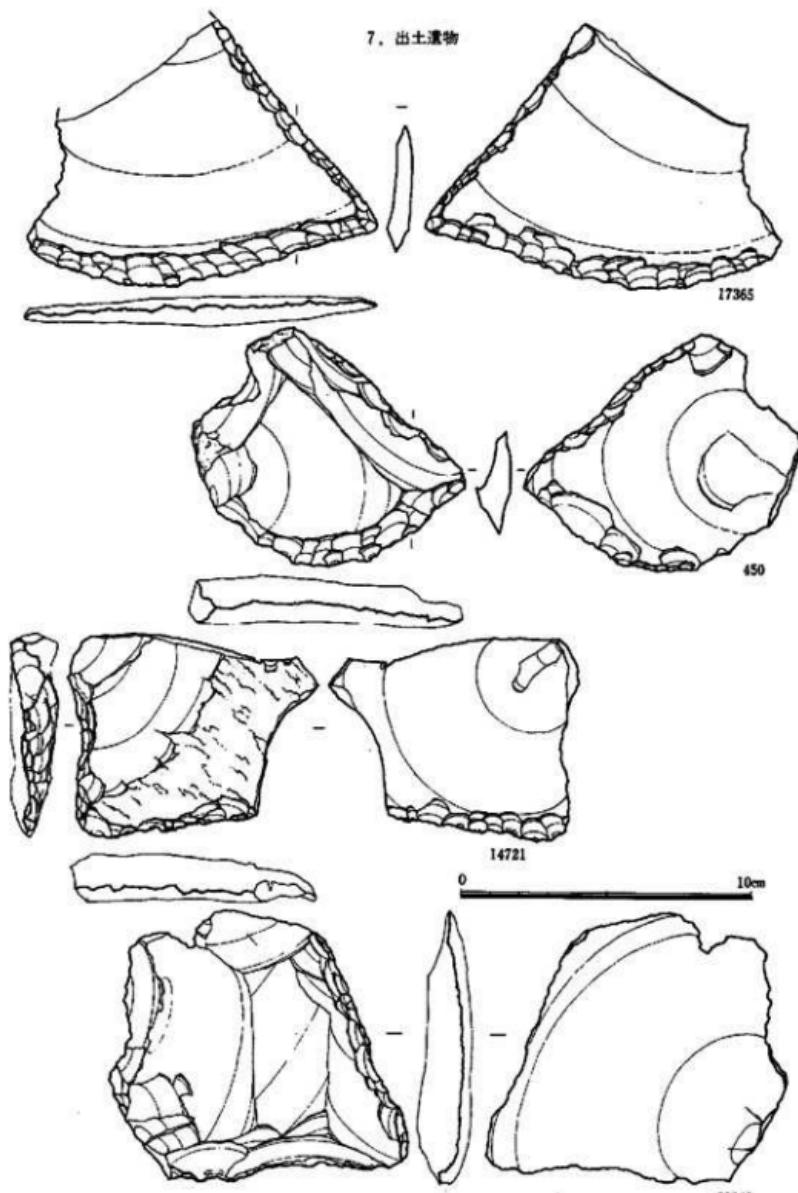


Fig. 347 柏原K遺跡出土石器 (XII)

第8章 K遺跡の記録

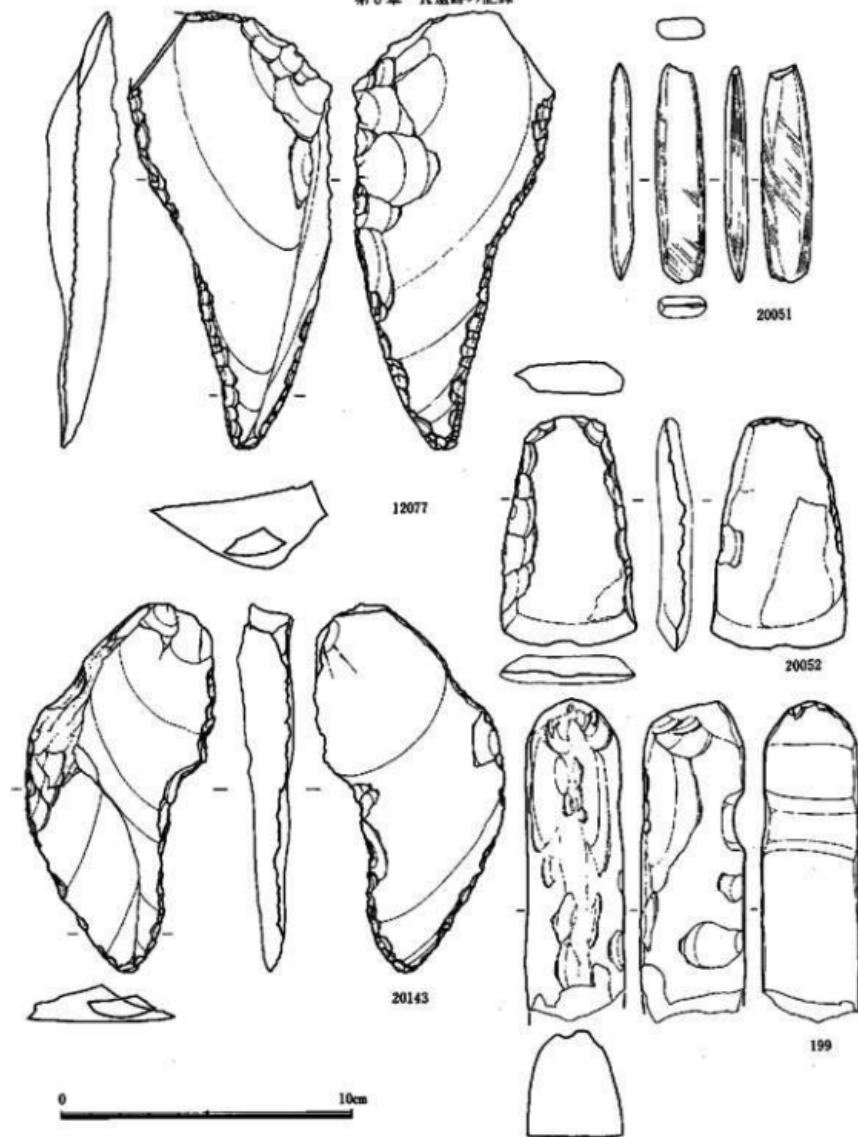


Fig. 348 柏原K遺跡出土石器 (XXII)

7. 出土遺物

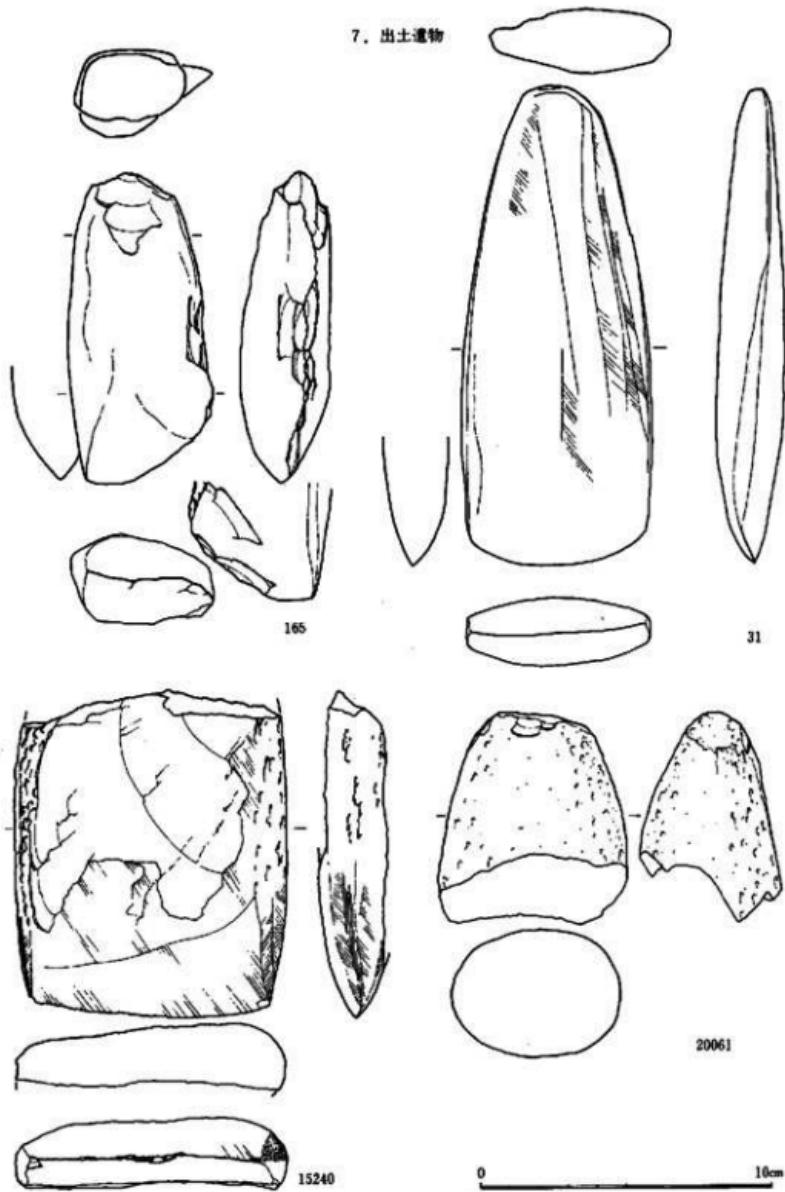


Fig. 349 柏原K遺跡出土石器 (XXN)

第8章 K遺跡の記録

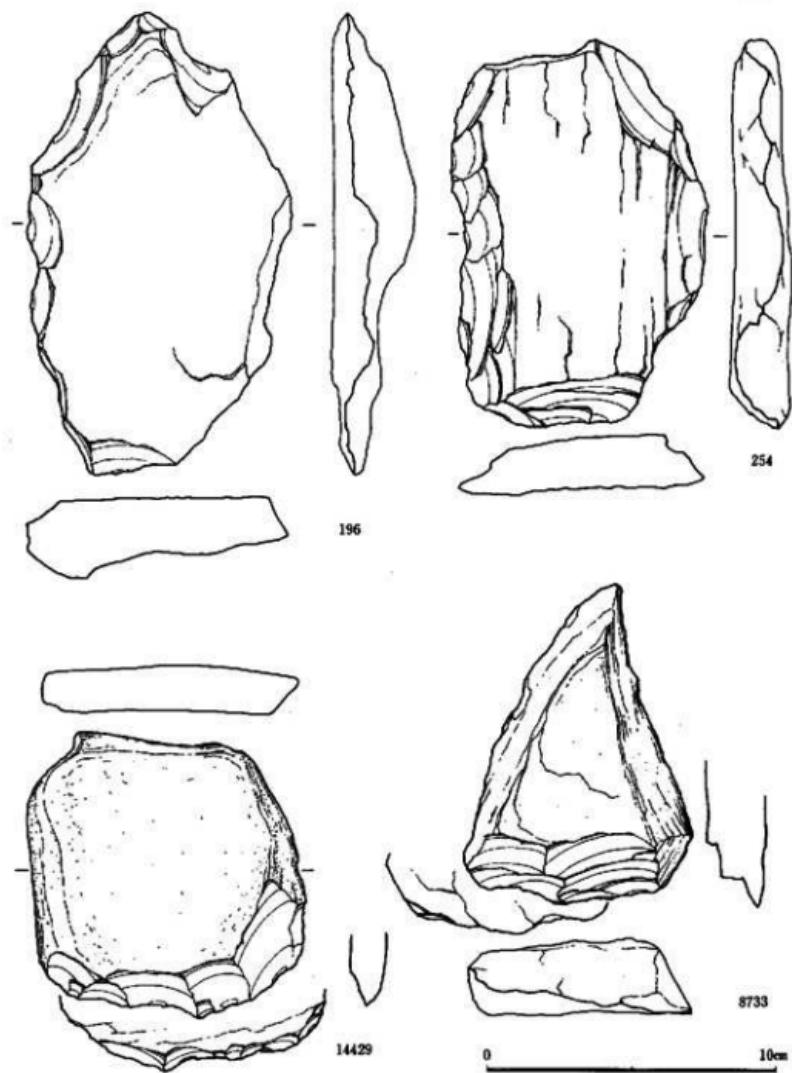


Fig. 350 柏原K遺跡出土石器 (XXV)

7. 出土遺物

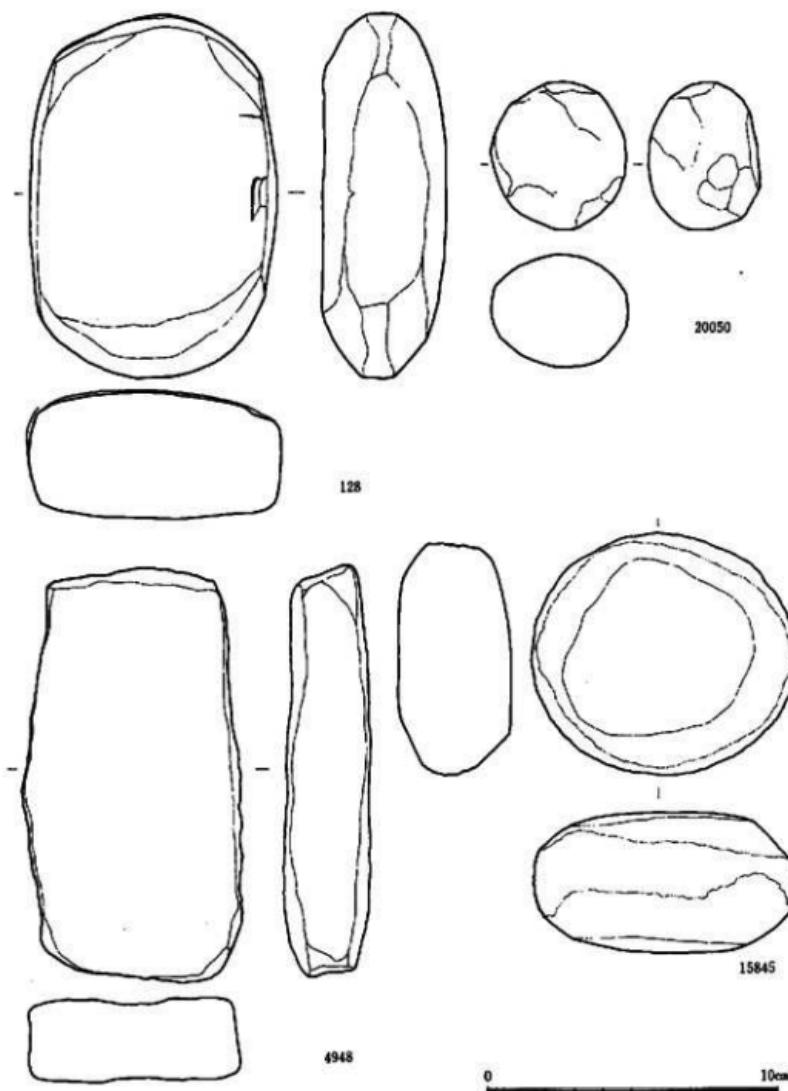


Fig. 351 柏原K造跡出土石器 (XXX)

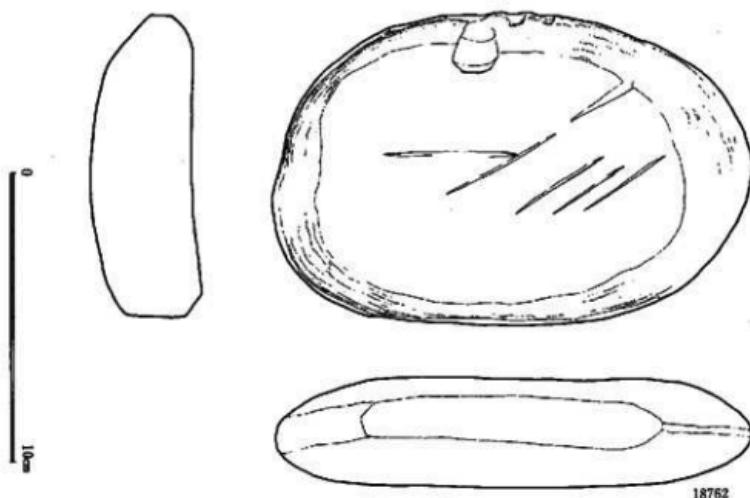


Fig. 352 柏原K遺跡出土石器 (XXX)

剥片石器K (Fig.344) 9859

大きさ形状から剥片を素材とするものと考えられるが、その主要剥離面を残置せず、両側辺からの剥離により図上裏面全体に加工を行っている。図上表面は同様両側辺からの剥離面が観察されるが、中央部に原礫面が残っている。剥離面の関係から裏面の加工が最終的なものであることが判る。表面の剥離痕は素材のものか、石器加工時に加えられたものか判断しかねる。

石斧 (Fig.348) 20051, 20052, 199, (Fig.349) 165, 31, 15240, 20061

明らかに異なる時代、時期のものが含まれる。

20052は風化が著しく元の器表面が残るのは僅一部である。199は柱状片刃石斧の刃部を含む部分を欠失する。断面薄鉋状を呈する。165, 31は石材が蛇紋岩と見られる硬質の石材を使用しており、為に研磨による光沢が器表に見られる。15240は刃部を含む部分の資料である。側面を中心に敲打痕が残っている。20061は大型蛤刃石斧の頭部破片であろう。全体に敲打痕が観察される。

7. 出土遺物

礫器 (Fig.350) 196, 254, 14429, 8733

196は遺存状況が悪く詳細は不明である。254, 8733は片刃、14429は両刃の石器である。いずれも転轍を利用していている。

磨石 (Fig.351) 128, 20050, 15845

12点が出土しており、内5点が完存する資料である。特徴的な3例を掲げる。128は圓上表裏面左右側面が、擦り面とも言うべき滑らかな曲面となっている。20050はいびつな球状を呈する

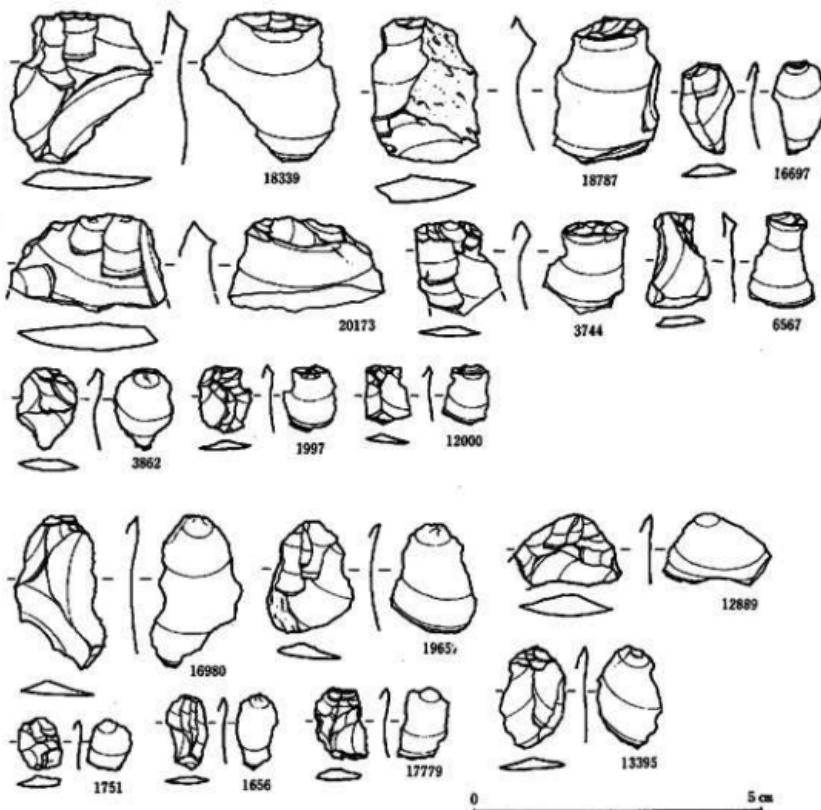


Fig. 353 柏原K遺跡出土石器 (XXIII)

が、その器表面は部分的な凹凸と小さな平面で構成されているように観察される。敲打による整形と使用になる損耗の結果とを示すものであろうか。15845は図上表裏面に研磨面、側面には敲打痕が観察される。後者が前者により消されている部分があることから、敲打痕は整形の痕跡であり、研磨面が使用の痕跡であることが言える。研磨面は表裏面とも傾きの異なる複数の面から成っており、使用に際して異なるいくつかの保持の仕方があったかあるいは、別の見方をするならば、それぞれの面が接触するような一定の形態を以て組み合わさるべき道具のあったことを示すものであろう。

砥石 (Fig.351) 4948, (Fig.352) 18762

砥石あるいはその疑いのある資料は、12点を数える。これらの中には同一固体の破片が含まれる。2例を示す。18762は椎円形扁平な円盤の表裏面及び1長側面を砥面として使用している。とくに図上表面は緩く凹部を成している。表裏面とも長軸方向のあるいはそれと斜交する条線状の傷痕が多数観察される。13018は表面の剥落が著しく、砥面の状態等観察が出来ないが扁平板状の亜角礫状を呈している。

石核と剥片について (Fig.352)

石核及び原礫としたものの全部、剥片としたものの殆どについてここでは図示する事が出来なかったが、概要を述べておく。

石核とした資料97点、原礫として資料15点を数える。原礫としたものの殆どは最低1面の側面面を持っている。一見して腰岳産とみなせる華大の亜角礫が多い。石核とした資料は、その重量についていえば、1.8gから3310gまでのものがある。形状についていいうならば、剥片剥離作業面を正面に置くとき、前後の厚さが小さく、高さの低い、そして剥片剥離作業面と打面との成す角度(剥片剥離角度)の比較的小さいものが目立つ。言い換えるならば、柏原下遺跡の報告に述べられるように板状の或いは両面石器状の石核が多くを占めているよう見える。

全遺物中石器としたものの占める割合は、微小な剥離痕が断続して残されているような破片を除けば7%程度である。残る遺物の大部分は、剥片及び碎片である。そのような剥片類には2者があることは考えられる。石核から剥離されたものと、石器素材から剥離されたものとである。しかし、石器の製作される過程についてここで復元することが出来た訳ではないし、剥片類の形状の変化も多種多様である。そういう理由で剥片類を全て分類し、位置付ける作業は非常に困難なことであろう。ただある作業に伴い剥離される特定の形態の剥片についてはある程度の確度をもって抽出分類できるだろう。その例として2種の剥片を一部図示する。

剥片A (Fig.353) 18339, 18787, 16697, 20173, 3744, 6567, 3862, 1997, 12000

7. 出土遺物

両面に加工された縁部の片面に圧力を加え剥離したような剝片であり、そのため調整打面を持ち、打面と打瘤の成す角度の大きな剝片となっている。断面形状は、かなり湾曲の度合いの大きいことを示している。

剝片B (Fig.353) 16980, 19657, 12889, 1751, 1656, 17779, 13395

点状或いは線状の打面をもち、比較的薄い剝片である。末端部は自由剥離により薄くなっていることが多い。全体として卵形或いは橜円形形状を呈するものが目立つ。頭部表面にみられる小剥離面の重なりは、この種の剝片において、剝片Aが剥離されたのと同様、石器上より縁部に極近い部分か或いは縁部それ自身に加えられた圧力により剥離されたものが多いことを示唆するものではなかろうか。

以上2種の剝片は両面加工の石器から得られた、或いは調整を行う目的の剝片であったとすれば、それらのうちのより小形の一群、より細かな調整の施された縁部をもち、剝片Aにおいては、かなり大きく湾曲するそれらが剥離された両面加工の石器として、やはり、石鎌、或いは橜先形の尖頭器様の石器を考えなければならないのではなかろうか。石器加工時の調整剝片として、特に縁部の様態から同定のより容易な剝片Aの抽出分類が意味あるものとなってこよう。

小結

以上主要な資料について述べた。最初に触れたように、これら石器とその分布は異なる時代・時期の人間活動の結果の複合した状態を示す。そういう前提があり、加えて既に行われている業績を分析、反映した結果でもないことなどから、ここで試みた類別は、一つの試み以上の意味を持つものではなかろうが、またそれぞれ類型化できる存在であることの可能性には注意しておきたい。

さて、種々資料の限界について述べた後ではあるが、気づいたことを記しておく。整理の過程で各分類について、格子毎の分布を調べてみた。図示しないが、全体の遺物の粗密に良く一致する傾向を観て取れた。石器のみならず石核或いは先述した剝片A或いは剝片Bについても同様の傾向を持っている。このことを更に押し進めるならば、時間差をもついくつかの重なりではあるにしても、Fig.325に示すように、地点的に集中して分布する石器群のその地点的なまとまりは、その石核以下の石器類の組み合わせにおいて、均質な存在ではないかという見通しをもって以後の分析を進めることができないだろうか。

第8章 K遺跡の記録

遺物 番号	種類	出土位置			石質	保存状況	重量	特記	種類番号
		区画	西から	高さ					
3	尖端部()	N3	220	264	4926	A1	完	22.3	円筒形石器、文山森氏
15	石頭(G1)	N3	328	264	4906	A1	完	1.6	
16	ナイフ形石器()	K1	497	387	4998	O1	先端部欠	1.7	+側面に鋸歯、ローリング
21	石頭()	M3	55	216	4903	X0	完	3.2	周辺、蛇紋岩?
43	石頭(瓶形)	L3	415	116	4926	A2	先端部欠	31.4	
76	石頭(C2)	K2	55	255	4944	O1	端部欠	1.4	ローリング
91	斜片石器(D)	J3	140	488	4939	A1	完	35.1	西側面削製、ローリング
94	側面切欠()	K4	91	104	4910	A1	完	6.55	
98	石頭(H2)	K3	116	320	4961	A1	先端部欠	1.0	ローリング
104	石頭(KD)	M3	76	30	4957	O1	先端部欠	2.4	
113	石頭(BS)	S12	174	296	4790	A2	端部欠	2.9	
128	磨石()	S15	467	5	4790	X0	完	3.6	
143	石頭(C1)	P13	298	146	4918	A1	完	3.4	
145	石頭()	P16	298	112	4895	X0	完	22.6	周辺、斜方、蛇紋岩
196	磨石()	L11	83	495	4974	X0	完	3.6	
199	石斧(石状先、刃石斧)	K11	320	125	4997	X0	下端部欠	23.2	風化が著しい
200	石頭(P3)	J11	156	230	4901	O1	先端部欠	0.9	
203	石芯()	J22	366	30	4957	O1	完	32.7	側面削製
217	石頭(D9)	M12	469	206	4950	A1	端部欠	0.5	
226	斜片石器(E)	L14	124	260	4918	A1	半欠	14.8	急角端面直続
253	円盤状の石器()	N15	276	150	4921	O1	半欠	7.4	片面削製、円盤状
254	磨石()	M15	215	449	4843	X0	完	3.6	打穿石斧?
448	斜片石器(E)	M13	152	252	4829	O2	完	24.9	斜角側面削付
450	斜片石器(H)	N13	444	518	4812	A1	完	36.6	
466	石頭(B2)	K16	283	131	4860	A2	先端部欠	0.5	
536	石頭(J0)	O15	449	419	4746	O1	端部欠	1.5	
593	円盤状の4器()	N16	163	3	4730	O1	半欠	3.65	側面削製
604	石芯()	J13	159	161	4800	A2	破片(端み部)	6.7	
643	石頭(B2)	I14	127	54	4819	O1	完	1.0	片面に高村面を残す
647	石頭(E1)	I13	200	491	4819	A1	完	0.9	
666	石頭(E0)	I14	370	318	4799	A1	先端部欠	1.4	
675	石頭(F3)	I14	379	214	4822	A1	端部欠	2.15	
722	石頭(E1)	I15	416	390	4823	A1	完	1.25	
772	石頭(B3)	H14	60	463	4893	A2	先端部欠	1.4	
787	石頭()	H16	341	9	4906	A2	端部欠	4.9	
799	石頭(E1)	H15	95	173	4881	A3	端部欠	1.4	
855	斜片石器(B)	H15	176	282	4887	X0	完	2.9	末端端面直続、円筒
869	石頭(F3)	C34	3	237	4736	O1	端部欠	0.75	
872	石頭(G2)	D25	147	6	4723	A1	完	0.4	
1107	斜片石器(D)	E36	165	262	4799	A1	破片	13.2	側面削製
1132	石頭(G2)	E35	42	385	4684	O1	先端部欠	0.8	
1178	斜片石器(D)	F35	189	96	4703	O1	完	3.0	未完成?
1373	石頭(L0)	E33	73	90	4705	O1	端部欠	0.9	
1403	石頭(F3)	E32	106	376	4733	O1	端部欠	0.4	
1447	石頭(F3)	E31	30	405	4705	A1	完	1.5	
1452	石頭(E0)	E31	90	470	4727	O1	完	1.5	
1508	円盤状の石器()	G35	465	403	4779	A2	半欠	7.4	側面削製、太端は丸方
1604	石頭(A6)	F35	189	134	4703	O1	完	3.0	
1734	石頭(A6)	F34	173	134	4715	A1	完	2.5	
1824	石頭(J8)	F33	106	254	4726	O1	先端部欠	0.8	
1832	石頭(F1)	F33	181	142	4724	A1	完	3.3	
1911	磨石(石器)	G32	157	350	4739	O1	完	4.8	
1939	石頭(G2)	G32	10	242	4726	O1	端部欠	0.75	
2006	円盤状の石器()	H36	220	420	4692	O1	完	9.6	側面削製、ローリング
2047	石頭(B3)	H35	153	254	4687	A2	先端部欠	0.7	
2211	糸分類()	I34	450	253	4705	O1	完	1.1	側面削製、右端は丸方
2213	石頭(K0)	H34	10	238	4713	O1	端部欠	0.9	
2421	石頭(C1)	H32	60	378	4738	A1	先端部欠	0.9	
2472	石頭(G2)	F32	405	362	4746	O1	完	0.65	ローリング
2663	石頭(B1)	G35	107	284	4668	O1	端部欠	4.3	2面と3面、367.0g重
2674	石頭(E1)	G35	455	148	4690	O1	先端部欠	1.25	
2681	石頭(D3)	F35	125	155	4677	A1	完	1.1	片面加工
2711	斜片石器(F)	G34	50	462	4698	O1	破片	2.6	
2785	石頭(B1)	G34	130	79	4708	O1	先端部欠	2.8	
2896	石頭(J9)	I29	118	454	4785	O1	端部欠	6.75	

柏原K遺跡出土石器一覧表（1）

7. 出土遺物

遺物 番号	種類	出土位置				石質	遺物状況	重量	特記	図 番号
		区	地	高さ	幅					
2696	彫形石器()	I29	273	373	4799	O3	完	4.0	ヨーリング	343
3125	石器(F1)	F29	155	429	4892	O1	脚部欠	1.0		332
3363	石器(F2)	K34	140	418	4776	A1	完	0.9		333
3438	石器(E1)	K33	496	170	4890	A2	先端部欠	0.30		332
3445	横先形先端部()	J33	29	34	4898	A1	脚部欠	2.6		326
3467	側面刃()	K32	185	386	4896	A1	半欠	15.65	両面削除、如意刀角状	344
3472	石器(J9)	K32	255	334	4815			0.9		335
3517	石器(A8)	J32	250	118	4825	O1	完	2.9		328
3640	石器(J9)	I34	349	485	4770	O1	脚部欠	0.9		335
3646	石器(G1)	H34	150	357	4769	O1	先端部欠	2.9		333
3795	石器(K9)	I33	499	268	4778	O2	脚部欠	2.6		336
3798	円盤状の石器()	H33	153	384	4779	O2	破片	2.25	両面削除	342
3816	石器(30)	I33	290	105	4769	O4	脚部欠	0.4	ヨーリング	335
3894	椎先形尖端部()	I32	35	447	4897	A1	完	1.75	尖端部分、小形	326
3965	石器(A8)	I32	214	128	4791	O1	完	2.20	済合、両端部を削ない	328
3961	石器(H2)	I32	485	130	4800	A1	完	1.05		343
4007	石器(F2)	H31	15	497	4818	O1	脚部欠	0.6		333
4112	石器(F2)	G35	398	355	4738	O1	完	0.9		338
4237	石器(C1)	F34	320	496	4751	O1	完	0.15	周縁加工	331
4307	石器(B1)	G34	438	152	4731	O1	脚部欠	0.4		335
4323	石器(B2)	F34	290	91	4770	O1	完	1.3		326
4441	石器(F1)	F32	140	427	4766	A0	完	0.9		335
4490	圓形石器()	I29	489	286	4785	O2	完	4.2		343
4779	側面石器(C)	H35	198	144	4684	A1	破片	5.25	両面削除	344
5026	石器(D9)	K34	311	151	4686	A1	完	0.6		331
5036	石器(E1)	K34	156	31	4703	O2	完	0.55		332
5051	石器(E1)	K33	339	199	4718	A1	脚部欠	0.9		332
5075	彫形石器()	K32	161	466	4700	A1	完	5.3		343
5077	石器(A8)	K32	162	413	4703	A3	半	6.2		328
5085	椎先形尖端部()	K32	92	121	4716	A3	完	2.0	2次削除有無差、肩端 扁状	326
5214	石器(H2)	F29	235	477	4742	A1	上半端欠	1.2		334
5316	側面石器(F)	E29	140	140	4769	A2	完			346
5360	円盤状の石器()	G29	375	188	4762	A1	半欠	18.7	両面削除	340
5430	石器(A8)	I29	275	366	4738	A2	完	8.1	未成品	328
5578	石器(K9)	D28	148	167	4774	O1	脚部欠	1.2		335
5579	石器(J9)	I28	166	147	4774	O4	脚部欠	1.75		335
5632	剥片石器G()	H25	278	356	4524	X0	完	205	両面削除	346
5637	石器(K9)	I25	250	185	4830	O1	脚部欠	1.65		336
6026	円盤状の石器()	H35	128	396	4645	O1	完	8.0	円盤状	341
6220	石器(E1)	K29	194	433	4700	O1	先端部欠	0.55		332
6225	石器(B3)	K29	97	208	4765	O2	完	0.6		336
6261	石片(破形)	K28	477	2	4720	A1	完	23.05		339
6265	石器(J9)	J27	277	194	4713	O1	脚部欠	1.4		335
6290	彫形石器(削形)?	K26	45	434	4713	O1	完	1.0	両面削除有無	343
6665	円盤状の石器()	F29	345	257	4729	O1	半	1.0	部分的に両面削除	342
6717	石器(H1)	M29	9	73	4778	O1	脚部欠	2.1		334
6725	石器(K9)	M27	135	216	4800	O1	半欠	0.8		336
6735	円盤状の石器()	M26	340	224	4801	A1	完	28.4	両面削除	346
6742	彫形石器(削片)	M26	389	98	4810	O1	完	1.0		343
6756	石器(K9)	M25	322	492	4759	O1	脚部欠	4.0		336
6819	石器(L0)	H35	204	186	4637	O1	先端部欠	0.8	側面状態	337
6841	石器(K9)	I23	222	462	4637	O1	下端部欠	1.6		336
6877	石器(G1)	H23	168	285	4647	O1	完	1.9		335
6949	石器(G2)	L34	455	417	4798	O1	完	0.75		334
7024	石器(C1)	G28	349	446	4789	O1	完	0.6		331
7096	石器(K9)	L29	443	383	4754	O1	脚部欠	1.3		337
7101	石器(K9)	L29	450	223	4777	O1	下端部欠	4.2		336
7187	石器(D0)	K27	432	106	4774	A1	完	1.55	周縁加工	331
7188	石器(D0)	K27	433	395	4779	O1	脚部欠	0.65		335
7266	石器(F2)	M33	378	364	4726	A1	完	1.4		334
7293	石器(C2)	M31	194	23	4745	O1	完	1.2	先端部が尖端ではない	331
7306	石器(L0)	M32	333	465	4730	A3	完	1.1	07307と組合	337
7435	石器(J9)	K25	484	248	4771	O1	脚部欠	1.25		335
7453	石器(J9)	J26	177	350	4808	O1	脚部欠	1.6		335
7495	彫形石器(削片)	K26	141	252	4790	O1	完	0.5		343

柏原K遺跡出土石器一覧表 (2)

第8章 K遺跡の記録

遺物番号	種別	出土位置			石質	遺存状況	重量	特記	備考番号
		区	面	南北					
7687	石器(10)	G35	450	110	4870	O1 両刃欠	0.4		336
7752	石器(LD)	M33	184	259	4721	A2 完	1.8		337
7876	磨形石器()	H22	493	415	4862	O1 完	2.05		343
7883	圓形石器(断片)	H22	95	59	4854	O1 完	1.55		343
7884	石器(C2)	H22	126	35	4859	O1 両刃欠	1.9		334
7889	石器(E3)	H22	84	176	4861	O1 完	1.1		332
7909	石器(K6)	H21	132	83	4857	O1 両刃欠	1.1		336
7972	石器(E3)	H21	81	316	4846	O1 完	0.65		332
7994	石器(H2)	J26	48	169	4791	A1 先端部欠	2.8		334
8733	礫器()	C35	411	268	4891	X0 完	262		350
8848	円盤状の石器()	F35	91	41	4853	A2 半欠	9.05	頭部削除	346
9302	円盤状の石器()	G36	136	386	4846	O1 完	3.9	両面削除	347
9547	圓形石器()	G36	822	47	4866	O1 半欠	8.1		326
9626	椎先形尖端器()	E37	4	305	4833	A2 半欠	0.05		327
9858	石器(J9)	L35	316	214	4886	O1 両刃欠	0.5		336
9859	剥き石器()	L35	326	212	4872	O1 完	2.6	尖端器状、片面部加工	344
10052	石器(L3)	E36	372	1	4597	A1 完	1.4		337
10091	石器(D9)	E37	162	303	4830	A1 先端部欠	0.35		331
10124	磨形石器()	G37	228	385	4808	O1 完	7.5		345
10314	圓形石器()	F37	232	258	4806	O1 完	4.1		343
10322	石器(C2)	F37	117	289	4812	O1 両刃欠	0.35		334
10369	剥き石器(C)	H37	272	280	4841	A2 破片	1.7	側面状	344
10372	石器(G2)	H37	232	337	4845		0.4		334
10414	6種(F3)	M35	385	221	4894	A3 完	0.6		333
10514	石器(E1)	I37	400	217	4831	O1 両刃欠	0.6		332
10536	石器(G2)	E32	490	391	4889	O1 両刃欠	0.65		334
10631	4種(B2)	G27	130	344	4824	A1 完	1.0		336
10784	石器(G3)	G26	159	77	4830	O1 両刃欠	1.3		334
10967	剥き石器(A)	G38	132	191	4891	O1 先端部欠	1.15	頭部削除、両刃欠	344
11123	石器(H2)	F27	387	337	4812	O1 完	0.6		334
11143	石器(E1)	F27	86	371	4812	O1 完	0.8		332
11166	剥き石器(G)	N29	440	115	4695	A1 完	1.12	鋸角形削除直線	346
11261	石器(B3)	F28	415	688	4800	A2 完	0.65		336
11616	石器(L8)	31	58	75	4709	O1 完	1.9	直線削除直線下に斜面	337
11802	石器(B2)	G25	183	477	4843	A1 完	0.9		336
11899	圓形石器()	H29	55	248	4718	O1 完	2.05		343
12040	石器(M40)	F25	476	180	4842	O1 両刃欠	0.5		337
12057	石器(G3)	G25	57	246	4815	A1 完	0.7		333
12063	石器(J6)	G25	393	468	4822	O1 両刃欠	2.7		335
12073	鍬刃器()	N29	233	3	4769	O1 両刃欠	0.25	鋸形削除直線	326
12077	剥き石器()	N28	180	10	4774	A1 完	1.62	両刃加工、嘴状	348
12089	石器(J8)	N27	287	115	4803	O1 両刃欠	0.5		335
12093	石器(F3)	N25	269	243	4787	O1 完	1.66	側面状	323
12107	鍬刃器()	?				O1 完	0.3		326
12108	石器(E8)	N25	361	365	4771	A1 完	1.55		331
12122	長形器()	N32	407	288	4722	A1 完	6.3	直線削除の直線部直線	344
12145	石器(B3)	N34	113	432	4707	A1 先端部欠			330
12156	石器(E1)	K22	399	388	4837	O1 完	0.4		332
12271	(石器) (J6)	K21	420	300	4855	O1 完	1.4		333
12278	石器(C2)	J21	10	90	4840	A1 完	1.1		331
12279	円盤状の石器()	?				O2 半欠	7.6		341
12521	石器(B3)	M24	123	76	4821	O1 先端部欠	0.8	尖端形削除による欠失	330
12541	石器()	G24	403	131	4860	A1 完	4.1		339
12635	剥き石器(F)	E27	119	206	4829	A3 完	8.9	圓形削除の直線	345
12784	石器(B3)	M24	205	283	4813	A1 完	0.3		330
12825	石器(C2)	G24	265	184	4853	A1 両刃欠	0.75	ヨーリング	331
12901	石器(G2)	N21	455	329	4817	O1 両刃欠	0.65		334
12926	円盤状の石器()	E27	29	192	4825	A1 完	12.6g		346
12967	石器(C2)	N24	330	148	4799	A1 両刃欠	0.5		331
12970	石器(C2)	N24	246	184	4785	A3 完	1.0	複数回削除を行なう	331
12975	石器(B3)	N23	32	378	4808	O1 完	0.5		331
12996	石器(J6)	M22	84	421	4756	O1 両刃欠	1.2		335
13018	砾石()	O31	418	440	4796	S0 完?		複数の両面に凹面	351
13053	円盤状の石器()	E25	348	158	4852	A3 半欠	33.6	頭部削除	346
13094	剥き石器(F)	G30	63	176	4796	A1 完	10.0	直角削除長板状	346

柏原K遺跡出土土器一覧表(3)

7. 出土遺物

遺物 番号	種別	出土位置			石質	進化状況	重量	特記	参考 番号
		区画	南北	東西					
13366	石器(B3)	J19	289	415	4877	O1 完	1		338
13381	石器(B3)	J18	494	312	4870	O1 完	7.3		343
13407	石器(B3)	J18	394	395	4858	O1 完	0.6		343
13504	石器(B3)	E26	34	184	4872	O1 胸部欠	0.8		335
13536	石器(B3)	E25	431	72	4886	O1 先端部欠	0.9		336
13553	石器(B3)	J18	403	370	4794	O1 先端部欠	1.4		337
13693	石器(G3)	J19	126	373	4847	O1 完	5.3		333
13694	石器(B3)	J22	116	390	4840	O1 滑形欠	4.4		329
13695	石器(E3)	J17	79	35	4866	A1 胸部欠	2.8		331
13699	石器(K3)	K22	290	25	4820	O1 完	1.65		336
13824	石器(B3)	H17	32	471	4864	A3 破片	14.9	円錐形調査、周縁丸味	345
13844	石器(T3)	J20	228	146	4864	O4 四隅部欠	1.15		335
13853	石器(K3)	F21	192	430	4864	O1 滑形欠	1.1		336
14015	円錐形の石器()	G30	19	212	4776	A8 半尖	11.5	円錐形、厚形	341
14017	石器(F3)	F30	495	283	4774	O1 先端部欠	0.25		333
14120	石器(G3)	E28	94	380	4762	O1 先端部欠	0.9		335
14249	石器()	J18	128	494	4865	S0 完	298	片刃	350
14425	石器(G3)	K18	290	494	4861	O1 滑形欠	0.7		335
14493	石器(G3)	F30	486	290	4760	O1 完	1.4	斜面面を裏面に残す	334
14546	石器(C3)	I30	120	372	4727	O1 滑形欠	0.9	両面地底両面	331
14696	圓形両面地底石器()	K17	17	299	4886	X0 完	3.9		337
14721	片刃石器()	L30	319	275	4780	A2 完	92.6	両面両鋸歯	347
14800	石器(E3)	L17	235	458	4869	A2 完	0.65		332
14801	石器()	M19	435	229	4866	A1 胸部欠	29		339
14805	石器(E3)	L17	390	426	4861	A2 完	1.7		332
14809	石器(K3)	L30	264	232	4761	O1 胸部欠	4.8		336
14930	石器(F3)	J30	58	228	4756	A2 完	2.4		332
14954	石器(G3)	K30	122	317	4763	A1 完	0.9		333
15146	石器(E3)	G18	331	310	4776	O4 完	0.5		332
15240	石斧()	M16	348	240	4825	X0 月形	452	圓刃、直刃?	349
15262	円錐形の石器()	J18	469	310	4887	A2 完	2.1g		17
15288	石器(L3)	K19	133	36	4863	A2 完	2.2		337
15382	石器(C3)	J18	330	495	4875	A1 完	0.5		331
15431	石器(B3)	H18	438	330	4895	O4 完	7.65	未成品?	329
15472	石器(E3)	H18	432	65	4872	O2 完	1.4		332
15536	()	G16	66	351	4884	A3 完	10.4	両面両鋸歯、尖鋸歯既存	327
15682	石器(J3)	G23	97	288	4824	O1 胸部欠	2.9		335
15711	石器(H3)	E22	499	186	4867	O1 胸部欠	2.9		334
15713	石器(K3)	D23	113	365	4869	O1 胸部欠	1.7		336
15751	円錐形の石器()	H23	165	103	4833	A2 半尖	14.4g	円錐形調査 片刃両面、直刃既存	341
15796	牽分類()	G16	392	82	4829	O1 半尖			341
15845	磨石()	L16	100	200	4852	X0 完	590		351
15860	石器(F3)	J24	334	382	4820	O1 胸部欠	0.8		335
15943	石器(J3)	I24	15	455	4802	O1 完	0.9		335
15952	石器(K3)	K24	55	270	4825	O1 胸部欠	1		336
15987	石器(E3)	L23	10	370	4830	O4 完	0.6		330
16006	石器(E3)	L18	360	160	4790	A9 増彎欠	1.4		332
16021	石器(J3)	F22	6	168	4925	O1 胸部欠	1		335
16044	石器(K3)	()	15	250	4812	O1 胸部欠	1.9		336
16046	石器(B3)	H22	444	159	4812	O1 完	0.75		331
16088	石器(B3)	H24	360	457	4807	O1 完	2.8		330
16109	石器(F3)	P24	340	438	4841	O1 増彎欠	0.9		335
16119	石器(G3)	H27	425	218	4809	O2 完	0.6		334
16208	石器(J3)	J30	19	189	4776	O1 胸部欠	1.8	1面凸彎底底	335
16237	石器(K3)	J35	452	278	4663	O3 胸部欠	0.7		336
16312	石器(K3)	J34	176	263	4712	O1 先端部欠	0.9		335
16334	石器(E3)	L36	170	248	4708	A1 半尖	5.4	2面側面底底	345
16335	石器(G3)	L35	147	290	4688	O1 胸部欠	0.75		334
16417	石器(E3)	J37	406	285	4663	O1 胸部欠	0.5		332
16419	石器(B3)	J37	294	233	4635	O1 先端部欠	0.7		336
16520	石器(A3)	D38	460	234	4642	O1 上半部欠	3.1		329
16603	石器(H3)	F37	390	194	4601	A2 完	0.9		334
16798	石器(C3)	F40	180	160	4571	O1 完	0.45	古墳古からみる新石器調査 既存	331
16821	石器(B3)	H40	352	160	4546	O1 先端部欠	1		332
16849	石器(B3)	G39	435	330	4561	O1 完	0.8		336

柏原K遺跡出土石器一覧表(4)

第8章 K遺跡の記録

遺物号	種別	出土位置			石質	遺物状況	直角	特記	持者号
		区	面から	層から					
16949	石器(F3)	H27	76	25	4749	O1	端部欠	0.7	333
17062	石器(J9)	F35	434	247	4730	A4	脚部欠	0.9	335
17078	円盤状の石器()	G30	6	335	4713	O2	米	3.5	西面加工、方盤状
17107	剥片石器(F)	J133	472	270	4694	A1	破片	6.15	直角削根根頭
17233	石器(F2)	F34	371	226	4692	O4	先端部欠	1.1	333
17269	石器(E2)	F26	388	6	4665	A1	脚部欠	2.4	331
17325	石器(P2)	R35	95	364	4692	A9	脚部欠	1.75	333
17365	剥片石器(H1)	L36	68	116	4660	A1	半欠	27.6	圓盤状直角、刃削り
17373	石器(G2)	M34	499	115	4650	X9	完	1.5	実地盤を持たない
17422	石器(H2)	L33	67	492	4656	O1	端部欠	1	ローリング
17460	剥片石器(F)	I36	42	228	4692	A2	完	8	底面刃
17541	石器(B1)	H130	324	177	4755	O1	端部欠	2.2	334
17559	石器(J9)	H30	36	18	4718	O1	完	0.9	335
17669	石器(B1)	J20	100	470	4826	O1	米	4.4	実地盤を持たない
17696	石器(F)	N25	185	78	4771	O2	下半欠	1.7	332
17709	石器(J9)	L21	415	50	4795	O1	脚部欠	0.75	335
17765	尖頭器()	H122	16	496	4654	A1	完	32	圓盤状、尖頭器状
17792	石器(G2)	G24	425	459	4638	O1	端部欠	0.75	335
18050	石器(M2)	T29	374	281	4701	O4	半欠	1.1	直角削根、圓盤状削根
18067	剥片石器(A)	O24	23	302	4698	A1	完	4.1	尖頭器状刃、直角削
18103	円盤状の石器()	N35	219	420	4654	A1	端部欠	23.0	圓盤状
18160	石器(C2)	I33	588	150	4791	O1	先端部欠	2.4	331
18202	円盤状の石器()	E37	404	219	4605	O1	完	2.7	円盤状
18303	石器()	G26	456	258	4744	A3	半欠	15.4	彫み溝に打痕直角
18321	石器(K9)	P25	371	306	4767	O1	端部欠	1.7	圓盤状
18350	剥片石器(D)	K28	384	88	4749	A1	半欠	19.9	345
18435	石器(G2)	F33	23	343	4664	O1	端部欠	0.6	334
18525	石器(G3)	K35	348	45	4646	A2	完	1.05	333
18762	石器()	I36	367	437	4635	S9	米	916	剝離、鷺頭に被打痕
18792	石器(J9)	K34	113	277	4612	O1	脚部欠	0.75	335
18942	石器(G2)	G34	376	450	4663	O1	完	0.65	334
18963	円盤状の石器()	E35	245	152	4674	O1	完	9.6	肉厚加工
19064	石器(L0)	K31	226	155	4724	O1	先端部欠	1	凸出部打痕直角
19366	内盤状の石器()	J31	296	379	4713	O1	半欠	5.8	圓盤加工、圓盤状
19109	石器(C2)	J37	241	179	4666	O1	完	0.6	圓盤状直角、直角削
19118	被覆尖頭器()	J37	229	248	4696	O1	完	0.8	小斜面削根、端部加工
19129	石器(H2)	F40	364	325	4517	A2	脚部欠	0.9	334
19287	石器(B1)	I35	474	399	4655	O1	半欠	1.65	329
19346	石器(F3)	I41	44	251	4630	O1	端部欠	2.4	ローリング
19649	石器(B3)	B42	81	361	4596	A1	完	9.8	330
19857	石器(R1)	H42	32	281	4413	O1	完	0.4	332
19892	石器(H2)	R32	267	390	4690	O1	端部欠	0.9	334
20007	尖頭器()	F34	12	—	—	A2	一端欠	32.6	圓盤状、直角加工
20028	石器(A2)	S32	—	—	—	A2	完	7	326
20039	円盤状の石器()	H37	—	—	—	A2	破片	1.3	圓盤状開口
20044	石器(B3)	—	—	—	—	O1	完	6.9	330
20045	石器(E3)	K20	—	—	—	A7	端部欠	1.3	332
20047	石器(E1)	G25	—	—	—	O1	端部欠	1	332
20048	石器()	—	—	—	—	A1	端部欠	17.4	339
20049	剥片石器()	I2	—	—	—	A1	完	52.9	直角削根直角
20050	磨石()	I2	—	—	—	G9	完	—	351
20051	石器()	—	—	—	—	S9	端部欠	21	348
20052	石器()	—	—	—	—	S9	完	61.9	348
20055	内盤状の石器()	J23	—	—	—	Q1	完	27.8 石柱?	340
20058	石器(A2)	L12	—	—	—	A1	完	4.6	329
20060	石器(A2)	G16	—	—	—	A1	完	5.15	328
20061	石斧(大型)	—	—	—	—	G6	破片	288 剥離、齿尖時代	348
20066	石器(B3)	L26	—	—	—	A3	完	0.9 脊椎孔、尾子	330
20081	内盤状の石器()	M12	—	—	—	O1	完	11.7 直角削根、ローリング	341
20098	石器(K9)	G16	—	—	—	O1	端部欠	2.7	336
20099	石器(K9)	G16	—	—	—	O1	端部欠	1.8	336
20105	剥片石器()	Q15	—	—	—	A1	破片	28.1 直角削根直角	345
20106	石器()	H28	—	—	—	A1	破片	50.4 2点が複合	338
20111	石器()	F18	—	—	—	A1	半欠	14.8	338

柏原K遺跡出土石器一覧表(5)

8. 小結

遺物番号	種別	出土位置			石質	遺物状況	重量	特記	伴用番号
		区画	南から	西から					
20112	石器()	P12			A1	完	9.1	素面縞を利用	338
20113	石器(B3)	J21			A0	完	3.1		339
20114	網状石器(A)	M16			A1	半欠	4.55	両縫面調整	344
20116	石器(A0)	G36			O1	上半部欠	2.1		328
20117	石器(B3)	R21			A1	完全破壊加工	1.5		330
20120	石器(H2)	M14			A0	端部欠	1.6	片面に素材面を残す	334
20124	石器(E1)	K11			A1	完	1.7		332
20125	石器(B3)	L9			O1	端部欠	0.8		330
20127	石器(B1)				O1	端部欠	4.4		329
20129	石器(B3)	L16			A2	完	0.8		330
20130	石器(B3)	E21			A1	完	1.25		330
20131	石器(E0)	J20			A1	完	2.9		331
20134	石器(D0)				A1	完	1		331
20136	石器(E)	F20			O2	完	0.75		332
20140	石器(F2)	F24			O2	完	1		332
20143	網状石器(I)	G18			A1	完	306	網状縫不規則表面溝	345
20145	石器(G1)	E28			A1		0.6		333
20184	石器(B2)						0.4		330
20185	網状石器()	N25				完	3.15		343

遺物番号	種別	出土位置			石質	遺物状況	重量	特記	伴用番号
		区画	南から	西から					
1656	網状(B)	F34	164	449	4709	O1	完	0.1	353
1751	網状(B)	G34	266	18	4710	O1	完	0.1	353
1997	網状(A)	G34	44	67	4742	O1		0.2	353
3744	網状(A)	H33	44	264	4786	O1	下半部欠	0.5	353
3862	網状(A)	H32	135	444	4789	O1	完	0.2	353
6367	網状(A)	H35	165	317	4841	O1	完	0.3	353
12000	網状(A)	J24	223	37	4777	O1	完	0.1	353
12889	網状(B)	N22	187	76	4812	O1	端部欠	0.7	353
13395	網状(B)	J16	372	376	4881	O1	完	0.8	353
16697	網状(A)	H35	475	32	4889	O1	完	0.3	353
16980	網状(B)	H27	153	61	4792	A1	完	0.9	353
17778	網状(B)	J24	256	347	4776	O1	完	0.2	353
18339	網状(A)	J26	86	134	4788	O1	完	2.1	353
18787	網状(A)						0.2		353
19657	網状(B)	G38	478	254	4546	O1	完	0.6	353
20173	網状(A)					A1	下半部欠	2.4	353

柏原K遺跡出土石器一覧表 (6)

<石器類一覧表について>

今回報告資料のみを掲載した。

遺物番号順に配列した。

種別は器種と(細別)と記した。

出土位置のうち、区画は調査時設定した5×5mの格子を示す。「南から」及び「西から」の出土位置は各格子のそれぞれ南辺、西辺からの水平距離をcmで示す。高さは出土標高でやはりcmでしめす。

石質の分類は以下の通りである。

O : 黒曜石である。漆黒の1、暗灰色で表面風化しがラス状を呈する2、灰色半透明樹脂状の光沢をもちおそらく姫島産とされる3、暗灰色で樹脂状の光沢をもつ4がある。

A : 安山岩とするものである。灰色で風化による変化の少ない1、黒色で表面は風化により明灰色或いは灰白色を呈する2、黒色で風化による変化に流理状のものがあらわれる3がある。G 0 : 支岩とするものである。S 0 : 砂岩である。Q 0 : 石英である。

遺存状況については、完資料として完存するものをいう。端部欠としたものは資料形状に殆ど反映しない程の欠失部のあるものをいう。石器上の上下は図示する位置関係をそのまま利用する。石器は尖端部の取るものはそれを上方に、刃部の成るものは原則としてそれを下方に配列している。半欠としたものは、長軸に沿う方向で半ばを欠失するものである。

重量の単位はgである。

8. 小結

K遺跡は本造成地内で確認した最大規模の縄文時代遺跡である。発掘調査で発掘することができ、約1200基にのぼる遺構と約5万点の土器、石器等が出土した。発掘調査による成果は縄文時代研究上、きわめて重要な事項を含んでいるが、本報告書では時間的制約のため充分意をつくしきれなかった。今後、分析と検討を加えて再論するつもりであるが、ここで、現時点における問題点の概略を整理し、将来にそなえたいと思う。

本遺跡において検出した遺構は、自然流路二条と土壌状構1187基、石圓い炉址2基、集石遺構3基である。この中で特に土壌状遺構の数の多さには注目する必要がある。土壌状遺構は遺構の形状や埋まり方等の種々の条件から、住居址、土壙墓、その他の土壌に分類が可能である。その他の土壙については明確な用途を特定できないが、石片等が集中していて作業場的な性格を有しているものもある。しかし、いずれにしても遺構の数が非常に多い。このことはこの遺跡が大集落であったことを想定させるが、これについては、若干の分析、検討が必要である。本遺跡の出土土器は草創期・早期・前期・中期・晚期と各期にわたっている。この時期で遺構に直接関連するのは草創期・早期である。土器の検討については後述するが、草創期の一時期、早期では無文土器の単純期から押型文土器期の各時期のものが存在し、その存続期間は長期にわたっている。各時期別の土器群の分布、さらに各個体別の土器の詳細な分布を概観すると、一時期の土器と対応する遺構は数少ない。見た目よりかなり小規模になってくる。ここで参考となるのは、SK-135、SK-140、SK-159の無文土器を単純に出土する土壙（住居址）の存在である。これらの土壙は他の遺構と異なり保存状態も良好で、埋土自体に大きな差がある。遺物包含層は黄褐色砂質土層で、他の土壙埋土は遺物包含層と大差ないが、前記土壙は、遺物包含層の下面において検出し、埋土は黒色砂質土層で固くしまっていた。層位的にも押型文土器の時期以前であることが判断できると共に、埋土の状態、出土土器から同時併存した可能性が強い。また分布も広場的空間を内に抱き等距離で存在し同時併存を補強している。この遺構分布は柏原K遺跡の数多くの遺構を理解するためにはきわめて示唆的である。すなわち、柏原K遺跡の遺構群は小規模な遺跡の集合によって、結果的に大規模な遺跡となったものであることが推測できる。換言すれば多次にわたる縄文人の回帰的な行動を示しているところである。このことは、柏原遺跡群における他の縄文時代遺跡においても共通する現象である。この回帰的行動が何に起因しているかは明らかにできないが、押型文土器における各時期の特徴が一致しており、同一集団におけるテリトリー内の一つの行動パターンとして把握することができよう。このことについては、遺構、出土遺物の詳細な検討を経た上で詳細に論述したい。

遺物には土器、石器、自然遺物がある。土体を占めるのは土器、石器で約5万点がある。土器の層位的な検討は再論することとし、型式的に若干のまとめをしておきたい。本遺跡で最も

さかのばる土器として草創期の土器の一群がある。量的には数点であるが、口縁部に刺突文をめぐらし、その下位に豆粒状の粘土貼付文をめぐらす。地文として貝殻条痕が施されている。柏原E遺跡で同類の土器が比較的まとまって出土していて、押型文土器以前の条痕文土器の一群と考えられる。次にくる土器は前述した無文土器の単純期があてられよう。層位的にも明らかに押型文土器以前である。薄手の小型土器と厚手の大型土器がセットをなす。押型文土器と共に伴する無文土器との区別については今後の検討が必要であろう。押型文土器は一見混在した状態であるが詳細な検討では分離できそうで、重複部では明らかに層位的な関係がある。それからすれば押型文土器で最も先行するのはベルト施文の押型文土器である。一点を除いて他はすべて山形文の横位のベルト施文である。東九州の川原田式土器が横円文を主体とする横位のベルト施文であることからみれば、地域的差異を感じる。次の押型文土器は稻荷山式土器とされるものである。さらに早水台式土器、下菅生B式土器と続き、田村式土器併行期を一部欠落するが、次の平底で円筒形をなす押型文土器へと続き、押型文土器のはばすべての型式がそろっている。前期土器では轟式出土器が注目される。自然流路の土器と包含層土器とは層位関係があり、その前後関係を把握できたのは大きな成果である。晩期土器は央帶文土器出現前のいわゆる黒川式土器で北部九州においてそのセット関係を把握した意義は大きい。

第9章 L遺跡の記録

1. 遺跡の立地

L遺跡はK遺跡の河岸段丘面より一段下位の樋井川流域に展開する小規模な沖積地一帯を占めている。現状は水田（棚田）となっていて、かなりの広さを有する。試掘の結果、樋井川の流路を中心として幅100m～150mの範囲で沖積地が存在する。沖積地は粗砂層と粘質土層の互層となっていて、中世水田が存在する。沖積地の西側奥部には水田下にかくれた段丘が存在し、沖積地との段差は約1.0mである。この段丘は北側にあるM遺跡の段丘に連続しているが、中世に掘り込まれた幅約3mの水路によってL遺跡とM遺跡とが分断されている。段丘の標高は35.5m～36.5mで東に向ってゆるい傾斜をしている。遺跡はこの段丘先端に位置していて、沖積地に直面している。遺跡の発見は水田調査中に段丘部の黄褐色土層中に縄文式土器が含まれていることが判明したことに始まる。遺跡は小規模で、出土遺跡も単一時期に限られていて早期間で形成されたキャンプ的遺跡と考えられる。

2. 発掘区の設定

発掘区の設定は遺跡の発見が偶然であったため、最初から計画的に設定したものではない。最初の調査区は水田調査のために行ったものであった。縄文遺跡の調査区は水田調査区内に改めて段丘部を対称として設定した。遺跡の範囲等が不明であったが、調査の結果は、本遺跡の全面調査を達成することができた。遺跡が発見された以後の調査目的は他遺跡と同様に行った。すなわち、①遺跡の全面調査と正確な遺跡配置図の作成、②出土遺物の位置とエレベーションを正確に記録する、③以上の記録をした上での遺物の層位の把握、生活空間および居住のあり方を分析する、④以上を総合し、遺跡の性格の把握、である。この目的を達成するために段丘部にあわせて、4mメッシュのグリットを設定した。グリットは遺跡の北西面を基点とし、東にむかってA-Gまでの28m、南にむかって1～8までの32mの範囲とし、呼称A-1、A-2のごとく表示することにした。

発掘は4列にセクション・ベルトを残し、発掘区の設定地区を同時に開始した。出土遺物の出土範囲は以外に狭く、調査区内でおさまったので、それ以上の拡張はおこなわなかった。

2. 発掘区の設定

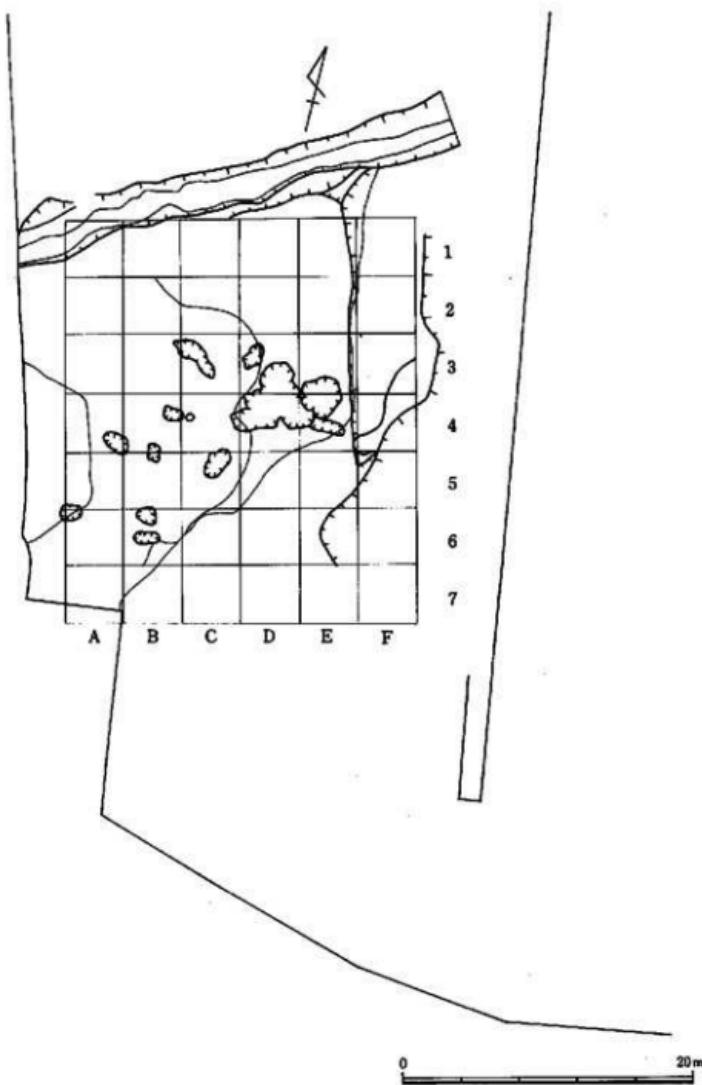


Fig. 354 遺跡の立地と発掘区の設定

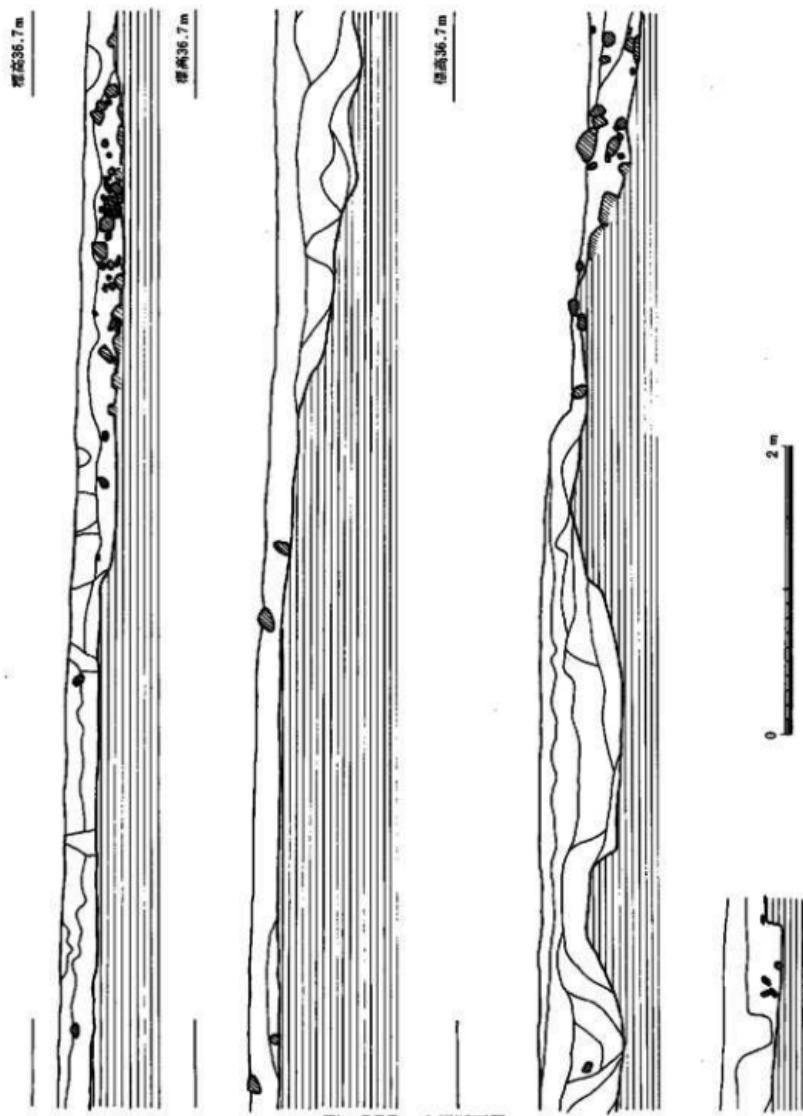


Fig. 355 土層断面図

5. 土壌状遺構

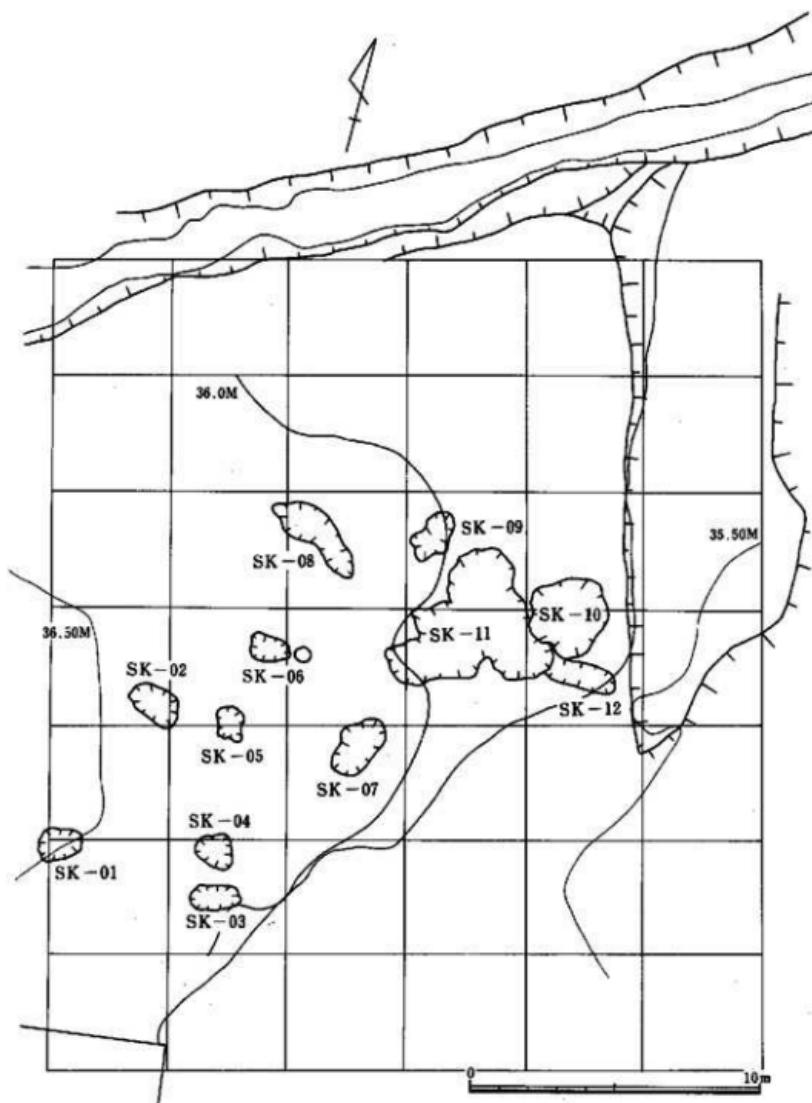


Fig. 356 遺構全体図

3. 層序

調査区の層序は、この地が開田されているために削平され、その状態は良好でなく、縄文時代以後の土層は消失している。基本的層位関係は以下のようになっている。第1層は現水田耕作上で、厚さ20~30cmの黒灰色粘質土層。第2層は水田底土で、厚さ約5~10cmの黄褐色粘質土層で鉄分、マンガンの沈着が著しい。第3層は黄褐色砂質土層、厚さ10~20cm。第4層、黄褐色砂質土層（部分的に黄色の強い黄褐色土層となる。）厚さ10~20cm。第5層、灰黄色細砂部、第6層、灰色砂礫層となっている。第3、4層が縄文時代前期の遺物包含層である。M遺跡では第2層と第3層の間に古代の遺物包含層が存在するが、本地区では存在しない。表土層出土遺物の中には古代の遺物も多く含まれているので、後世に削平された可能性が強い。

4. 遺跡分布の概要

本遺跡で検出した遺構は炉址1基と土壙11基である。土壙の中には焼石が投棄されているものもある。遺構は調査区の中央部に存在する炉址を中心として集中している。第10、11号土壙以外は重複関係はみられず、各遺構は1.5~2mの間隔をもっている。土壙は1m~3.5mの楕円形で、断面形は皿状をしている。10、11号土壙は規模的には他より大規模であるが不整形をしていて、他とは異なった使用目的が考えられる。

5. 土壙状遺構

土壙状遺構は11基を検出した。いずれも楕円形プランを有する。ただ、第11号土壙は非常に複雑な形状を示していて、数基の土壙が集まり、重複関係を示しているようであるが、遺構検出時には切り合い関係等は検出できなかった。以下、各土壙については説明する。

(1) 第1号土壙 (SK-01) (Fig.357)

A-6、7、B-6、7グリットに検出した。検出面で長径145cm、短径108cmの楕円形プランをなし、底面は85cm×78cmの楕円形をなしている。深さ約52cmで壁のたちあがりは比較的ゆるやかである。土壙埋土は黄褐色土層である。遺物の出土はない。形状からは土壙墓の可能性もある。

(2) 第2号土壙 (SK-02) (Fig.358)

B-5、6、C-5、6グリットに検出した。検出面で長径178cm、短径121cmの不整楕円形プランをなす。底面は平坦で160cm×70cmの不整楕円形をなしている。深さ約30cm、北側の壁のたちあがりはゆるやかである。埋土は黄褐色土層で、埋土内より黒曜石剝片1点が出土している。

5. 土壤剖面图

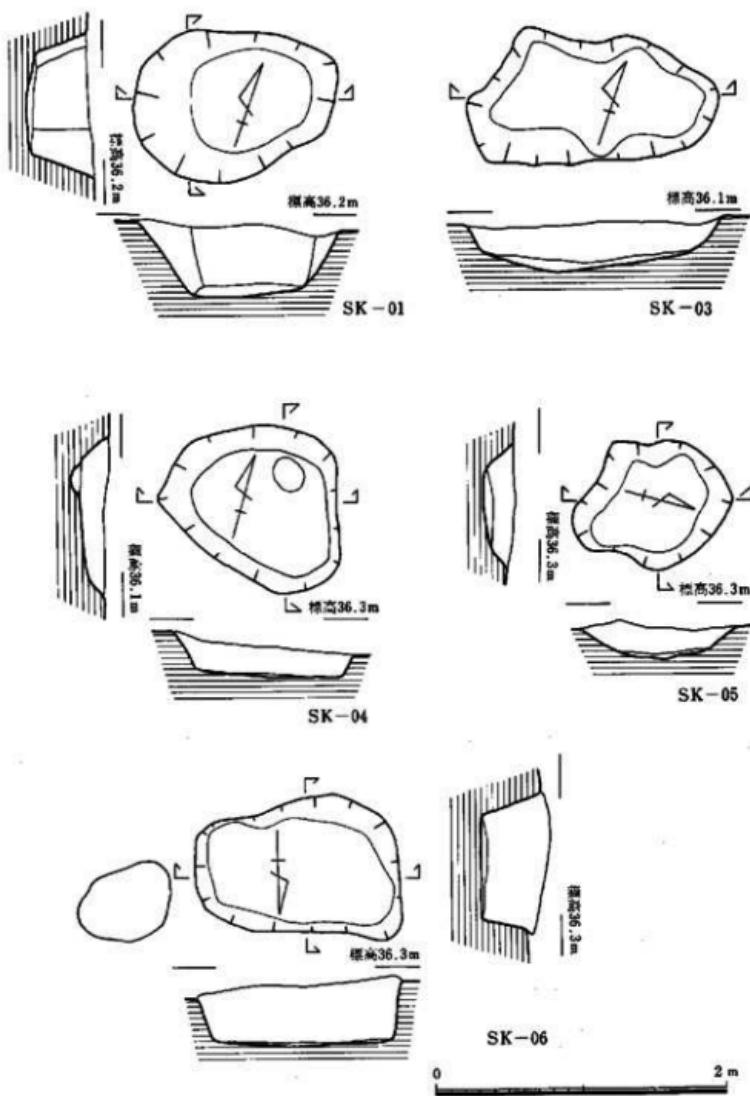


Fig. 357 第1·3~6号土壤(SK-1·3~6)实测图

第9章 L遺跡の記録

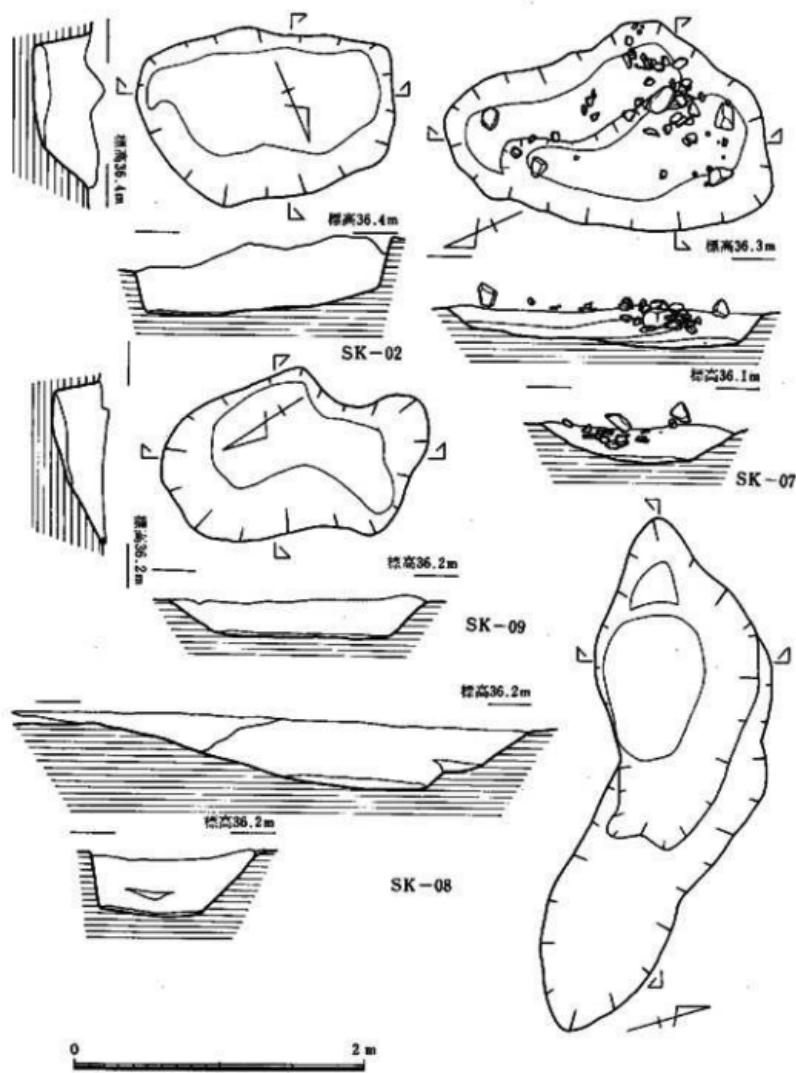


Fig. 358 第2・7~9号土壤(SK-2・7~9)実測図

5. 土壌状遺構

(3) 第3号土壌 (SK-03) (Fig.357)

C-7グリットに検出した。検出面で長径173cm、短径94cmの不整形のプラン。深さ約30cm、底面は148cm×60cmの不整形で中央部に低くなり断面形は舟底状をなす。埋土は黄褐色土層で、埋土中より剝片1点が出土している。

(4) 第4号土壌 (SK-04) (Fig.357)

C-6、7グリットに検出した。第3号土壌の北約50cmのところに位置する。検出面で長径125cm、短径110cmの不整円形プランをなす。底面は平坦で105cm×80cmの不整円形をなす。底面には径20cmの浅いピットがある。埋土は黄褐色土層で、出土遺物はない。

(5) 第5号土壌 (SK-05) (Fig.357)

C-5、6グリットに検出した。検出面で長径108cm、短径94cmの不整円形プランをなす。深さ15~25cmで断面形は皿状をなす。底面は73cm×58cmの不整形で中央部に向って深くなる。埋土は黄褐色土層で、埋土中より黒曜石剝片3点が出土している。

(6) 第6号土壌 (SK-06) (Fig.357)

C-5、D-5グリットに検出した。検出面で長径140cm、短径92cmの隅丸長方形プランをなす。底面は120cm×70cmの不整橢円形ではほぼ平坦である。深さ30~40cmで、壁は垂直に近いたちあがりをみせる。埋土は黄褐色土層である。埋土中より遺物の出土はない。土壌墓の可能性もある。東側に約20cm離れて、炉址が存在する。

(7) 第7号土壌 (SK-07) (Fig.358)

D-5、6グリットに検出した。検出面で長径233cm、短径144cmの不整長楕円形プランをなす。底面は196cm×108cmの不整橢円形で長軸の半分から二段に掘り込まれている。底面のそれぞれは平坦である。壁のたちあがりはゆるやかで断面形は皿状をなす。深さは25cm前後である。埋土は黄褐色砂質土層である。埋土中からは土器、石器、剝片、チップが多く出土し、特に焼けた石が北東側から投棄された状態を示していた。本土壌の北東に位置する炉址との関連性が考えられる。

(8) 第8号土壌 (SK-08) (Fig.358)

C-4、D-4グリットに検出した。検出面で長径360cm、短径110~100cmの長楕円形プランをなす。底面は100cm×70cmの楕円形で平坦である。深さ40cm前後で壁のたちあがりは南側では垂直に近く、他はゆるやかで、断面形は舟底状をなす。埋土は黄褐色土層である。土壌内から石匙1点が出土している。

(9) 第9号土壌 (SK-09) (Fig.358)

E-4グリットに検出した。検出面で長径180cm、短径110cmの不整形プランをなす。底面は120cm×60cmの不整形で平坦である。深さ20~30cm。壁のたちあがりはゆるやかで、断面形は皿状をなす。埋土は黄褐色土層で、埋土中より遺物の出土はない。

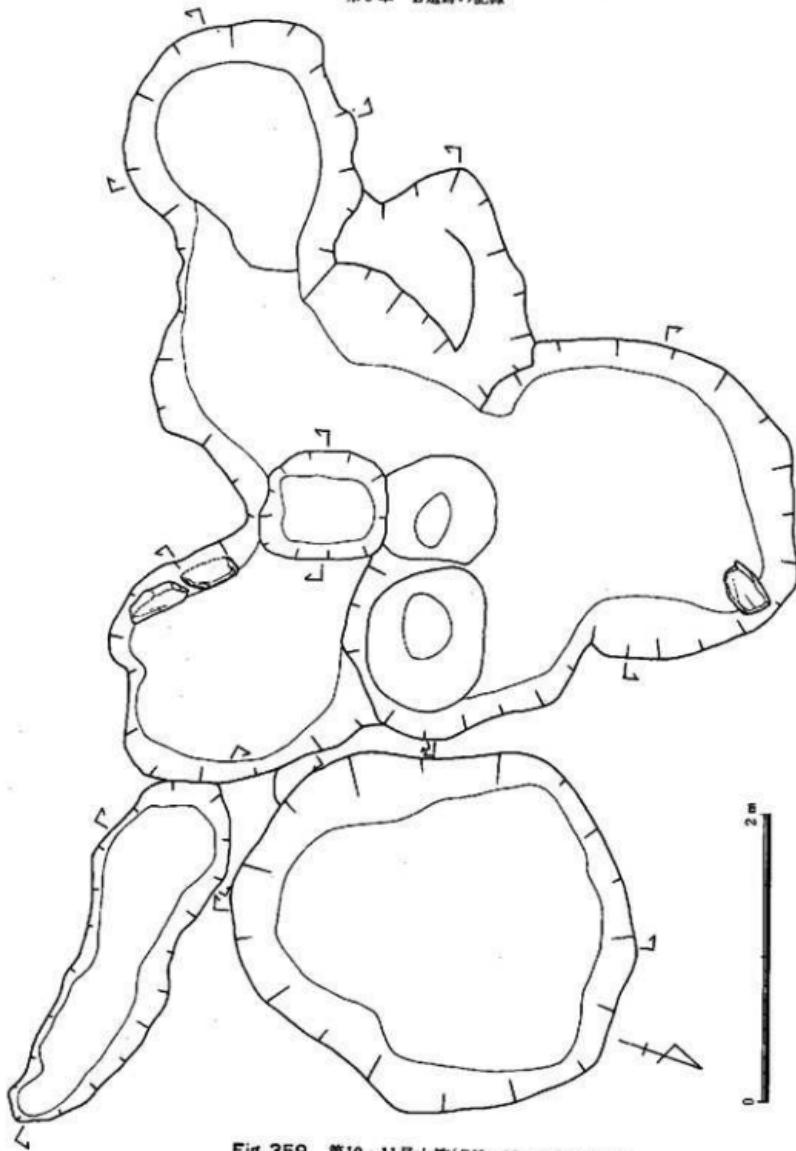


Fig. 359 第10・11号土塙(SK-10・11)実測図 I

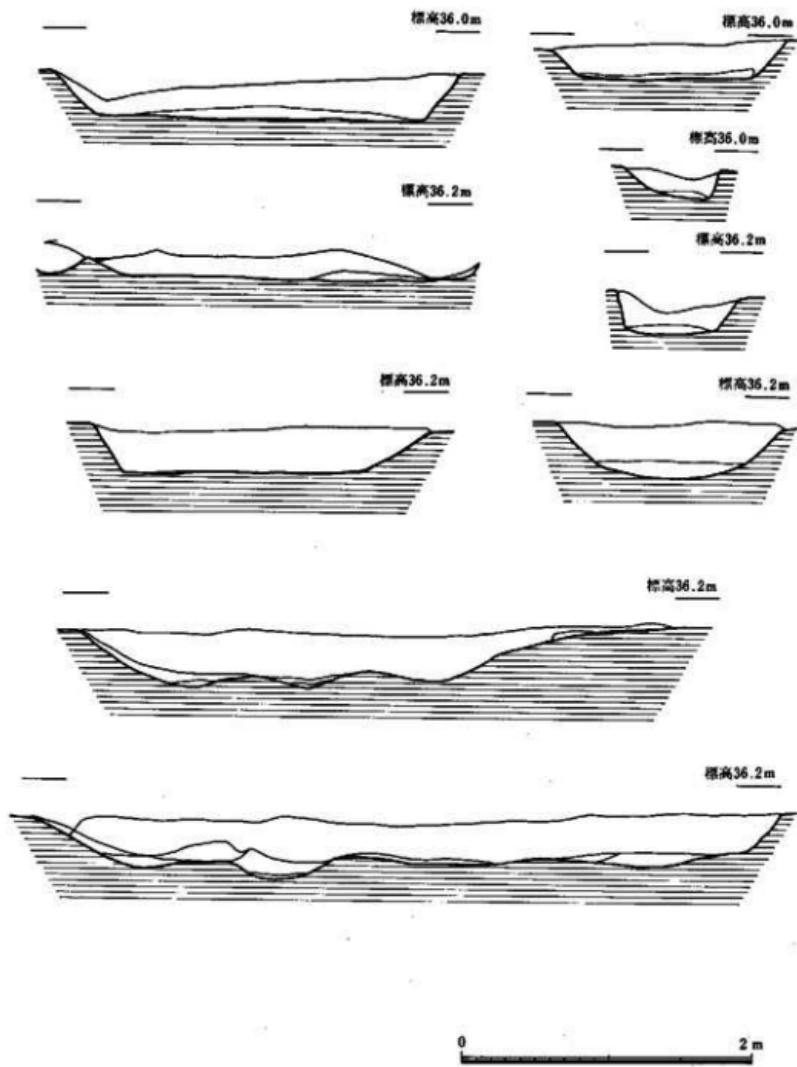


Fig. 360 第10·11号土壤(SK-10·11)実測図II

(10) 第10号土壙 (SK-10) (Fig.359・360)

F-4, 5グリットに検出した。第11号-1, 2号土壙と重複関係にあるが前後関係は不明。検出面で長径278cm, 短径255cmの不整円形プランをなす。底面は長径222cm, 短径190cmの不整円形で、平坦である。壁のたちあがりは比較的ゆるやかである。深さ約30cm。埋土は黄褐色土層で、埋土中より、土器18点、石器、剝片、チップ9点が出土している。

(11) 第11号土壙 (SK-11) (Fig.359・360)

第11号土壙は土壙が集中して相互に重複関係があり、個々の区別が困難なので一括するが、その可能性あるものを区別して枝番号を付す。第11-1号土壙はF-5グリットに検出した。第10号土壙、第11-2号土壙と重複する。長径270cm, 短径85cmの長楕円形プランをなす。底面は長径240cm, 短径60cmの長楕円形で平坦である。壁のたちあがりは比較的ゆるやかで、深さ約20cm、埋土中より土器13点、石片4点が出土している。11-2号土壙はE-5, F-5グリットに検出した。第10号、第11-1, 3, 5号土壙と重複する。11-3, 5号土壙との関係は不明、長径170cm+ α , 短径160cmの楕円形プランをなすと考えられる。深さ約20cm。11-3号土壙はE-4, 5グリットに検出した。第11-2, 4, 5号土壙と重複関係にあるが詳細は不明。長径150+ α cm, 短径130+ α cmの円形プランをなすと考えられる。深さ約20cmで底面は平坦である。底に径40~50cmの円形あるいは隅丸長方形の浅い土壙があり、本土壙に伴うものと考えられる。第11-4号土壙はE-4グリットに検出した。第11-3, 5号土壙と重複関係にある。長径250cm, 短径220cmの円形プランをなすと考えられる。深さ約30cmで底面は平坦である。土壙内に径30cm前後の石が存在する。第11-5号土壙はE-4, 5グリットに検出した。第11-2~4, 6号土壙と重複関係にある。長径265cm, 短径180+ α cmの楕円形プランをなすと考えられる。深さ約20cmで壁のたちあがりはゆるやかで断面は皿状をなす。第11-6号土壙はD-5, E-5グリットに検出した。第11-5号土壙と重複関係にある。長径195+ α cm, 短径160cmの楕円形プランをなす土壙と考えられる。深さ約25cmで底面はほぼ平坦である。壁は比較的ゆるやかにたちあがる。いずれの土壙も埋土は黄褐色土層で、土器、石器、剝片、チップが多量に出土している。第11-1~6号土壙は重複関係が著しく、先後関係は明らかにできないが、出土土器は単一時期のものであり、大きな時間のへだたりはないものと考えられる。

6. 炉址

D-4グリットに検出した。第6号土壙に隣接している。長径70cm, 短径50cmの楕円形プランをなす。掘りくぼめられてはいない。地面に灰、木炭が存在し、下が若干焼けている。地床炉と考えられるがはっきりしない。

7. 出土遺物

(1) 遺物出土状況

出土遺物には縄文式土器と石器がある。出土数は土器が415点、石器剝片、チップが293点で量的には多くない。遺物は包含層に含まれているものと遺構内から出土するものがあるが時期的な違いはない。また、出土範囲も限定されていて、遺構周辺に限られている。特に集中する部分ではなく、平均的な広がりをみせている。

(2) 土器 (Fig.361・362)

出土上器は前期の轟B式土器を主体とする。少量、時期の異なる土器（晩期）が上層に存在するが、轟B式土器の単純遺跡を考えてよい。以下各土器について説明する。

Fig.361-1, 3, 5~8, 10~14, 17は外面に刺突列点文を施文した土器である。1は口縁部破片で、上下二段に列点文がみられ、上段は下から上へ、下段は右側から左に向って刺突し、それを右まわりに展開している。3は胴部屈曲部で、屈曲部に棒状工具で刻みを入れる。5, 10は棒状工具で上下二段の列点文を入れるが浅い。6, 12は胴部屈曲部で3と同様に屈曲部に刻み目の列点文を施す。7, 13は棒状工具で深く刺突し、列点文は密接している。胴部破片8, 11, 14, 17は胴部破片である。2, 4, 19, 21~24, 33は刺突列点文と隆起線文とを組み合わせ施文した土器である。4は口縁部破片で、口縁部から下った部分に上下二段の浅い列点文を施文し、列点文と直交するように縦の隆線文を施す。2は胴部屈曲部よりやや上方の胴部破片である。上、下二段に列点文を配し、下段の列点文の下位に縦位の隆線を並列施文している。19, 21~24は胴部屈曲部である。いずれも屈曲部および約2cm離れた上段に刺突列点文を配し、その間に縦の短かい隆線文を並列施文し埋めている。3は文様的には4と同様に列点文に直交して縦の隆線文を施文している。9, 15, 16, 20は隆線文に刻み目を入れた土器である。9は突帯状の粘土紐を貼り付け、その上に棒状工具で密接した刻みを入れる。15は断面三角形の隆線を横方向に貼り付け、ヘラ状工具で鋭利な刻み目がつけられている。16はミミズ張れ状の隆線に棒状工具で間隔をおいて刻みを入れる。20は胴部屈曲部に貼りつけた隆線で突帯状をなしている。刻み目は棒状工具で的確に入れられている。18, 25~32, 34~36はミミズばれ状の隆線を貼り付けて文様としたものである。18は胴部破片で、隆線を横方向に一条めぐらし、それと直交するように縦方向の隆線が等間隔をもって貼り付けられている。25は断面三角形の隆線を縦位に貼り付け隆線の両側はナデされている。26は低い隆線が1cmの間隔をもって二条横方向にめぐらされている。26は隆線が0.5cm, 1cmの間隔で三条横位でめぐらされている。隆

第9章 L遺跡の記録



Fig. 361 L遺跡出土土器実測図 I

7. 出土遺物

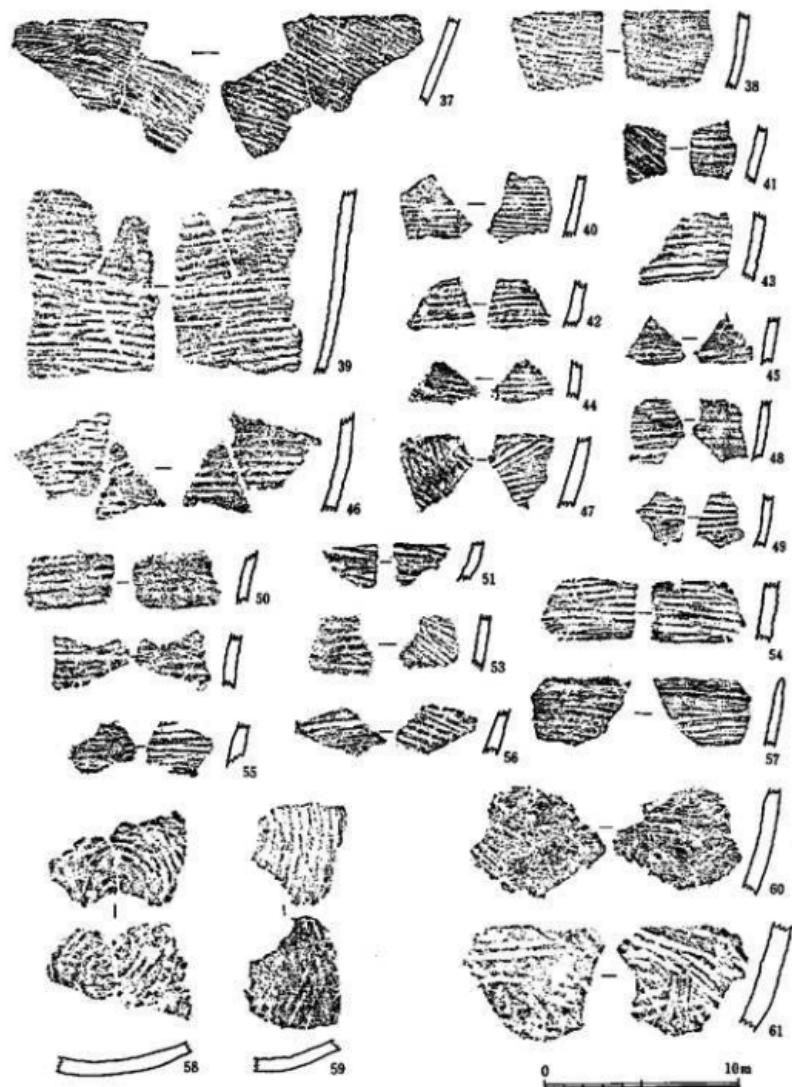


Fig. 362 L 遺跡出土土器実測図 II

線には貼り付けの際の指押さえが明瞭に残っており、隆線が1cm間隔でのびちぢんだ状態を示している。28は口縁部破片である。口縁端部は尖り気味におさめている。口縁下に約1.5cmの間隔で低い断面三角形の粘土紐を横位に三条貼りつけ、上段の隆線から口縁部にかけて縦位の隆線を約0.5cmの間隔で並列させて貼り付ける。隆線の上端は口縁からはみ出し、内側に折り曲げられている。口縁はそのために波状をなす。29は縦位の隆線、30、31は横位の隆線を一条貼り付けている。32は断面三角形の隆線を0.5cmの間隔で横位に二条、34は三条貼り付けている。隆線は貼り付けの際、指ではさみ込んで押圧している。35は口縁部破片で、口縁端部は尖り気味におさめている。口縁下に断面三角形の隆線一条を貼り付けてめぐらしている。隆線の上位に補修孔が穿たれている。36は腹部破片である。中央部に断面三角形の隆線一条を横位に丁寧に貼り付け、それから垂下する縦位の隆線一条を貼り付けている。37~56は胸部破片。57は口縁部破片で、口縁端部は尖り気味におさめている。58~61は底部および底部付近の破片である。58、59は丸底をなす。底部の中心部を中心として条痕が同心円状に施されている。59は条痕の上から研磨が加えられている。以上の土器は、すべて器壁が薄く0.5cm前後の厚さで、内外面に横方向の丁寧な横位~斜位の貝殻条痕が施されている。外面にススが付着しているものも多い。

(3) 石器

本遺跡からは、総計268点の石器・石片が出土している。うち石器は、38点で、その内訳は、石鎌13点、石匙3点、石錐1点、スクレイバー14点、楔形石器2点、使用痕のある剥片3点、石球1点、磨石1点である。

石鎌は全部で13点出土している(Fig.363, 1~13)。形態は、すべて抉入りのもので、平基のものは少ない。5、7、9は裏面の調整加工が少なく、素材の主要剥離面を大きく残したままである。石材別では漆黒黒曜石~1, 2, 4, 9, 11~13で、他はすべてサヌカイトである。

石匙は横型(Fig.364-1)と縦型(Fig.364-2, Fig.365-4)の両者がある。石材はすべてサヌカイトである。

Fig.363-15は漆黒黒曜石製の石錐と考えられる。尖端部の加工はさほど入念ではない。

スクレイバーは破片も含め、14点の出土がある。8点のみを図示した。タイプ別には縦長の剥片の片側辺を加工したもの(Fig.363-16, 17, Fig.364-3, 4, Fig.365-1)と横長剥片の端部の一辺を加工したもの(Fig.365-2, 3), ラウンドスクレイバー(Fig.363-14)に分かれる。辺部の加工はFig.365-4とFig.363-16が片面からの加工で、他はすべて両面からの加工である。Fig.363-14を除いて他はすべてサヌカイト製である。

7. 出土遺物

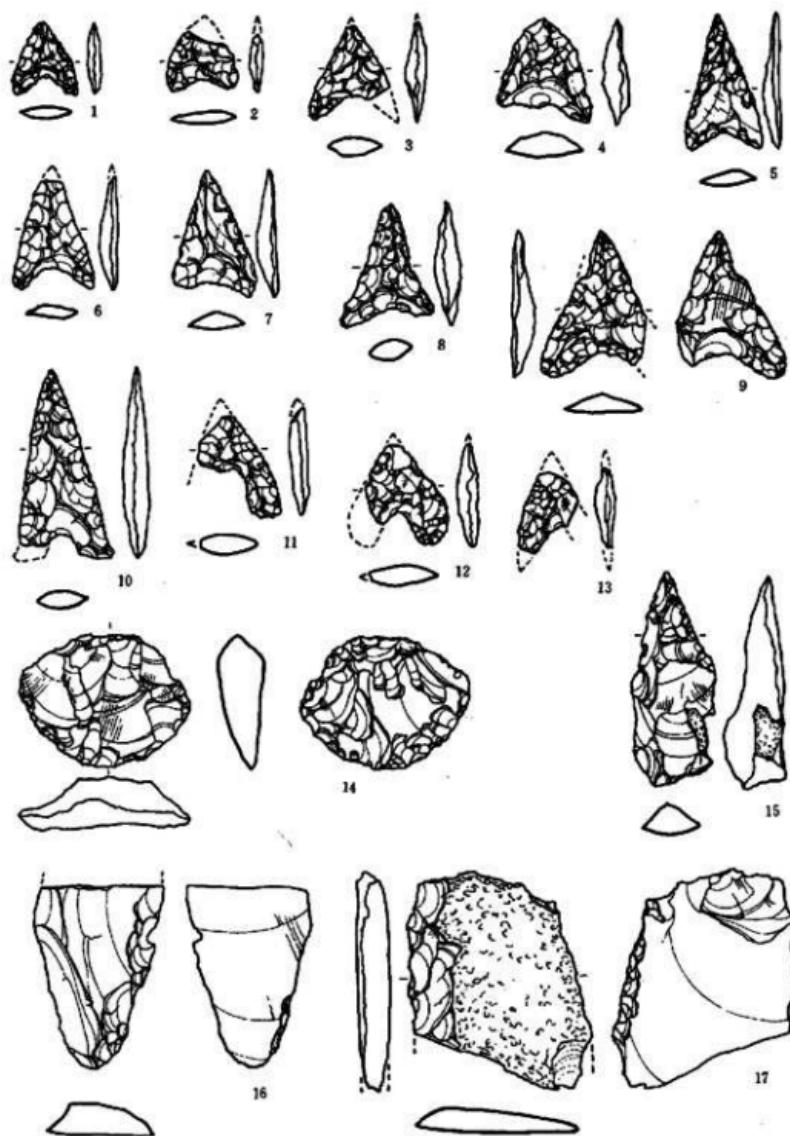


Fig. 363 L 遺跡出土石器 I (実大)

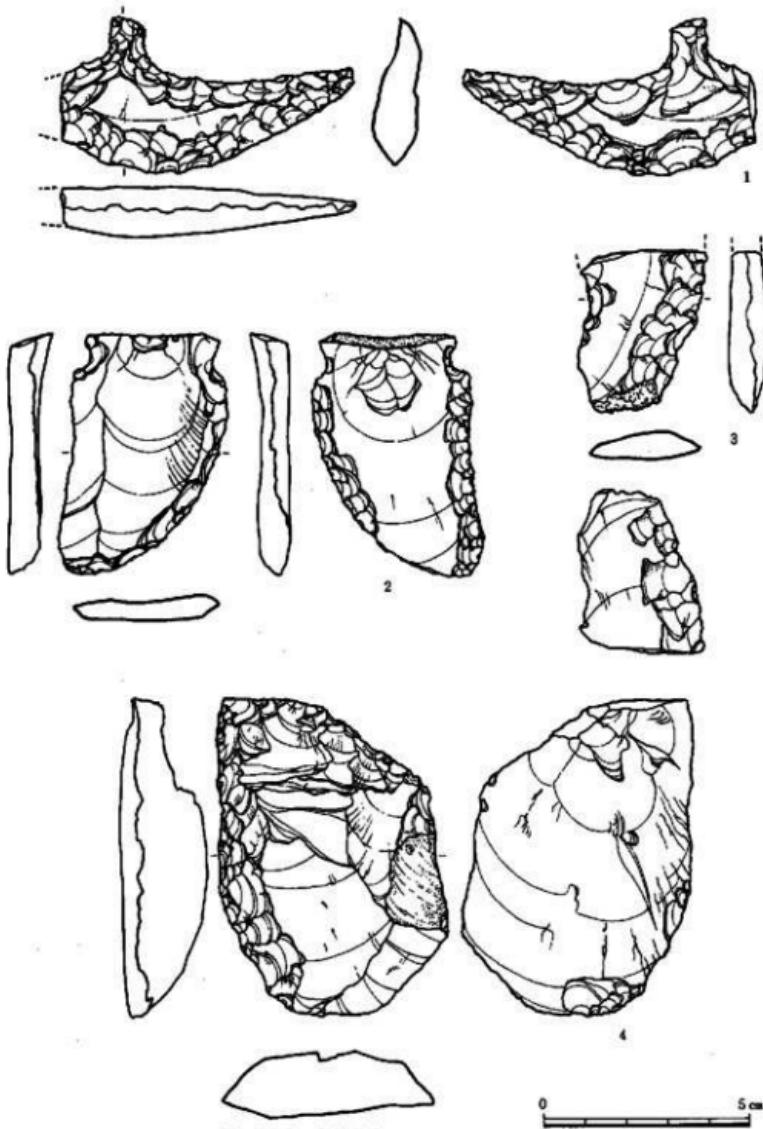


Fig. 364 L遺跡出土石器II(5/7)

第9章 L遺跡の記録

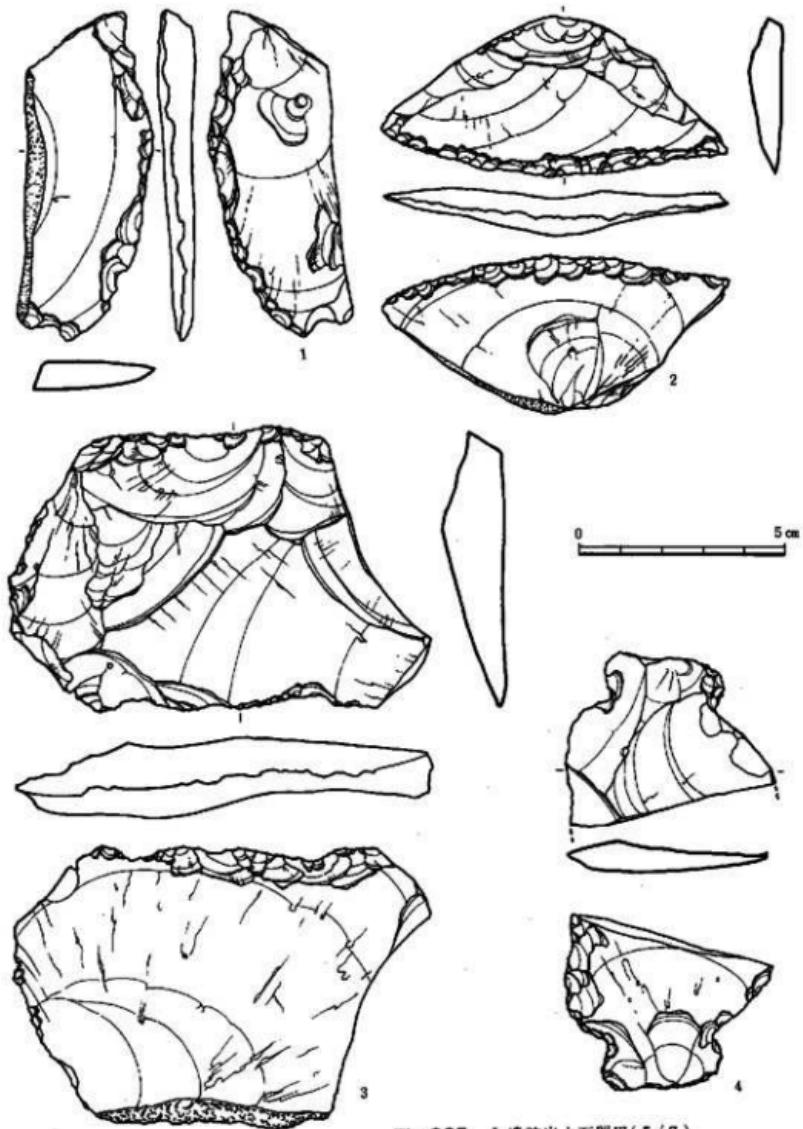


Fig. 365 L遺跡出土石器III(5/7)

第10章 M遺跡の記録

1. 遺跡の立地

M遺跡は開発地域内の北端部、樋井川本流の左岸に位置している。遺跡の全面（南側）は樋井川の水源である第1支流、第2支流、第3支流、第4支流あるいは四十塚の谷にはいり込む支流が、樋井川本流と合流し、ある程度の広さの沖積地が形成されている。この沖積地は油山山麓に形成された低丘陵に囲まれて小さな盆地状をなしている。早良平野の中で一つのまとまりのある樋井川流域の中でも、さらに小さな一つのまとまりをみせている。

M遺跡はこの沖積地の最奥部に発達した河岸段丘に存在するK遺跡よりやや下流の左岸に位置している。遺跡の北側は開発地域外であるが、油山より派生した低丘陵（標高50～40m）によって限られ、M遺跡との比高差は7mで、遺跡の標高は35m～39mである。遺跡の南側（前面）は樋井川の開析によって幅狭い沖積地が形成され、遺跡立地面とは約1mの段差をもって低くなる。遺跡から樋井川本流までの距離は約100mとあまり広くない。中世には水田として開田されていてさらに低くなるが、古代には流路が引き込まれている。遺跡の東西は、前述の北側に存在する低丘陵がはり出し、遺跡をとり囲むように限り、遺跡は、三方に低丘陵に囲まれ、前面に沖積地が存在する比較的安定した立地条件を示している。遺跡をのせる段丘は丘陵地形にそって弓状になっている。東西長300m、南北幅100mの約30000m²の広さをなしているが、古代遺跡（M遺跡）は段丘東半部、東西長150m、南北幅70mの範囲に濃厚である。M遺跡の南西部には同一段丘上にL遺跡（縄文時代前期）が存在するが、範囲は広くない。

この河岸段丘の調査時での現状は、開墾されて斜面に段をつけた、いわゆる棚田状をなしていた。このため段丘はかなりの変容をうけていて、明確ではなかった。表土層および包含層を除去した結果、段丘面は旧状と大きく異なり、ゆるやかな傾斜をもつが、ほぼ平坦であり、沖積地との境は約1mの段差があり明確に識別できる。

2. 層序

M遺跡の縄文時代遺物包含層は、古墳・古代における造成のために、そのほとんどが消滅している。わずかに残存した包含層は他の遺跡と同様に黄褐色砂質土層であった。

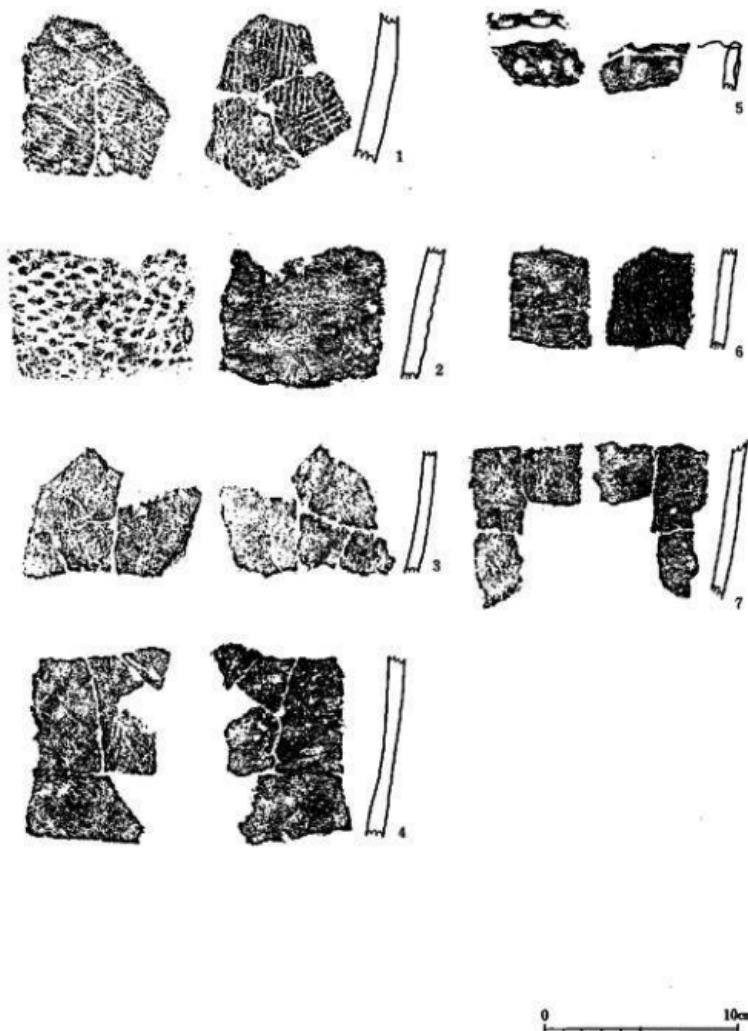


Fig. 366 M道路出土上器実測図

3. 出土遺物

(1) 土器 (Fig.366)

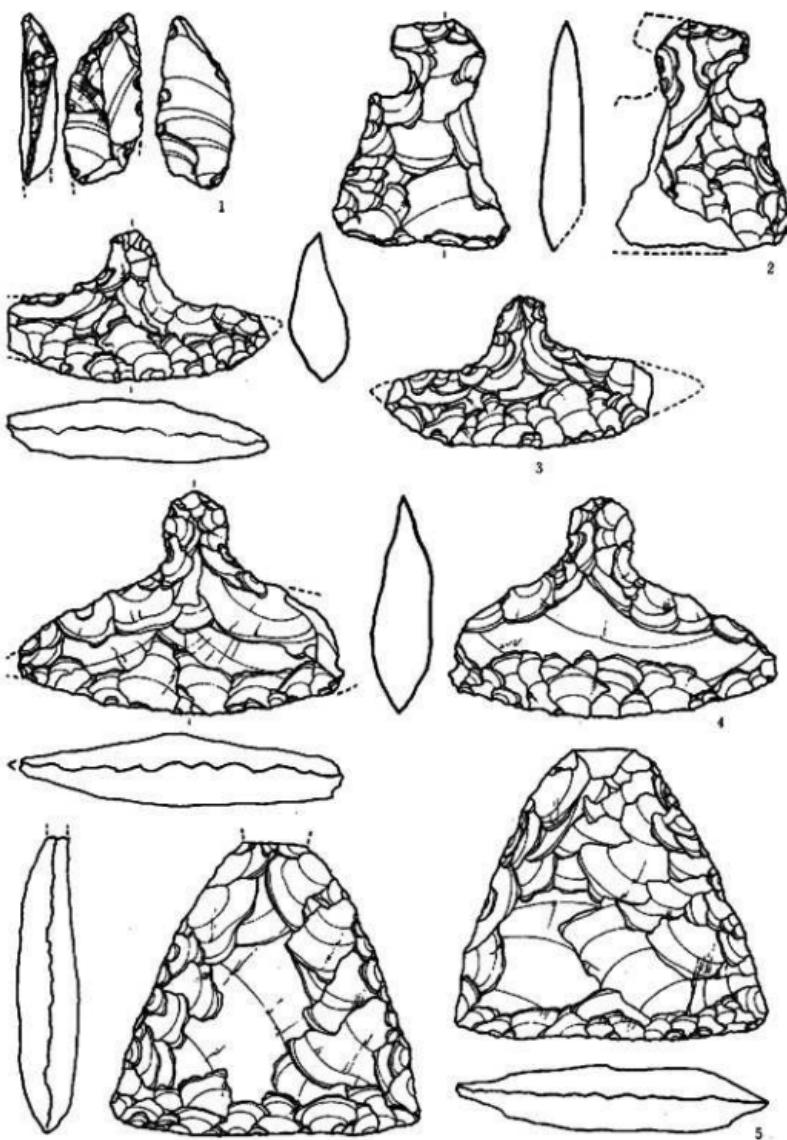
土器の出土量はきわめて少ない。比較的大きな破片で文様が明らかな7点を図示した。図示しなかった土器にはやや古式の押型文土器が含まれるが、いずれも小破片である。

Fig.366-1は、内外面に貝殻条痕を施した土器である。保存状態が悪く器壁はもろい。器壁の厚さは0.8cm前後で比較的の厚い。草創期の条痕に類似しているか断定できない。2は押型文土器の胴部破片である。やや大きな精円文を横走施文している。胎土に石英、長石、黒雲の砂粒を多量に含んでいる。焼成は良好でない。色調は外面が黄褐色、内面が黒褐色である。3、4、6、7はいずれも胴部破片である。同一個体と考えられる。外面は丁寧なケズリ状のナデ調整、内面はヘラ研磨の調整を加えている。胎土には石英、長石、赤色鉱物の砂粒とともに、滑石が多量に混入されている。焼成は良好で、色調は外面が赤褐色、内面が黒褐色をなす。胎土や器面調整からみて後期の土器と考えられる。5は口縁部破片である。口縁部は上部からの指押さえで凹凸をなす。口縁下に列点文を配する。胎土には石英、長石の砂粒を含む。焼成は良好で色調は外面が黒褐色、内面赤褐色をなす。内面はヘラナデ調整である。

(2) 石器

本遺跡からは総計50点の石器、石片が出土している。このうち石器は30点で、その内訳は、ナイフ形石器1点、石匙6点、スクレイパー5点、石斧7点である。Fig.367-1は漆黒黒曜石製の石刃を素材にしたナイフ形石器である。基部を欠損するが、1側辺に上下両方面からのプランティングが施される。Fig.367-2～5、Fig.368-1、3は石匙である。前四者が横型、後二者が縦型に分かれる。横型石匙のうちで、2は台形、5が三角形と形態的に特徴がある。これらはいずれも加工が入念である。Fig.367-3は縱長剥片の打面部をつまみ部にしたものである。刃部の加工はさほど顕著ではなく、剥片の一側辺をわずかに加工して刃文を形成している。石材はすべてサヌカイトである。スクレイパーは破片を含め5点が出土している。1点のみを図示した。Fig.368-2は横長の貝殻状剥片の端辺を片面側より加工して刃部を形成したものである。サヌカイト製。他に4点破片があるが、3点が横長破片を利用したタイプのスクレイパー、1点が縱長剥片を素材にしたサイドスクレイパーである。石材はいずれもサヌカイトである。石斧はすべて磨製石斧である。図示したのは6点であるが、他には頭部の破片1点がある。Fig.369-1～3、5は両刃の縦斧である。5は使用のくせによって刃部の片側のみがよく磨滅している。2は柱状抉入片刃石斧の刃部片と考えられる。風化が著しい。4は小型の扁平片石斧である。素材剥片の打点で旧状をよく残している。6は太形船刀石斧である。刃部と頭部を欠く。本品は3点に分かれている。石材は2、4が実岩で、1、3は玄武岩、5は不明(堆積岩か?)である。

3. 出土遺物



(Fig.367) M遺跡出土石器 I (実大)

第10章 M遺跡の記録

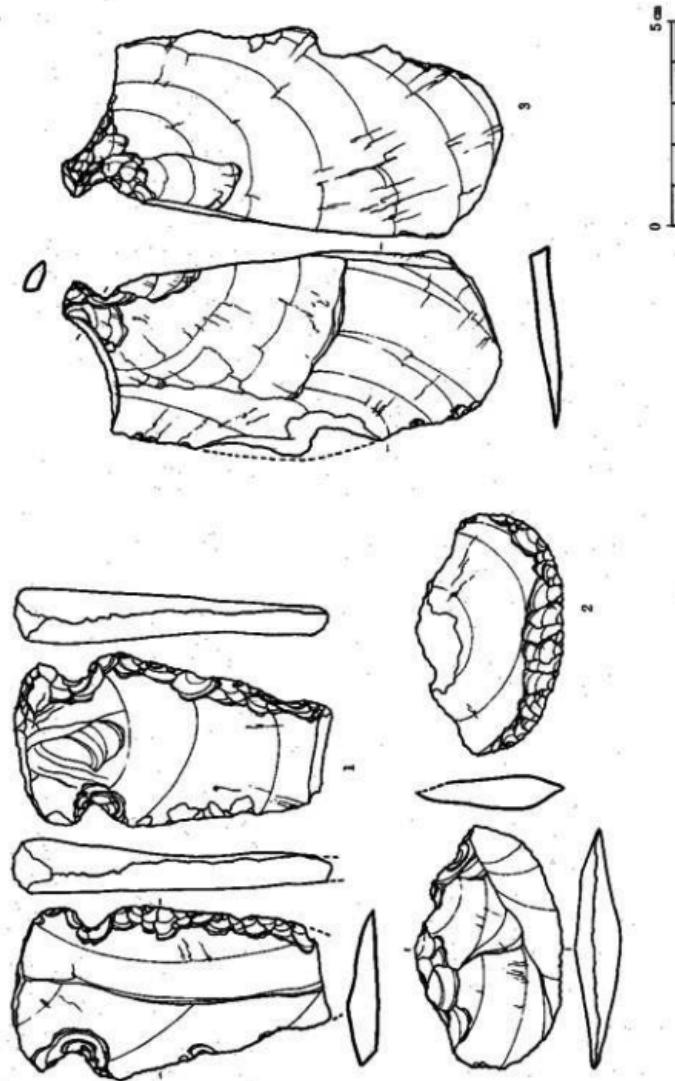


Fig. 368 M遺跡出土石器II (5/7)

3. 出土遺物

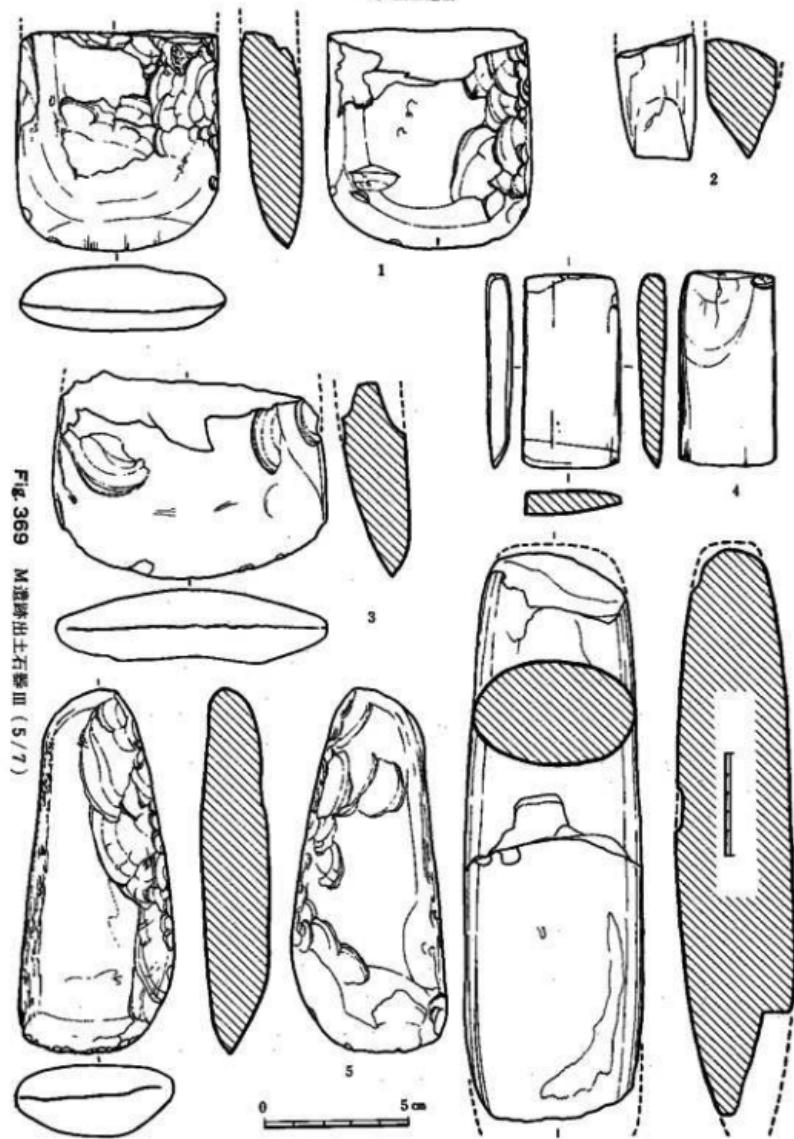


FIG. 369 M₃ 遺物出土石器 III (5/7)

第11章 N遺跡の記録

1. N遺跡の立地と層序

N遺跡はM遺跡の東北部に隣接して位置しているが、段丘が異なり、さらに一段高い段丘縁辺部に位置している。標高48.0mで、M遺跡との比高差は約5mである。表面調査の際は遺物は皆無で遺跡としては認定していなかったが、耕作土を除去した段階に再度、表面調査を実施し、ナイフ形石器、台形様石器、細石核各1点と若干の剝片、チップを採集し、遺跡の存在を知った。しかし、同段丘面は、かつて削平され平坦になされたことが判明していた。しかし、どこに遺跡が存在するのかは明確でなく、また遺物包含層も発見することができなかつたので、重機による試掘を実施した。その結果、段丘の大部分はすでに大きく削平され、遺跡は発見できなかつたが、M遺跡との境界部斜面（段丘縁辺部）の一部に遺物包含層を確認した。試掘からは、遺跡が小規模であることが確認できたが、柏原遺跡の草創期、早期の遺跡の状態から考え、慎重な調査を必要とすると考え、遺跡の存在すると考えられる全面に1m方眼のグリッドを設定し発掘を開始した。

2. 層序

遺跡の層序は、第1層、表土層（現耕作土）第2層、水田床上、第3層、黄褐色粘土層、この層に細石刃、剝片、チップ等が含まれる。ただし、この層には弥生式土器、土師器が伴出し、プライマリーな状態は考え難かった。第4層、赤色粘質土層で無遺物層となっていた。第4層は漸次的に変化し、岩盤へと続いている。第3層の遺物包含層の成因については、解決できなかつたが、出土遺物には、いずれも磨滅のあとはなく、周辺部に良好な遺跡の存在を暗示するものであった。

3. 出土遺物 (Fig.370)

本遺跡は先述したように、再堆積の包含層であり、表採品を含めて一括して説明を加える。図示したのは、細石刃核2点、細石刃25点、台形様石器1点、スクレイバー1点、石鏃2点である。

1は青灰色を呈する黒曜石製の細石核である。打面は側面方向からの打撃によって形成した

3. 出土遺物

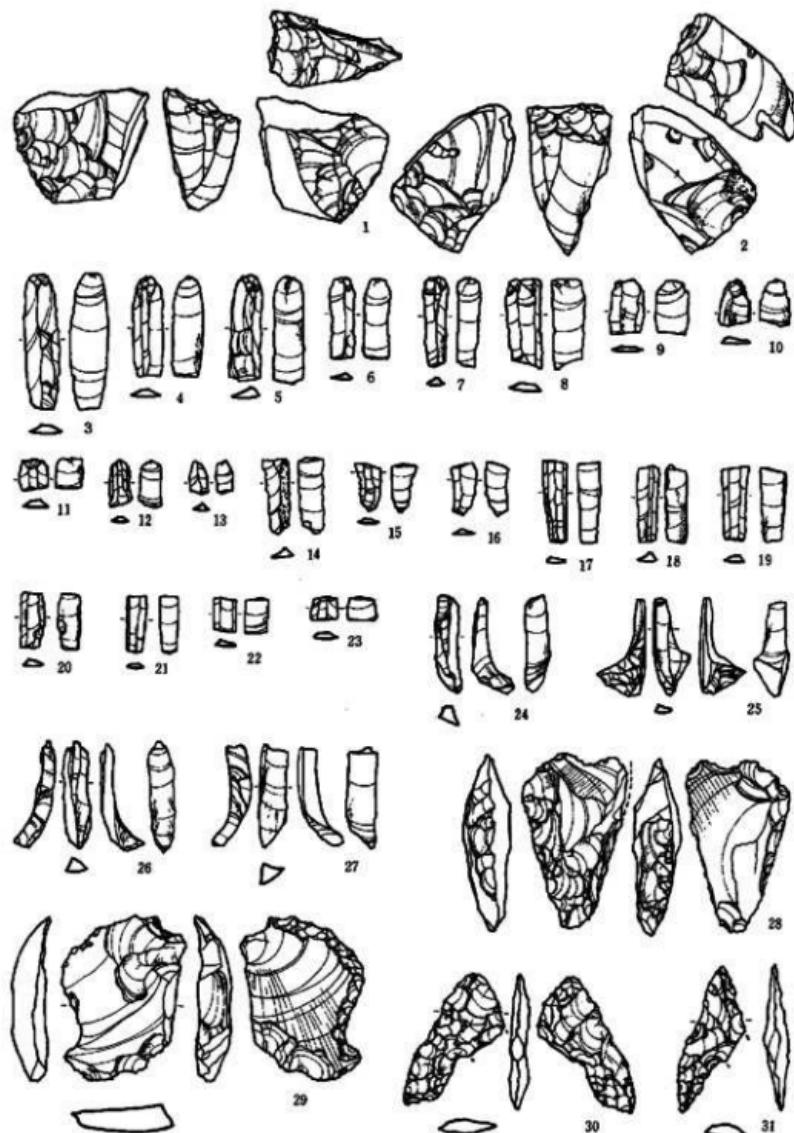


Fig. 370 N 遺跡出土石器(夾大)

後、小口方向からの数回の連続する剥離によって形成される。(一部打面調整を含む)細石核はあらかじめ両面加工のブランクを形成した後、打面形成→細石刃剥離へと移行する。頭部調整がある。2も1と同じく青灰色を呈する黒曜石製の細石核である。打面は、小口方向からの、一回の打撃によって形成され、打面調整が施されている。1と同様、両面加工のブランクを準備して打面形成へ移行する手段をとる。いずれも表採品である。3~27は細石刃および細石刃剥離の際の削片である。細石刃は尾部切断(3~8)、頭部(9~13)、頭部切断(14~16)、胴部(17~23)に分けられる。頭部を残すものは調整の痕が認められる。胴部の細石刃の4点(18、19、20、22)には使用による刃こぼれと考えられる纖維剥離痕が観察できる。この痕跡は、胴部の細石刃のみに認められ、胴部細石刃の約60%を占めている。細石刃剥離の際、下端がやや肉厚に剥離された例が4点ある(24~27)。これらはいずれも頭部が折断されている。下端には細石核の側面の剥離痕と下縁が残されており、両面加工のブランクを準備する楔形の細石核から剥離されたことがわかる。とくに26と27は同一石核から剥がされた可能性が高い。細石刃はいずれも青灰色や漆黒の黒曜石を素材にしている。上記のことと合せて、同一技法によった比較的まとまった一群と考えることができる。28は漆黒黒曜石製の台形様石器である。幅広の横長剥片の上下端部にプランティングを施している。表採資料である。29は漆黒黒曜石製の不定形剥片を素材にしたスクレイパーである。刃部は背面側から腹面側に向けての連続する剥離で形成されている。表採資料である。30、31は石鎌である。いずれも片脚を欠損する。30は漆黒黒曜石、31はカヌカイト製である。

第12章 調査のまとめ

本章では、今回の開発地域内に存在し、調査対象として調査を実施した柏原遺跡群の中で、特に先土器、縄文時代の遺跡に焦点をしづり、開発地域内の総合的まとめを行い、今後の分析・検討にそなえたいと思う。

1. 先土器時代の遺跡

開発地域内では先土器時代の良好な遺跡を確認するにいたらなかったが、各調査区で該期の遺物が出土し、将来的な調査研究に一定の展望をひらくことができた。本開発地域で先土器時代の遺物が出土した遺跡と出土遺物を例挙すると以下の如くなる。

- ① C遺跡 丘陵斜面 台形石器
- ② E遺跡 河岸段丘面 ナイフ形石器
- ③ F遺跡 河岸段丘面 ナイフ形石器
- ④ H遺跡 丘陵斜面 台形様石器
- ⑤ K遺跡 河岸段丘面 ナイフ形石器
- ⑥ M遺跡 河岸段丘面 ナイフ形石器
- ⑦ N遺跡 河岸段丘面 台形様石器、スクレイパー、細石器

先土器時代の遺物を検出したのは7遺跡であるが、良好な状態で包含層が残存していたのはない。しかし、H遺跡では斜面ではあるが一応包含層が存在していた。また、F遺跡では石器は縄文土器と混在した状態で出土したが、縄文時代草創期の遺物包含層の下層において炉址を検出している。石器を伴出していないので確実なことはいえないが、ナイフ形石器の時期の炉址とみて大過なかろう。N遺跡では再堆積あるいは土石流による搅乱堆積と思われる十層から細石器がまとまって出土しており、周辺に良好な遺跡の存在を暗示するものがある。今後の周辺部の調査に期待される。

先土器時代の遺物の種類は、ナイフ形石器、台形様石器、台形石器、細石器と一応、各時期のものがそろっている。個々の遺物については本報告書および既刊の報告書において紹介しているのでふれないが、C地点の台形石器は、日ノ岳型台形石器の範疇にはいるものであり、北部九州にその広がりを確認できたことは大きな成果であった。また、N遺跡の細石器は本回の調査では確認できなかったが、土器を伴出する可能性が高いことが指摘できる。今後に期待したいと思う。

先土器時代の遺跡については、良好な遺跡にはめぐまれなかったが、遺跡の立地、そのあり

方に一つの指針を得たことで、今後、油山山麓における先土器時代遺跡の把握が一歩前進したものと思う。

2. 縄文時代草創期の遺跡

柏原遺跡群の中で特筆すべき成果は、北部九州における草創期の土器群とその構造を明らかにしたことであろう。草創期と考えられる遺物を出土した遺跡は次の諸遺跡である。遺跡名、立地、出土土器、構造の順に記すと、

- ① A-2 遺跡、河岸段丘、条痕文土器、竪穴状構造
- ② E 遺跡、河岸段丘、刺突文土器、撚糸文土器、櫛歯文土器、条痕文土器、竪穴状構造
- ③ F 遺跡、河岸段丘、撚糸文土器、刺突文土器、条痕文土器
- ④ K 遺跡、河岸段丘、刺突文土器、竪穴状構造

以上の4ヶ所である。それぞれ異なる土器群で、若干の分析と位置づけの検討が必要である。特にF遺跡では、包含層が厚く早期土器も含めて層位関係を把握することができたので、編年的位置などについてはある程度の推測が可能である。

F遺跡では押型文土器の下層に草創期の遺物包含層が存在し、報告書では第III層として一括したが、小さくみればさらに分層が可能である。遺物の出土層位、出土分布状況から、最も先行する土器は撚糸文土器である。この一群は大型の深鉢形土器で、円筒状の胴部で底部は丸底をなし、口縁部は直口し、口縁端部は尖り気味に丸くおさめる。外面に密接した撚糸文を斜位で全面施文している。器壁が厚いという特徴をもっている。次にくる土器群はいわゆる刺突文土器である。大型と小型の二種がある。器形は底部が丸底で円筒状胴部から口縁は直口するが端部がやや外反する。外面はヘラ状工具で研磨した後、一本一本の棒状工具で条線を入れ結果として条痕状をなす。胴上半部にはさらに櫛歯状（貝殻腹縁あるいは縄文の押圧）の押圧を斜方向で施す。口縁部直下に刺突文が施文される。刺突文は工具や刺突方向にバラエティーがある。刺突文のコブ状の粘土塊の貼り付けが数ヶ所（判明するのは3ヶ所）にみられる。器壁が厚く胎土に多量の砂粒を含むなど、下層の撚糸文土器と共通するところが多く、撚糸文土器と刺突文土器の間には時間的に大きな差はないものと思われる。刺突文土器の次にくるのが条痕文土器の一群である。大型品と小型品の二種がある。器形は口縁部が直口し、体部は円筒状をなし胴長で底部は丸底をなす。小型土器は胴長ではなく、内外面に条痕を施すが、条痕には貝殻によるものと、一本一本の条線の集合からなるものの二種類がある。

F遺跡より検出した草創期に属すると考えられる土器は以上の三群の土器であり、撚糸文土器→刺突文土器→条痕文土器の流れが把握できる。この流れを基準として他の遺跡の土器を検討してみよう。

2. 繩文時代草創期の遺跡

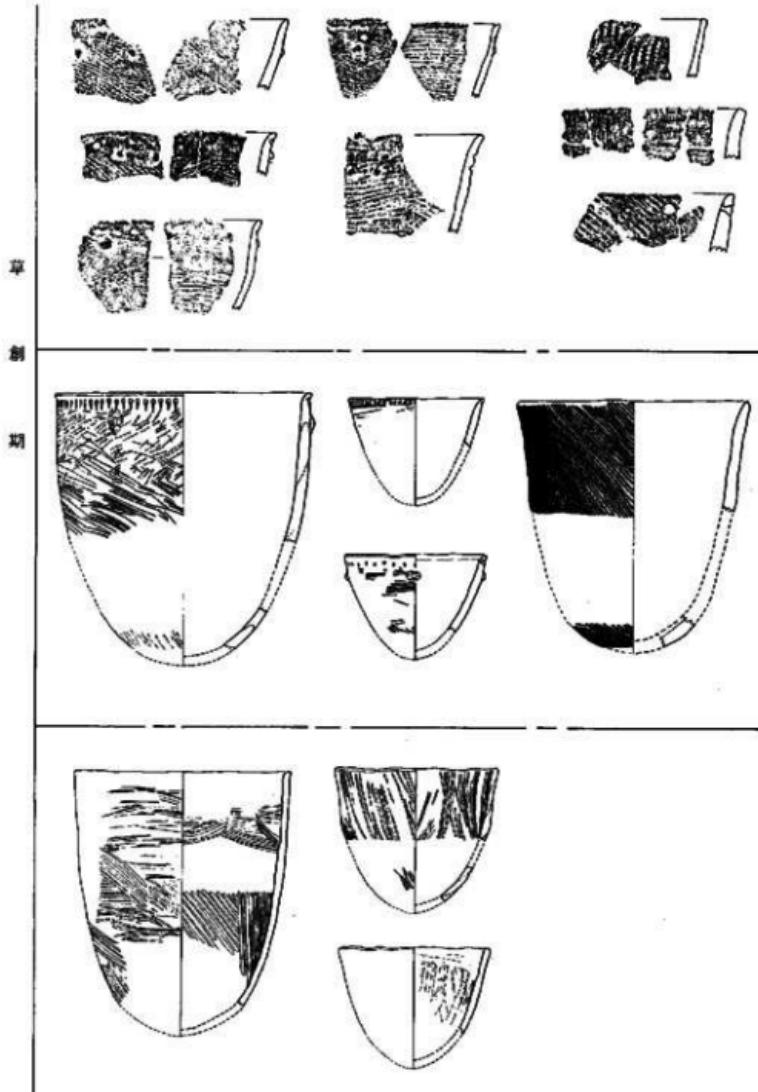


Fig. 371 柏原遺跡群出土土器 I

A-2 遺跡の条痕文土器は、該遺跡で押型文土器との関係が把握できず、明確には分離できなかった。また前期に属すると考えられる条痕文土器が存在し、破片が小さく器形を知り得るものが少ないと多くの困難がある。ただし、草創期に属すると考えられる条痕文土器は、条痕のつけ方、胎土、焼成等、F遺跡出土の条痕文土器にきわめて類似していることが指摘できる。

E遺跡の草創期に属すると考えられる土器には燃糸文土器、刺突文土器、櫛歯文土器、条痕文土器がある。層位的関係では把握できなかったが、平面的分布にちがいがあり、ある程度の把握ができる。単にいえば調査区の南から北に向って順次新しくなっていくが、精密な分析が必要である。ただし、層位的な関係では押型文土器より古いことは把握できる。草創期と考えられる土器は層位的、分布的には分離できず、むしろ併出する状態であった。よって型式的な面に重点をおいて検討してみよう。

燃糸文土器には二種類がある。一つは器壁が厚く、器形が砲弾形となす尖底土器で外面に燃糸を縦にこらがし施した土器で量的には多くない。他の一つは薄手で口縁部が山形をなす土器で器形は全形を知ることができないが、外面と口縁部内面に粒の大きい燃糸を斜位で施した土器である。量的には少ない。いずれの土器も九州においては類例がみられない土器である。

櫛歯文土器は器壁は厚いが、胎土に纖維を混入していて非常に軽い土器である。内外面共にヘラでよく研磨されている。器形は深鉢形であるが底部等について知ることはできない。文様は口縁部に刺突文を一条めぐらし、その下位に櫛歯の押圧を縦位に帯状に施している。量的には少なく、二個体があるにすぎない。この土器を九州に類例をみいだすことはできない。

刺突文土器は二種類が存在する。一つはF遺跡で出土した刺突文土器と同種のものである。量的には非常に少なく、遺構の上層から出土し、若干時期的に他の土器より新しい可能性がある。他の一つは本遺跡ではじめて検出したものである。器壁は比較的薄く、口縁部はわずかに外反する深鉢形土器で、大きさは比較的小型で、前述の刺突文土器でみたような大・小型の区別はみられない。底部の形は不明であるが、明確に底部と考えられる破片が存在しないことからみれば、丸底である可能性が高い。文様は口縁部直下に一～二列の刺突文をめぐらし、その下位に豆粒状の粘土を貼り付ける。粘土の貼り付けは刺突文の施文の1つおきに間隔をおいて行っている。刺突文の施文具は多様で棒状工具、竹管状の工具、貝殻殻頂部の押圧によるものがある。器面は内外面共に斜位方向の貝殻条痕を施している。この刺突文土器の一群はE遺跡では主体を占め、量的にもまとまっている。

条痕文土器はF遺跡の条痕文土器と大差はない。量的にきわめて少ない。

以上がE遺跡出土の草創期に属すると考えられる土器の一群である。これらの編年的位置づけを検討してみよう。燃糸文土器の二者はその特徴は相反していて、形式的な差異は大きく、厚手の燃糸文土器が尖底をなすなど器形的にも異なる。F遺跡の燃糸文土器との関係でいえば、

厚手の撚糸文土器との関連性が強いが、底部のちがいなどあり、型式的には分類できる。撚糸文土器での型式差からその前段関係を推測することは資料が少ないと困難である。問題とすべきは、本遺跡で主体を占める刺突文土器である。F遺跡出土の刺突文土器と比較しながら検討してみよう。F遺跡出土の刺突文土器とE遺跡出土の刺突文土器が近い関係にあることは、E遺跡からもF遺跡の刺突文土器と同種のものが若干出土していることからも知り得る。また刺突文の施文も類似したものがある。両者で異なるのは、刺突文下にある粘土貼り付けの大きさと数、器壁の厚さ、大型、小型の組み合せの有無、地文である条痕の違い、器壁の厚さである。粘土貼り付けはE遺跡のものが豆粒状をなし、F遺跡では大きくコブ状をなしている。このような粘土貼り付けは押型文土器の古い頃に伴う無文土器にも散見できる。無文土器の粘土貼り付けはさらに大きくなっている。また形もバラエティーに富んでいる。もし、この無文土器の粘土貼り付けが、刺突文土器の系譜下にあるものであれば、コブ状の粘土貼り付けは、小さい豆粒状のものから次第に大きくなり、その数を減じるという一つの流れが把握できる。こうした流れが肯綮できれば、E遺跡の刺突文土器はF遺跡の刺突文土器に先行するものとなる。器壁の厚さについては、年代の決め手にはならないが、草創期で先行する隆起線文土器や爪形文土器が薄いこと、また、早期押型文土器では古式の土器が薄く、新しくなるにつれて器壁が厚くなることを参考とすれば、F遺跡の刺突文土器が先行する可能性は高い。また、F遺跡の刺突文土器に大型・小型の組み合せがあり、以後、無文土器、押型文土器の各期を通じて踏襲されていることを考えれば、大型・小型の組み合せに分解していないE遺跡の刺突文土器はより古式とみるのが妥当であろう。地文様である条痕についても、E遺跡の刺突文土器の場合、貝殻条痕であるのに対し、F遺跡の場合新たに条線による条痕文様が出現し、それは上層の条痕文土器に継承されていて、同様にE遺跡の刺突文土器が先行する要素を示している。以上を総合してE遺跡の刺突文土器がF遺跡の刺突文土器より古式とみることができよう。

K遺跡から出土している草創期に属すると考えられる土器は刺突文土器で量的にはきわめて少ない。型式的にはE遺跡で主体となって出土した刺突文土器と同様で、出土位置、層位の明確な1点は地山の砂礫層に一部くいこむ状態で出土している。

以上、柏原遺跡群から出土した草創期の土器について検討してきた。ここで、各遺跡から出土した時間的序列について整理しておくと基本的には次のようになる。最も古くなる土器がE遺跡刺突文土器で、次にF遺跡刺突文土器、次いで条痕文土器の順が考えられる。E遺跡、F遺跡出土の撚糸文土器、横齒文土器は客体的な土器としてそれぞれの刺突文土器に伴っていると考えられる。今後の資料の増加を待ちたい。

次に、これらの土器群が、九州の草創期の中でみた場合、どこに編年されるかを検討しておきたい。九州地方においては草創期に属する遺跡はきわめて少ない。草創期の土器が数型式にわたって出土している遺跡は長崎県福井洞穴、泉福寺洞穴、大分県二日市洞穴などその数は限

定されている。特に良好な状態で検出されている泉福寺洞穴では第10層、豆粒文土器、第7～9層、隆線文土器、第6層、爪形文土器、第5層、押引文土器、第4層、条痕文土器、第3層、押型文土器の層序関係を示している。また、大分県二日市洞穴では第9文化層に平底に近い底部をもつ条痕文土器、第8文化層に丸底の条痕文土器、第7文化層に丸底の無文土器、第6文化層に尖底の無文土器、第5文化層、尖底無文土器、条痕文土器、第4文化層に押型文土器、無文土器、第3文化層に押型文土器が検出されている。

柏原遺跡群の草創期上器は全体としてみた場合いずれも器面調整に条痕を用いており条痕文土器としてくくることができる。また明らかに押型文土器や無文土器の下層より出土していることからすれば、泉福寺洞穴の第4層、二日市洞穴の第8、9文化層の条痕文土器に対比することができる。しかし、両遺跡の条痕文土器と比較すると、細部において多くの相違点が存在し、今後の検討が必要であるが、ほぼ両遺跡の条痕文土器と同時期に編年して大過なからう。

これら条痕文土器と共に伴する石器には、石錐、スクリイバー類がある。特に石錐は小型で、局部磨製の石錐が頗著である。

3. 繩文時代早期の遺跡

繩文時代早期の遺跡には次の諸遺跡がある。撫糸文土器をI類、押型文土器の中で東九州の川原田式に対比できる一群をII類、稲荷山式に対比できる一群をIII類、早水方式に対比できる一群IV類、下菅生B式に対比できる一群をV類、田村式に対比できる一群をVI類、平底の押型文土器をVII類、平裕式土器をVIII類、その他をIX類として各遺跡の内容を示す。

- ① A-1遺跡、河岸段丘、III、IV、V、VI、VII、VIII類
- ② A-2遺跡、河岸段丘、II、IV類、竪穴状遺構
- ③ E遺跡、河岸段丘、III、IV、VII、VIII類、豎穴状遺構
- ④ F遺跡、河岸段丘、III、V、VI、VII、VIII類、炉址、竪穴状遺構
- ⑤ K遺跡、河岸段丘、I、II、III、IV、V、VII、VIII類、炉址、竪穴状遺構
- ⑥ M遺跡、河岸段丘、III、VI類

早期遺跡は6ヶ所すべてが、押型文土器を主体とし、撫糸文土器、平裕式土器は客体として併存している。各遺跡間は100～300mの間隔で存在し、各遺跡出土土器からみれば、至近距離で複数の遺跡で同一時期の上器を持っていることになる。しかし、このことが、ただちに同時併存したとみるには早計であろう。前述したように、早期遺跡の形成において複数の回帰的行動の結果であろうと推測したが、至近距離における遺跡で同一型式の土器が出土することは、この回帰的行動を示すものであろう。繩文早期遺跡は柏原遺跡群の存在する開発地域外にも現在数ヶ所の遺跡がある。今後も同時期の遺跡が発見される可能性が大で、繩文時代早期の様相

3. 繩文時代早期の遺跡

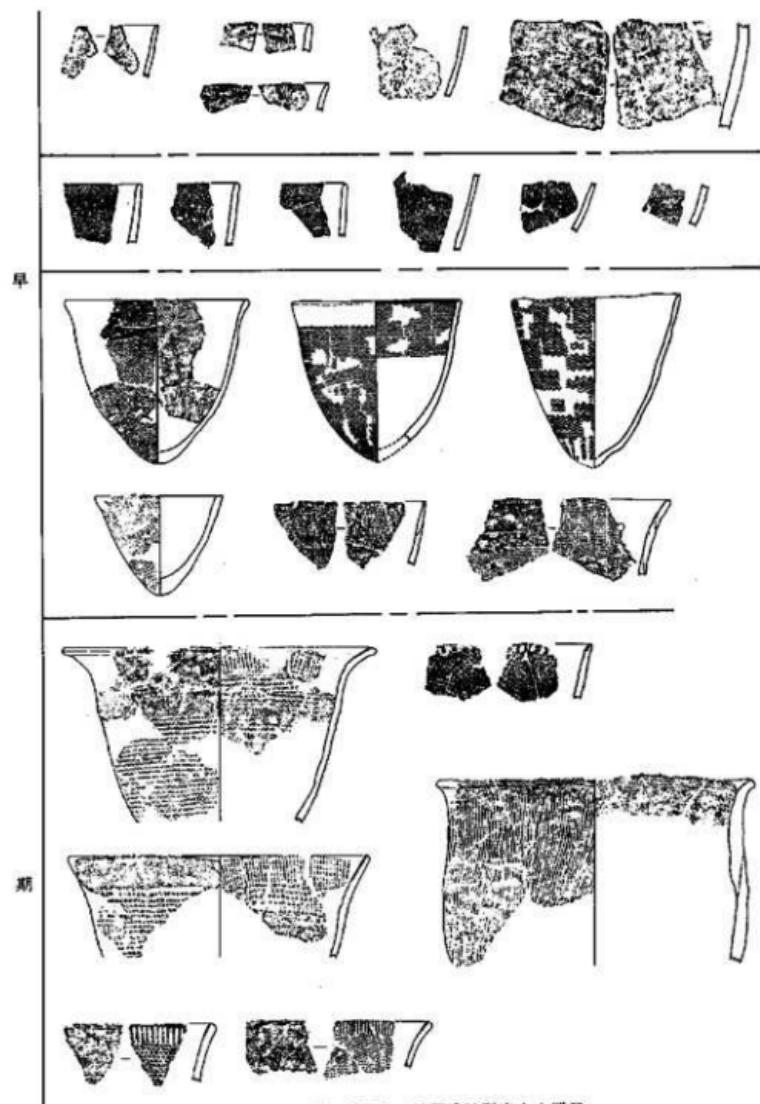


Fig. 372 柏原遺跡群出土土器Ⅱ

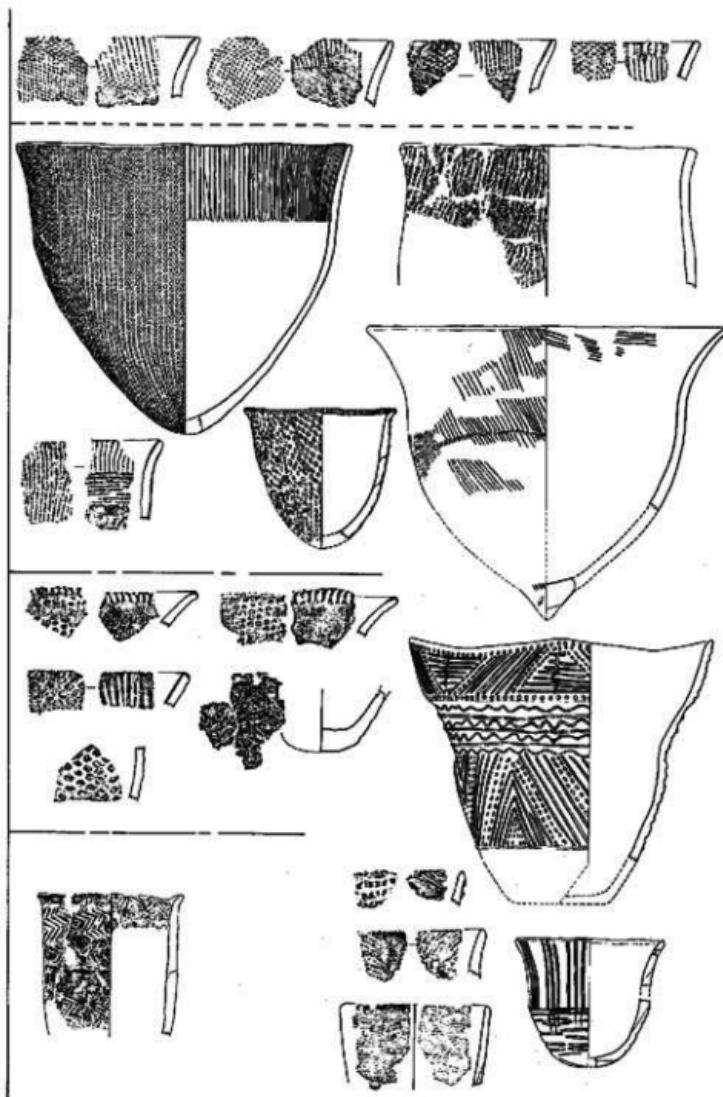


Fig. 373 柏原遺跡群出土土器Ⅲ

3. 繩文時代早期の遺跡

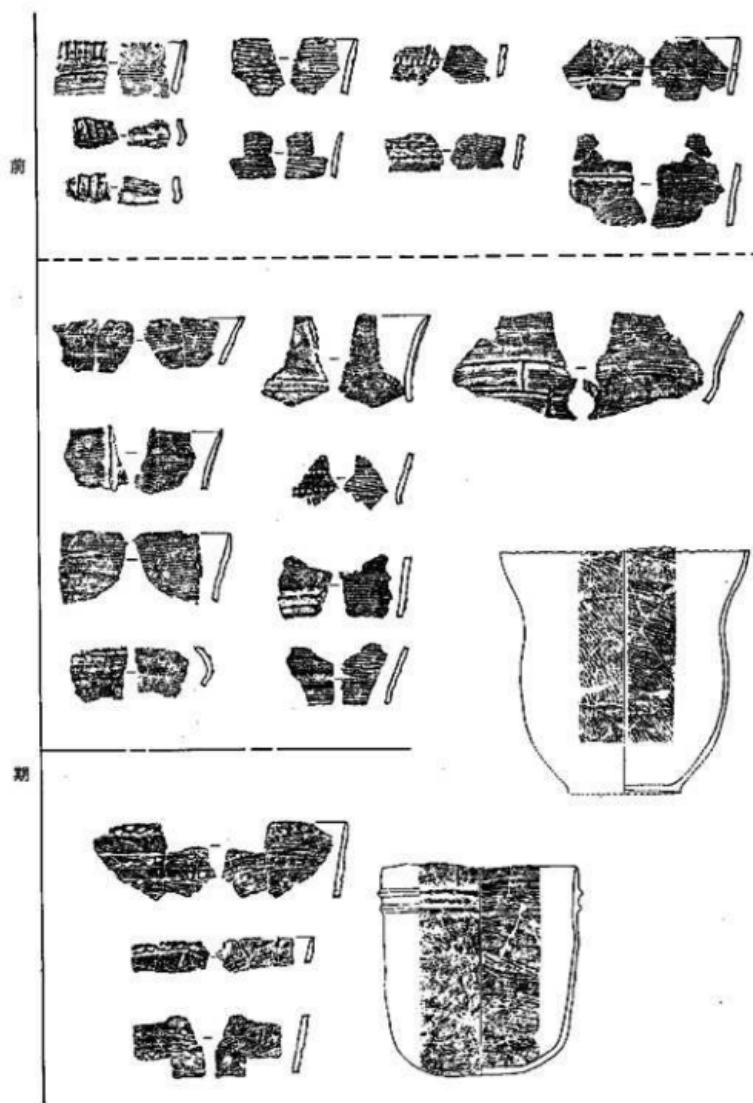


Fig. 374 柏原遺跡群出土土器IV

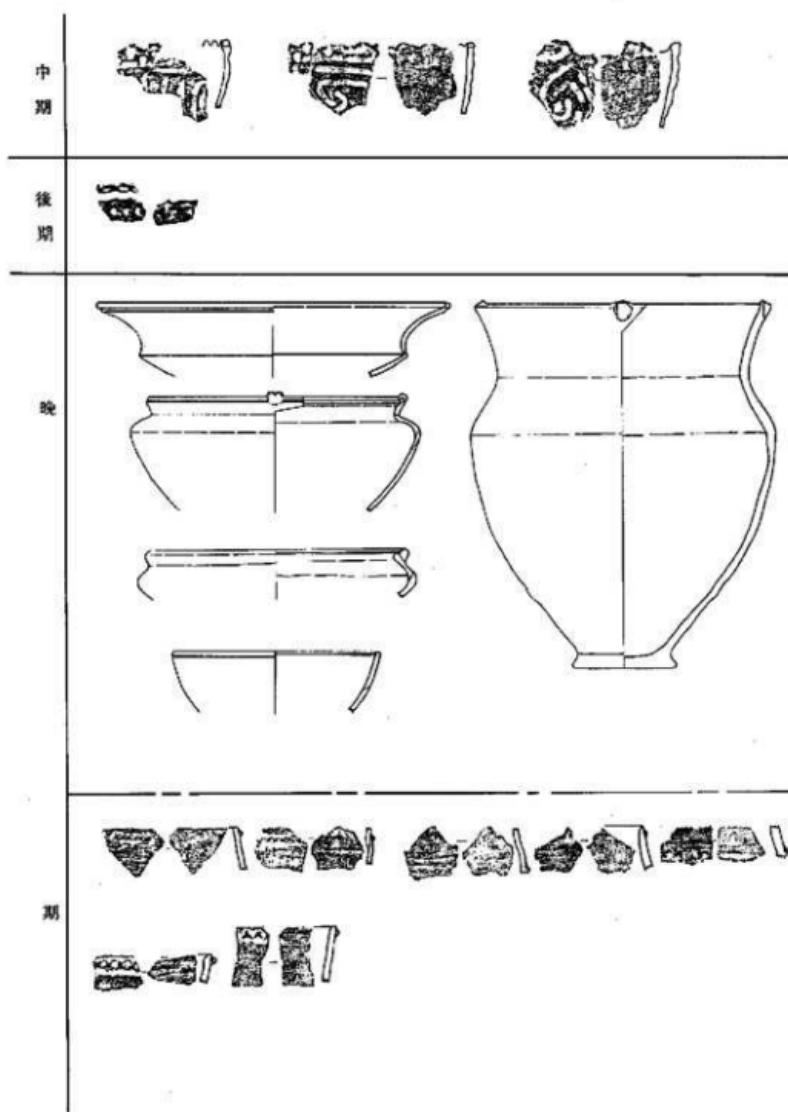


Fig. 375 柏原遺跡群出土土器 V

3. 縄文時代早期の遺跡

がより明らかになることが予想できる。

発掘した早期遺跡間での移動についての具体的検討は今後にゆだねるが、明らかに遺跡間で押型文原体が同一とみられるものが存在することや、石器素材としての石片の接合関係を遺跡内だけではなく、遺跡間を行うことでより具体的な関係を把握できる可能性は高い。これらの問題は集落構造とも大きな関連性をもつてるので、検討の結果再論したいと思う。

4. 縄文時代前期の遺跡

縄文時代前期の遺跡は開発地域内の次の遺跡において確認した。ただし、いずれも小規模である。遺物の分布等からの分離できるものについては、本報告で使用した遺跡名より、更に小区分して説明する。

- ① A-2 遺跡 河岸段丘 嘉式土器 (?)
- ② D 遺跡 段丘斜面 嘉B式土器
- ③ E 遺跡 河岸段丘 嘉B式土器
- ④ K 遺跡西地点 河岸段丘 嘉B式土器
- ⑤ K 遺跡流路部 河岸段丘 嘉B式土器
- ⑥ L 遺跡 河岸段丘 嘉B式土器、竪穴状遺構

6ヶ所が存在するが、いずれも小規模であり、出土土器も量的に少ない。しかし、地点によって単純な状態を示していて、編年的には好材料を提供してくれる。特にK遺跡では層位関係が把握されており、今後の検討によっては嘉式土器の細分が可能である。

5. 縄文時代中～晩期の土器

縄文時代中～晩期の遺跡として良好な遺跡は存在しなかったが、各遺跡より少量の遺物が出土していく、資料の少なかった福岡平野にとっては貴重な資料となった。特に突帯文土器出現直前の晩期土器のセットを確認した意味は大きい。

以上、柏原遺跡群の調査について概略をまとめたが、時間的制約により不充分であることはいうまでもない。今後、その欠を補いたいと思う。

図 版
PLATE



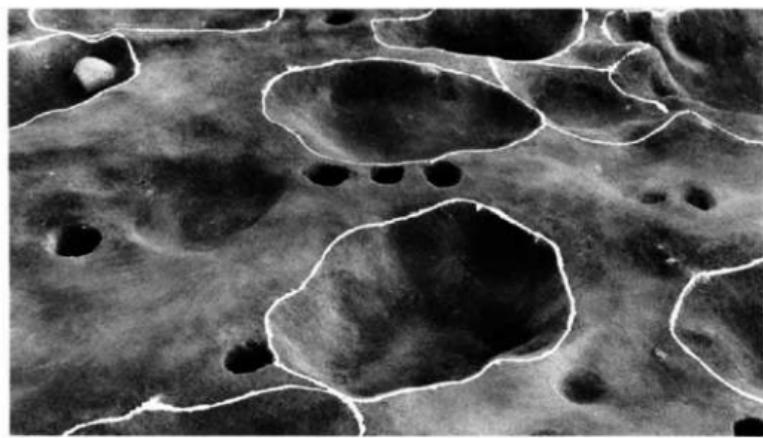
(1) 土壌検出状況 I (K遺跡)



(2) 土壌検出状況 II (K遺跡)



(1) 土壌検出状況III (K遺跡)



(2) 土壌検出状況IV (K遺跡)



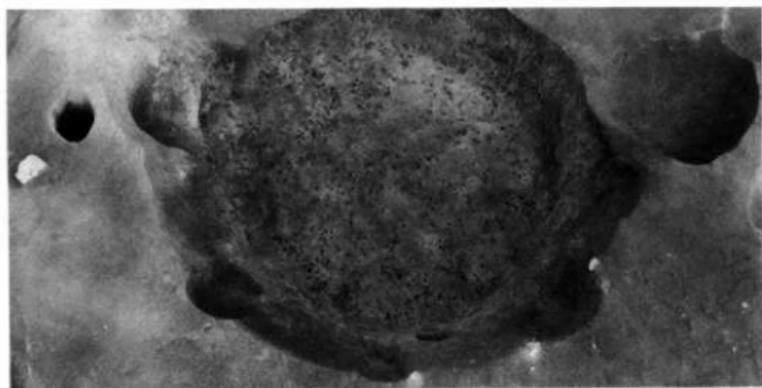
(1) 第140・157・159号土壤 (K遺跡)



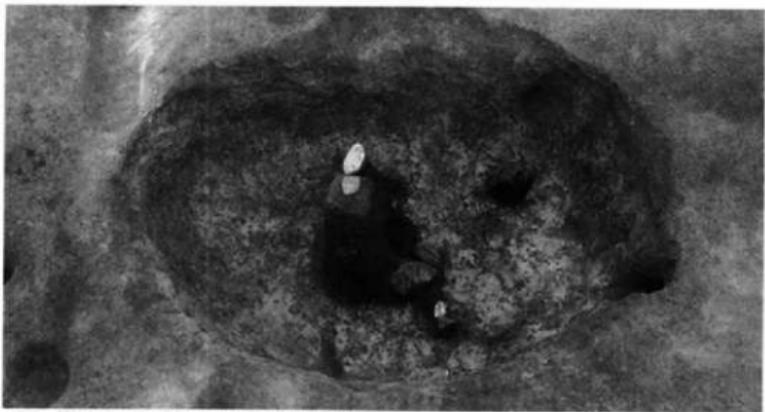
(2) 第159号土壤 (K遺跡)



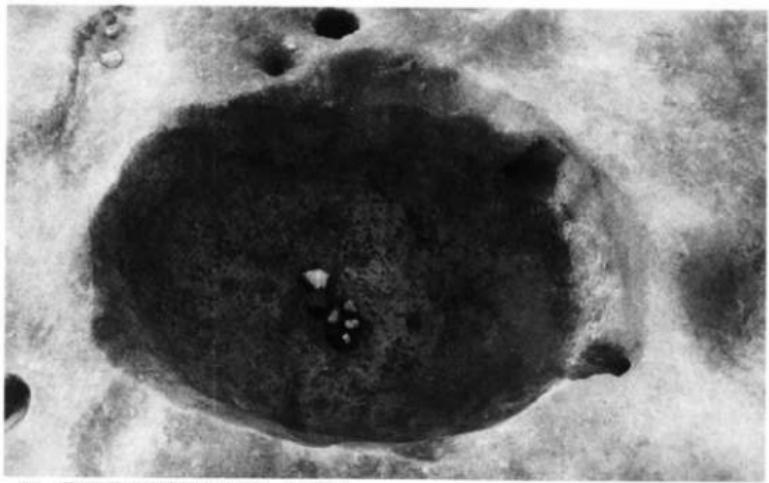
(1) 第159号土壤遗物出土状况 (K遗踪)



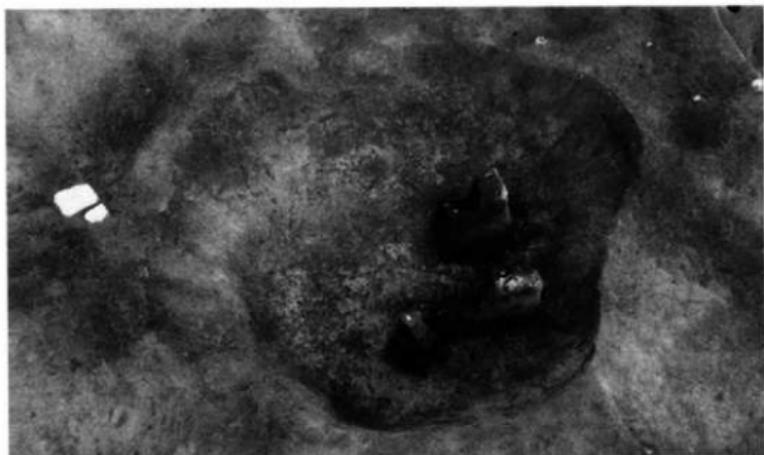
(2) 第159号土壤 (K遗踪)



(1) 第135号土壤遺物出土状況（K遺跡）



(2) 第135号土壤遺物出土状況（K遺跡）



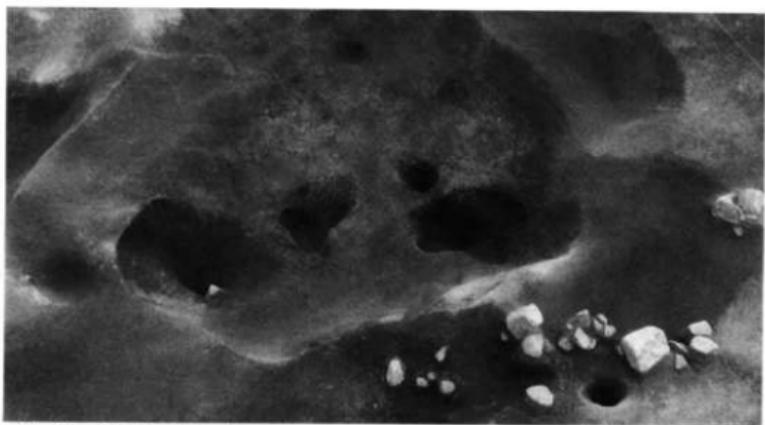
(1) 第140号土壤遗物出土状况 (K 遗踪)



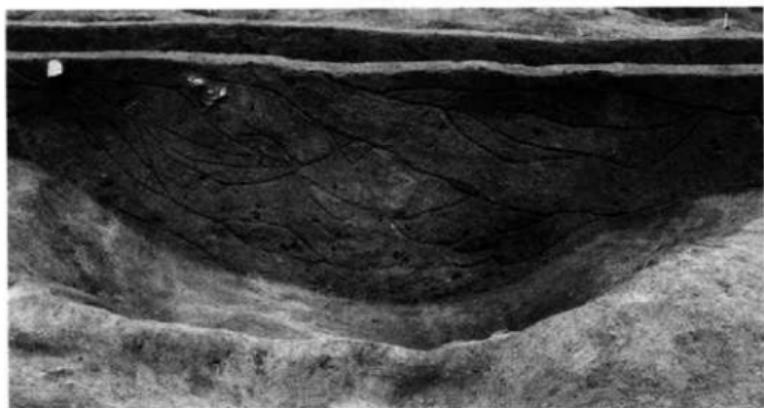
(2) 第140号土壤遗物出土状况 (K 遗踪)



(1) 第159号土壌遺物出土状況 (K遺跡)



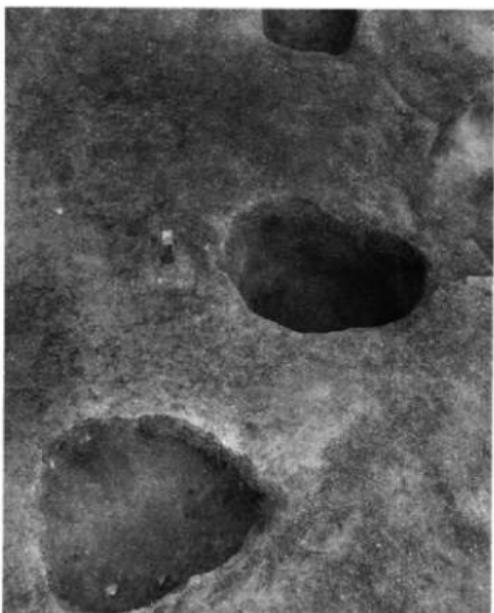
(2) 第138号土壌 (北より) (K遺跡)



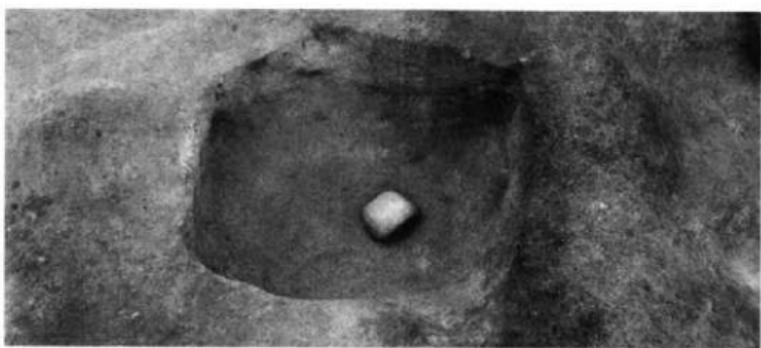
(1) 土壌断面 I (K遺跡)



(2) 土壌断面 II (K遺跡)



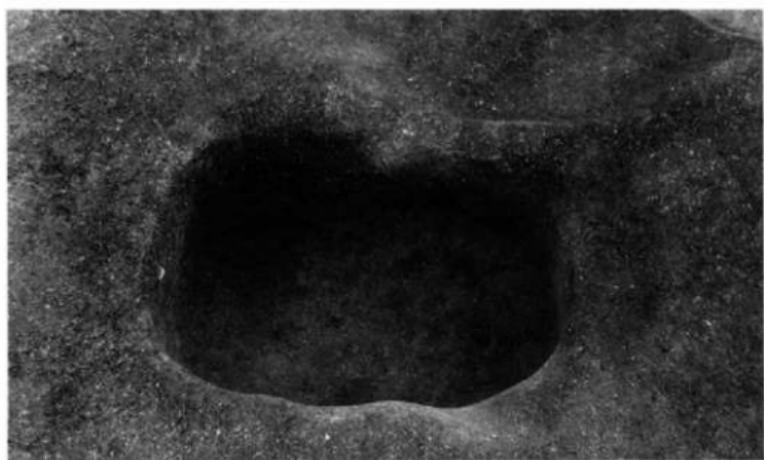
(1) 土壤检出状况 (K痕迹)



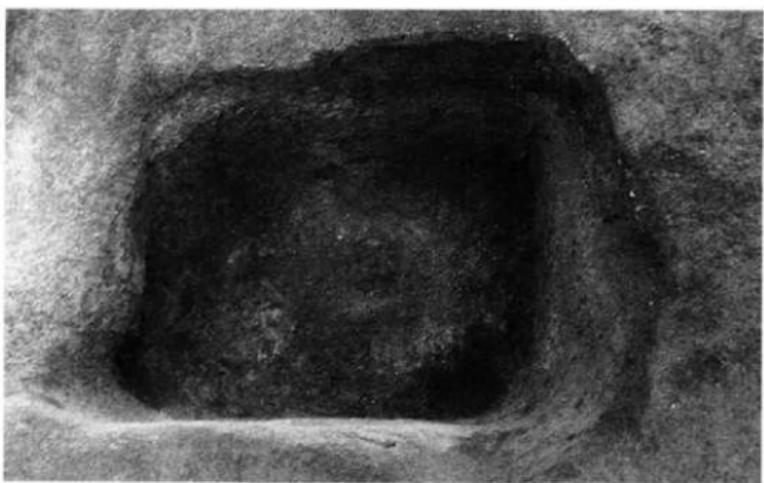
(2) 第655号土壤 (K痕迹)



(1) 第197号土壤 (K遺跡)



(2) 第121号土壤 (K遺跡)



(1) 第471号土壤 (K 遗踪)



(2) 第644号土壤 (K 遗踪)



(1) 第1号炉址检出状态 (K遗迹)



(2) 第1号炉址散石 (K遗迹)



(1) 第1号集石（北から）（K遺跡）



(2) 第1号集石（南から）（K遺跡）



(1) 第2号集石 (K遺跡)



(2) 第3号集石 (K遺跡)



(1) 第4号集石 (K遺跡)



(2) 第5号集石 (K遺跡)



(1) 遺物出土狀況（K遺跡）



(2) 前期磨製石斧出土狀況（K遺跡）



(1) 晚期土器（深鉢）出土状況（K遺跡）



(2) 晩期土器（浅鉢）出土状況（K遺跡）



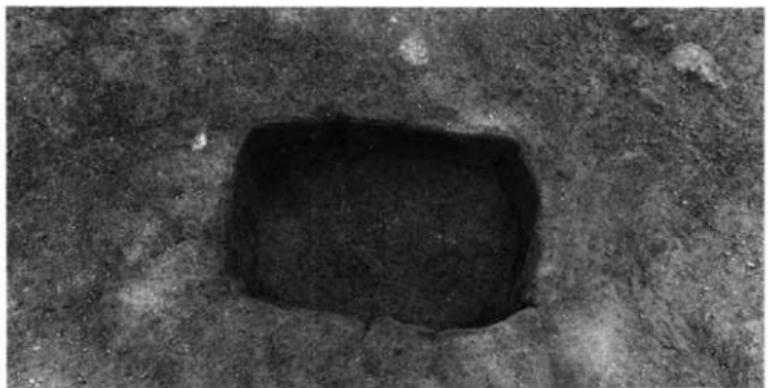
(1) L遺跡全景（北より）



(2) L遺跡土壤検出状況



(1) L 道路土壤状况



(2) L 道路第 1 号土壤



(1) N遺跡グリット全景



(2) N遺跡土層断面



(1) C 遺跡出土石器



(2) N 遺跡出土石器



(1) A-2 遺跡出土磨製石鎌



(2) ①ナイフ形石器 (E遺跡) ②台形様石器 (H遺跡)

柏原遺跡群 V

—先土器・縄文時代遺跡A-2・C・H・J~N遺跡の調査—

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第190集

1988年3月31日

発 行 福岡市教育委員会
福岡市中央区大名2丁目10番29号

印 刷 株式会社 西日本新聞印刷
福岡市中央区天神1丁目4番1号

